

茨城県教育財団文化財調査報告第84集

(仮称) 上高津団地建設事業  
地内埋蔵文化財調査報告書

寄 居 遺 跡

うぐいす平遺跡

平成 6 年 3 月

茨 城 県 住 宅 供 給 公 社  
財 団 法 人 茨 城 県 教 育 財 団

茨城県教育財団文化財調査報告第84集

(仮称) 上高津団地建設事業  
地内埋蔵文化財調査報告書

寄居遺跡

うぐいす平遺跡

平成6年3月

茨城県住宅供給公社  
財団法人茨城県教育財団

# 序

茨城県は、国の全国総合開発計画のもとで進められている地方中核都市の育成整備に関連して、地方にとって住みよい豊かな、しかも個性のある地域の振興をめざしています。

その一環として茨城県住宅供給公社は、土浦市上高津地区に住宅団地の建設を予定しておりますが、予定地内には、多くの埋蔵文化財包蔵地が確認されています。財団法人茨城県教育財団は、これらの埋蔵文化財を記録保存するため、建設予定地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。

本書は、平成4年4月から9月にかけて調査を行った、寄居遺跡とうぐいす平遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が研究資料としてはもとより、郷土の歴史の理解を深め、教育文化の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査を進めるにあたり、委託者である茨城県住宅供給公社からいただいたご協力に感謝申し上げます。また、茨城県教育委員会・土浦市教育委員会をはじめとする関係各機関及び関係各位からいただいたご指導・ご協力に対し、衷心より謝意を表します。

平成6年3月

財団法人 茨城県教育財団

理事長 磯田 勇

## 例 言

- 1 本書は、平成4年度4月から9月にかけて、茨城県住宅供給公社の委託により、財団法人茨城県教育財団が実施した、茨城県土浦市大字上高津776-1ほかに所在する寄居遺跡と、土浦市大字上高津1,023-1ほかに所在するうぐいす平遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 寄居遺跡、うぐいす平遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	磯 田 勇	昭和63年6月～	
副 理 事 長	角 田 芳 夫	平成3年7月～	
専 務 理 事	中 島 弘 光	平成5年4月～	
常 務 理 事	本 田 三 郎	平成3年4月～平成5年3月	
事 務 局 長	藤 枝 宣 一	平成4年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長	石 井 毅	平成2年4月～平成5年3月	
	安 藏 幸 重	平成5年4月～	
企 画 管 理 課	課 長	水 飼 敏 夫	平成4年4月～
	主任調査員	根 本 康 弘	平成3年4月～平成5年3月
	主任調査員	川 井 正 一	平成5年4月～
	主 事	杉 山 秀 一	平成4年4月～
経 理 課	課 長	藤 田 和 行	平成4年4月～平成5年3月
	課 長	小 幡 弘 明	平成5年4月～
	課 長 代 理	鈴 木 三 郎	平成5年4月～
	主 任	飯 島 康 司	平成4年4月～
	主 事	大 貫 吉 成	平成4年4月～平成5年3月
	主 事	軍 司 浩 作	平成5年4月～
調 査 課	課 長	石 井 毅	平成元年4月～平成5年3月
	(部長兼務)	安 藏 幸 重	平成5年4月～
	調査第三班長	小 泉 光 正	平成4年4月～平成5年3月
	主任調査員	横 堀 孝 徳	平成4年4月～9月
	調 査 員	土 生 朗 治	平成4年4月～9月
整 理 課	課 長	阿 久 津 久	平成5年4月～
	調 査 員	土 生 朗 治	平成5年度整理・執筆・編集

- 3 本書に使用した記号等については、第4章遺構・遺物の記載方法の項を参照されたい。
- 4 本書の作成にあたり、遺構・遺物について名古屋大学名誉教授檜崎彰一氏、国立歴史民俗博物館西本豊弘氏、愛知県立陶磁資料館柴垣勇氏、同浅田由員氏、茨城県立歴史館斎藤弘道氏、湖西市教育委員会後藤健一氏、勝田市文化・スポーツ振興公社佐々木義則氏、同白石真理氏、県立太田一高浅井哲也氏にご指導いただいた。



- 5 炭化材の樹種同定については、パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。分析結果については附章として報告する。
- 6 発掘調査及び整理に際して御指導・御協力を賜った関係機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

(遺跡の概略)

遺 跡 名	寄居遺跡, うぐいす平遺跡				
フリガナ	ヨリイイセキ, ウグイスダイライセキ				
副 題	(仮称) 上高津団地建設事業地内埋蔵文化財調査報告書				
シ リ ーズ	茨城県教育財団文化財調査報告第84集				
著 者	土生朗治				
編 集 機 関	財団法人 茨城県教育財団				
発 行 機 関	財団法人 茨城県教育財団				
住 所	〒310 茨城県水戸市見和町1丁目356番地の2				
発 行 日	1994 (平成6) 年 3月31日				
所 取 遺 跡	市 町 村	コ ー ド	北 緯	東 経	標 高
寄 居 遺 跡	土浦市	08206-B20	36° 4' 18"	140° 10' 47"	23.2m
うぐいす平遺跡	土浦市	08206-B21	36° 4' 14"	140° 10' 49"	24.0m
所 取 遺 跡	主 な 時 代		主 な 遺 構		主 な 遺 物
寄 居 遺 跡	古墳 (前・中・後期) 奈良, 平安 中世		住居跡65, 方形竪穴遺構 2, 掘立柱建物跡1, 土 坑37, 井戸1, 地下式墳 6, 溝5		土器, 土製品 (土玉, 管 状土錘), 石器, 石製品 (石 製模造品, 砥石, 硯), 金 属製品 (鉄鏃, 鍬先等)
うぐいす平遺跡	弥生 (後期) 古墳 (前期) 奈良・平安		住居跡79, 土坑10, 井戸 1, 溝1		土器, 土製品 (土錘, 支 脚, 羽口), 石器, 石製品 (紡錘車), 金属製品 (銅 鏃, 刀子, 紡錘車, 鈴等)

# 目 次

序	
例 言	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査方法	8
第1節 地区設定	8
第2節 基本層序の検討	8
第3節 遺構確認	9
第4節 遺構調査	9
第4章 遺構・遺物の記載方法	11
第1節 遺構の記載方法	11
第2節 遺物の記載方法	13
第5章 寄居遺跡	15
第1節 遺跡の概要	15
第2節 遺構と遺物	15
1 竪穴住居跡	15
(1) 縄文時代の竪穴住居跡	15
(2) 古墳時代の竪穴住居跡	17
(3) 奈良・平安時代の竪穴住居跡	52
2 土 坑	105
3 掘立柱建物跡	109
4 地下式塋	110
5 井 戸	122
6 溝	125
7 その他の遺物	133

第3節	まとめ	145
第6章	うぐいす平遺跡	147
第1節	遺跡の概要	147
第2節	遺構と遺物	148
1	竪穴住居跡	148
(1)	弥生時代の竪穴住居跡	148
(2)	古墳時代の竪穴住居跡	153
(3)	奈良・平安時代の竪穴住居跡	182
2	土坑	253
3	井戸	254
4	溝	257
5	その他の遺物	258
第3節	まとめ	267
附章		269

## 挿 図 目 次

<p>第 1 図 寄居・うぐいす平遺跡周辺遺跡 分布図…………… 6</p> <p>第 2 図 寄居・うぐいす平遺跡調査区 全体図…………… 7</p> <p>第 3 図 調査区呼称方法概念図…………… 8</p> <p>第 4 図 寄居遺跡基本土層図…………… 8</p> <p>第 5 図 第12号住居跡実測図…………… 16</p> <p>第 6 図 第12号住居跡出土遺物実測図… 16</p> <p>第 7 図 第 3 号住居跡実測図…………… 17</p> <p>第 8 図 第 3 号住居跡出土遺物実測図… 18</p> <p>第 9 図 第 4 号住居跡実測図…………… 19</p> <p>第10 図 第 4 号住居跡出土遺物 実測・拓影図…………… 20</p> <p>第11 図 第 6 号住居跡出土遺物実測図… 21</p> <p>第12 図 第 6 号住居跡実測図…………… 22</p> <p>第13 図 第 7 号住居跡実測図…………… 24</p> <p>第14 図 第 7 号住居跡出土遺物実測図… 24</p> <p>第15 図 第 8・9 号住居跡実測図…………… 26</p> <p>第16 図 第 9 号住居跡出土遺物実測図… 26</p> <p>第17 図 第10・11・13・14・15・58号 住居跡実測図(1)…………… 27</p> <p>第18 図 第10・11・13・14・15・58号 住居跡実測図(2)…………… 28</p> <p>第19 図 第14号住居跡出土遺物実測図… 29</p> <p>第20 図 第15号住居跡出土遺物実測図… 30</p> <p>第21 図 第16号住居跡実測図…………… 32</p> <p>第22 図 第16号住居跡出土遺物実測図… 33</p> <p>第23 図 第21号住居跡出土遺物実測図… 33</p> <p>第24 図 第21号住居跡実測図…………… 34</p> <p>第25 図 第22号住居跡実測図…………… 35</p> <p>第26 図 第22号住居跡出土遺物実測図… 35</p> <p>第27 図 第23・25A・25B号住居跡 実測図(1)…………… 36</p> <p>第28 図 第23・25A・25B号住居跡 実測図(2)…………… 37</p> <p>第29 図 第23号住居跡出土遺物実測図… 38</p> <p>第30 図 第24・37号住居跡実測図…………… 40</p> <p>第31 図 第24号住居跡出土遺物実測図… 41</p>	<p>第32 図 第25A号住居跡出土遺物 実測図…………… 42</p> <p>第33 図 第26号住居跡出土遺物実測図… 43</p> <p>第34 図 第26・27・28A・28B・28C号 住居跡実測図(1)…………… 44</p> <p>第35 図 第26・27・28A・28B・28C号 住居跡実測図(2)…………… 45</p> <p>第36 図 第28A号住居跡出土遺物 実測図…………… 46</p> <p>第37 図 第29号住居跡出土遺物実測図… 47</p> <p>第38 図 第29号住居跡実測図…………… 47</p> <p>第39 図 第43号住居跡実測図…………… 48</p> <p>第40 図 第43号住居跡出土遺物実測図… 48</p> <p>第41 図 第45号住居跡実測図…………… 49</p> <p>第42 図 第45号住居跡出土遺物実測図… 50</p> <p>第43 図 第13号住居跡出土遺物実測図… 53</p> <p>第44 図 第17・19号住居跡実測図…………… 54</p> <p>第45 図 第17号住居跡出土遺物実測図… 55</p> <p>第46 図 第18・54号住居跡実測図…………… 56</p> <p>第47 図 第18号住居跡出土遺物実測図… 56</p> <p>第48 図 第19号住居跡出土遺物実測図… 57</p> <p>第49 図 第20A・20B号住居跡実測図… 59</p> <p>第50 図 第20A号住居跡出土遺物 実測・拓影図…………… 60</p> <p>第51 図 第20B号住居跡出土遺物 実測図…………… 61</p> <p>第52 図 第25B号住居跡出土遺物 実測図…………… 62</p> <p>第53 図 第27号住居跡出土遺物 実測・拓影図…………… 64</p> <p>第54 図 第28B号住居跡出土遺物 実測図…………… 64</p> <p>第55 図 第28C号住居跡出土遺物 実測図…………… 65</p> <p>第56 図 第30号住居跡出土遺物実測図… 66</p> <p>第57 図 第30号住居跡実測図…………… 67</p> <p>第58 図 第31号住居跡実測図…………… 68</p> <p>第59 図 第31号住居跡出土遺物実測図… 68</p>
--	---



第 60 图	第32号住居跡実測図……………	69	第 94 图	第57号住居跡出土遺物実測図…	102
第 61 图	第32号住居跡出土遺物 実測・拓影図……………	70	第 95 图	第 1・2号住居跡実測図……………	103
第 62 图	第33号住居跡実測図……………	72	第 96 图	第 5号住居跡実測図……………	103
第 63 图	第33号住居跡出土遺物実測図…	73	第 97 图	第 1・2・5・17~23・30・31・36・38号 土坑実測図……………	107
第 64 图	第34・35号住居跡実測図……………	74	第 98 图	第39・41・42・47・50・53~63号 土坑実測図……………	108
第 65 图	第34号住居跡出土遺物実測図…	75	第 99 图	第 6・18号土坑出土遺物 実測図……………	109
第 66 图	第35号住居跡出土遺物実測図…	76	第100图	第 1号掘立柱建物跡実測図…	110
第 67 图	第36号住居跡実測図……………	77	第101图	第 1・2号地下式塙実測図……………	112
第 68 图	第36号住居跡出土遺物実測図…	78	第102图	第 1号地下式塙出土遺物 実測図・拓影図……………	113
第 69 图	第37号住居跡出土遺物実測図…	79	第103图	第 2号地下式塙出土遺物 実測・拓影図……………	115
第 70 图	第38号住居跡実測図……………	80	第104图	第 3号地下式塙出土遺物 実測・拓影図……………	116
第 71 图	第39・40号住居跡実測図……………	81	第105图	第 3・4号地下式塙実測図……………	117
第 72 图	第39号住居跡出土遺物実測図…	82	第106图	第 4号地下式塙出土遺物 実測・拓影図……………	118
第 73 图	第40号住居跡出土遺物実測図…	83	第107图	第 5・6号地下式塙実測図……………	120
第 74 图	第41・42・44号住居跡実測図…	85	第108图	第 5号地下式塙出土遺物 実測図……………	121
第 75 图	第41号住居跡出土遺物 実測・拓影図……………	87	第109图	第 1号井戸実測図……………	122
第 76 图	第42号住居跡出土遺物 実測・拓影図……………	89	第110图	第 1号井戸出土遺物実測図……………	123
第 77 图	第44号住居跡出土遺物実測図…	90	第111图	第 1号溝実測図……………	126
第 78 图	第46号住居跡出土遺物実測図…	90	第112图	第 2号溝出土遺物実測図……………	127
第 79 图	第46A・46B・47A・47B号 住居跡実測図……………	91	第113图	第 2号溝実測図……………	128
第 80 图	第47B号住居跡出土遺物 実測図……………	92	第114图	第 4号溝実測図……………	129
第 81 图	第48号住居跡出土遺物実測図…	92	第115图	第 4号溝出土遺物実測図……………	130
第 82 图	第48号住居跡実測図……………	93	第116图	第 5・6号溝実測図……………	131
第 83 图	第49A号住居跡出土遺物 実測図……………	93	第117图	第 5号溝出土遺物実測図……………	132
第 84 图	第49A・49B号住居跡実測図…	94	第118图	第 6号溝出土遺物実測図……………	133
第 85 图	第50A・50B号住居跡実測図…	95	第119图	縄文式土器拓影図(1)……………	134
第 86 图	第50A・50B号住居跡出土遺物 実測図……………	96	第120图	縄文式土器拓影図(2)……………	135
第 87 图	第51号住居跡出土遺物実測図…	97	第121图	縄文式土器拓影図(3)……………	136
第 88 图	第51・52号住居跡実測図……………	98	第122图	縄文式土器拓影図(4)……………	137
第 89 图	第52号住居跡出土遺物実測図…	99	第123图	縄文式土器拓影図(5)……………	138
第 90 图	第53・54号住居跡実測図……………	100	第124图	縄文式土器拓影図(6)……………	139
第 91 图	第53号住居跡出土遺物実測図…	100	第125图	縄文式土器・弥生式土器 拓影図(7)……………	140
第 92 图	第55号住居跡実測図……………	101			
第 93 图	第57号住居跡実測図……………	102			

第126図	その他の出土遺物実測図(1)……	143	第160図	第51B号住居跡出土遺物 実測図……	177
第127図	その他の出土遺物実測図(2)……	145	第161図	第51A・51B号住居跡実測図…	178
第128図	寄居遺跡各時期の住居跡の 分布図……	146	第162図	第52号住居跡出土遺物実測図…	178
第129図	遺跡周辺の地形図……	147	第163図	第52号住居跡実測図……	179
第130図	第36号住居跡出土遺物 実測・拓影図……	148	第164図	第54号住居跡出土遺物実測図…	180
第131図	第36号住居跡実測図……	149	第165図	第69号住居跡実測図……	181
第132図	第53号住居跡出土遺物実測図…	150	第166図	第69号住居跡出土遺物実測図…	182
第133図	第53号住居跡実測図……	151	第167図	第1・2・3A・3B・55号 住居跡実測図(1)……	183
第134図	第33・34・61号住居跡実測図…	152	第168図	第1・2・3A・3B・55号 住居跡実測図(2)……	184
第135図	第4A・4B・70号住居跡実測図…	153	第169図	第1・2号住居跡出土遺物 実測図……	184
第136図	第4A号住居跡出土遺物 実測図……	154	第170図	第3A号住居跡出土遺物 実測図……	185
第137図	第12・54号住居跡実測図(1)……	155	第171図	第3B号住居跡出土遺物 実測図……	186
第138図	第12・54号住居跡実測図(2)……	156	第172図	第4B号住居跡出土遺物 実測図……	186
第139図	第12号住居跡出土遺物実測図…	156	第173図	第5号住居跡実測図……	187
第140図	第15号住居跡出土遺物実測図…	157	第174図	第5号住居跡出土遺物実測図…	187
第141図	第15号住居跡実測図……	158	第175図	第6号住居跡実測図……	189
第142図	第18号住居跡実測図……	160	第176図	第6号住居跡出土遺物実測図…	190
第143図	第18号住居跡出土遺物 実測図(1)……	161	第177図	第7・8号住居跡実測図……	191
第144図	第18号住居跡出土遺物 実測図(2)……	162	第178図	第7号住居跡出土遺物実測図…	192
第145図	第19号住居跡実測図……	165	第179図	第8号住居跡出土遺物実測図…	193
第146図	第19号住居跡出土遺物実測図…	166	第180図	第9A・9B・10A・10B・11A・11B・ 11C号住居跡実測図(1)……	194
第147図	第21号住居跡出土遺物実測図…	167	第181図	第9A・9B・10A・10B・11A・11B・ 11C号住居跡実測図(2)……	195
第148図	第21号住居跡実測図……	167	第182図	第9A号住居跡出土遺物 実測図……	196
第149図	第22号住居跡実測図……	168	第183図	第9B号住居跡出土遺物 実測図……	198
第150図	第22号住居跡出土遺物実測図…	168	第184図	第10A号住居跡出土遺物 実測図……	199
第151図	第26号住居跡出土遺物実測図…	169	第185図	第10B号住居跡出土遺物 実測図……	200
第152図	第26・27号住居跡実測図……	170	第186図	第11A・11B・11C号住居跡出土 遺物実測図……	202
第153図	第28号住居跡出土遺物実測図…	171			
第154図	第28号住居跡実測図……	171			
第155図	第30A号住居跡出土遺物 実測図……	172			
第156図	第30A・30B号住居跡実測図…	173			
第157図	第30B号住居跡出土遺物 実測図……	174			
第158図	第39号住居跡出土遺物実測図…	175			
第159図	第39号住居跡実測図……	176			

第187図	第13号住居跡出土遺物実測図…203	第222図	第45号住居跡出土遺物実測図…235
第188図	第13号住居跡実測図……………204	第223図	第46号住居跡実測図……………236
第189図	第14号住居跡実測図……………205	第224図	第46号住居跡出土遺物実測図…236
第190図	第14号住居跡出土遺物実測図…206	第225図	第47A号住居跡出土遺物 実測図……………236
第191図	第16号住居跡出土遺物実測図…206	第226図	第47A・47B号住居跡実測図…237
第192図	第16号住居跡実測図……………207	第227図	第47B号住居跡出土遺物 実測図……………237
第193図	第17A・17B号住居跡実測図…209	第228図	第49号住居跡実測図……………238
第194図	第17A号住居跡出土遺物 実測図……………210	第229図	第49号住居跡出土遺物実測図…239
第195図	第17B号住居跡出土遺物 実測図……………211	第230図	第50号住居跡実測図……………240
第196図	第20号住居跡実測図……………212	第231図	第50号住居跡出土遺物実測図…240
第197図	第20号住居跡出土遺物実測図…213	第232図	第55号住居跡出土遺物実測図…241
第198図	第23号住居跡実測図……………215	第233図	第57号住居跡出土遺物実測図…241
第199図	第23号住居跡出土遺物実測図…216	第234図	第59号住居跡出土遺物実測図…242
第200図	第24号住居跡実測図……………217	第235図	第64号住居跡出土遺物実測図…243
第201図	第24号住居跡出土遺物実測図…218	第236図	第64・65・66・67号住居跡 実測図(1)……………244
第202図	第25号住居跡出土遺物実測図…219	第237図	第64・65・66・67号住居跡 実測図(2)……………245
第203図	第27号住居跡出土遺物実測図…219	第238図	第65号住居跡出土遺物実測図…246
第204図	第31号住居跡出土遺物実測図…220	第239図	第66号住居跡出土遺物実測図…247
第205図	第31・57号住居跡実測図……………221	第240図	第67号住居跡出土遺物実測図…248
第206図	第32A・32B号住居跡出土遺物 実測図……………221	第241図	第68号住居跡実測図……………249
第207図	第32A・32B・62・63号住居跡 実測図……………222	第242図	第68号住居跡出土遺物実測図…249
第208図	第33号住居跡出土遺物実測図…223	第243図	第70号住居跡出土遺物実測図…250
第209図	第35号住居跡実測図……………224	第244図	第1・7・8・9・16号土坑出土 遺物実測図……………253
第210図	第35号住居跡出土遺物実測図…224	第245図	第1・3・4・8・9・10・14号 土坑実測図……………254
第211図	第37号住居跡出土遺物実測図…224	第246図	第1号井戸実測図……………255
第212図	第37・58・59・60号住居跡 実測図……………225	第247図	第1号井戸出土遺物実測図…256
第213図	第38号住居跡実測図……………226	第248図	第1号溝実測図……………258
第214図	第38号住居跡出土遺物実測図…227	第249図	縄文式土器拓影図(1)……………260
第215図	第40B号住居跡出土遺物 実測図……………229	第250図	縄文式土器・弥生式土器 拓影図(2)……………261
第216図	第40A・B号住居跡実測図……230	第251図	弥生式土器拓影図(3)……………262
第217図	第41号住居跡実測図……………232	第252図	弥生式土器拓影図(4)……………263
第218図	第41号住居跡出土遺物実測図…232	第253図	弥生式土器拓影図(5)……………264
第219図	第42号住居跡実測図……………233	第254図	その他の出土遺物……………265
第220図	第43号住居跡実測図……………234		
第221図	第45号住居跡実測図……………234		

第255図	うぐいす平遺跡各時期の 竪穴住居跡の分布……………268
-------	---------------------------------

## 付 図 目 次

付図 1	寄居遺跡遺構配置図	付図 2	うぐいす平遺跡遺構配置図
------	-----------	------	--------------

## 表 目 次

表 1	寄居・うぐいす平遺跡周辺遺跡 一覧表…………… 5	表 7	うぐいす平遺跡土坑一覧表……………253
表 2	寄居遺跡竪穴住居跡 一覧表……………104・105	表 8	うぐいす平遺跡出土縄文式 土器……………258
表 3	寄居遺跡土坑一覧表……………106	表 9	うぐいす平遺跡出土弥生式 土器……………259
表 4	寄居遺跡出土縄文式 土器……………133・141・142	表 10	うぐいす平遺跡出土鉄滓 一覧表……………266
表 5	寄居遺跡出土弥生式土器……………142	表 11	寄居・うぐいす平遺跡の集落 継続期間の対比……………268
表 6	うぐいす平遺跡竪穴住居跡 一覧表……………251・252		

## 写 真 目 次

P L 1	寄居遺跡全景，完掘風景	P L 17	第3・4・6号住居跡出土遺物
P L 2	第1～6号住居跡	P L 18	第7・9・12・14号住居跡出土遺物
P L 3	第6～9号住居跡	P L 19	第14・15・16・17号住居跡出土遺物
P L 4	第10～15号住居跡	P L 20	第21・22・23・24号住居跡出土遺物
P L 5	第15～19号住居跡	P L 21	第24・25A・26・28A・28B・29号住居跡出土遺物
P L 6	第20A～24号住居跡	P L 22	第43・45・13号住居跡出土遺物
P L 7	第24～27号住居跡	P L 23	第13・17・19号住居跡出土遺物
P L 8	第28A～35号住居跡	P L 24	第20A・20B・25B・27・28B・28C号住居跡出土遺物
P L 9	第34～39号住居跡	P L 25	第28C・30・31・32・33・34号住居跡出土遺物
P L 10	第39～41号住居跡	P L 26	第34・35・36・37・39号住居跡出土遺物
P L 11	第42～49A・49B号住居跡	P L 27	第39・40・41号住居跡出土遺物
P L 12	第50A～57号住居跡，第1号土坑		
P L 13	第18～49号土坑		
P L 14	第42～63号土坑，第1～5号地下式壇		
P L 15	第5～6号地下式壇，第1号井戸，第1号溝		
P L 16	第2・4号溝，第1号掘立柱建物跡，調査風景		



- P L 28 第41・42・46・47・48・49号住居跡出土遺物
- P L 29 第49・50・51・52・53号住居跡出土遺物
- P L 30 第57号住居跡, 第6号土坑, 第1・4号地下式壙出土遺物
- P L 31 第2～5号地下式壙, 第1号井戸出土遺物
- P L 32 第1号井戸, 第2・4号溝出土遺物
- P L 33 第2・4・5号溝, その他の遺物, 灰釉陶器
- P L 34 土製品
- P L 35 土製品, 石製品(1)
- P L 36 石製品(2)
- P L 37 石製品(3)
- P L 38 金属製品(1)
- P L 39 金属製品(2)
- P L 40 金属製品(3)
- P L 41 金属製品(4)
- P L 42 縄文式土器(1)
- P L 43 縄文式土器(2)
- P L 44 縄文式土器(3)
- P L 45 縄文式土器(4)
- P L 46 縄文式土器(5)
- P L 47 縄文式土器(6)
- P L 48 縄文式土器(7), 第4, 20A, 27号住居跡, 第2号地下式壙出土遺物
- P L 49 第1・3・4号地下式壙, 第2号溝出土遺物, 弥生式土器(1)
- P L 50 弥生式土器(2)
- P L 51 うぐいす平遺跡全景, 完掘風景, 第1・2号住居跡
- P L 52 第2～5号住居跡
- P L 53 第5～9A号住居跡
- P L 54 第9A～10B号住居跡
- P L 55 第11A～15号住居跡
- P L 56 第15～17号住居跡
- P L 57 第17B～18号住居跡
- P L 58 第18～20号住居跡
- P L 59 第20～23号住居跡
- P L 60 第23・24号住居跡
- P L 61 第25～30A・30B号住居跡
- P L 62 第30A～33号住居跡
- P L 63 第33～36号住居跡
- P L 64 第37～39号住居跡
- P L 65 第39～42号住居跡
- P L 66 第43～49号住居跡
- P L 67 第49～53号住居跡
- P L 68 第53～57号住居跡
- P L 69 第57～63号住居跡
- P L 70 第64～66号住居跡
- P L 71 第67～69号住居跡
- P L 72 第3・4・5・6・13・17号土坑, 第1号井戸
- P L 73 第1号井戸, 第1号溝
- P L 74 第36・4A・12・15号住居跡出土遺物
- P L 75 第15・18号住居跡出土遺物
- P L 76 第18・19・21・22号住居跡出土遺物
- P L 77 第22・26・28・30A・30B・39・51B・52・54号住居跡出土遺物
- P L 78 第54・69・1～6号住居跡出土遺物
- P L 79 第6・7・8・9A号住居跡出土遺物
- P L 80 第9A・9B・10A・10B号住居跡出土遺物
- P L 81 第10B・11A～C・13・14・16・17A号住居跡出土遺物
- P L 82 第17A・17B・20・23・24号住居跡出土遺物
- P L 83 第24・25・27・32・33・35・37・38号住居跡出土遺物
- P L 84 第38・40B・41・43号住居跡出土遺物
- P L 85 第41・45・46・47A・47B・49・50・55号住居跡出土遺物
- P L 86 第55・57・59・64～67号住居跡出土遺物

- P L 87 第68・70号住居跡, 第1号井戸,  
表採遺物
- P L 88 第2・3・4A・10A・12・13・  
14・15・18・23・24・51B号住居  
跡出土遺物
- P L 89 土製品(1)
- P L 90 土製品(2)
- P L 91 土製品(3)
- P L 92 土製品(4)
- P L 93 土製品(5)
- P L 94 土製品(6)
- P L 95 土製品(7), 石製品(1)
- P L 96 石製品(2)
- P L 97 石製品(3), 金属製品(1)
- P L 98 金属製品(2)
- P L 99 金属製品(3)
- P L 100 金属製品(4)
- P L 101 第18号住居跡出土遺物鉄滓
- P L 102 第1号井戸出土貝類
- P L 103 第1号井戸出土獸骨
- P L 104 縄文式土器(1)
- P L 105 縄文式土器(2), 弥生式土器(1)
- P L 106 弥生式土器(2)
- P L 107 弥生式土器(3)
- P L 108 弥生式土器(4)

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経過

茨城県は、国の全国総合開発計画のもとで進められている地方中核都市の育成整備について、地方にとって住みよい豊かな、しかも個性のある地域振興が図られなければならないと考えている。首都圏60kmに位置し、地方の中核都市である土浦市は、人口増加とその定住化に対応して水と緑豊かな土浦市にふさわしい人間らしい豊かな環境の街づくりが必要となってきた。

これにより、平成4年1月、茨城県住宅供給公社は、茨城県教育委員会に対し、上高津団地建設予定地内における「埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて」照会をした。これを受け茨城県住宅供給公社は土浦市住宅公社を通じて土浦市遺跡調査会に試掘調査を依頼した。その結果、開発予定地内に埋蔵文化財の存在を確認した。平成4年2月、茨城県教育委員会は、茨城県住宅供給公社と綿密な協議を重ねた結果、現状保存が困難であることから、記録保存の措置をとることとなった。

平成4年2月、茨城県教育委員会は茨城県住宅供給公社に、埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。同年3月、茨城県住宅供給公社から茨城県教育財団に、寄居遺跡、うぐいす平遺跡の発掘調査の実施について協議があり、茨城県教育財団は茨城県住宅供給公社へ発掘調査についての回答を行った。その後、茨城県住宅供給公社と茨城県教育財団は、寄居遺跡、うぐいす平遺跡の埋蔵文化財発掘調査の委託契約を結び、平成4年4月から寄居遺跡、うぐいす平遺跡の発掘調査を実施することとなった。

## 第2節 調査経過

寄居遺跡、うぐいす平遺跡の発掘調査は、平成4年4月1日から平成4年9月30日までの半年間にわたって実施した。以下、調査経過の概要について記述する。

4月 発掘調査を開始するための諸準備を行う。現場事務所や倉庫の設置、駐車場の確保、作業員募集等を実施した。14日から作業員を投入して、諸施設の整備、寄居・うぐいす平遺跡の伐開作業を行った。27日にうぐいす平遺跡において、発掘調査の円滑な推進と作業の安全を祈って、鉄入れ式を挙行し、28日から寄居・うぐいす平遺跡の試掘調査を実施した。試掘の結果、両遺跡とも土師器・須恵器の破片が多数出土し、住居跡と考えられる遺構が確認できた。

5月 前月に引き続き、試掘調査を実施した。両遺跡ともに、予想外に遺構が多く存在すること

を確認した。遺構の分布状況や表土の厚さ等を検討して、13日から重機による表土除去作業を開始し、それと並行して、遺構確認作業も行った。22日に重機による表土除去作業を終了し寄居遺跡の遺構調査に入った。

6月 寄居遺跡の調査を継続した。住居跡、土坑と順次調査を進め、25日には溝の調査を始めた。事務所では出土遺物の洗浄・注記作業を開始した。

7月 寄居遺跡の調査を継続し、初旬には住居跡50軒台まで進んだ。8日にはうぐいす平遺跡の調査も開始した。寄居遺跡の調査は、補足調査を除いて17日に終了した。

8月 うぐいす平遺跡の調査は、上旬に住居跡30軒台まで進み、土坑の調査も開始した。寄居遺跡の補足調査も並行して進めた。25日にはうぐいす平遺跡の1回目の写真実測を行った。

9月 うぐいす平遺跡の住居跡の調査は、初旬に60軒台まで進行した。6日には寄居遺跡において現地説明会を行った。その後、補足調査を実施した。14日にはうぐいす平遺跡の2回目の写真実測を行なった。18日に両遺跡の航空写真撮影を行った。22日に補足調査を終え、事務所では諸帳簿の点検を行った。25日に遺跡内の危険箇所の埋めもどし等安全対策を行い、29日に調査を終了した。



現地説明会風景



## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

寄居遺跡は、土浦市大字上高津776-1ほかに、うぐいす平遺跡は土浦市大字上高津1023-1ほかに所在している。

両遺跡の所在する土浦市は、茨城県南部のほぼ中央部に位置し、霞ヶ浦に注ぐ桜川下流域を中心とした地域である。

土浦市の地形は、北部の新治台地と、中央部の沖積低地、南西部の稲敷台地とに大きく分けられる。新治台地は、筑波山塊から南東に延びた標高24~27mの洪積台地である。筑波・稲敷台地は真壁台地から南東に延びた標高24m前後の洪積台地である。二つの台地の間には、桜川とその支流によってつくられた幅広の沖積低地が広がっている。

土浦市の台地の地質は、中粒砂からなる成田層を基盤層として、その上に礫混じりの中粒砂からなる竜ヶ崎砂礫層が不整合して覆っている。その上に木の葉や昆虫などの化石が含まれる砂層と粘土層からなる常総粘土層があり、さらにその上を厚さ2~3mほどの関東ローム層が不整合して覆っている。

寄居遺跡、うぐいす平遺跡は、土浦市街を見下ろす稲敷台地の縁辺部に位置している。両遺跡ともほぼ標高24m前後の中位段丘上にあり、周囲は桜川の低地から樹枝状に入り込んだ小支谷によって浸食された地形となっている。寄居遺跡とうぐいす平遺跡の間には、東側から東南に向かって小支谷が入り込んでおり、寄居遺跡は北東方向に延びる舌状台地上、うぐいす平遺跡は東に延びる舌状台地上に位置し、小地形的にそれぞれ独立した地形的環境にある。

### 第2節 歴史的環境

土浦市内の遺跡は、大部分が北部の新治台地と南西部の筑波・稲敷台地上に分布している。筑波・稲敷台地上では、特に桜川に面する台地縁辺部や花室川流域に集中している。

寄居遺跡、うぐいす平遺跡の所在する上高津地区周辺にも各時期の遺跡が、数多く確認されている。ここでは上高津地区及びその周辺の遺跡について時代を追って概観することにする。

旧石器時代の遺跡は、土浦市においては、10か所確認されている。当遺跡の周辺地域では、向原遺跡においてナイフ形石器・石核・磨石等が出土し、宮脇遺跡からはポイントやスクレーパーが表採されている。

縄文時代の遺跡では、国指定史跡上高津貝塚が特に有名である。明治時代から発掘調査が行わ

れており、戦後以降の数回にわたる学術的な発掘調査の結果、縄文時代の後・晩期にわたって形成された大規模な馬蹄形貝塚であることが判明している。

弥生時代については、近年、土浦市北部の今泉地区において大規模な弥生時代の集落遺跡が調査されており、弥生時代後期の様相が明らかになりつつある。上高津地区周辺では、穴塚古墳群中の第1号墳の墳丘下から確認された住居跡や永国遺跡の発掘調査で確認された住居跡等数例が見られる程度である。

古墳時代になるとそれまでの時代に比べて遺跡数が多くなる。土浦市内では、古墳時代前期の前方後円墳の王塚古墳や前方後方墳の後塚古墳が桜川左岸の新治台地上つくられるが、上高津地区側の稲敷台地上にも古墳時代前期の集落が見られるようになる。この時期は、桜川に面した台地上や花室川沿いの台地の縁辺部等の生業や交通の面で良好と思われる場所に拠点的に立地している。古墳時代後期頃から集落が目立って増え、環境の良い台地縁辺部には、集落がくまなく立地するようになる。それと対照的に古墳は、花室川の河口付近と穴塚大池付近に特に集中する傾向にある。上高津地区では、時期が明瞭ではないものの全長約30mの前方後円墳の幕下女騎古墳〈13〉が、寄居遺跡の北方約400mの地点の独立丘陵上に存在する。

奈良・平安時代になると、土浦市域は筑波郡・信太郡・茨城郡・河内郡の四郡にまたがり、上高津地区は信太郡に属していたようである。この時期になると集落の数がさらに増加していき、上高津地区においても、これまで桜川に面した台地縁辺部に立地していた集落は、さらに支谷の内奥部の台地上にまで広がっていく。うぐいす平遺跡の南側に接する台地上の新町遺跡〈14〉や南西方向の最も奥まった所に位置する宮脇B遺跡〈16〉などは、平安時代になって初めて集落が営まれている。寄居遺跡の東側小支谷をはさんだ対岸台地上に広がる下高津小学校遺跡〈18〉は、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての遺跡であり、寄居遺跡・うぐいす平遺跡とほぼ歩みを共にしている。古墳時代後期からの集落の増加と平安期の分村拡大化は、この地域での一般的傾向であると見られている。その他、穴塚地区には、布目瓦を出土し、鎌倉時代以前にまでさかのぼると予測される般若寺跡〈5〉がある。

平安時代末期からの寄進地系荘園の増加のもと、土浦市の南部地域は信太荘に属していたらしい。鎌倉時代には上高津付近に鎌倉街道が通っていたようで、永国地区に残る土浦市指定の旧鎌倉街道跡の発掘調査では、古道の硬化面が見つかっている。

※文中の〈 〉の番号は、表1、第4図中の該当番号と同じである。

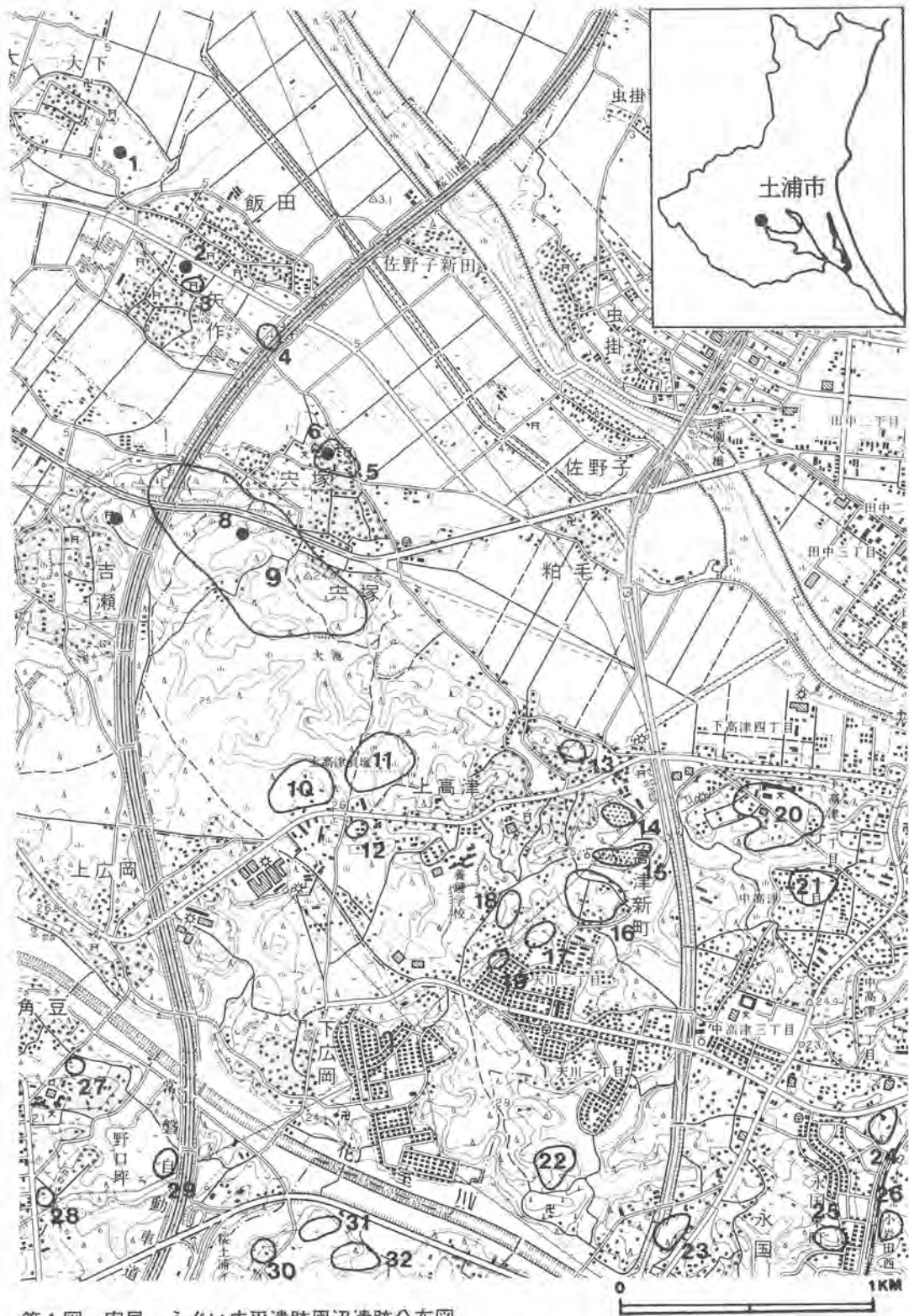
#### 引用・参考文献

- (1) 土浦市教育委員会 『向原遺跡』 1987年
- (2) 土浦市教育委員会 『土浦の遺跡』 1975年

- (3) 土浦市教育委員会 『上高津貝塚発掘調査報告書』1989年
- (4) 土浦市教育委員会 『上高津貝塚の発掘』1992年
- (5) 茨城県教育財団 「土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書 原田北遺跡 I 原田西遺跡」『茨城県教育財団調査報告』第80集 1993年
- (6) 土浦市教育委員会 『永国遺跡発掘調査報告書』1983年
- (7) (2)と同じ。
- (8) 茨城県教育財団 「永国地区住宅団地建設予定地内埋蔵文化財調査報告書 寺家ノ後A遺跡  
その他五遺跡」『茨城県教育財団調査報告』第60集 1990年
- (9) 茨城県教育委員会 『茨城県遺跡地図』1991年
- (10) 茨城県 『茨城県史料考古資料編 先土器・縄文時代』 1979年
- (11) 土浦市教育委員会 『図説 土浦の歴史』 1991年

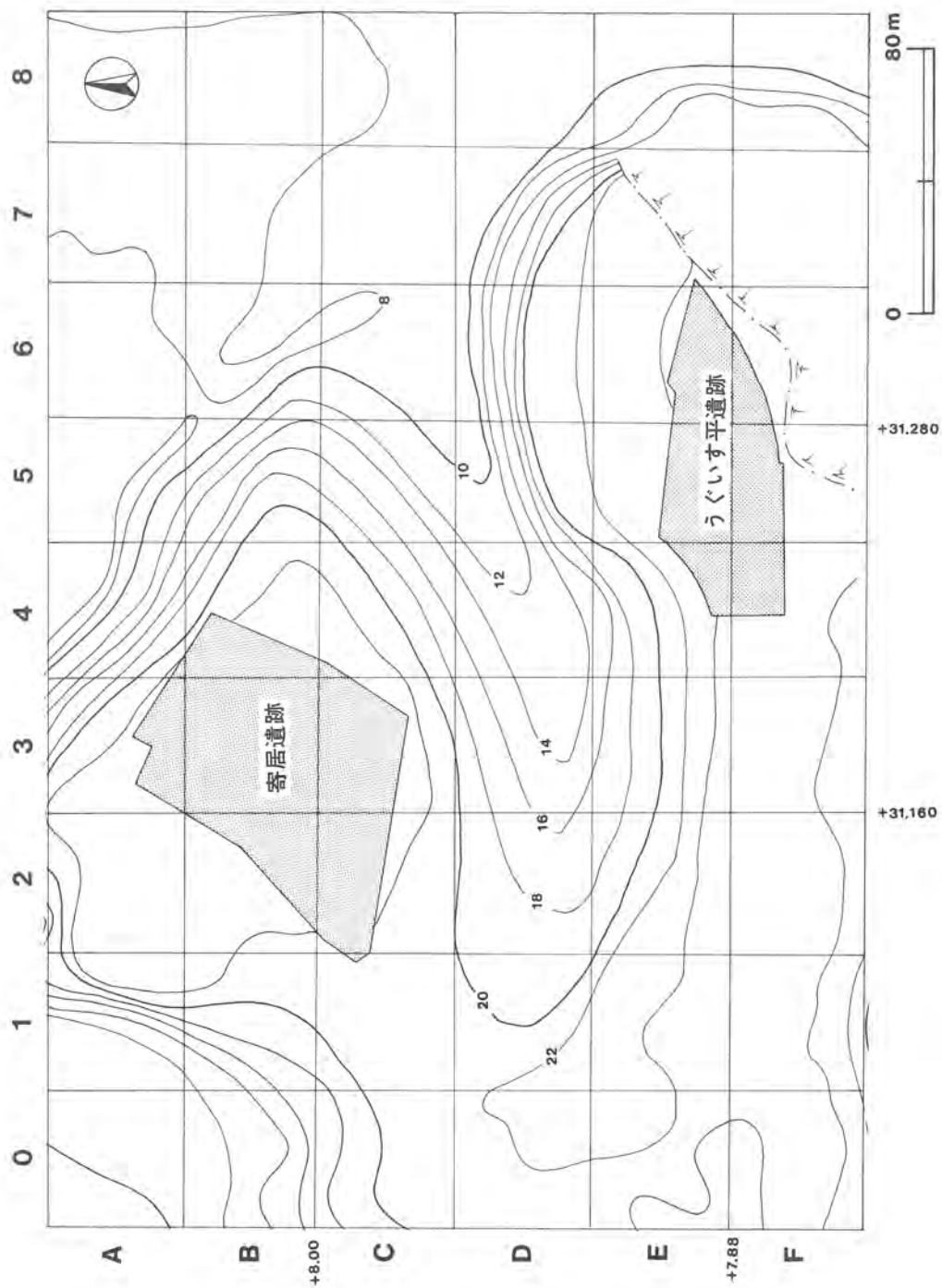
表1 寄居・うぐいす平遺跡周辺遺跡一覧表

図中 番号	遺跡名	遺跡の時代					図中 番号	遺跡名	遺跡の時代				
		縄文以前	弥生	古墳	奈良平安	中世以降			縄文以前	弥生	古墳	奈良平安	中世以降
1	大日塚遺跡					○	17	宮脇A遺跡			○		
2	ドンドン塚			○			18	宮脇B遺跡	○		○		
3	矢作稲荷神社古墳			○			19	宮脇庚申塚			○		
4	竹岡遺跡			○			20	下高津小学校遺跡			○	○	
5	般若寺跡				○		21	弁天社東遺跡			○		
6	竜王山古墳			○			22	寺家ノ後遺跡			○		
7	東古墳群			○			23	亀井遺跡			○		
8	穴塚遺跡		○				24	ビヤ首遺跡	○				
9	穴塚古墳群			○			25	宮久保遺跡			○		
10	栗崎遺跡	○	○	○			26	阿ら地遺跡			○		
11	上高津貝塚	○					27	大角豆遺跡	○	○			
12	出シ山遺跡				○		28	千現塚古墳			○		
13	幕下女騎古墳			○			29	下大角遺跡			○		
14	寄居遺跡			○	○		30	二又遺跡	○				
15	うぐいす平遺跡		○	○	○		31	後稲遺跡	○		○		
16	新町遺跡			○			32	不道堂古墳群			○		



第1図 寄居・うぐいす平遺跡周辺遺跡分布図





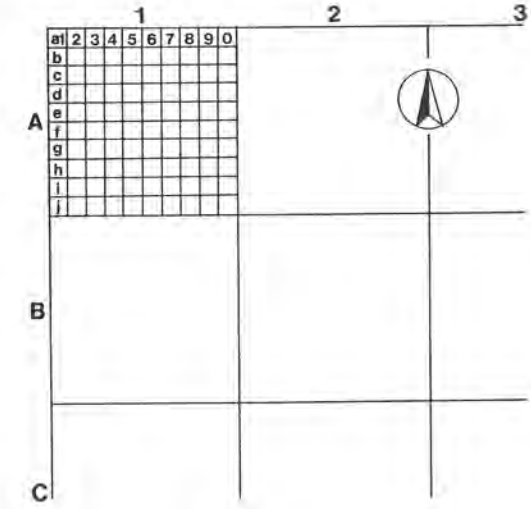
第2図 寄居・うぐいす平遺跡調査区全体図

# 第3章 調査方法

## 第1節 地区設定

発掘調査を実施するにあたり、遺跡及び遺構の位置を明確にするために調査区を設定した。調査区は日本平面直角座標第IX系座標を用いて区画し、寄居遺跡・うぐいす平遺跡とも、X軸（南北）+8,080m, Y軸（東西）+3,180mの交点を基準とし、この基準点から東西・南北にそれぞれ40m平行移動して一辺40mの大調査区を設定した。さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m方眼の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い北から南へA, B, C……、西から東へ1, 2, 3……とし、「A1区」、「B



第3図 調査区呼称方法概念図

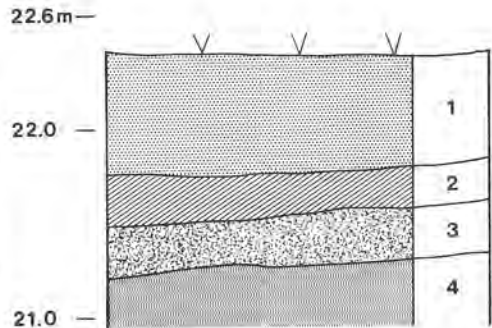
2区」のように呼称した。小調査区も同様に

北から南へa, b, c……j, 西から東へ1, 2, 3……0とし、小調査区の名称は、大調査区の名称を冠し、「A1a<sub>1</sub>」「B2b<sub>2</sub>」のように呼称した。

## 第2節 基本層序の検討

寄居遺跡においては、最高地点における遺構の密集状況が高く、遺跡の南部の緩傾斜地（C2d区内）にテストピットを設定し土層を観察した。うぐいす平遺跡では遺構が密集しておりテストピットの設定が難しかった。

第1層の表土は約20cmの厚さの耕作土層である。ローム粒子、炭化粒子を含む締まりの弱い暗褐色土である。第2層は約60cmの厚さのハードローム混じりの褐色土である。下層はやや柔らか



第4図 寄居遺跡基本土層図

く、ハードローム層への漸移層である。第3層は20～25cmの厚さのハードローム層であり、明褐色を呈している。第4層は30cm前後の厚さで、にぶい褐色の砂粒、鉄分混じりの粘土層である。第5層は多量の鉄分と砂粒混じりのにぶい褐色粘土層である。第1層から第2層にかけては立川ローム層の下層から武蔵野層に相当する中位段丘上を覆う表層ローム土層と考えられる。第4層～第5層は常総粘土層にあたると思われる。

寄居遺跡では中央部西寄りの台地最高地点で、第1層の耕作土直下に黒ボク土層が厚さ10cmほど残る地点があった。そのほかは最高地点から周囲に向かって緩やかに下る傾斜地であるため、表土やロームの流失が激しかったようである。

うぐいす平遺跡も寄居遺跡と同じ中位段丘上に立地しており、表層ロームや常総粘土層は寄居遺跡と同様の堆積状況であると考えられる。

### 第3節 遺構確認

寄居遺跡・うぐいす平遺跡の調査前の状況は畑地で、一部雑木林であった。両遺跡とも、土浦市の教育委員会により試掘調査が行われており、それぞれ数軒の住居跡が確認されていた。遺物は土師器・須恵器片が採集されており、古墳時代から平安時代にかけての時期の集落の存在が予想された。

両遺跡の遺構確認は、次のような方法で実施した。まず、調査区域全域にグリッドを設定し、調査面積の16分の1、次いで8分の1の割合で試掘を行い、遺構の確認を試みた。その結果、土師器や須恵器の破片が出土し、住居跡と思われる遺構が確認された。表土の厚さは寄居遺跡で15～40cm、うぐいす平遺跡で25～50cmであることも判明した。この試掘調査の結果をふまえ、調査区域全面にわたり重機による表土除去を実施した。その後、遺構確認作業を行い、寄居遺跡においては、住居跡と思われる落ち込み約50か所、土坑状の落ち込み約50か所、溝状の落ち込み3条を確認した。うぐいす平遺跡では住居跡約60か所、土坑約10か所、溝1条などを確認した。

### 第4節 遺構調査

寄居遺跡、うぐいす平遺跡における遺構調査は、次の方法で行った。

住居跡の調査は、平面プラン確認後、遺構の中央部で直交するように土層観察用ベルトを2本設定して四分割し、それぞれを掘り込む「四分割法」で実施した。それぞれの地区の名称は、北から時計回りに1～4区とした。重複している場合には、新旧関係が把握できるような位置にベルトを設定した。土坑の調査は、長径方向で二分割して掘り込む「二分割法」で実施した。溝の

調査は、長さに応じて数か所の土層観察用ベルトを設けて掘り込みを実施した。

土層については、色調、含有物の多少・大小、粘性、締まり具合等を観察して、分類の基準とした。色相については、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著、日本色研事業株式会社発行)を使用して観察記録した。

遺物は、原位置を保って遺構を掘り下げた後、住居跡、土坑、溝等の名称と出土地区の名称、取り上げ番号、レベル等を記録して収納した。

遺構や遺物の平面実測は、水糸方眼地張り測量、平板測量、写真実測で行い、土層断面や遺構断面の実測は、標高をもとに、水平にセットした水糸を基準にして実測した。縮尺は20分の1を基本としたが、炉や部分的な微細図については、10分の1の縮尺で作成した。

調査の記録は、土層断面写真撮影→土層断面図作成→遺物出土状況写真撮影→遺物出土状況平面図作成→遺構写真撮影→遺構断面図作成→遺構平面図作成の順で行うことを基本とした。図面や写真に記録できない事項に関しては、野帳及び調査記録カードに記録し、さらに遺構カードに整理した。遺構番号は、調査順に付していった。



うぐいす平遺跡調査風景

# 第4章 遺構・遺物の記載方法

## 第1節 遺構の記載方法

本書における遺構・遺物の記載方法は、以下のとおりである。

### 1 使用記号

名称	住居跡	土坑	掘立柱建物跡	井戸	溝	ピット	土器	土製品	石器・石製品	金属製品	拓本土器
記号	SI	SK	SB	SE	SD	P <sub>1</sub> ~	P	DP	Q	M	TP

### 2 遺構・遺物の実測図中の表示



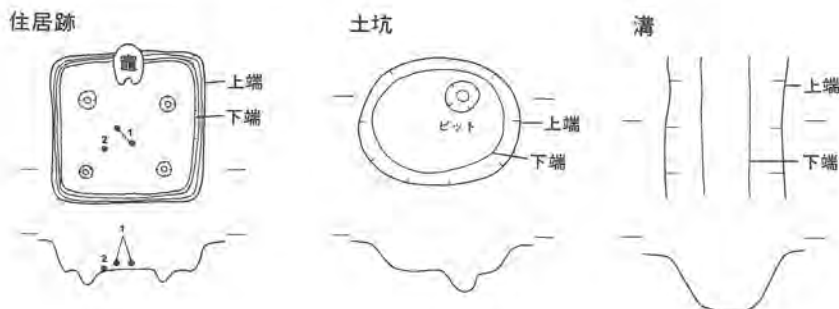
### 3 遺構番号

遺構番号については、調査の過程において遺構の種別毎、調査順に付したが、整理の段階で遺構でないと判断したものは欠番とした。また、整理の過程で新たに番号を付したのものについては、旧番号を（ ）内に表示した。

### 4 土層の分類

土層観察における色相については、図版実測中に記載した。攪乱層については「K」と表記した。

### 5 遺構実測図の作成方法と掲載方法



(1) 各遺構の実測図は、縮尺20分の1の原図を80分の1の縮尺として掲載することを基本とした。

(2) 実測図中のレベルは標高であり、m単位で表示した。また、同一図中で同一標高の場合に

限り、一つの記載で表し、標高が異なる場合は各々表示した。

(3) 本文中の記載について

- 「位置」は、遺構が占める面積の割合が最も大きい小調査区名をもって表示した。
- 「重複関係」は、他の遺構との切り合い関係を記した。
- 「平面形」は、壁の上端部で判断し、方形、長方形の場合は下記の分類基準を設け、そのいずれかを明記した。  
 方形（短軸：長軸＝1：1.1未満のもの）、長方形（短軸：長軸＝1：1.1以上のもの）
- 「規模」は、壁の上端部の計測値であり、長軸（径）、短軸（径）をm単位で表記した。  
 （ ）を付したものは現存値，[ ]を付したものは推定値である。
- 「主軸方向」は、炉もしくは竈をとおる線を主軸とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。なお，[ ]を付したものは推定である。  
 （例 N-10°-E，N-10°-W）
- 「壁」は、床面からの立ち上がり角度が81°～90°を垂直，65°～80°を外傾，65°未満を緩斜，さらに90°以上を内傾とした。壁高は、残存壁高の計測値であり，cm単位で表記した。
- 「壁溝」は、その形状や規模を表記した。規模は床面からの計測値とした。
- 「床」は、傾斜や床質等を表記した。
- 「ピット」は、その住居跡に伴うと考えられるピットをPで表示し，P<sub>1</sub>，P<sub>2</sub>はピット番号を表し，さらに，ピットの直径と深さを記述した。
- 「貯蔵穴」は、その形状を記述し，数値は長径，短径，深さを示した。
- 「覆土」は、堆積の状態が自然堆積の場合は「自然」，人為堆積の場合は「人為」と記した。
- 「遺物」は、主な遺物の種類や出土位置，出土状態等を記録した。
- 「所見」は、当該住居跡についての時期やその他特記すべき事項を記述した。

6 表の見方

(1) 住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸)	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設					炉 竈	覆 土	出土遺物	備考
							壁溝	支柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				

- 床面は、平坦，凹凸，皿状及び緩い起伏に分類して表記した。

- 柱穴数は、平面図中に表示されたピットの中からその住居跡に伴うと思われる柱穴の本数を記した。
- 炉、竈は、その種類を記した。
- 覆土は、自然堆積のものは「自然」、人為堆積のものは「人為」と表記し、不明のものは空欄とした。
- 出土遺物は、実測個体数を除いた遺物の種類と、出土土器片の数を記した。
- 備考は、重複関係等について記した。
- その他の項目については、本文中の記載方法に準じた。

(2) 土坑一覧表

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考
				長径 × 短径 (m)						

- 深さは、遺構確認面から坑底の最も深い部分までの計測値 (cm) で表した。
- 壁面は、坑底からの立ち上がりの状態を簡潔に記した。
- その他の項目については、本文中の記載方法に準じた。

## 第 2 節 遺物の記載方法

### 1 遺物実測図の記載方法

遺跡から出土した遺物については、実測図、拓影図、写真等により掲載した。

- (1) 土器の実測図は、四分画法を用い、原則として中心線の左側に外面、右側に内面と断面を図示した。
- (2) 土器拓影図は、右側に断面を図示した。
- (3) 遺物は、原則として実測図をトレースしたものを4分の1に縮小して掲載した。しかし、種類や大きさにより、異なる場合もある。

## 2 表の見方

### (1) 出土土器観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考

- 図版番号は、実測図中の番号である。写真図版の番号にも用いた。
- 計測値は、A－口径 B－器高 C－底径 D－高台径 E－高台高 単位はcmである。  
なお、現存値（ ）で、推定値は〔 〕を付して示した。
- 胎土・色調・焼成の欄は、上から胎土、色調及び焼成の順で記した。色調については、前節の土層の分類と同じ土色帖を使用した。焼成については、良好、普通及び不良に分類し焼き締まって硬いものは良好、焼成があまく手でこすると器面が剥落するものを不良とし、その中間のものを普通とした。
- 備考の欄は、土器の残存率、実測（P）番号、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

### (2) 土製品観察表

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		

- 重量の欄で、（ ）を付した数値は、一部を欠損しているものの現存値である。
- 備考の欄は、実測（DP）番号、その他特記すべき事項について記載した。

### (3) 石器・石製品観察表

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		

- 備考の欄は、実測（Q）番号、その他特記すべき事項について記載した。

### (4) 金属製品観察表

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		

- 備考の欄は、実測（M）番号、その他特記すべき事項について記載した。



# 第5章 寄居遺跡

## 第1節 遺跡の概要

寄居遺跡は、土浦市大字上高津776—1ほかに所在する。調査対象となったのは、住宅団地建設に伴う4811.28㎡である。

当遺跡は桜川の河口から西約4km上流の、桜川を臨む舌状台地上に位置する。台地面はほぼ平坦で標高約23mあり、畑や山林として利用されていた。台地北側は急崖となっており、低地との比高差は約18mである。台地南東側には小支谷が入り込んでおり、この小支谷をはさんで南東側の舌状台地上には寄居遺跡とほぼ同時期の集落遺跡であるうぐいす平遺跡がある。

当遺跡から確認された遺構は、住居跡65軒、掘立柱建物跡1棟、井戸1基、地下式墳6基、土坑37基、溝5条である。遺物は、土器（縄文式土器片、弥生式土器片、土師器、須恵器、灰釉陶器）、土製品（土玉、管状土錘）、石製品（石製模造品、砥石、硯）、金属製品（鉄鏃、鋤先状鉄製品、刀子、鋸）等である。

## 第2節 遺構と遺物

### 1 竪穴住居跡

当遺跡からは、65軒の竪穴住居跡（古墳時代28軒、奈良・平安時代35軒、時期不明2軒）が確認されている。土壌の流失や耕作による削平等のために床が露出していたり、削平されていて床下の掘り方だけが残っている住居跡も多かった。そのため残りの悪い竪穴住居跡については、本文解説を省き一覧表に掲示した。

以下、確認された住居跡の特徴や主な出土遺物について記載していくことにする。

#### (1) 縄文時代の住居跡

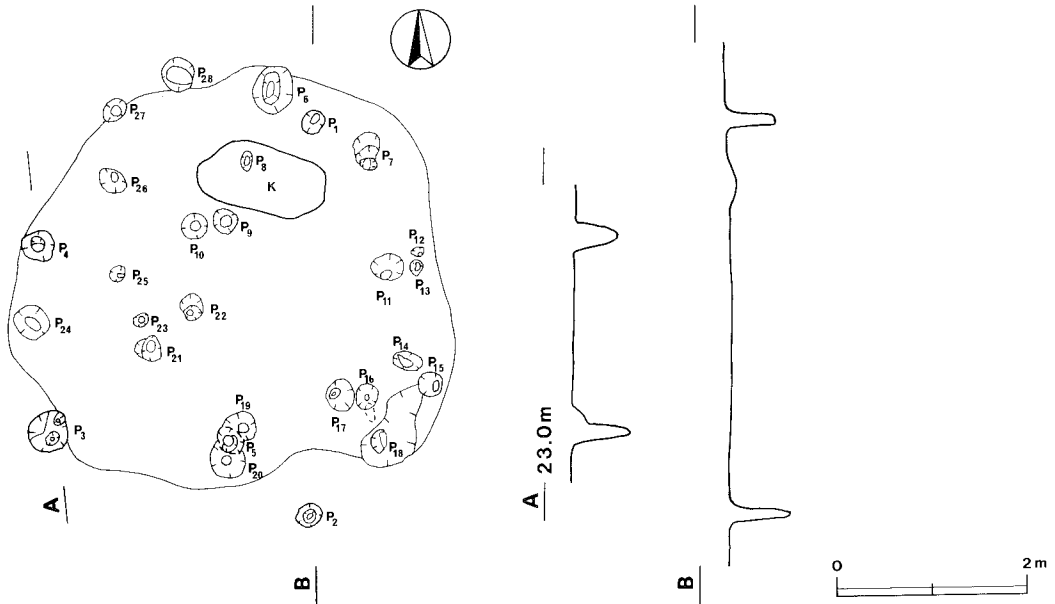
##### 第12号住居跡（第5図）

**位置** B9g<sub>2</sub>区 **規模と平面形** 長径5.37m、短径5.32mの楕円形。 **床** 流失しており、確認できなかった。 **ピット** 28か所。P<sub>1</sub>～P<sub>5</sub>は、径26～34cm、深さ51～64cmと他の柱穴と比べ深い。P<sub>6</sub>、P<sub>7</sub>、P<sub>11</sub>、P<sub>14</sub>～P<sub>20</sub>、P<sub>24</sub>、P<sub>26</sub>～P<sub>28</sub>は住居跡の掘り方外周に沿って配列されているので柱穴群と考えられる。深さは11～30cmである。 **炉** 確認できなかった。

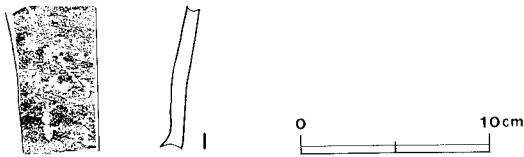
**覆土** 極薄く暗褐色土が堆積している。

遺物 覆土中から深鉢の胴部破片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物から縄文時代前期後半代の住居跡と考えられる。



第5図 第12号住居跡実測図



第6図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

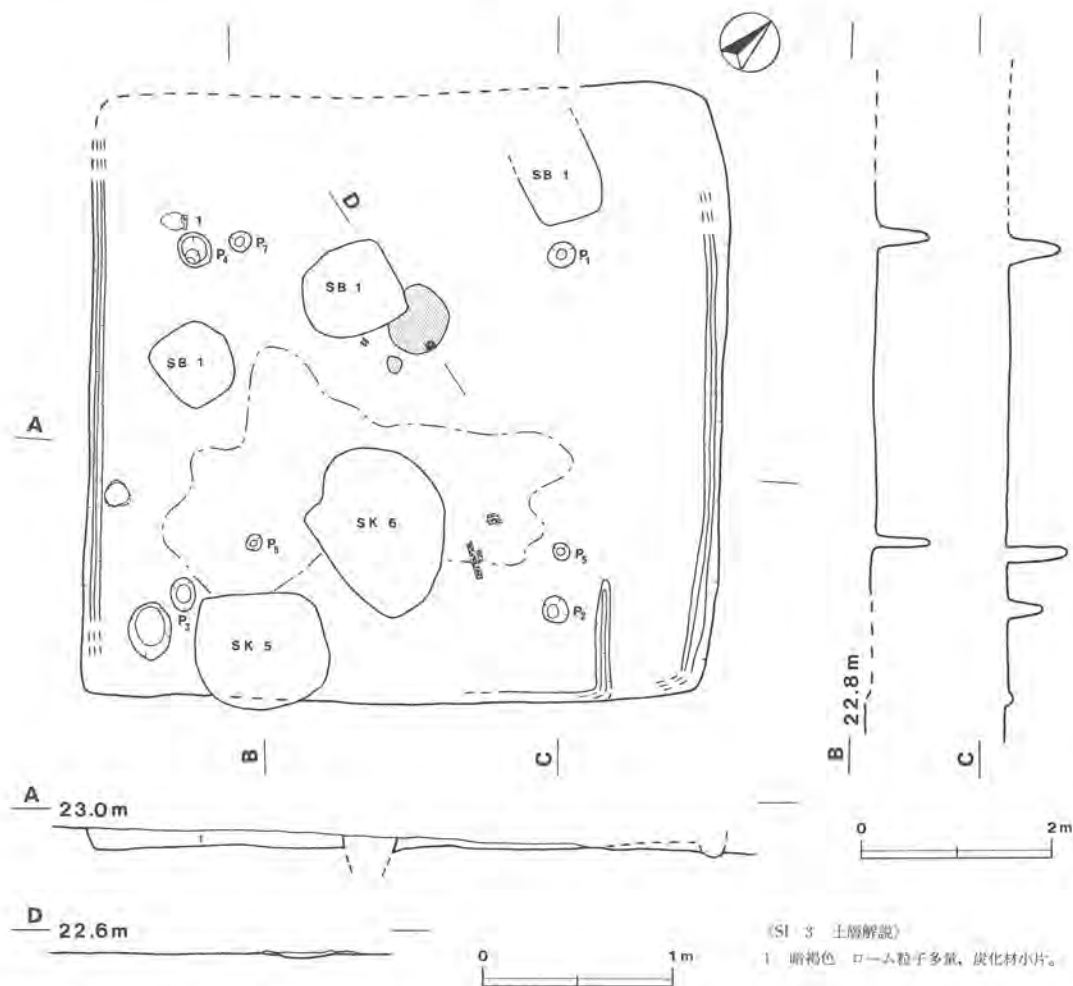
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第6図 1	深鉢 縄文式土器	B (7.8) C [3.4]	平底。体部は外傾して立ち上る。	内・外面ナデ。底部と体部の接合部で剝離。	黄白色微砂粒やや多量、にぶい橙色普通	P25 10% 覆土

(2) 古墳時代の住居跡

第3号住居跡 (第7図)

位置 B3c区 重複関係 第1号掘立柱建物跡の柱穴 (P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>) と土坑 (SK 4~SK 9) によって床の一部を掘り込まれている。規模と平面形 長軸6.60m, 短軸6.50m の方形。

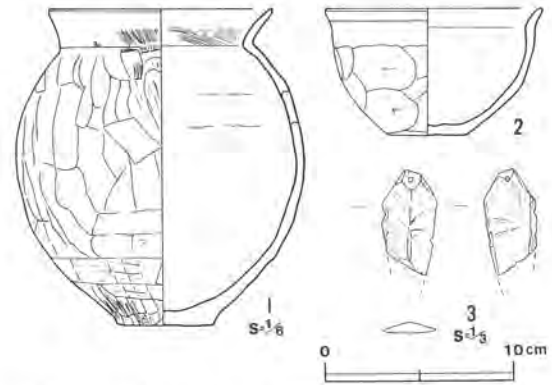
主軸方向 N-43°-W 壁 壁高は2~7cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝 南西壁と南東壁直下の残りは良いが, 他の壁側は北下がり地形のため削平されている。床 平坦である。ピット 7か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は, 径30~40cm, 深さ28~62cmで支柱穴である。P<sub>5</sub>~P<sub>7</sub>は, 径18~20cm, 深さ60~84cmである。炉 中央部やや西寄りに見られる。長径72cm, 短径60cmで床面を6cm程掘り窪めた地床炉である。貯蔵穴 1か所。径44~60cmの楕円形で, 深さ60cmである。覆土 1層で炭化材小破片を含んでいる。遺物 南西壁近くの床面から第8図-1の完形の甕



第7図 第3号住居跡実測図

と2の鉢の胴部片が出土している。その他、覆土中から縄文式土器片、弥生式土器片、古墳時代前期の土師器が出土し、中世の土坑墓や時期不明の掘立柱建物跡等の攪乱等により、奈良・平安時代の土師器・須恵器片、中世の土師質土器片や瀬戸・美濃系灰釉陶器片が出土している。

**所見** 本跡は、炭化材の出土から焼失家屋と思われる。出土遺物から、5世紀後半の住居跡と考えられる。



第8図 第3号住居跡出土遺物実測図

### 第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 1	甕 土師器	A 17.6 B 25.5 C 7.5	平底。体部は丸く張りを持ち、口縁部は直線的に外傾する。	体部ヘラ削り後ナデ。体部下端横位のヘラ削り。	砂礫にぶい橙色普通	P 1 100% 南壁際床面
2	鉢 土師器	A 11.6 B 6.8 C 4.3	平底。体部は内彎して立ち上がり口縁部で外側に屈曲する。	体部横位のヘラ削り。口縁部内外面ナデ。内面磨き状のていねいなヘラナデ。	砂粒(長石・石英)多量、にぶい橙色普通	P 7 65% 覆土

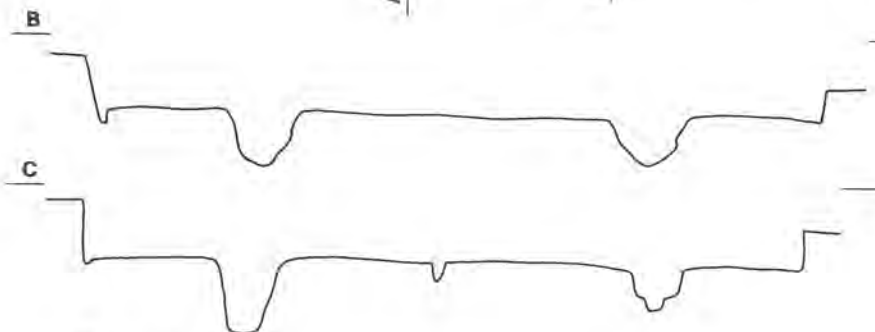
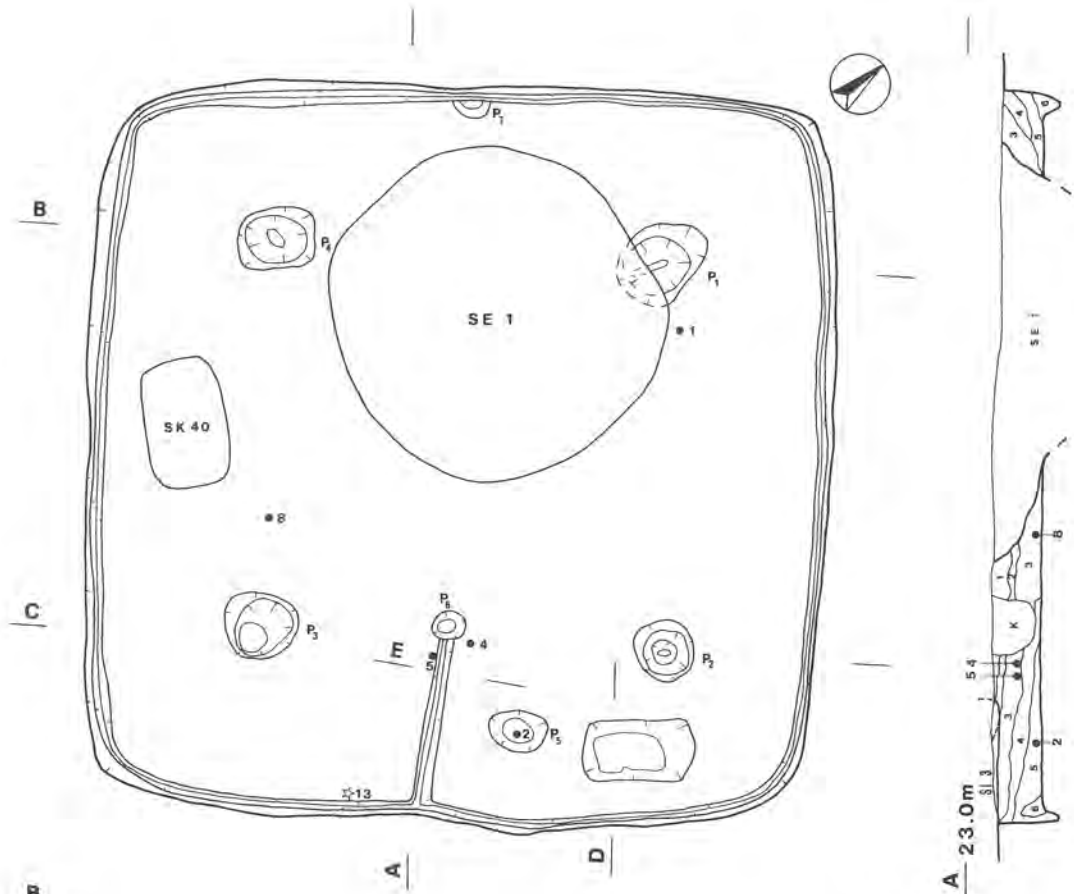
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	石製模造品	(4.2)	2.1	0.5	6.8	覆土	Q 1 滯石 70%

### 第4号住居跡(第9図)

**位置** B3b<sub>7</sub>区 **重複関係** 第1号掘立柱建物跡の柱穴及び第1号井戸に、床の一部が掘り込まれている。3号住居跡の床面が覆土上層を掘り込んでいる。**規模と平面形** 長軸7.80m、短軸7.72mの方形。**主軸方向** N-42°-W **壁** 壁高30~64cmで、垂直に立ち上がっている。

**壁溝** 幅10cm、深さ18cmで、全周している。**床** 平坦で、踏み固められている。**ピット** 7か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径64~74cm、深さ44~76cmで、いずれも主柱穴である。P<sub>5</sub>は、径44~58cm、深さ50cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P<sub>6</sub>・P<sub>7</sub>は、径31~42cm、深さ18~21cmである。**覆土** 6層からなる。基本的に自然堆積土層(第1, 3, 5, 6層)であるが、第2, 4層は間層で、ロームブロックを均質に含む人為的な堆積土層である。

**遺物** ほとんどが覆土中から出土している。第10図-1の壺口縁はP<sub>1</sub>近くの床面直上からの出土であるが、平安時代の井戸(第1号井戸)と接しているため、井戸の覆土中への二次的混入の



D 22.5m



(SI-4貯蔵穴 土層解説)

- 1 暗褐色 焼土小ブロック極少量。
- 2 暗褐色 やわらかいローム土。
- 3 暗褐色 暗褐色土。
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 暗褐色土ブロック。

(SI-4間仕切り溝 土層解説)

- 1 暗褐色 やわらかい暗褐色土。
- 2 暗褐色 やわらかいローム土。
- 3 褐色 ローム小ブロック少量, しまりあり。

(SI-4 土層解説)

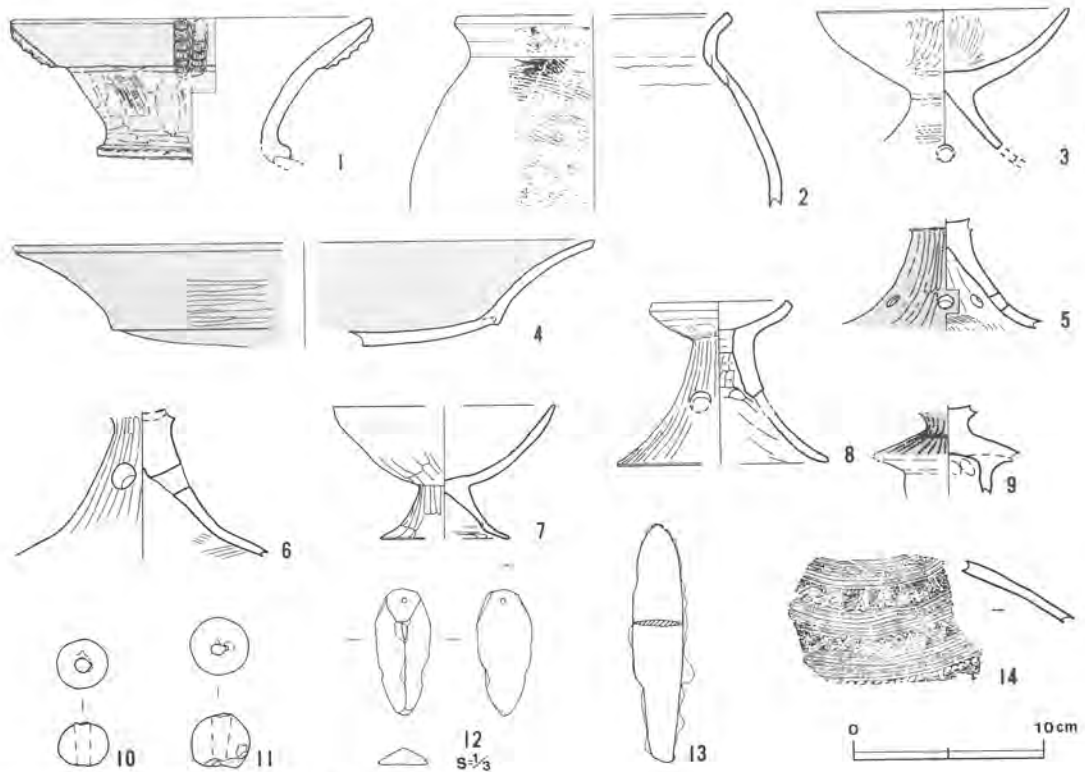
- 1 暗褐色 ローム粒子少量。
- 2 暗褐色 ロームブロック多量。
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, ローム小ブロック。
- 4 暗褐色 ロームブロック, 暗褐色土ブロック。
- 5 暗褐色 やわらかい暗褐色土。
- 6 褐色 壁際ローム崩落土。



第9図 第4号住居跡実測図

可能性がある。3の高坏は南東壁寄りの第4層中から、4の大形の高坏片は南東壁寄りの第3層中からそれぞれ出土している。南東壁際の床近くの第5層中から鉄鍍状鉄製品が出土している。5の高坏と9の蓋形土器は貯蔵穴最下層の自然堆積土層中からの出土である。その他にも縄文式土器片、弥生時代後期後半の在地系の土器片が出土している。

**所見** 本跡は、切り合い関係で古墳時代中期の第3号住居跡よりも古く、覆土中の土器の総体から見ると古墳時代前期でも前半代のもと考えられる。貯蔵穴出土の蓋形土器は北陸地方の弥生時代後期の月影式土器の破片である。その他にも外来系の土器小破片が見られる。



第10図 第4号住居跡出土遺物実測・拓影図

第4号住居跡出土遺物観察表

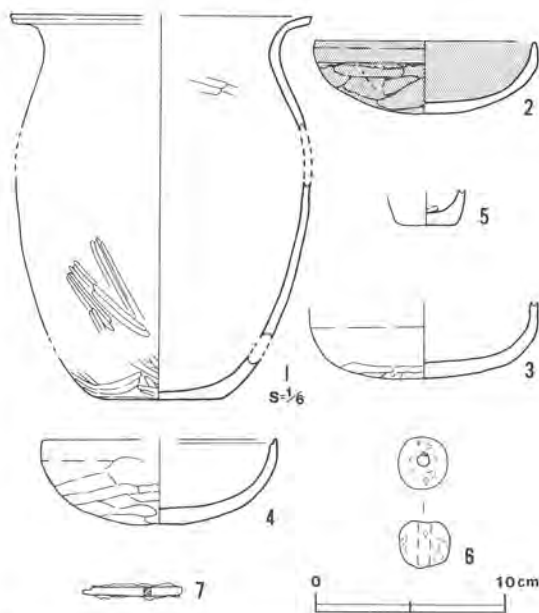
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第10図 1	壺 土師器	A 19.1 B (7.8)	頸部から口縁部にかけての破片。 頸部で強くくびれ口縁部は外反する。複合口縁で、2本1単位の棒状浮文を4単位付ける。	頸部外面削り後、縦方向ハケ目、最終調整横方向ミガキ後赤彩。頸部粘土紐貼り付け後刺突。	多量の黄白色微粒子・少量の砂粒・スコリア、褐色普通	P 2 5% 覆土最下層の床付近
2	甕 土師器	A [14.6] B (10.4)	底部破損。口縁部は単口縁で外反する。口縁端部に平坦面を持ち端部は断面三角。	体部外面ハケ目調整。内面横位のヘラナデ。	スコリア・白黄色微粒子に多い橙色、普通	P 22 15% 覆土
3	高坏 土師器	A 13.2 B (7.5)	脚裾部破損。坏部は内側して立ち上がる。脚部はラッパ状に広がる。脚部4穴穿孔。	坏部斜位のヘラ磨き。脚部横位のヘラ磨き。	砂粒・長石・石英多量、橙色普通	P 3 70% 覆土(3層)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第10図 4	高土師器 坏	A [28.0] B (4.1)	大形高坏の坏部破片。口縁部は平坦な坏部から段を持ち、外反して立ち上がる。	坏部内外面横位のヘラ磨き後、赤彩。	砂粒(長石・石英) スコリア 明赤褐色、普通	P 4 10% 覆土(3層)
5	高土師器 坏	B (5.9)	脚部破片。脚部はラッパ状に開く。脚部6穴穿孔。	脚部外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒(長石・石英) スコリア にふい橙色、普通	P 5 30% 覆土
6	高土師器 坏	B (7.9)	脚部破片。脚部はラッパ状に開く。脚部3穴穿孔。	脚部外面ヘラ磨き。	微砂粒・スコリア にふい橙色 普通	P 44 30% 覆土
7	高土師器 坏	A [11.8] B 7.1 C [6.8]	脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がる。	外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	白黄色微砂粒 にふい黄橙色 普通	P 58 30% 覆土(3層)
8	土師器 台器	A 6.9 B 8.6 C [11.1]	脚部はラッパ状に開く。受部は内彎気味に立ち上がる。端部に平坦面を持つ。	外面ヘラ磨き。	石英主体の砂粒 浅黄橙色 普通	P 61 60% 覆土
9	蓋	B (4.9) F (2.4)	各部位の端部破損。中央が浅くくぼんだつまみがつき、内面には下方に延びたかえりがつく。	外面ヘラ磨き、赤彩。内面横ナデ。	長石・石英・雲母 にふい橙色 普通	P 6 45% 覆土

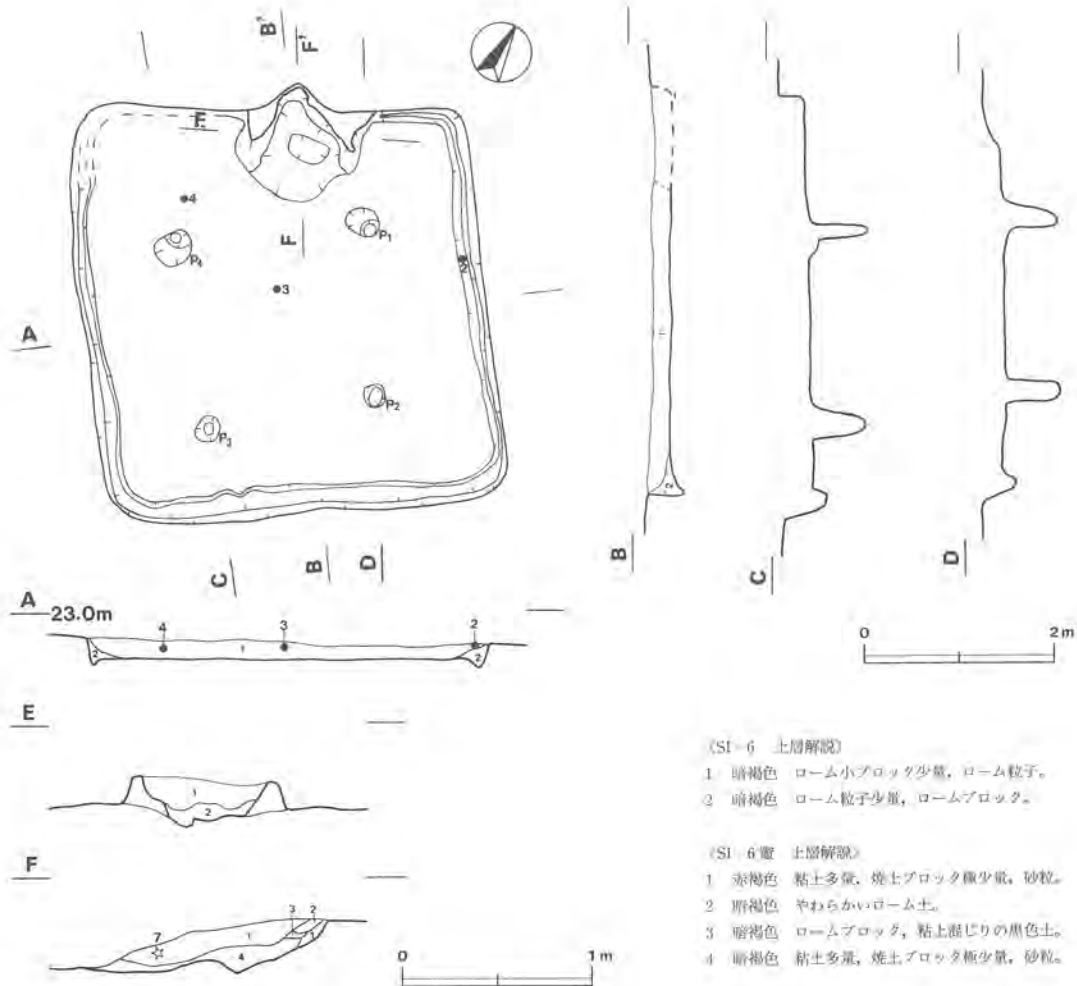
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	土玉	2.3	2.7	—	13.9	3区覆土	DP 1 孔径0.7~0.8 100%
11	土玉	2.4	3.1	—	23.9	覆土	DP 2 孔径0.7~0.9 80%
12	石製模造品	(5.1)	2.1	0.6	8.7	覆土4区2層	Q 2 滑石 95%
13	鉄状鉄製品	12.8	2.7	0.2	26.3	東壁直下床面	M 1

### 第6号住居跡(第12図)

位置 A3i<sub>2</sub>区 規模と平面形 長軸4.34m, 短軸4.20mの方形。主軸方向 N-31°-W 壁 壁高36~42cmで、垂直に立ち上がっている。壁溝 壁直下の床面を浅く掘り窪め、断面形はU字状である。上幅12cm, 深さ14cmで、全周している。床 平坦で、踏み固められている。ピット 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径52~62cm, 深さ53~62cmで、いずれも支柱穴である。P<sub>5</sub>は、径38cm, 深さ25cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。竈 北壁中央部からやや東寄りの位置を68cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、長さ160cm, 幅166cmである。



第11図 第6号住居跡出土遺物実測図



《SI-6 土層解説》

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子。
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ロームブロック。

《SI-6 竈 土層解説》

- 1 赤褐色 粘土多量, 焼土ブロック極少量, 砂粒。
- 2 暗褐色 やわらかいローム土。
- 3 暗褐色 ロームブロック, 粘土湿じりの黒色土。
- 4 暗褐色 粘土多量, 焼土ブロック極少量, 砂粒。

第12図 第6号住居跡実測図

袖部は良く残っており、両袖とも基底部の幅は45cmを測る。火床部はほぼ平らで焼土化している。煙道部は焚口部から緩やかに外傾して立ち上がる。覆土 2層からなる自然堆積土層である。遺物 ほとんどの遺物は、覆土中からの出土である。第11図2・3の坏は、第1層中から出土している。1の甕は竈覆土上層から出土している。

所見 本跡は、覆土中の遺物は投棄と考えられるが、ある程度時期的なまとまりを持っているようであり、7世紀前半代の住居跡と考えられる。

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 1	甕 土師器	A [24.0] C 10.2	平底。体部中位に最大径を持ち、頸部から口縁部にかけて丸みを持って外反する。	体部外面中位以下斜位のヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母、浅黄褐色 普通	P 8 20% 竈覆土



図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第11図 2	坏 土 師 器	A 11.8 B 3.9	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は垂直に立ち上がる。	底部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア・雲母、黒褐色普通	P 9 95% 2区覆土
3	坏 土 師 器	A [12.0] B [4.3]	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は垂直に立ち上がる。	底部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英 橙色 普通	P10 70%
4	坏 土 師 器	A [12.0] B 4.6	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁端部に沈線を持つ。	底部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P11 40%
5	ミニチュア 土 器 土 師 器	A [4.0] B (1.9) C 2.7	底部破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	外面でいねいなナデ。内面指頭痕。	長石 橙色 普通	P12 50% 覆土

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 位 置	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	土 玉	2.5	2.6	—	17.2	2区覆土	DP 3 孔径0.6 100%
7	長 茎 鉢	(5.3)	0.6	0.3	(4.2)	壺覆土1層	M 3 長茎鉢の頸部か?

### 第7号住居跡 (第13図)

**位置** A3a<sub>1</sub>区 **規模と平面形** 長軸6.00mで、西側2分の1は調査区外に延びる。

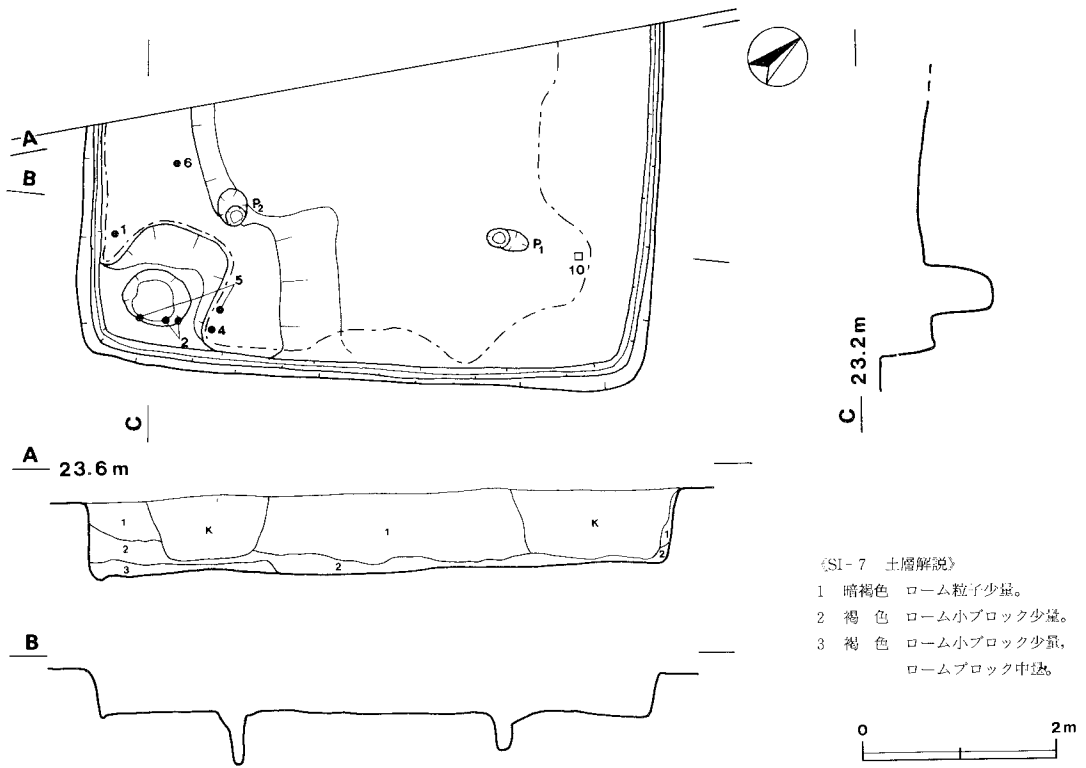
**主軸方向** N-47°-W **壁** 壁高48~54cmで、垂直に立ち上がっている。**床** 平坦で、踏み固められている。貯蔵穴周囲の床がやや高く、特に固い。**ピット** 2か所。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は、径22~30cm、深さ38~60cmで、いずれも支柱穴である。**貯蔵穴** 南コーナーにあり、長さ70cm、幅56cmの方形で、深さ50cmである。**覆土** 3層からなる。最下層の第3層は北壁を故意にくずし、床上に敷きならした状況でロームブロック主体である。第2層もロームブロックの含有が目立ち、人為的堆積の可能性がある。上層の第1層は自然堆積土層と考えられる。

**遺物** 遺物は、主に北コーナー付近と南コーナー付近の床面上から出土している。第14図4の高坏は貯蔵穴脇の南東壁際から、5の高坏は貯蔵穴覆土上層から貯蔵穴の脇にかけて、7・8の埴は北東壁寄りから、1の土師器の甕は南西壁直下から、2の土師器甕は貯蔵穴覆土上層からそれぞれ出土している。

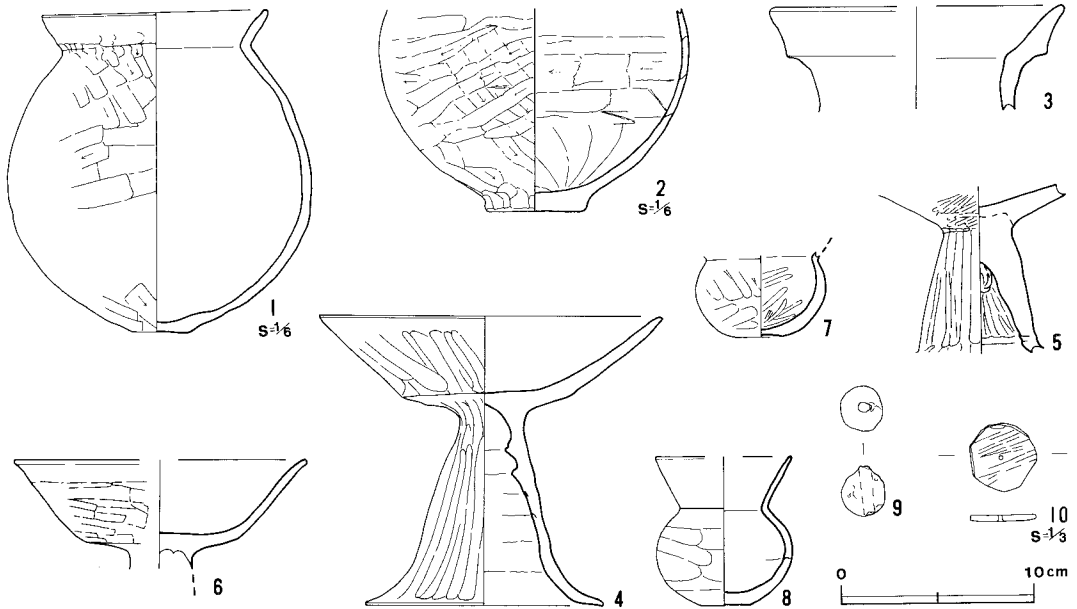
**所見** 本跡は、床面上に残った遺物から、古墳時代中期の住居跡と考えられる。

### 第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第14図 1	甕 土 師 器	A 18.1 B 25.8 C 4.3	平底。体部中位やや下に最大径を持ち、頸部は「く」字状に外反する。	体部外面斜位のヘラケズリ。内面でいねいな横位のヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母、褐灰色普通	P13 95% 覆土
2	甕 土 師 器	B (16.3) C 7.8	厚みのある平底。体部は球形状で中位に最大径を持つ。	体部斜位のヘラ削り後でいねいな斜位のナデ。	砂粒・雲母・スコリア、にぶい赤褐色普通	P14 30%



第13図 第7号住居跡実測図



第14図 第7号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第14図 3	壺 土 師 器	A [15.0] B (5.6)	口縁部破片。口縁部は複合口縁で外反して開く。内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英多量、外面灰褐色普通	P15 覆土 10%
4	高 坏 土 師 器	A 18.1 B 10.1 C (12.5)	脚部はラッパ状で、裾部でさらに広がる。坏部は下位に稜を持ち、外傾して立ち上がる。	脚部外面から坏部内外面へラ磨き。脚部内面下位へラ削り、裾部内面ナデ。	長石・石英・スコリア、明赤褐色普通	P16 覆土 70%
5	高 坏 土 師 器	B (8.9) E (6.8)	脚部から坏部下位にかけての破片。脚部は筒状で、裾部で広がる。坏部は外傾気味に立ち上がる。	脚部外面から坏部内外面へラ磨き。脚部内面下位へラ削り。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P17 覆土 50%
6	高 坏 土 師 器	A [15.6] B (5.5)	口縁部破片。口縁部は外面に稜を持って外傾して立ち上がる。	坏部外面へラ削り。内面へラ磨き。	砂粒・長石・スコリア、黄褐色普通	P18 覆土 20%
7	埴 土 師 器	A [6.1] B (4.3)	体部破片。底部はややくぼんだ平底で、体部は球形状。	体部内・外面へラナデ。	長石・石英にぶい黄褐色普通	P19 覆土 50%
8	埴 土 師 器	A [7.3] B [6.0] C 2.8	平底。体部は球形状で、口縁部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面及び口縁部内・外面磨きに近いていねいなナデ。	長石にぶい橙色普通	P20 覆土 40%

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 位 置	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
9	土 玉	2.7	2.2	—	12.3	覆土	DP 4 孔径0.6~0.7 98%
10	石製模造品	2.6	—	0.3	3.3	床面	Q 5 滑石 100%

### 第9号住居跡 (第15図)

**位置** B3c<sub>2</sub>区 **規模と平面形** 長軸3.66m, 短軸3.54mの方形。 **主軸方向** N-36°-W

**壁** 壁高52~58cmで、垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦で、踏み固められている。

**ピット** 1か所。P<sub>1</sub>は、径約16cm、深さ約44cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

**竈** 北西壁中央部を62cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、長さ134cm、幅96cmである。火床部はほぼ平坦で、煙道部は燃焼部奥壁から外傾して立ち上がっている。

**覆土** 5層からなる。1・2層はロームブロックの混入状況から人為的堆積土層と考えられる。

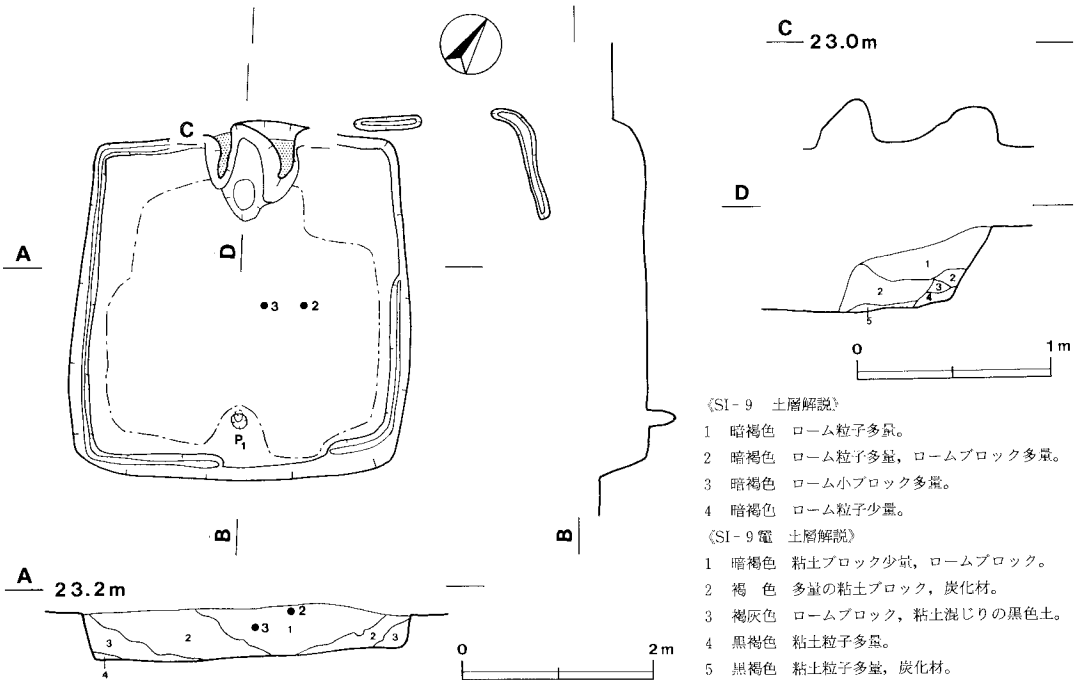
覆土中の遺物の大半が1・2層中からの出土である。下層の3・4・5層は自然堆積土層である。

**遺物** 第16図2の坏と3の甕は、1層中から破片で出土している。1層中からはその他に小形の坏が出土しており、23号住居跡の10の坏と接合した。

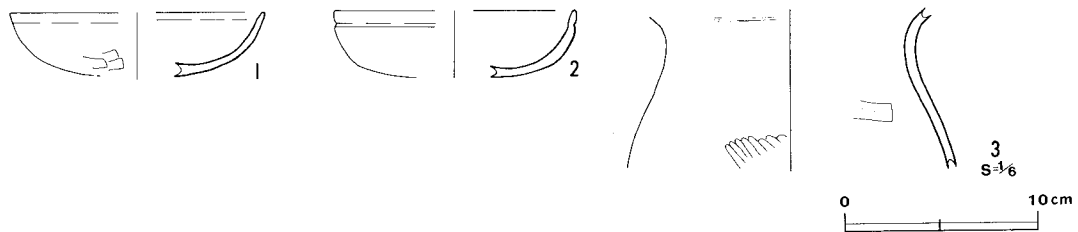
**所見** 本跡は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代後期の7世紀代の住居跡と考えられる。

### 第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第16図 1	坏 土 師 器	A [13.4] B (3.4)	丸底。底体部は内彎気味に立ち上る。	底体部へラ削り。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P23 覆土 20%



第15図 第8・9号住居跡実測図

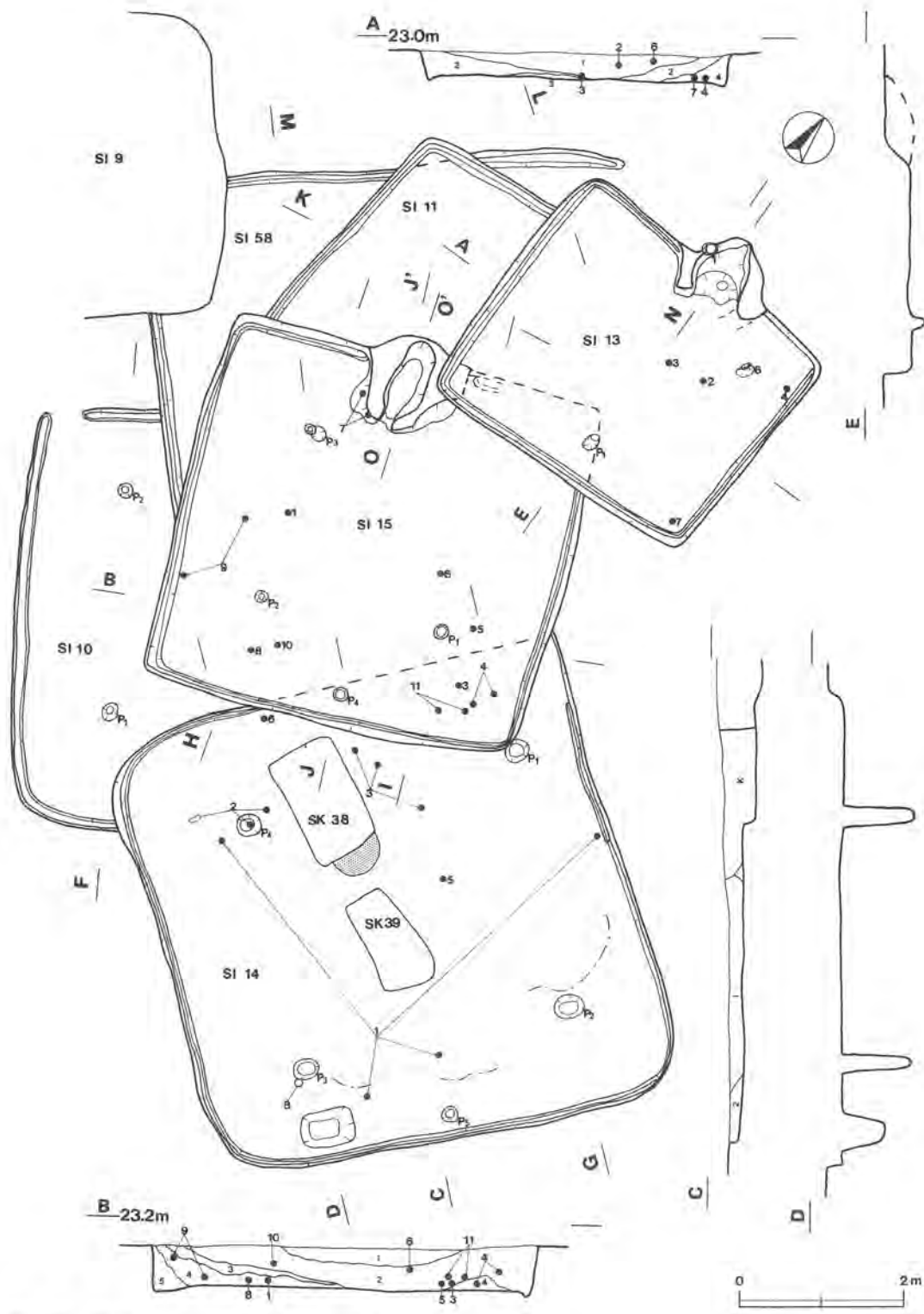


第16図 第9号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第16図 2	坏 土師器	A [12.6] B (3.6)	丸底。底体部は内彎気味に立ち上り，口縁部との境に沈線を持つ。	底体部へら削り。	砂粒 橙色 普通	P24 15% 覆土(3層)
3	甕 土師器	B (12.9)	体上半部破片。口縁部はゆるやかに外反する。	体部下半部斜位のへら磨き。	砂粒・石英 橙色 普通	P21 5% 覆土(3層)

第14号住居跡 (第17・18図)

位置 B3d<sub>4</sub>区 規模と平面形 長軸5.80m，短軸5.68mの方形。 主軸方向 N-49°-W  
 壁 壁高10~18cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。 壁溝 北東コーナー部に幅10cmで，長さ90cmのみ認められ，断面形は浅いU字状である。 床 平坦で，踏み固められている。



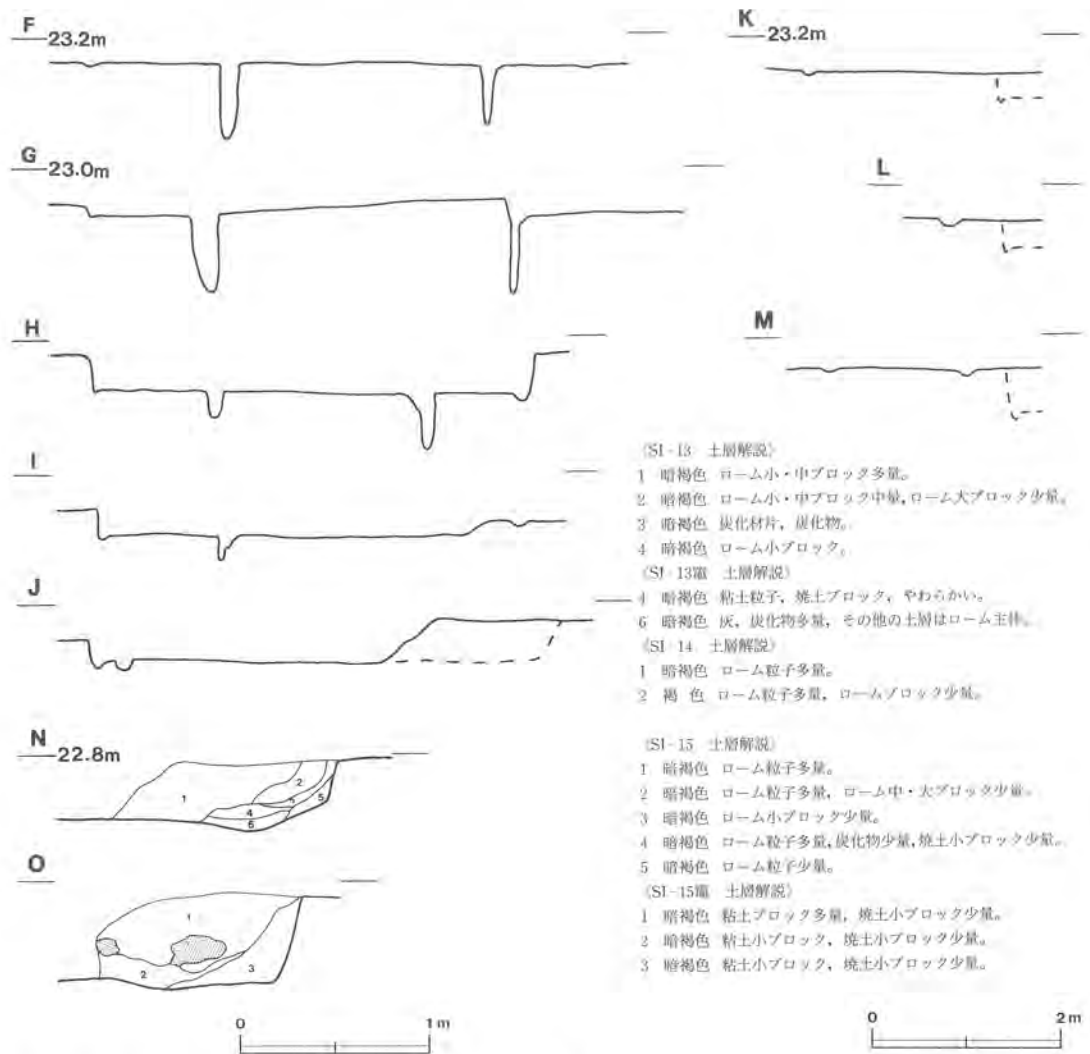
第17图 第10・11・13・14・15・58号住居跡実測图(1)

**ピット** 5か所。P<sub>1</sub>からP<sub>5</sub>は、径24~30cm、深さ80~87cmで主柱穴と考えられる。P<sub>3</sub>は径20cm、深さ約10cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。**炉** 中央部からやや西寄りの位置に見られる。長径72cm、短径60cmの地床炉である。**貯蔵穴** 南東コーナーからP<sub>3</sub>に約1m寄った位置にあり、長さ65cm、幅45cmの長方形で、深さ52cmである。

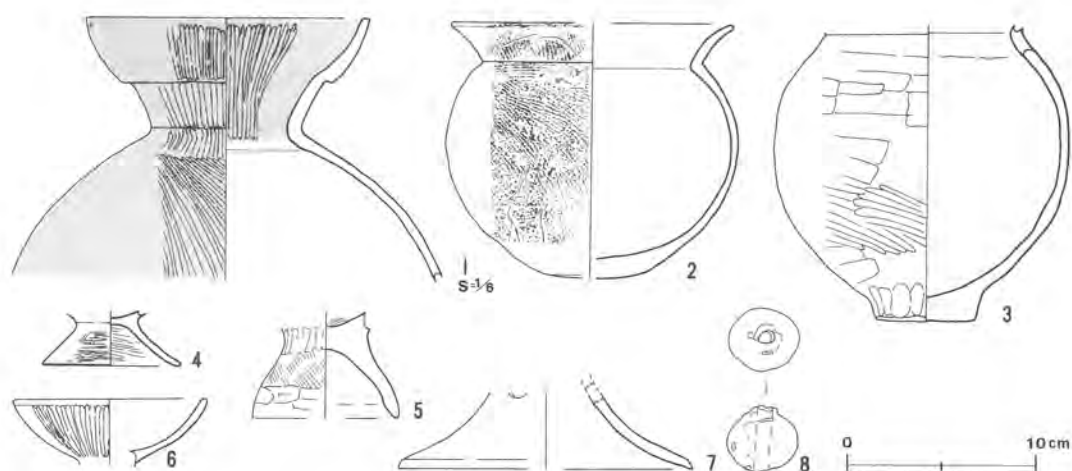
**覆土** 2層からなる。ローム粒子やローム小ブロックが多く、ロームを主体としている。

**遺物** 遺物のほとんどは、覆土中から破片で出土している。各遺物が覆土中に広く分散しており、投げ棄てられたような状況がみられる。

**所見** 本跡は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期の住居跡と考えられる。



第18図 第10・11・13・14・15・58号住居跡実測図(2)



第19図 第14号住居跡出土遺物実測図

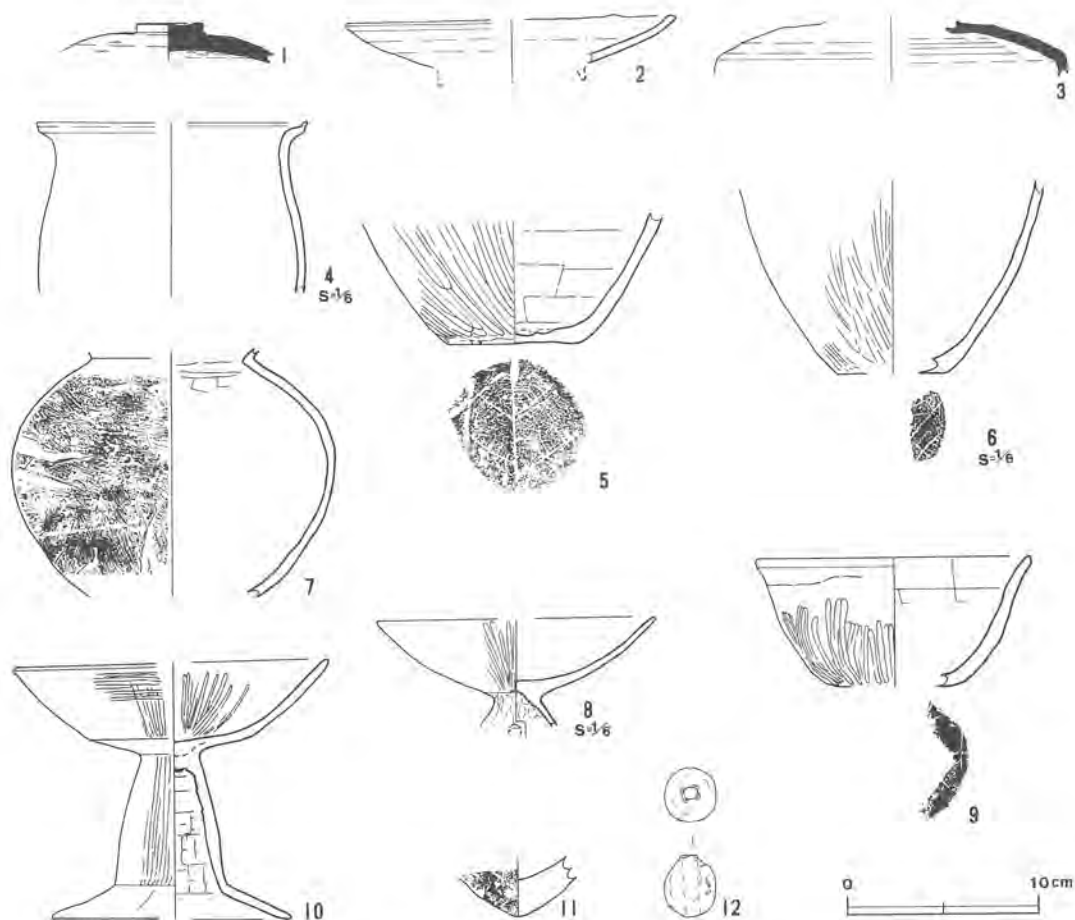
第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第19図 1	壺 土師器	A 22.5 B (21.1)	体下半部欠損。体部中位に最大径を持つ。口縁部は複合口縁で内彎気味に開く。	体部から口縁部にかけてヘラ磨き、及び赤彩。	砂粒・長石・石英・スコリア、赤褐色 普通	P33 覆土 30%
2	壺 土師器	A [15.0] B 13.6 C [4.8]	平底。体部は球形状で、頸部は「く」の字状に外反する。	底部ヘラ削り。体部外面から口縁部内面にかけてハケ目調整。体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・スコリア、にぶい赤褐色 普通	P34 覆土 50%
3	壺 土師器	B (15.8) C 5.3	口縁部破損。平底。体部は球形状で体部中位に最大径を持つ。	体部外面水平に近い斜向のヘラ磨き。体部内面ていねいな磨き。	砂粒・長石・スコリア多量、褐灰色 普通	P35 覆土 30%
4	ミニチュア 台付壺 土師器	B (3.0) D 7.3	脚部破片。脚部はラッパ状にゆるやかに開く。	脚部外面細かな横位のヘラ磨き。脚部内面ハケ調整。	砂粒・スコリアにぶい赤褐色 普通	P36 覆土 10%
5	ミニチュア 台付壺 土師器	B (5.7) D [7.8]	脚部破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部ハケ目調整後裾部ヘラ削り。脚部内面ナデ調整後下端ヘラ削り。	長石・石英 褐色 普通	P37 覆土 5%
6	高 土師器 土師器	A 10.3 B (3.5)	坏部破片。坏部は内彎気味に立ち上がる。	坏部内・外面ヘラ磨き。	長石・石英・スコリア、褐色 普通	P38 覆土 15%
7	高 土師器 土師器	B (6.1) C [15.8]	脚部破片。脚部はラッパ状にゆるやかに開く。	脚部外面ヘラナデ、内面ハケ調整。	砂粒・長石・石英 浅黄褐色 普通	P39 覆土 5%

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	土玉	3.5	3.7	—	30.2	南東コーナー寄り床面	DP 5 孔径0.7~0.9 100%

第15号住居跡 (第17・18図)

位置 B3c区 規模と平面形 長軸4.82m, 短軸4.62mの方形。 主軸方向 N-22°-W  
 壁 壁高15~48cmで, 垂直に立ち上がっている。 壁溝 壁直下の床面を深さ10cm程掘り窪め,  
 全周している。 床 平坦で, 踏み固められている。 ピット 4か所。P<sub>1</sub>~P<sub>3</sub>は, 径14~20  
 cm, 深さ30~60cmで支柱穴と考えられる。P<sub>4</sub>は径18cm, 深さ12cmで出入口施設に伴うピットと  
 考えられる。支柱穴は3か所しか確認できなかった。 竈 北西壁中央部を23cm程壁外へ掘り込  
 み, 砂粒を含むにぶい褐色粘土で構築されている。規模は, 幅130cm, 長さ120cmである。竈に向  
 かって右側の袖の一部が13号住居跡によって壊されている。火床部は8cm程掘り窪められ, 煙道  
 部は奥壁から外傾して立ち上がっている。 覆土 6層からなる。床上に薄く堆積する5層は炭  
 化物を多量に含んでいる。4層も炭化物や焼土粒子を含んで広く床を覆っている。2~4層は小  
 ~大のロームブロックを含み人為的な堆積土層と考えられ, 間層となる3層をはさんで堆積して  
 いる。1・6層は自然堆積土層である。遺物の大半は2~4層から出土している。



第20図 第15号住居跡出土遺物実測図



**遺物** 実測遺物はすべて、覆土の2～4層から出土したものである。第20図8・9・10・11は古墳時代中期の遺物であり、住居跡南半部覆土中から出土している。覆土中の遺物の中で最も時期の新しいものは2の灰釉陶器で平安時代のものであるが、これらは細片で極わずかな量であることから攪乱等で覆土堆積後に入ったものと考えられる。他に出土している破片等から見ると1の須恵器の蓋や3の須恵器の広口壺が住居廃絶の時期前後を示す遺物と考えられる。

**所見** 本跡は、床から覆土下層にかけての炭化物の混入状況から焼失住居と思われる。古墳時代中期の住居跡や平安時代の住居跡との切り合関係、近接する7世紀代の住居跡との主軸方向や規模、竈の形態や出土遺物等から7世紀後半から8世紀前半代の時期の住居跡と考えられる。

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 1	蓋 須恵器	B (2.1) F 3.5 G 0.6	口縁部欠損。天井部から緩やかに口縁部に到る。中央がやや突出した扁平なつまみがつく。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P40 40% 覆土(4層)
2	皿 灰釉陶器	A [17.4] B (2.4)	口縁部破片。体部は緩やかに外傾して開く。	口縁部内・外面横ナデ。灰釉ハケがけ。	緻密 淡黄色 良好	P41 5% 4区覆土
3	広口壺 須恵器	B (2.9)	肩部破片。肩に明瞭な張りを持つ。	肩部内・外面横ナデ。	黒色微粒子 明オリブ灰色 普通	P42 5% 覆土(2層)
4	甕 土師器	A [24.0] B (10.9)	口縁部破片。口縁部は外反し、口唇部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 明黄褐色 普通	P43 5% 覆土(2・4層)
5	甕 土師器	B (6.8) C 7.0	底部破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	底部木葉痕。体部外面斜位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P45 15% 覆土(2層)
6	甕 土師器	B (15.3) C [8.2]	体部破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	底部木葉痕。体部外面斜位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P46 5% 覆土(2層)
7	小形甕 土師器	B (12.8)	体部破片。体部中位よりやや上に最大径を持つ。	体部外面ハケ目調整。内面ヘラナデ。	石英・長石微粒子 多量, 黄褐色 普通	P47 30% 覆土(4層)
8	高坏 土師器	A [22.0] B (8.7)	坏部破片。脚部はラッパ状にゆるやかに開く。坏部は内彎気味に開く。	坏部内・外面ヘラ磨き。	砂粒極少量 にぶい黄褐色 普通	P48 20% 覆土(4層)
9	鉢 土師器	A 14.7 B 6.9 C 6.4	底部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部でわずかに開く。	底部木葉痕。体部外面ヘラ磨き。内面横ナデ。	長石・石英多量 にぶい橙色 普通	P49 85% 覆土(2層)
10	高坏 土師器	A [16.8] B 13.8 D [12.8]	脚部は内筒状で、裾部で大きく開く。坏部は外面下方に稜を持ち、内彎気味に立ち上がる。	脚部外面縦方向ヘラ磨き。坏部内外面縦方向ヘラ磨き。脚部内面横方向のヘラ削り。	長石・石英多量 橙色 普通	P50 60% 覆土(2層)
11	縄文式土器	B (3.2)	尖底土器底部破片。		長石砂粒・繊維 橙色 普通	P51 5% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
12	土玉	3.3	2.7	—	23.0	覆土	DP 6 孔径0.8 100%

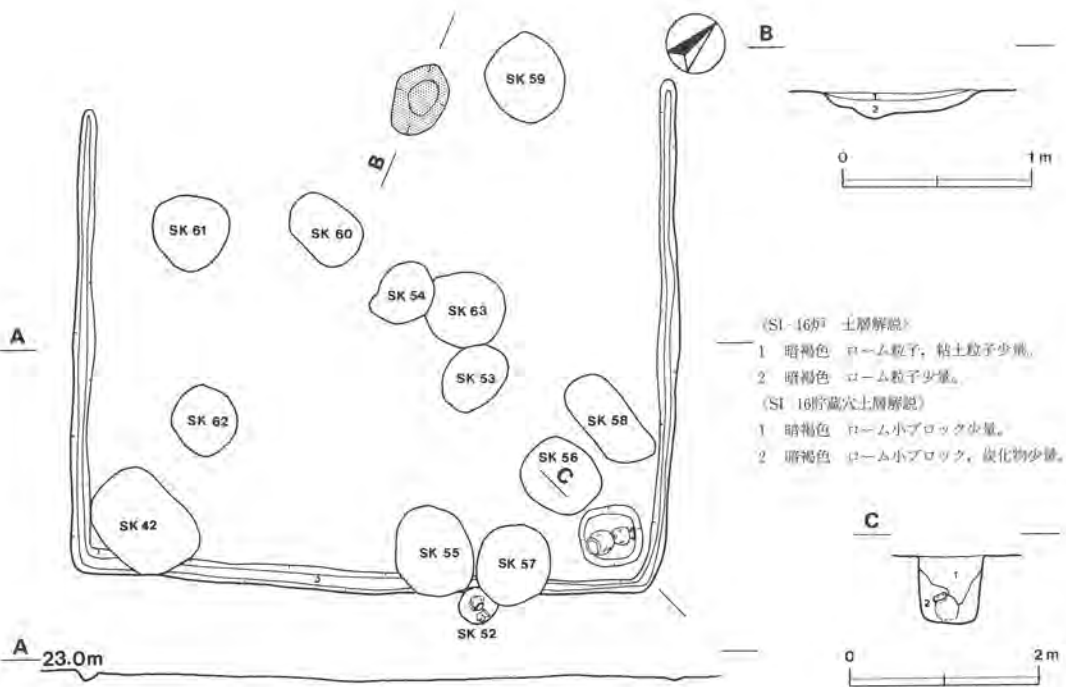
### 第16号住居跡 (第21図)

**位置** B3f区 **規模と平面形** 長軸6.40m, 短軸5.42mの長方形。 **主軸方向** N-44°-W

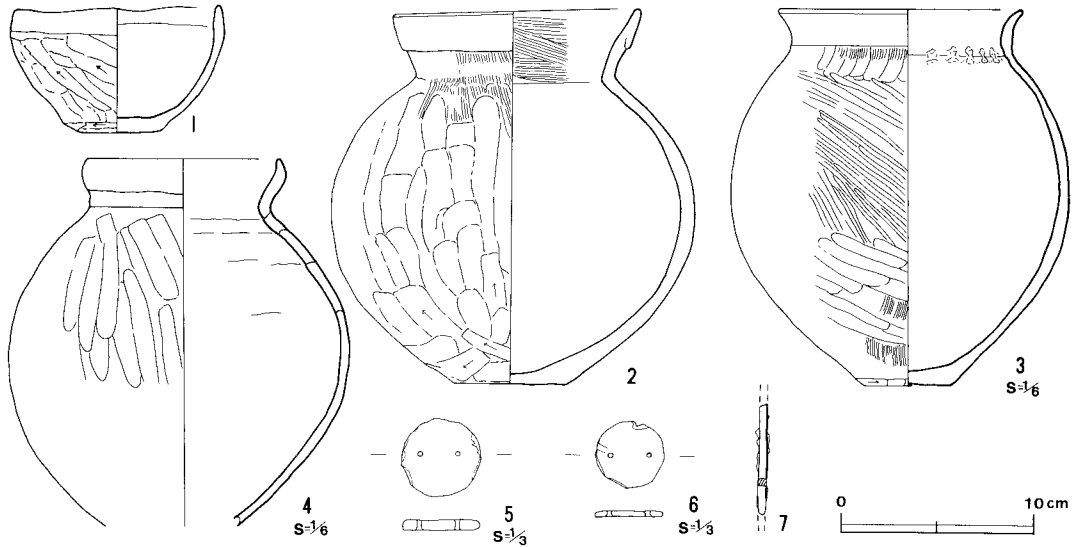
**壁** 壁高約4cmで、垂直に立ち上がっている。 **壁溝** 確認面から深さ10cm程掘り窪め、断面形はU字状である。 **炉** 中央部からやや西よりの位置に見られる。長径82cm, 短径58cmの地床炉である。 **床** 土坑群や耕作による攪乱等のため、硬化面は確認できず床下の掘り方も流失した部分が多い。 **貯蔵穴** 東コーナー部から確認されている。一辺約65cmの方形で、深さ65cmである。 **覆土** 耕作土である。

**遺物** 貯蔵穴中から第22図-2と4の甕が出土している。1の鉢と3の甕は調査前の試掘調査で出土したものである。

**所見** 本跡は、出土遺物から古墳時代前期の住居跡と考えられる。



第21図 第16号住居跡実測図



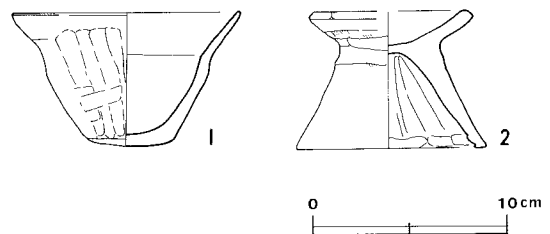
第22図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表

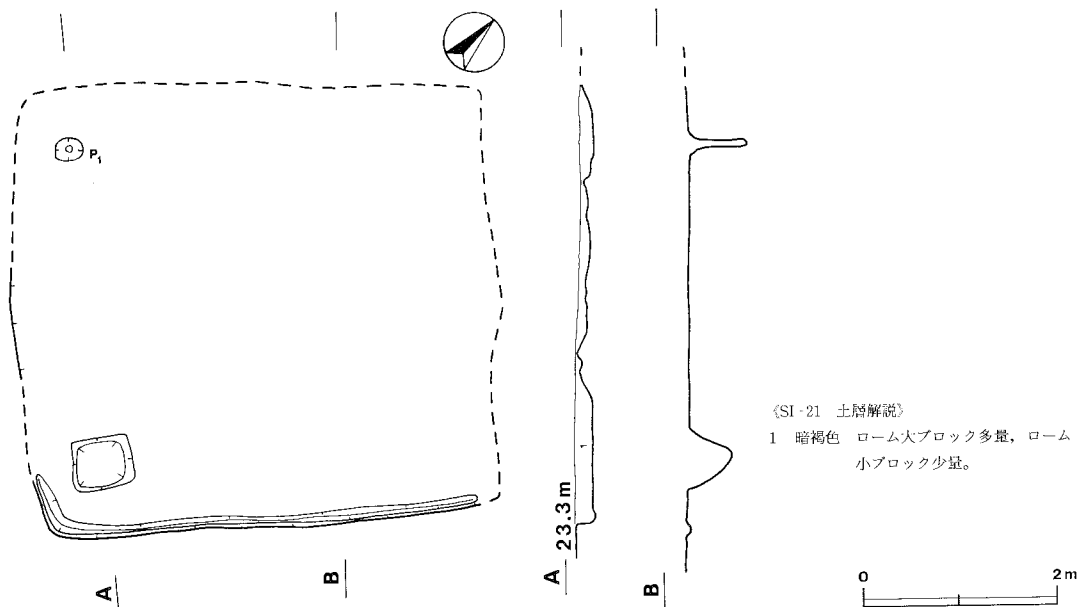
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 1	鉢 土師器	A 10.8 B 6.8 C 3.8	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部から体部にかけてヘラ削り。口縁部内・外面及び体部内面ナデ。成形・調整ともに粗い。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P52 70% 覆土
2	甕 土師器	A 12.8 B 20.1 C 5.8	平底。体部は球形状で、頸部は「く」の字状に外反する。口縁部は複合口縁。	底部から体部外面にかけてヘラ削り。頸部と口縁部内面はハケ目調整。口縁部外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・ スコリア、橙色 普通	P54 98% 貯蔵穴
3	甕 土師器	B (15.8) C 5.3	平底。体部中位に最大径を持つ。	体部縦ハケ目調整後上半部斜位の磨き、下半部磨き状の幅広いナデ。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 明黄褐色 普通	P5 95% 覆土
4	甕 土師器	A 15.4 B (29.5)	底部欠損。体部中上位に最大径を持つ。口縁部は一部複合口縁状で強く内彎する。	口縁部下端にハケ目痕あり。体部外面磨き状の斜位のナデ。全体にやや雑な外面調整。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P56 70% 貯蔵穴

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	石製模造品	3.1	—	0.4	7.1	覆土	Q6 滑石 100%
6	石製模造品	2.7	—	0.2	3.2	覆土	Q7 滑石 100%
7	不明鉄製品	(6.0)	0.6	0.4	4.9	床	M4

第21号住居跡 (第24図)



第23図 第21号住居跡出土遺物実測図



〈SI-21 土層解説〉

- 1 暗褐色 ローム大ブロック多量、ローム小ブロック少量。

第24図 第21号住居跡実測図

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 1	小形鉢 土師器	A 12.2 B 7.2 C 4.7	平底。体部は外傾し口縁部付近でさらに開く。	体部外面横位のへら磨き。口縁部内・外面及び体部内面ナデ。	砂粒・長石 橙色 普通	P96 80% 貯蔵穴覆土
2	器台 土師器	A [7.7] B 7.3 D 9.8	脚部は「ハ」の字状に開き、器受部は内彎気味に立ち上がる。	脚部外面ハケ目整形後ナデ及び脚部内面指ナデ。受部内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア におい橙色、普通	P97 80% 床面 二次焼成 受端部器 擦れ

### 第22号住居跡（第25図）

**位置** B3f<sub>1</sub>区 **規模と平面形** 長軸3.36m，短軸3.00mの長方形。 **主軸方向** N-47°-W

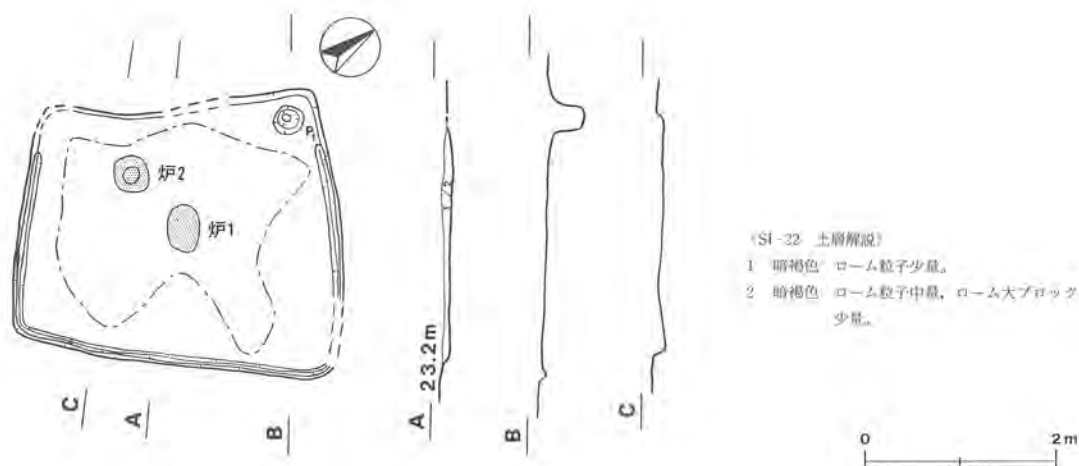
**壁** 壁高6～12cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦で，踏み固められている。

**ピット** 1か所。径31cm，深さ39cmである。 **炉** 2か所。炉1は住居跡中央部で，長径51cm，短径36cm，炉2はやや北寄りの位置に見られ，長径40cm，短径36cmの地床炉である。

**覆土** 2層からなる。1層は表土と同じ耕作土層である。覆土としてはロームの大ブロックを含む2層が主体となる。

**遺物** 覆土が浅いため遺構と遺物との関係がやや不明瞭であるが，第26図-1の坑と3の罫はほぼ完形で床上から出土している。

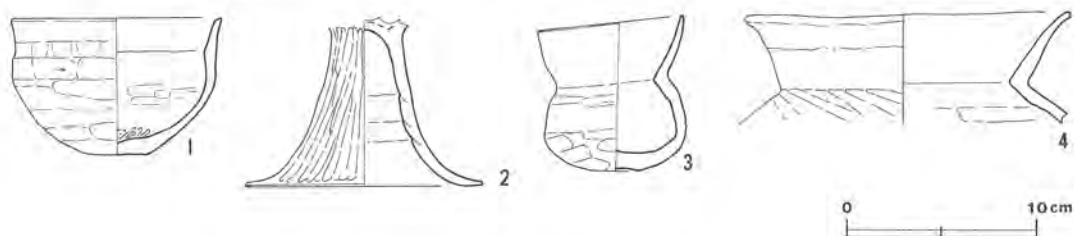
**所見** 本跡は，出土遺物から古墳時代中期の住居跡と考えられる。



〔SI-22 土層解説〕

- 1 暗褐色 ローム粒子少量。
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム大ブロック少量。

第25図 第22号住居跡実測図



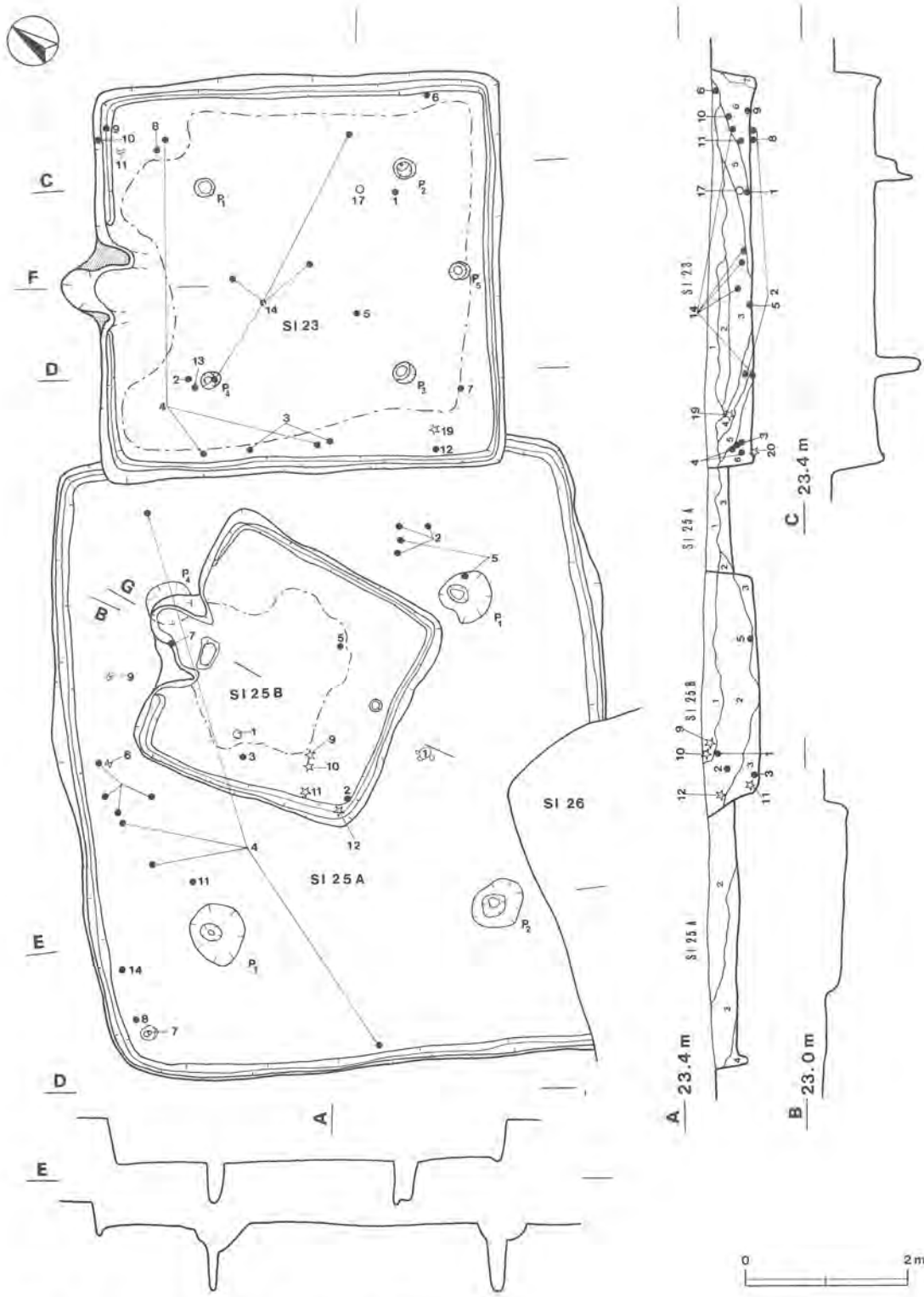
第26図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 1	埵 土師器	A 11.0 B 7.3 C 3.5	平底。体部は内彎して立ち上がり口縁部は内面に稜を持ち、わずかに外反気味に開く。	底部から体部にかけてヘラ割り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P100 98% 床面
2	高 土師器	B (8.9) C [12.6]	脚部破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面弱いヘラ磨き。内面ていねいなナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P101 30% 覆土
3	埴 土師器	A 7.5 B 8.4 C 2.5	平底。体部下位に最大径を持つ。口縁部はわずかに内彎気味外傾する。	体部外面横位のヘラ削り整形。口縁部内面横ナデ。その他器壁面荒れのため調整痕不明瞭。	長石・石英 橙色 普通	P102 80% 床面
4	壺 土師器	A 17.0 B (6.0)	口縁部破片。口縁部は「く」の字状に外反する。	体上部幅広のヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P104 20% 覆土

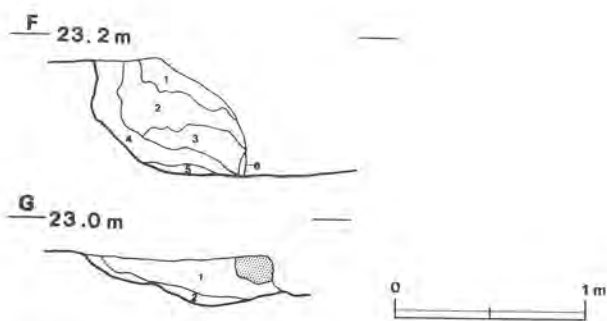
第23号住居跡 (第27・28図)

位置 B2d<sub>0</sub>区 規模と平面形 長軸5.00m，短軸5.00mの方形。主軸方向 N-35°-W  
 壁 壁高48~60cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝 幅10cm，深さ7cmで，竈部分と東壁からやや南寄りの部分を除き，巡っている。床 平坦で，踏み固められている。ピット 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>は，径22~26cm，深さ46~52cmで，いずれも支柱穴である。P<sub>5</sub>は，径24cm，深さ35cmで，



第27图 第23・25A・25B号住居跡实测图(1)

出入口施設に伴うピットと考えられる。竈 北壁中央部を52cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、幅104cm、長さ90cmである。火床部はほぼ平坦で、粘土と焼土粒子を含んだ黒色灰層が厚さ10cmほどに堆積している。煙道部は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土 6層からなる。1層は耕作土層である。2層は暗褐色の自然堆積土層である。3～5層は、ロームブロックを多く含む人為的な堆積土層である。6層は壁際に堆積しており、自然堆積土層と考えられる。1・2層が上層、3～5層が中層、6層が下層と大きく分けられる。遺物 出土遺物の大半は、中層の3～5層から出土している。実測できた遺物の中で下層出土のものは、第29図-3、4、8、9、10、11である。4の坏は6層上面と床上のものが接合しており、その付近の床上から出土した8の埴や9の坏もあわせて、下層出土遺物はすべて6層の堆積前後に廃棄されたものと考えられる。所見 覆土下層の遺物は、住居廃絶直後の投棄遺物と考えられる。これらの状況から、本住居跡の時期は、7世紀中葉頃と思われる。



〔SI-23 土層解説〕

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量。
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子極少量。
- 3 暗褐色 ローム大・中・小ブロック多量。
- 4 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子少量。
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量。
- 6 暗褐色 ローム粒子少量。
- 7 暗褐色 ローム粒子少量。

〔SI-23竈 土層解説〕

- 1 暗褐色 粘土ブロック、焼土ブロック極少量。
- 2 灰褐色 粘土ブロック。
- 3 暗褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック。
- 4 黒褐色 焼土ブロック多量、灰。
- 5 極暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土粒子。
- 6 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック少量。
- 7 暗赤褐色 粘土粒子少量、ローム粒子。

〔SI-25A 土層解説〕

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量。
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土ブロック極少量。
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量。
- 4 褐色 やわらかいローム。

〔SI-25B 土層解説〕

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量。
- 2 暗褐色 ローム粒子、焼土小ブロック、炭化物少量、砂粒。
- 3 暗褐色 ローム粒子、砂粒少量。

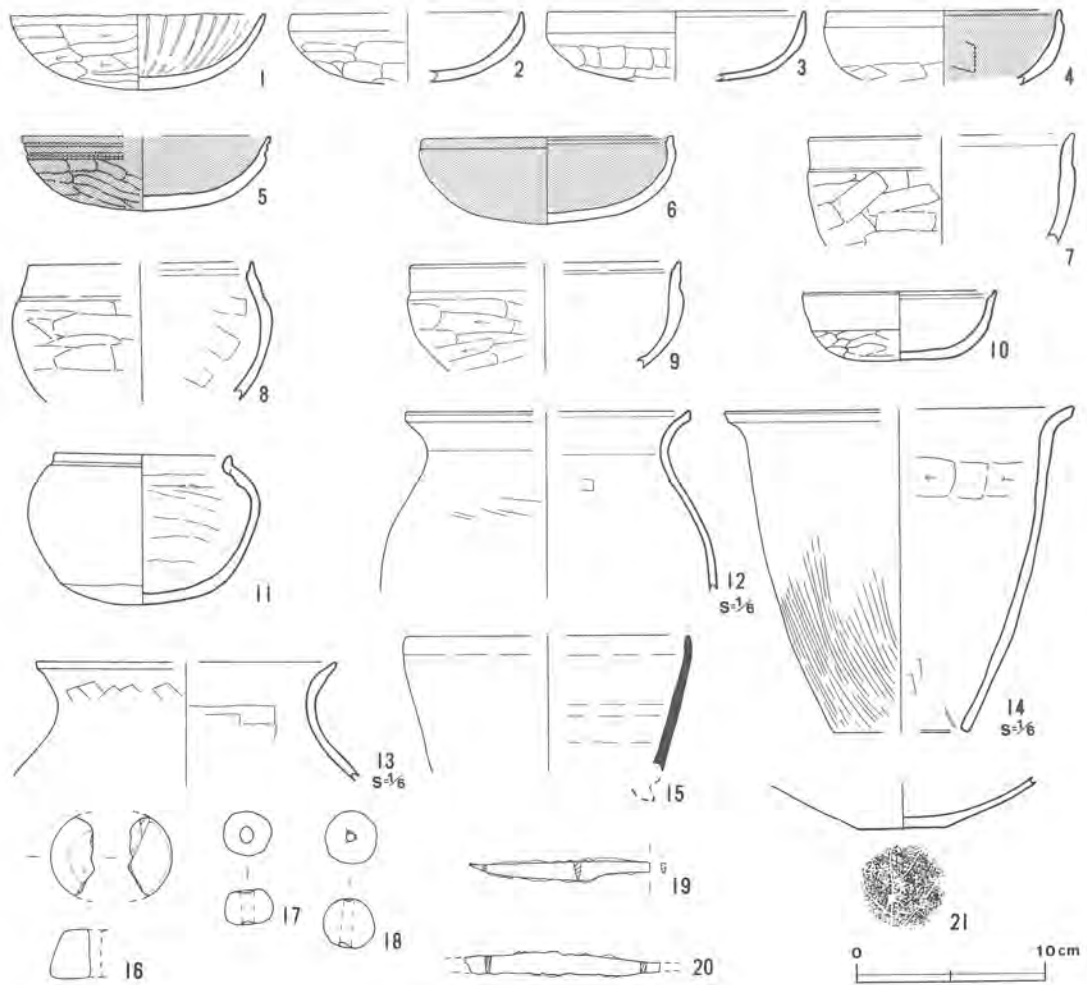
〔SI-25B竈 土層解説〕

- 1 暗赤褐色 ローム粒子、粘土小ブロック少量、焼土粒子少量。
- 2 暗赤褐色 粘土小ブロック少量、灰・炭化物中量、焼土小ブロック中量。

第28図 第23・25A・25B号住居跡実測図(2)

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 1	坏 土師器	A 13.2 B 4.0	丸底。底体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外上方に立ち上がる。	底体部へら削り。内面放射状の磨き。	石英多量・長石・雲母、にぶい橙色 普通	P105 70% 覆土(5層)
2	坏 土師器	A [12.2] B (3.7)	丸底。底体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。端部は垂直に立ち上がる。	底体部へら削り。	石英・スコリア 橙色 普通	P106 45% 覆土(4層)



第29図 第23号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色画・焼成	備考
第29図 3	坏 土師器	A 13.5 B 3.7	丸底。底体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。端部内面に沈線を持つ。	底体部へラ削り。	石英・雲母 褐灰色 普通	P107 70% 覆土(6層~床)
4	坏 土師器	A 12.2 B (4.0)	丸底。底体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。端部内面に沈線を持つ。	底体部へラ削り。	スコリア少量 明赤褐色 普通	P109 60% 覆土(6層~床) 内・外面黒色処理
5	坏 土師器	A [4.0] B (1.9) C 2.7	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部外面に2条の沈線を持つ。	底体部へラ削り。	長石 橙色 普通	P110 40% 覆土(3層)、内・ 外面黒色処理
6	坏 土師器	A [12.2] B (3.7)	丸底。底体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。端部内面に沈線を持つ。	摩耗により整形痕不明瞭。	スコリア 灰褐色 普通	P111 40% 覆土(1層)、内・ 外面黒色処理
7	埴 土師器	A [14.0] B (5.8)	口縁部破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁端部に沈線を持つ。	体部へラ削り。	長石・スコリア 橙色 普通	P112 20% 覆土(2層)



図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第29図 8	埴 土 師 器	A [11.8] B (7.4)	口縁部破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。端部内面に沈線を持つ。	底部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	スコリア少量 明赤褐色 普通	P113 20% 床
9	埴 土 師 器	A [14.0] B (5.7)	口縁部破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。端部内面に沈線を持つ。	体部ヘラ削り。	長石 橙色 普通	P114 30% 床
10	小 形 坏 土 師 器	A 10.4 B 3.6	丸底。底体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。端部内面に沈線を持つ。	底体部ヘラ削り。外面著しく摩耗。11の短頸壺と色調・胎土が類似。	長石・石英・スコリア、淡黄色 普通	P115 85% 覆土(6層上面) 9号住の破片と接合
11	短 頸 壺 土 師 器	A 9.6 B 7.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部上位に最大径を持つ。口縁部は短く立ち上がる。	底部ヘラ削り。体部横ナデ。外面摩耗。	長石・石英・スコリア、灰白色 普通	P119 40% 覆土 外面著しく摩耗
12	甕 土 師 器	A [22.6] B (14.5)	口縁部破片。頸部はくびれ、口縁部は外反する。口唇部を上方にわずかにつまみ上げる。	底部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	灰褐色 普通	P120 15% 覆土(4・5層)
13	甕 土 師 器	A [23.8] B (9.6)	口縁部破片。頸部はくびれ、口縁部は外反する。口唇部を外上方にわずかにつまみ上げる。	体部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	橙色 普通	P121 15% 覆土(3層)
14	甕 土 師 器	A [27.8] B 25.9 C [10.9]	無底式。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。	体下半部斜位のヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P122 20% 覆土(3～5層)
15	高 台 坏 須 恵 器	A [15.0] B (7.5)	体部破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁端部で内彎気味に屈曲する。	口縁部内・外面横ナデ。	緻密で長石砂粒極少量、灰色 普通	P123 5% 覆土

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 位 置	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
16	紡 錘 車	4.2	4.8	2.6	21.5	竈覆土上層	DP 9 50%
17	土 玉	1.9	2.5	—	9.2	覆土(5層)	DP10 孔径0.6~0.7 100%
18	土 玉	2.7	2.8	—	18.9	覆土	DP10 孔径0.5~0.6 100%
19	刀 子	(9.6)	1.3	0.4	11.0	覆土	M 8
20	刀 子	(10.4)	1.4	0.4	15.4	南西壁際床面	M 9

### 第24号住居跡 (第30図)

**位置** B2b<sub>0</sub>区 **規模と平面形** 長軸5.20mで、遺構の北西部は調査エリアの外に延びている。

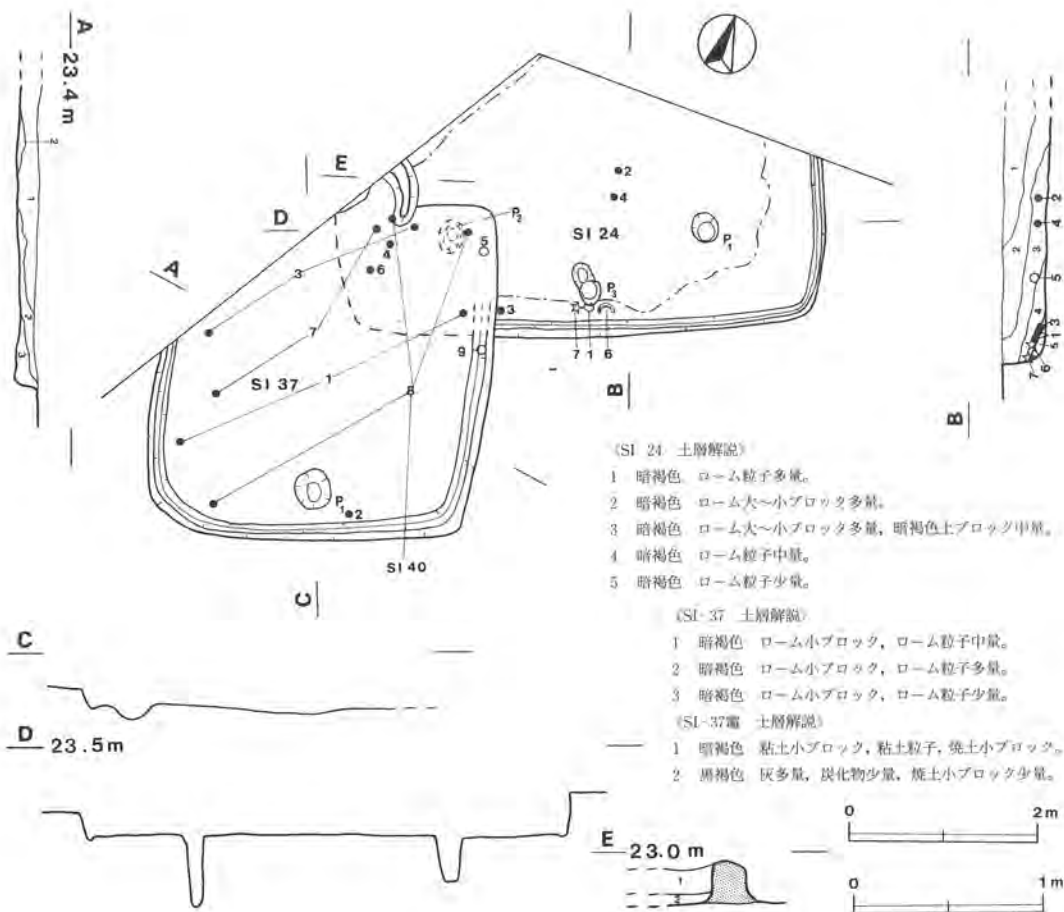
**主軸方向** N-27°-W **壁** 壁高26~82cmで、緩やかに外傾して立ち上がっている。

**壁溝** 壁直下を浅く掘り窪め、断面形はU字状である。幅10cm、深さ5cmで全周している。

**床** 平坦で、踏み固められている。 **ピット** 3か所。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は、径22~32cm、深さ48~78cmで、いずれも支柱穴である。P<sub>3</sub>は、径24cm、深さ21cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。 **覆土** 5層からなる。1~3層はロームブロックを多量に含み、人為的な堆積土層と考えられる。4・5層は、壁際に堆積している。4層と5層の間に鉄製品や土器が見られる。

**遺物** 第31図1の坏、3の鉢、6の鋤先状鉄製品、7の鉄製品は、南東壁際の5層上面から出土している。2の坏と4の須恵器坏底部は、3層中から出土している。

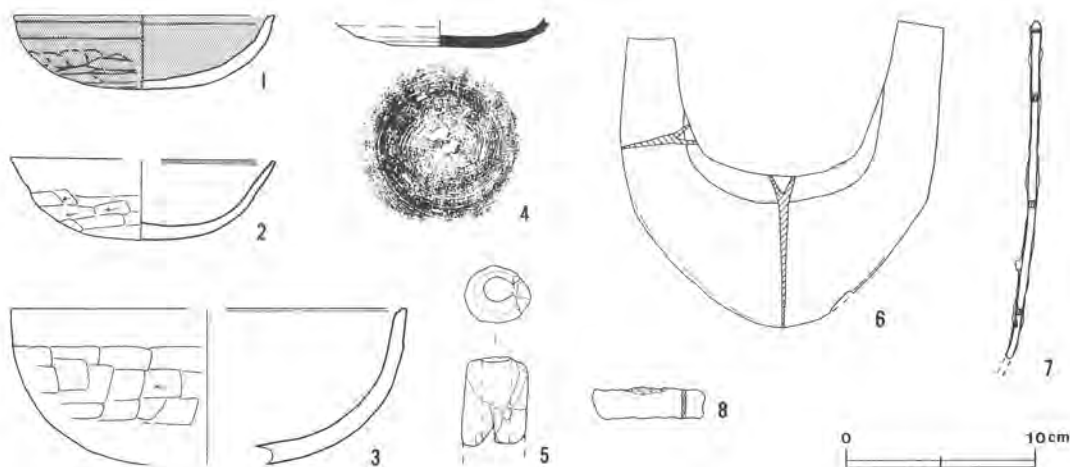
所見 出土遺物のうち3層中から出土している須恵器坏の底部は、7世紀末頃のものであり、住居廃絶後に堆積した5層上面の遺物は、7世紀中葉頃のものである。これらから本跡は、7世紀中葉以前の住居跡と考えられる。



第30図 第24・37号住居跡実測図

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 1	坏 土師器	A 13.8 B 4.0	丸底。底体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外上方に開く。	底体部へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石微砂粒多量 橙色 普通	P124 98% 覆土(5層上面) 内外面黒色処理
2	坏 土師器	A [14.0] B (4.3)	丸底。底体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境でわずかに屈曲し、口縁部は外傾する。	底体部へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	スコリア 橙色 普通	P125 25% 覆土(3層)
3	鉢 土師器	A [20.9] B (8.3)	丸底。底体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁端部に沈線を持つ。	底体部へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・スコリア、橙色 普通	P126 30% 覆土(5層上面)



第31図 第24号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 4	坏 須恵器	B (1.6) C 5.8	底部破片。体部との境が不明瞭な平底。	底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 白灰色 普通	P127 40% 覆土(3層)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	管状土製品	(4.8)	3.5	—	(38.0)	覆土(3層)	DP12 孔径1.6 40%
6	鋸先状鉄製品	16.4	16.7	1.3	287.3	東壁際覆土(5層上面)	M11
7	鎌状鉄製品	(17.1)	0.7	0.4	13.1	東壁際覆土(5層上面)	M12
8	不明鉄片	(5.9)	1.7	0.2	5.6	覆土	M13

### 第25 A号住居跡 (第27・28図)

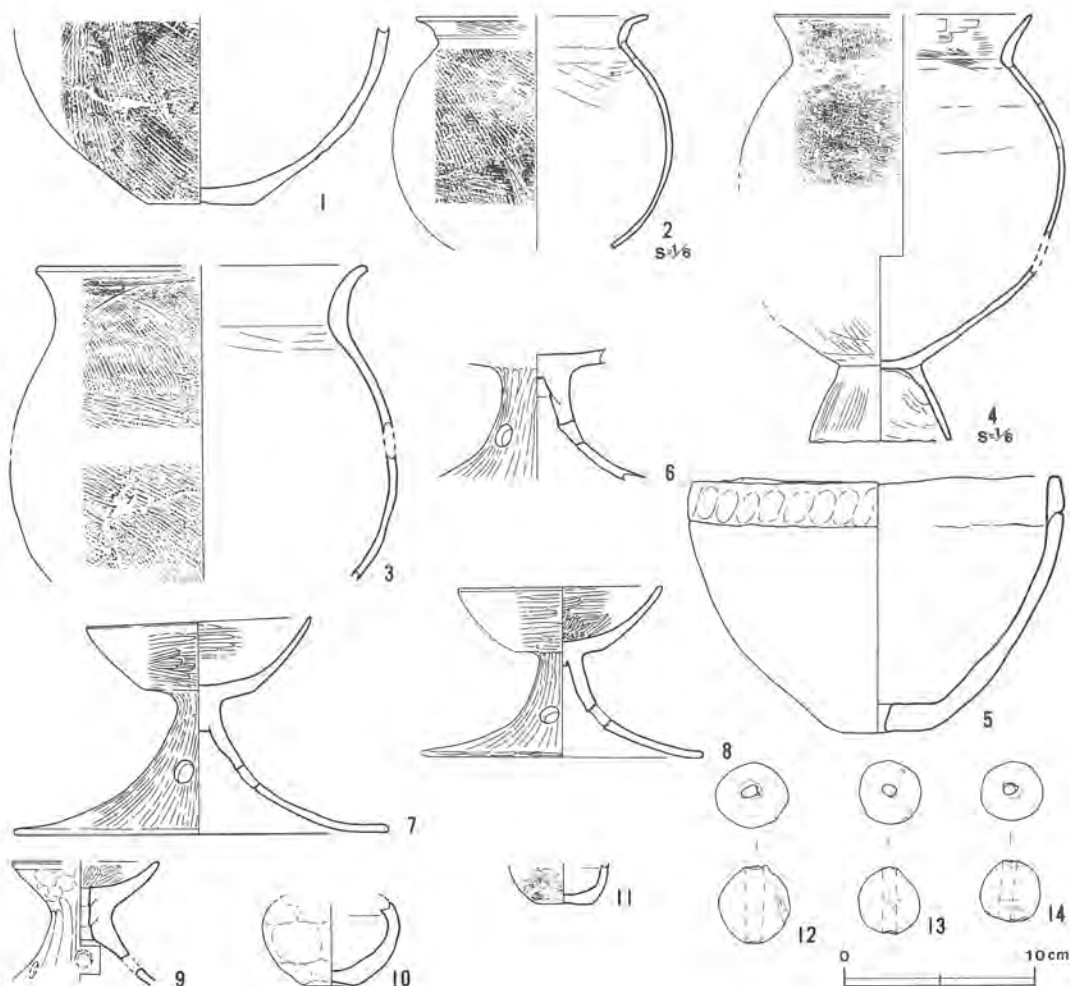
**位置** B2e<sub>9</sub>区 **規模と平面形** 長軸7.74m, 短軸6.80mの長方形。 **主軸方向** N-40°-W  
**壁** 壁高約54cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦で、堅く踏み固められている。

**ピット** 4か所。P<sub>1</sub>~P<sub>3</sub>は、径58~72cm, 深さ74~84cmで、いずれも支柱穴である。

**覆土** 4層からなる。1層は耕作土層である。2・3層はローム粒子やローム小ブロックを含む暗褐色土層である。4層はローム主体の柔らかい自然堆積土層と考えられる。遺物のほとんどは3層中からの出土である。

**遺物** 第32図7・8の高坏が南西コーナー付近の床面から出土している。その他の遺物は住居廃絶後、壁際にロームが薄く堆積した後に捨てられたものと考えられる。5の甎の破片がP<sub>1</sub>覆土中から出土しており、3層の堆積時点で上屋がなかったことが推測できる。

**所見** 本跡は、覆土中の出土遺物から古墳時代前期の住居跡と考えられる。



第32図 第25A号住居跡出土遺物実測図

第25A号住居跡出土遺物観察表

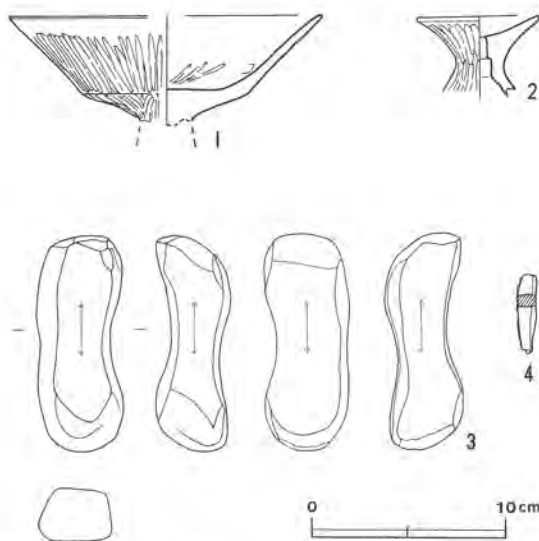
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32図 1	壺 土師器	B (9.4) C 5.6	体上半部欠損。平底。体部中位に最大径を持つ。	底部へラ削り。体部外面ハケ目調整。	長石微粒子多・スコリア・砂粒少量 橙色，普通	P128 20% 覆土
2	壺 土師器	A [18.3] B (18.8)	底部欠損。体部は球形状で、頸部は強く外反する。口縁端部は平坦面となる。	体部外面及び口縁部内・外面ハケ目調整。体部内面へラナデ。	砂粒・長石・メノウ・石英、灰黄褐色 普通	P129 30% 覆土
3	壺 土師器	B [17.6] C (16.8)	底部破損。やや中膨らみの体部で頸部はゆるやかに外反する。	体部外面及び口縁部内・外面ハケ目調整。体部内面へラナデ。	土器片・砂粒・長石にぶい 橙色 普通	P130 40% 覆土
4	台付壺 土師器	A [20.2] B (18.0) D 11.0 E 6.0	台部は「ハ」の字状に下方に開く。体部中位に最大径を持ち、頸部は「く」の字状で、口縁部は外傾する。	台部外面，体部外面及び口縁部内・外面ハケ目調整。体部内面へラナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P131 10% 覆土（3層）

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第32図 5	甗 土 師 器	A 19.2 B 13.7 C 4.9	平底で、底部穿孔。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	体部外面ハケ目状工具でヘラ削り後押え。口縁部外面指腹圧痕。内面ナデ。	長石・石英にふい橙色 普通	P132 70% 覆土(3層)
6	高 土 師 器	B (7.0)	脚部破片。脚部はラッパ状にゆるやかに開く。	脚部外面ヘラ磨き。	長石・石英にふい黄橙色 普通	P133 30% 覆土(3層)
7	高 土 師 器	A 11.9 B 11.6 D 19.9	脚部はラッパ状にゆるやかに開く。坏部は外面下方に稜を持ち、内彎気味に立ち上がる。	脚部外面縦方向ヘラ磨き。坏部内外面横方向ヘラ磨き。	長石・石英多量 黄橙色 普通	P134 80% 床面
8	高 土 師 器	A 10.9 B 9.2 D 15.0	脚部はラッパ状にゆるやかに開く。坏部は外面下方に稜を持ち、内彎気味に立ち上がる。	脚部外面縦方向ヘラ磨き。坏部内外面横方向ヘラ磨き。	長石・石英多量 黄橙色 普通	P135 80% 床面
9	器 土 師 器	A [7.9] B (6.6) D 15.0	器受部破片。脚部はラッパ状にゆるやかに開く。器受部は内彎気味に立ち上がる。	脚部外面縦方向ヘラ削り。坏部内面ヘラ磨き。	土器微細片多量 にふい黄橙色 普通	P136 30% 覆土(3層)
10	埴 土 師 器	A [6.4] B (4.4) D 2.2	体部破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。	長石・石英多量 黄橙色 普通	P137 30% 覆土(3層)
11	ミニチュア 土 師 器	B (2.2) C 3.0	体部破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ハケ目調整。	長石微粒子多量 にふい橙色 普通	P138 60% 覆土(3層)

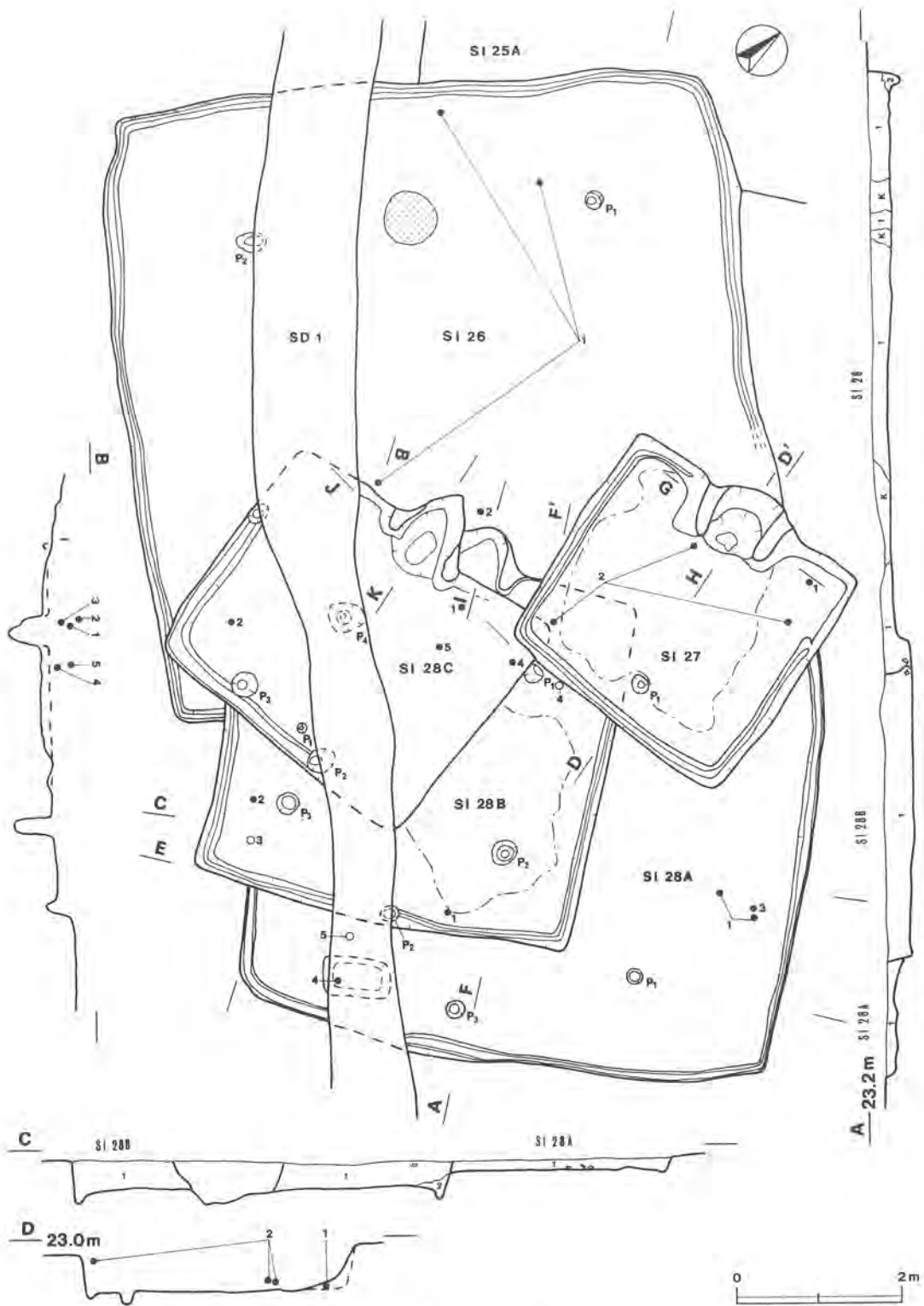
図版番号	器 種	計 測 値				出 土 位 置	備 考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
12	土 玉	4.0	3.8	—	48.2	覆土	DP13 孔径0.7~0.8	100%
13	土 玉	3.5	3.3	—	36.2	覆土	DP14 孔径0.7~0.8	100%
14	土 玉	3.2	3.1	—	27.5	西壁際覆土(2層)	DP15 孔径0.6~0.7	85%

### 第26号住居跡(第34図)

**位置** B2g<sub>9</sub>区 重複関係 第25A号住居跡の南部を掘り込んでいる。**規模と平面形** 長軸7.72m, 短軸7.66mの方形。**主軸方向** N-55°-W **壁** 壁高約16~18cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。**床** 平坦で、踏み固められている。**ピット** 2か所。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は、径22~25cm, 深さ55~88cmで、いずれも支柱穴である。**炉** 中央部から北西寄りの位置に見られる。長径72cm, 短径66cmの地床炉である。**覆土** 暗褐色土層の1層のみである。**遺物** 第33図1の高坏と2の器台片は、覆土中から出土している。

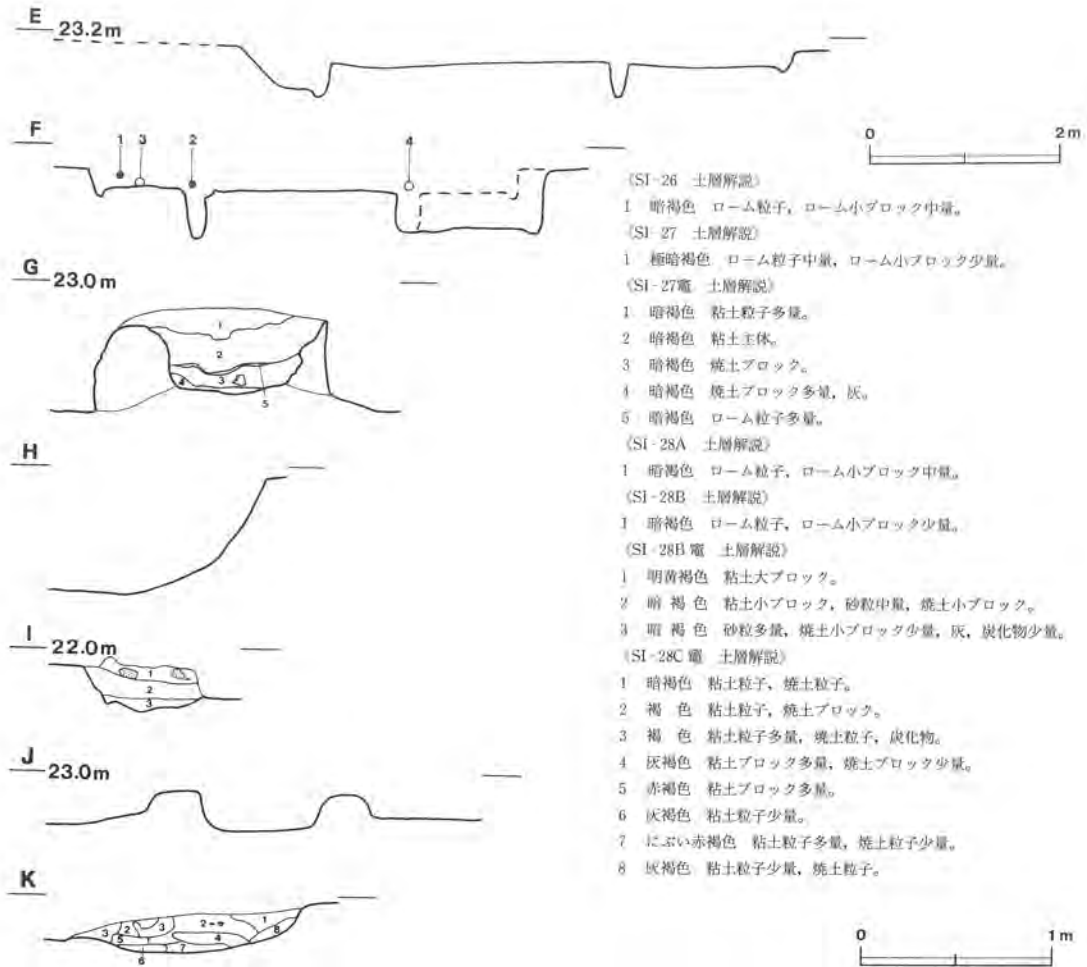


第33図 第26号住居跡出土遺物実測図



第34图 第26・27・28A・28B・28C号住居跡実測图(1)

所見 覆土中の遺物は、古墳時代前期の遺物である。本跡は、遺構の切り合い関係から古墳時代前期の第25A号住居跡よりも新しい住居跡と思われる。



第35図 第26・27・28A・28B・28C号住居跡実測図(2)

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第33図 1	高坏 土師器	A [16.6] B (5.8)	坏部破片。坏部は外面に稜を持ち外傾して開く。	坏部内・外面へラ磨き。	長石微粒子 にぶい橙色 普通	P148 20% 床面に近い覆土
2	器台 土師器	A 6.3 B (4.3)	器受部破片。受部は外傾して開く。	器受部外面縦方向へラ磨き。	砂粒 にぶい橙色 普通	P149 40% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	砥石	11.5	4.4	4.0	233.8	覆土	Q13
4	鉄釘	(4.2)	1.0	0.7	6.9	1区覆土	M18

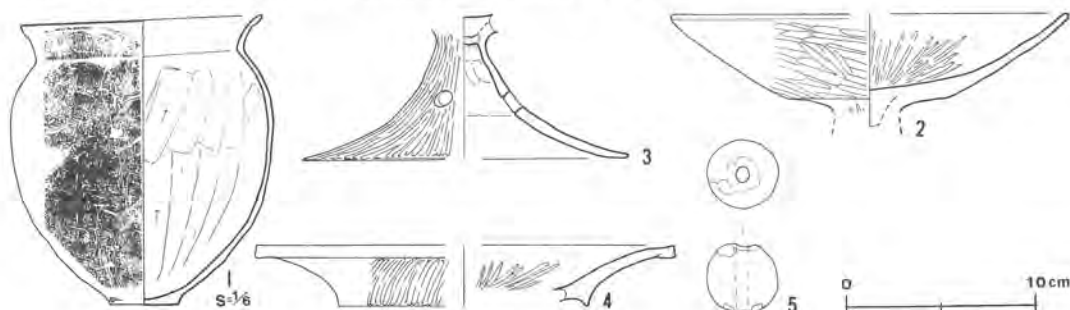
### 第28A号住居跡(第34図)

**位置** B3h<sub>1</sub>区 **規模と平面形** 長軸6.74m, 短軸(4.74m)である。**主軸方向** N-41°-W  
**壁** 壁高約16cmである。**床** 平坦で、ハードロームブロックを少量含んだ暗褐色土の床である。  
**ピット** 3か所。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は、径20~22cm, 深さ38~39cmで、いずれも支柱穴である。P<sub>3</sub>は、径24cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 1層のみである。ローム小ブロックを含む暗褐色土層である。

**遺物** 中央部から北東壁に寄った床上から第36図-1の甕, 2と3の高坏が出土している。

**所見** 本跡は、出土遺物から古墳時代前期の住居跡と考えられる。



第36図 第28A号住居跡出土遺物実測図

### 第28A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 1	甕 土師器	A 19.0 B 23.1 C 5.3	平底。体部最大径を上半部に持つ。頸部は「く」の字状に屈曲し口縁部はやや外反する。	体部外面及び口縁部内・外面ハケ目調整。体部内面及び底部ヘラ削り。	バミス・スコリア 黒褐色 普通	P156 80% 床に近い覆土
2	高坏 土師器	A [21.0] B (5.4)	坏部破片。坏部はゆるやかに開く。	坏部内・外面ヘラ磨き。	バミス・スコリア 少・砂粒少, 明黄色 普通	P153 25% 床に近い覆土
3	高坏 土師器	B (7.7) D [17.4]	脚部破片。脚部はゆるやかに開く。	脚部外面ヘラ磨き。	にぶい橙色 普通	P154 35% 覆土
4	壺 土師器	A [22.0] B (3.3)	有段口縁の壺の口縁部?口縁部外面に下向きの強い稜を持つ。	口縁部内・外面ヘラ磨き。	砂粒 浅黄橙色 普通	P155 5% 1号溝覆土出土で本跡に伴わないか?

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	土玉	3.7	3.7	—	45.0	1号溝覆土で本跡に伴わない	DP18 孔径0.6~0.7 90%



第29号住居跡 (第38図)

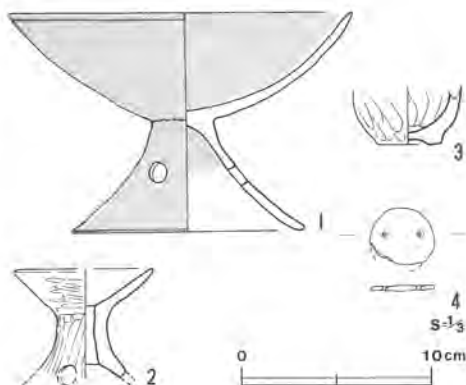
位置 B3h<sub>1</sub>区 規模と平面形 長軸5.44m, 短軸4.64mの長方形。主軸方向 N-75°-W

壁 壁高約6cmである。床 攪乱により床の遺存状態が悪く, 確実な床面を確認できなかった。

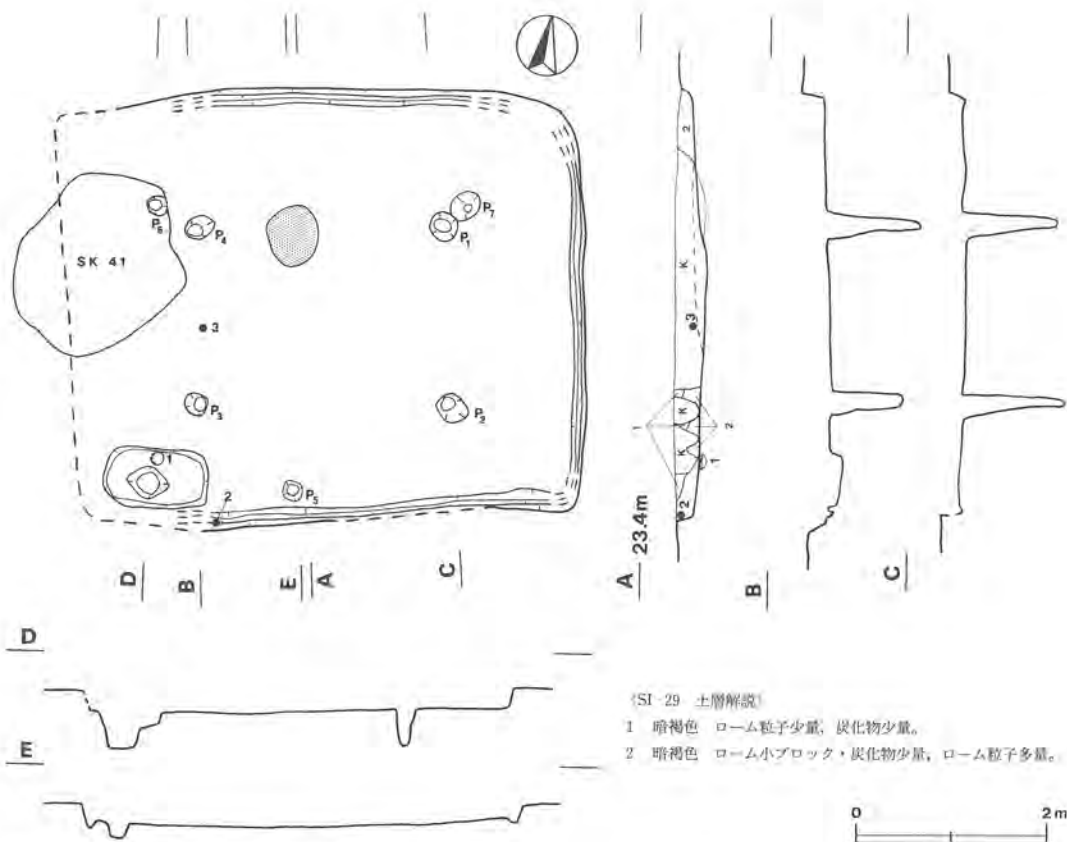
ピット 7か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は, 径22~31cm, 深さ78~105cmで, いずれも主柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は, 径19cm, 深さ14cmで, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P<sub>6</sub>・P<sub>7</sub>は径20~28cm, 深さ41~42cmで性格不明である。炉 中央部から北寄りの位置にあり, 長径66cm, 短径54cmの地床炉である。

覆土 2層からなり, 攪乱が著しい。

遺物 第37図3のミニチュアの鉢がP<sub>5</sub>とP<sub>4</sub>の間の床上から, 1の高坏が貯蔵穴覆土上層から出



第37図 第29号住居跡出土遺物実測図



第38図 第29号住居跡実測図

土している。

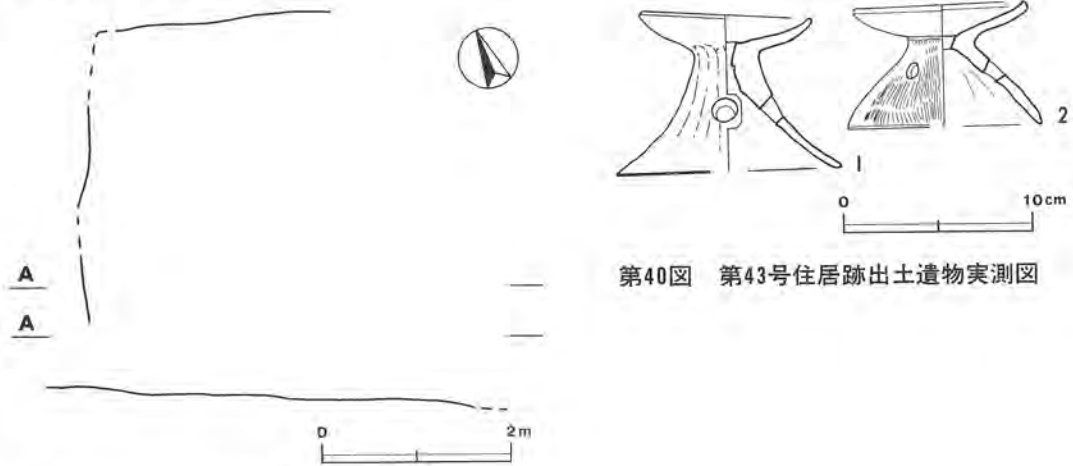
所見 本跡は、貯蔵穴覆土中の遺物から古墳時代前期の住居跡と考えられる。

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第37図 1	高坏 土師器	A 18.3 B 11.8 D 12.3	脚部はラッパ状にゆるやかに開く。坏部は内彎気味に立ち上がる。	坏部・脚部ともハケ目調整後、ケズリあるいはナデ調整、赤彩及び摩耗により器面調整やや不鮮明。	長石・石英・スコリア、橙色 普通	P167 90% 貯蔵穴覆土上層
2	器台 土師器	A [7.4] B (5.8)	脚部破損。脚部はラッパ状にゆるやかに開く。器受部は外傾して立ち上がる。	脚部外面縦方向へラ磨き。受部外面横方向へラ磨き。	長石少・石英少・スコリア、にぶい黄橙色、普通	P168 50% 覆土(2層)
3	ミニチュア 土師器	B (2.2) C 3.0	体部破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。底部中央がくぼむ。	体部内・外面指ナデ。	長石微粒子 橙色 普通	P169 70% 床面

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	石製模造品	2.6	—	0.2	2.5	覆土	Q15滑石

第43号住居跡 (第39図)



第40図 第43号住居跡出土遺物実測図

第39図 第43号住居跡実測図

第43号住居跡出土遺物観察表

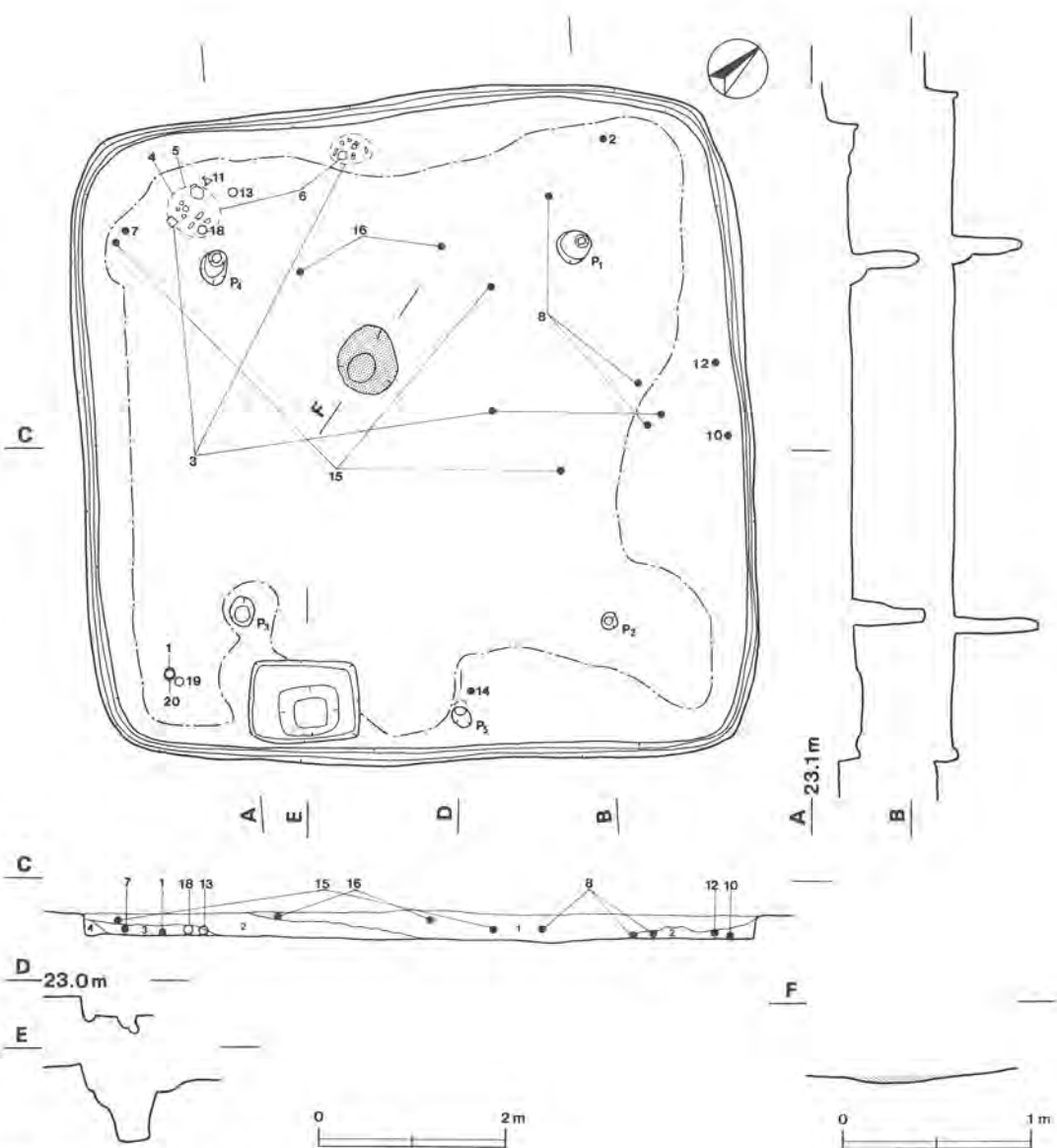
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40図 1	器台 土師器	A 9.0 B 8.0 D 11.8	脚部は「ハ」の字状に開き、器受部は内彎気味に立ち上がる。	脚部外面縦位へラ削り。	長石・石英の微砂粒、浅黄橙色 普通	P252 80% 床面
2	器台 土師器	A 9.0 B 6.6 D 10.3	脚部は「ハ」の字状に開き、器受部は内彎気味に立ち上がる。器受部端部は平坦で上方に突出する。	脚部外面ハケ目調整。受部外面ハケ調整後横位の削り。	黄白色の粒子主体 浅黄橙色 普通	P253 60% 床面

第45号住居跡 (第41図)

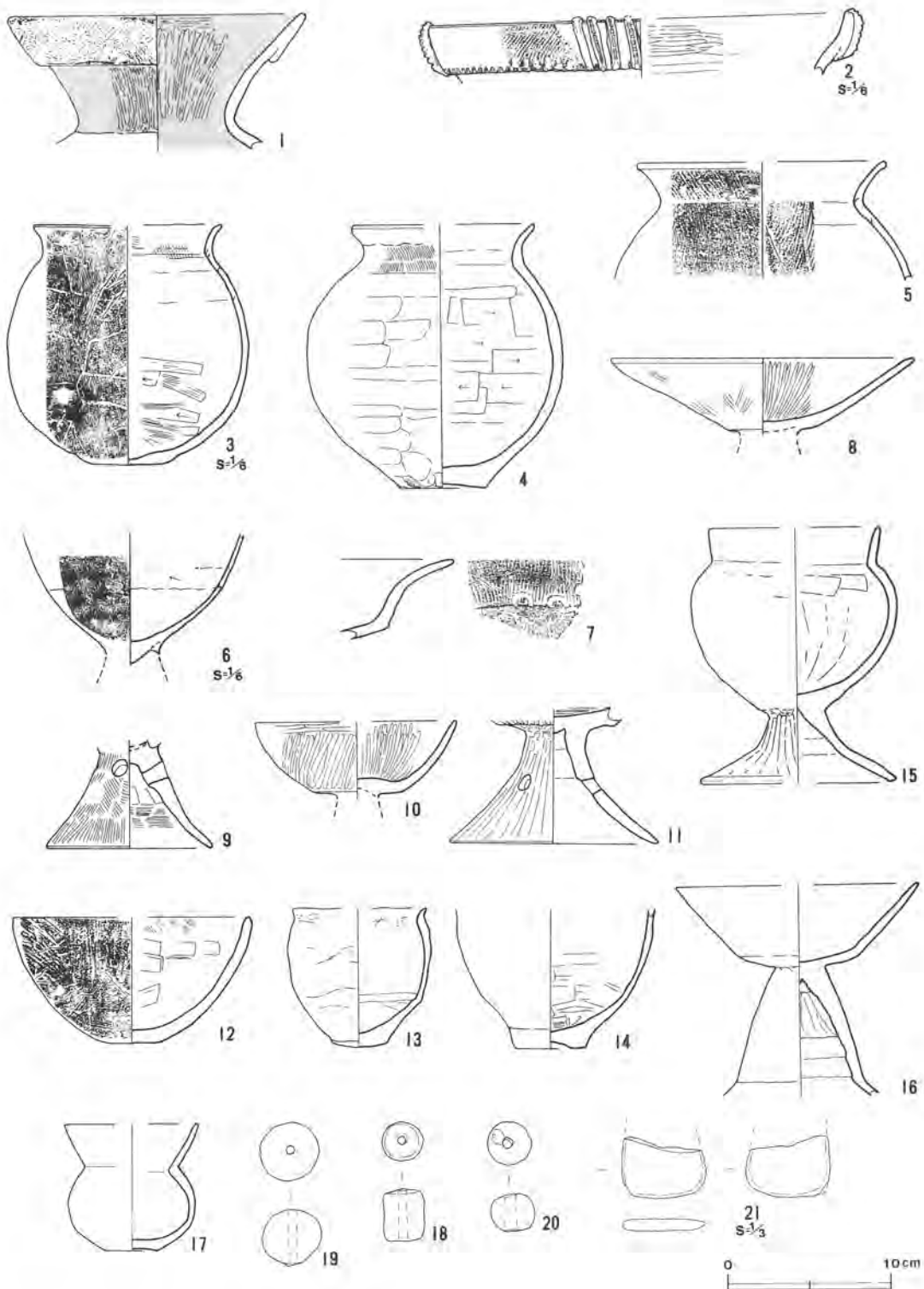
位置 C3a区 規模と平面形 長軸7.26m, 短軸7.14mの方形。 主軸方向 N-50°-W

壁 壁高26~34cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。 壁溝 竈部分を除き全周している。

床 平坦で, 踏み固められている。 ピット 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>は, 径18~32cm, 深さ80~90cmで, いずれも支柱穴である。P<sub>3</sub>は, 径22cm, 深さ20cmで, 出入口施設に伴うピットと考えられる。 炉 住居跡中央部から西寄りにあり, 長径73cm, 短径65cmで, 床面を浅く掘り窪めた地床炉である。 覆土 4層からなる。1層は, 中央部で床面まで達するゆるやかな傾斜を持って堆



第41図 第45号住居跡実測図



第42図 第45号住居跡出土遺物実測図

積している。2層は、ロームブロックの混入状況から人為的な堆積土層と考えられる。壁際の3層は焼土ブロックを多量に含む土層である。遺物は1層の中でも上層中のものと、1・2層中に含まれるもの、3層中あるいは3層に覆われているものに分かれる。遺物 第42図1の壺口縁部は床面から逆位で、9と10と11の高坏は3層に覆われるように出土している。3・4・5・6の甕、7の高坏、13の鉢は3層中から、2の壺、8の高坏、12・14・15の鉢は1～2層中から、16の高坏と17の埴が1層の上層中から出土している。所見 本跡は、上層の出土遺物の中に和泉式期の土器が見られるが、その他の出土遺物は古墳時代前期の土器群であり、古墳時代前期の住居跡と考えられる。

第45号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	壺 土師器	A 18.5 B (7.8)	頸部から口縁部にかけての破片。複合口縁。	頸部外面及び口縁部内面へら磨き。複合口縁外面及び端面に羽状縄文を施文。	砂粒 赤色 普通	P257 20% 床面
2	壺 土師器	A [39.0] B (6.2)	口縁部破片。複合口縁で四本一単位の棒状符文を四単位付ける。	複合口縁の外面及び端部に縄文施文。内面横位の磨き。口縁下端を縄文施文具で波状に押圧する。	長石・石英の砂礫多、橙色 普通	P258 45% 覆土(2層上面)
3	甕 土師器	A [17.6] B 22.6 C 7.0	平底。体部は球形状で、口縁部は単口縁で外反する。	体部外面ハケ目調整。内面へら削り?器壁が薄く軽い。	長石・スコリア 灰褐色 普通	P259 60% 覆土(3層)
4	甕 土師器	A [11.4] B 16.5 C 5.4	平底。体部は球形状で、頸部でくびれる。口縁部は単口縁で外反する。	体部外面縦位のハケ目調整後横位のへら削り。内面やや強めのへらナデ。	長石・石英の微砂粒、灰褐色 普通	P260 60% 覆土(3層)
5	甕 土師器	A [15.4] B (7.6)	口縁部破片。頸部は「く」の字状にくびれ口縁部は外反する。	体部外面縦位のハケ目調整。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石少・石英少、灰褐色 普通	P261 5% 覆土(3層)
6	台付甕 土師器	B (11.0)	体下半部破片。	体部外面縦位のハケ目調整。	石英・微砂粒少量 にぶい黄橙色 普通	P262 20% 覆土(3層)
7	高坏 土師器	B (5.0)	坏部破片。坏部は段を持ち、口縁部は外反する。外面に2対1組の竹管文を付す。	内・外面ハケ目調整。	微砂粒・スコリア 灰白色 普通	P263 10% 覆土(3層)
8	高坏 土師器	B (5.0)	坏部破片。坏部は外傾して開く。	坏部内面へら磨き。外面摩耗により調整痕不明瞭。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P264 30% 覆土(1・2層)
9	高坏 土師器	B (6.4) C 10.4	脚部破片。脚部は「ハ」の字状に開く。	外面ハケ目調整。	微砂粒・スコリア 淡橙色 普通	P265 40% 覆土(3層)
10	高坏 土師器	A [12.4] B (4.8)	坏部破片。坏部は内彎気味に立ち上がる。	坏部内・外面縦位のへら磨き。	微砂粒・スコリア 橙色 普通	P266 20% 床面
11	高坏 土師器	B (8.8) C 12.9	脚部破片。脚部はラップ状に開く。坏部下端に稜を持つ。	坏部内・外面縦位のへら磨き。	砂粒少量 橙色 普通	P267 30% 覆土(3層)
12	鉢 土師器	A [14.8] B 7.9 C 3.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ハケ調整。	黄白色微粒子 にぶい黄橙色 普通	P268 50% 覆土(2層)

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第42図 13	鉢 土 師 器	A [8.2] B 8.6 C 3.5	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面手づくねによる圧痕とナデ調整。	砂粒少量 浅黄褐色 普通	P269 70% 覆土(3層)
14	鉢 土 師 器	B (8.7) C 4.4	平底。底部中央がくぼむ。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ナデ調整。内面強いヘラナデ。	微砂粒 灰白色 普通	P270 30% 覆土(1・2層)
15	台付鉢 土 師 器	A [9.8] B 16.0 D [12.0]	体部は内彎気味に立ち上がり、短頸の口縁部が付く。脚部はラップ状に開く脚が付く。	体部外面ヘラナデ調整。内面強いヘラナデ。	微砂粒 におい黄褐色 普通	P271 40% 覆土(1・2層)
16	高 坏 土 師 器	A [15.0] B (8.8) C 12.9	脚部破損。脚部は開き気味の柱状で、下端が屈曲して開く。坏部は外面に稜を持ち外傾して開く。	坏部内・外面ナデ調整。	長石・石英 浅黄褐色 普通	P272 50% 覆土(1層)
17	埴 土 師 器	A [8.4] B 7.9 C 3.4	平底。体部は球形状で、口縁部は外傾する。	外面摩耗で調整痕不明。	長石多量・石英多量、 褐色 普通	P273 35% 覆土(1層)

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 位 置	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
18	土 玉	3.4	2.6	—	22.8	覆土(3層)	DP35 孔径0.5~0.55 100%
19	土 玉	3.5	3.6	—	43.4	P257近くの床面	DP36 孔径0.45~0.5 100%
20	土 玉	2.4	2.7	—	15.5	P257内床面	DP37 孔径0.7~0.8 100%
21	石製模造品	(2.9)	3.8	0.6	11.6	覆土	Q18

### (3) 奈良・平安時代の住居跡

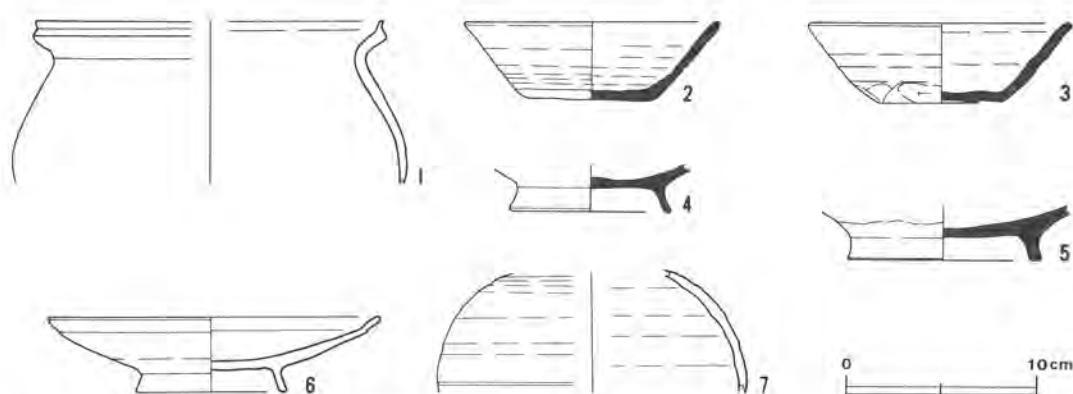
#### 第13号住居跡 (第17・18図)

**位置** B3b<sub>3</sub>区 **規模と平面形** 長軸3.76m, 短軸3.20mの長方形。 **主軸方向** N-3°-W

**壁** 壁高30~34cmで、垂直に立ち上がっている。 **壁溝** 壁直下の床面を6~10cm程掘り窪め、断面形はU字状で、全周している。 **床** 平坦で、踏み固められている。 **ピット** 1か所。径16cm, 深さ18cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。 **竈** 東壁中央部を50cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、幅110cm, 長さ104cmである。火床部は約10cm掘りくぼめられ灰と炭化物が多量に堆積している。煙道部は燃焼部から緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土4層からなる。覆土の大半を占める1・2層はロームブロックを多量に含み人為的な堆積土層と考えられる。床上には、炭化材片等炭化物を多量に含んだ3層と自然堆積土層の4層が薄く被覆しており、遺物のほとんどは1層中に入っている。

**遺物** 第43図-2の完形の須恵器の坏は、竈覆土上層に流れ込んだ状況で、3の須恵器の坏, 4の高台付坏, 1の甕は1層中から出土している。5の須恵器の高台付坏と7の灰釉陶器の長頸瓶は4層中から出土している。

**所見** 本跡は、出土遺物から9世紀代の住居跡と考えられる。



第43図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 1	甕 土師器	A [18.3] B (8.7) C 6.5	口縁部破片。口縁部はゆるやかに外反する。口唇部を上方にまみ上げる。	口縁部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P26 5% 覆土(1層)
2	坏 須恵器	A 13.4 B 4.2 C 6.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端 手持ちへラ削り。体部内・外面 横ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P27 100% 甕覆土上層
3	坏 須恵器	A 13.8 B 4.3 C 6.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端 手持ちへラ削り。体部内・外面 横ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P28 90% 覆土(1層)
4	高台付坏 須恵器	B (2.6) D 8.3 E 1.2	底部破片。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転へラ削り後、高台貼り 付け。体部内・外面横ナデ。	長石・雲母多量 灰白色 普通	P29 40% 覆土(1層)
5	高台付坏 須恵器	B (2.9) D 10.2 E 2.0	底部破片。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転へラ削り後、高台貼り 付け。体部内・外面横ナデ。	雲母多量。 灰黄褐色 普通	P30 30% 覆土(4層)
6	小形盤 土師器	A 17.4 B 4.0 C 7.9	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は口縁部との境に稜を持ち、口唇部はやや外反する。	底部回転へラ削り後、高台貼り 付け。体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母多 黒褐色 普通	P31 70% 覆土
7	長頸壺 灰軸陶器	B (6.6)	体部破片。肩部を丸くおさめ、体部に沈線を持つ。	体部内・外面横ナデ。	黒色微粒子 オリブ灰色 良好	P32 10% 覆土(4層)

第17号住居跡 (第44図)

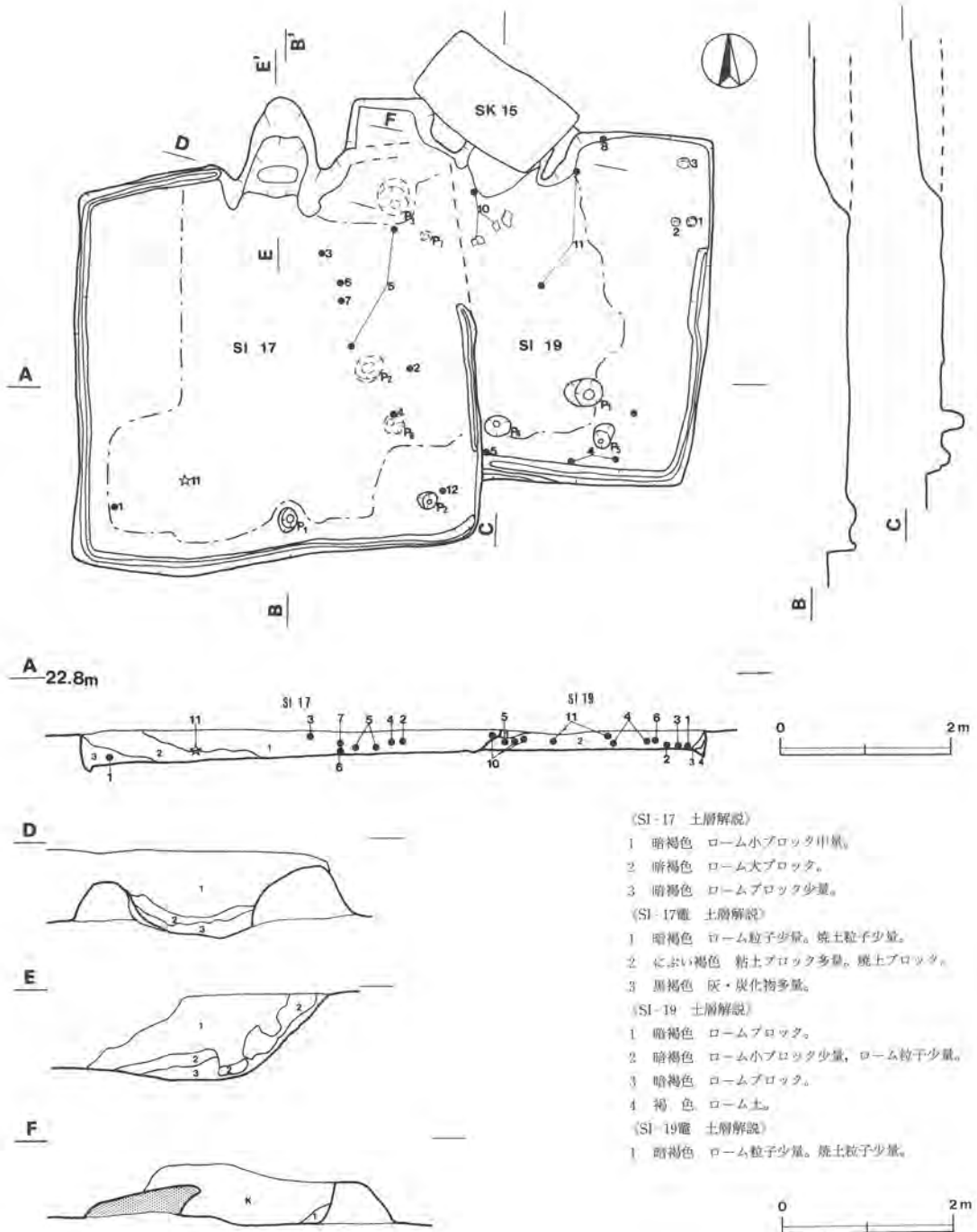
位置 B3e<sub>3</sub>区 規模と平面形 長軸4.70m、短軸4.70mの方形。主軸方向 N-2°-W

壁 壁高24~40cmで、垂直に立ち上がっている。床 平坦で、踏み固められている。

ピット 2か所。P<sub>1</sub>は径18cm、深さ24cm、P<sub>2</sub>は径22cm、深さ22cmである。竈 北壁中央部を68cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、幅150cm、長さ142cmである。火床部は約8cmほど掘りくぼめられ、灰と炭化物が多量に堆積している。煙道部は、燃焼部から緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土 3層からなる。1・2層は、ロームブロック混じ

りて人為的な堆積土層と考えられる。3層は、壁際に堆積した暗褐色の自然堆積土層である。遺物は、上層の人為堆積土層中のものがほとんどである。

遺物 第45図-1の坯は3層中から完形で出土している。その他の実測できた遺物は、すべて覆

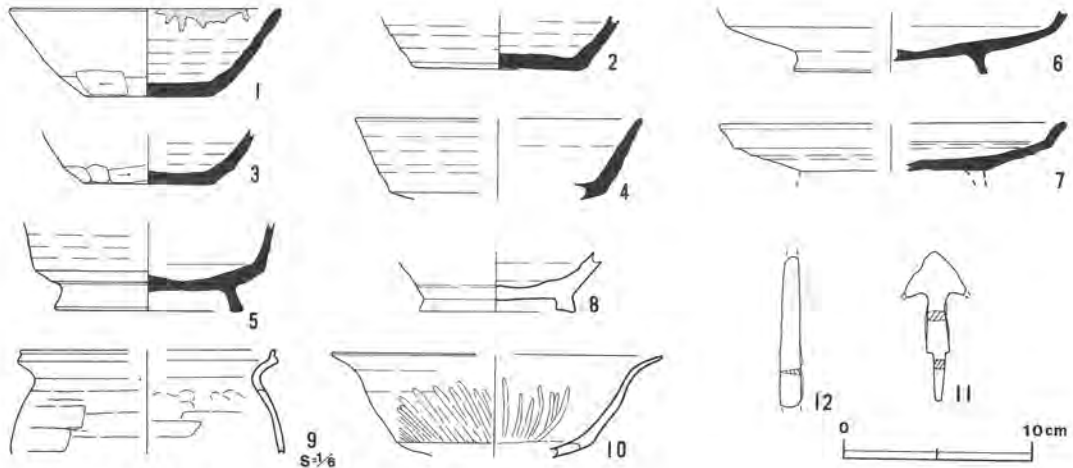


第44図 第17・19号住居跡実測図



土の1・2層から破片で出土している。

所見 本跡は、1の遺物が9世紀の中頃の時期のものと考えられることから、住居跡もこれに近いものと考えられる。



第45図 第17号住居跡出土遺物実測図

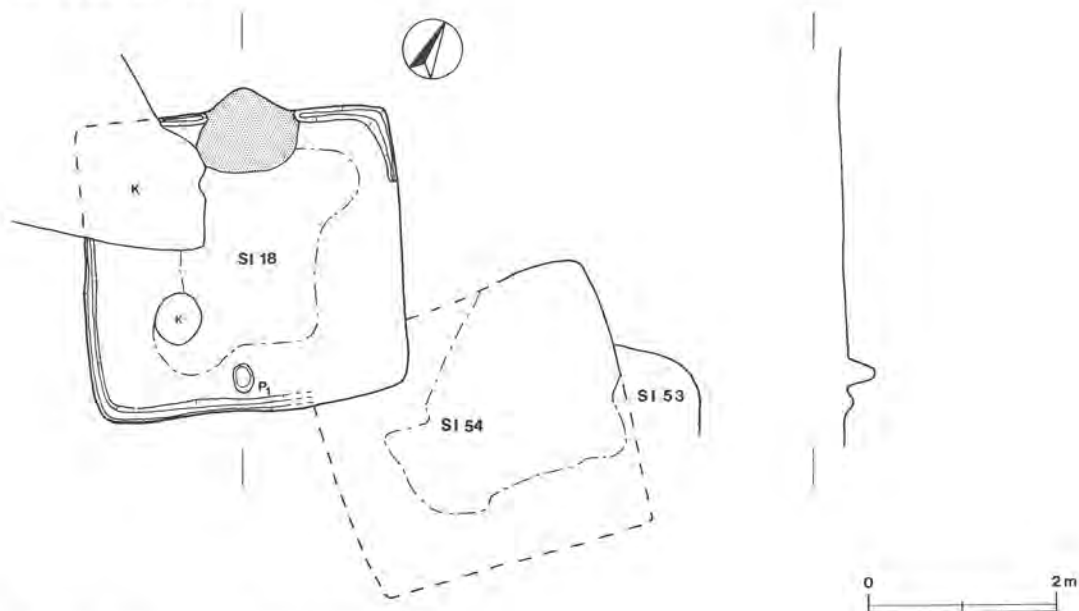
第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 1	坏 須恵器	A 13.4 B 4.2 C 6.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部四方向へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P62 100% 覆土(3層)
2	坏 須恵器	B (2.9) C 8.7	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転へラ切り離し無調整。体部下端手持ちへラ削り。体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P63 30% 覆土
3	坏 須恵器	B (2.9) C 6.8	平底。体部は内彎気味立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 ぶい橙色 普通	P64 30% 覆土 二次焼成
4	高台付坏 須恵器	A [15.0] B (4.3) E 1.2	口縁部破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P65 20% 覆土
5	高台付坏 須恵器	B (4.7) D 9.8 E 2.0	底部破片。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転へラ削り後、高台貼り付け。体部内・外面横ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P67 40% 覆土
6	小形盤 須恵器	B (3.2) D [10.2] E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は口縁部との境に稜を持つ。	底部回転へラ削り後、高台貼り付け。体部内・外面横ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P68 30% 覆土
7	小形盤 須恵器	A [18.4] B (2.5)	平底。体部は口縁部との境に稜を持つ。	底部回転へラ削り後、高台貼り付け。体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母多 暗灰色 不良	P69 15% 覆土
8	長頸壺 灰釉陶器	B (3.2) D 8.1 E 0.9	平底で外面が傾斜し、内底面が内彎する低い高台が付く。	底部回転へラ削り後、高台貼り付け。体部内・外面横ナデ。	緻密 緑灰色 良好	P70 10% 覆土
9	甕 土師器	A [20.2] B (8.4)	口縁部破片。頸部でくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	体部内・外面横方向へラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P60 10% 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 10	高土師器	A [17.6] B (5.5)	坏部破片。坏部は外面に稜を持ち、内彎気味に立ち上がって口縁部で外反する。	坏部内・外面縦方向のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア、明赤褐色普通	P59 15% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
11	鉄 鏃	8.1	3.3	0.7	17.4	覆土1層	M5
12	刀 子	(8.0)	1.2	0.3	9.9	南東コーナー床面	M6

### 第18号住居跡 (第46図)



第46図 第18・54号住居跡実測図



第47図 第18号住居跡出土遺物実測図

### 第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
1	土 玉	2.8	3.0	-	24.3	覆土	DP7 孔径0.6~0.65 100%

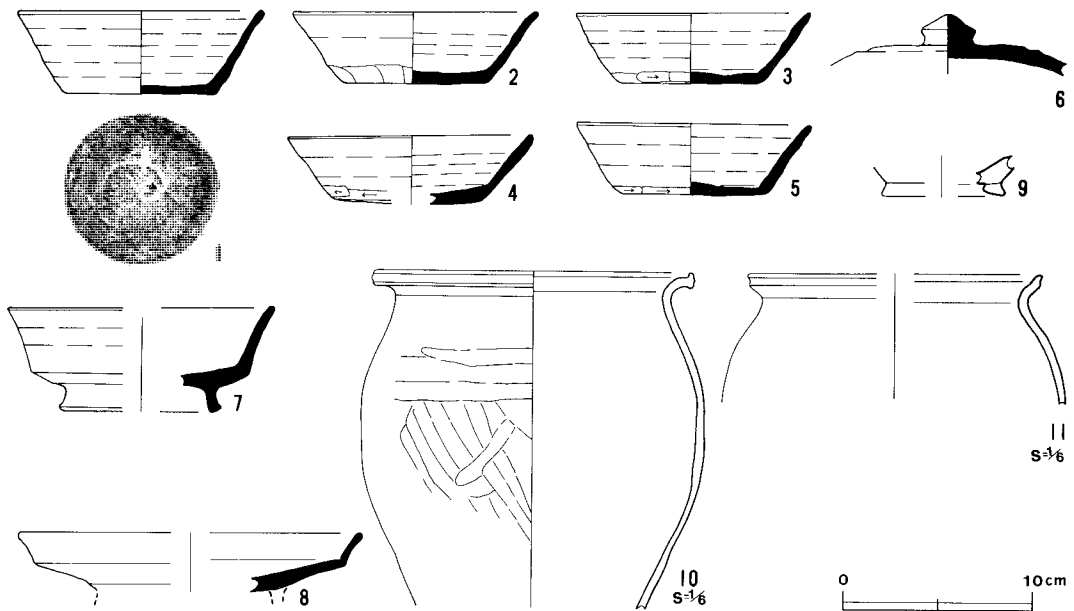
第19号住居跡 (第44図)

**位置** B3e<sub>8</sub>区 **重複関係** 西部を第17号住居跡によって掘り込まれている。**規模と平面形** 長軸5.11m, 短軸4.22mの長方形。 **主軸方向** N-0° **壁** 壁高約18cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

**床** 平坦で、堅く踏み固められている。 **ピット** 6か所。P<sub>1</sub>~P<sub>3</sub>は径30~42cm, 深さ56~64cm, P<sub>5</sub>~P<sub>6</sub>は径20~24cm, 深さ40~51cmで、いずれも支柱穴と考えられる。P<sub>4</sub>は径30cm, 深さ49cmで出入口ピットと考えられる。 **竈** 燃烧室から煙道部にかけてを15号土坑によって壊され、両袖の前面部だけが残されている。 **覆土** 2層からなる。1層は、ロームブロックを均一に含む人為的堆積土層である。2層は、ロームの壁が剥落し、自然堆積した土層である。

**遺物** 北東コーナー床上から第48図1・2・3の須恵器の坏が出土している。正立状態でほぼ完形で、床上に残されたまま埋められた状態のようである。その他の遺物は1層中から出土している。

**所見** 本跡は、17号住居跡との重複関係と出土遺物から、8世紀後葉頃の住居跡と考えられる。



第48図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第48図 1	坏 須恵器	A 13.2 B 4.6 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P74 98% 床面
2	坏 須恵器	A 13.0 B 3.9 C 7.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向ヘラ削り。体部下端 手持ちヘラ削り。	長石多・石英・雲母 灰色 普通	P75 70% 床面

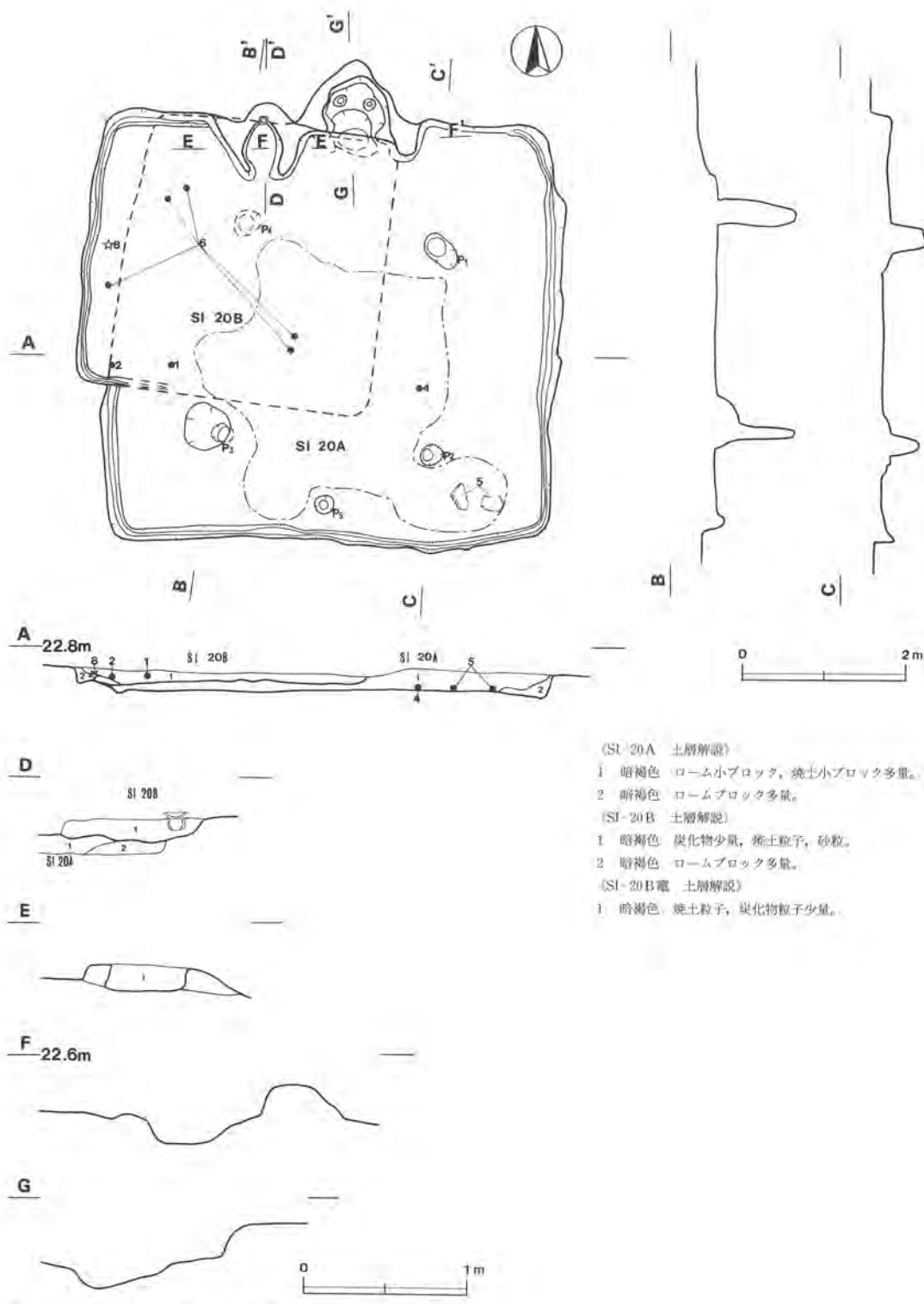
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第48図 3	坏 須恵器	A 12.4 B 3.8 C 7.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P76 30% 床面
4	坏 須恵器	A 13.0 B 3.8 C 7.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。	長石多・石英・雲母 灰色 普通	P77 50% 覆土
5	坏 須恵器	A 12.4 B 3.8 C 7.7	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P78 40% 覆土(2層)
6	蓋 須恵器	A [12.4] F 2.3 G 1.6	天井部破片。天井部に平坦面を持つ。疑室珠形のつまみが付く。	天井部平坦面回転へラ削り。	長石・石英・雲母 に濃い黄褐色 普通	P79 20% 覆土(2層)
7	高台付坏 須恵器	A [14.1] B 5.1 D 8.0	底部破片。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P80 15% 覆土
8	小形盤 須恵器	A [18.3] B (3.2)	平底。体部は緩やかに外傾し、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P81 15% 覆土(2層)
9	長頸瓶 灰釉陶器	B (2.1) D [6.4]	高台部破片。	底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	緻密 灰白色 良好	P82 5% 竈覆土
10	甕 土師器	A [25.0] B (27.0)	底部破損。体部上位に最大径を持ち、頸部でくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	体部外面斜位のへらナデ後横方向へらナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石礫・石英・雲母 褐色 普通	P72 10% 竈前面覆土
11	甕 土師器	A [23.4] B (19.5)	口縁部破片。頸部でくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石多・石英多・ 雲母、褐色 普通	P73 10% 覆土(2層)

## 第20A号住居跡（第49図）

**位置** B3e<sub>0</sub>区 **重複関係** 第20B号住居跡によって北西部を掘り込まれている。

**規模と平面形** 長軸5.50m，短軸5.34mの方形。 **主軸方向** N-4°-E **壁** 壁高8~28cmで、垂直に立ち上がっている。 **壁溝** 壁直下の床面を幅10cm，深さ10cmほど掘り窪め，断面形はU字状で全周している。 **床** 平坦で，踏み固められている。 **ピット** 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は，径20~30cm，深さ42cm~98cmで支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は径14cm，深さ12cmで，出入口施設に伴うピットと考えられる。 **竈** 東壁中央部を70cm程壁外へ掘り込み，砂まじりの粘土で構築されている。左袖が第20B号住居跡の掘り込みにより破壊されている。規模は長さ120cmである。火床部は15cmほど掘りくぼめられ，焼土粒子や炭化物，灰が出土している。煙道部斜面の左右に約20cmの間隔をおいて，径15cm，高さ2~3cmほどの黄褐色粘土の張り付け箇所がある。左の粘土部分の上に逆位の須恵器が残っていた。 **覆土** 2層からなる。1層はローム小ブロック，焼土小ブロックを多量で均質に含み，人為的な堆積と考えられる。2層は，壁際に落下したロームの崩落土層である。

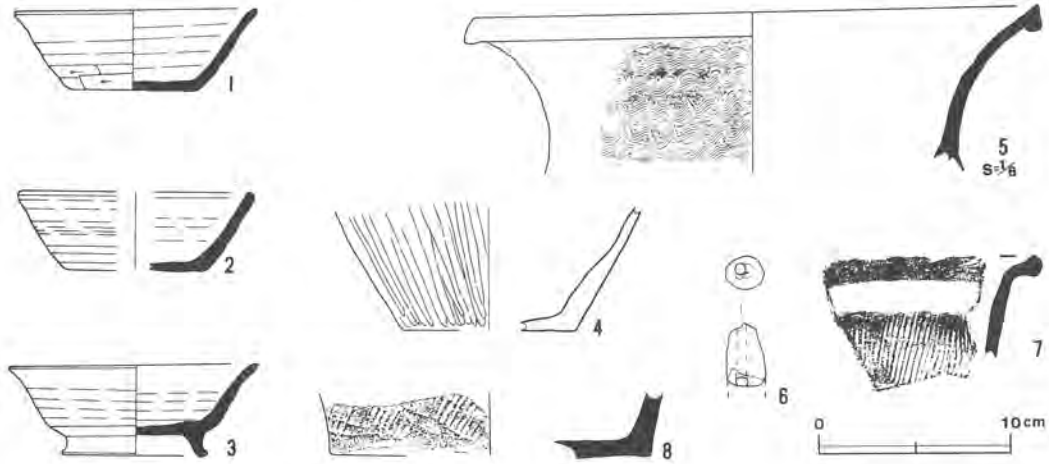
**遺物** 第50図1と2の須恵器坏は竈内から，5の須恵器大甕の口縁部は南東コーナー近くの床面



第49図 第20A・20B号住居跡実測図

から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀の中葉頃の住居跡と考えられる。



第50図 第20A号住居跡出土遺物実測・拓影図

第20A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 1	坏 須恵器	A 12.9 B 4.4 C 6.7	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方方向へ削り。体部下端 手持ちへ削り。	長石・石英・雲母 明オリープ灰色 不良	P84 80% 窯
2	坏 須恵器	A [12.6] B 4.2 C [7.2]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転切り離し後押え。	長石多・石英・雲母 灰色 普通	P85 30% 窯覆土
3	高台付坏 須恵器	A 13.3 B 5.0 D 7.8	平底で「ハ」の字状に開く高台 が付く。	底部回転へ削り後、高台貼り 付け。	長石・石英・雲母多 灰オリープ色 普通	P86 95% 窯内左奥逆位
4	甕 土師器	B (6.5) C [9.0]	底部破片。平底。体部は外傾し て立ち上がる。	体部外面斜位のへら磨き。底部 へ削り。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P83 10% 覆土
5	甕 須恵器	A [44.4] B (13.2)	口縁部破片。口縁部は外反する。 端部は折り返され断面三角形。	口縁部内・外面横ナデ。頸部に 6本一条の波状文を5段に付 す。	長石礫・石英礫・ 雲母末、橙色 普通	P88 20% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	管状土製品	(3.4)	3.0	—	(9.8)	覆土 DP8 孔径0.5~0.6	50%

第20B号住居跡 (第49図)

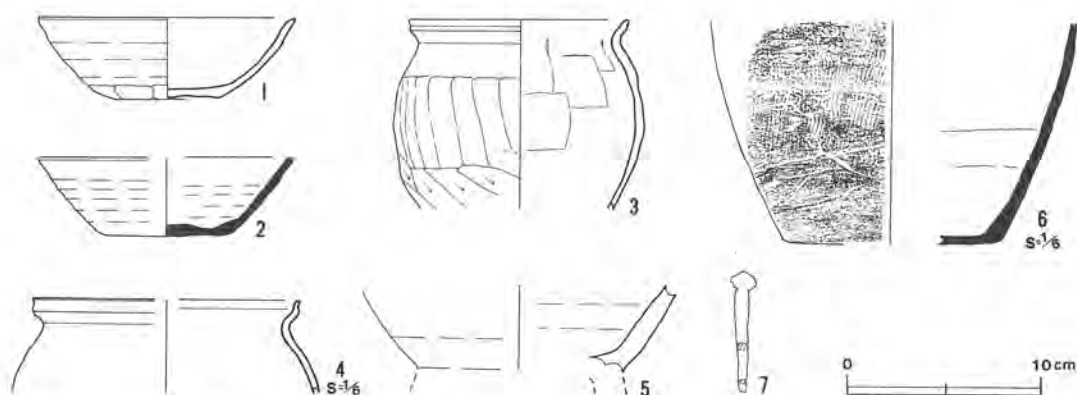
位置 B3e<sub>9</sub>区 重複関係 第20A号住居跡の北西部コーナーを壊して、覆土中に床面を構築している。規模と平面形 長軸3.60m, 短軸3.44mの方形。主軸方向 N-11°-E

壁 壁高14~18cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。床 第20A号住居跡と重複している部分では、同住居跡の覆土中に床面を作っているため不明瞭であった。しかし、わずかな硬化面と少量のロームブロック、遺物の広がり状況で床が確認できた。ピット 確認できなかった。

竈 北壁中央部の位置を24cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、幅110cm、長さ96cmである。袖部と煙道部以外はやや不明瞭であったが、竈奥に底部の破損した小形の甕を正立状態で埋め込んであった。小形甕の外周と内側に接した粘土は加熱を受けて赤変していた。覆土 2層からなる。2層は、壁崩落の自然堆積土層と思われる。覆土の主体となる1層は少量の炭化物粒子・焼土粒子・砂粒を含む土層である。各時代の複合する寄居遺跡では、比較的新しい時期の住居跡覆土には、上記の含有物が特に目だっている。

遺物 南壁際の床面付近から第51図1の坏が、竈奥の煙道部から3の小形甕が出土している。

所見 本跡は、重複関係から、第20A号住居跡よりも新しく、出土遺物から9世紀後葉の住居跡と考えられる。



第51図 第20B号住居跡出土遺物実測図

### 第20B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第51図 1	坏 土師器	A 13.7 B 4.4 C 5.6	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	摩耗により底部の調整不明。体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色 普通	P89 80% 覆土(1層)
2	坏 須恵器	A [13.5] B 4.2 C 5.8	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部ヘラ切りはなし無調整。体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面横ナデ。	長石多・石英・雲母 灰色 普通	P93 40% 覆土(1層)
3	小形甕 土師器	A 11.5 B (10.1)	底部欠損。体部は中位に最大径を持ち、頸部でくびれ口縁部は外反する。端部を上方につまみ上げる。	体部外面下半部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P90 80% 竈煙道部埋め込み、二次焼成
4	甕 土師器	A [21.2] B (7.5)	口縁部破片。口縁部は外反し、端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母にぶい褐色 普通	P92 5% 覆土

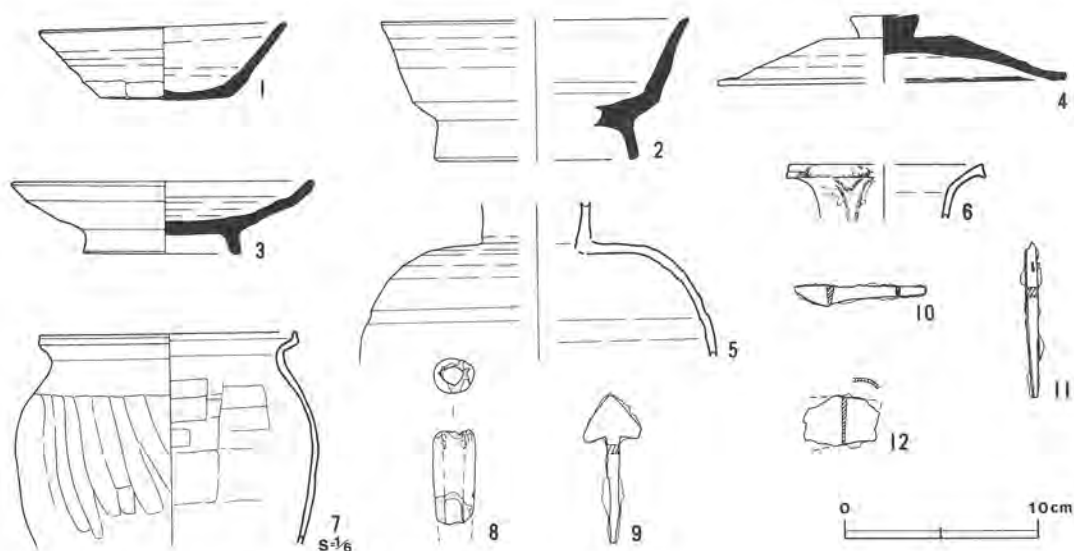
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第51図 5	長頸瓶 灰軸陶器	B (4.6)	体下半部破片。	体部内・外面横ナデ。	緻密 外面オリーブ灰色 内面灰色, 良好	P94 5% 2区覆土
6	鉢 須恵器	B (17.7) C [16.6]	体下半部破片。平底。体部は内 響気味に立ち上がる。	体部外面平行叩き, 底部付近横 方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 明褐色 内面灰色, 良好	P95 20% 覆土 (1層)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	鉄釘	6.4	1.3	0.4	8.1	覆土1層	M7

### 第25B号住居跡 (第27・28図)

**位置** B2e<sub>9</sub>区 **規模と平面形** 長軸3.36m, 短軸3.00mの長方形。 **主軸方向** N-9°-W  
**壁** 壁高4~38cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦で, 中央部分が踏み固められて  
いる。 **ピット** 1か所。径15cmで, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。 **竈** 北壁中央  
部を30cm程壁外へ掘り込み, 砂まじりの粘土で構築されている。規模は, 幅120cm, 長さ96cmで  
ある。火床部は7cm程掘りくぼめられ, 煙道部は燃焼部奥から緩やかに外傾して立ち上がってい  
る。 **覆土** 3層からなり, 1層は耕作土層である。覆土の厚さ40~50cmの2層は, 焼土小ブロッ  
ク・炭化物・ローム粒子・砂粒を含んでいる。3層も自然堆積土層と考えられる。

**遺物** 第52図-7の甕破片が, 竈内の左袖奥の内面に袖構築材の一部として使われたような状況  
で出土している。1の須恵器杯, 2の高台付杯は2層から, 3の小形盤は3層中からそれぞれ出



第52図 第25B号住居跡出土遺物実測図



土している。覆土中の遺物は在地産の須恵器が主体となっているが、それらに混じって5の灰釉陶器長頸瓶の肩部破片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から9世紀中葉頃の住居跡と考えられる。

### 第25B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第52図 1	須恵器	A 13.1 B 4.1 C 6.6	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へら削り。体部下端手持ちへら削り。	長石少・雲母未多 明オリーブ灰色 普通	P139 90% 覆土(2層)
2	高台付須恵器	A [16.2] B 7.5 D [10.8]	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転へら削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P140 25% 覆土(2層)
3	小形須恵器	A [16.1] B 3.9 D 8.3	平底。体部は緩やかに外傾し、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	底部回転へら削り後、高台貼り付け。	長石礫・石英礫・ 雲母未、黒褐色 普通	P141 90% 覆土(3層)
4	蓋須恵器	A [18.1] B 3.6 F 3.6	天井部破片。天井部に平坦面を持つ。厚みがあり中央がわずかに突出するつまみが付く。	天井部平坦面回転へら削り。	砂礫・雲母 明赤褐色 普通	P142 40% 覆土 二次焼成
5	長頸瓶灰釉陶器	B (7.3)	肩部から頸部にかけての破片。肩部は丸く、張りを持たない。	体部内・外面横ナデ。	緻密 暗オリーブ色 良好	P143 15% 覆土(3層上面)
6	長頸瓶灰釉陶器	A [10.0] B (2.9)	口縁部破片。口縁部は外反し、端部はくぼんだ平坦面をつくる。	口縁部内・外面横ナデ。	緻密 灰白色 良好	P144 5% 覆土
7	甕土師器	A [20.6] B (17.1)	底部破損。体部上位に最大径を持ち、頸部でくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	体部外面斜位のへらナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P145 30% 甕袖補強材に利用

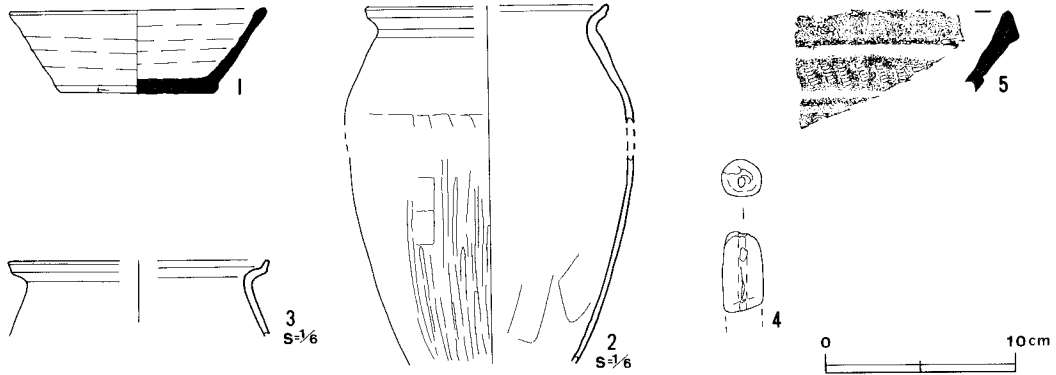
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	管状土製品	(4.9)	2.1	—	(19.0)	覆土	DP16 孔径1.3 70%
9	鉄鏃	(3.1)	3.1	0.5	17.0	覆土(1層)	M14
10	刀子	(7.0)	1.3	0.5	7.3	覆土(1層)	M15
11	鉄釘	(8.3)	0.7	0.5	11.8	覆土(3層)	M16
12	鉄鎌	(4.0)	2.8	0.2	10.6	覆土(2層)	M17

### 第27号住居跡 (第34・35図)

位置 B3g,区 規模と平面形 長軸3.38m,短軸3.34mの方形。主軸方向 N-19°-W 壁 壁高49~60cmで,垂直に立ち上がっている。床 平坦で,踏み固められている。ピット 1か所。径22cm,深さ15cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。竈 北壁中央部を40cm程壁外へ掘り込み,砂まじりの粘土で構築されている。規模は,幅145cm,長さ85cmである。火床部はほぼ平坦で,煙道部は燃焼部から外傾して立ち上がっている。覆土 1層で,極暗褐色の自然堆積土層である。遺物 第53図-1の須恵器坏は,竈近くの床面から出土している。2・3の土師器の甕,5の須

恵器甕口縁部は覆土から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀後葉から9世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



第53図 第27号住居跡出土遺物実測・拓影図

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第53図 1	須恵器	A 13.3 B 4.5 C 8.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転切り離した後ゆっくりとした回転によるヘラ削り。体部内・外面横ナデ。	長石少・雲母未多 明オリブ灰色 普通	P152 75% 北コーナー部床面
2	甕 土師器	A [19.4] B (24.8)	口縁部及び体下半部破片。頸部でくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	体部外面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P150 20% 覆土
3	甕 土師器	A [20.6] B (6.2)	口縁部破片。頸部でくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	体部外面ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P151 5%

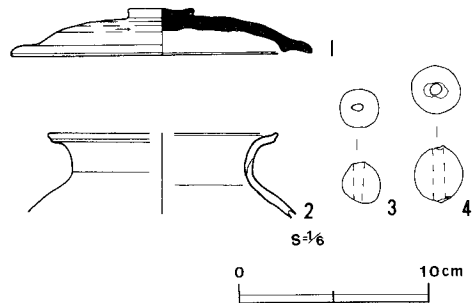
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	管状土製品	(4.2)	2.1	—	(18.0)	覆土	DP17 孔径0.3 60%

第28B号住居跡 (第34・35図)

位置 B2h<sub>0</sub>区 重複関係 第28A号住居跡を掘り込み、第28C号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.72m, 短軸4.52mの方形。

主軸方向 N-36°-W 壁 壁高20~34cmで、垂直に立ち上がっている。床 平坦で、踏み固められている。ピット 4か所。4か所とも径20cm前後の柱痕径で、P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>は径40~50cmの掘り方が確



第54図 第28B号住居跡出土遺物実測図

認できた。竈 北壁中央部を50cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、推定幅100cm、長さ75cmである。火床部はほぼ平坦で、煙道部は燃烧部から急に立ち上がっている。覆土 1層で、極暗褐色の自然堆積土層である。

遺物 第54図-1の須恵器坏蓋は、南壁際の覆土から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀前葉頃の住居跡と考えられる。

### 第28B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図 1	蓋 須恵器	A [16.0] B 2.5 F 3.5	天井部から緩やかに口縁部に到る。偏平なつまみが付く。内面に低いかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母未 灰白色 普通	P158 90% 3区覆土
2	甕 土師器	A [18.3] B (6.9)	口縁部破片。頸部はくびれ、口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P159 15% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	土玉	2.2	2.0	—	7.5	南コーナー床面	DP19 孔径0.4~0.6	100%
4	土玉	3.0	2.6	—	16.1	覆土	DP20 孔径0.6	100%

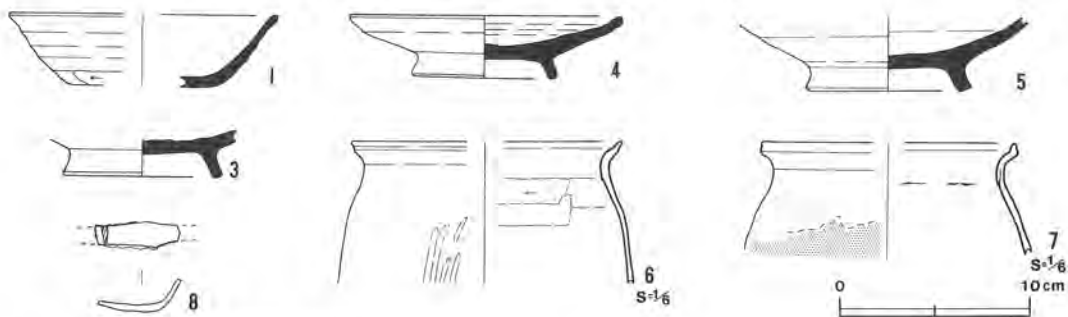
### 第28C号住居跡 (第34・35図)

位置 B2h区 重複関係 第28B号住居跡を掘り込んでいる。規模と平面形 長軸(3.30)m、短軸(3.20)mの方形。主軸方向 N-15°-W 壁 壁高約20cmで、垂直に立ち上がっている。

床 平坦である。ピット 3か所で、P<sub>1</sub>は径10cm、深さ15cmで出入口施設に関するピットと考えられる。P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>は径が30~34cm、深さ28~37cmで本跡に伴わない可能性が高い。竈 北壁中央部を70cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、幅124cm、長さ120cmである。覆土 1層で、極暗褐色の自然堆積土層である。

遺物 実測遺物はすべて覆土から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀中葉頃の住居跡と考えられる。



第55図 第28C号住居跡出土遺物実測図

第28C号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第55図 1	坏 須恵器	A [14.2] B 3.8 C [7.6]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部調整不明。体部下端手持りへら削り。	長石・石英 灰色 普通	P160 15%
2	坏 須恵器	A [13.6] B 4.3 C [7.1]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部調整不明。体部下端手持りへら削り。	雲母末 灰色 普通	写真図版 15%
3	高台付坏 須恵器	B (2.5) D 8.4	底部破片。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転へら削り後、高台貼り付け。	長石礫・石英礫・雲母末多、明黄褐色 普通	P162 45%
4	高台付皿 須恵器	A [14.5] B 3.3 D 7.7	平底。体部は緩やかに外傾し、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部外傾する。	底部回転へら削り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P163 70% 覆土
5	盤 須恵器	B (3.9) D 8.1 E 1.2	平底。体部は緩やかに外傾する。	底部回転へら削り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P164 60% 覆土
6	甕 土師器	A [21.6] B (11.4)	口縁部破片。頸部でくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	体部外面斜位のへらナデ後口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P165 15% 覆土
7	壺 土師器	A [20.0] B (8.9)	口縁部破片。頸部でくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石多・石英多・雲母、明赤褐色 普通	P166 15% 覆土 粘土付着痕

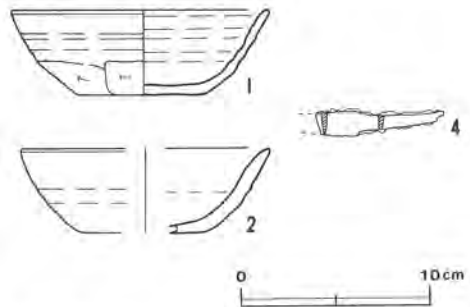
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	刀子	(4.8)	1.3	0.3	8.3	床面 (22.645m 標高)	M19

第30号住居跡 (第57図)

位置 B3is区 規模と平面形 長軸3.70m, 短軸3.44m の方形。 主軸方向 N-7°-E

壁 壁高約14cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。 床 平坦で、コーナーまで踏み固められている。 ピット 1か所。径26cm, 深さ20cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を60cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、幅145cm, 長さ157cmで、竈の残りの状態は悪い。両袖とも基底部の幅は40cmである。燃焼部には、焼土粒子や焼土ブロック・炭化物が充満しており、天井部の崩落ブロックも見られる。火床部は、10cmほど掘り窪められており焼土化している。煙道部は、焚口部から緩やかに外傾して立ち上がっている。 覆土 2層からなり、暗褐色土層である。

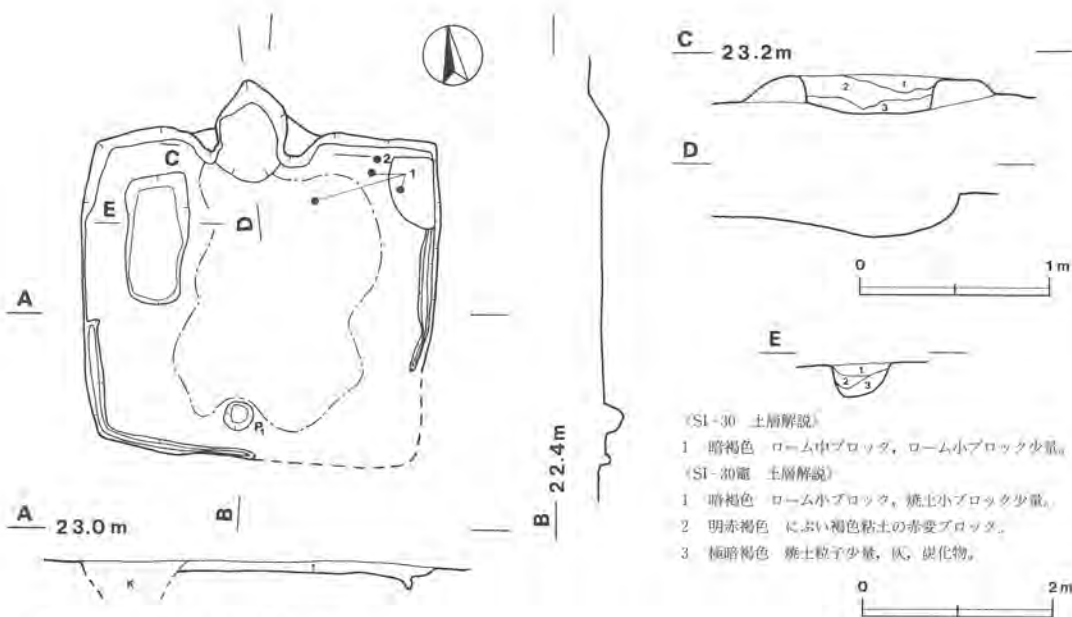


第56図 第30号住居跡出土遺物実測図

遺物 第56図-1の坏は、床上に残されたような状

況で北東コーナー付近から出土している。3の坏は竈内・外面から破片で出土している。

所見 本跡は、支柱穴をもたないことや、床に残されていた出土遺物から、9世紀後葉頃の住居跡と考えられる。



第57図 第30号住居跡実測図

第30号住居跡出土遺物観察表

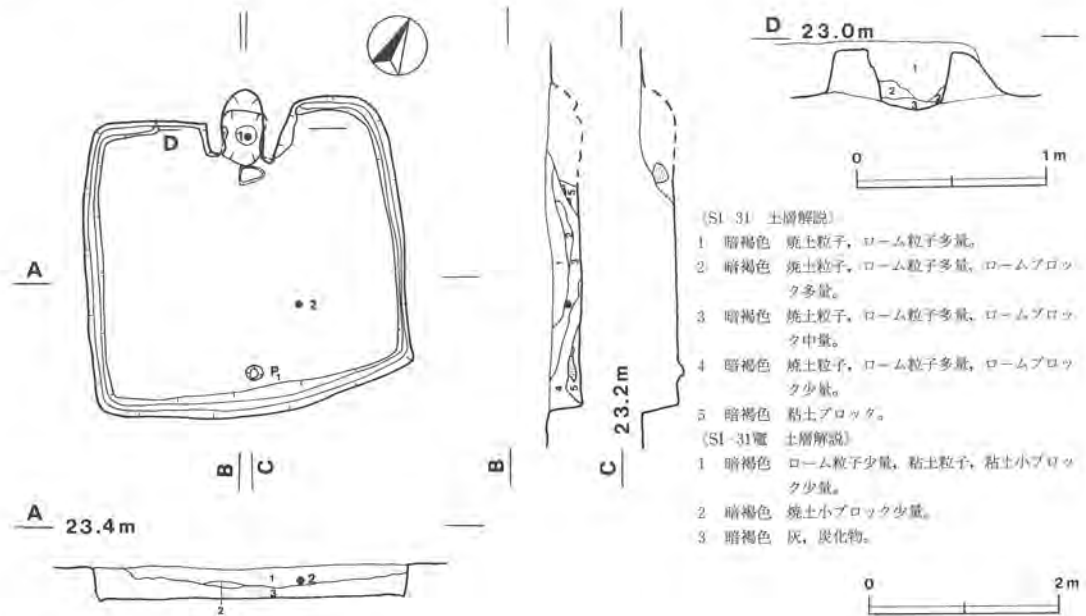
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 1	坏 土師器	A 13.7 B 4.5 C 6.6	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。体部内・外面横ナデ。	雲母末・長石・石英 におい橙色 普通	P170 70% 床面
2	坏 土師器	A [13.2] B 4.5 C [6.5]	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。体部内・外面横ナデ。	長石礫・石英礫 橙色 普通	P171 30% 床面
3	坏 土師器	A [13.6] B 4.0 C [7.0]	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 におい黄褐色 普通	写真図版 20% 竈・床面 内面黒色処理

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	刀子	(6.9)	1.4	0.3	9.2	覆土	M20

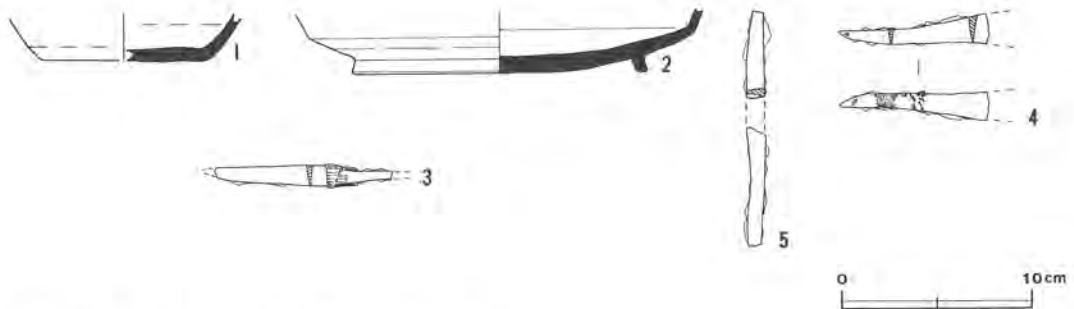
第31号住居跡 (第58図)

位置 B3i区 規模と平面形 長軸3.32m,短軸3.16mの方形。主軸方向 N-24°-W 壁 壁高34~38cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。床 平坦で、踏み固められている。ピット 1

か所。径18cm、深さ5cmで、出入り口に伴うピットと考えられる。竈 北西壁中央部を42cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、幅98cm、長さ110cmである。袖部が比較的良く残っており、両袖とも基底部の幅は30cm程である。燃焼部からは、灰・炭化物が出土している。火床部は、床面から8cmほど掘りくぼめられている。煙道部は、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土 5層からなる。5層は粘土ブロックを含み、竈近くと南壁際に堆積している。出入り口ピットのある南壁側には、5層上に4層が堆積している。3層が覆土の主体となっており、中央部に1・2層がレンズ状に堆積している。3層中にやや土器片が多く入る。遺物 第59図-1の須恵器の坏は、竈内から破片で出土している。2の須恵器の盤は、3層上面から出土している。所見 本跡は、出土遺物から8世紀の後葉頃の住居跡と考えられる。



第58図 第31号住居跡実測図



第59図 第31号住居跡出土遺物実測図

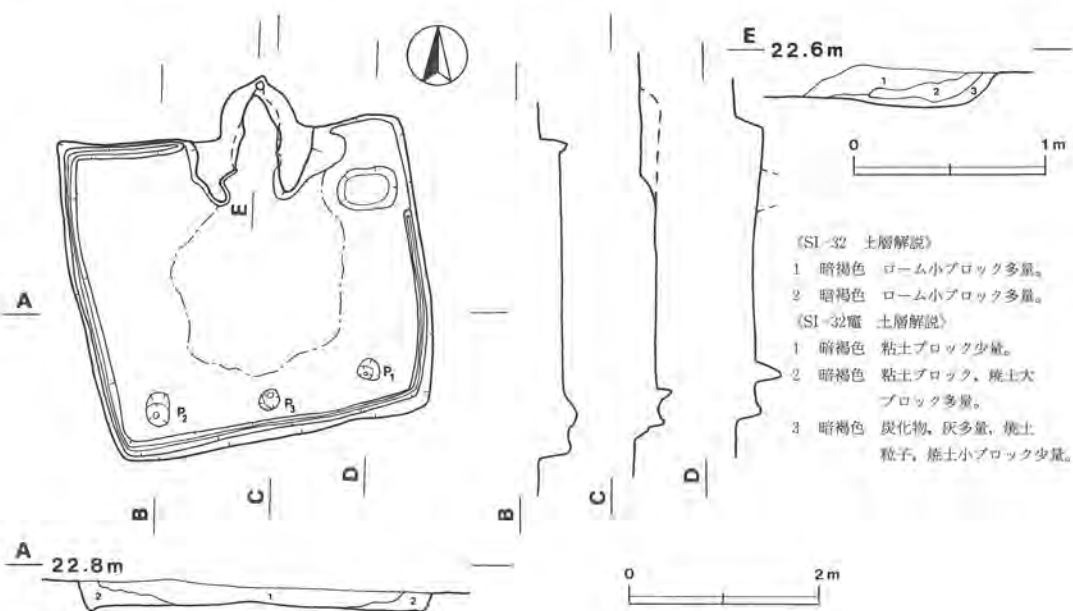
### 第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第59図 1	坏 須恵器	B (2.5) C [8.7]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転切り離し後、四方向へラ削り調整。	長石・石英・雲母・スコリア、灰白色 普通	P173 20% 甕
2	盤 須恵器	B (3.4) D [15.7] E 0.8	平丸底。体部は緩やかに外傾し、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P66 50% 覆土(3層上面)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	刀子	(9.4)	1.1	0.3	10.3	南壁直下壁溝内	M21
4	刀子	(7.9)	1.7	0.3	11.4	南壁直下壁溝内	M22
5	刀子	(11.1)	1.3	0.45	11.0	3区覆土	M23

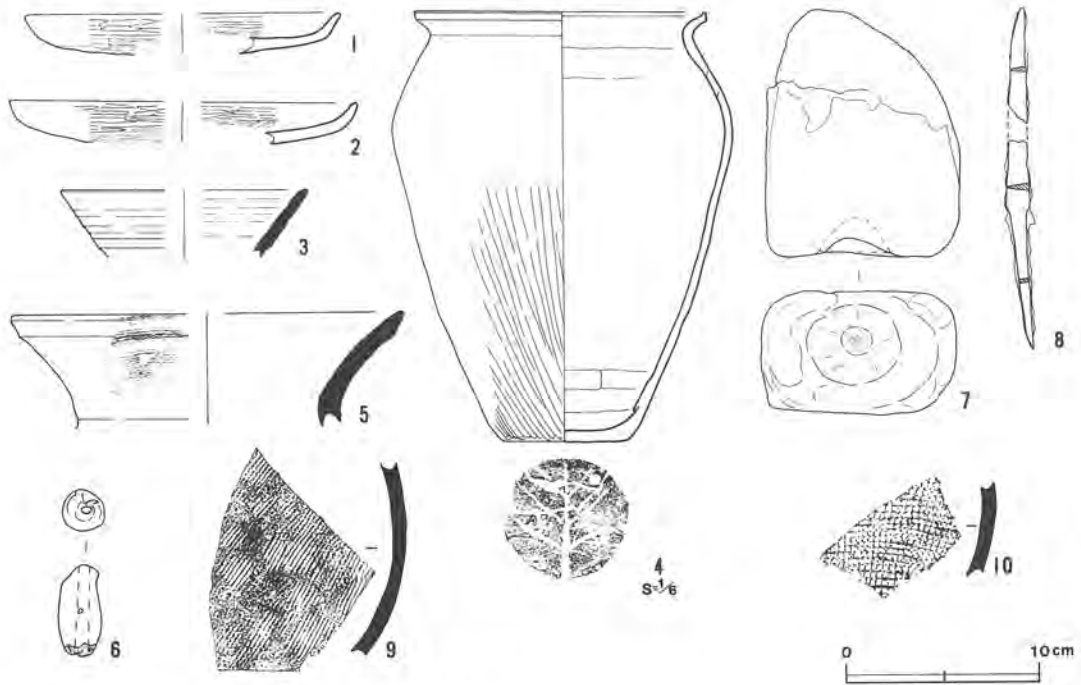
### 第32号住居跡 (第60図)

位置 B3g区 規模と平面形 長軸3.70m,短軸3.30mの長方形。主軸方向 N-6°-W 壁 壁高21~31cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。床 平坦で、踏み固められている。ピット 3か所。P<sub>1</sub>は、径18cm,深さ30cm, P<sub>2</sub>は、径24cm,深さ13cmである。P<sub>3</sub>は、径18cm,深さ17cmで、出入り口に伴うピットと考えられる。竈 北壁中央部を60cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、幅150cm,長さ134cmである。竈内の覆土中には、袖上部や天井部から落下した粘土の大ブロックが見られる。火床部は、ほぼ平坦で、燃焼部から煙道部にかけての内壁面



第60図 第32号住居跡実測図

に赤変硬化部分が見られる。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土 2層からなる。2層は壁際に堆積している。1層は、ロームブロックを土層中に均質に含み人為的堆積である。1・2層の間に遺物を多く含んでいる。遺物 実測できた遺物は、壁近くでは2層の面に添うように傾斜してみられ、中央部では床上から出土している。第61図-4の甕は東壁側の2層上面に広く破片で分散している。覆土出土の10の須恵器甕胴部には格子叩きが施されている。所見 遺物の出土状況や土層の堆積状況は、住居廃絶後比較的まもない時期に遺物が捨てられ、その後人為的に埋めもどされているようである。当住居跡の時期は、出土遺物から9世紀後葉頃と考えられる。



第61図 第32号住居跡出土遺物実測・拓影図

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第61図 1	皿 土師器	A [18.5] B (2.2) C [7.2]	平底。体部は水平に広がり、口縁部で屈曲し、外傾する。	底部ヘラ削り。体部内・外面横位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母の各微粒子、褐灰色普通	P174 15% 覆土(2層上面)
2	皿 土師器	A [18.5] B (2.2)	平底。体部は水平に広がり、口縁部で屈曲し、外傾する。	底部ヘラ削り。体部内・外面横位のヘラ磨き。	スコリア状の砂礫 明赤褐色 普通	P175 15% 覆土(2層上面)
3	坏 須恵器	A 13.0 B (3.6)	体部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	雲母末多 灰色 普通	P176 10% 覆土(2層上面?)
4	甕 土師器	A 23.0 C 9.8	体部破損。平底。体部は外傾して立ち上がり、体部上位に最大径を持つ。口唇部をつまみ上げる。	体部外面斜位のヘラ磨き。底部木葉痕。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P177 60% 覆土(2層上面)



図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第61図 5	壺 須恵器	A [20.8] B (5.9)	口縁部破片。口縁部は外反する。 外面端部直下に突縁を持つ。	口縁部外面浅いカキ目。口縁部 内面横ナデ。	長石微粒子・長石 砂粒、灰色 普通	P178 10% 覆土(2層上面)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	管状土製品	4.9	2.4	—	22.2	1区覆土	DP21 孔径0.5~0.7 90%
7	支脚	13.2	10.2	6.5	711.0	竈覆土	DP22 40%
8	刀子	(19.0)	1.75	0.4	(20.2)	覆土	M24

### 第33号住居跡 (第62図)

**位置** B4h<sub>1</sub>区 **規模と平面形** 長軸5.90m, 短軸5.30mの長方形。 **主軸方向** N-0°

**壁** 壁高9~23cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦で、踏み固められている。

**ピット** 4か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径32~38cm, 深さ40~58cmで、いずれも支柱穴である。

**竈** 北壁中央部を86cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの褐色粘土で構築されている。規模は、幅212cm, 長さ154cmである。火床部は8cmほど掘りくぼめられ、煙道部は緩やかに立ち上がっている。

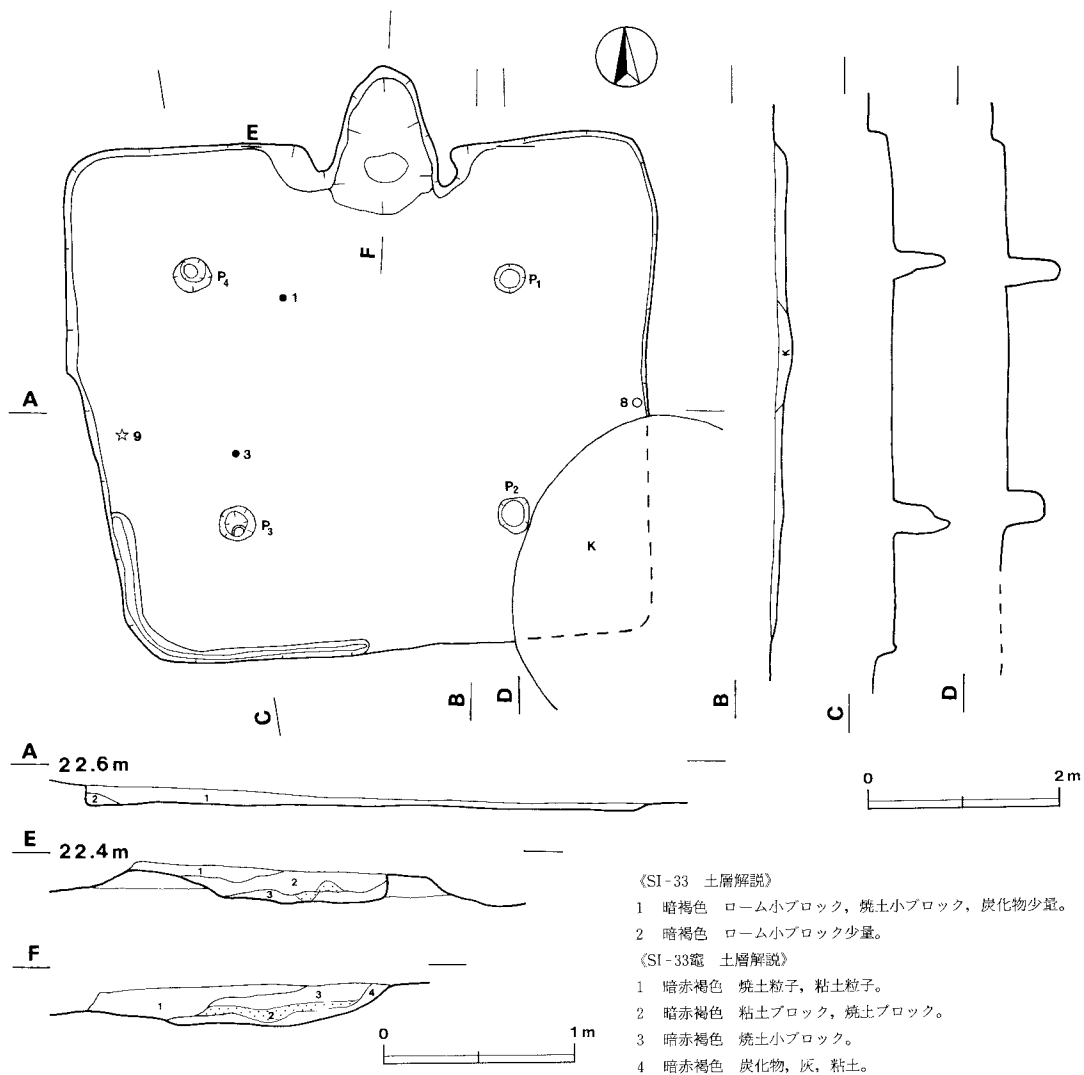
**覆土** 2層からなる。1層が覆土の主体となっており炭化物や焼土のブロックを含み、東壁際には一部炭化材も含まれている。2層は壁際に堆積する土層である。

**遺物** 実測したほとんどの遺物は、覆土1層中から破片で出土したものである。第63図-6の鉢は、1号井戸覆土中出土のものと同じ個体と思われる。

**所見** 覆土中の遺物の中では、9世紀中葉頃の遺物が最も新しい。本跡は、9世紀中頃の住居跡と考えられる。

### 第33号住居跡出土遺物観察表

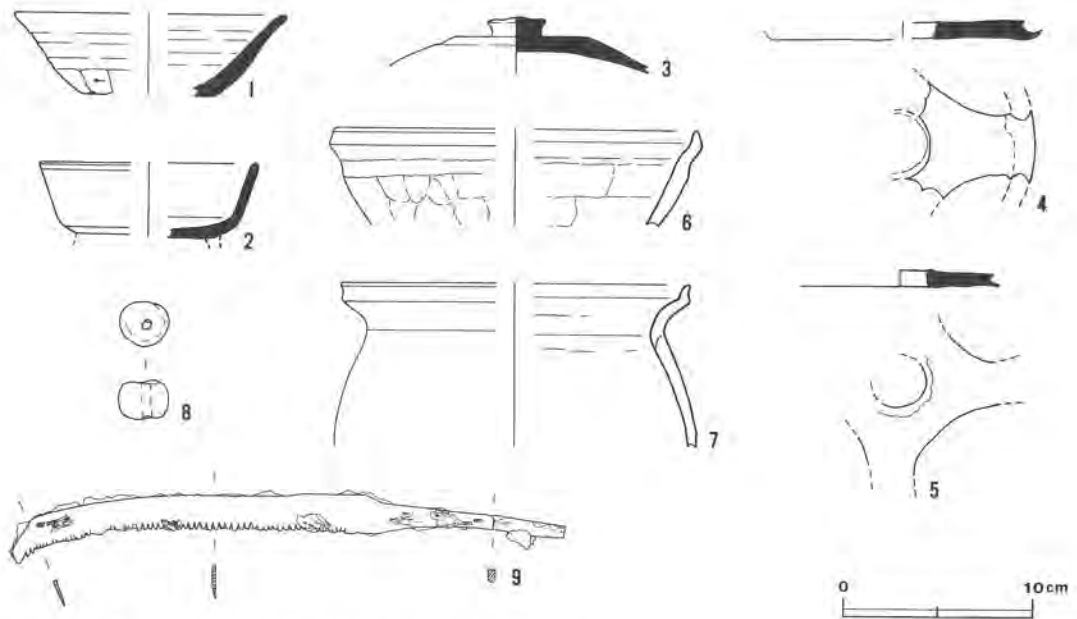
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第63図 1	坏 須恵器	A [14.4] B (4.4) C [7.0]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方へラ削り。体部下端 手持ちへラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P182 10% 覆土
2	高台付坏 須恵器	A [11.6] B (4.0)	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転へラ削り後高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P181 30% 4区覆土
3	蓋 須恵器	B (3.0) F 3.0 G 1.0	天井部は平坦で、中央部がやや突出する腰高のつまみが付く。	天井部回転へラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P183 70% 覆土
4	甗 須恵器	A [14.0]	甗の底部破片。		長石微粒子・長石 砂礫、灰色、普通	P184 5% 4区覆土
5	甗 須恵器	B (0.9)	甗の底部破片。		長石・石英 灰色、普通	P185 5% 竈底面灰層中
6	鉢 土師器	A [19.0] F (5.1)	口縁部破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反し端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英の砂礫 多・雲母末 にぶい橙色、普通	P179 10% 4区覆土、SI1 覆土遺物と接合



第62図 第33号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第63図 7	甕 土師器	A [18.4] B (8.7)	口縁部破片。口縁部は外反し、 口唇部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・金雲 母末、橙色 普通	P180 10% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	土玉	2.1	2.6	—	11.5	覆土	DP23 孔径0.4~0.5 90%
9	鋸	29.4	1.8	0.4	76.2	覆土2層上面	M25



第63図 第33号住居跡出土遺物実測図

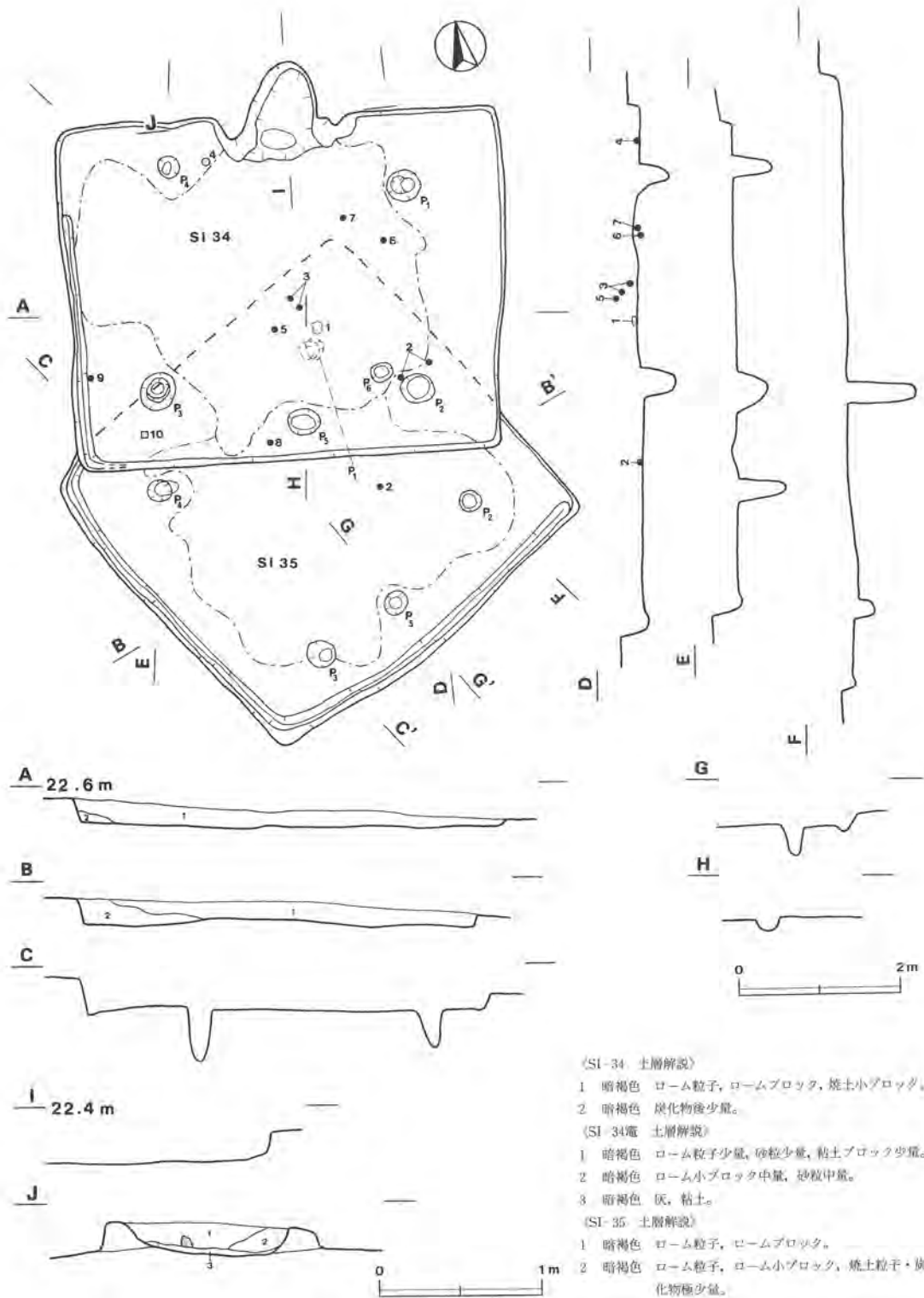
#### 第34号住居跡 (第64図)

**位置** B4j<sub>1</sub>区 **重複関係** 本跡は、第35号住居跡の北部を壊している。**規模と平面形** 長軸5.40m, 短軸(4.00)mの長方形。**主軸方向** N-6°-E **壁** 壁高約14~32cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。**床** 平坦で、全面が堅く踏み固められている。**ピット** 6か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径28~42cm, 深さ30~60cmで、いずれも支柱穴である。P<sub>5</sub>は、径40cm, 深さ18cmで、出入り口に伴うピットと考えられる。P<sub>6</sub>はP<sub>2</sub>の内側0.5mの位置にあり、深さ13cmである。

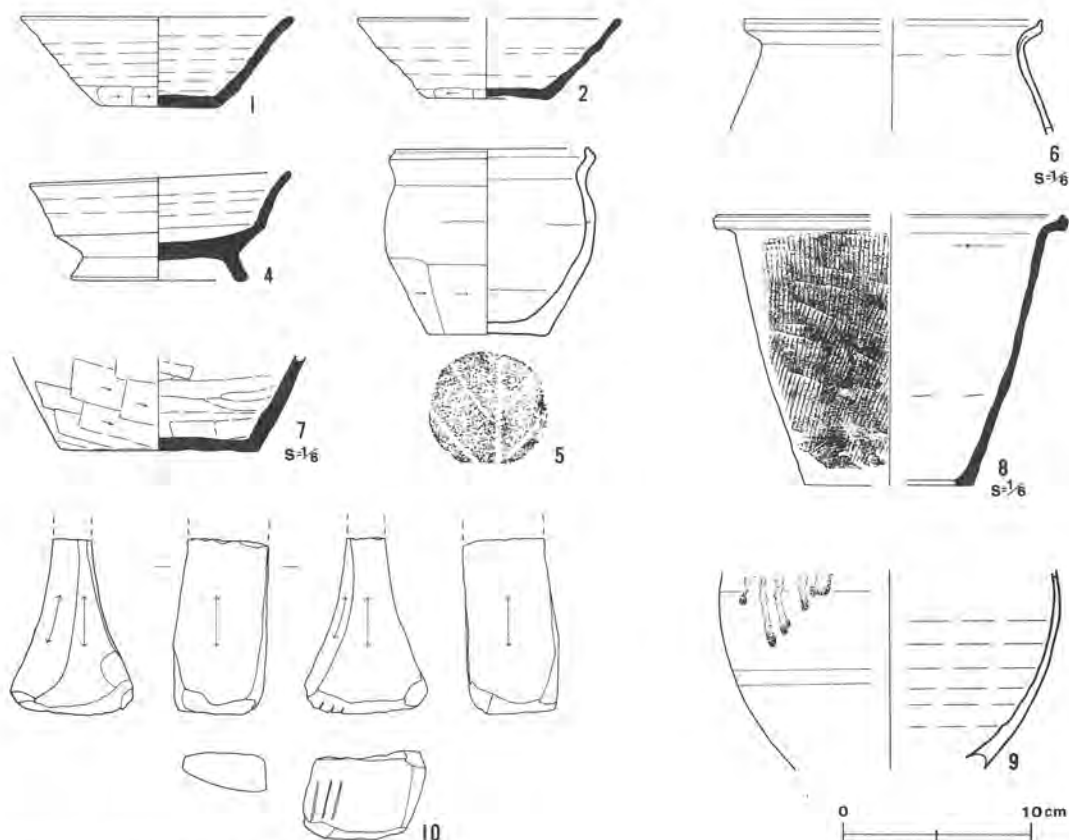
**竈** 北壁中央部を66cm程壁外へ掘り込み、ローム及び砂まじりの褐色粘土で構築されている。規模は、幅174cm, 長さ126cmである。火床部はほぼ平で、煙道部は最奥の部分で最初緩やかで、すぐに急激に立ち上がっている。**覆土** 2層からなる。1層が覆土の主体となっており、大量に土器の投棄が見られる。自然堆積と思われるが、木の根の抜取りによる上層の攪乱が著しい。2層は壁際に堆積する土層である。

**遺物** 400片を超える土器片が覆土中から出土している。第65図-4の須恵器の高台付坏は竈袖部内から、その他の実測できた遺物の中にはほぼ完形のものもあるが、全体の出土状況からみると、ほとんどの遺物は投棄されたものと思われる。9は灰釉陶器であるが、二次的な火を受けたような肌合をしている。第33号住居跡の3区覆土中出土の破片と同一個体である。

**所見** 本跡は、出土遺物から9世紀中葉頃の住居跡と考えられる。



第64図 第34・35号住居跡実測図



第65図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第65図 1	坏 須恵器	A 14.5 B 4.9 C 6.1	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端 手持ちへラ削り。	長石礫・石英礫・ 雲母、灰褐色 普通	P186 80% 床面
2	坏 須恵器	A [13.9] B 4.3 C 6.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端 手持ちへラ削り。	長石礫・石英礫・雲 母、にぶい黄褐色 普通	P187 60% 床面付近覆土下 層
3	坏 須恵器	A [13.9] B 4.4 C [6.5]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端 手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母未 灰色 普通	写真図版 30% 覆土
4	高台付坏 須恵器	A [13.9] B 5.8 D 9.3	底部破片。平底で「ハ」の字状 に開く高台が付く。	底部回転へラ削り後、高台貼り 付け。体部内・外面横ナデ。	長石礫・石英礫・黒 色粒子、暗緑灰色 普通	P189 80% 甕袖部内
5	小形甕 土師器	A [13.0] B 9.9 C 6.3	体部上位に最大径を持ち、頸部 でくびれ口縁部は外反する。口 唇部を上方につまみ上げる。	体部外面下半部へラ削り。口縁 部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P191 70% 覆土上層
6	甕 土師器	A [23.6] B (9.2)	口縁部破片。頸部でくびれ口縁 部は外反する。口唇部を上方に つまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P192 10% 床面近く

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第65図 7	鉢 須恵器	B (7.7) C 15.4	底部破片。平底。	体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	雲母少量 灰色 普通	P194 15% 床面近く
8	甗 須恵器	A [27.4] B 21.7 C [13.4]	底部破損。体部は外傾して立ち上がる。口縁部で屈曲し、端部を上下に引き出す。	体部外面縦方向叩き。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母未 にふい黄橙色 普通	P195 30% 覆土上層
9	長頸瓶 灰釉陶器	B (10.6)	体下半部破片。	体部内・外面横ナデ。	緻密で長石砂粒少量、 灰オリーブ色 良好	P193 15% 西壁際覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	砥石	(9.4)	6.5	4.6	315.4	南壁寄りの床近く	Q17

### 第35号住居跡 (第64図)

**位置** B4j区 重複関係 第34号住居跡が北部を壊している。**規模と平面形** 長軸4.80m, 短軸4.76mの方形。**主軸方向** N-33°-W **壁** 壁高約14~34cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

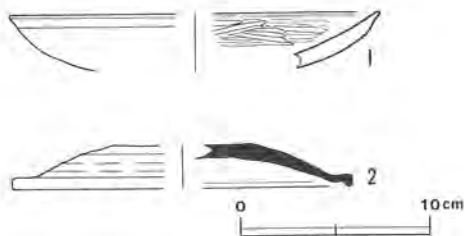
**床** 平坦で、踏み固められている。 **ピット** 5か

所。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は、径24~34cm, 深さ50~63cm, P<sub>3</sub>は、径30cm, 深さ70cmで、いずれも支柱穴と考えられる。

**覆土** 2層からなる。暗褐色主体の自然堆積土層である。

**遺物** 第66図-1の皿は3区の覆土中から、2の須恵器蓋は床直上から破片で出土している。

**所見** 竈は第34号住居跡によって壊されている。本跡は、出土遺物と遺構の切り合いから8世紀後葉頃の住居跡と考えられる。



第66図 第35号住居跡出土遺物実測図

### 第35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 1	皿 土師器	A [19.6] B (3.0)	体部はゆるやかに立ち上がり、口唇部で器厚を薄くする。内面端部に浅い沈線を持つ。	体部内・外面横位のヘラ磨き。口縁部外面横ナデ。	雲母未・長石・石英 にふい橙色 普通	P196 20% 3区覆土
2	蓋 須恵器	A [17.9] B (2.3)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部に平坦面を持ち、ゆるやかに口縁部に到る。	天井部平坦面回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 にふい橙色 普通	P190 20% 床面

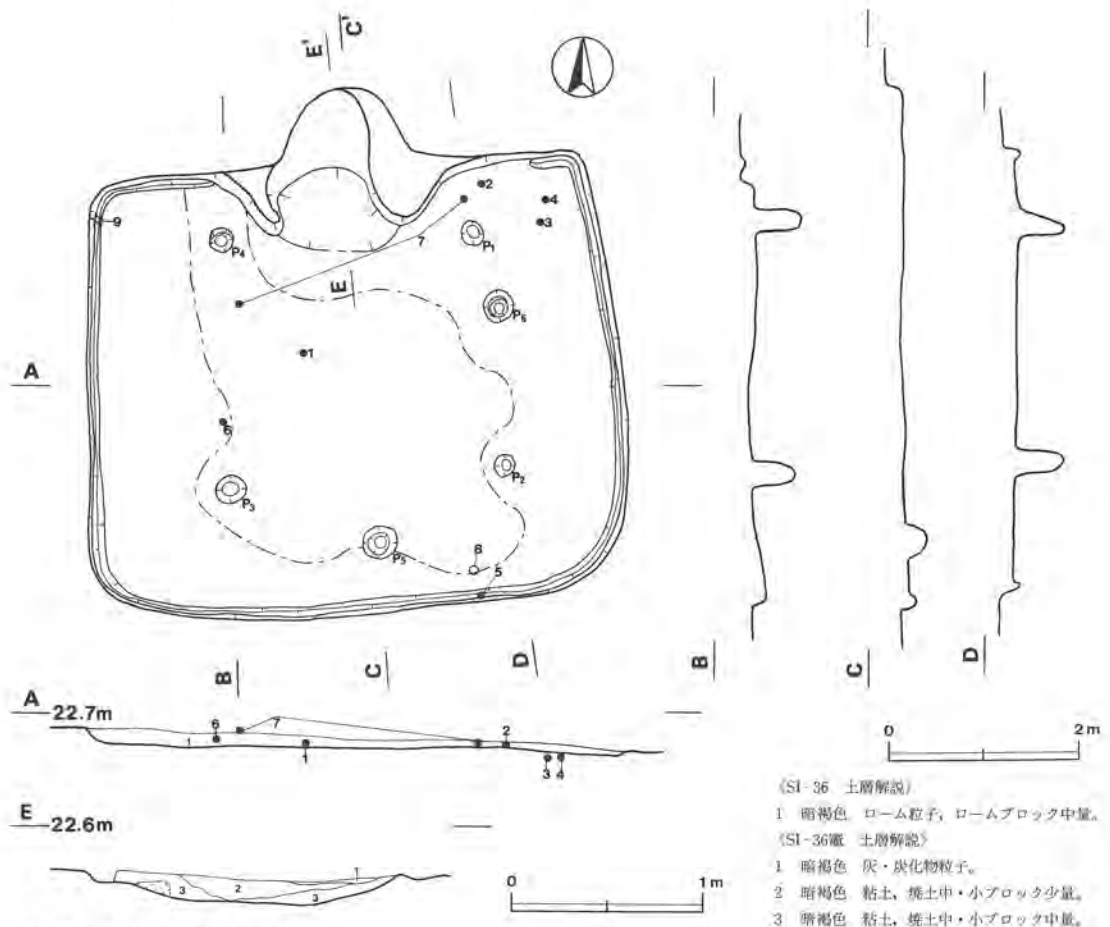
第36号住居跡 (第67図)

位置 C3b<sub>9</sub>区 規模と平面形 長軸5.64m, 短軸4.80mの長方形。 主軸方向 N-7°-W

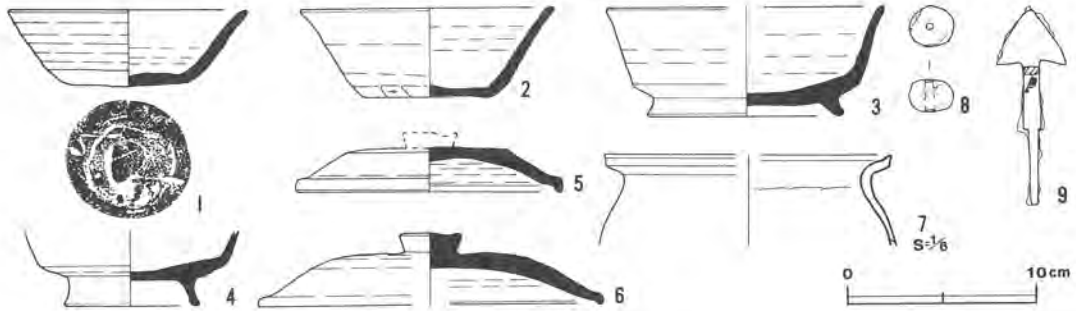
壁 壁高2~28cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。床 平坦で、ほぼ全面が踏み固められている。ピット 6か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径25~30cm, 深さP<sub>3</sub>が45cm, P<sub>1,2</sub>とP<sub>4</sub>は54~58cmで、いずれも支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は径38cm, 深さ28cmで、出入り口に伴うピットと考えられる。P<sub>6</sub>は深さ36cmである。竈 北壁中央部を70cm程壁外へ掘り込み、ローム及び砂まじりの褐色粘土で構築されている。規模は、幅210cm, 長さ152cmである。攪乱により煙道部等が壊されていた。覆土 1層である。覆土が薄く層位的な関係は把握できないが、小ブロックを均一に含み人為的である。

遺物 覆土が浅いため、遺物の層位的関係はとらえることができなかった。第68図-2・3・4・5の須恵器は床直上からの出土であるが完形率が低く、本跡に伴う遺物と考えにくい。

所見 本跡は、覆土中の遺物から9世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



第67図 第36号住居跡実測図



第68図 第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	坏 須恵器	A 12.7 B 4.1 C 6.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転へら切り離し後無調整。体部下端回転によるへら削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P197 100% 覆土(1層)
2	坏 須恵器	A 13.3 B 4.8 C 6.6	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へら削り。体部下端手持ちへら削り。	長石・石英・雲母末 灰白色 普通	P198 40% 床面
3	高台付坏 須恵器	A [14.6] B 5.8 D 10.4	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾する。	底部回転へら削り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母末 灰色 普通	P199 60% 床面
4	高台付坏 須恵器	B (4.0) D 7.2 E 1.4	底部破片。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転へら削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰白色 普通	P200 50% 床面
5	蓋 須恵器	A 14.2 B (2.4)	つまみ破損。天井部に平坦面を持ちゆるやかに口縁部に到る。端部を下方に引き下げる。	天井部平坦面回転へら削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P201 90% 床面
6	蓋 須恵器	B (3.0) F 3.0 G 1.0	天井部からゆるやかに口縁部に到る。偏平で中央部のわずかに突出するつまみが付く。	天井上半部回転へら削り。	雲母末・石英少量 灰色 普通	P202 30% 覆土(1層)
7	甕 土師器	A [22.6] B (7.3)	口縁部破片。頸部はくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 におい褐色 普通	P203 10% 覆土(1層)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	土玉	1.7	2.3	—	7.5	南壁際床面	DP24 孔径0.4~0.5 85%
9	鉄蓋	10.3	3.5	0.4	23.1	北西コーナ壁溝内	M26

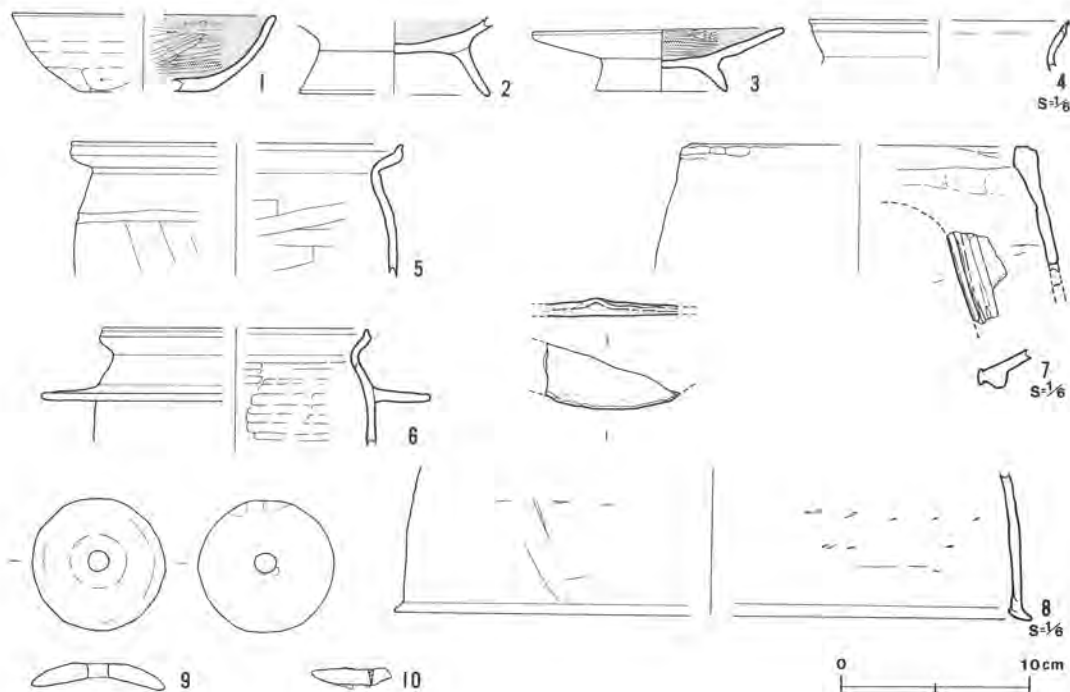
第37号住居跡 (第30図)

位置 B2c<sub>9</sub>区 規模と平面形 長軸3.55m, 短軸3.44m の方形。 主軸方向 N-23°-W  
 壁 壁高約17~60cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。 床 平坦で、踏み固められている。床  
 面中央部の径70cm程の範囲が深さ6cm程くぼんでいる。 ピット 1か所。径43cm, 深さ18cmで  
 出入り口に伴うピットと考えられる。 覆土 3層からなる自然堆積土層である。



遺物 1層中には土器破片が特に目立ち、2層堆積後に土器破片の投げ捨てが行われたと考えられる。実測できた遺物はすべてこの1層中からの出土である。遺物の中には、第69図-6の羽釜、7・8の置き竈、9の紡錘車等が見られる。8の置き竈は第40号住居跡覆土から出土したものと接合した。

所見 竈本体は、調査エリア外にあり一部しか調査できなかった。覆土中の遺物には、異った時期の遺物の混入が少なく、まとまった一時期の遺物と考えられる。本跡は、出土遺物から第40号住居跡と同時期に廃絶した9世紀後葉頃の住居跡と考えられる。



第69図 第37号住居跡出土遺物実測図

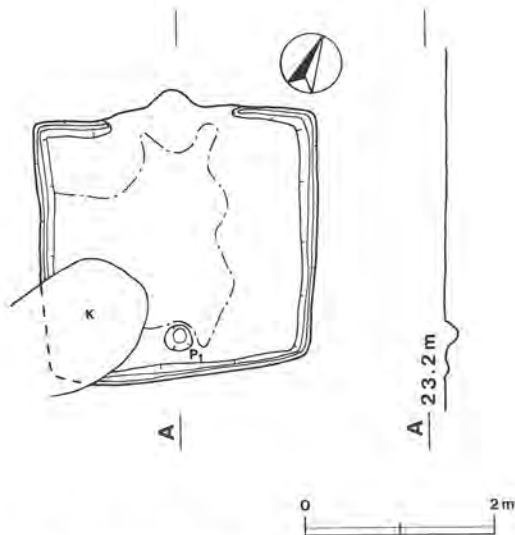
第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第69図 1	坏 土師器	A [14.0] B 4.1 C [6.6]	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面横ナデ。底部摩耗により調整痕不明。	雲母末 明褐色 普通	P204 20% 覆土(1層) 内面黒色処理
2	高台付坏 土師器	B (4.2) D [10.1] E 2.3	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ、内面磨き。	長石微粒子・スコリア、にふい橙色 普通	P205 40% 覆土(1層) 内面黒色処理
3	高台付皿 土師器	A 13.3 B 5.0 D 7.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ、内面磨き。	長石微粒子・スコリア、にふい橙色 普通	P206 70% 覆土(1層) 内面黒色処理

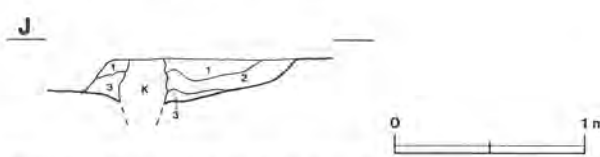
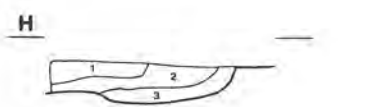
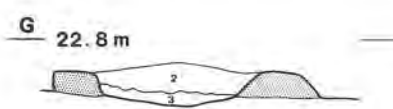
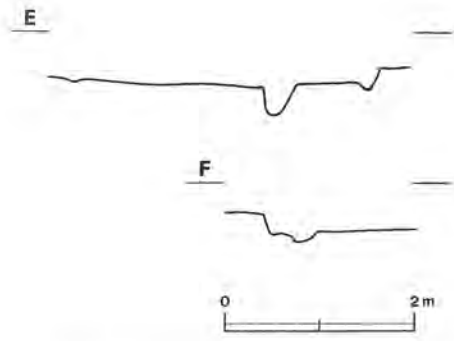
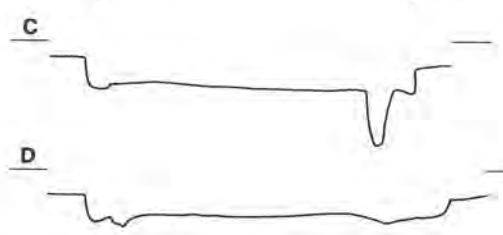
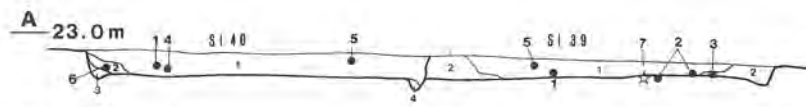
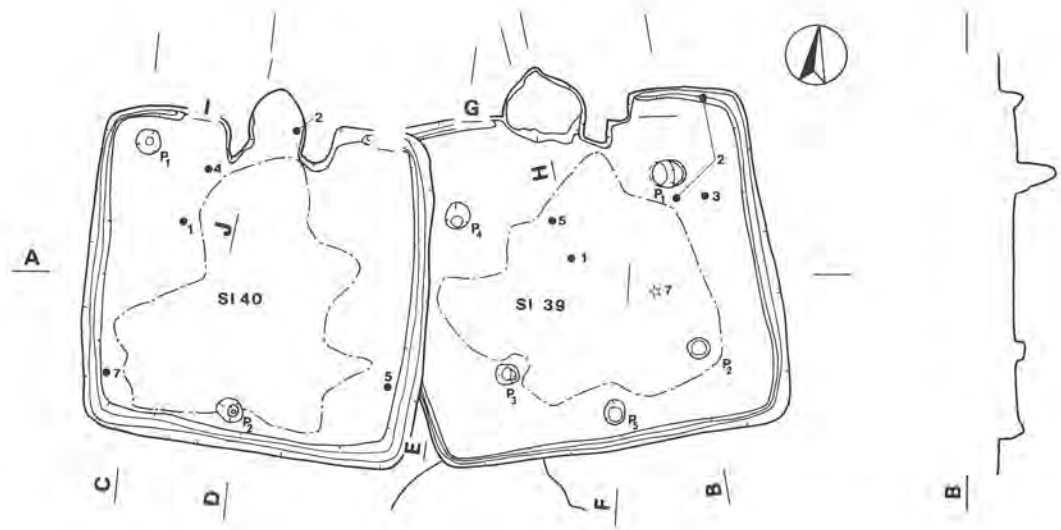
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第69図 4	甕 土師器	A [20.8] B (4.0)	口縁部破片。口縁部は外傾して開き、口唇部を外上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア、橙色 普通	P207 5% 覆土(1層)
5	甕 土師器	A [17.4] B (7.1)	口縁部破片。口縁部は外傾して開き、口唇部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	石英・スコリア 橙色 普通	P208 5% 覆土(1層)
6	羽釜 土師器	A [21.0] B (9.2)	口縁部破片。口縁部は外傾して開き、口唇部を上方につまみ上げる。体部上方に鈎が付く。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ。	長石・石英 橙色 普通	P210 5% 覆土(1層)
7	置き甕 土師器	B (16.2)	上端部及び焼き口外縁部破片。上端部は肥厚し水平な平坦面、焼き口部片は縦方向の突帯を持つ。	体上部穿孔。	長石・石英 橙色 普通	P211 5% 覆土(1層)
8	置き甕 土師器	A [50.6] B (11.7)	下端部及び鈎部破片。		長石・石英 橙色 普通	P87 5% 覆土(1層)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	紡錘車	7.1	—	1.3	48.7	覆土(1層)	DP25 孔径1.1 100%
10	刀子	(4.3)	0.9	0.2	2.6	覆土	M27

第38号住居跡 (第70図)



第70図 第38号住居跡実測図



- (SI-39 土層解説)
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子中量。
  - 2 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量。
- (SI-39竈 土層解説)
- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子中量。
  - 2 暗褐色 炭化物, 焼土多量。
  - 3 暗褐色 ローム粒子, 粘土少量。
- (SI-40 土層解説)
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック極少量。
  - 2 暗褐色 ローム粒子, ローム小ブロック少量。
  - 3 褐色 やわらかいローム。
  - 4 暗褐色 ロームブロック。
- (SI-40竈 土層解説)
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物少量。
  - 2 赤褐色 焼土大ブロック, 土器片。
  - 3 暗褐色 焼土小ブロック, ロームブロック。

第71図 第39・40号住居跡実測図

第39号住居跡 (第71図)

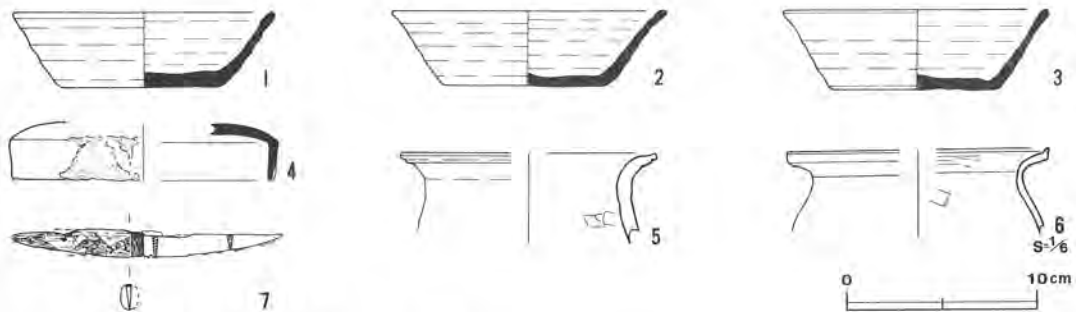
位置 B3h<sub>3</sub>区 規模と平面形 長軸3.60m, 短軸3.60mの方形。 主軸方向 N-2°-W

壁 壁高約12~20cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。 床 平坦で、中央部が踏み固められている。 ピット 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径23~30cm, 深さP<sub>2</sub>が31cm, P<sub>1</sub>とP<sub>3,4</sub>は57~61cmで、いずれも支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は径26cm, 深さ31cmで出入り口に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を40cm程壁外へ掘り込み、ローム及び砂まじりの褐色粘土で構築されている。規模は、長さ95cmである。火床部は5cmほど床を掘りくぼめ、煙道部是最奥の部分で急激に立ち上がっている。 覆土 2層からなる。1層が覆土の主体となっており、暗褐色土の自然堆積土層である。2層はローム小ブロックを多量に含み、壁際に堆積している。

遺物 第72図-1~3の須恵器の坏は、床面直上から出土しており、いずれも完形率が高く、口径値からも同時期と思われる。その他は覆土中からの出土遺物である。

所見 本跡は、床上に残された出土遺物から8世紀後葉頃の住居跡と考えられる。



第72図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 1	坏 須恵器	A 13.8 B 4.0 C 8.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方へラ削り。体部下端回転へラ削り。	長石礫・石英・雲母 黄灰色 普通	P212 90% 床面
2	坏 須恵器	A 14.6 B 4.0 C 8.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部ゆっくりにした回転へラ削り。体部下端回転へラ削り。	雲母・長石少・ス コリア少、灰色 普通	P213 80% 床面
3	坏 須恵器	A 14.1 B 4.3 C 8.6	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転へラ切り離した後無調整。体部内・外面横ナデ。	雲母末 灰色 普通	P214 80% 床面
4	蓋 須恵器	B (13.9) D [3.0]	口縁部破片。天井部からゆるやかに下り、口縁部と境で強く下方に屈曲する。葉巻の蓋に特有の形。	体部内・外面横ナデ。	礫 灰オリーブ色 普通	P216 20% 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 5	甕 土師器	A [13.6] B (4.8)	口縁部破片。頸部でくびれ口縁部は強く外反する。口唇部を外上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石多・石英 灰色 普通	P217 5% 覆土(1層)
6	甕 土師器	A [20.6] B (7.0)	口縁部破片。頸部でくびれ口縁部は強く外反する。口唇部を上方向につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P218 5% 4区覆土

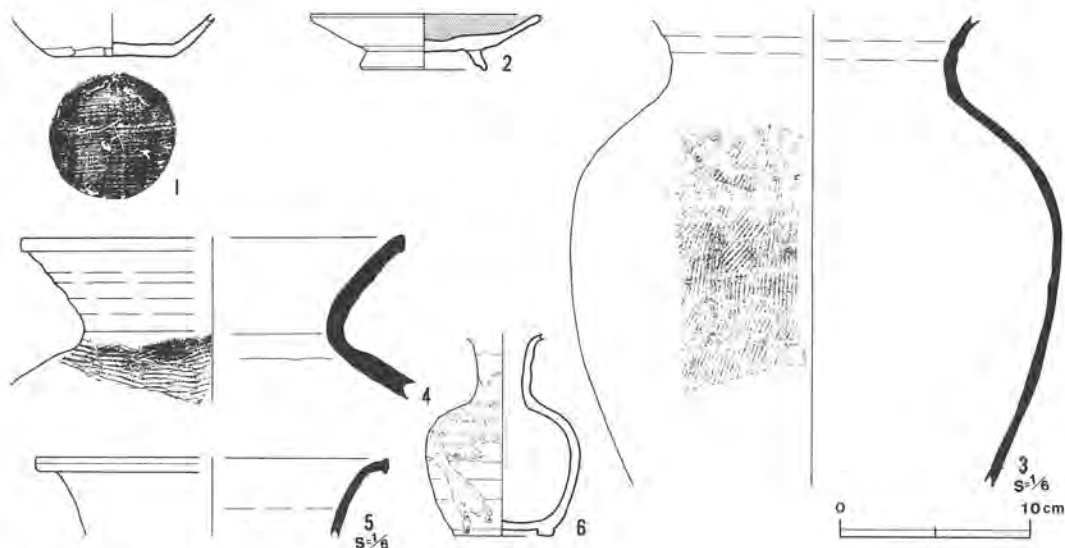
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	刀子	(14.4)	1.4	0.95	19.0	床面	M28 柄に樹皮, 糸巻痕

### 第40号住居跡 (第71図)

**位置** B3i<sub>7</sub>区 **規模と平面形** 長軸3.94m, 短軸3.80mの方形。 **主軸方向** N-12°-W

**壁** 壁高24~28cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦で、踏み固められている。

**ピット** 2か所。P<sub>1</sub>は、径24cm, 深さ90cmで性格不明である。P<sub>2</sub>は、径23cm, 深さ42cmで出入り口に伴うピットと考えられる。 **竈** 北壁中央部を30cm程壁外へ掘り込み、ローム及び砂まじりの褐色粘土で構築されている。規模は、幅116cm, 長さ82cmである。火床部は7cmほど床を掘りくぼめている。煙道部は緩やかに立ち上がっている。 **覆土** 3層からなる。3層は褐色土でローム壁の崩落土層, 2層は暗褐色の自然堆積土層でいずれも壁際に堆積している。1層は覆土の主体となっており、暗褐色土を主体とした土層である。



第73図 第40号住居跡出土遺物実測図

**遺物** 実測できた遺物の中で、第73図-2の土師器の高台付皿と3の須恵器の甕は竈覆土内から、1の坏と4・5の須恵器の甕は1層中から出土している。

**所見** 本跡は、竈覆土中の出土の遺物から9世紀後葉頃の住居跡と考えられる。

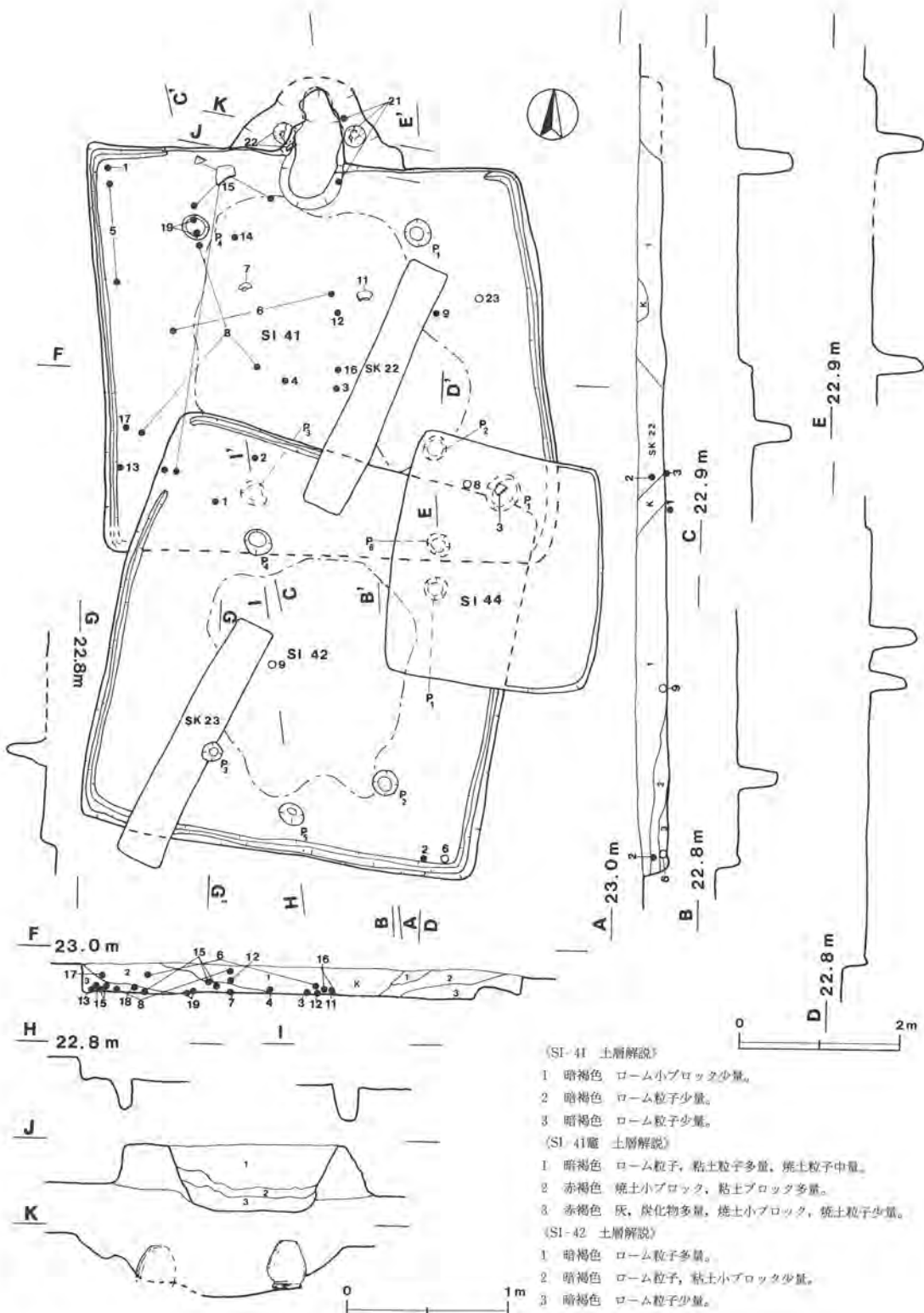
#### 第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第73図 1	坏 土師器	B (2.2) C 6.5	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部一方へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母末にぶい黄橙色 普通	P219 50% 覆土(1層) 刻書あり
2	高台付皿 土師器	A 12.3 B 3.0 D 6.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転へラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。	長石・石英・スコリア、浅黄橙色 普通	P220 80% 竈 内面黒色処理
3	甕 須恵器	B (37.6)	体部及び口縁部破片。体部上位に最大径を持つ。頸部はくびれ、口縁部は外反する。	体部外面縦方向の平行叩き後直交方向に間隔をあけた指ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石微粒・石英微粒、オリープ灰色 普通	P221 80% 竈
4	甕 須恵器	A [20.0] B (8.7)	口縁部破片。頸部はくびれ口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 灰黄色 普通	P222 5% 覆土(1層)
5	甕 須恵器	A [28.0] B (6.3)	口縁部破片。口縁部は外反し、端部を上下方向につまみ出す。	体部内・外面横ナデ。口縁部外面に一本一条の波状文。	長石・石英 黄灰色 普通	P223 5% 覆土(1層)
6	ミニチュア 長頸壺 灰釉陶器	A 4.1 B 10.8 C 5.1	平底で低い高台が付く。体部上位に最大径を持つ。頸部は短く立ち上がり口縁部で外反する。	体下半部横位のへラ削り。体上半部及び頸部内外面横ナデ。肩部灰釉ハケ掛け。	黒色微粒少量 釉色:灰オリープ、 地色:灰白、普通	P224 95% 覆土(2層)

#### 第41号住居跡 (第74図)

**位置** B3j区 **重複関係** 本跡は、第44号住居跡に南東部を掘り込まれ、第42号住居跡の北部を掘り込んでいる。**規模と平面形** 長軸5.54m、短軸(5.10)mの方形。**主軸方向** N-12°-W  
**壁** 壁高10~14cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。**床** 平坦で、P<sub>1</sub>付近を除いてほぼ全面が踏み固められている。**ピット** 4か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径30~32cm、深さ50~84cmでいずれも支柱穴と考えられる。**竈** 北壁中央部を100cm程壁外へ掘り込み構築されている。袖部粘土は残っていないが、両袖基部に逆位の甕が埋め込まれ、甕の周りは粘土混じりの暗褐色土で覆われていた。規模は、壁面掘り込み幅215cm、2個の甕の芯心間の距離は82cmである。火床部は7cmほど床を掘りくぼめ、煙道部是最奥の部分で緩やかに立ち上がっている。**覆土** 3層からなる。基本的にはほぼ同質の自然堆積土層である。1層中にややローム小ブロックを含むこと、3層上面に沿って遺物が多く出土していることから3層に分層できる。

**遺物** 覆土中の遺物破片は、1500片を超える量である。第75図-3と4の須恵器の坏は、住居跡中央部床面上から出土しており、完形率も高く住居廃絶時にそのまま残された遺物の可能性があ



〔SI-41 土層解説〕

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量。
- 2 暗褐色 ローム粒子少量。
- 3 暗褐色 ローム粒子少量。

〔SI-41 土層解説〕

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、粘土粒子中量。
- 2 赤褐色 焼土小ブロック、粘土ブロック多量。
- 3 赤褐色 灰、炭化物多量、焼土小ブロック、焼土粒子少量。

〔SI-42 土層解説〕

- 1 暗褐色 ローム粒子多量。
- 2 暗褐色 ローム粒子、粘土小ブロック少量。
- 3 暗褐色 ローム粒子少量。

第74図 第41・42・44号住居跡実測図

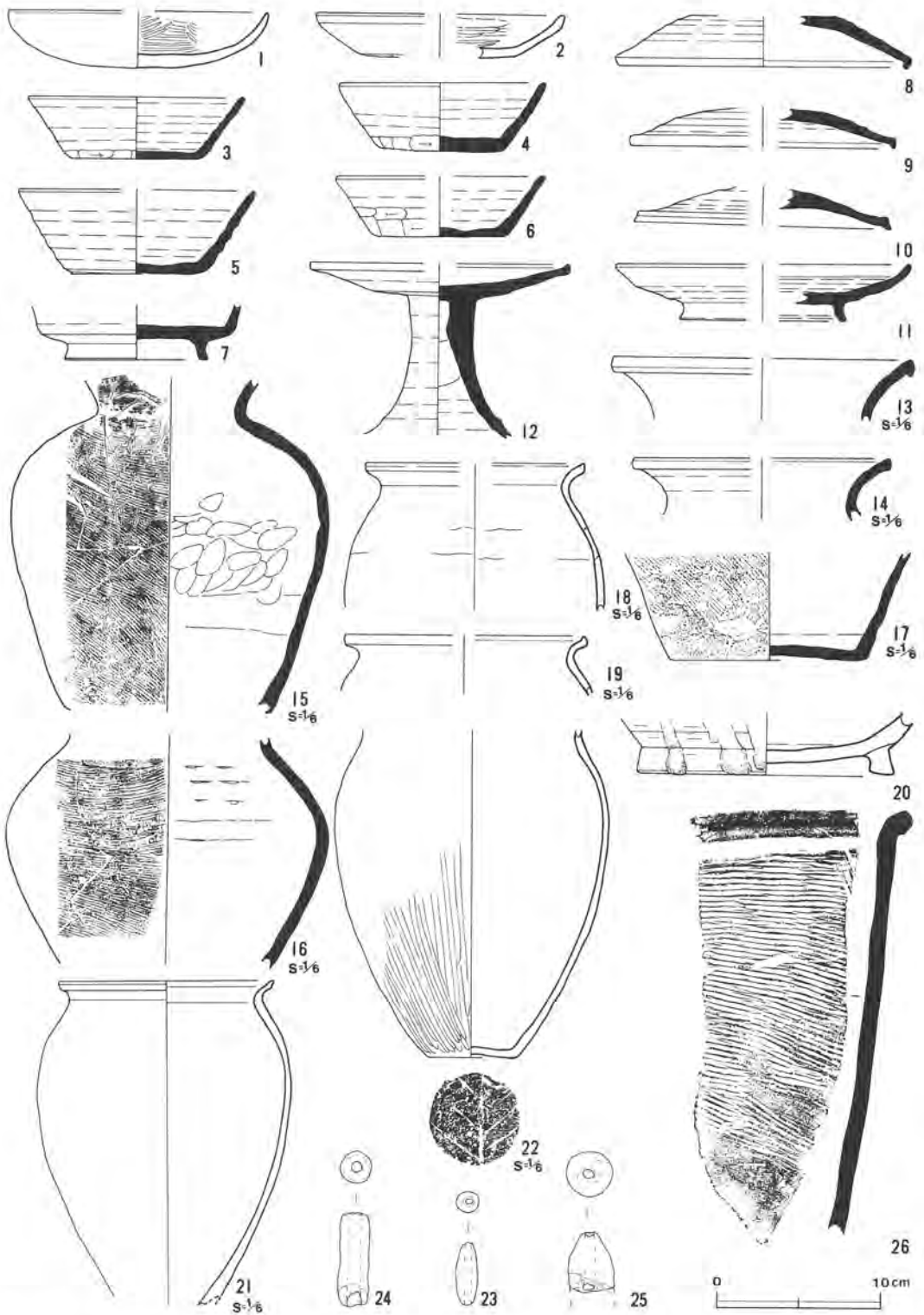
る。5の須恵器の坏は1・2層中、7の須恵器の高台付坏は、1～3層中から出土している。4の須恵器の坏、その他の遺物はほとんど3層上面から2層中にかけて出土している。20の灰釉陶器長頸瓶底部は、第42号住居跡と第44号住居跡と本跡が重なった位置の所属不明のピット覆土内から出土しており、時期的に第41号住居跡に属するものと思われる。

所見 本跡は、出土遺物中に8世紀後葉から9世紀前葉頃のものが含まれており、8世紀後葉頃廃絶し、その後9世紀前葉頃まで土器等の捨て場とされていたものと思われる。

第41号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第75図 1	坏 土師器	A [16.0] B 3.5	丸底。体部は内營して立ち上がる。	体部外面摩耗により不明瞭だがヘラ削り後磨きと思われる。内面は横位のヘラ磨き。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P225 50% 覆土(3層)
2	皿 土師器	A [15.4] B 2.4	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁端部で上方に屈曲する。	底部ヘラ削り。体部横位のヘラ削り。口縁部外面横ナデ。内面磨き。	砂粒 にぶい橙色 普通	P246 30% 床面
3	坏 須恵器	A 13.4 B 3.9 C 7.9	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転切り離し後無調整。	長石・雲母 灰色 普通	P226 95% 床面
4	坏 須恵器	A 12.7 B 4.3 C 7.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部にやや雑な一方のヘラ削りを数回ランダムに入れる。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P227 80% 覆土(3層)
5	坏 須恵器	A [14.6] B 5.2 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方のヘラ削り。	長石・石英 灰白色 普通	P228 35% 覆土(1・2層)
6	坏 須恵器	A [12.9] B 3.8 C 8.1	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方のヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・雲母少量 灰色 普通	P229 50% 覆土(2層)
7	高台付坏 須恵器	B (3.4) D 8.8 E 1.1	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石 オリブ灰色 普通	P230 40% 覆土(1～3層)
8	蓋 須恵器	A [17.9] B (3.1)	口縁部破片。天井部に平坦面を持ちゆるやかに口縁部に到る。端部を下方に折り返す。	天井上半部回転ヘラ削り。	砂礫 灰色 普通	P232 20% 覆土
9	蓋 須恵器	A [16.2] B (2.4)	口縁部破片。天井からゆるやかに口縁部に到る。端部を下方に屈曲させる。	天井上半部回転ヘラ削り。	長石礫・黒色粒子多、褐灰色 良好	P215 60% 覆土(1層)・竈 覆土
10	蓋 須恵器	A [15.8] B (2.3)	口縁部破片。天井部からゆるやかに口縁部に到る。端部を下方に折り返す。	天井上半部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P234 20% 3区覆土 内面炭化物付着
11	盤 須恵器	A [18.2] B 3.2 D [10.2]	平底。体部は緩やかに外傾し口縁部との境に稜を持つ。高台内面端部に沈線を持つ。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石礫 黄灰色 普通	P231 40% 覆土(3層)
12	高坏 須恵器	A [18.2] B (10.8) E (8.8)	脚部はラッパ状に開く。坏部はゆるやかに開き、口縁端部を上方に折り、坏蓋を逆にした形状。	坏部外面下半回転ヘラ削り。	石英・長石 灰色 良好	P235 85% 覆土(1・2層)





第75図 第41号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第75図 13	甕 須恵器	A [27.6] B (5.7)	口縁部破片。口縁部は外反し、 端部を下方に屈曲させる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石礫・長石粒子 オリーブ黒色 普通	P240 5% 覆土(2・3層)
14	甕 須恵器	A [24.0] B (5.8)	口縁部破片。口縁部は外反し、 端部を上・下方向につまみ、断 面菱形形状となる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母末 灰白色 普通	P241 5% 覆土(1層)
15	甕 須恵器	B (30.8) C [18.8]	底部破損。体上半部に最大径を 持ち、頸部はくびれる。口縁部 は外反する。	体部外面斜位の平行叩き。体下 端部横位のヘラ削り。口縁部内・ 外面横ナデ。	長石礫・石英・雲 母末、灰色 普通	P242 60% 覆土(2層)
16	甕 須恵器	B (21.3)	体部破片。体上半部に最大径を 持ち頸部はくびれる。	体部外面横位の平行叩き。体部 内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P243 25% 覆土(3層)
17	甕 須恵器	B (9.9) C 18.1	体下半部破片。平底で体部は外 傾して立ち上がる。	体部外面斜位の細い平行叩き。 体部下位横方向のヘラ削り。	長石・雲母 褐灰色 普通	P244 30% 床面近くの覆土
18	甕 土師器	A [20.2] B (13.6)	口縁部破片。頸部はくびれ口縁 部は外反する。口唇部を上方に つまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石礫・石英・雲母 橙色 普通	P237 25% 覆土
19	甕 土師器	A [22.0] B (5.5)	口縁部破片。頸部はくびれ口縁 部は外反する。口唇部を上方に つまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコ リア、にぶい橙色 普通	P239 10%
20	長頸壺 灰釉陶器	B (4.0) C 15.8	底部破片。端部外側で接地する 高台が付く。	付け高台。	緻密 灰白色 普通	P251 20% 覆土 自然釉
21	甕 土師器	A [20.0] B (30.0)	底部破損。体上半部に最大径を 持つ。口縁部は外反し、口唇部 を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英多量 明黄褐色 普通	P236 10% 竈袖部補強用の 芯材に転用器面 荒れ
22	甕 土師器	A [22.0] B (5.5)	口縁部破損。体上半部に最大径 を持つ。	体下半部ヘラ磨き。	長石・石英・雲母・ スコリア にぶい橙色、普通	P238 10% 竈袖部補強用の 芯材に転用

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
23	管状土製品	3.7	1.4	—	4.8	覆土	DP26 孔径0.4	100%
24	管状土製品	5.7	1.7	—	20.8		DP27 孔径0.7~0.8	85%
25	管状土製品	(3.8)	2.8	—	(21.2)	覆土	DP28 孔径0.6	50%

#### 第42号住居跡(第74図)

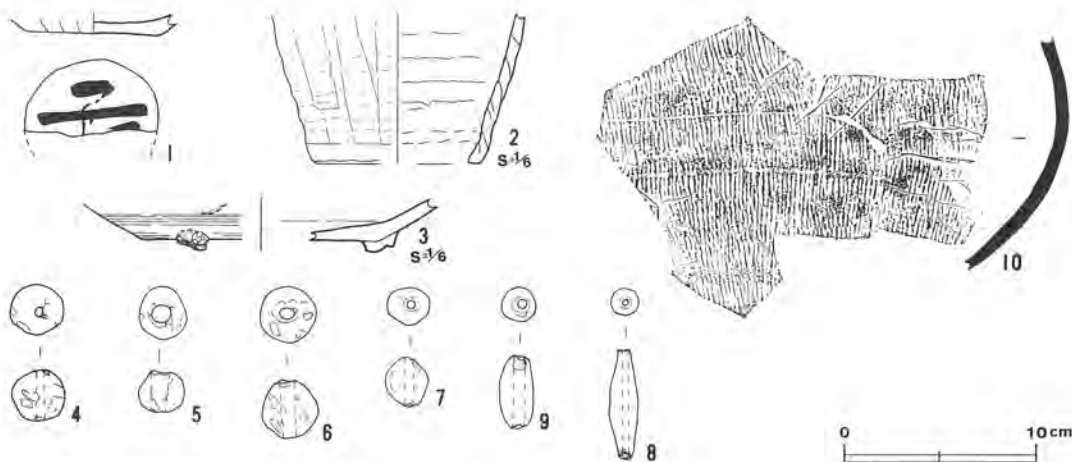
位置 C3a<sub>8</sub>区 規模と平面形 長軸5.42m, 短軸4.92mの方形。 主軸方向 N-7°-E

壁 壁高6~39cmである。床 平坦で、踏み固められている。ピット 6か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、  
径27~34cm, P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>の深さは81~84cm, P<sub>3</sub>・P<sub>4</sub>は50・51cmでいずれも支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>  
は、径28cm, 深さ67cmである。P<sub>5</sub>は、径31cm, 深さ38cmで出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなり、いずれも暗褐色土主体の土層である。

遺物 実測遺物のうち、第76図-1の墨痕のある坏底部片は床面付近から、2の甑底部片は南壁際の2～3層中から出土している。3の三足盤は攪乱による混入とみられる。

所見 本跡は、竈が第41号住居跡によって壊されており、同住居跡との切り合い関係から9世紀中葉以前の住居跡と思われる。



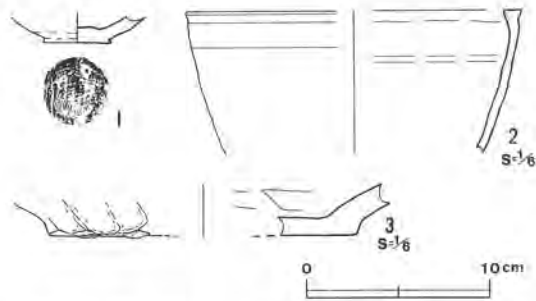
第76図 第42号住居跡出土遺物実測・拓影図

#### 第42号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 1	坏 土師器	B (1.1) C 7.0	底部破損。	底部一方向へ削り。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P245 30% 内面黒色処理、 床面、底部墨書
2	甑 土師器	B (12.2) C [13.2]	体下半部破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦方向叩き。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P247 15% 覆土
3	三足盤 灰釉陶器	B (4.3) C [21.4]	底部から体下半部にかけての破片。平底で三足を持つ。体部はゆるやかに外傾して立ち上がる。	底部及び体部下端回転へ削り。	長石・石英 淡赤橙色 普通	P249 15% 44号竪穴の遺物か？

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	土玉	2.6	2.7	—	17.9	3区覆土	DP29 孔径0.5 95%
5	土玉	2.2	2.4	—	11.9	3区覆土	DP30 孔径0.7~1.0 100%
6	土玉	3.1	3.0	—	22.3	南東コーナー床近く	DP31 孔径0.6~0.7 95%
7	土玉	2.6	2.2	—	8.9	覆土	DP32 孔径0.4 100%
8	管状土製品	6.8	1.4	—	8.7	覆土	DP33 孔径0.3 95%
9	管状土製品	3.8	1.8	—	10.1	覆土	DP34 孔径0.4 95%

第44号住居跡（第74図）

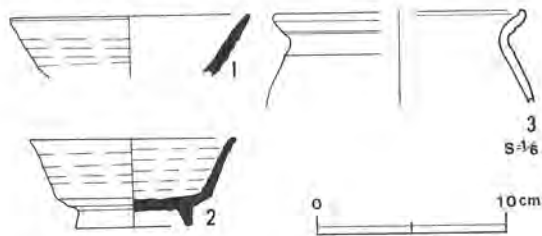


第77図 第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 1	小皿 土師質土器	A 9.0 B 6.6 D 10.3	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	鉄分少量 灰白色 普通	P254 45% 覆土 二次焼成？
2	鍋 土師質土器	A [27.6] B (11.9)	口縁部破片。体部は内彎気味に立ち上がる。端部は幅広の平坦面。	体部内・外面横ナデ。	雲母末多、長石少 黒褐色 普通	P255 10% 覆土
3	甕 常滑産陶器	B (4.3) C [25.2]	底部破片。平底。	体下端部外面縦位のヘラ削り。	石英主体の砂粒多量、にぶい褐色 良好	P256 5% 覆土

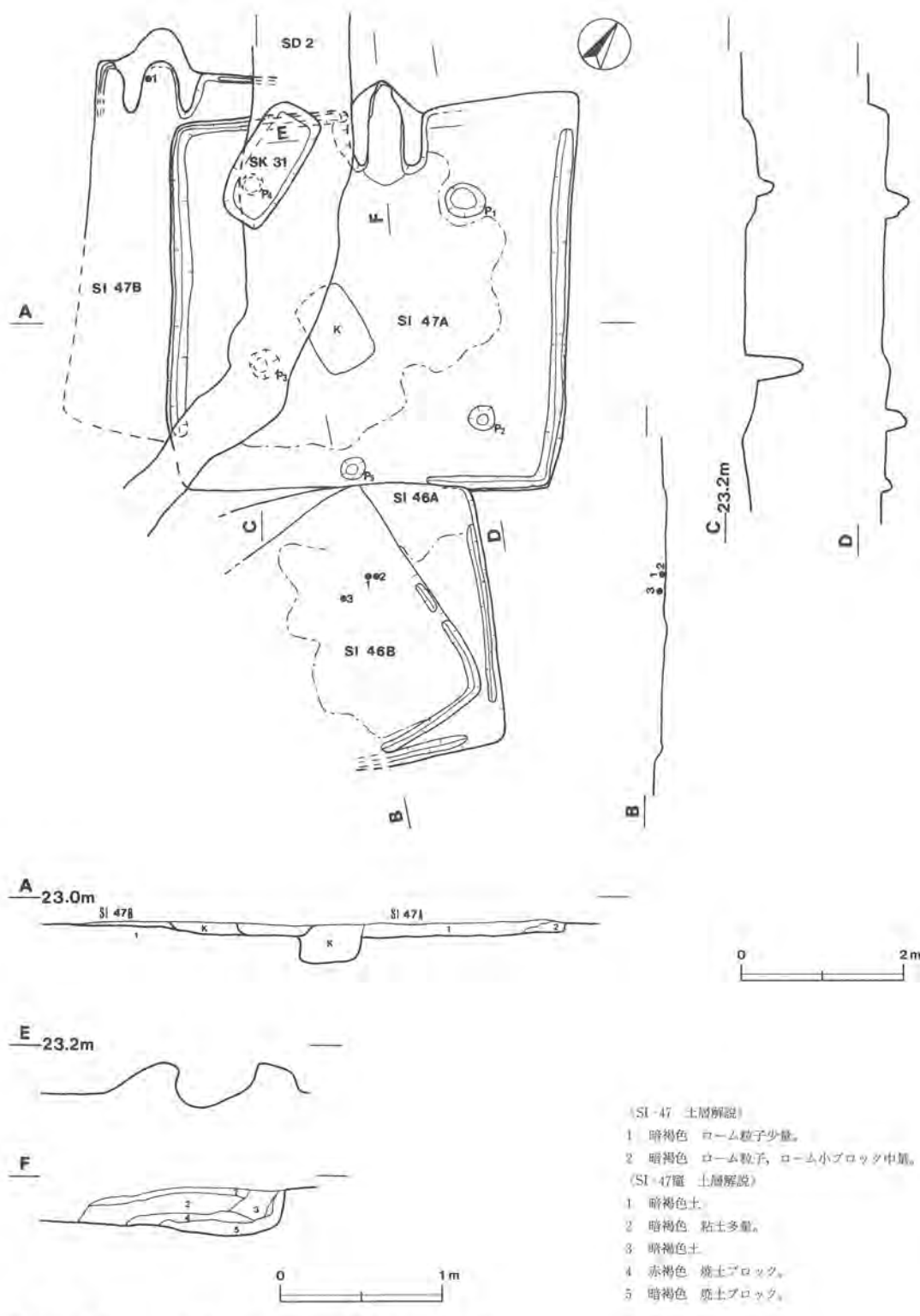
第46号住居跡（第79図）



第78図 第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図 1	坏須恵器	A 12.6 B (3.3)	底部破損。体部は外傾する。	体部内・外面横ナデ。	長石礫・石英 橙色 普通	P275 20% 床面
2	高台付坏須恵器	A 10.9 B 4.8 D 6.1	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。	長石・石英の砂礫 灰色 普通	P276 80% 床面
3	甕土師器	A [19.6] B 7.5	口縁部破片。頸部はくびれ、口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母末 にぶい褐色 普通	P274 10% 覆土



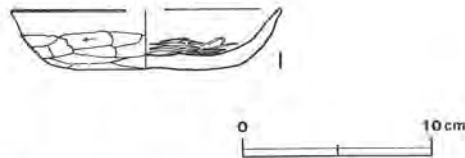
第79図 第46A・46B・47A・47B号住居跡実測図

第47A号住居跡 (第79図)

**位置** C3a<sub>3</sub>区 **重複関係** コーナー部近くに竈を持つ規模の小さな第47B号住居跡に西コーナー部を壊されている。**規模と平面形** 長軸4.96m, 短軸4.90mの方形。**主軸方向** N-34°-W **壁** 壁高約5~27cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。**床** 平坦で, ほぼ全面が踏み固められている。**ピット** 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は, 径26~50cm, 深さ24~74cm, いずれも主柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は, 径30cm, 深さ16cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。**竈** 北壁中央部を28cm程壁外へ掘り込み, ローム及び砂まじりの褐色粘土で構築されている。規模は, 幅116cm, 長さ130cmである。火床部は9cmほど床を掘りくぼめている。煙道部は最奥部で急激に立ち上がっている。**覆土** 2層からなり, 1層が覆土の主体となっている。

**遺物** ほとんど出土していない。第80図-1の坏は, 47B号住居跡竈袖部内から出土している。**所見** 本跡は, 竪穴住居跡がまだ4本の主柱穴で構成されていることなどから, 8世紀後半以前の住居跡と考えられる。

第47B号住居跡 (第79図)



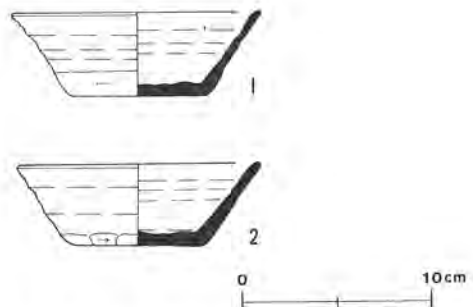
第80図 第47B号住居跡出土遺物実測図

第47B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 1	坏 土 節 器	A [14.2] B 3.3	平底。体部は外傾して立ち上がり, 口唇部で器厚を薄くする。	底部ヘラ削り。体部横位のヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。内底面雑な磨き。	長石粒子・スコリア, 明赤褐色 普通	P278 45% 竈袖部内

第48号住居跡 (第82図)

**位置** B3j<sub>3</sub>区 **規模と平面形** 長軸2.86m, 短軸2.72mの方形。**主軸方向** N-23°-W **壁** 壁高約26cmである。**床** 平坦で, 踏み固められている。**ピット** 1か所。P<sub>1</sub>は, 径20cm, 深さ20cmで外傾しており, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。**覆土** 3層からなる。褐色土を主体とした土層である。

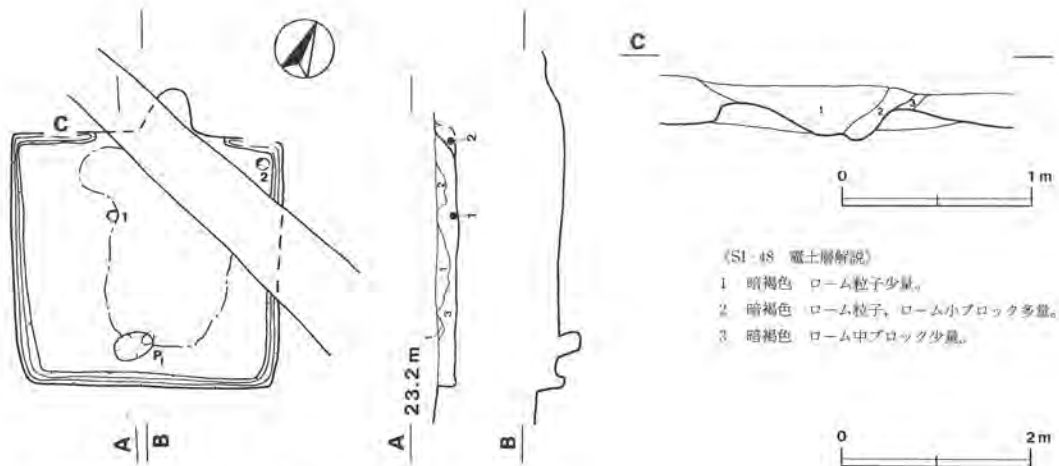


**遺物** 第81図-1と2の須恵器の坏は, 床面から出

第81図 第48号住居跡出土遺物実測図

土している。

所見 竈は、中世の時期に掘られた1号溝に壊されている。本跡は、出土遺物から9世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



《SI-48 竈土層解説》

- 1 暗褐色 ローム粒子少量。
- 2 暗褐色 ローム粒子、ローム小ブロック多量。
- 3 暗褐色 ローム中ブロック少量。

第82図 第48号住居跡実測図

第48号住居跡出土遺物観察表

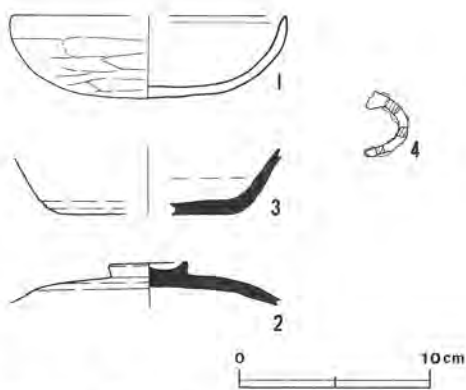
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 1	坏 須恵器	A 13.2 B 4.5 C 7.0	平底。体部は外傾して開く。	底部一方向へラ削り。体部下端回転へラ削り。	長石・石英・雲母末 灰色 普通	P279 80% 床面
2	坏 須恵器	A 13.0 B 4.4 C 6.6	平底。体部は外傾して開く。	底部一方向へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母末 灰色 普通	P280 85% 床面

第49A号住居跡（第84図）

位置 C2c区 重複関係 第49B号住居跡を壊してつくられている。規模と平面形 長軸4.80m、短軸4.56mの方形。主軸方向 N-23°-W

壁 壁高2~22cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 平坦で、踏み固められている。ピット 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径15~30cm、深さ20~40cmでいずれも支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は、径50cm、深さ60cmで出入り口施設に関する柱穴と考えられる。そのほかに第49B号住居跡の柱穴として、P<sub>6</sub>~P<sub>9</sub>は

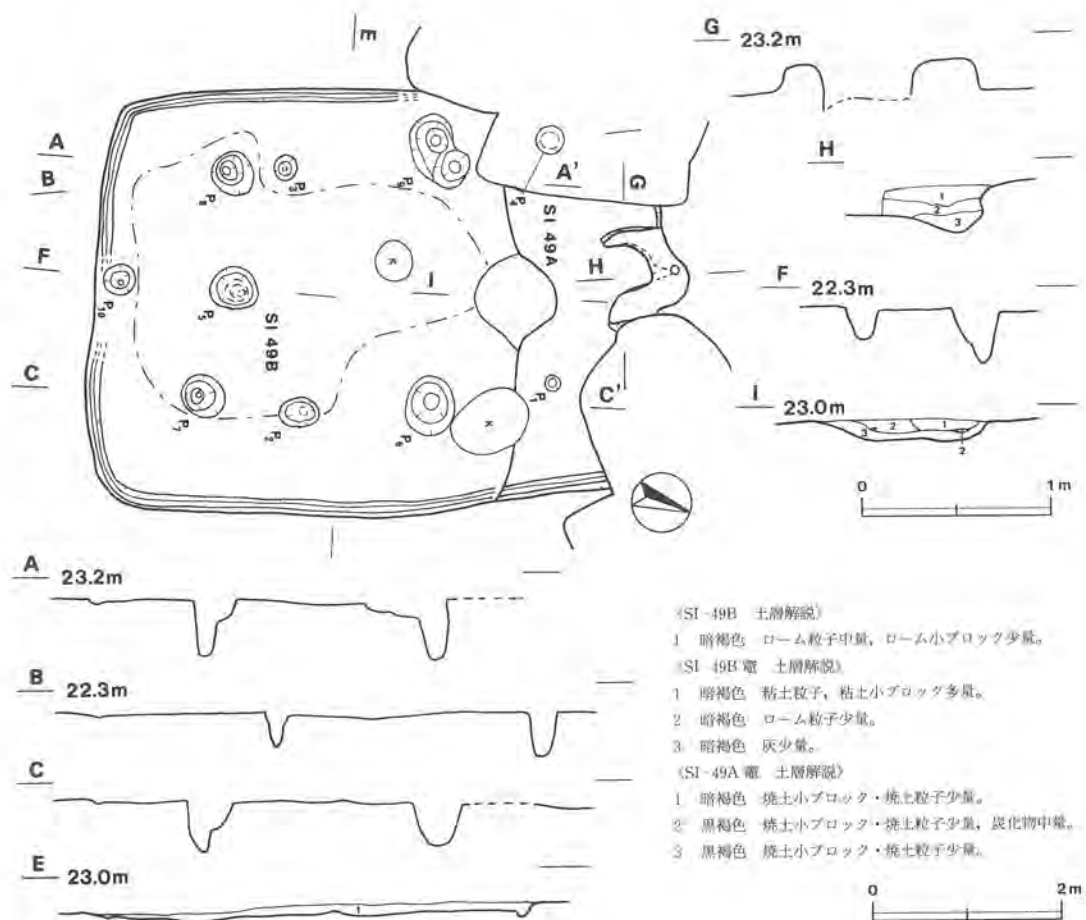


第83図 第49A号住居跡出土遺物実測図

径50cm弱、深さ47~66cmで柱の掘り抜き痕のようにすりばち状に大きく開いていた。P<sub>10</sub>は径34cm、深さ33cmで出入り口施設に関するピットと考えられる。竈 北壁中央部に34cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、幅96cm、長さ90cmである。火床部はほぼ平らであり、煙道部は燃烧室奥壁から急激に立ち上がる。第49B号住居跡の竈は平らに削平されて基底部の粘土だけが確認された。覆土 1層で、ローム粒子まじりの薄い覆土である。

遺物 覆土が薄いこともあり、残っていた遺物はほとんど床面近くの覆土中から出土している。その中で、第83図-2 須恵器の蓋や3の須恵器の坏が最も新しい時期の遺物である。

所見 第49号住居跡と床のレベルが同じであること、ほぼ同規模で壁の2辺が重なっていることなどから第49B号住居跡から第49A号住居跡への立て替えが行われていると考えられる。形態的には第49B号住居跡の支柱穴が4本とも40cmを越える深さであるのに対して、本跡は竈側の2本の支柱穴が浅く、出入り口ピットと南側2本の支柱穴との距離が短くなっている。覆土出土の遺物から8世紀前半代以降で9世紀までは下らない時期の住居跡と考えられる。



第84図 第49A・49B号住居跡実測図



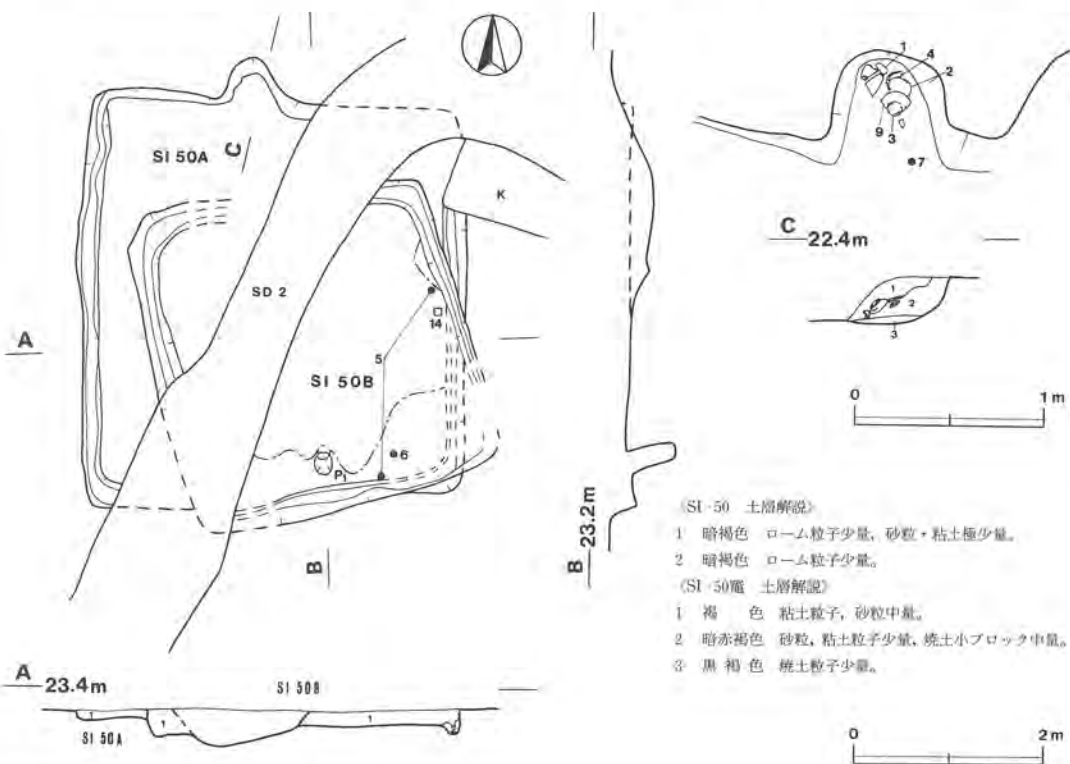
第49 A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第83図 1	坏 土師器	A [14.4] B 4.6	丸底。体部は内甕して立ち上がる。口唇部内面に沈線を持つ。	底部へラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	石英・長石少量 明黄褐色 普通	P281 35% 覆土
2	蓋 須恵器	B (2.3) F 4.0 G 0.6	天井部破片。中央部のやや突出した扁平なつまみが付く。	天井部回転へラ削り。	長石礫・石英・雲母 灰色 普通	P282 80% 床面
3	坏 須恵器	B (3.5) C [9.0]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転へラ削り。	長石・石英・雲母末 灰オリーブ色 普通	P28 35% 2区覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	不明鉄製品	-	0.8	0.4	6.8	覆土	M29

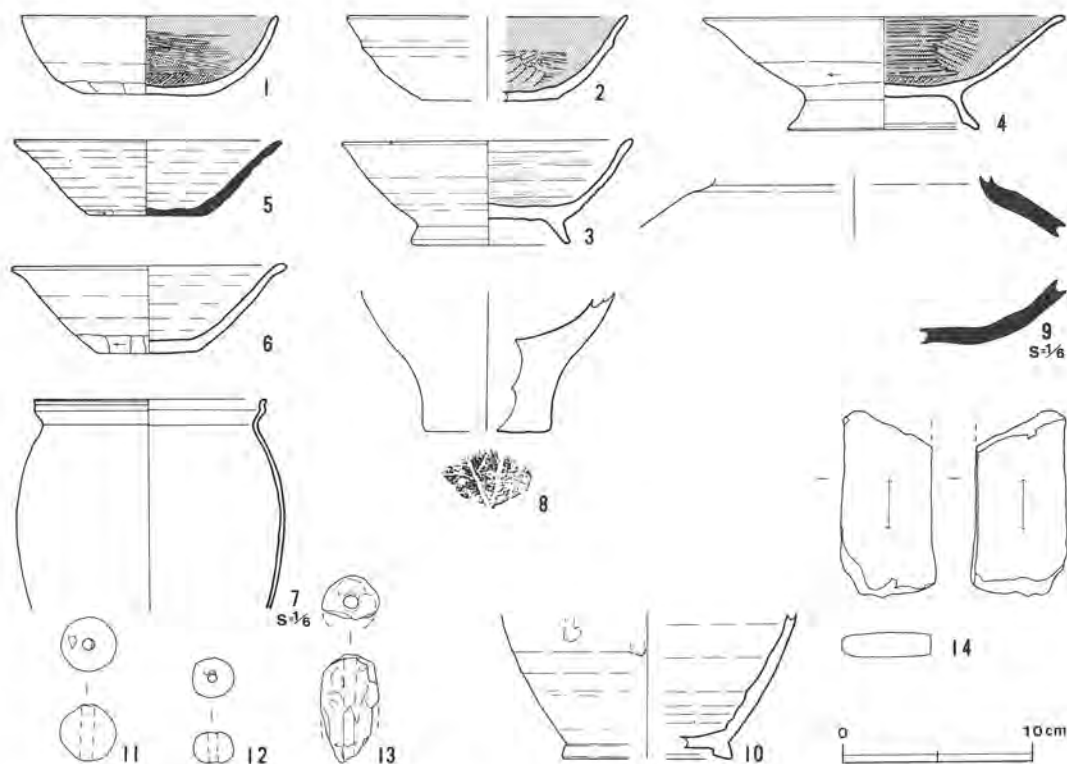
第50 A号住居跡 (第85図)

位置 B2i,区 重複関係 第50 B号住居跡の壁溝が、本跡の床面から確認されたが新旧関係は不明である。規模と平面形 長軸4.60m,短軸4.04mの長方形。主軸方向 N-1°-W 壁 壁高約26cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。床 平坦で、踏み固められている。ピット 1か所。径20



cm, 深さ50cmで, 第50B号住居跡の出入り口ピットと考えられる。竈 北壁中央部を55cm程壁外へ掘り込み構築されている。袖部粘土は残っていないが, 壁面掘り込み幅は65cmである。火床部はほぼ平坦で, 煙道部は外傾して立ち上がっている。覆土 2層からなり, 暗褐色の自然堆積土層である。遺物 実測できた遺物のうち, 第86図-1・2・3・4の坏や高台付坏は竈内で逆位に積み重ねられた状態で出土している。7・9の甗と10の灰釉陶器は竈覆土内から出土している。5・6の坏は南東部の覆土中の遺物である。

所見 本跡は, 規模の小さな50B号住居跡の痕跡が床上に残っており, 後から掘り込まれている可能性が考えられるが, 中央部が中世につくられた2号溝によって掘り込まれているため明らかにすることができなかった。50A号住居跡は, 出土遺物から, 9世紀後葉頃の住居跡と考えられる。



第86図 第50A・50B号住居跡出土遺物実測図

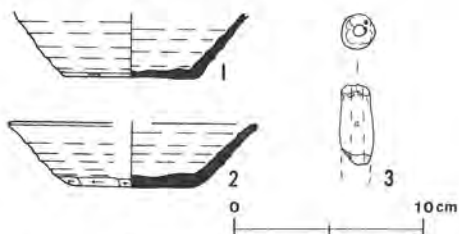
第50A・50B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第86図 1	坏 土師器	A 13.6 B 4.3 C 6.4	平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部一方向のヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面磨き。	砂粒少・スコリア少・雲母, にぶい黄橙色, 普通	P284 70% 内面黒色処理 電
2	坏 土師器	A [15.0] B 4.7 C [7.8]	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁下端に弱い突線を持つ。	回転切り離し後無調整。体部外面横ナデ。内面磨き。	長石・石英・雲母多 にぶい黄橙色 普通	P285 40% 電 内面黒色処理

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第86図 3	高台付 土師器	A 15.5 B 5.6 C 8.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面見込み部一方向、体部横位のヘラ磨き。	長石砂粒・雲母末にふい橙色普通	P286 90% 甞 内面黒色処理
4	高台付 土師器	A 19.2 B 6.1 C 10.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部わずかに外反する。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面見込み部一方向、体部横位のヘラ磨き。	長石・石英の微砂粒、にふい橙色普通	P287 35% 甞 内面黒色処理
5	坏 須恵器	A 14.2 B 4.1 C 6.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部方向のヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母灰褐色普通	P288 98% 50B号住居跡覆土
6	坏 土師質 須恵器	A 14.6 B 4.7 C 5.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向のヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面横ナデ。	長石黒色不良	P289 80% 50B号住居跡覆土
7	甕 土師器	A 18.5 B (17.0)	体上半部破片。頸部はくびれ口縁は外傾する。口唇部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母橙色普通	P291 10% 甞 体部粘土付着痕
8	甕 土師器	B (7.5) C [6.4]	底部破片。底部は器厚があり脚状となる。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ調整。比較的精良な胎土と整形。	スコリア・砂粒少量、淡赤橙色普通	P293 5% 覆土(土層観察ベルト内)
9	甕 須恵器	B (4.9)	頸部破片。	頸部内・外面横ナデ。	長石・石英灰色普通	P292 5% 甞覆土
10	長頸壺 灰釉陶器	B (7.8) C [9.1]	体下半部破片。接地面が内傾し外側端部で接地する低い高台が付く。	体部内・外面横ナデ。	緻密・長石極少量明緑灰色普通	P290 5% 甞覆土 (K90窯式)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
11	土玉	3.0	2.9	—	23.8	覆土	DP38 孔径0.7 100%
12	土玉	1.6	2.2	—	7.2	覆土	DP39 孔径0.5 100%
13	管状土製品	(5.8)	3.0	—	26.9	3区覆土	DP40 孔径0.7 30%
14	砥石	(9.9)	5.1	1.3	161.3	床面	Q20

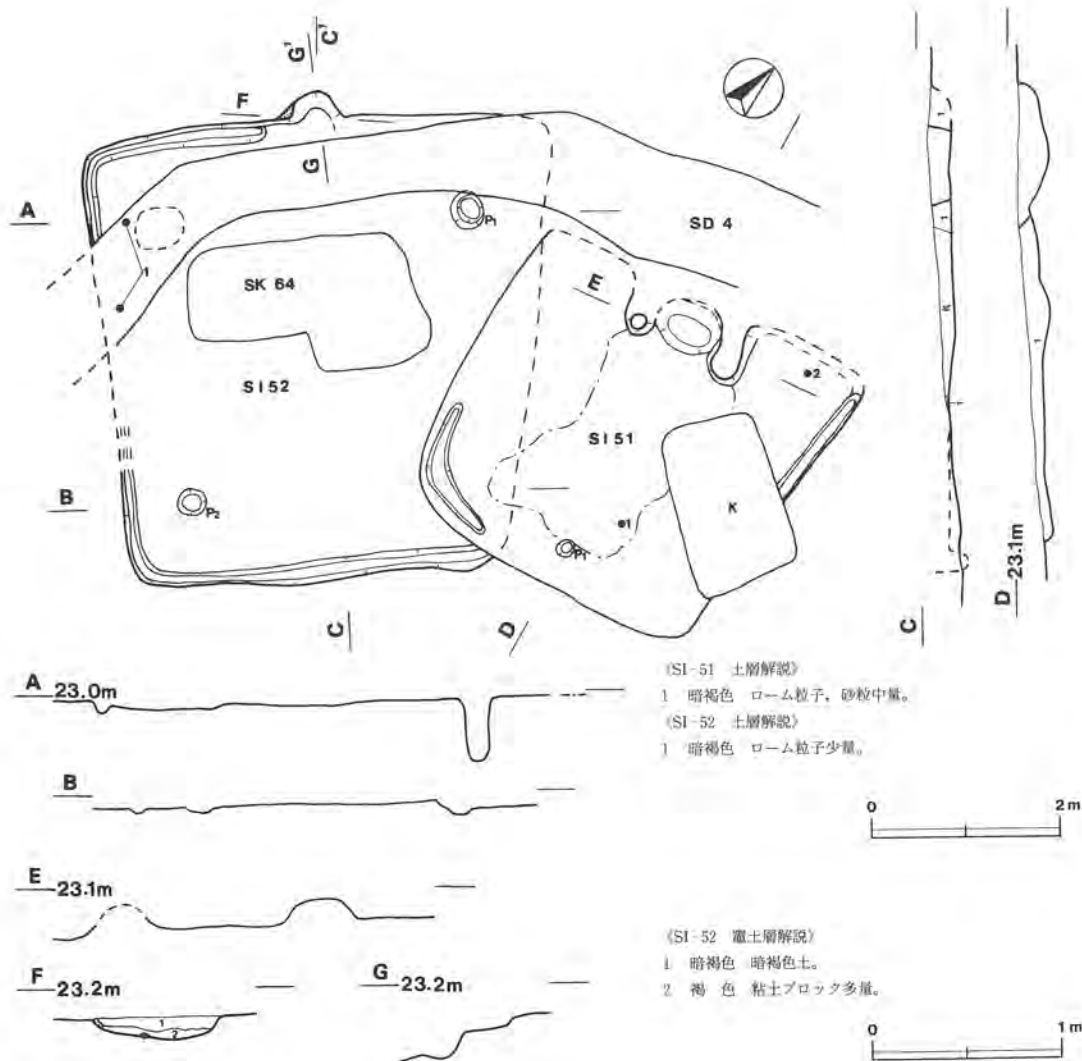
### 第51号住居跡 (第88図)



第87図 第51号住居跡出土遺物実測図

### 第51号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 1	坏 須恵器	B (3.4) C 6.9	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後一方向の弱いヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母末灰白色普通	P294 80% 覆土(1層)

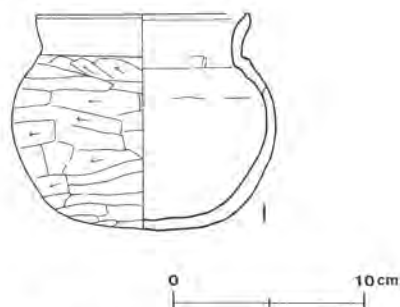


第88図 第51・52号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 2	坏 須恵器	A [13.1] B (3.4) C 6.5	平底。体部は外側して立ち上がる。	底部一方のヘラ削り。体部下 端手持ちヘラ削り。	雲母末多量 灰色 普通	P295 40% 覆土(1層)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	管状土製品	(4.3)	1.8	-	12.4	覆土	DP41 孔径0.6~0.7 60%

第52号住居跡 (第88図)



第89図 第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	短頸壺 土師器	A 11.3 B 11.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部中位に最大径を持つ。口縁部はわずかに外反する。	体部外面へら削り。口縁部内・外面横ナデ。	スコリア多量にぶい黄橙色 普通	P296 80% 床面

第53号住居跡 (第90図)

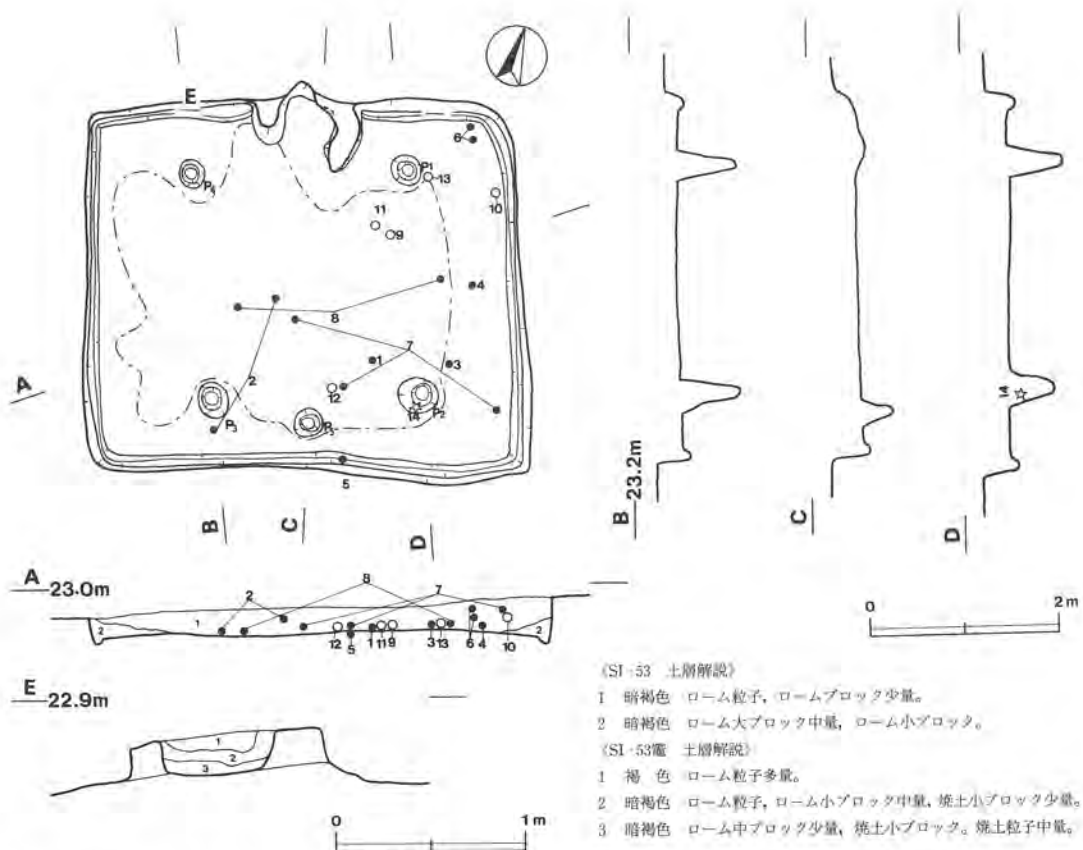
**位置** B2j区 **規模と平面形** 長軸4.70m, 短軸4.14mの長方形。 **主軸方向** N-16°-W  
**壁** 壁高約15~34cmである。 **床** 平坦で、踏み固められている。 **ピット** 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径26~44cm, 深さ43~60cmでいずれも支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は、径30cm, 深さ34cmで出入り口施設に関係する柱穴と考えられる。 **竈** 北壁中央部を16cm程壁外へ掘り込み、ローム及び砂まじりの褐色粘土で構築されている。規模は、幅116cm, 長さ100cmである。火床部は20cmほど床を掘りくぼめている。煙道部是最奥部で急激に立ち上がっている。 **覆土** 2層からなる。同時期の遺物が1層中から数多く出土している。

**遺物** 第91図-5の小形の須恵器短頸壺が南壁直下の床上から出土している。その他の須恵器を主体とした遺物は、1層中から出土している。

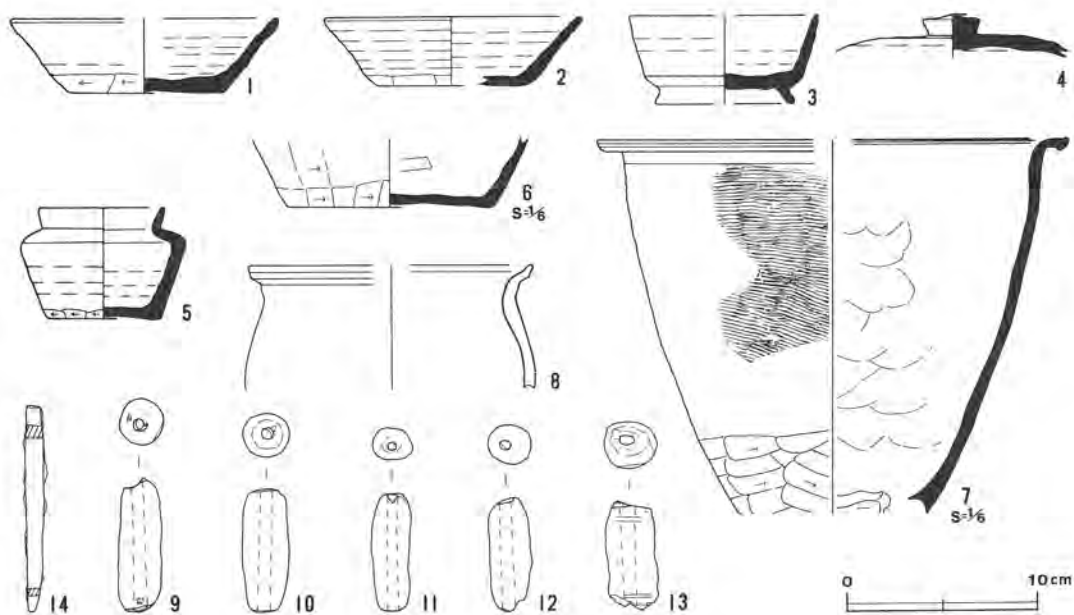
**所見** 本跡は、出土遺物から8世紀後葉頃の住居跡と考えられる。

第53号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第91図 1	坏 須恵器	A [14.0] B 4.0 C 8.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へら削り。体部下端手持ちへら削り。	長石・石英の礫 青灰色 普通	P298 60% 覆土(1層)
2	坏 須恵器	A 13.7 B 3.7 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へら削り。体部下端手持ちへら削り。	長石・石英の砂礫・ 雲母末, 灰色 普通	P299 50% 覆土(1層)



第90図 第53・54号住居跡実測図

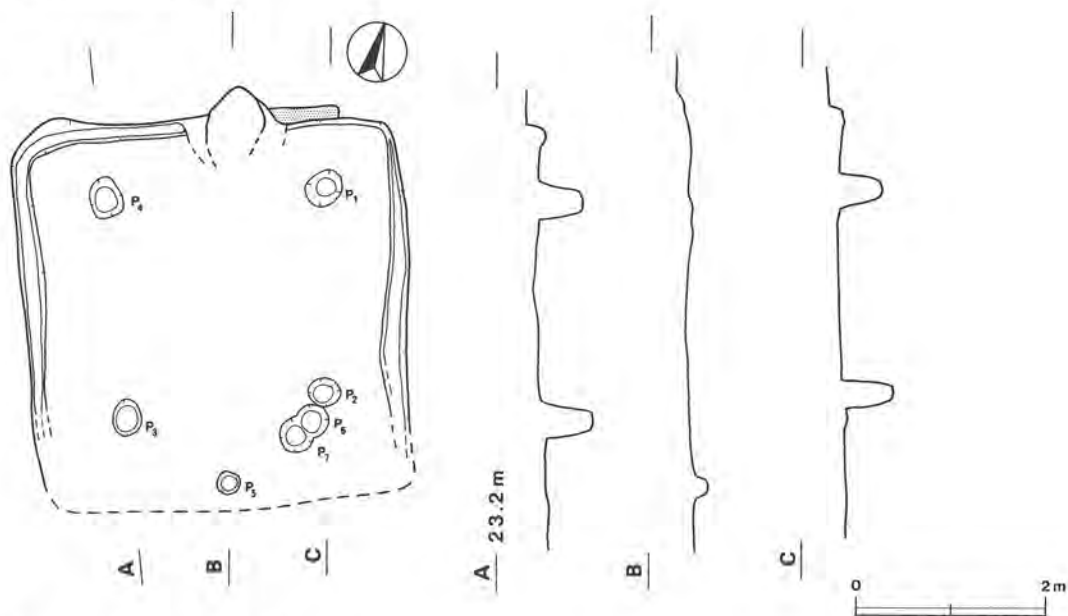


第91図 第53号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第91図 3	高台付 須恵器	A [10.0] B 4.7 D 7.2	平底で「ハ」の字に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後高台張り付け。	長石・石英 暗オリーブ灰色 普通	P300 40% 覆土(1層)
4	蓋 須恵器	B (2.3) F (3.0) G 1.1	天井部破片。中央部が突出するボタン状のつまみ付く。	天井中央部外面ヘラ削り。	長石・石英 紫灰色 普通	P301 30% 覆土(1層)
5	短頸 須恵器	A 6.6 B 6.0 C 6.0	平底。体部は外傾し、上位で屈曲し張りのある肩部となる口縁部は短く外傾する。	底部回転ヘラ切り無調整。	長石・砂礫多い 紫灰色 普通	P302 90% 南壁直下床面
6	甕 須恵器	B (5.5) C 16.4	平底。体下半部は外傾して開く。	体下半部横位のヘラ削り。	長石・石英・雲母未 灰褐色 普通	P303 20% 覆土(1層)
7	甕 須恵器	A [35.4] B (20.0) C [14.8]	底部破損。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反する。	体部外面横位の平行叩き。体下半部横位のヘラ削り。体部内面手の平の圧痕	石英砂粒 灰色 普通	P304 20% 覆土(1層)
8	甕 土師器	A [15.2] B (6.7)	口縁部破片。頸部でくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英多・雲 母未、にぶい褐色 普通	P305 10% 覆土(1層)

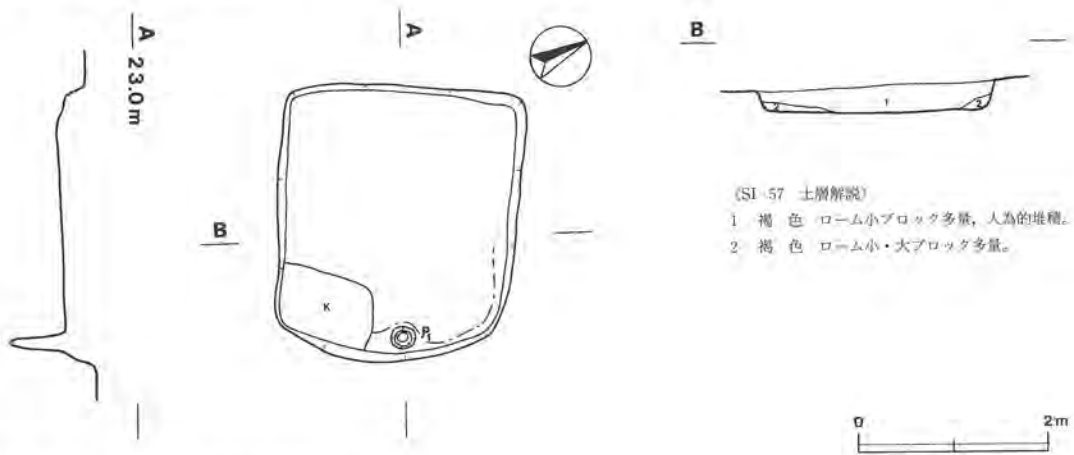
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
9	管状土製品	(7.2)	2.3	—	37.5	床に近い覆土(1層)	DP42 孔径0.55~0.7	60%
10	管状土製品	6.5	2.4	—	40.9	東壁際覆土(1層)	DP43 孔径0.6~0.7	100%
11	管状土製品	6.3	2.1	—	21.6	床に近い覆土(1層)	DP44 孔径0.4~0.6	95%
12	管状土製品	6.1	2.3	—	25.1	床に近い覆土(1層)	DP45 孔径0.6~0.75	100%
13	管状土製品	(5.8)	2.8	—	36.4	床に近い覆土(1層)	DP46 孔径0.6~0.8	80%
14	菱	(11.1)	1.0	0.7	27.2	P <sub>2</sub> 覆土	M30	

第55号住居跡 (第92図)

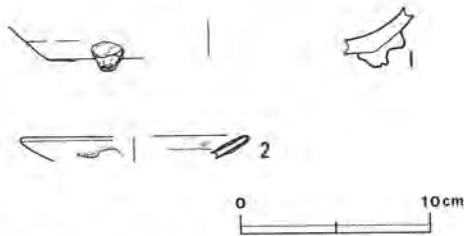


第92図 第55号住居跡実測図

第57号住居跡 (第93図)



第93図 第57号住居跡実測図



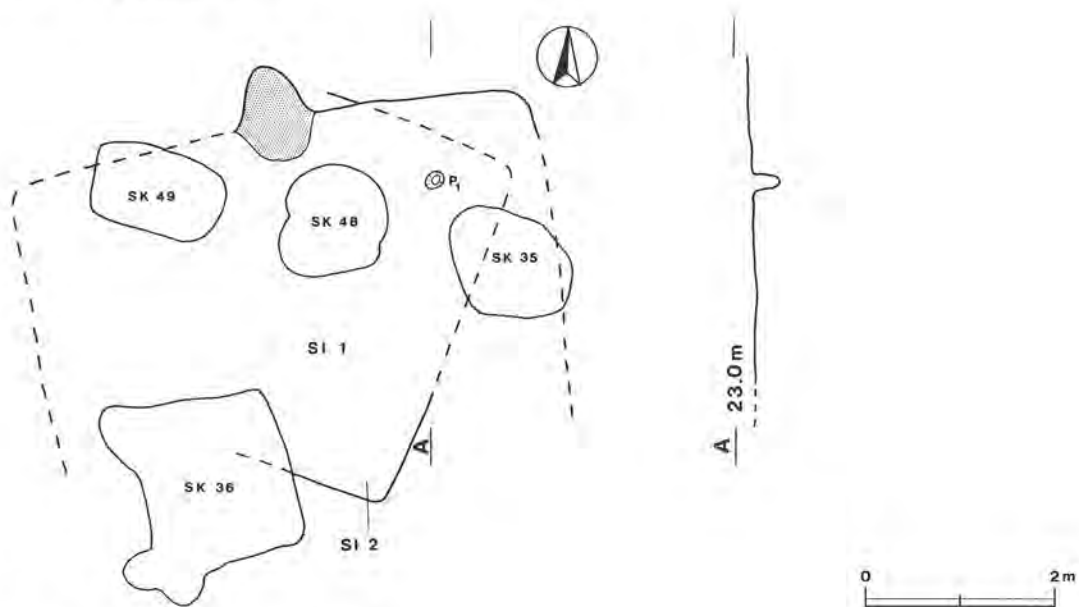
第94図 第57号住居跡出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図 1	三足盤 灰釉陶器	B (3.2) C [19.4]	底部破片。平底で体部はゆるやかに外傾する。	体部内面に灰釉のハケ掛け。	長石砂粒、鉄分粒子極少量、灰白色普通	P306 5% 覆土(1層) 古瀬戸
2	縁釉小皿 灰釉陶器	A [12.0] B (1.3)	口縁部破片。口縁部はわずかに丸味を持って外傾する。	口縁部内・外面縁部に鉄釉を掛ける。	緻密な灰白色の胎土、にぶい褐色普通	P307 5% 覆土 古瀬戸

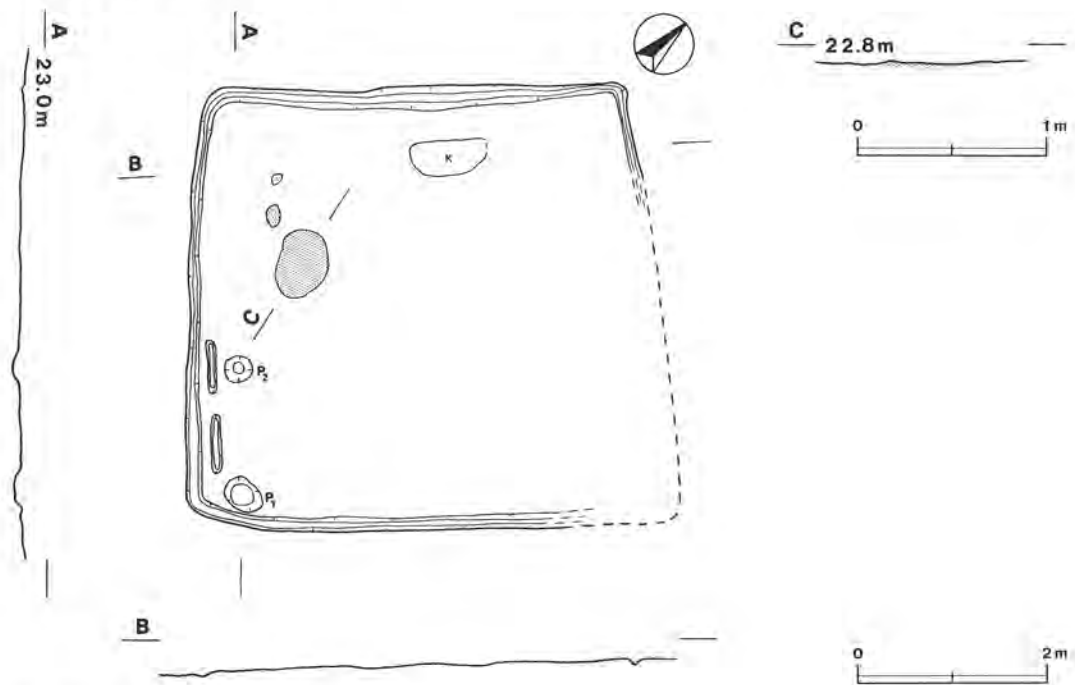


第1・2号住居跡 (第95図)



第95図 第1・2号住居跡実測図

第5号住居跡 (第96図)



第96図 第5号住居跡実測図

表2 寄居遺跡竪穴住居跡一覽表

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸)	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設					竈	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
1	B3d7	N-8°-W	-	5.54 × (3.20)	-	-	-	-	-	1	-	竈	-	土師器, 須惠器	床下掘り方
2	B3d7	N-27°-W	-	(3.00 × 2.40)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	床下掘り方
3	B3c8	N-43°-W	方形	6.60 × 6.50	2~7	平坦	有	4	有	7	有	竈	自	土師器, 須惠器, 石製模 造品	5 C後半焼失
4	B3b7	N-42°-W	方形	7.80 × 7.72	30~64	平坦	有	4	有	7	有	-	人	土師器, 石製模造品	古墳前期
5	B3a4	N-42°-W	方形	(4.80) × 4.74	2~4	平坦	有	-	-	2	-	竈	-	-	-
6	A3i2	N-31°-W	方形	4.34 × 4.20	36~42	平坦	有	4	-	5	有	竈	自	土師器, 鉄鍬	7 C前半
7	A3a1	N-47°-W	-	6.00 × -	48~54	平坦	有	(2)	有	(2)	-	-	人	土師器, 石製模造品	古墳中期
8	B3b2	N-44°-W	-	2.00 × 1.60	2	-	-	-	-	-	-	-	-	土師器	古墳前期
9	B3c2	N-36°-W	方形	3.66 × 3.54	52~58	平坦	有	-	-	1	有	竈	自	土師器	7 C
10	B3d3	N-31°-W	-	3.36 × -	2	-	有	(2)	-	(2)	-	-	-	-	-
11	B3b3	N-4°-E	-	3.00 × 2.00	4	-	有	-	-	-	-	-	-	-	-
12	B9g2	-	-	5.37 × 5.32	-	-	無	4	-	28	-	-	-	縄文式土器	縄文前期後半
13	B3b3	N-3°-E	長方形	3.76 × 3.20	30~34	平坦	有	-	-	1	有	竈	人	土師器, 須惠器	9 C
14	B3d4	N-49°-W	方形	5.80 × 5.68	10~18	平坦	有	4	有	5	有	竈	-	土師器, 須惠器, 土玉	古墳前期
15	B3c3	N-22°-W	方形	4.82 × 4.62	15~48	平坦	有	3	-	4	有	竈	-	土師器, 土玉	7 C後~8 C前
16	B3f5	N-44°-W	長方形	(6.40 × 5.42)	4	-	有	-	有	-	-	竈	-	土師器, 石製模造品, 刀 子	古墳前期
17	B3e8	N-2°-W	方形	4.70 × 4.70	24~40	平坦	有	-	-	2	有	竈	人	土師器, 須惠器, 鉄鍬, 刀子	9 C中葉
18	B2je	N-30°-W	方形	3.34 × 3.20	2~4	平坦	有	-	-	1	有	竈	-	土師器, 土玉	平安
19	B3e8	N-0°	長方形	5.11 × 4.22	18	平坦	有	5	-	6	-	竈	自	土師器, 須惠器	8 C後葉
20A	B3e0	N-4°-E	方形	5.50 × 5.34	8~28	平坦	有	4	-	5	有	竈	人	土師器, 須惠器	9 C中
20B	B3e9	N-11°-E	方形	3.60 × 3.44	14~18	平坦	有	-	-	-	-	竈	自	土師器, 須惠器	9 C後
21	B3f2	N-43°-W	方形	(5.14 × 4.74)	4	-	有	-	有	-	-	-	-	土師器, 須惠器	古墳前期
22	B3f1	N-47°-W	長方形	3.36 × 3.00	6~12	平坦	有	-	-	1	-	竈	-	土師器, 須惠器	古墳中期
23	B2d0	N-35°-W	方形	5.00 × 5.00	48~60	平坦	有	4	-	5	有	竈	人	土師器, 須惠器, 土玉, 紡錘車	7 C中葉
24	B2b0	N-27°-W	-	5.20 × (1.60)	26~82	平坦	有	(2)	-	(3)	有	-	人	土師器, 鋤先, 鉄鍬	7 C前半
25A	B2e8	N-40°-W	長方形	7.74 × 6.80	54	平坦	有	4	-	4	-	-	自	土師器, 須惠器	古墳前期
25B	B2e8	N-9°-W	長方形	3.36 × 3.00	4~38	平坦	有	-	-	1	有	竈	自	土師器, 須惠器	9 C中葉
26	B2g9	N-55°-W	方形	(7.72) × 7.66	16~18	平坦	有	2	-	2	-	-	-	土師器, 須惠器, 砥石, 釘	古墳前期
27	B3g1	N-19°-W	方形	3.38 × 3.34	49~60	平坦	有	-	-	1	有	竈	自	土師器, 須惠器, 管状土 製品	8 C後~9 C前
28A	B3h1	N-41°-W	-	6.74 × (4.74)	16	平坦	有	(2)	有	(3)	有	-	-	土師器, 土玉	古墳前期
28B	B2h0	N-36°-W	方形	4.72 × (4.52)	20~34	平坦	有	4	-	4	-	竈	自	土師器, 須惠器, 土玉	8 C前葉
28C	B2h0	N-15°-W	長方形	(3.30) × (3.20)	20	平坦	有	-	-	3	有	竈	自	土師器, 須惠器	9 C中
29	B3h3	N-75°-W	長方形	5.44 × 4.64	6	-	有	4	有	7	有	竈	-	土師器, 石製模造品	古墳前期
30	B3f5	N-7°-E	方形	3.70 × 3.44	14	平坦	有	-	-	1	有	竈	-	土師器, 須惠器, 刀子	9 C後
31	B3i4	N-24°-W	方形	3.32 × 3.16	34~38	平坦	有	-	-	1	有	竈	-	土師器, 須惠器	8 C後葉
32	B3g8	N-6°-W	長方形	3.70 × 3.30	21~31	平坦	有	-	-	3	有	竈	人	土師器, 須惠器, 支脚, 刀子	9 C後葉
33	B4h1	N-0°	長方形	5.90 × 5.30	9~23	平坦	有	4	-	4	-	竈	-	土師器, 須惠器	9 C中葉
34	B4j1	N-6°-E	長方形	5.40 × (4.00)	14~32	平坦	有	4	-	6	有	竈	自	土師器, 須惠器, 砥石	9 C中葉
35	B4j1	N-33°-W	方形	4.80 × 4.76	14~34	平坦	有	4	-	5	有	竈	自	土師器, 須惠器	8 C後葉

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸)	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設					炉 竈	覆 土	出土遺物	備考
							壁溝	柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
36	C3b0	N-7°-W	長方形	5.64 × 4.80	2~28	平坦	有	4	-	6	有	竈	人	土師器, 須恵器	9 C前葉
37	B2c9	N-23°-W	方形	3.55 × 3.44	17~60	平坦	有	-	-	1	有	竈	自	土師器, 須恵器, 刀子, 紡錘車	9 C後葉
38	B2i5	N-22°-W	方形	2.90 × 2.84	16~22	平坦	有	-	-	1	有	竈	-	土師器	平安
39	B3i8	N-2°-W	方形	3.60 × 3.60	12~20	平坦	有	4	-	5	有	竈	自	土師器, 須恵器, 刀子	8 C後葉
40	B3i7	N-12°-W	方形	3.94 × 3.80	24~28	平坦	有	-	-	2	有	竈	自	土師器, 須恵器	9 C後葉
41	B3j5	N-12°-W	方形	5.54 × (5.10)	10~14	平坦	有	4	-	4	-	竈	自	土師器, 須恵器, 灰釉陶 器	8 C後葉
42	C3a5	N-7°-E	方形	5.42 × 4.92	6~39	平坦	有	4	-	6	有	竈	-	土師器, 須恵器, 土玉	9 C中葉
43	B3j7	N-20°-E	-	(3.20 × 2.30)	20	-	無	-	-	-	-	-	-	土師器	古墳前期
44	B3j9	N-2°-E	長方形	3.52 × 2.90	11~12	-	無	-	-	-	-	-	-	土師質土器, 常滑	方形竈穴か?
45	C3a2	N-50°-W	方形	7.26 × 7.14	26~34	平坦	有	4	有	5	有	炉	人	土師器, 土玉	古墳前期
46A	C3b3	N-38°-W	-	3.52 × (3.10)	2~8	-	有	-	-	-	-	-	-	土師器, 須恵器	平安
46B	C3b3	N-23°-E	-	(3.08 × 1.70)	2~8	-	有	-	-	-	-	-	-	土師器	平安
47A	C3a3	N-34°-W	方形	4.96 × 4.90	5~27	平坦	有	4	-	5	有	竈	-	土師器	8 C後半
47B	C3a2	N-34°-W	-	(4.60 × 3.00)	2	平坦	有	-	-	-	-	竈	-	土師器	平安
48	B3j3	N-23°-W	方形	2.86 × 2.72	26	平坦	有	-	-	1	有	竈	-	土師器, 須恵器	9 C前葉
49A	C2c0	N-23°-W	方形	(4.80 × 4.56)	2~22	平坦	有	4	-	5	有	竈	-	土師器	8 C以前
49B	C2c0	N-22°-W	方形	(4.50 × 4.44)	2~20	平坦	有	4	-	5	有	竈	-	土師器, 須恵器	8 C前半
50A	B2i5	N-1°-W	長方形	(4.60 × 4.04)	26	平坦	有	-	-	1	有	竈	自	土師器, 須恵器, 灰釉陶 器	9 C後葉
50B	B2j0	N-13°-W	方形	3.30 × 3.20	26	平坦	有	-	-	-	-	自	土師器, 須恵器	-	
51	B2i7	N-77°-E	方形	(3.58 × 3.50)	2~17	平坦	有	-	-	1	有	竈	-	土師器, 須恵器	-
52	B2h7	N-40°-E	長方形	(4.96 × 3.84)	3~5	平坦	有	-	-	2	-	竈	-	土師器	-
53	B2j7	N-16°-W	長方形	4.70 × 4.14	15~34	平坦	有	4	-	5	有	竈	-	土師器, 須恵器, 管状土 製品	8 C後葉
54	B2j7	N-40°-W	-	(2.62 × 2.10)	-	平坦	無	-	-	-	-	-	-	土師器	床の一部遺存
55	C2d5	N-18°-W	方形	4.10 × 4.02	4~13	平坦	有	4	-	7	有	竈	-	土師器, 須恵器	8 C~9 C
57	C2b5	N-58°-W	方形	2.94 × 2.56	22~34	-	無	-	-	1	-	-	人	灰釉陶器(丸皿, 三足甃)	方形竈穴
58	B3c2	N-40°-W	-	(5.90 × 4.70)	2	-	有	-	-	-	-	-	-	土師器	-

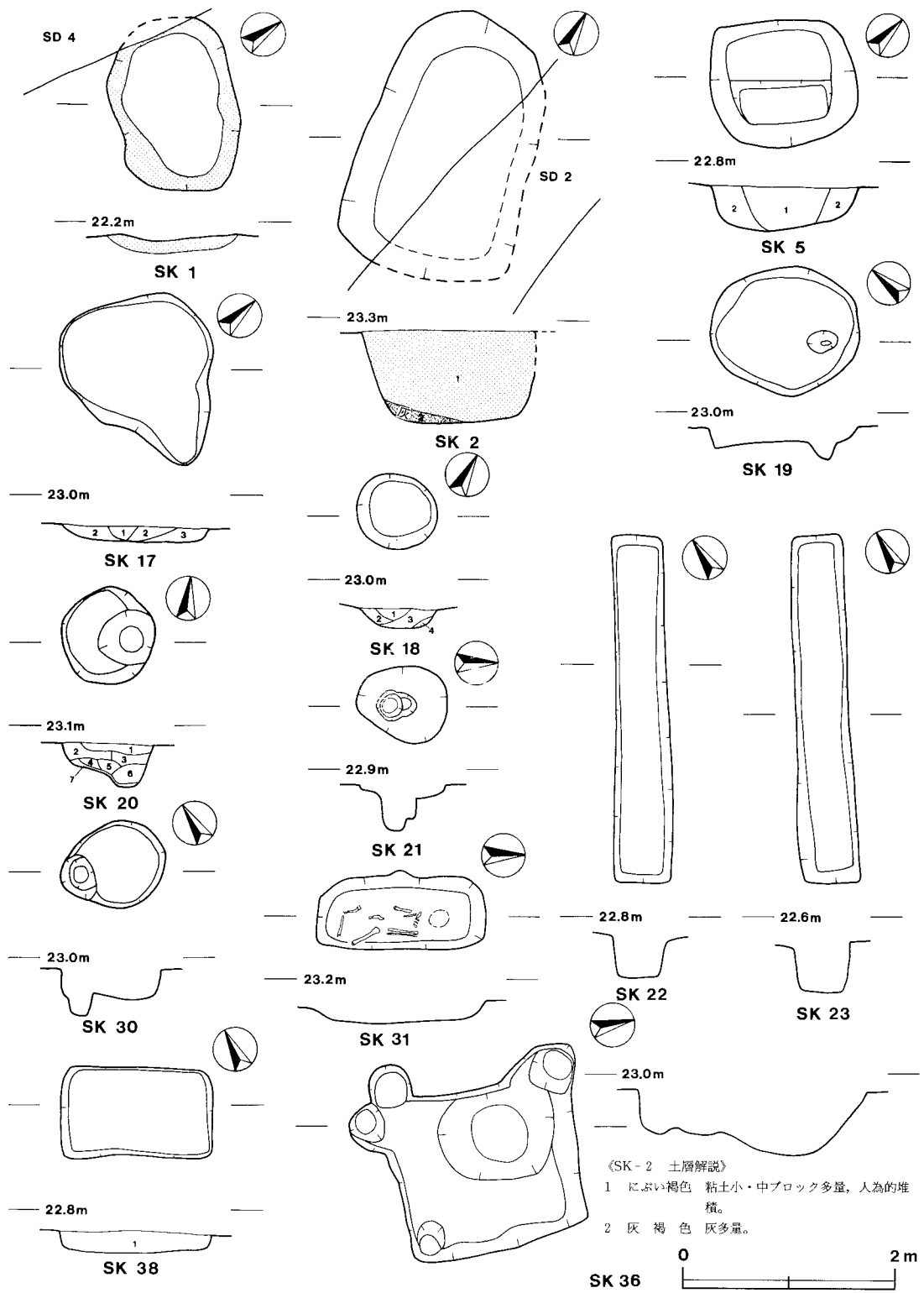
## 2 土坑 (第97・98図)

当遺跡からは、37基の土坑が確認されている。それぞれの土坑からは、必ずしも十分な資料が得られなかったために、性格等を解明できたものはほとんどなかった。

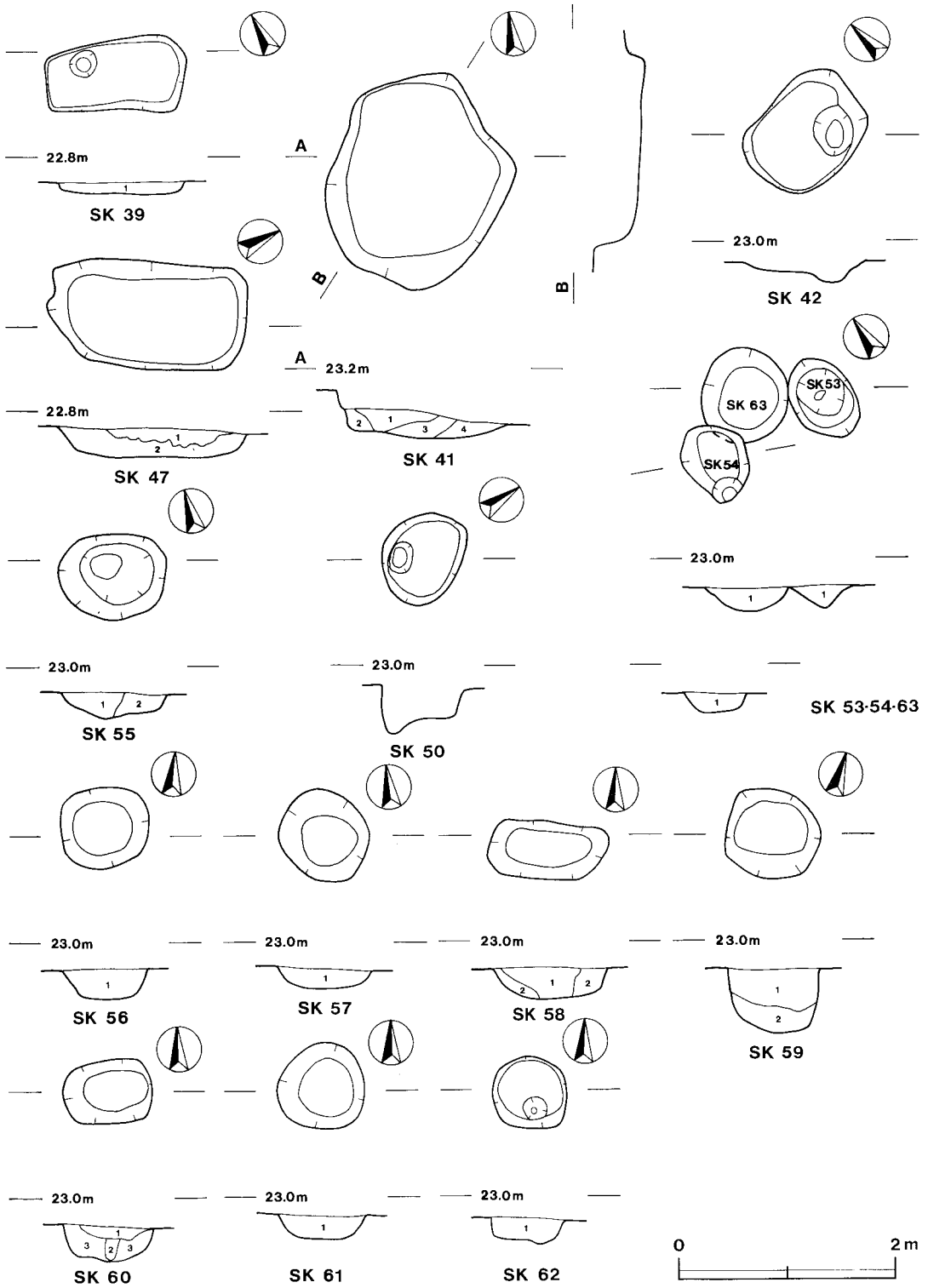
以下、確認された土坑の解説は、一覧表に掲示した。

表3 寄居遺跡土坑一覽表

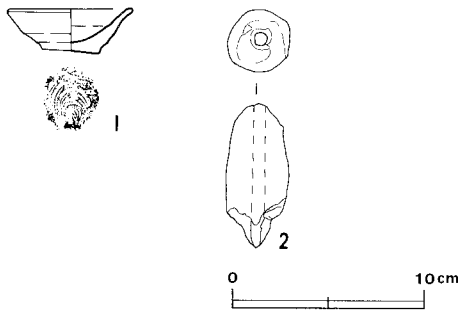
土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模 長径×短径(m)	壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
1	C2a8	N-68°-W	楕円形	1.72 × 1.18	緩斜	平坦	自然	-	粘土張り土坑
2	C2a0	N-13°-E	楕円形	2.60 × 1.60	垂直	皿状	人為	-	下層灰, 粘土詰
5	B3c8	N-41°-E	楕円形	1.28 × 1.23	緩斜	皿状	-	土師器	SI3と重複
6	B3c8	N-55°-W	楕円形	2.60 × 1.608	傾斜	平坦	-	かわらけ	SI3と重複
15	B3d8	N-55°-W	長方形	1.72 × 1.04	垂直	平坦	-	-	SI19と重複
17	B3g7	N-68°-W	不整楕円形	1.72 × 1.44	緩斜	平坦	-	土師器, 銅銭(M41)	-
18	B3f6	N-0°	円形	0.77 × 0.72	緩斜	皿状	自然	土師器, 管状土製品(DP50)	-
19	B3g6	N-37°-W	楕円形	1.41 × 1.24	緩斜	平坦	自然	-	SI19と重複
20	B3h5	N-0°	円形	0.94 × 0.90	緩斜	平坦	自然	土師器	-
21	B3h7	N-2°-E	楕円形	0.76 × 0.75	-	-	-	-	柱穴状
22	B3j8	N-18°-E	長方形	3.31 × 0.56	垂直	平坦	-	土師器, 須恵器, 灰釉陶器	SI41と重複
23	B4a8	N-21°-E	長方形	3.33 × 0.52	垂直	平坦	-	土師器, 須恵器	SI41と重複
30	B3g6	N-66°-W	楕円形	1.03 × 0.81	垂直	平坦	-	-	柱穴状
31	B3d8	N-65°-W	楕円形	1.62 × 0.70	垂直	平坦	人為	-	近世墓か?
32	C3a1	N-4°-W	長方形	2.60 × 1.60	緩斜	平坦	自然	-	-
33	B3d8	N-3°-E	楕円形	0.50 × 0.33	垂直	-	-	-	柱穴状
34	B3d8	N-23°-E	円形	0.78 × 0.67	-	-	-	-	-
36	B3d7	N-50°-W	不定形	1.66 × 1.56	傾斜	皿状	-	土師器	-
38	B3d5	N-61°-W	長方形	1.43 × 0.75	垂直	平坦	-	-	SI14と重複
39	B3d4	N-68°-W	長方形	1.33 × 0.70	垂直	平坦	-	-	SI14と重複
40	B3b6	N-56°-W	長方形	1.38 × 0.85	垂直	-	-	土師器, 内耳鍋	SI4と重複
41	B3h3	N-5°-E	不整楕円形	2.00 × 1.34	緩斜	平坦	自然	土師器, 弥生, 陶器	SI29と重複
42	B3j5	N-70°-E	楕円形	1.20 × 0.86	緩斜	平坦	-	-	SI16と重複
47	B3d9	N-35°-E	楕円形	1.88 × 1.00	-	-	-	-	-
50	B3g7	N-31°-W	楕円形	0.89 × 0.72	外傾	平坦	-	-	-
52	B3f6	N-48°-W	円形	0.42 × 0.40	-	-	-	-	住居ピットか?
54	B3f5	N-12°-W	楕円形	0.74 × 0.56	緩斜	平坦	自然	-	SI16と重複
55	B3f6	N-62°-W	楕円形	1.00 × 0.80	緩斜	平坦	自然	-	SI16と重複
56	B3f6	N-51°-W	円形	0.87 × 0.86	緩斜	平坦	自然	-	SI16と重複
57	B3f6	N-19°-W	楕円形	0.90 × 0.78	緩斜	平坦	自然	-	SI16と重複
58	B3f6	N-75°-E	楕円形	1.16 × 0.58	緩斜	平坦	自然	-	SI16と重複
59	B3e8	N-53°-W	楕円形	0.96 × 0.85	外傾	平坦	自然	-	SI16と重複
60	B3f5	N-70°-E	楕円形	0.83 × 0.62	外傾	平坦	自然	-	SI16と重複
61	B3f5	N-41°-E	円形	0.84 × 0.78	緩斜	平坦	自然	-	SI16と重複
62	B3g5	N-45°-W	円形	0.77 × 0.71	外傾	平坦	自然	-	SI16と重複
63	B3f5	N-19°-E	楕円形	0.90 × 0.78	緩斜	平坦	自然	-	SI16と重複
64	B2h7	N-28°-W	不定形	2.64 × 1.60	外傾	平坦	自然	-	SI52と重複



第97図 第1・2・5・17~23・30・31・36・38号土坑実測図



第98图 第39·41·42·47·50·53~63号土坑实测图



第99図 第6・18号土坑出土遺物実測図

第6号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第99図 1	小皿 土師質土器	A 6.7 B 2.4 C 3.1	平底。底部がやや突出する。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	砂粒 灰白色 普通	P329 95% 覆土

第18号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	管状土製品	(7.6)	3.3	—	60.1	覆土	DP50 孔径0.65~0.7 70%

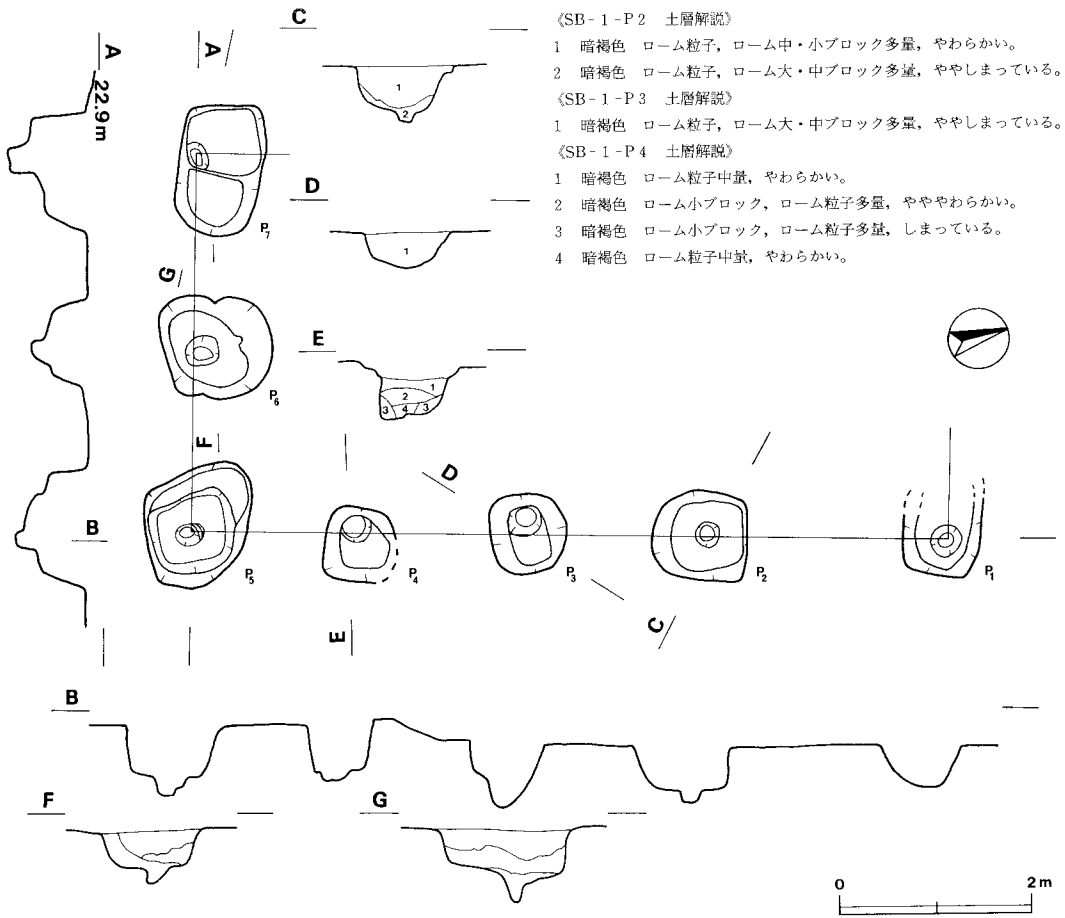
### 3 掘立柱建物跡

#### 第1号掘立柱建物跡（第100図）

**位置** B3b区 **重複関係** 古墳時代前期の第4号住居跡と中期の第3号住居跡，竈を持った時期不明の第1号住居跡を掘り込んでいる。**長軸方向** N-16°-E **規模** 柱間は4間(7.9m)×2間(4.0m)の長方形で，柱穴は7か所確認できた。各柱穴の芯心間の距離はP<sub>2</sub>~P<sub>7</sub>までは1.8~2.12mで，P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>が2.4mである。各柱穴の掘り方は一辺が80~100cmの方形または長方形で，確認面から50cmほどの深さを底面とし，さらに径25cm，深さ20cm程の柱を立てた痕跡と考えられる落込みが見られた。**柱穴覆土** 柱穴覆土の土層断面中央に柱の痕跡の見られるP<sub>4</sub>とP<sub>5</sub>の場合は，柱痕部分が黒褐色~暗褐色と暗い色調で周囲の暗褐色土とはっきりと分かれるが，中央部分も柱痕周囲部分も軟らかく柱の抜取りがおこなわれていることが考えられる。その他の柱穴覆土についても，つき堅めた痕跡が弱く，柱の立ち腐れよりは，むしろ全体としては，柱抜取り後の堆積の状況を示していると考えられる。

**遺物** P<sub>3</sub>内から古銭，P<sub>4</sub>内からかわらけ・内耳土器片が出土している。

**所見** 時期不明とした第1号住居跡よりも新しいこと，南北棟であること，柱穴の掘り方が比較



第100図 第1号掘立柱建物跡実測図

的しっかりとしたものであることなどが特徴として挙げられる。本跡の構築時期については、切り合い関係から、奈良・平安時代以降で、出土遺物からは、中世の時期の可能性も考えられる。しかし、本跡周辺には、中世の土坑が多く存在しており、その攪乱による遺物の混入も考えられ、時期決定を難しくしている。

#### 4 地下式墳

当遺跡からは、調査区南部において、東西方向に分布する6基の地下式墳が確認されている。出土遺物が全体に少なく不明な点が多い。地下式墳の主軸方向は、竪坑から主室を向いた方向として記述している。

##### 第1号地下式墳 (第101図)

位置 C2b<sub>8</sub>区 重複関係 当跡は、第4号溝の一部を破壊している。 規模と形状 竪坑と主



室からなり、主室の天井部は既に落下している。竪坑は底面が長方形で、規模は長軸0.7m、短軸0.84mで、深さ約2mである。主室は底面が主軸と直交する方向に長い長方形で、長軸2.52m、短軸1.54mである。竪坑と主室に底面の高低差は見られない。 **主軸方向** N-100°-W  
**覆土** 5層。1～3層は主室の天井部落下後の土層で、かわらけや土鍋等の遺物を含んでいる。4層は厚さ約1.1mの数回にわたる天井部の落下土層でロームと暗褐色土の互層となっている。最下層の5層は、褐色ローム土が竪坑側から流れ込んだ状態である。

**遺物** 当跡は天井部崩落で陥没し、深さ1m以上の穴となっていた時期があったと思われ、その時点で、かわらけ・内耳鍋を中心とした遺物が投げ捨てられている。第102図-2・4・5・6・8・9・10・11・12・14のかわらけはまとまって出土し、その他のかわらけも完形に近い状態で、ほぼ同時期の投棄遺物と思われる。あえて層位で分けるならば、4のかわらけと22の天目茶碗が3層から、その他はすべて1層からの出土である。拓影図中で、24・27の播鉢は土師質の在地系のもので、25は瀬戸の播鉢である。

**所見** 本跡の内部は、天井崩落までは空洞であったと思われる。天井崩落後に流入した遺物は、かわらけを主体として古瀬戸や青磁片が含まれ、15世紀後半代頃の遺物と考えられる。

### 第2号地下式壙（第101図）

**位置** C2b<sub>9</sub>区 **重複関係** 第2号溝が、本跡の覆土上層の一部と交差している。

**規模と形状** 竪坑と主室からなり、主室の天井部は既に落下している。竪坑は底面が方形で、規模は一辺が0.9m、深さ1.42mである。主室は底面が主軸と直交する方向に長い長方形で、長軸3.16m、短軸2.10m、深さ2.1mである。竪坑の底面は主室の底面から0.62m高くなっている。

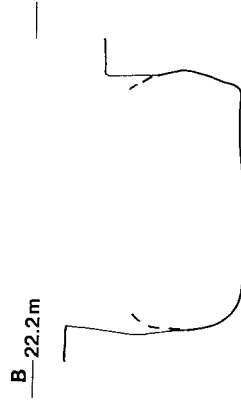
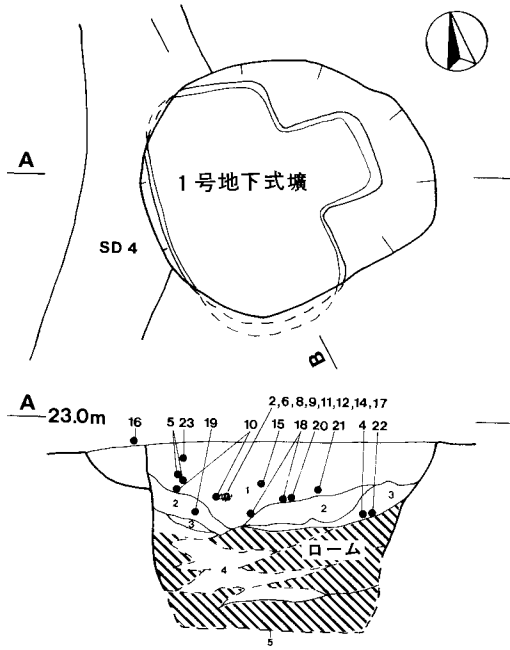
**主軸方向** N-3°-W **覆土** 9層。1層は暗褐色土の自然堆積土層である。2～5層中には、粘土のブロックを大量に含み人為的な堆積土と考えられる。5層から9層にかけては、旧表土と天井部と思われるロームが落下している。

**遺物** 覆土中から、かわらけ・内耳鍋等が出土している。

**所見** 本跡は、天井崩落後、南側から粘土ブロックを大量に含んだ土が投棄されており、付近で粘土層の深さまで達する掘り込みが行われたことが考えられる。

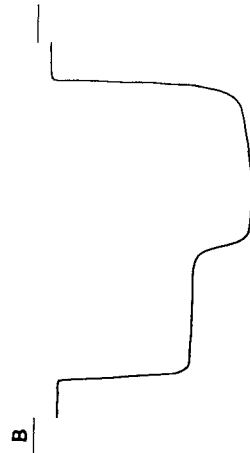
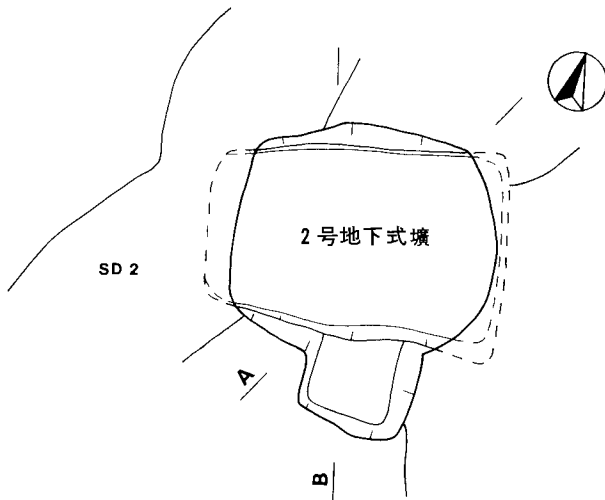
### 第3号地下式壙（第105図）

**位置** C3b<sub>3</sub>区 **重複関係** 第6号地下式壙と壁の一部が接しているが、新旧関係はつかめなかった。 **規模と形状** 竪坑と主室からなり、主室の天井部は既に落下している。竪坑は底面が台形で、規模は幅0.7～0.9m、奥行き0.9m、深さ1.9mである。主室は底面が主軸と直交する方向に長い長方形で、長軸2.14m、短軸1.6m、深さ2.6mである。竪坑の底面は主室の底面よりも0.4



〈1号地下式墳 土層解説〉

- 1 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム小ブロック。
- 2 暗褐色 ローム大ブロック多量。
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量。
- 4 暗褐色 暗褐色土とロームブロックの互層。
- 5 褐色 ローム大ブロック多量。

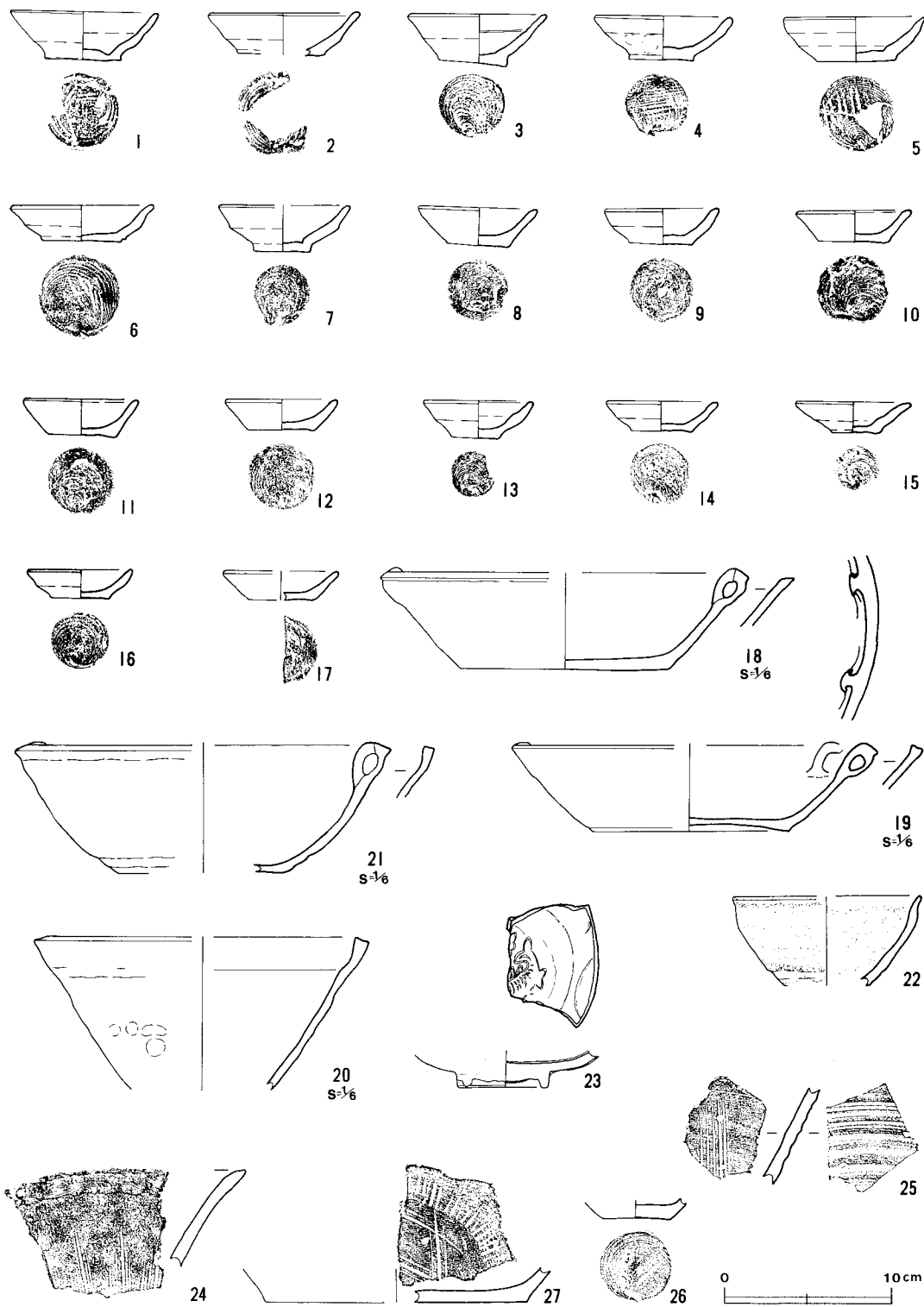


〈2号地下式墳 土層解説〉

- 1 暗褐色 ローム粒子少量。
- 2 暗褐色 粘土粒子, 粘土大ブロック中量。
- 3 暗褐色 ローム大ブロック中量。
- 4 褐色 ローム少・中・大ブロック多量, 粘土小ブロック少量。
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量。
- 6 褐色 ローム少・中・大ブロック多量, 粘土小ブロック少量。
- 7 褐色 地山ローム崩落土。
- 8 暗褐色 旧表土崩落土層。
- 9 褐色 地山ローム崩落土。



第101図 第1・2号地下式墳実測図

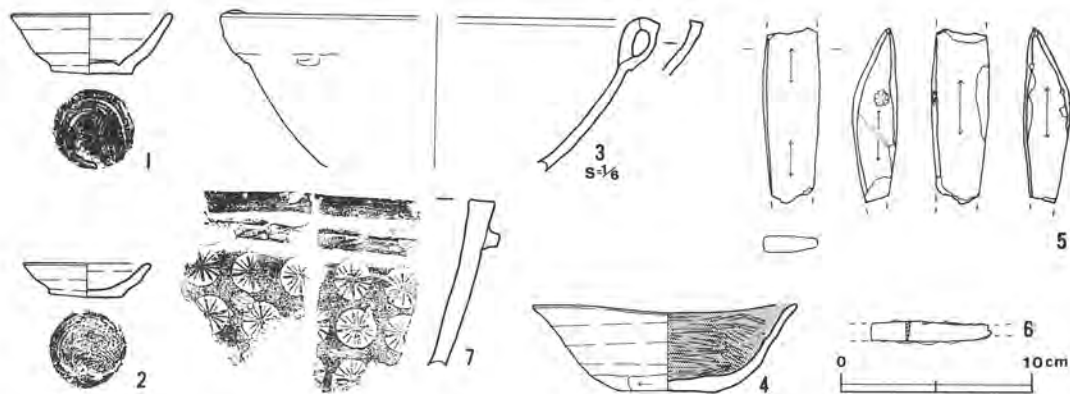


第102图 第1号地下式壙出土遺物実測・拓影図

第1号地下式墳(旧12号土坑)出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 1	小皿 土師質土器	A 9.1 B 3.0 C 4.6	平底。底部がやや突出し、体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。内面見込み部外周強いナデ。	スコリア少量 にぶい橙色 普通	P340 60% 覆土
2	小皿 土師質土器	A 9.4 B 2.7 C 5.4	平底。底部がわずかに突出する。	体部は外傾して立ち上がる。底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黄白色微砂粒多量 橙色 普通	P341 50% 覆土(1層)9個体の 一括遺物のひとつ
3	小皿 土師質土器	A 8.4 B 3.2 C 4.0	平底。底部がやや突出し、体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	橙色 普通	P342 80% 覆土
4	小皿 土師質土器	A 8.6 B 2.8 C 4.0	平底。底部がわずかに突出する。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	砂粒極少量 浅黄橙色 普通	P343 90% 覆土(3層)
5	小皿 土師質土器	A 8.6 B 2.8 C 4.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	浅黄橙色 普通	P344 90% 覆土(1層)
6	小皿 土師質土器	A 8.8 B 2.2 C 4.8	平底。底部がわずかに突出する。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黄白色微砂粒多量 橙色 普通	P345 100% 覆土(1層)9個体の 一括遺物のひとつ
7	小皿 土師質土器	A 8.1 B 2.9 C 3.4	平底。底部がやや突出し、体部はやや内彎気味に立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。内面の見込み部と体部の境に明瞭な接合痕跡を残す。	黄白色微砂粒多量 橙色 普通	P346 70% 覆土
8	小皿 土師質土器	A 7.3 B 2.4 C 3.8	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黄白色微砂粒多量 にぶい橙色 普通	P347 95% 覆土(1層)9個体の 一括遺物のひとつ
9	小皿 土師質土器	A 7.1 B 2.3 C 4.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黄白色微砂粒多量 にぶい橙色 普通	P348 100% 覆土(1層)9個体の 一括遺物のひとつ
10	小皿 土師質土器	A 7.0 B 2.1 C 4.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黄白色微砂粒多量 橙色 普通	P349 90% 覆土(1層)
11	小皿 土師質土器	A 7.1 B 2.4 C 4.1	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黄白色微砂粒多量 にぶい橙色 普通	P350 100% 覆土(1層)9個体の 一括遺物のひとつ
12	小皿 土師質土器	A 6.9 B 2.0 C 4.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黄白色微砂粒多量 橙色 普通	P351 100% 覆土(1層)9個体の 一括遺物のひとつ
13	小皿 土師質土器	A 6.8 B 2.4 C 2.9	平底。底部がやや突出し、体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	微砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P352 98% 覆土
14	小皿 土師質土器	A 6.9 B 1.9 C 3.6	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黄白色微砂粒多量 橙色 普通	P353 80% 覆土(1層)9個体の 一括遺物のひとつ
15	小皿 土師質土器	A 6.8 B 2.0 C 2.5	平底。体部は僅かに外反気味に立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	微砂粒 浅黄橙色 普通	P354 95% 覆土(1層)
16	小皿 土師質土器	A 6.4 B 1.8 C 3.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黄白色微砂粒多量 橙色 普通	P355 80% 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 17	小皿 土師質土器	A 7.1 B 1.8 C [4.1]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黄白色微砂粒多量 橙色 普通	P356 40% 覆土(1層)9個体の 一括遺物のひとつ
18	内耳鍋 土師質土器	A 33.8 B 9.4 C 19.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。	長石・石英微砂粒 多量、にぶい赤褐色、 普通	P357 70% 覆土(1層)
19	内耳鍋 土師質土器	A 34.0 B 8.3 C 18.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P358 40% 覆土(2層)
20	内耳鍋 土師質土器	A [31.0] B (14.3)	底部破損。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P359 20% 覆土(1層)
21	内耳鍋 土師質土器	A [34.6] B 12.1 C [15.4]	底部破損。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。	雲母 にぶい褐色 普通	P360 15% 覆土(1層)
22	天目茶碗 灰釉陶器	A [11.4] B (5,5)	体部破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部外面に凹線を持ち端部は僅かに外反する。	体部内・外面横ナデ。素地の上に銀色発色の鉄釉をかけ、その上に黒褐色の厚い鉄釉を掛けている。	緻密 にぶい橙色 良好	P362 25% 覆土(3層)
23	双魚文埴 青磁	B (2.3) D [5.5] E 1.0	底部破片。平底で削り出し高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	内・外面底面に双魚文を陰刻。	緻密 灰色 良好	P363 30% 覆土(1層)



第103図 第2号地下式墳出土遺物実測・拓影図

第2号地下式墳(旧14号土坑)出土遺物観察表

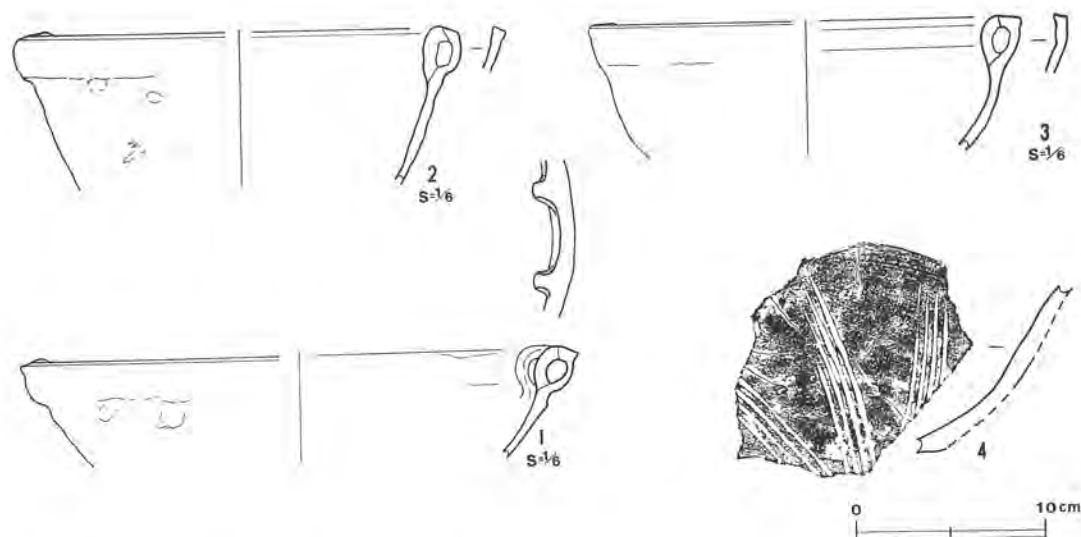
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第103図 1	小皿 土師質土器	A 8.5 B 3.3 C 4.3	平底。底部がやや突出し、体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。内面見込み部外周がくぼむ。	スコリア少量 浅黄褐色 普通	P366 100% 覆土
2	小皿 土師質土器	A 6.8 B 1.8 C 3.9	平底。底部がわずかに突出する。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黄白色微砂粒多量 橙色 普通	P367 75% 覆土
3	内耳鍋 土師質土器	A [35.0] B (12.4)	底部破損。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 黒褐色、普通	P368 30% 覆土
4	坏 土師器	A 14.0 B 4.7 C 5.2	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。	底部一方方向へ削り。体部外面横ナデ。内面へ磨き。	砂粒少量 にぶい黄褐色 普通	P369 85% 覆土 内面黒色処理

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	砥石	(9.3)	4.0	2.4	85.2	覆土	Q26
6	刀子	(6.3)	1.4	0.2	6.1	覆土	M40

m高くなっている。主軸方向 N-40°-W 覆土 8層。1～3, 5層は暗褐色土の自然堆積土層である。4・6・8層は、天井部と思われるロームの落下した土層である。

遺物 覆土中から内耳鍋の破片が出土している。

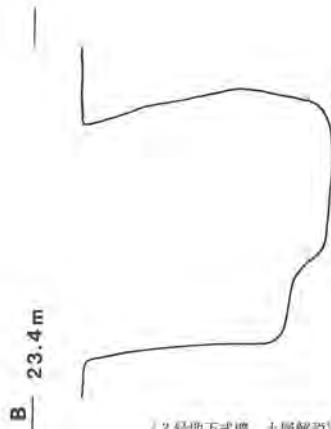
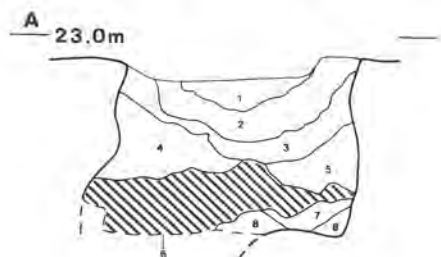
所見 本跡は、第6号地下式墳と壁の一部がわずかに接しているものの、主軸方向に関連がないことから、近接した場所につくられた異時期の遺構と判断した。本跡は、遺物の出土が少ないことから遺構の時期を決めることが難しい。



第104図 第3号地下式墳出土遺物実測・拓影図

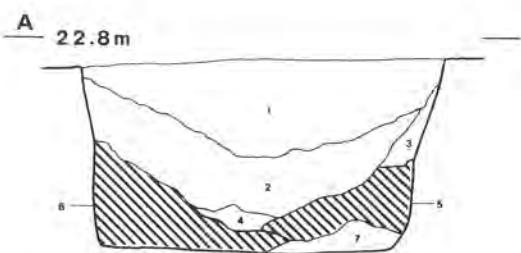
### 第3号地下式墳（旧13号土坑）出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第104図 1	内耳鍋 土師質土器	A [42.4] B (8.4)	体部は内彎気味に立ち上がる。 耳3。	体部内・外面横ナデ。	長石・石英微砂粒 雲母末、にぶい赤 褐色、普通	P364 20% 覆土
2	内耳鍋 土師質土器	A [35.6] B (12.7)	体部はやや内彎気味に立ち上がる。 内側口縁端部が内上方に突出する。	体部内・外面横ナデ。	長石・石英微砂粒 雲母末 にぶい橙色、普通	P365 10%
3	内耳鍋 土師質土器	A [34.2] B (10.8)	体部は内彎して立ち上がる。内 側口縁端部が内上方に突出する。	体部内・外面横ナデ。	長石・石英微砂粒 雲母末、にぶい赤 褐色、普通	P98 10%



〔3号地下式墳 土層解説〕

- 1 暗褐色 ローム大ブロック少量, ローム小ブロック中量。
- 2 暗褐色 ローム大ブロック少量。
- 3 暗褐色 ローム大ブロック多量。
- 4 褐色 ロームブロック。
- 5 暗褐色 ローム大ブロック多量。
- 6 褐色 地山ローム崩落上。
- 7 暗褐色 ローム大ブロック。
- 8 褐色 地山ローム崩落上。



〔4号地下式墳 土層解説〕

- 1 黒褐色 ローム粒子, 砂粒中量。
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量。
- 3 暗褐色 ローム粒子, ローム小ブロック多量。
- 4 褐色 ローム大ブロック崩。
- 5 暗褐色 ローム大ブロック多量。
- 6 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量。
- 7 暗褐色 ローム小・中ブロック多量。



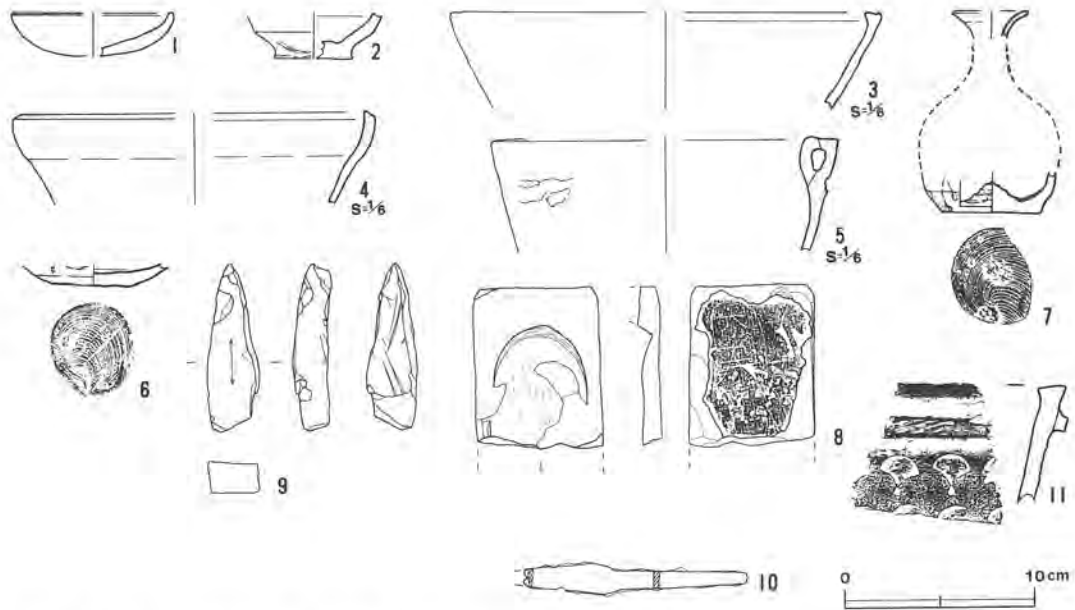
第105図 第3・4号地下式墳実測図

第4号地下式墳（第105図）

**位置** C3b区 **規模と形状** 竪坑と主室からなり、主室の天井部は既に落下している。竪坑は底面が方形で、規模は一辺0.8m、深さ2.0mである。主室は、底面が主軸と直交する方向に長い長方形で、長軸3.43m、短軸1.95mで竪坑と主室の底面との高低差は無い。竪坑と主室の間に長さ0.4m程の短い通路部があり、竪坑側の通路前面には、長楕円形の浅いくぼみがある。竪坑底面の各コーナー部には、径約14cm、深さ約5cm程の円形の柱穴状のピットがある。 **主軸方向** N-10°-E **覆土** 7層。1～3・5層は暗褐色土の自然堆積土層である。4、6、8層は、天井部と思われるロームの落下した土層である。

**遺物** 覆土上層からかわらけ・内耳鍋片・灰釉陶器丸皿、裏面に「大天王」の文字を刻んだ石硯が出土している。

**所見** 本跡の竪坑底面の四隅には、柱穴状のピットが掘られており、竪坑の壁と天井部を支えるための木質の構造材の存在が推測される。



第106図 第4号地下式墳出土遺物実測・拓影図

第4号地下式墳（第11号土坑）出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第106図 1	小皿 土師質土器	A [8.6] B (2.3)	丸底。体部は内嚢して立ち上がる。	底部削り後ナデ。体部内面及び口縁部横ナデ。	スコリア少量 橙色 普通	P332 20% 覆土。



図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第106図 2	小 皿 土師質土器	B (2.5) C [4.1]	平底。底部がやや突出する。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	長石微砂粒少量 におい橙色 普通	P 333 30% 覆土
3	内 耳 鍋 土師質土器	A [34.2] B (7.6)	口縁部破片。体部は外傾し、口縁内側が内彎する。端部は凹面。	体部内・外面横ナデ。	雲母微粉末・石英・長石の微砂粒 におい褐色、普通	P 334 10% 覆土
4	内 耳 鍋 土師質土器	A [28.8] B (7.4)	口縁部破片。体部は外傾し、口縁端部が内側に突出する。	体部内・外面横ナデ。	微砂粒・雲母末 橙色 普通	P 335 10% 覆土
5	内 耳 鍋 土師質土器	A [27.4] B (9.3)	口縁部破片。体部は外傾し、口縁部が内彎して開く。	体部内・外面横ナデ。	雲母末・石英少量 灰褐色 普通	P 336 10% 覆土
6	丸 皿 灰釉陶器	B (1.2) C 4.4	底部破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黒色微粒子極少量 灰白色 良好	P 337 30% 覆土 瀬戸・美濃か？
7	小 瓶 灰釉陶器	B (10.8) C 5.2	底部及び口縁部破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黒色微粒子少量 灰白色 良好	P 338 20% 覆土、混入遺物 (K90窯式)

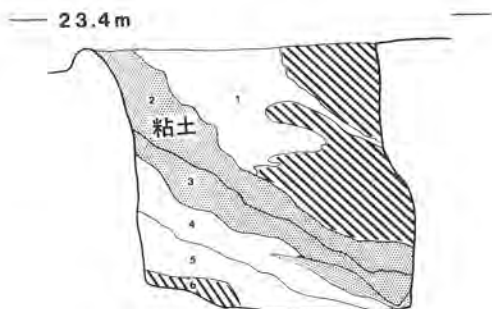
図版番号	器 種	計 測 値				出 土 位 置	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	碇	(8.6)	6.8	(1.3)	120.3	覆土	Q24 粘板岩刻書「大天王」
9	砥 石	(8.8)	2.7	2.1	51.1	覆土	Q25
10	刀 子	(11.6)	1.7	0.4	20.3	覆土	M37

### 第 5 号地下式墳 (第107図)

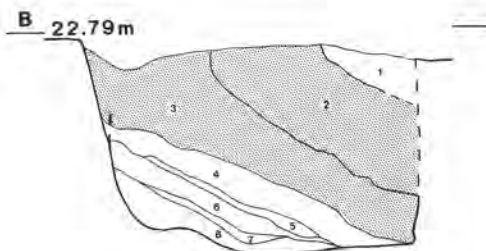
**位置** C2a<sub>0</sub>区 **重複関係** 本跡が、第49号住居跡の北部を壊している。 **規模と形状** 竪坑と主室からなり、主室の天井部は既に落下している。竪坑は底面が長方形で、規模は幅約1.0m、長さ約0.6m、深さ2.54mで、主室に接している。主室は底面が主軸と直交する方向に長い長方形で、長軸3.20m、短軸2.00m、深さ2.84mである。竪坑の底面は、主室の底面よりも0.24m高い。 **主軸方向** N-32°-E **覆土** 6層。2～5層は竪坑から主室に向かって傾斜した土層で、3層は褐色粘土層である。天井部と思われるロームは、2層堆積後に落下している。竪坑底面上の6層は、上面が水平でよくしまっている。

**遺物** かわらけが覆土から出土している。

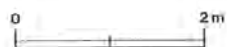
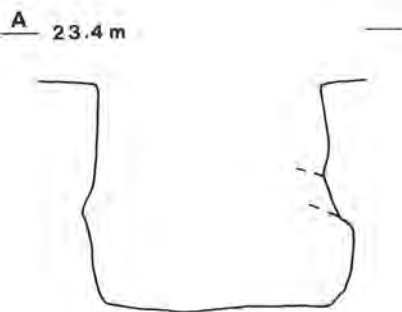
**所見** 覆土の内、6層は竪坑底面上に敷馴らした状態で、上面が硬化していることから竪坑の実際の底面と考えられる。3層は埋没途中の地下式墳内に大量に粘土を入れている状況であるので、ローム層よりも下層に及ぶ掘削地業による廃棄粘土の人為堆積土層と考えられる。周囲の遺構で粘土層まで掘り込むものは、地下式墳しか存在しないので、本跡よりも新しい地下式墳が付近に掘削された傍証となると思われる。



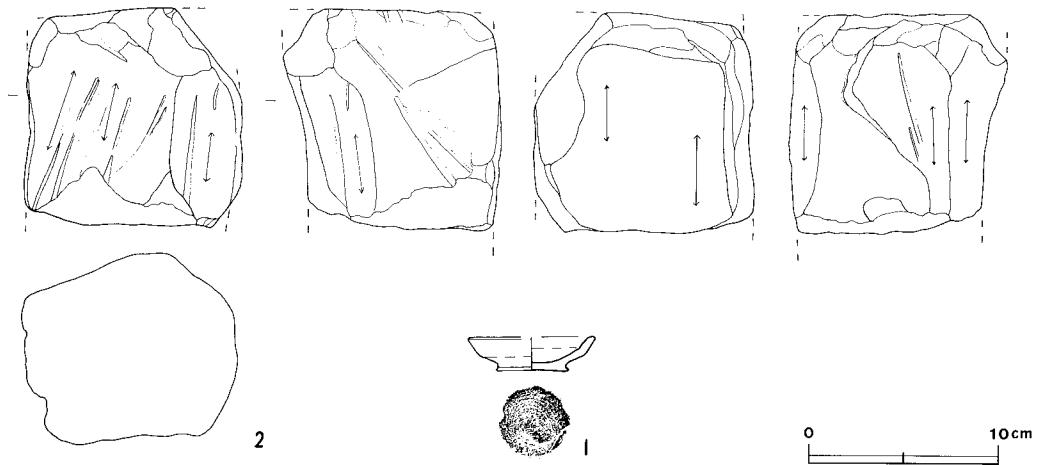
- 〔5号地下式墳 土層解説〕
- 1 暗褐色 粘土粒子、ローム粒子少量。
  - 2 暗褐色 粘土小・中ブロック少量。
  - 3 褐色 粘土大ブロック多量。
  - 4 暗褐色 ローム粒子中量。
  - 5 暗褐色 ローム小ブロック多量。
  - 6 褐色 ローム土。



- 〔6号地下式墳 土層解説〕
- 1 暗褐色 粘土粒子中量、粘土小ブロック。
  - 2 明褐色 粘土小・中ブロック多量。
  - 3 黄褐色 粘土大ブロック多量。
  - 4 褐色 ロームブロック主体。
  - 5 暗褐色 ローム大ブロック多量。
  - 6 褐色 地山ローム崩落土。
  - 7 暗褐色 ローム大ブロック多量。
  - 8 褐色 地山ローム崩落土。



第107図 第5・6号地下式墳実測図



第108図 第5号地下式墳出土遺物実測図

第5号地下式墳（旧43号土坑）出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図 1	小皿 土師質土器	A 6.8 B 1.8 C 3.8	平底。底部がやや突出し、体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	黄白色微砂スコリア少量、浅黄橙色普通	P370 60%

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	砥石	11.8	11.6	11.5	2033.5	覆土	Q27

第6号地下式墳（第107図）

**位置** C3c<sub>3</sub>区 **重複関係** 第3号地下式墳と壁の一部が接触しているが、切り合い関係はつかめなかった。 **規模と形状** 竪坑と主室からなり、主室の天井部は既に落下している。竪坑は底面が方形で、規模は長軸1.03m、短軸0.94m、深さ2.10mである。主室は、底面が主軸と直交する方向に長い長方形で、長軸2.50m、短軸1.82m、深さ2.37mである。竪坑底面は主室の底面よりも0.28m高い。 **主軸方向** N-2°-E **覆土** 8層。3～8層は竪坑上方から主室底面に向かって傾斜した土層で、3層は明褐色からいぶい黄褐色粘土の堆積土層である。1～2層は天井部と思われるロームの崩落した土層である。

**遺物** 出土していない。

**所見** 覆土のうち、3層は5号地下式墳の覆土と同様に粘土の人為堆積土層と思われる。本跡よりも新しい時期の地下式墳の存在が、付近に考えられる。

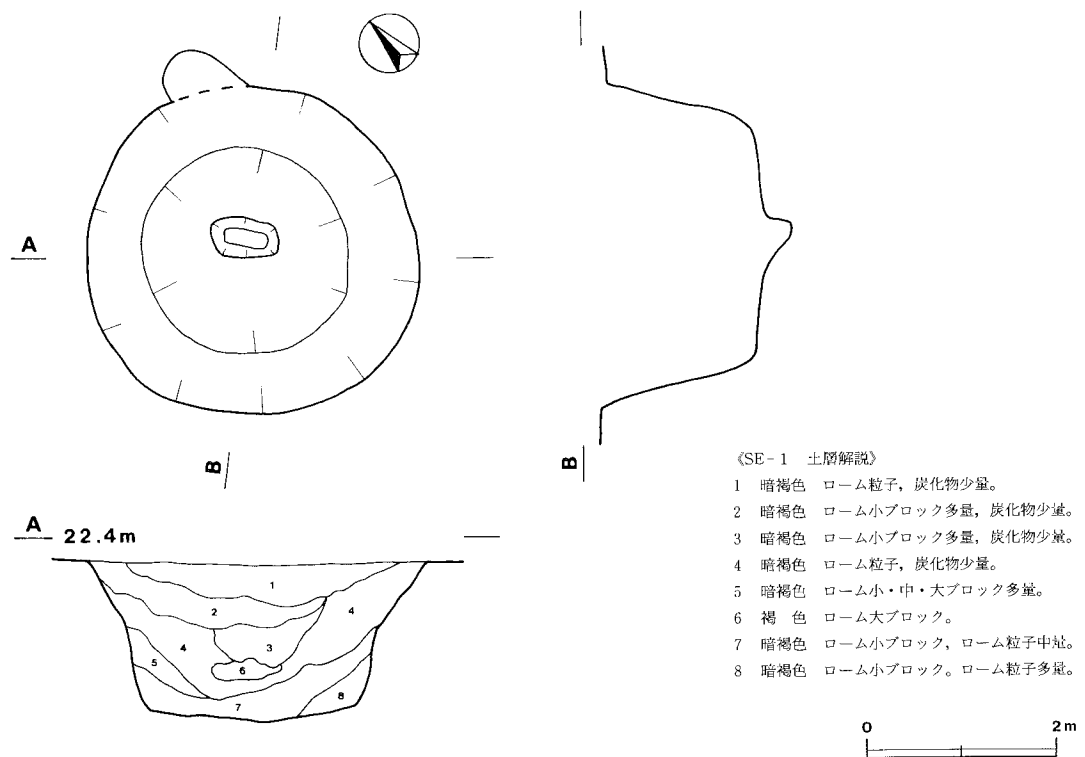
## 5 井 戸

### 第1号井戸 (第109図)

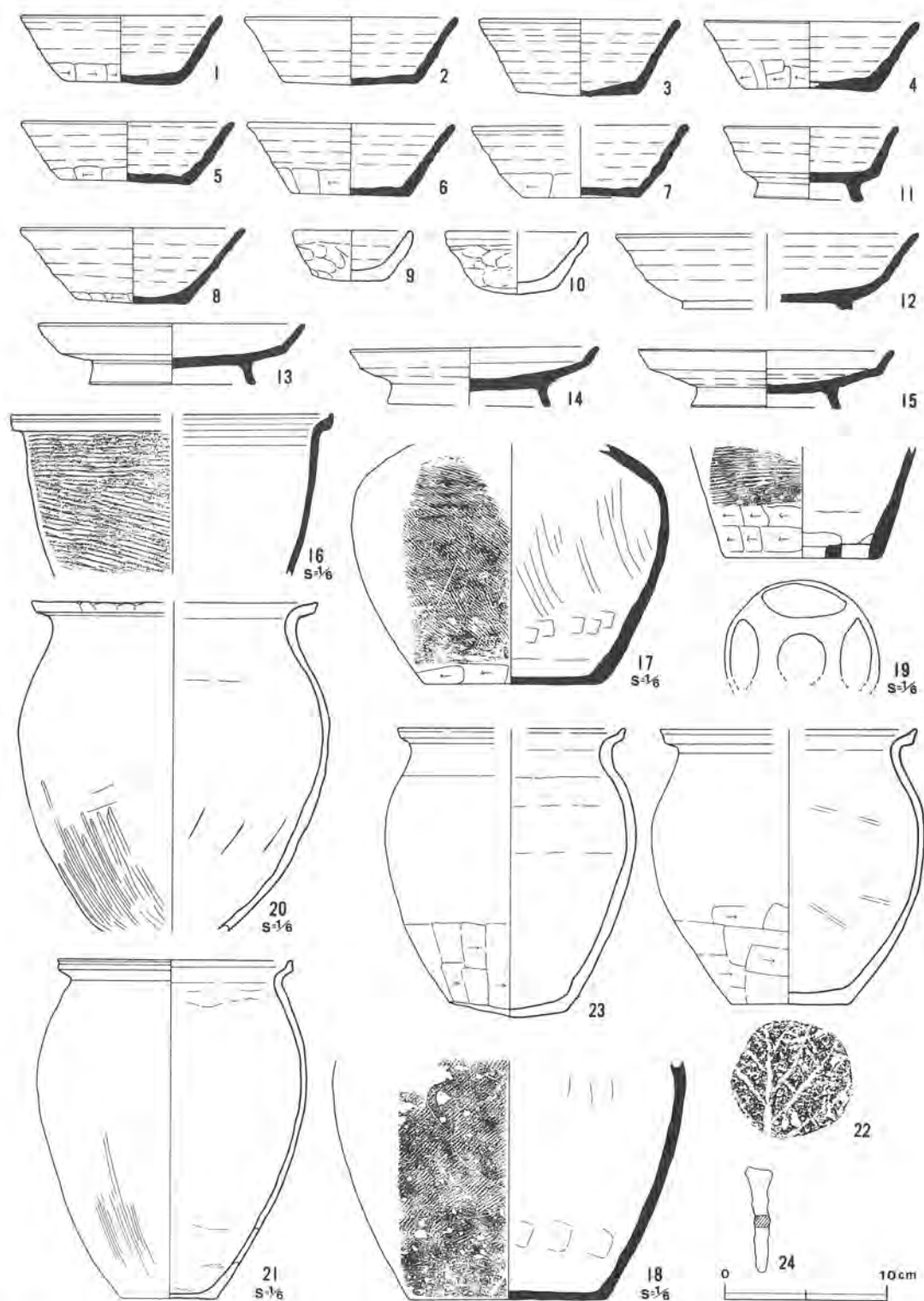
**位置** B3b<sub>6</sub>区 **重複関係** 第4号住居跡の中央部を掘り抜いている。 **規模と形状** 掘り方は、上面が直径の約3.5mの円形で、確認面から深さ2.1mまで傾斜して掘り込み、径約2.1mの底面をつくっており、底の平らな擦鉢のような形状である。底面中央部には長径0.70m、短径0.45m、深さ0.31mの長楕円形の掘り込みを持つ。 **覆土** 8層。各層とも中央部に向かって傾斜する土層で、4・5・7・8層は井戸の裏込め土、及びその崩れた土層と思われる。3層・6層は中央部で厚く堆積している。

**遺物** 須恵器の坏・盤・甑、土師器の甕等の遺物が厚さ約1mの1層中から多く出土した。

**所見** 覆土中の出土遺物は井戸廃棄後の投棄遺物と思われる。本跡は、それらの遺物から9世紀前葉頃の井戸と考えられる。



第109図 第1号井戸実測図



第110图 第1号井戸出土遺物実測図

# 第1号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第110図 1	坏 須恵器	A 12.4 B 4.3 C 6.9	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P371 100% 覆土(1層)
2	坏 須恵器	A 13.3 B 4.2 C 8.3	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ切り離し後押え。体部下端回転ヘラ削り。	雲母・長石・石英 灰色 普通	P372 100% 覆土(1層)
3	坏 須恵器	A 12.5 B 4.6 C 7.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ切り離し無調整。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 オリブ灰色 普通	P373 85% 覆土(1層)
4	坏 須恵器	A 13.3 B 4.3 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P374 90% 覆土(1層)
5	坏 須恵器	A 13.3 B 3.8 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P375 95% 覆土(1層)
6	坏 須恵器	A 13.0 B 4.6 C 7.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 微砂粒, 灰色 普通	P376 80% 覆土(1層)
7	坏 須恵器	A 13.5 B 4.5 C 7.3	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 砂粒, 灰色 普通	P377 60% 覆土
8	坏 須恵器	A 14.0 B 4.7 C 6.8	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・雲母末 暗青灰色 普通	P378 50% 覆土 二次焼成
9	小形坏 土師器	A 6.2 B 3.2 C 4.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部無調整。体部外面指ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	微砂粒多量 灰色 普通	P379 80% 覆土(2層)
10	小形坏 土師器	A [8.2] B 4.0 C 5.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部無調整。体部外面指ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	微砂粒多量 黒褐色 普通	P380 30% 覆土 二次焼成
11	高台付坏 須恵器	A 10.9 B 4.7 C 6.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英の砂粒 多量, 灰色 普通	P381 70% 覆土
12	高台付坏 須恵器	A [19.0] B 4.7 C [10.6]	平底で低い高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母末 灰色 普通	P382 20% 覆土(1層)
13	小形盤 須恵器	A 16.6 B 3.8 C 10.2	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部との境に稜を持つ。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	雲母末, 小礫 灰白色 普通	P328 100% 覆土(1層)
14	小形盤 須恵器	A 15.4 B 3.8 C [9.8]	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部との境に稜を持つ。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	雲母 灰白色 普通	P383 60% 覆土(1層)
15	小形盤 須恵器	A 15.9 B 3.6 C 9.2	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部との境に稜を持つ。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	雲母 灰白色 普通	P384 60% 覆土
16	鉢 須恵器	A [30.0] B (15.1)	口縁部破片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は外反し端部を上方につまみ上げる。	口縁部外面横位の平行叩き。	長石・石英の微砂粒多量 灰黄褐色, 普通	P385 10% 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第110図 17	甕 須恵器	B (22.5) C 16.4	底部から胴部にかけての破片。 平底で、胴部最大径を上位に持つ。	胴部外面斜位の平行叩き。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P 386 40%
18	甕 須恵器	B (22.5) C [18.6]	底部から胴部にかけての破片。 平底で、胴部最大径を上位に持つ。	胴部外面斜位の平行叩き。	雲母末多量 灰黄色 不良	P 387 30%
19	甕 須恵器	B (10.4) C 14.4	底部から胴部にかけての破片。 平底で、5孔開く。体部は外傾して立ち上がる。	胴部外面斜位の平行叩き。体部下端横位のヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P 388 15%
20	甕 土師器	A [26.7] B (30.8)	底部破損。胴部上位に最大径を持ち、頸部でくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	胴外面下半部斜位のヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英の礫 橙色 普通	P 389 50% 覆土
21	甕 土師器	A 21.9 B 31.7 C 8.7	平底。胴部上位に最大径を持ち、頸部でくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	胴外面下半部斜位のヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英の礫 にぶい黄橙色 普通	P 390 80% 覆土(1層)
22	甕 土師器	A [16.0] B 17.2 C 7.4	平底。胴部中位に最大径を持ち、頸部でくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	胴外面下半部横位のヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 394 50% 覆土(1層)
23	甕 土師器	A [14.2] B 17.9 C 7.3	平底。胴部上位に最大径を持ち、頸部でくびれ口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	底部無調整。胴外面下半部横位のヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英の砂礫 多・雲母末、橙色 普通	P 397 70% 覆土(1層) 二次焼成か?

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
24	鉄釘	(6.7)	1.7	—	17.3	覆土(1層)	M34

## 6 溝

当遺跡からは、5条の溝が確認されている。ほとんどは中世の時期の溝と考えられるが、調査エリア外に延びているものや、曲線的に回り込んでいるもの、途中で浅くなり確認できなかったものもあり、溝の性格を捉えることはできなかった。

### 第1号溝(第111図)

**位置** B2e7区～B3j5区 **重複関係** 第26・28A・28B・28C・48・45号住居跡の、覆土及び床面の一部を掘り込んでいる。 **方向** B2e7区から南東方向へ直線的に延びている。

**規模と形状** 長さ36mで、掘り方断面は上幅約1.2m、下幅約0.5mの逆台形である。

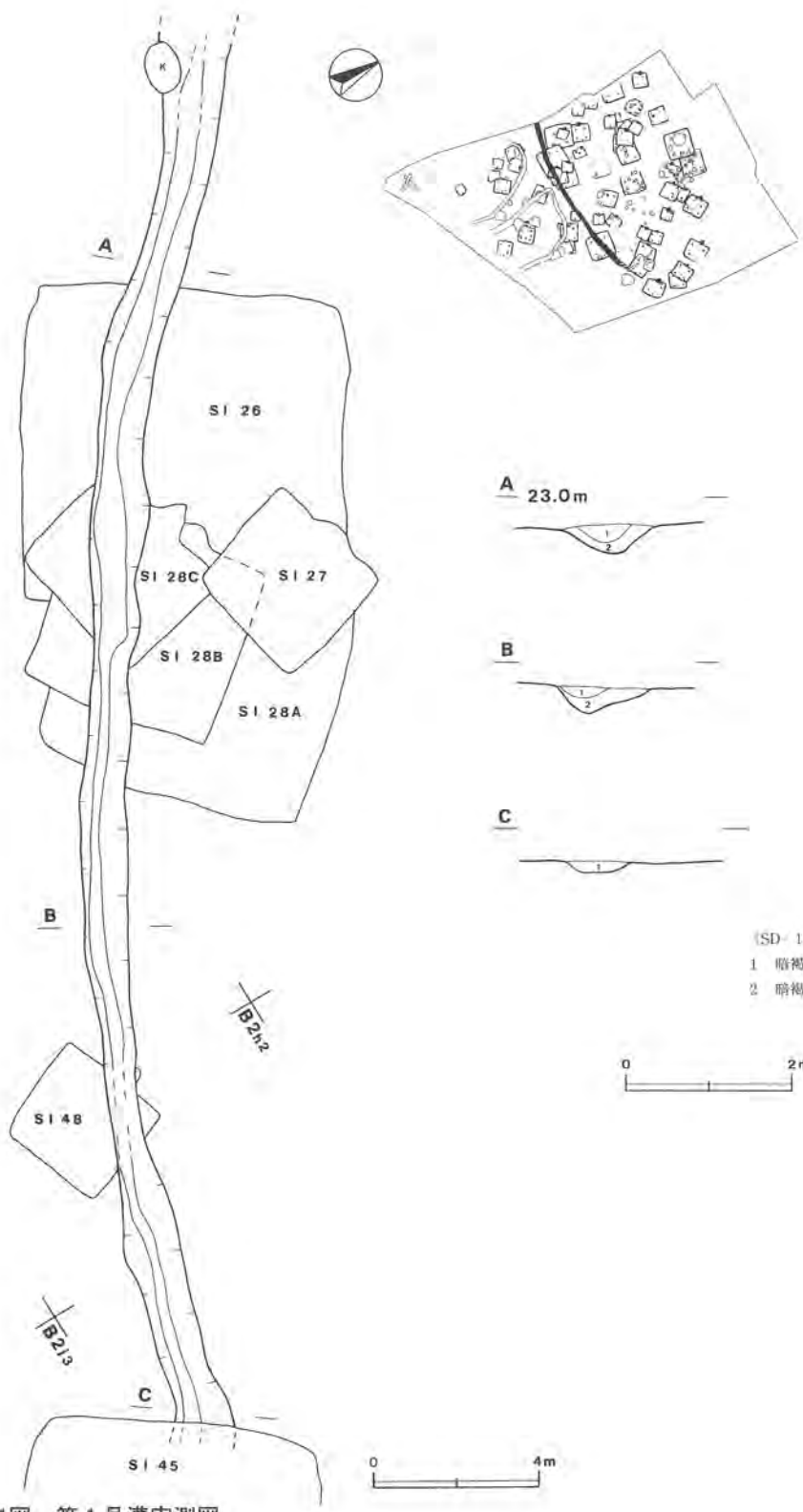
**覆土** 基本的に2層。

**遺物** 覆土中から、縄文時代から平安時代の土器細片に混じって内耳鍋片が少量出土している。

**所見** 本跡は、覆土中の土器細片から見て、中世以降の溝である。

### 第2号溝(第113図)

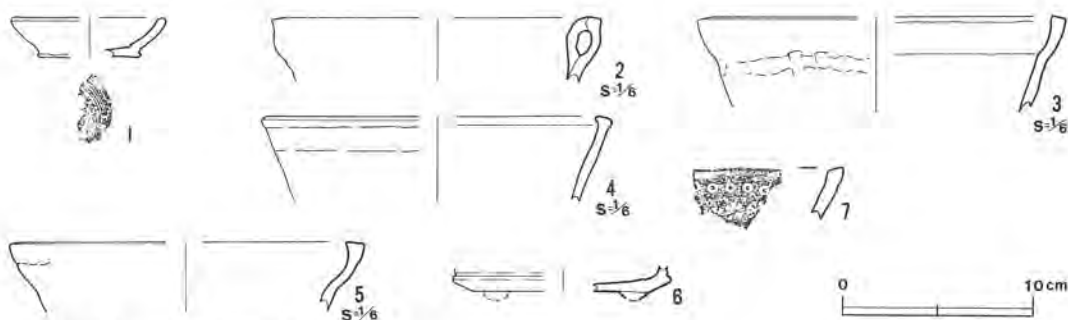
**位置** C2d5区～C3e1区 **重複関係** 第50A・50B・47号住居跡の覆土及び床面の一部を掘り込



第111図 第1号溝実測図



み、第46号土坑に掘り込まれている。 **方向** C2d<sub>8</sub>区から北北東方向へほぼ直線的に延び、B2i<sub>1</sub>区で南東方向へほぼ90°屈曲し1号溝と平行し、C3a<sub>3</sub>区で再び南方向に屈曲し、C3c<sub>3</sub>区で南南西方向に向きを変えエリア外に延びている。 **規模と形状** 調査エリア内で確認できた長さは約52m、掘り方断面は上幅0.9m、下幅0.1m、深さ0.4mの逆台形である。 **覆土** 基本的に2層。 **遺物** 覆土中から、かわらけや内耳鍋が出土している。 **所見** 本跡は、覆土中の出土遺物から見て、15世紀頃の溝と思われる。



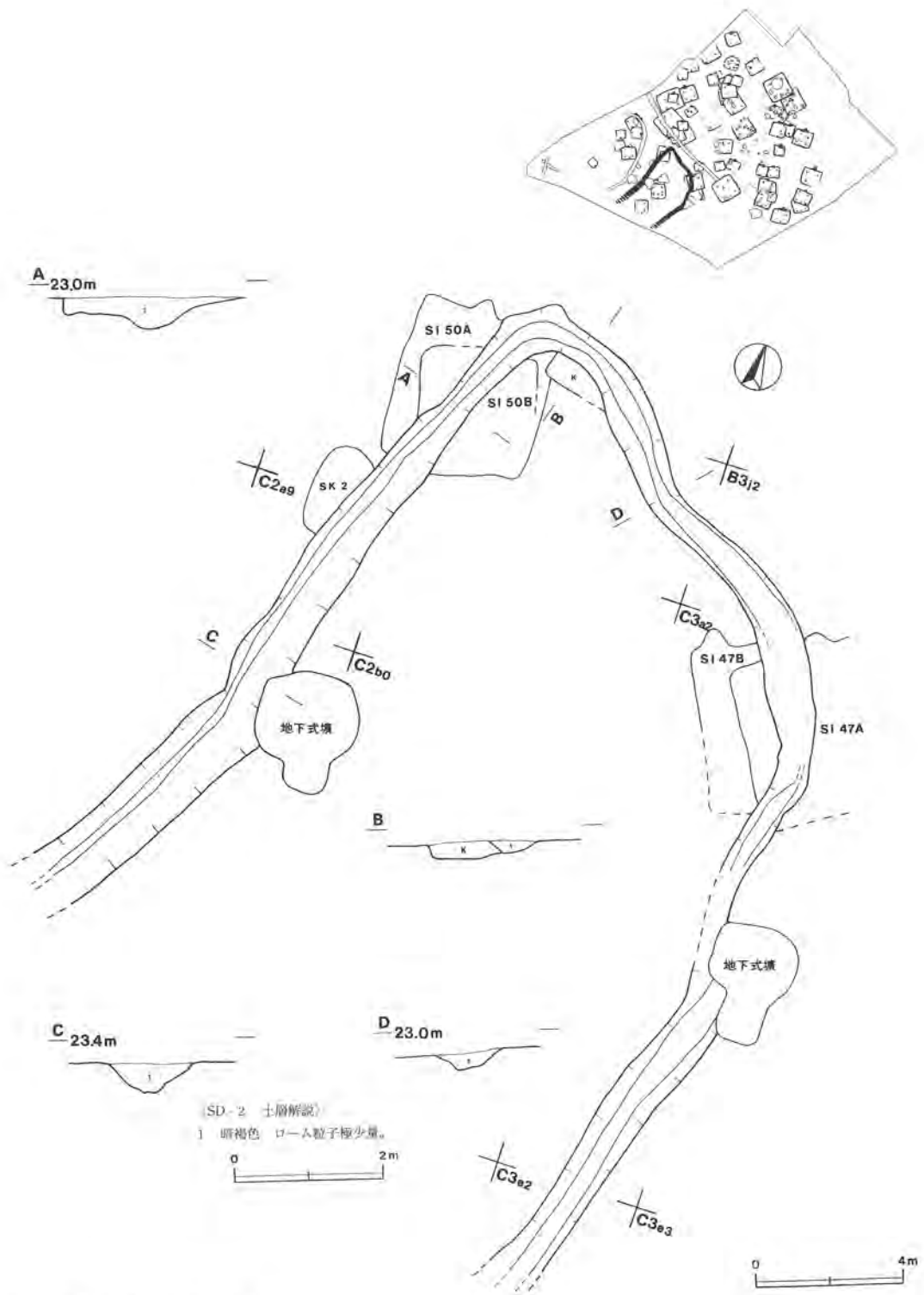
第112図 第2号溝出土遺物実測図

第2号溝出土遺物観察表

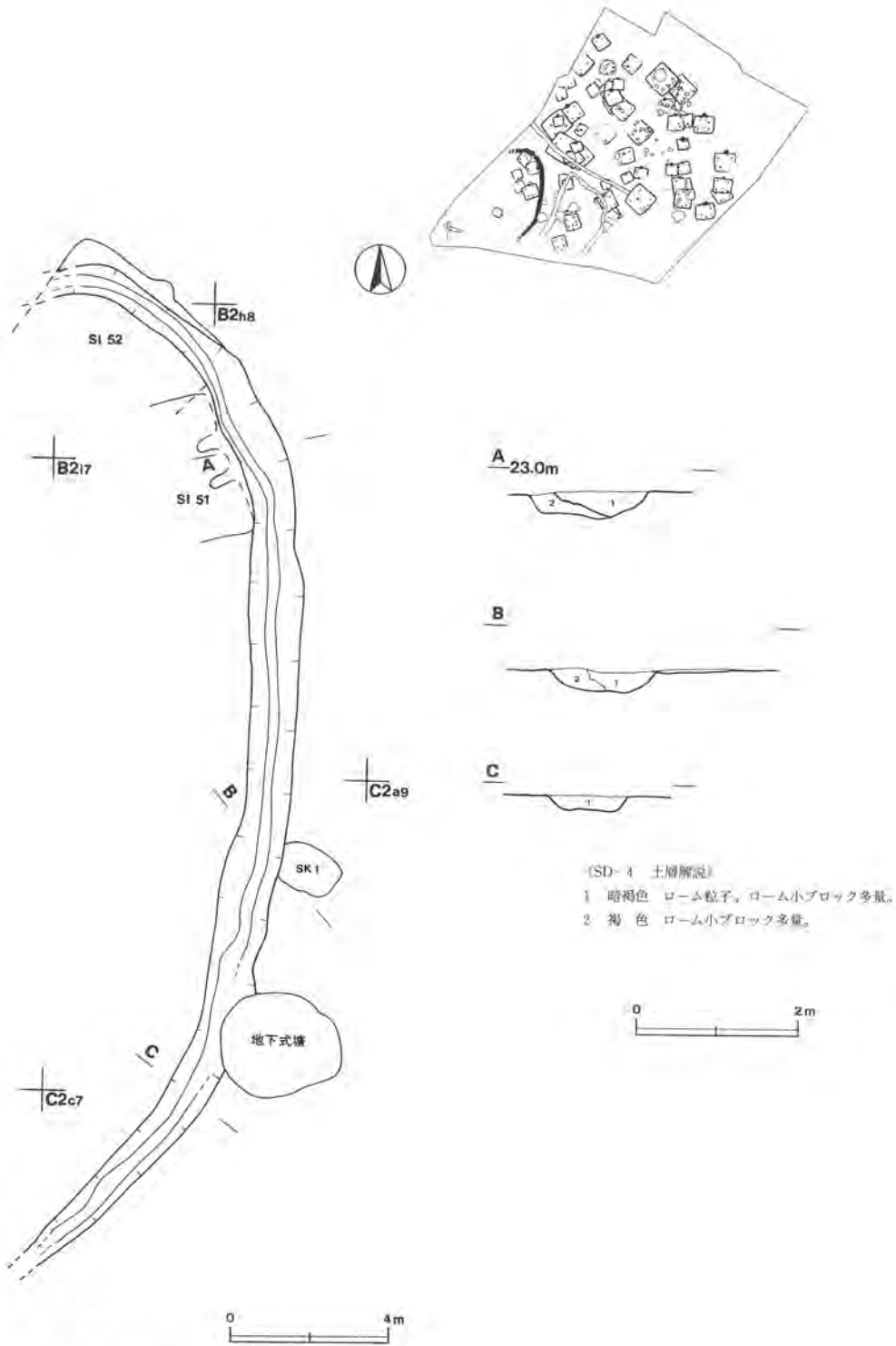
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第112図 1	小皿 土師質土器	A [8.0] B 2.2 C [5.4]	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	微砂粒 浅黄橙色 普通	P308 30% 1区覆土
2	内耳鍋 土師質土器	A [26.0] B 5.1	口縁部破片。	体部内・外面横ナデ。	雲母末・石英 浅黄橙色 普通	P309 5% 覆土
3	内耳鍋 土師質土器	A [29.0] B (7.7)	口縁部破片。体部は外傾し、口縁内周部が内彎する。	体部内・外面横ナデ。	雲母末・石英・長石 橙色 普通	P310 5% 覆土
4	内耳鍋 土師質土器	A [27.6] B (7.0)	口縁部破片。体部は外傾し、口縁端部が内側に突出する。	体部内・外面横ナデ。	長石・石英少量 に、橙褐色 普通	P311 5% 2区覆土
5	内耳鍋 土師質土器	A [28.0] B (5.6)	口縁部破片。体部は外傾し、口縁部が内彎して開く。	体部内・外面横ナデ。	雲母末・石英少量 灰褐色 普通	P312 5% 2区覆土

第4号溝 (第114図)

**位置** B2h<sub>7</sub>区～C2d<sub>7</sub>区 **重複関係** 第51・52・53号住居跡の覆土及び床面の一部を掘り込んでいる。 **方向** B2h<sub>7</sub>区から南東方向へ弧を描くように延び、C2d<sub>7</sub>区では南西方向を向き調査エリア外に延びている。 **規模と形状** 長さ約30mで、掘り方断面は上幅約0.9m、深さ約0.3mでU字形である。 **覆土** 2層。



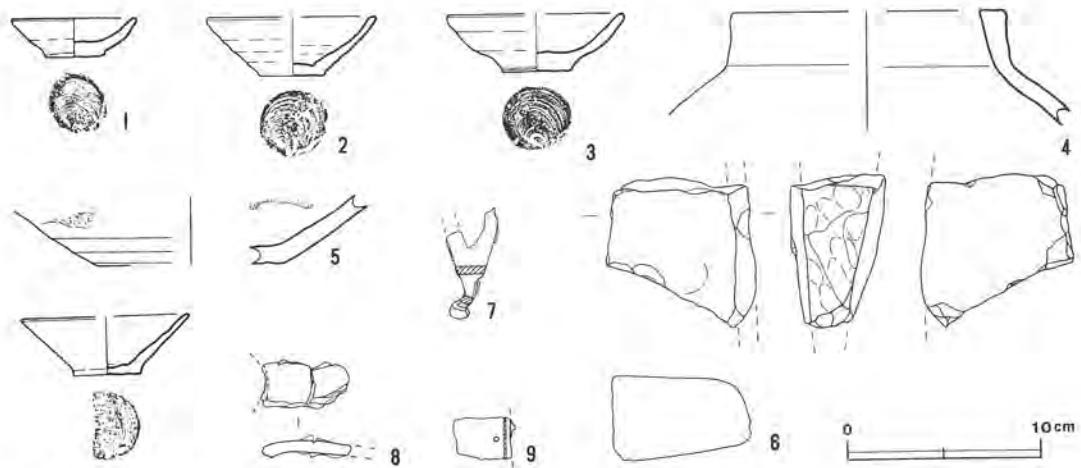
第113図 第2号溝実測図



第114図 第4号溝実測図

遺物 覆土中からかわらけ片が出土している。

所見 本跡は、覆土中の土器細片から見て、15世紀頃の溝と思われる。



第115図 第4号溝出土遺物実測図

第4号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	小皿 土師質土器	A 6.6 B 2.1 C 3.0	平底。体部は内湾気味に立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	石英・長石微粒少量 橙色 普通	P314 100% 覆土(B2j <sub>1</sub> 区)
2	小皿 土師質土器	A [9.1] B 3.2 C 3.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	赤色礫、微砂粒 橙色 普通	P315 60% 覆土(B2h <sub>1</sub> 区)
3	小皿 土師質土器	A [9.4] B 3.1 C 3.6	平底。底部が厚く突出する。体部は下端に弱い稜を持って外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	特徴的な含有物なし にぶい橙色 普通	P316 60% 表土中(1号地 下式墳覆土との 境付近)
4	茶釜 土師質土器	A [14.4] B (6.3)	口縁部破片。口縁部は肩部から内傾して立ち上がる。端部は幅広い平坦面をつくる。	口縁部内・外面横ナデ。	雲母多量 明赤褐色 普通	P317 5% 覆土(C2c <sub>7</sub> 区)
5	盤 灰軸陶器	B (3.6) C [10.0]	底部破片。体部はゆるやかに外傾して開く。	体部内・外面横ナデ。	黒色粒子 にぶい黄色 普通	P318 5% 表土

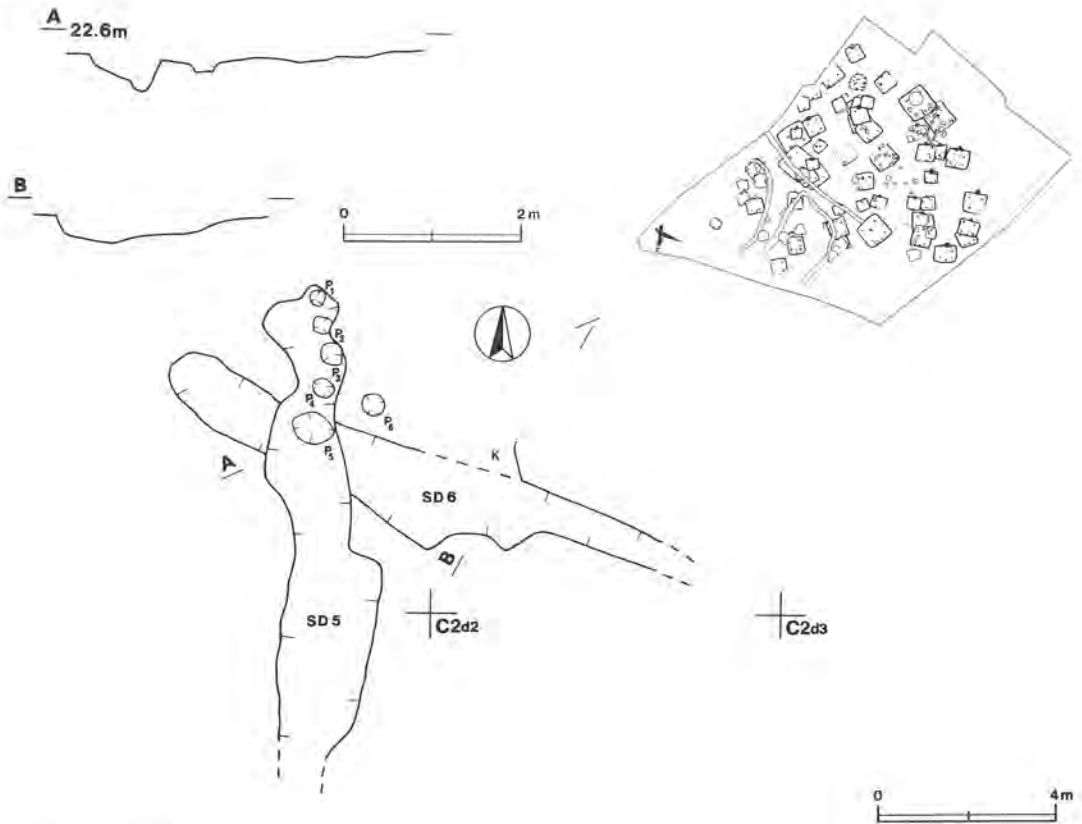
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	砥石	(8.2)	8.0	5.0	332.4	覆土	Q22 砂岩
7	鉄鏝	(6.0)	(2.7)	0.4	11.7	2号溝覆土(B3j <sub>1</sub> )	M32 かりまた鏝
8	不明金属製品	(4.7)	(2.7)	1.3	20.2	2号溝覆土(B3j <sub>1</sub> )	M46
9	不明鉄製品	3.2	2.3	0.1	4.0	4号溝覆土	M33

第5号溝 (第116図)

位置 C2c<sub>1</sub>区~C2d<sub>1</sub>区 重複関係 第6号溝と重複しているが、土層断面では切り合いを確認できなかった。方向 C2c<sub>1</sub>区から南方向に直線的に延びている。規模と形状 長さ6mで、掘り方断面は上幅約1m、深さ約0.3mの底面浅いU字形である。東へ延びるものは長さ約6mで断面形状は同様である。覆土 1層。

遺物 覆土中から、かわらけ・内耳鍋・播鉢・古瀬戸鉄釉の天目茶碗片が出土している。

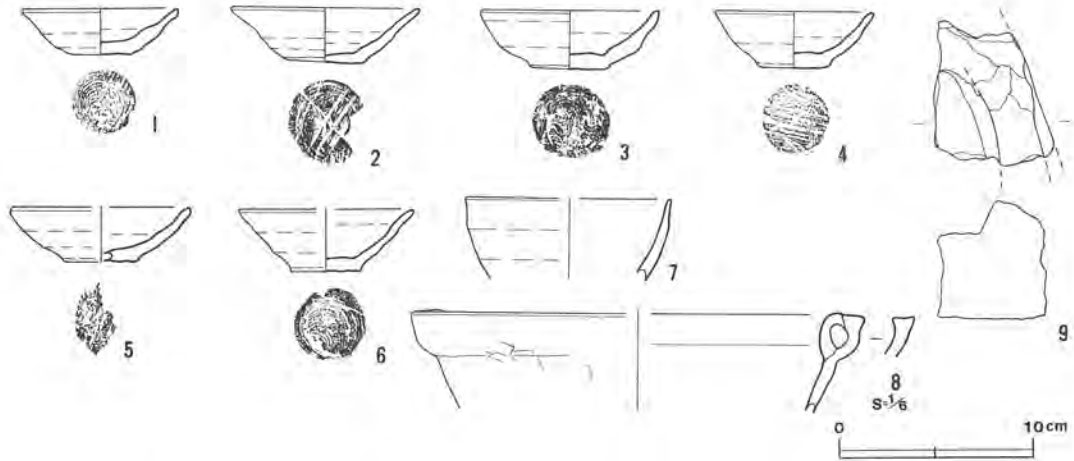
所見 本跡は、覆土中の陶器片等から見て、15世紀後半代の溝と思われる。



第116図 第5・6号溝実測図

第5号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第117図 1	小皿 土師質土器	A 8.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	微砂粒 灰白色 普通	P319 100% 覆土
		B 2.5				
		C 3.2				
2	小皿 土師質土器	A 10.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	赤色微粒少量 橙色 普通	P320 60% 覆土
		B 2.9				
		C 4.1				



第117図 第5号溝出土遺物実測図

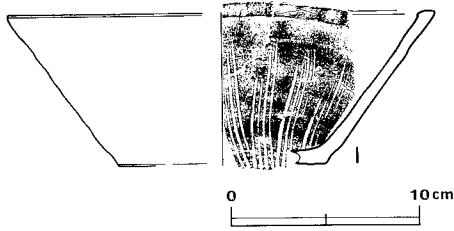
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第117図 3	小皿 土師質土器	A 9.4 B 3.2 C 4.2	平底。底部が厚く突出する。体部は下端に弱い稜を持って外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	砂粒少量・金雲母末少量、にぶい橙色普通	P321 60% 覆土
4	小皿 土師質土器	A 8.4 B 3.0 C 3.6	平底。底部が厚く突出する。体部は中位に弱い稜を持って外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	微砂粒にぶい橙色普通	P322 70% 覆土
5	小皿 土師質土器	A [9.6] B 2.9 C [4.0]	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	微砂粒・赤褐色粒(3mm大)、にぶい橙色普通	P323 30% 覆土
6	小皿 土師質土器	A [9.4] B 3.3 C 3.8	平底。底部がやや突出する。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	微砂粒やや多いにぶい橙色普通	P324 30% 覆土
7	天目茶碗 陶器	A [10.8] B (4.4)	口縁部破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反気味に開く。	体部内・外面横ナデ。	緻密胎土灰色普通	P325 5% 覆土 鉄釉
8	内耳鍋 土師質土器	A [36.0] B (7.9)	口縁部破片。体部は外傾し、口縁部が内彎して開く。	体部内・外面横ナデ。	雲母・長石・石英にぶい橙色普通	P326 5% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	石臼	(7.8)	(6.1)	(6.3)	292.7	覆土	Q23 多孔質安山岩

第6号溝 (第116図)

位置 C2c<sub>1</sub>区~C2c<sub>2</sub>区 方向 C2c<sub>1</sub>区から東方向に直線的に延びている。規模と形状 長さ約6mで、掘り方断面は上幅約1m、深さ約0.3mの底面浅いU字形である。覆土 1層。

所見 本跡は、第5号溝と底面の高さが同じで、規模も同じであることからほぼ同じ頃の溝と思われる。



第118図 第6号溝出土遺物実測図

第6号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 1	播鉢 土師質土器	A [22.8] B 8.2 C [11.0]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	内面に4本一条の揃目を入れる。	長石・雲母 灰白色 普通	P327 30% 覆土

## 7 その他の遺物

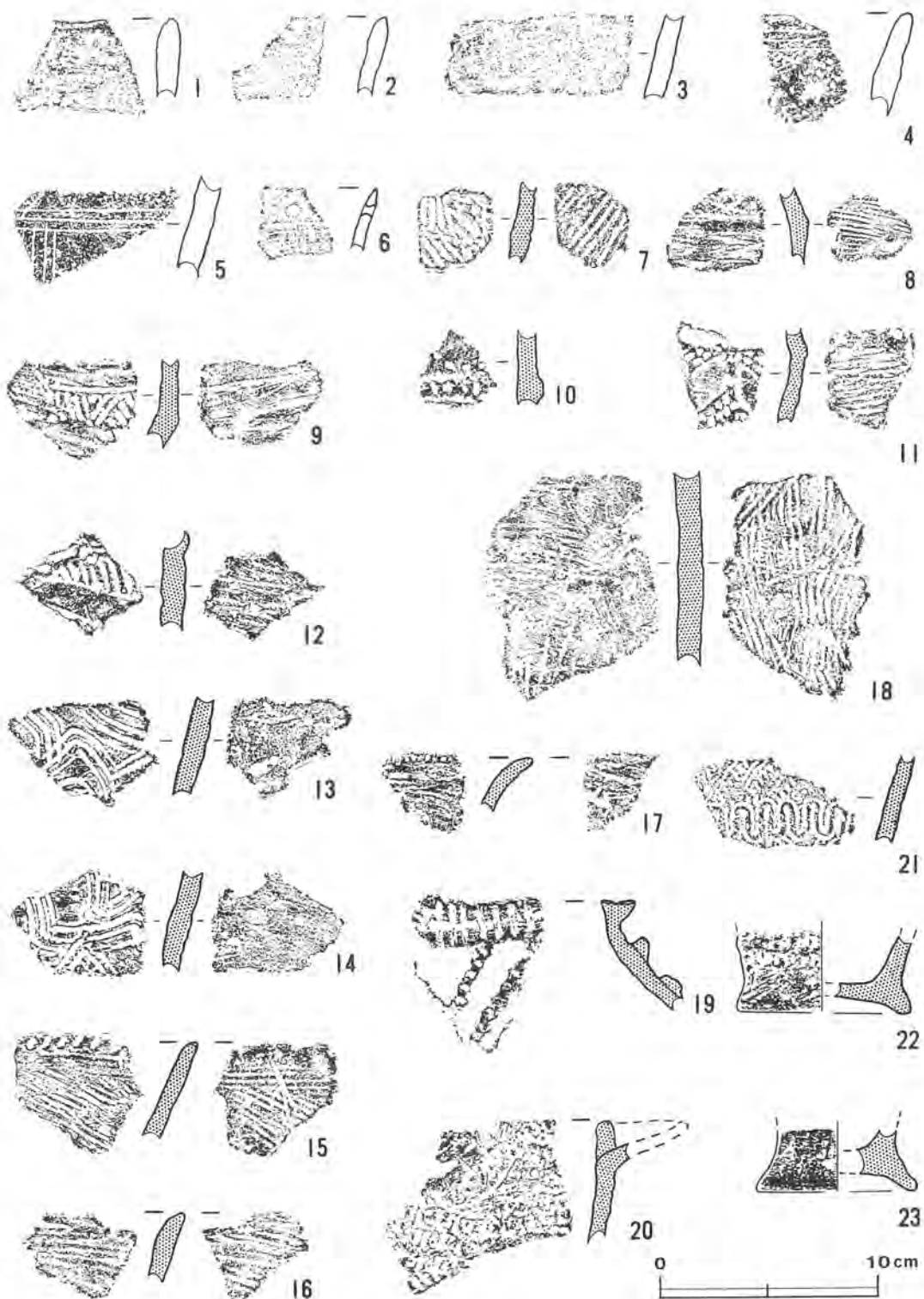
当遺跡内には古墳時代前期と奈良・平安時代の遺構を中心として、古墳時代中・後期、中世の各遺構が重なりあっている。そのため、各時代の遺構の覆土中からは二次的な混入の遺物が大量に出土している。ここでは縄文時代の遺物と一部の弥生時代の遺物について選別抽出したものを拓影図及び一覧表で、その他の遺物については実測図と観察表で掲載する。

### 縄文～弥生時代の遺物

当遺跡からは、縄文時代早期から後期にかけての土器片が天箱に2箱分弱出土している。時期的には早期の無文土器から、前期の関山、黒浜、浮島、諸磯、興津、中期の五領台、阿玉台、後期の堀之内等であり、前期後半の浮島式土器片がもっとも多く出土している。弥生式土器は、各遺構の本文解説で示した外来系の土器以外はすべて後期後半の在地系の土器である。

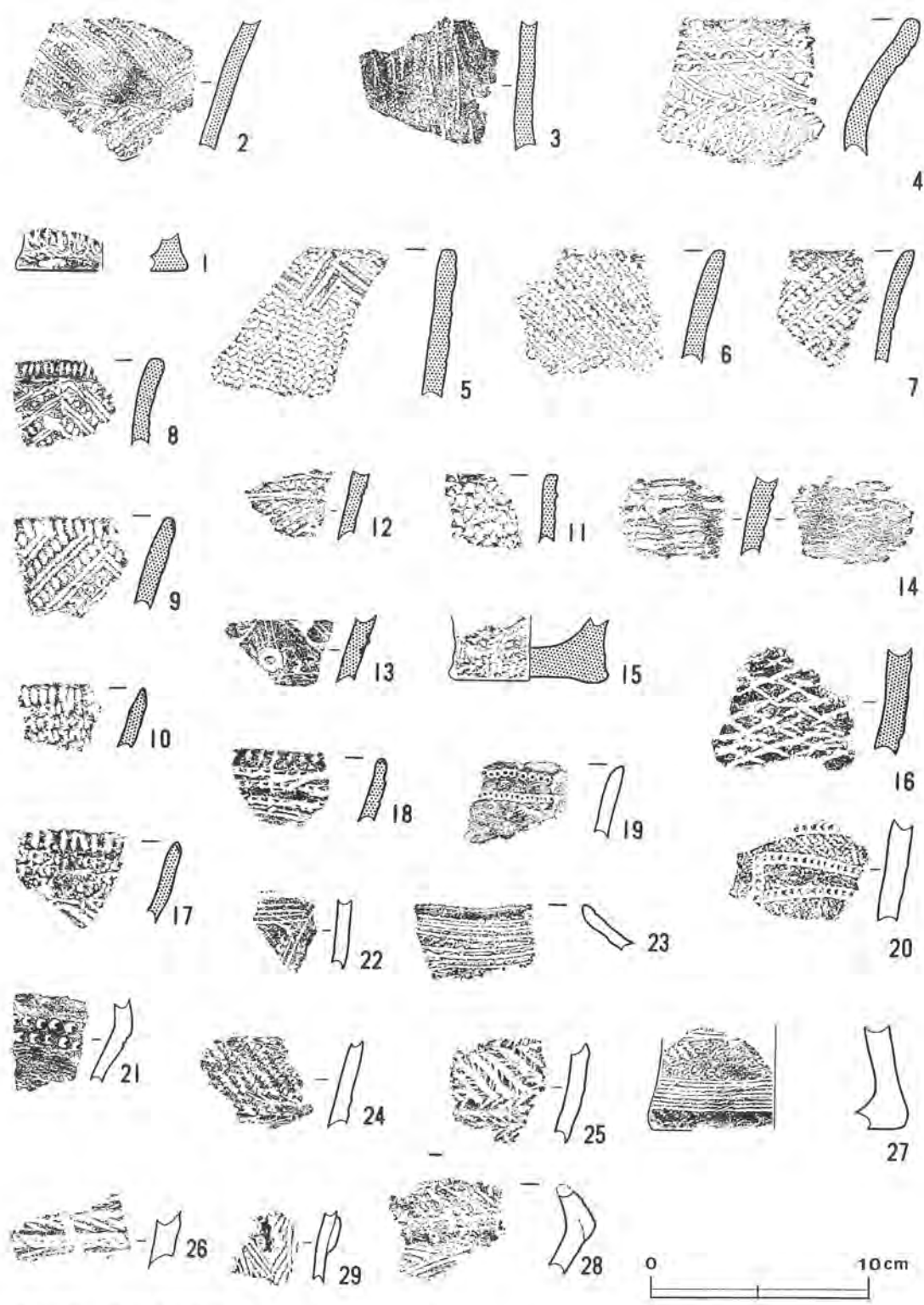
表4 寄居遺跡出土縄文式土器

番号	出土地点	備考	番号	出土地点	備考
第119図 1	1号井戸覆土	無文土器 TP 1	第119図 11	20号住居跡覆土	鶏ヶ島台 TP11
2	1号井戸覆土	〃 TP 2	12	49号住居跡覆土	〃 TP12
3	29号住居跡覆土	〃 TP 3	13	3号住居跡覆土	下吉井 TP13
4	25号住居跡覆土	沈線文系土器 TP 4	14	5号住居跡覆土	〃 TP14
5	注記消え	〃 TP 5	15	15号住居跡覆土	茅山 TP15
6	26号住居跡覆土	三戸 TP 6	16	4号住居跡覆土	〃 TP16
7	1号住居跡覆土	鶏ヶ島台 TP 7	17	19号住居跡覆土	〃 TP17
8	表採	〃 TP 8	18	38号住居跡覆土	〃 TP18
9	49号住居跡覆土	〃 TP 9	19	40号住居跡覆土	茅山平行期 TP21
10	4号住居跡覆土	〃 TP10	20	43号住居跡覆土	関山II TP22

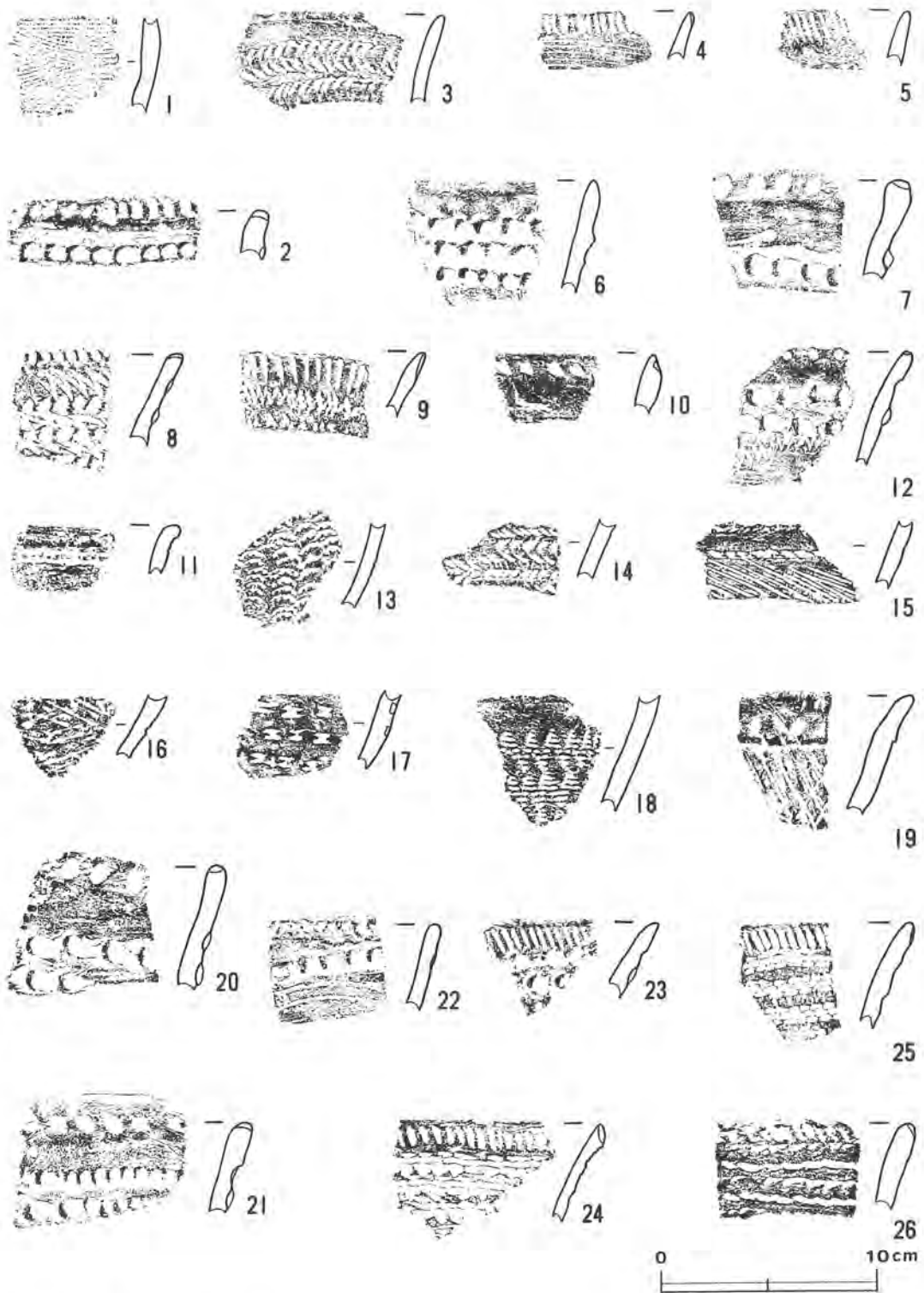


第119図 縄文式土器拓影図(1)

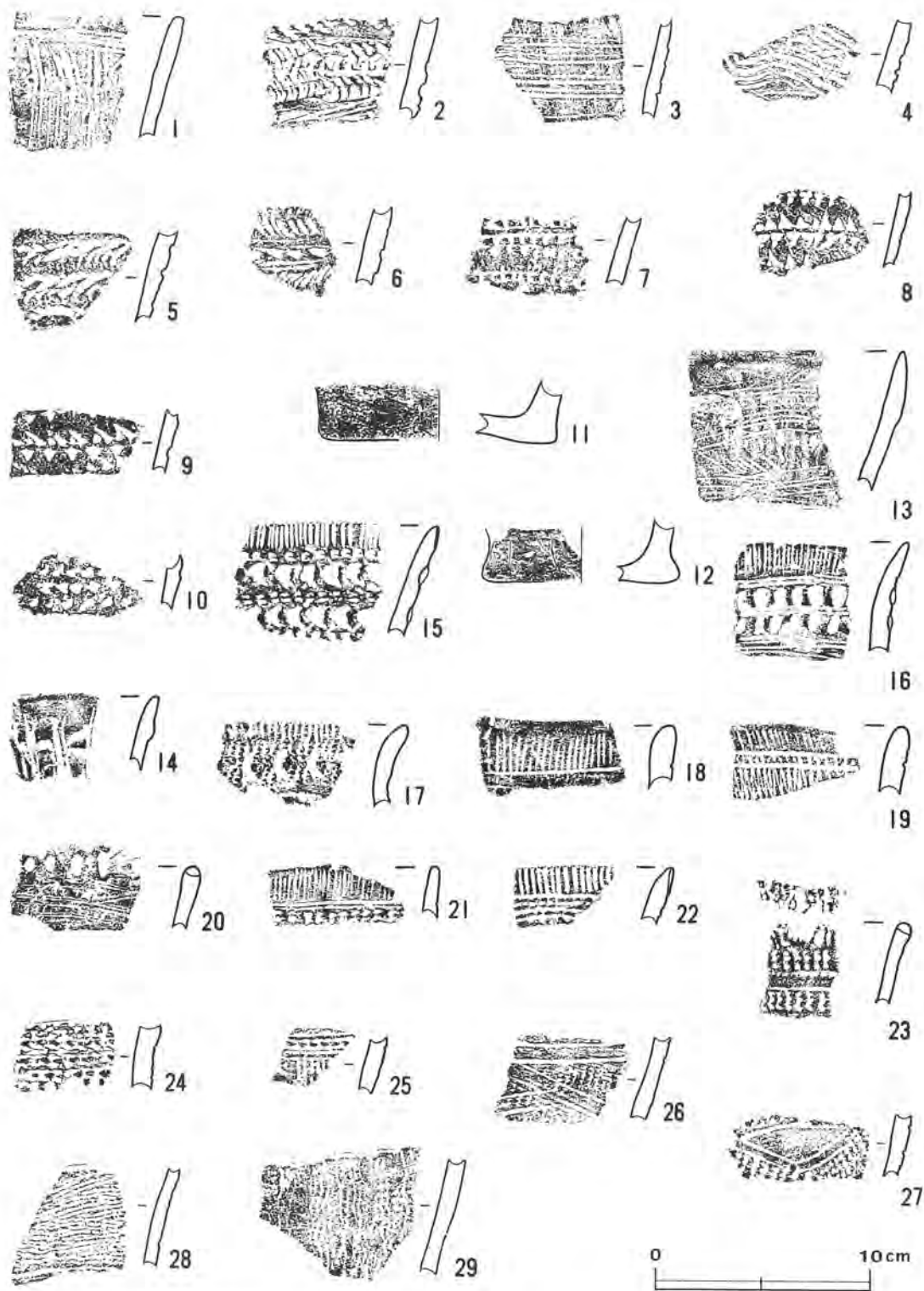




第120図 縄文式土器拓影図(2)



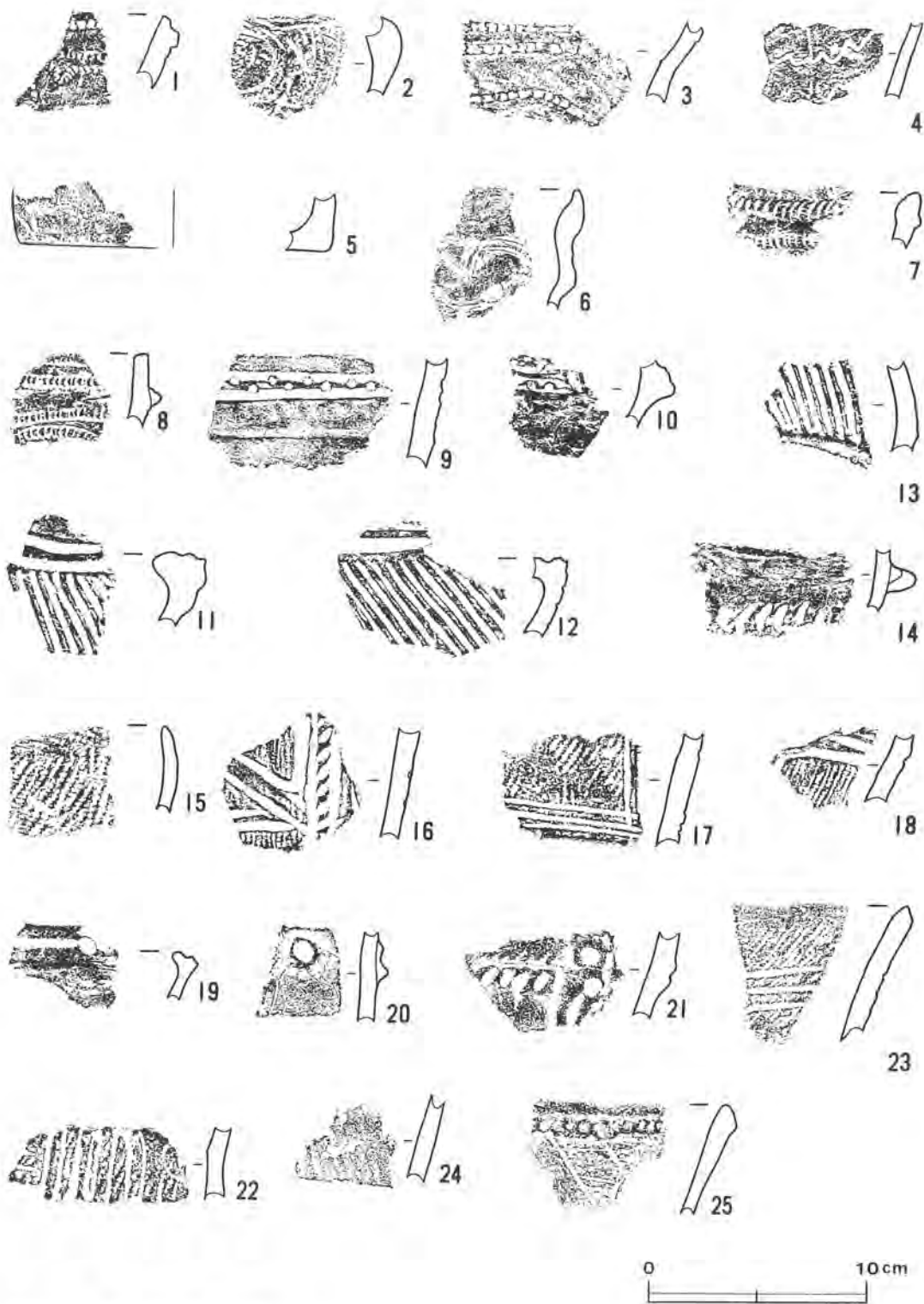
第121図 縄文式土器拓影図(3)



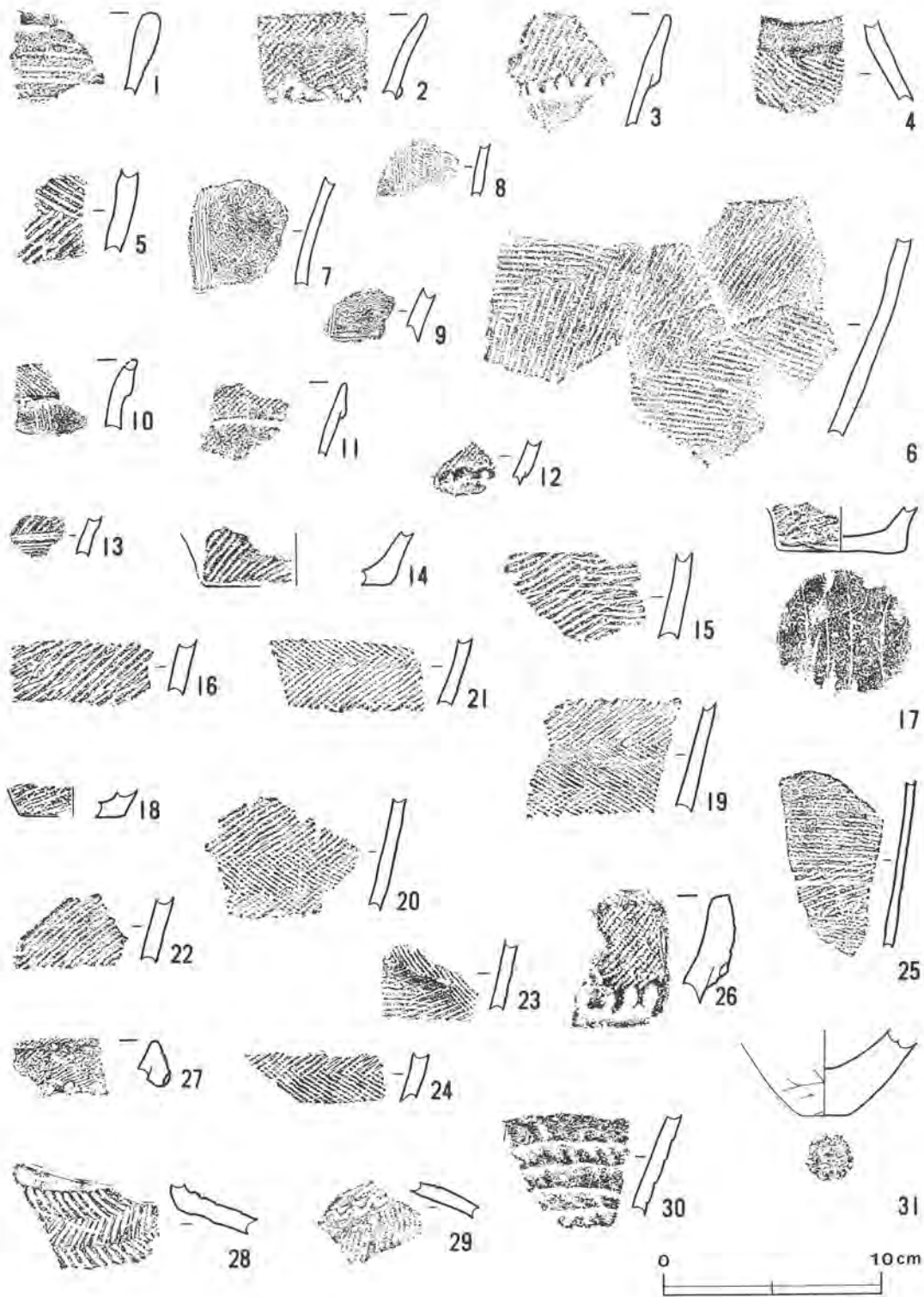
第122図 縄文式土器拓影図(4)



第123図 縄文式土器拓影図(5)



第124図 縄文式土器拓影図(6)



第125図 縄文式土器・弥生式土器拓影図(7)

番号	出土地点	備考	
第119図 21	25A号住居跡覆土	関山II	TP23
22	B3f <sub>1</sub> 区表土	〃	TP24
23	51号住居跡覆土	〃	TP25
第120図 1	B3f <sub>3</sub> 区表土	〃	TP26
2	15号住居跡覆土	黒浜	TP27
3	4号住居跡覆土	〃	TP28
4	23号住居跡覆土	〃	TP29
5	28A号住居跡覆土	〃	TP30
6	15号住居跡覆土	〃	TP31
7	53号住居跡覆土	〃	TP32
8	14号住居跡覆土	〃	TP33
9	37号住居跡覆土	〃	TP34
10	1号住居跡覆土	〃	TP35
11	14号住居跡覆土	〃	TP36
12	39号住居跡覆土	〃	TP37
13	7号住居跡覆土	〃	TP38
14	B3f <sub>1</sub> 区表土	〃	TP39
15	23号住居跡覆土	〃	TP40
16	1号井戸覆土	大木2A	TP41
17	40号住居跡覆土	黒浜	TP42
18	40号住居跡覆土	〃	TP43
19	53号住居跡覆土	諸磯A	TP44
20	32号住居跡覆土	〃	TP45
21	39号住居跡覆土	〃	TP46
22	16号住居跡覆土	〃	TP47
23	B3f <sub>1</sub> 区表土	諸磯B	TP48
24	53号住居跡覆土	〃	TP49
25	34号住居跡覆土	〃	TP50
26	45号住居跡覆土	〃	TP51
27	17号住居跡覆土	〃	TP52
28	B3f <sub>6</sub> 区表土	諸磯Bの新	TP53
29	15号住居跡覆土	諸磯Cの古	TP54
第121図 1	4号住居跡覆土	〃	TP55
2	32号住居跡覆土	浮島	TP56
3	42号住居跡覆土	〃	TP57
4	41号住居跡覆土	〃	TP58
5	29号住居跡覆土	〃	TP59
6	14号住居跡覆土	〃	TP60
7	4号住居跡覆土	〃	TP61
8	32号住居跡覆土	〃	TP62
9	1号住居跡覆土	〃	TP63
10	15号住居跡覆土	〃	TP64
11	39号住居跡覆土	〃	TP65
12	15号住居跡覆土	〃	TP66
13	25号住居跡覆土	〃	TP67
14	32号住居跡覆土	〃	TP68
15	B3c <sub>3</sub> 区表土	〃	TP69
16	49号住居跡覆土	〃	TP70
17	1号溝	〃	TP71

番号	出土地点	備考	
第121図 18	B3c <sub>3</sub> 区表土	浮島	TP72
19	1号井戸覆土	〃	TP73
20	1号井戸覆土	〃	TP74
21	4号住居跡覆土	〃	TP75
22	4号住居跡覆土	〃	TP76
23	3号地下式塙	〃	TP77
24	B3f <sub>1</sub> 区表土	〃	TP78
25	45号住居跡覆土	〃	TP79
26	47号住居跡覆土	〃	TP80
第122図 1	4号住居跡覆土	〃	TP81
2	45号住居跡覆土	〃	TP82
3	4号住居跡覆土	〃	TP83
4	3号住居跡覆土	〃	TP84
5	49号住居跡覆土	〃	TP85
6	38号住居跡覆土	〃	TP86
7	3号住居跡覆土	〃	TP87
8	35号住居跡覆土	浮島III	TP88
9	1号溝	〃	TP89
10	42号住居跡覆土	〃	TP90
11	1号井戸覆土	〃	TP91
12	1号井戸覆土	〃	TP92
13	34号住居跡覆土	浮島II粗製	TP93
14	32号住居跡覆土	〃	TP94
15	4号住居跡覆土	興津	TP95
16	4号地下式塙	〃	TP96
17	26号住居跡覆土	〃	TP97
18	4号住居跡覆土	〃	TP98
19	1号掘立柱建物跡覆土	〃	TP99
20	20号住居跡覆土	〃	TP100
21	32号住居跡覆土	〃	TP101
22	36号住居跡覆土	〃	TP102
23	17号住居跡覆土	〃	TP103
24	32号住居跡覆土	〃	TP104
25	35号住居跡覆土	〃	TP105
26	16号住居跡覆土	〃	TP106
27	7号住居跡覆土	〃	TP107
28	45号住居跡覆土	〃	TP108
29	48号住居跡覆土	〃	TP109
第123図 1	B3j <sub>5</sub> 区表土	〃	TP110
2	注記なし	〃	TP111
3	3号地下式塙	〃	TP112
4	39号住居跡覆土	〃	TP113
5	39号地下式塙	〃	TP114
6	4号住居跡覆土	大木の5並行	TP115
7	49号住居跡覆土	栗島台	TP116
8	45号住居跡覆土	〃	TP117
9	45号住居跡覆土	五領ヶ台の新	TP118
10	32号住居跡覆土	〃	TP119
11	29号住居跡覆土	〃	TP120

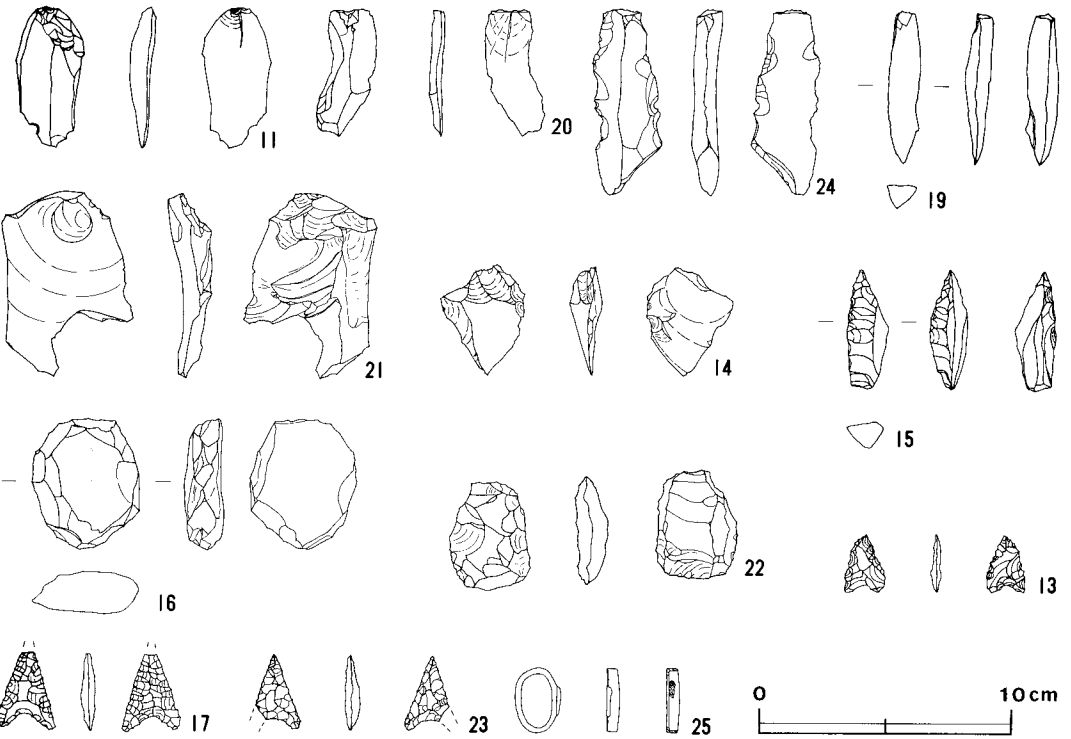
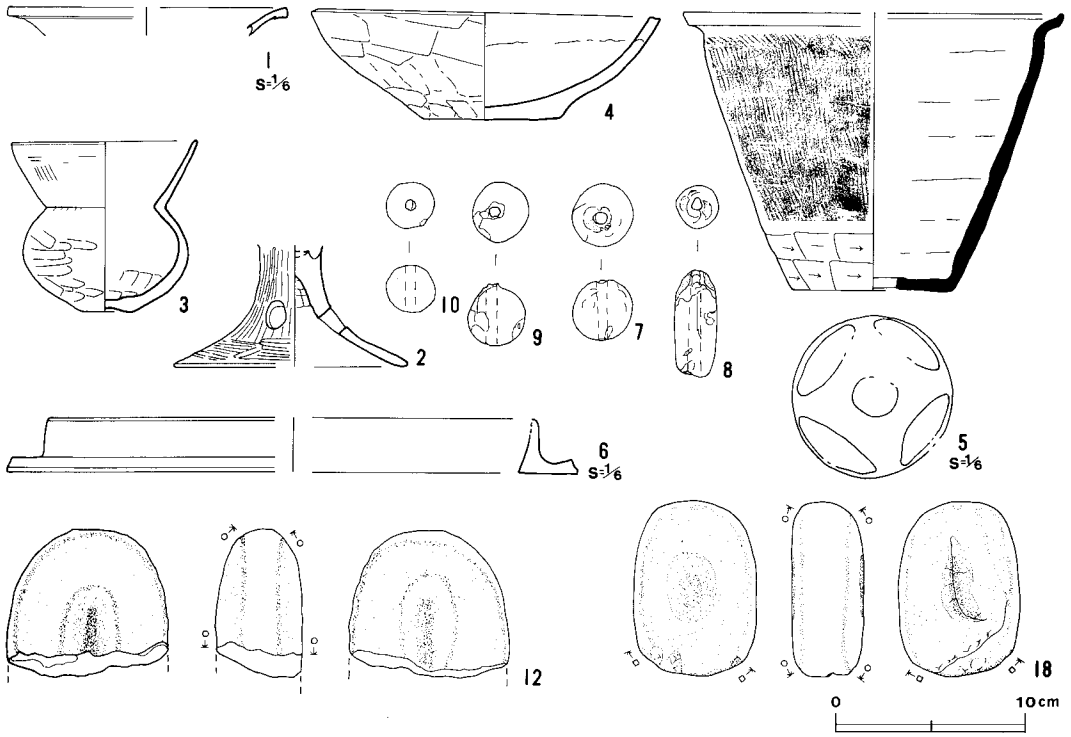
番号	出土地点	備考
第123図 12	25号住居跡覆土	五領ヶ台の新 TP121
13	50号住居跡覆土	〃 TP122
14	45号住居跡覆土	〃 TP123
15	29号住居跡覆土	阿玉台 I A TP124
16	B2f <sub>9</sub> 区覆土	〃 TP125
17	32号住居跡覆土	〃 TP126
18	3号住居跡覆土	〃 TP127
19	45号土坑覆土	〃 TP128
20	47号土坑覆土	〃 TP129
21	45号住居跡覆土	〃 TP130
22	16号住居跡覆土	〃 TP131
23	45号住居跡覆土	〃 TP132
24	29号住居跡覆土	阿玉台 I B TP133
25	29号住居跡覆土	〃 TP134
26	52号住居跡覆土	〃 TP135
27	14号住居跡覆土	〃 TP136
第124図 1	1号井戸覆土	〃 TP137
2	42号住居跡覆土	〃 TP138
3	19号住居跡覆土	〃 TP139
4	37号住居跡覆土	〃 TP140
5	3号住居跡覆土	〃 TP141
6	1号溝覆土	阿玉台 II TP142
7	43号住居跡覆土	勝坂 TP143
8	4号住居跡覆土	〃 TP144
9	29号住居跡覆土	中峠 TP145
10	34号住居跡覆土	〃 TP146
11	1号住居跡覆土	加曾利 II TP147
12	25号住居跡覆土	〃 TP148
13	4号地下式壇	加曾利 II TP149
14	41号住居跡覆土	加曾利 E TP150
15	B2f <sub>6</sub> 区覆土	堀の内 I TP151
16	7号住居跡覆土	〃 TP152
17	1号地下式壇覆土	〃 TP153
18	B3c <sub>1</sub> 区覆土	〃 TP154
19	注記消え	〃 TP155
20	28 B号住居跡覆土	〃 TP156
21	1号溝覆土	〃 TP157
22	2号溝覆土	堀の内 TP158
23	2号地下式壇覆土	堀の内 II TP159
24	38号住居跡覆土	〃 TP160
25	28号住居跡覆土	安行 TP161
第125図 1	14号住居跡覆土	〃 TP162
31	28 A号住居跡覆土	尖底土器底部 TP209

番号	出土地点	備考
9	45号住居跡覆土	TP187
10	19号住居跡覆土	TP188
11	26号住居跡覆土	TP189
12	1号井戸覆土	TP190
13	41号住居跡覆土	TP191
14	1号井戸覆土	TP192
15	33号住居跡覆土	TP193
16	34号住居跡覆土	TP194
17	B3d <sub>3</sub> 区覆土	TP195
18	2号溝覆土	TP196
19	4号住居跡覆土	TP197
20	29号住居跡覆土	TP198
21	4号住居跡覆土	TP199
22	45号住居跡覆土	TP200
23	4号住居跡覆土	TP201
24	4号住居跡貯蔵穴覆土	TP202
25	1号井戸覆土	TP203
26	1号井戸覆土	TP204
27	4号住居跡覆土	TP205
28	B3f <sub>6</sub> 区覆土	TP206
29	4号住居跡覆土	TP207
30	8号住居跡覆土	TP208

表 5 寄居遺跡出土弥生式土器

第125図 2	45号住居跡覆土	TP180
3	45号住居跡覆土	TP181
4	15号住居跡覆土	TP182
5	25号住居跡覆土	TP183
6	45号住居跡覆土	TP184
7	17号住居跡覆土	TP185
8	45号住居跡覆土	TP186



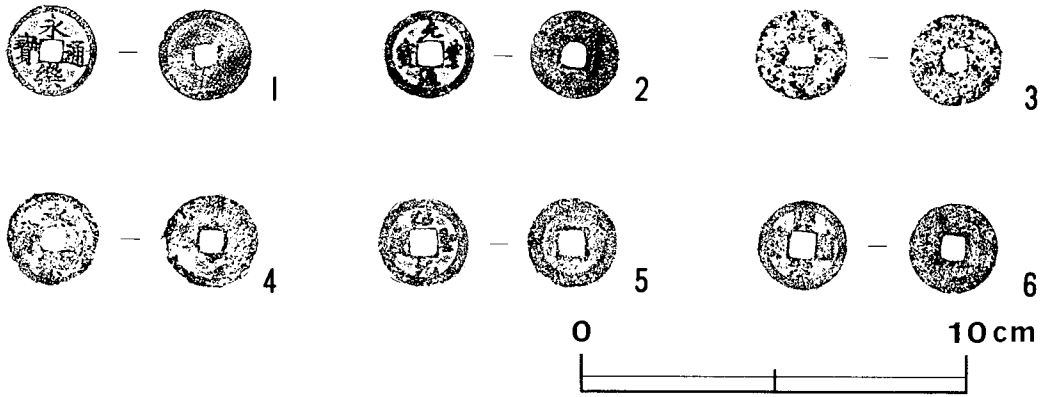


第126図 その他の出土遺物実測図(1)

その他の出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第126図 1	壺 土師器	A [22.0] B (2.3)	口縁部破片。折り返し口縁で開く。	折り返しが薄く、指幅で低く波打つ。端部に面取り、その端面に羽状文を刺突する。	微砂粒 浅黄橙色 普通	P 339 5% 4号地下式墳 覆土
2	器台 土師器	B (6.5) D [12.3]	受部破損。脚部はラッパ状に開く。	外面磨き。	微砂粒 にぶい橙色 普通	P 361 30% 1号地下式墳 覆土
3	埴 土師器	A 9.8 B 9.2 C 2.6	平底。体部は球形状で、口縁部は外傾して開く。	外面ナデ。	微砂粒 にぶい橙色 普通	P 53 95% 52号土坑覆土
4	鉢 土師器	A 18.4 B 5.9 C 7.4	平底。体部は内彎して開く。	外面ヘラ削り及びナデ。	微砂粒 にぶい橙色 普通	P 57 95% 52号土坑覆土 墓底部の二次利用か
5	甗 須恵器	A [30.2] B 22.4 C 12.8	平底で、5孔開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で外反する。口唇部を外上方につまみ上げる。	体部外面横位の平行叩き。体部下端横位のヘラ削り。	長石・石英砂礫 青灰色 普通	P 400 60% 2号地下式墳 覆土
6	瓦質土器	A [38.5] B 4.4 C [45.5]	底部は平坦で、内側から外上方に向かってやや内彎気味に外傾する。口縁部が直接付く。	口縁部及び底部内・外面横ナデ。	雲母多量 灰色 普通	P 277 5% 46号住居跡1区 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	土玉	3.3	3.2	—	29.9	57号住居跡覆土	DP47 孔径0.6~0.7 95%
8	管状土製品	5.6	2.2	—	23.0	57号住居跡覆土	DP48 孔径0.5~0.8 80%
9	土玉	3.3	3.0	—	28.7	4号地下式墳覆土	DP49 孔径0.6 95%
10	土玉	2.55	2.65	—	15.4	25号土坑覆土	DP51 孔径0.5~0.6 100%
11	剥片	5.6	2.7	1.0	11.1	4号住居跡覆土	Q 3 頁岩
12	磨石	(7.9)	8.5	4.6	466.1	4号住居跡貯蔵穴覆土	Q 4 硬砂岩
13	石鏃	2.4	1.6	0.4	1.0	17号住居跡覆土	Q 8 黒耀石 90%
14	剥片	4.4	3.4	1.3	10.8	21号住居跡床下地山ローム	Q 9 油脂頁岩
15	細石核	4.8	—	1.6	8.4	23号住居跡4区覆土	Q 10 頁岩
16	石核	5.2	4.3	1.5	53.8	25A号住居跡覆土	Q 11 安山岩
17	石鏃	(3.1)	2.3	0.5	2.6	25B号住居跡覆土	Q 12 黒耀石
18	磨石	9.4	6.4	3.8	404.4	28C号住居跡覆土	Q 14 花崗岩
19	剥片	6.1	1.3	0.9	6.6	31号住居跡電覆土	Q 16 安山岩
20	石刃	5.1	2.4	0.1	6.0	1号溝底面	Q 21 安山岩
21	剥片	7.3	5.2	1.8	39.6	3号住居跡床下地山ローム内	Q 28 頁岩
22	スクレイパー	4.3	3.2	1.2	19.2	表採	Q 29 チャート
23	搔器	4.3	3.2	1.2	19.2	表採	Q 30 黒耀石
24	石刃	(7.5)	(2.8)	1.3	20.1	表採	Q 34 頁岩
25	刀装具	2.6	1.85	0.4	1.9	1・2号住居跡内攪乱穴内	M43



第127図 その他の出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値		初鑄年		出土位置	備考
		直径(cm)	重量(g)	時代	年号		
1	永楽通宝	2.5	3.5	明	1408	23号住居跡覆土	M10
2	元豊通宝	2.4	2.8	北宋	1078	4号土坑覆土	M35
3	—	2.5	2.5	—	—	3号地下式壇覆土	M38 銭名判読不能
4	永楽通宝	2.5	2.1	明	1408	2号地下式壇覆土	M39
5	紹聖元宝	2.4	3.1	北宋	1078	15号土坑覆土	M41
6	? 元宝	2.4	3.8	—	—	47号土坑覆土	M42

### 第3節 まとめ

当遺跡で確認された遺構は、住居跡65軒，堀立柱建物跡1棟，井戸1基，溝5条，地下式壇6基，土坑37基である。時期別に各時代の概要と主な遺物について述べてまとめとする。

住居跡総数65軒のうち縄文時代前期後半の住居跡が1軒だけ確認された。古墳時代前期の住居跡は7軒，中期が4軒，後期が5軒である。古墳時代前期の住居跡は前期前半代の住居跡が主体である。古墳時代前期後半の住居跡は1軒で，中期の前半代の2軒と時期的に連続しているものと思われる。古墳時代中期後半の住居跡は2軒あるが，前後の時期とは連続していない。古墳時代後期の住居跡5軒は7世紀代のものであり，この後，住居跡は一時とだえるが，奈良時代（8世紀）後半に入ると7軒の住居跡が見られ，これらは次の平安時代の集落に連続していく。平安時代には，9世紀前葉の時期が4軒，9世紀中葉が6軒，後葉が6軒見られる。遺跡の北部に見られる井戸は9世紀前葉頃廃棄されている井戸であり，8世紀後半代からの竪穴住居の増加に関連するものと思われる。寄居遺跡は地形的に集落の広がり限定されるので，調査地区内の遺構の変遷はほぼこの台地上の集落全体推移と考えられる。

平安時代以降は，竪穴住居跡が見られなくなり，古瀬戸を伴う中世の方形竪穴が2棟，ほぼ同

時期の溝が5条、地下式墳が6基確認された。時期は、古瀬戸や内耳鍋の年代観から、ほぼ14世紀後半代に属するものと思われる。遺跡の北部に掘立柱建物跡は、この時期に属するに可能性がある。

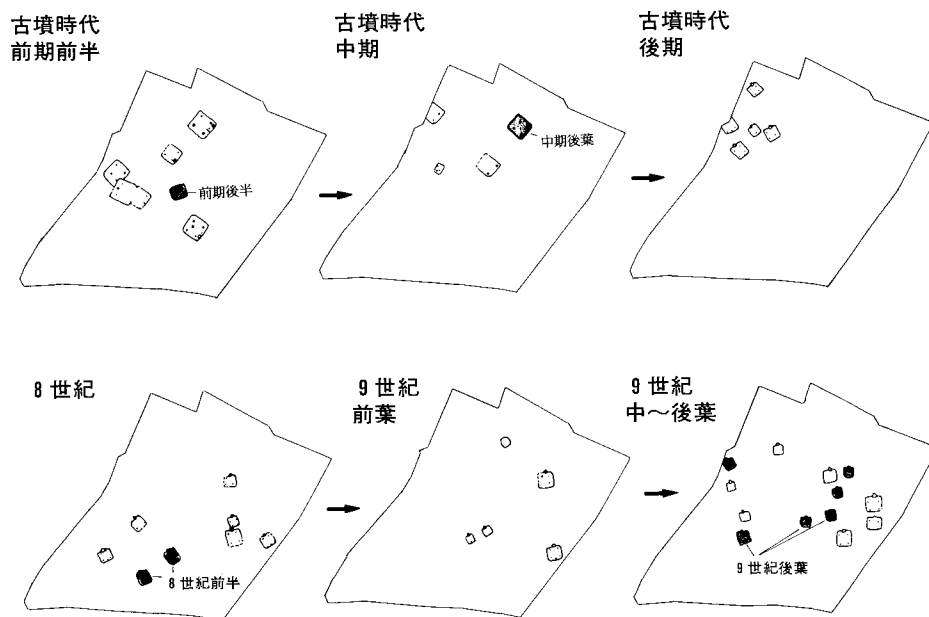
出土遺物のうち特徴的なものは、古墳時代前期の外来系土器、平安時代の灰釉陶器、鉄製品等である。

古墳時代前期の住居跡からは、数は少ないが南関東系の装飾壺や北陸地方のものと思われる外来系の土器片が出土している。いずれも小形高杯と共伴し、鉄兜形鉢や小形埴が組成に含まれていないので古墳時代前期前半期の遺物と考えられる。

灰釉陶器は9世紀中葉から後葉の時期の竪穴住居跡の覆土から総数25点ほど出土している。時的には折戸10様式期のものから黒笹90号窯式期頃のものまで出土しており、黒笹90号窯式期の猿投産のものが主体となっている。そのほかに、9世紀後葉の時期の竪穴住居跡からは、置き竈や羽釜も出土している。

鉄製品については、古墳時代前期の鍬や後期の鋤先、平安時代の鋸等の良好な資料がみられた。

中世の遺物は、溝と地下式墳の覆土から一括廃棄のかわらけ類や内耳鍋、中国製の青磁や国内産の陶器、刻書のある硯石、渡来銭等が出土している。



第128図 寄居遺跡各時期の住居跡の分布図

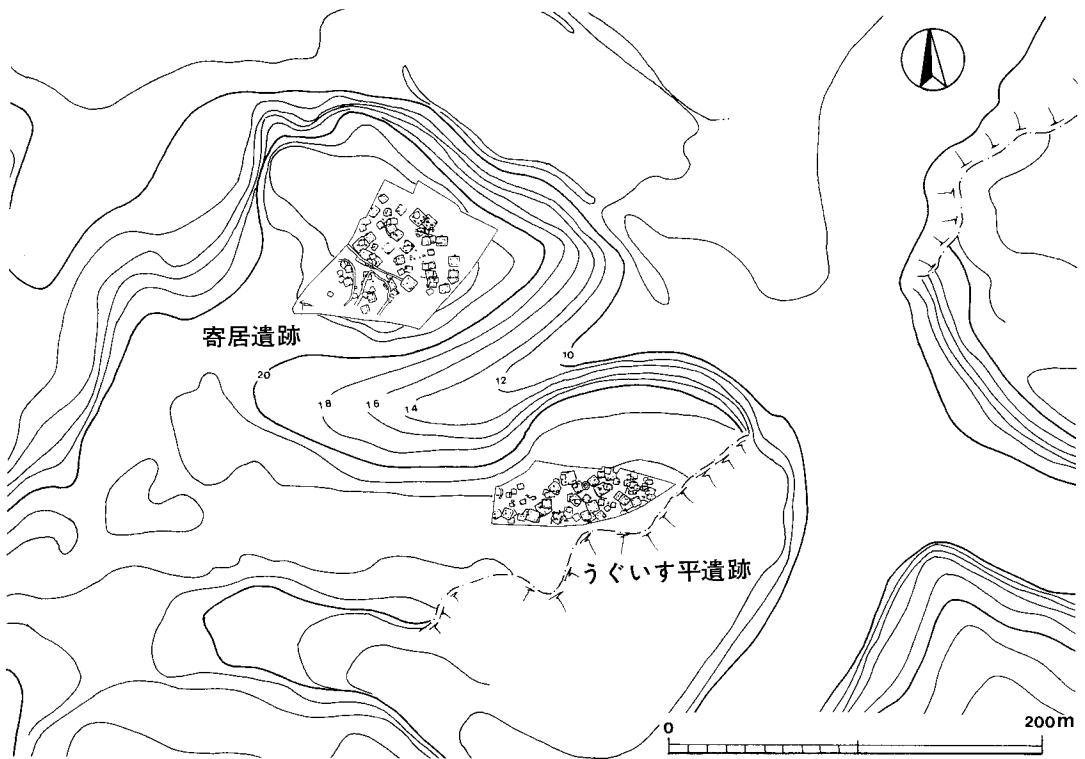
## 第6章 うぐいす平遺跡

### 第1節 遺跡の概要

うぐいす平遺跡は、土浦市大字上高津1023-1ほかに所在する。調査対象となったのは、住宅団地建設に伴う2589.13㎡である。

当遺跡は桜川の河口から西約4km上流の、桜川に臨む舌状台地上に位置する。台地面の標高は約23mであり、遺跡の南側は開発事業等によってすでに削平され、急崖や住宅地になっている。台地の南東部と北部には小支谷が入り込んでおり、北側の小支谷をはさんで北西方向の台地上に寄居遺跡が所在している。

当遺跡で確認された遺構は、竪穴住居跡79軒、井戸1基、土坑10基、溝1条である。遺物は、土器（縄文式土器片、弥生式土器、土師器、須恵器、灰釉陶器）、土製品（土玉、管状土製品）、石製品（磨製石斧、石製模造品、砥石）、金属製品（鉄鏃、刀子）等である。時代的には古墳時代前期と奈良・平安時代が中心で、その他に弥生時代後期の住居跡が数軒と旧石器時代から縄文時代にかけての遺物がわずかに見られた。



第129図 遺跡周辺の地形図

## 第2節 遺構と遺物

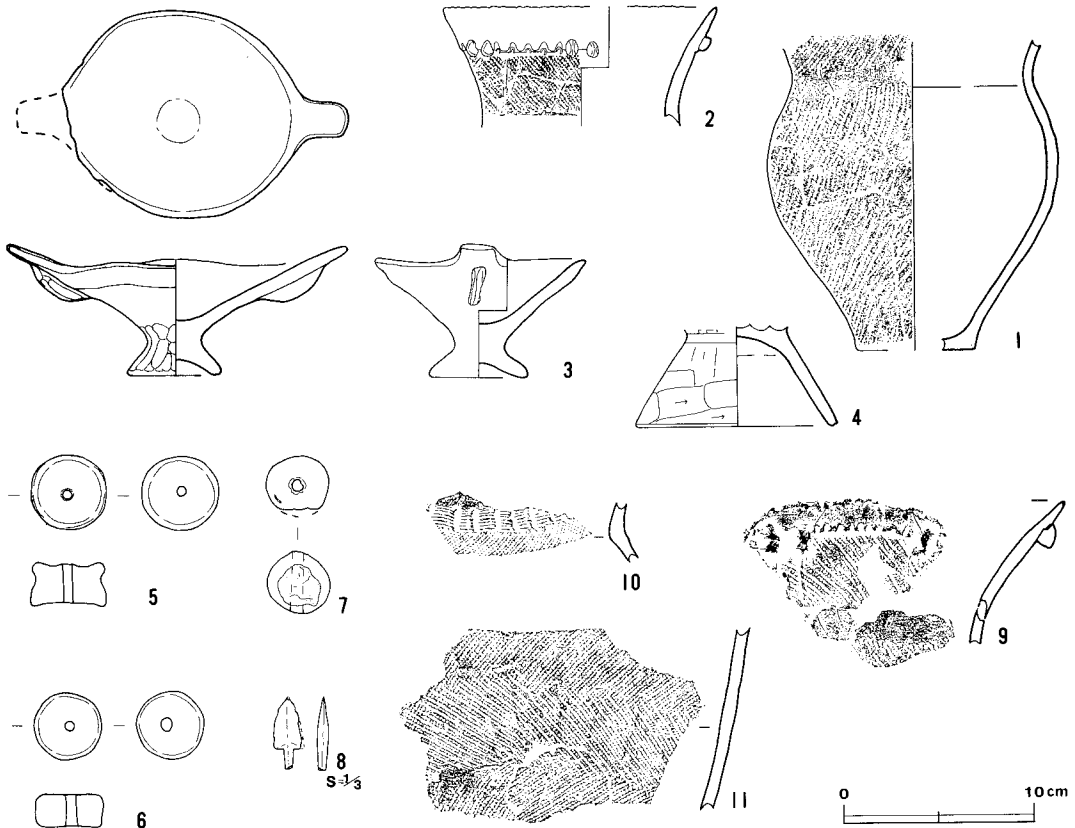
### 1 竪穴住居跡

当遺跡からは、79軒の竪穴住居跡（弥生時代3軒，古墳時代20軒，奈良・平安時代49軒）が確認されている。以下，確認された住居跡の特徴や主な出土遺物について記載していくが，遺存状態の悪い竪穴住居跡の一部については，本文解説を省き一覧表に掲示した。

#### (1) 弥生時代の住居跡

##### 第36号住居跡（第131図）

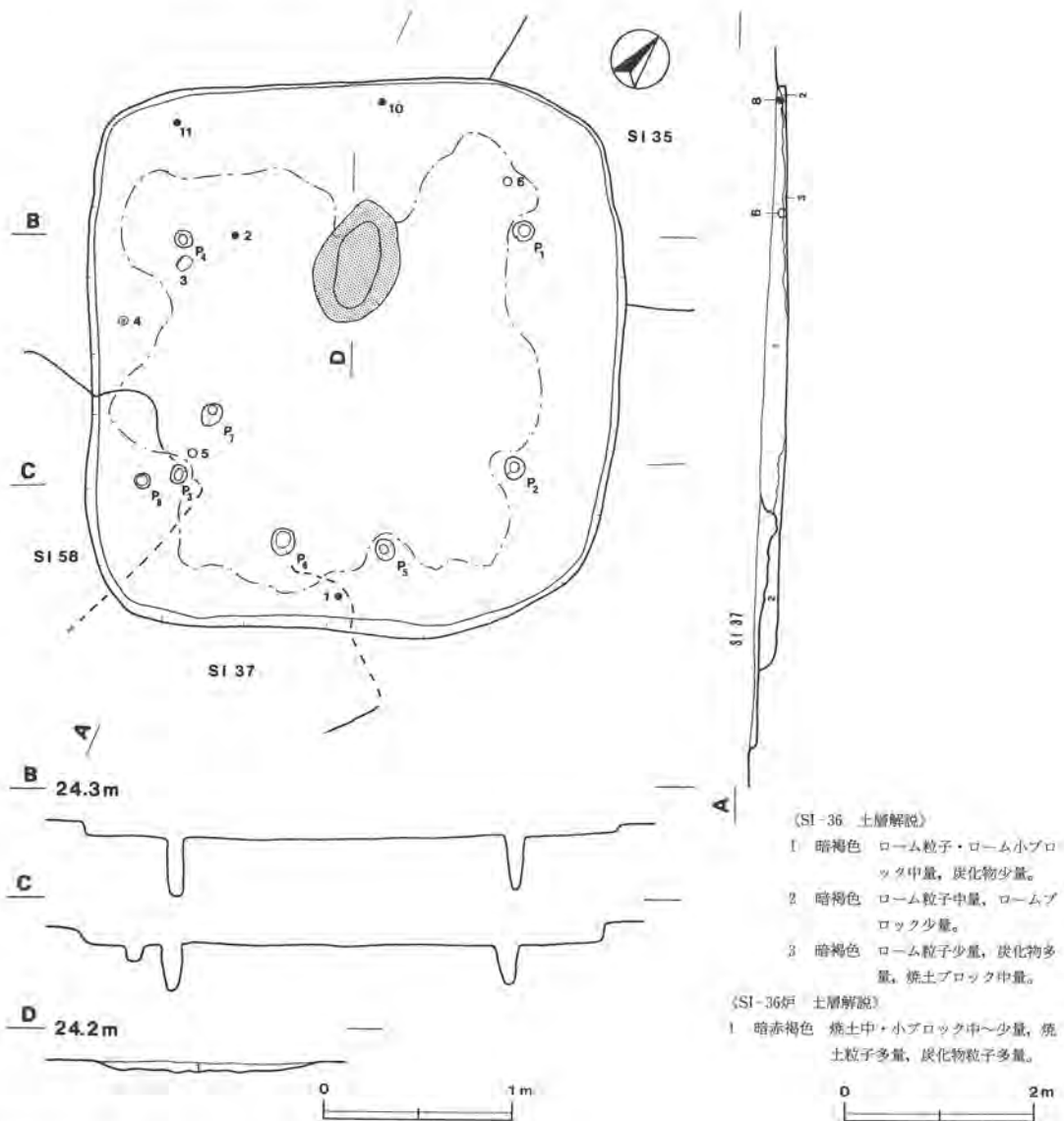
**位置** E5i<sub>4</sub>区 **規模と平面形** 長軸5.92m，短軸5.67mの隅丸方形。**主軸方向** N-39°-W  
**壁** 壁高は8~20cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。**床** 平坦である。**ピット** 8か所。  
P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は，径19~23cm，深さ46~67cmでいずれも支柱穴である。P<sub>5</sub>・P<sub>6</sub>は，径21~25cm，深さはP<sub>5</sub>が52cm，P<sub>6</sub>が29cmで，出入口施設に伴うピットと考えられる。P<sub>7</sub>は深さ69cm，P<sub>8</sub>は深さ19cmである。**炉** 中央部からやや北西壁寄りの支柱穴の間に位置する。長径133cm，短径86cmの長楕円形で深さ約5cmの地床炉である。**覆土** 3層からなる。1層が覆土の主体となっている



第130図 第36号住居跡出土遺物実測・拓影図

る。2層は壁際の初期堆積で、南東側からの流入が比較的多い。3層は炭化材・炭化物や焼土ブロックを多量に含み、床上に薄く堆積している。

**遺物** 全体に出土遺物が少ない。第130図1の壺，2の壺口縁部，3の高坏は床面から破片で出土している。4の台付甕脚部は、床と同一レベルから正立状態で出土している。9の壺口縁部は南壁際の覆土から，10・11は北壁際で床から数cm高いレベルから出土している。8の銅鏃は北東部の覆土から出土している。



第131図 第36号住居跡実測図

所見 本跡は、炭化材の出土から焼失家屋と考えられる。出土遺物から弥生時代後期後半の住居跡と考えられる。

### 第36号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130図 1	広口壺 弥生式土器	B [16.5] C [6.5]	平底。胴上半部に最大径を持ち、頸部でゆるやかにくびれ、口縁部は外反する。	頸部の無文帯をはさんで、体部と頸部に付加条一種(付加二条)の横回転の縄文が施文される。	石英・長石にぶい褐色 普通	P195 30% 床面
2	広口壺 弥生式土器	A [14.6] B (5.4)	口縁部破片。口縁部はわずかに外反しながら開く。口縁下端部に2個一単位の貼瘤を付ける。	口縁部無文。口縁下端に半截竹管状工具による刺突文、頸部上半部に付加条一種(付加二条)の横回転の縄文が施文される。	石英・長石にぶい褐色 普通	P196 10% 床面
3	高坏 弥生式土器	A 13.1 B 7.0 C 5.2	坏部は外傾して開き、脚部は短く「ハ」の字状に開く。坏口縁部に2か所平たい把手が付き、把手外面直下に鱗状の貼付がある。	坏部内・外面ナデ。脚部外面ヘラ削り後押え。	石英・長石・雲母の微砂粒多量、橙色 普通	P197 95% 床面
4	台付壺 弥生式土器	B (5.2) C 10.6	脚部破片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部外面横位のヘラナデ。	石英・長石の砂粒多量、にぶい黄褐色 普通	P198 10% 床面

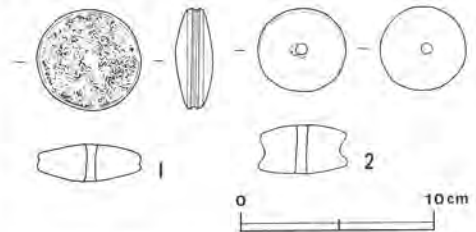
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	紡錘車	—	5.0	2.3	46.7	床面	DP164 孔径0.5 100%
6	紡錘車	—	3.7	1.8	31.1	床面	DP165 孔径0.5~0.6 100%
7	土玉	3.3	3.3	—	29.6	覆土	DP163 孔径0.6 90%
8	銅鏃	(2.1)	1.1	0.5	2.2	北東部覆土	M27

### 第53号住居跡 (第133図)

位置 F5a<sub>7</sub>区 重複関係 第57号住居跡に床を、第31号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.60m、短軸5.08mの隅丸長方形。主軸方向 N-45°-W 壁 壁高16~20cmで、壁溝を持たず垂直に立ち上がっている。床 平坦で、踏み固められている。ピット 7か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径20~27cm、深さ60~66cmでいずれも支柱穴である。P<sub>5</sub>は径42cm、深さ26cm、P<sub>6</sub>は径32cm、深さ24cm、P<sub>7</sub>は径20cmである。P<sub>6</sub>とP<sub>7</sub>は対になり、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土 1層で、ローム小ブロックを含んだ土層である。

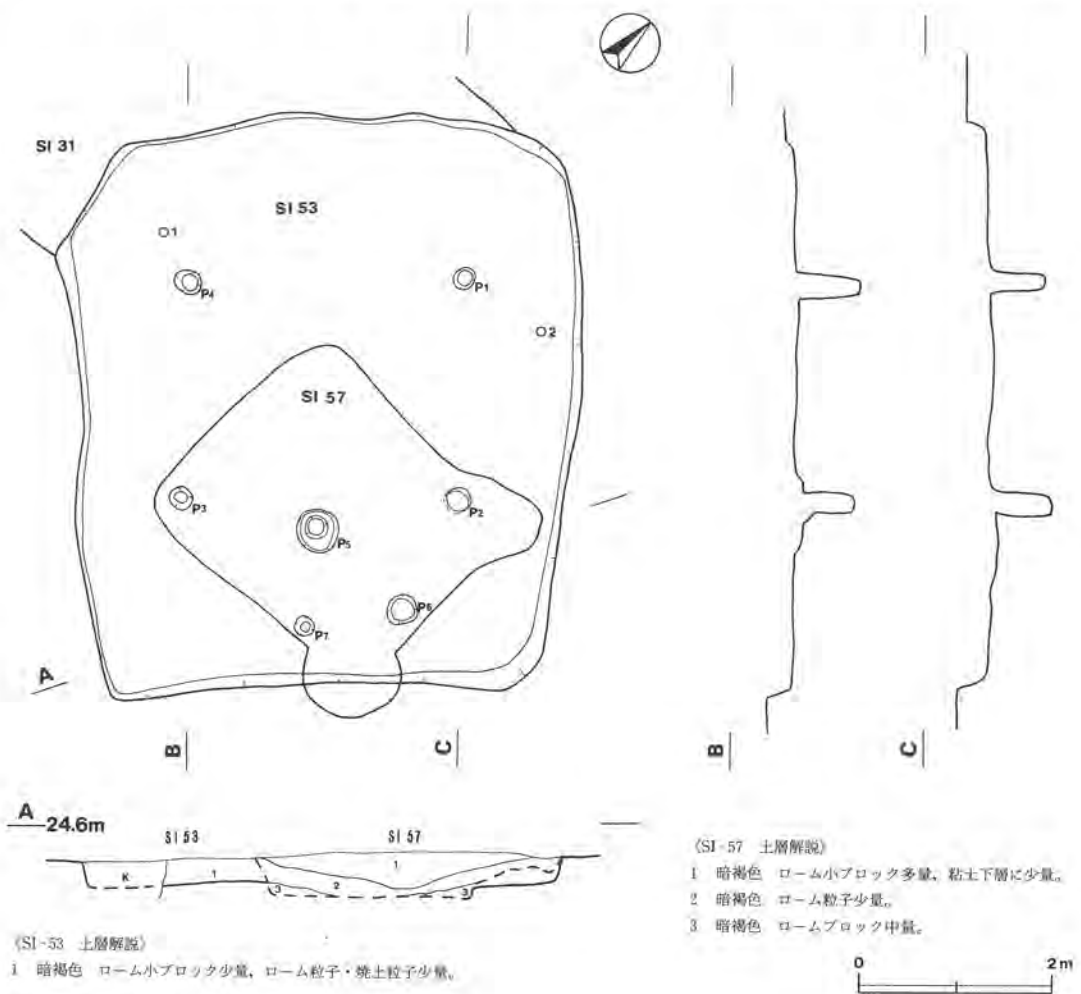
遺物 全体に遺物の量は少ない。第132図-1・2の紡錘車は床面から出土している。第253図6~13の弥生式土器片は覆土から出土している。



第132図 第53号住居跡出土遺物実測図



所見 本跡は、第57号住居跡によって中央部を壊されているために、炉が確認できなかった。わずかに出土している弥生式土器片は、弥生時代後期前葉から中葉にかけての時期のものである。



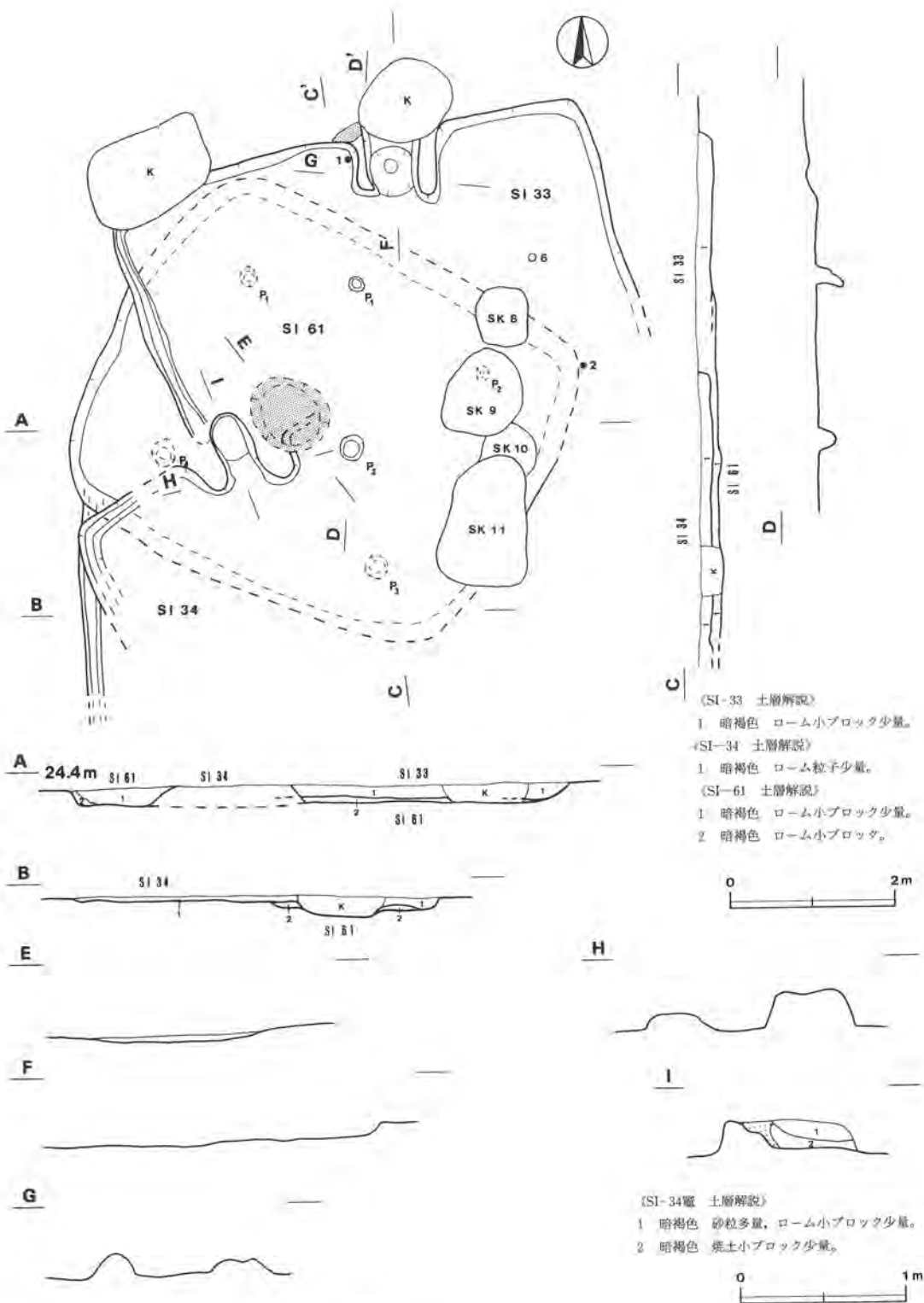
第133図 第53号住居跡実測図

第53号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	紡錘車	—	5.6	2.1	62.2	覆土	DP183 孔径0.8	100%
2	紡錘車	—	4.5	2.6	57.8	床面	DP184 孔径0.6	100%

第61号住居跡 (第134図)

位置 F5d<sub>5</sub>区 重複関係 第8～11号土坑が南東部を掘り込んでいる。規模と平面形 長軸5.56m、短軸(4.75)mの隅丸長方形。主軸方向 N-58°-W 壁 壁高14～23cmで、垂直に



第134図 第33・34・61号住居跡実測図

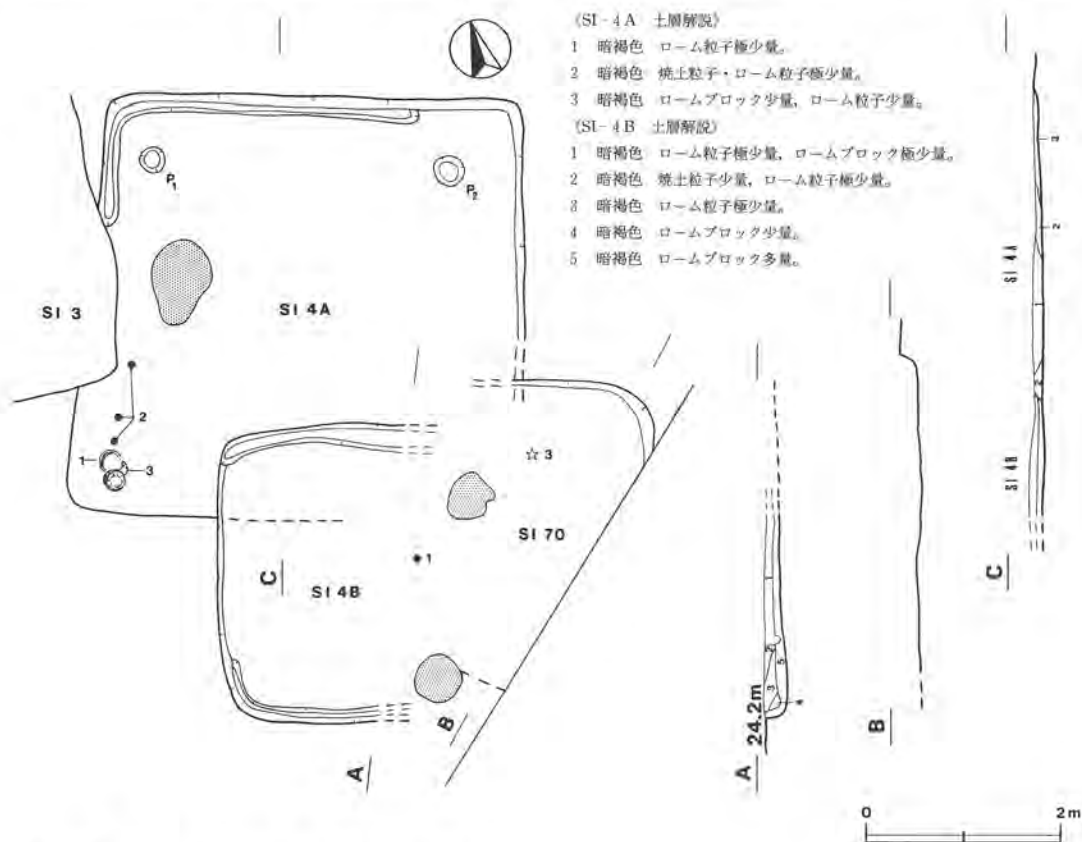
立ち上がっている。壁溝を持っていない。床 平坦で、踏み固められている。ピット 4か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径19~28cm、深さ57~59cmでいずれも支柱穴である。炉 中央部からやや北西壁寄りの位置に見られる。長径124cm、短径116cmの地床炉である。覆土 2層からなる。遺物 弥生式土器片が3片程出土している。弥生時代後期前葉から後葉にかけての土器片で、覆土から出土している。

所見 攪乱によって南東部の床面が壊されており、出入口部付近の様子は不明である。出土遺物が少なく時期は決められないが、主軸方向・支柱穴の配置は第36・53号住居跡と近似している。

## (2) 古墳時代の住居跡

### 第4A号住居跡 (第135図)

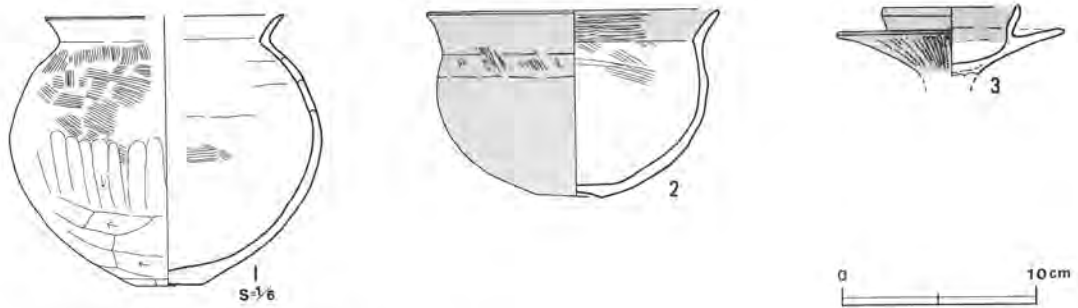
位置 E6j区 規模と平面形 長軸4.60m、短軸4.50mの方形。主軸方向 N-68°-W  
壁 壁高6cmで、垂直に立ち上がっている。床 平坦で、踏み固められている。ピット 2か所。P<sub>1</sub>は径26cm、深さ14cm、P<sub>2</sub>は径32cm、深さ約43cmである。炉 床面中央部と西壁の間にあり、長径93cm、短径64cmの地床炉である。覆土 層厚10cm弱で、堆積状況は明瞭でない。



第135図 第4A・4B・70号住居跡実測図

遺物 実測できた遺物は、すべて北西コーナー付近の床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。



第136図 第4 A号住居跡出土遺物実測図

第4 A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 1	甕 土師器	A [19.0] B 13.4	平底。球形で、体部中位に最大径を持つ。頸部は「く」の字状で、口縁部はわずかに外反する。	体部外面ハケ目調整後、下半部ヘラ削り。	黄白色微砂粒多量 浅黄橙色 普通	P14 60% 床面
2	鉢 土師器	A 15.2 B 10.0 C 3.3	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。内面の体部と口縁部の境に稜を持つ。	胴上半部外面ハケ目調整後、横ナデ。下半部横位ヘラ削り。	スコリア・長石 明赤褐色～橙色 普通	P16 80% 床面 赤彩
3	不明 土師器	B (3.5)	脚部破損。小振りの高坏の坏部に受け部を付けたような形態。	外面ヘラ磨き、赤彩。内面横ナデ。	長石・石英・黄白色 微砂粒、橙色 普通	P17 50% 床面

第12号住居跡 (第137・138図)

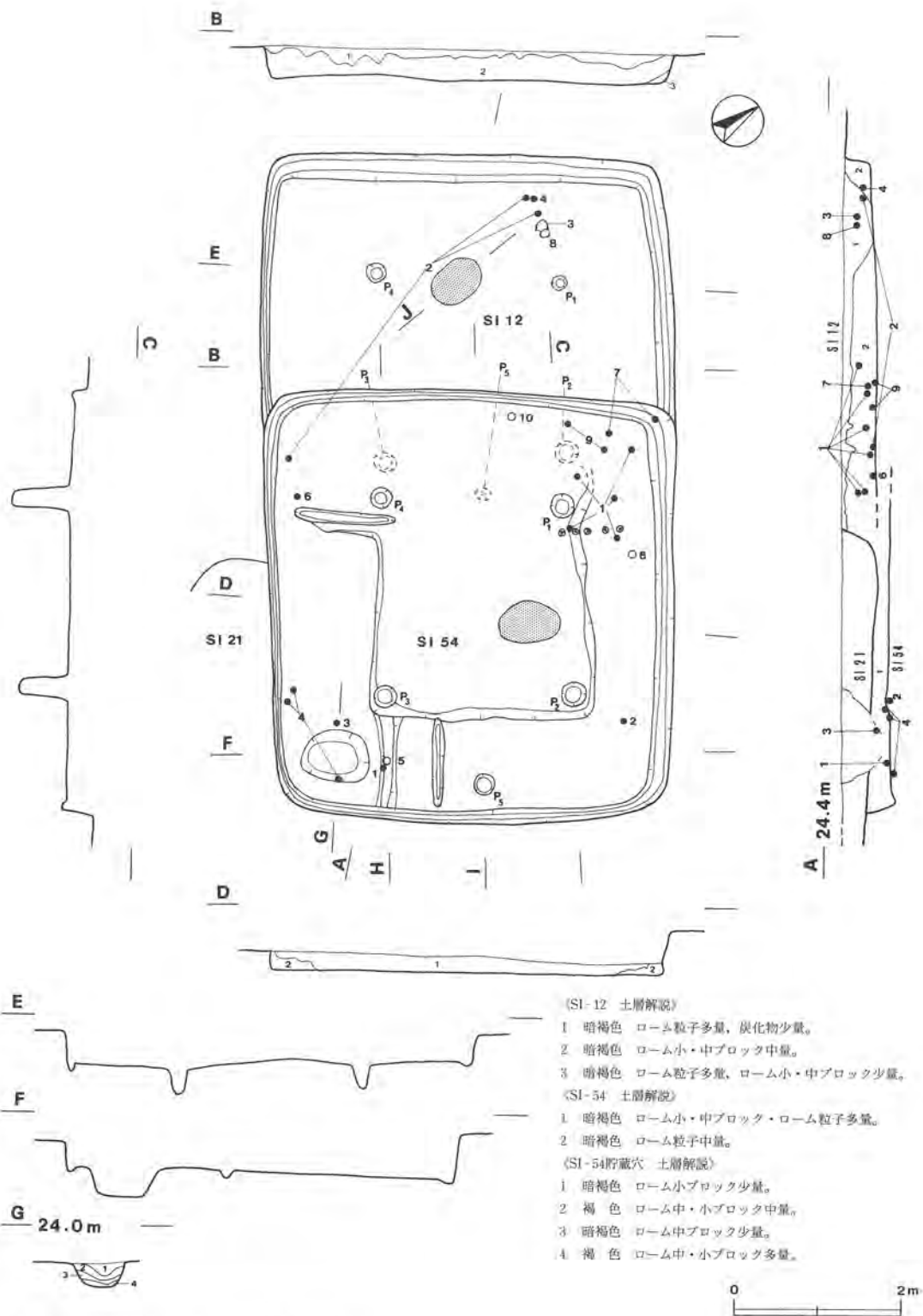
位置 E6j<sub>3</sub>区 重複関係 第54号住居跡を埋め戻して構築している。規模と平面形 長軸5.16m、短軸5.10mの方形。主軸方向 N-40°-W 壁 壁高42~52cmで、垂直に立ち上がっている。床 平坦である。第54号住居跡との重複部分では、明瞭な床を確認できなかった。

ピット 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は径22~26cm、深さ38~48cmで支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は径14cmで出入り口に伴うピットと考えられる。炉 P<sub>1</sub>とP<sub>4</sub>間にあり、長径53cm、短径44cmの地床炉である。

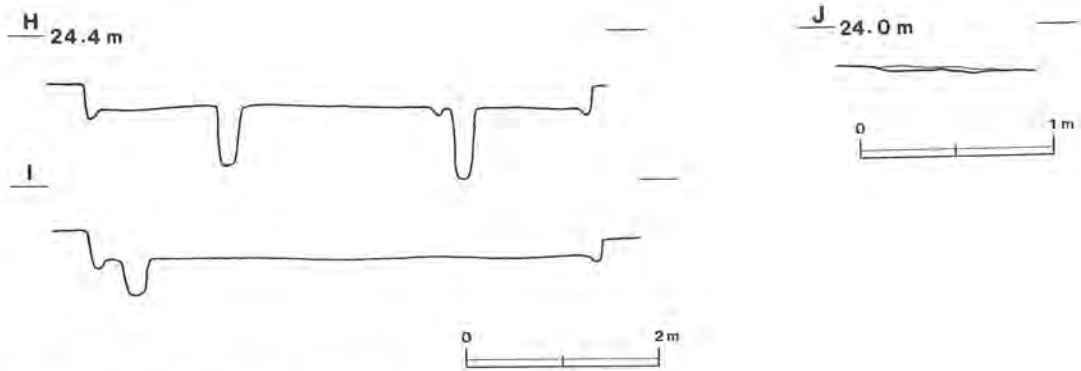
覆土 3層からなる。2層は壁際の堆積土層、3層はロームブロックや土器片を含む土層である。

遺物 第139図1の壺、8のミニチュアの鉢、9のミニチュアの壺は北東壁際の3層から出土している。2の甕は北西壁際2層のものと南西壁際床面のものが接合している。3の高坏、4の器台、7の小形鉄兜形鉢も北西壁近くの1層・2層から出土している。6の坩は南西壁際の床面から出土している。

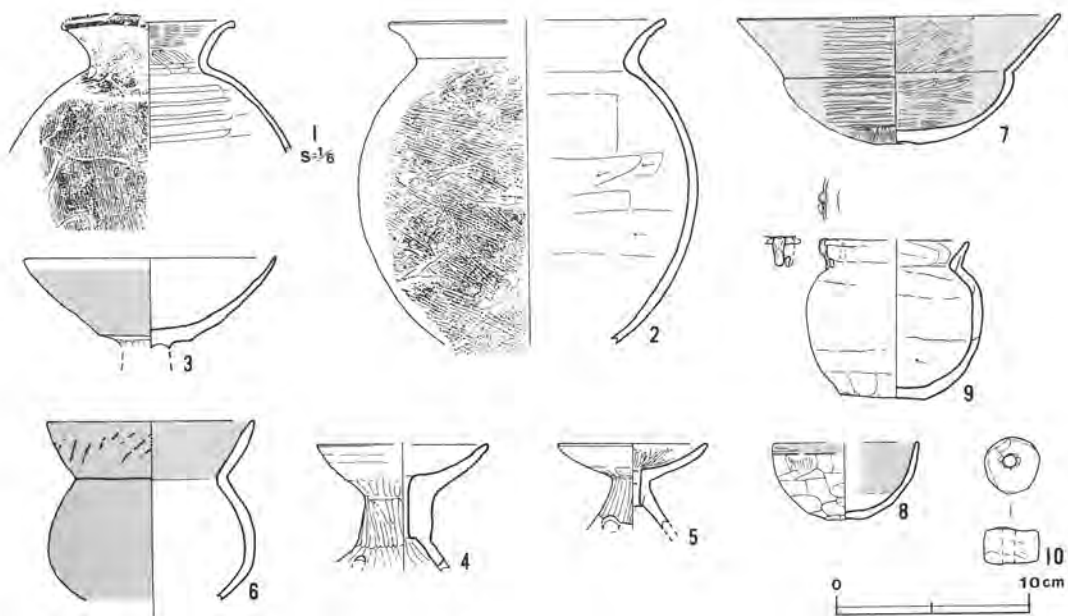
所見 本跡は、出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。



第137図 第12・54号住居跡実測図(1)



第138図 第12・54号住居跡実測図(2)



第139図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

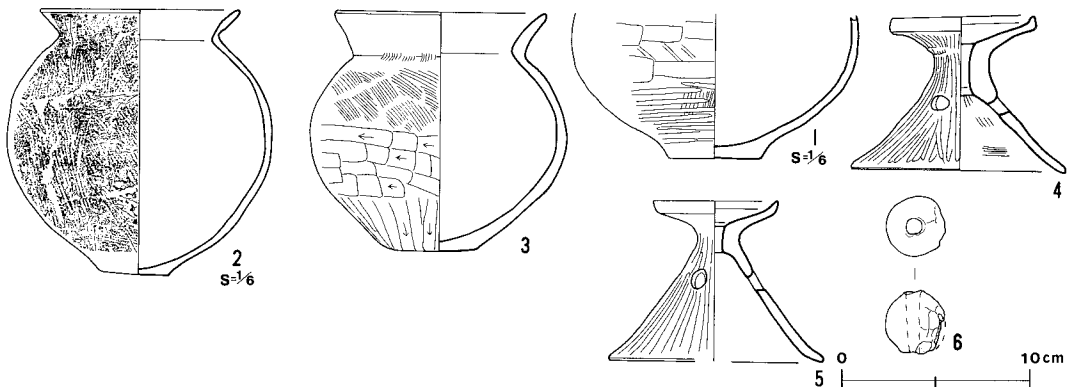
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第139図 1	壺 土師器	A 13.8 B (10.8)	底部欠損。球形形で、頸部は「く」の字状で、口縁部は外反する。口縁端部に平坦面を持つ。	体部外面ハケ目調整。体部内面横位のヘラ削り。	黄白色微砂粒 におい黄橙色 普通	P81 20% 覆土(3層)
2	甕 土師器	A [14.6] B (17.3)	球形形で、体部中位に最大径を持つ。頸部は「く」の字状で、口縁部は外反する。	体部外面ハケ目調整。内面横～斜位の強いヘラナデ調整。	黄白色微砂粒・長 石・石英、橙色 普通	P82 10% 覆土(2・3層)
3	高 土師器	A 13.4 B (5.0)	坏部破片。坏部は外面に稜を持ち、内彎気味に開く。	内・外面横ナデ。	微砂粒多量 橙色 普通	P83 40% 覆土(3層) 坏部外面赤彩

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第139図 4	器台 土師器	A [9.0] B (6.8)	裾部破損。脚部は短い柱状で、器受部は内彎気味に立ち上がる。	脚部外面縦位ヘラナデ。受け部横ナデ。	長石・石英の砂粒、雲母を含む微砂粒にぶい橙色、普通	P84 60% 覆土(2層上面)
5	器台 土師器	A 7.8 B (4.5)	脚部は「ハ」の字状に開き、器受部は内彎気味に立ち上がる。	脚部外面縦位ヘラ磨き。受け部外面横ナデ。内面ヘラ磨き。	微砂粒多量にぶい黄橙色普通	P85 60% 覆土
6	埴 土師器	A 11.0 B (7.9)	底部破損。体部最大径を下位に持ち、口縁部は外傾する。	口縁部ハケ目調整後、ナデ。	黄白色微粒子多量 浅黄橙色 普通	P86 45% 床面 赤彩
7	小形鉄兜 鉢 土師器	A 16.9 B 6.8 C 2.3	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。内面の体部と口縁部の境に稜を持つ。	全面横位主体のヘラ磨き。	微砂粒 暗赤色 普通	P88 70% 覆土(1層) 赤彩
8	ミニチュア鉢 土師器	A [7.9] B 4.1 C 1.7	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。	黄白色微粒子にぶい褐色 普通	P89 55% 床面 赤彩
9	ミニチュア壺 土師器	A [7.6] B 8.4 C 4.6	平底。球形で、頸部でくびれ、口縁部は外傾する。口縁部外面に2本1単位の棒状附文をつける。	体部下端ヘラ削り。	長石・石英の砂粒多 橙色 普通	P90 40% 覆土(3層)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	土玉	2.0	2.8	—	18.2	床面	DP28 孔径0.6~0.7 100%

### 第15号住居跡 (第141図)

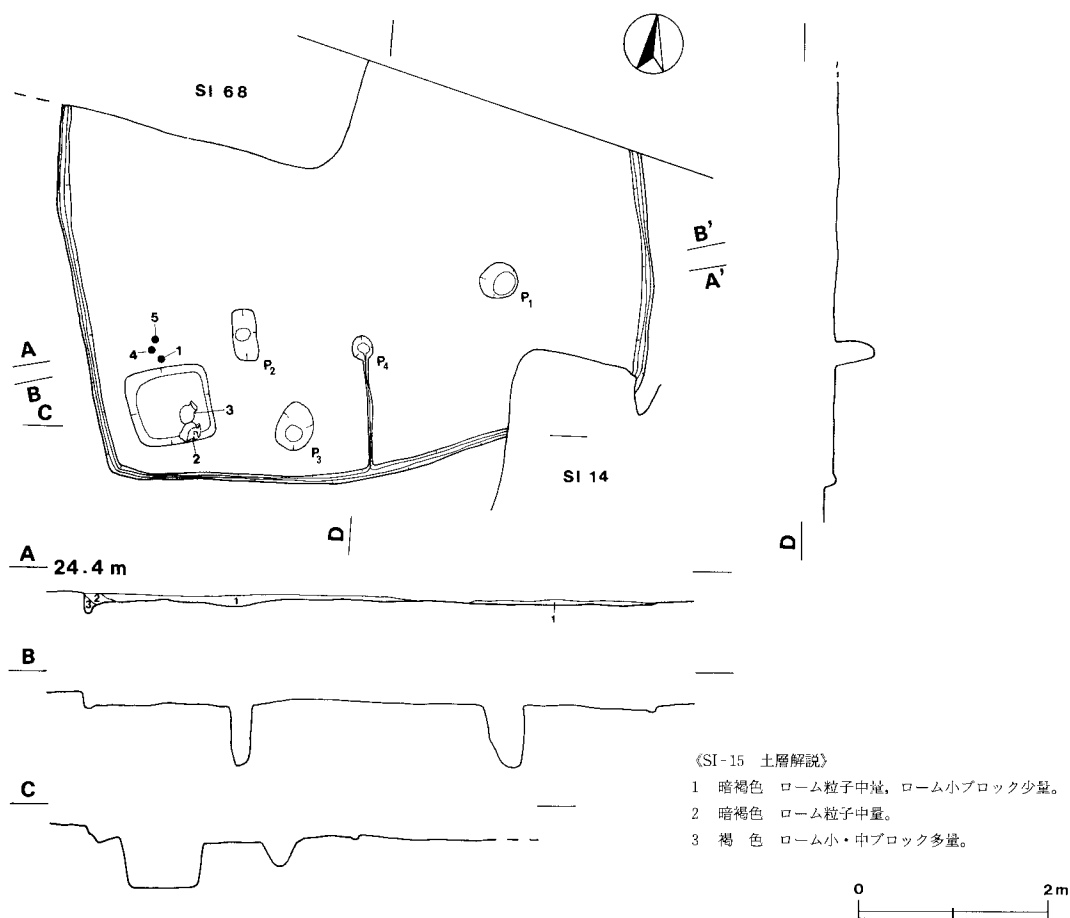
**位置** E6h<sub>2</sub>区 **重複関係** 第14・68号住居跡によって掘り込まれている。**規模と平面形** 長軸6.20m, 短軸(4.80)mで調査区外に延びている。**主軸方向** N-10°-W **壁** 壁高2~10cmである。**床** 平坦で、踏み固められている。壁溝が南壁中央部からP<sub>4</sub>までの間、長さ110cm, 幅8cm程確認されている。**ピット** 4か所。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は、径24~40cm, 深さ63~75cmで支柱穴と考えられる。P<sub>3</sub>は径40cm, 深さ30cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P<sub>4</sub>は径22cm, 深さ45cmで間仕切り溝にかかわるピットと考えられる。**覆土** 薄く3層が堆積している。



第140図 第15号住居跡出土遺物実測図

遺物 第140図-1の壺底部と4・5の器台は貯蔵穴の北側床面から出土している。2と3の甕は貯蔵穴覆土中層から出土している。そのほかに、貯蔵穴の底部からは粘土塊が出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代前期中葉頃の住居跡と考えられる。



第141図 第15号住居跡実測図

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第140図 1	壺 土師器	B (10.8) C 7.4	胴上半部欠損。平底で、底部がやや下方に突出する。体部は球胴形。	体部外面ハケ目調整後、強い横ナデと下位横位のヘラ磨き。	微砂粒少量 黄褐色 普通	P102 40% 床面
2	甕 土師器	A 16.0 B 21.4 C 5.3	平底。球胴形で、体部中位に最大径を持つ。頸部は「く」の字状で、口縁部は外反する。	体部外面横位のハケ目調整。下端部縦位のナデ状の弱いハケ目調整。	微砂粒少量 橙色 普通	P100 70% 貯蔵穴覆土中層
3	甕 土師器	A [11.3] B 12.8 C 4.3	平底。球胴形で、体部中位に最大径を持つ。頸部は「く」の字状で、口縁部は外反する。	体部外面斜位のハケ目調整。下半部縦位のヘラ削り後、体部中位に横位のヘラ削り。	微砂粒少量 橙色 普通	P101 80% 貯蔵穴覆土中層



図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第140図 4	器台 土師器	A 7.5	脚部は「ハ」の字状に開き、器受部は外傾して立ち上がる。端部を上方に突出させる。	外面ヘラ磨き。受部口縁の端部横ナデ。	土器碎片にぶい黄橙色普通	P103 100% 床面
		B 8.3				
		D 11.3				
5	器台 土師器	A 6.8	脚部は「ハ」の字状に開き、器受部は外傾して立ち上がる。端部を上方に突出させる。	外面ヘラ磨き。器受部横ナデ。	土器碎片多量 浅黄色 普通	P104 60% 床面
		B 8.6				
		D [11.4]				

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	土玉	3.3	3.2	—	30.1	貯蔵穴底面	DP37 孔径0.6~0.8 85%

### 第18号住居跡 (第142図)

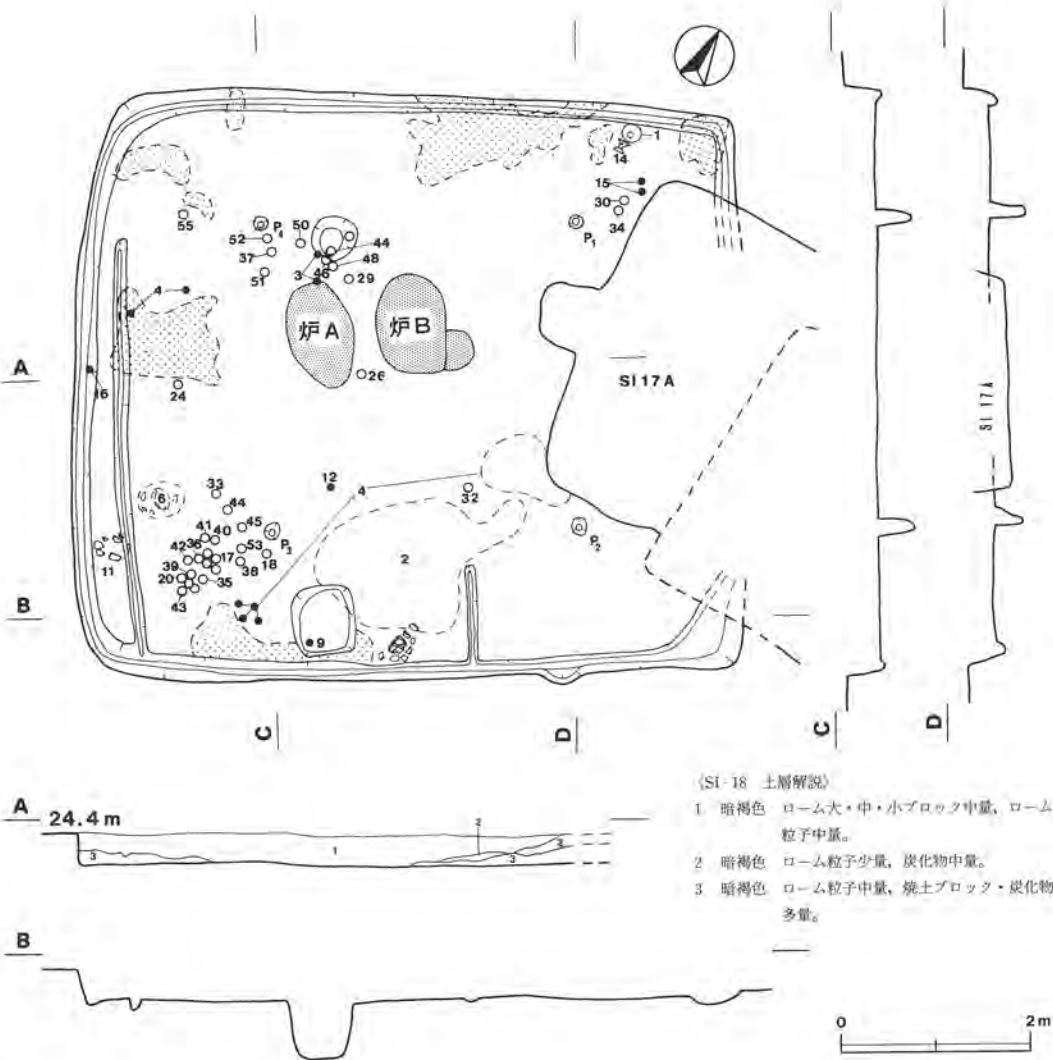
**位置** E5j<sub>0</sub>区 **規模と平面形** 長軸6.80m, 短軸6.30mの長方形。 **主軸方向** N-29°-W

**壁** 壁高34~44cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦で、踏み固められている。

**ピット** 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は径14~18cm, 深さ30~40cmで支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は径44~50cm, 深さ17cmで炉の近くにあり、ピット内には土器片が落ち込んでいた。 **炉** 2か所。中央部やや北寄りに炉B, 中央部からやや北西寄りに炉Aが見られる。炉Aは長径105cm, 短径70cm, 炉Bは長径105cm, 短径70cmの地床炉である。 **貯蔵穴** 南東壁際の中央部からやや南西寄りの位置にみられ、規模は一辺約70cm, 深さ60cmの方形である。 **覆土** 3層からなる。2・3層はローム粒子、炭化物多く含み、上屋の焼失にかかわる堆積土層であり、遺物の大半はこの層に含まれている。1層は大~小のロームブロックを含み、住居跡の中央部を覆っている人為的な堆積土層である。

**遺物** 遺物破片のほとんどは、2層の傾斜に沿ってみられ、接合できた個体は、比較的良好な状態で出土していた。第143・144図2・4・6・11・12の甕や壺は、2層から出土している。16の小形鉢は西壁際の床面から、17から53の土玉の内、21個は、西南壁近くの床面から集中して出土している。21個のうち2個体は孔内に竹類の炭化したものが詰まっていた。1の甕は、北壁直下の床面近くから、強い火熱を受けた状態で出土している。この甕は完形で伏せた状態で出土しているため空洞で、内部からは全体に加熱を受けたアカニシが1点出土している。甕の南側に接して器台が横転して出土している。

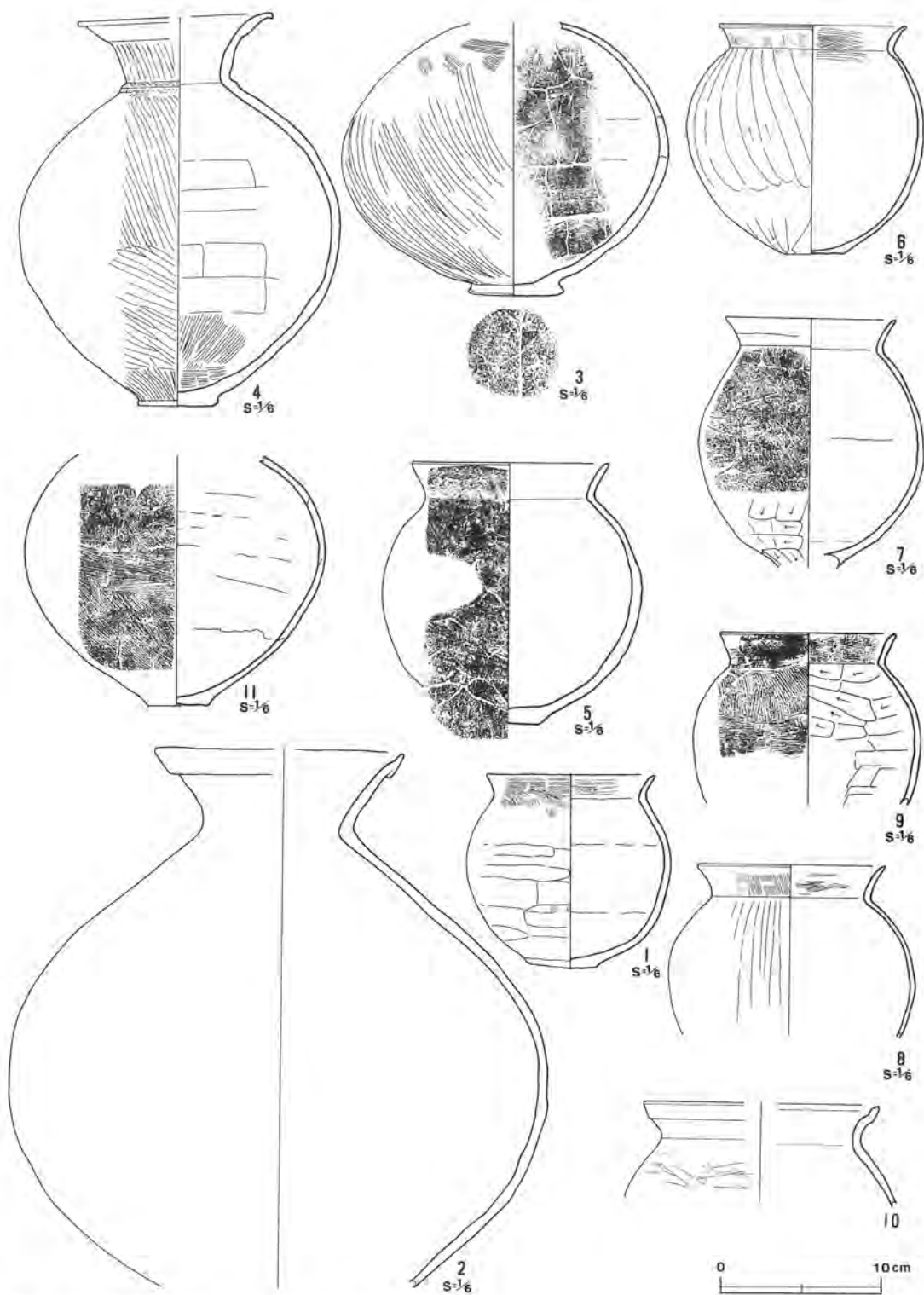
**所見** 巻貝を入れて床面近くに伏せた甕は、火を被った状況から火災以前に置かれており、同じ場所から出土した器台とともに完形品である。それに対して複合口縁の大壺等をはじめとして覆土2層に沿って出土している土器群は投棄され、しかも破片となっているものがほとんどである。焼失後に人為的な埋め戻しが行われていることから、これらは比較的短期間の一括遺物と考えられる。土玉は床面から出土しているものが多いが、土器片とともに覆土から出土しているものもあり、住居跡廃絶後から焼失までの間に入ったものと思われる。出土遺物から、古墳時代前期後半の住居跡と考えられる。



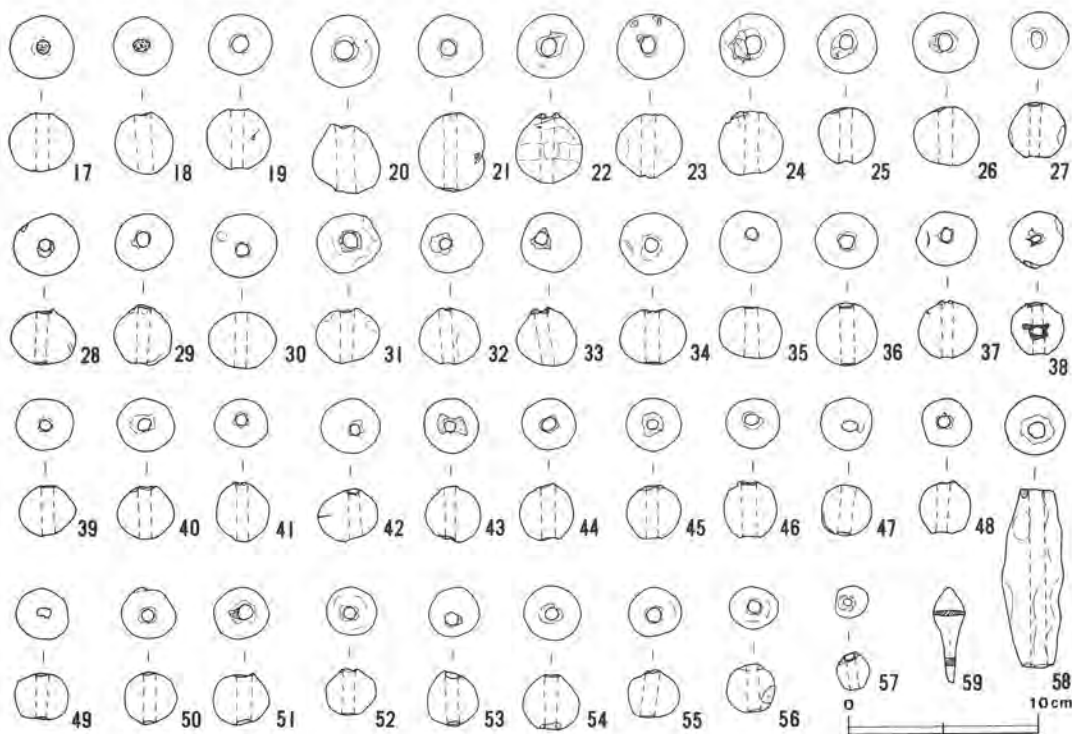
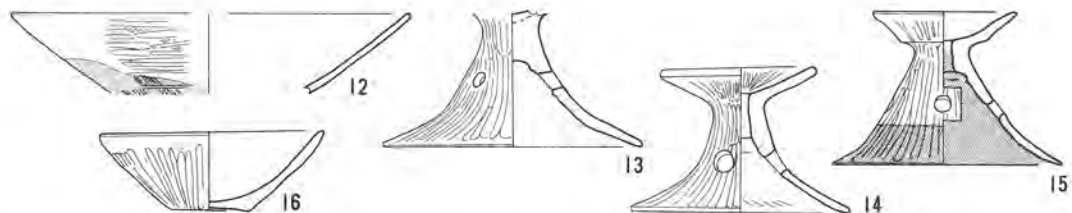
第142図 第18号住居跡実測図

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143・144図 4	壺 土師器	A [18.1] B 37.3 C 7.4	平底。体部は球形で、頸部に突帯を持つ。口縁部は複合口縁で外反して開く。	体部外面縦位のハケ目調整後、斜位のヘラ磨き。口縁部外面縦位の荒いハケ目調整。	長石・スコリア 明赤褐色 普通	P120 80% 床面
3	壺 土師器	B (26.0) C 9.0	口縁部破損。平底で体部中位に最大径を持つ。	体部外面ハケ目調整後、体下半部ヘラ磨き。	微砂粒多量 にぶい黄橙色 普通	P121 60% 覆土(2層)
2	壺 土師器	A [23.0] B 50.5	底部破損。体部最大径を中位よりやや下位に持つ。口縁部は複合口縁で外反して開く。	体部外面ナデ調整。	黄白色微砂粒多量 にぶい黄橙色 普通	P119 50% 覆土



第143图 第18号住居跡出土遺物実測図(1)



第144図 第18号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143・ 144図 1	甕 土師器	A 15.6 B 18.4 C 6.2	平底。体部は球形で、口縁部は外反する。	体部外面斜位のハケ目調整後、ヘラによる強い横ナデ。	長石・石英 明黄褐色 普通	P126 98% 覆土(2層)
5	甕 土師器	A 18.5 B 24.8 C 5.1	平底。体部は球形で、口縁部は外反する。	体部外面ハケ目調整及びヘラナデ調整。	長石・石英砂粒 浅黄褐色 普通	P127 75% 覆土
6	甕 土師器	A 17.4 B 21.9 C 5.2	平底。体部は球形で、口縁部は外反する。	体部外面ハケ目調整後、縦位のヘラ削り。口縁部内・外面ハケ目調整。	長石・石英砂粒 黄灰色 普通	P128 70% 覆土(2層)
7	台付甕 土師器	A 16.1 B (23.6)	脚部破損。体部中位に最大径を持つ。口縁部は外反して開く。	体部外面斜位のハケ目調整後、強いナデ。	長石・土器細片多量 橙色 普通	P129 60% 覆土
8	甕 土師器	A 17.6 B (16.2)	底部破損。体部は球形で、口縁部は外反する。	体部外面ハケ目調整後、縦位のヘラナデ。口縁部内・外面ハケ目調整。	微砂粒 にぶい黄褐色 普通	P130 60% 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143・144図9	甕土師器	A 16.4 B (16.2)	底部破損。体部は球形で、口縁部は外反する。	体部外面横位のハケ目調整。口縁部内・外面横ナデ。体部内面横位のへら削り。	長石・石英微砂粒多 橙色 普通	P131 40% 覆土
10	甕土師器	A [14.8] B (6.4)	口縁部破片。口縁部は外面に稜を持ち屈曲して外反する。	体部外面横位のハケ目調整。口縁部内・外面横ナデ。	微砂粒多量 明黄褐色 普通	P132 15% 覆土
11	甕土師器	B (23.7) C 5.5	口縁部破損。平底で、体部は球形。	体部外面斜位のハケ目調整。	長石・石英微砂粒 橙色 普通	P133 55% 覆土(2層)
12	高土師器	A [21.1] B (4.3)	脚部破損。坏部は外傾して開く。	坏部外面ハケ目調整後、横位のへら磨き。	微砂粒多量 にぶい黄褐色 普通	P134 30% 覆土(2層)
13	高土師器	B (7.1) D [13.8]	坏部破損。脚部はラッパ状に開く。脚部3か所穿孔。	脚部外面へら磨き。	長石・石英の砂粒 明赤褐色 普通	P135 50% 覆土
14	器土師器	A 8.2 B 7.9 D 11.4	脚部は「ハ」の字状に開き、器受部は内彎気味に立ち上がる。	脚部外面及び器受部内・外面へら磨き。	微砂粒多量 浅黄色 普通	P136 100% 床面
15	器土師器	A [7.6] B 8.2 D [12.2]	脚部は「ハ」の字状に開き、器受部は外傾して立ち上がる。	脚部外面及び器受部内・外面へら磨き。	長石・石英微砂粒 灰黄色 普通	P137 85% 覆土
16	鉢土師器	A 11.9 B 4.2 C 4.1	平底。体部は外傾して開く。	体部外面縦位のへら磨き。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア 浅黄褐色 普通	P138 100% 床面

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
17	土玉	2.0	2.8	—	18.2	南西コーナー近くの床面	DP43 孔径0.7 孔内に竹質の炭化物片入り	100%
18	土玉	3.3	3.1	—	28.6	南西コーナー近くの床面	DP44 孔径0.9 孔内竹	100%
19	土玉	3.2	3.3	—	31.2		DP45 孔径0.6~0.7	100%
20	土玉	3.8	3.5	—	39.8	南西コーナー近くの床面	DP46 孔径0.9~1.0	95%
21	土玉	4.2	3.4	—	43.7	炉BとP <sub>5</sub> の間の床面	DP47 孔径0.7	95%
22	土玉	3.8	3.5	—	37.3	南西コーナー近くの床面	DP48 孔径0.7~0.8	95%
23	土玉	3.4	3.5	—	36.3	南西コーナー近くの床面	DP49 孔径0.7	100%
24	土玉	3.4	3.4	—	33.5	南西コーナー近くの床面	DP50 孔径0.8~0.9	90%
25	土玉	3.0	3.1	—	26.3		DP51 孔径0.7	95%
26	土玉	3.1	3.4	—	26.6	南西コーナー近くの床面	DP52 孔径0.7	100%
27	土玉	2.9	3.1	—	23.9	南西コーナー近くの床面	DP53 孔径0.6	100%
28	土玉	3.0	3.4	—	28.1	南西コーナー近くの床面	DP54 孔径0.6	100%
29	土玉	3.2	3.0	—	26.0		DP55 孔径0.6~0.7	100%
30	土玉	3.0	3.5	—	30.8	北東コーナー寄り覆土	DP56 孔径0.6	100%
31	土玉	3.0	3.3	—	26.5		DP57 孔径0.7	100%
32	土玉	3.0	3.2	—	27.4	中央部床面	DP58 孔径0.7	95%
33	土玉	3.2	3.3	—	27.8	南西コーナー近くの床面	DP59 孔径0.6	100%
34	土玉	2.9	3.5	—	27.7	北東コーナー寄り覆土	DP60 孔径0.7	100%
35	土玉	2.7	3.3	—	25.8	南西コーナー近くの床面	DP61 孔径0.6~0.8	100%
36	土玉	3.3	3.2	—	29.0	南西コーナー近くの床面	DP62 孔径0.8	100%
37	土玉	3.0	3.1	—	26.7	P <sub>5</sub> の周囲覆土	DP63 孔径0.6	100%
38	土玉	2.8	2.9	—	20.9	南西コーナー近くの床面	DP64 孔径0.6	100%

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
39	土玉	2.7	3.0	—	21.1	南西コーナー近くの床面	DP65 孔径0.6	100%
40	土玉	2.8	3.0	—	21.8	南西コーナー近くの床面	DP66 孔径0.7	100%
41	土玉	3.2	2.7	—	21.4	南西コーナー近くの床面	DP67 孔径0.7	100%
42	土玉	2.8	3.1	—	22.0		DP68 孔径0.5~0.8	100%
43	土玉	3.0	2.9	—	21.8	南西コーナー近くの床面	DP69 孔径0.5~0.6	90%
44	土玉	3.1	2.9	—	21.7	P <sub>5</sub> 覆土	DP70 孔径0.8	100%
45	土玉	2.9	2.9	—	20.5	南西コーナー近くの床面	DP71 孔径0.6~0.7	95%
46	土玉	2.9	2.8	—	21.1	P <sub>5</sub> 覆土	DP72 孔径0.8	95%
47	土玉	2.7	2.7	—	19.2	南西コーナー近くの床面	DP73 孔径0.7~0.8	100%
48	土玉	2.8	2.6	—	18.5	炉BとP <sub>5</sub> の間の床面	DP74 孔径0.7	100%
49	土玉	2.4	2.8	—	18.4		DP75 孔径0.6~0.7	100%
50	土玉	2.9	2.9	—	19.4	炉BとP <sub>5</sub> の間の床面	DP76 孔径0.7	100%
51	土玉	2.8	3.0	—	20.0	P <sub>5</sub> の周囲覆土	DP77 孔径0.7~0.8	100%
52	土玉	2.5	2.6	—	16.8	P <sub>5</sub> の周囲覆土	DP78 孔径0.6~0.7	100%
53	土玉	2.9	2.7	—	17.2		DP79 孔径0.7	100%
54	土玉	3.0	3.0	—	21.5		DP80 孔径0.6~0.7	95%
55	土玉	2.5	2.7	—	16.4	北西コーナー寄り覆土	DP81 孔径0.7~0.8	100%
56	土玉	2.6	2.5	—	13.5		DP82 孔径0.7	95%
57	土玉	2.0	1.8	—	5.2	覆土	DP83 孔径0.4~0.5	90%
58	管状土製品	9.5	3.3	—	87.1	南西部覆土	DP84 孔径0.8	100%
59	鉄 鍬	(5.2)	1.7	0.4	6.3	東コーナー部床面	M22	

### 第19号住居跡（第145図）

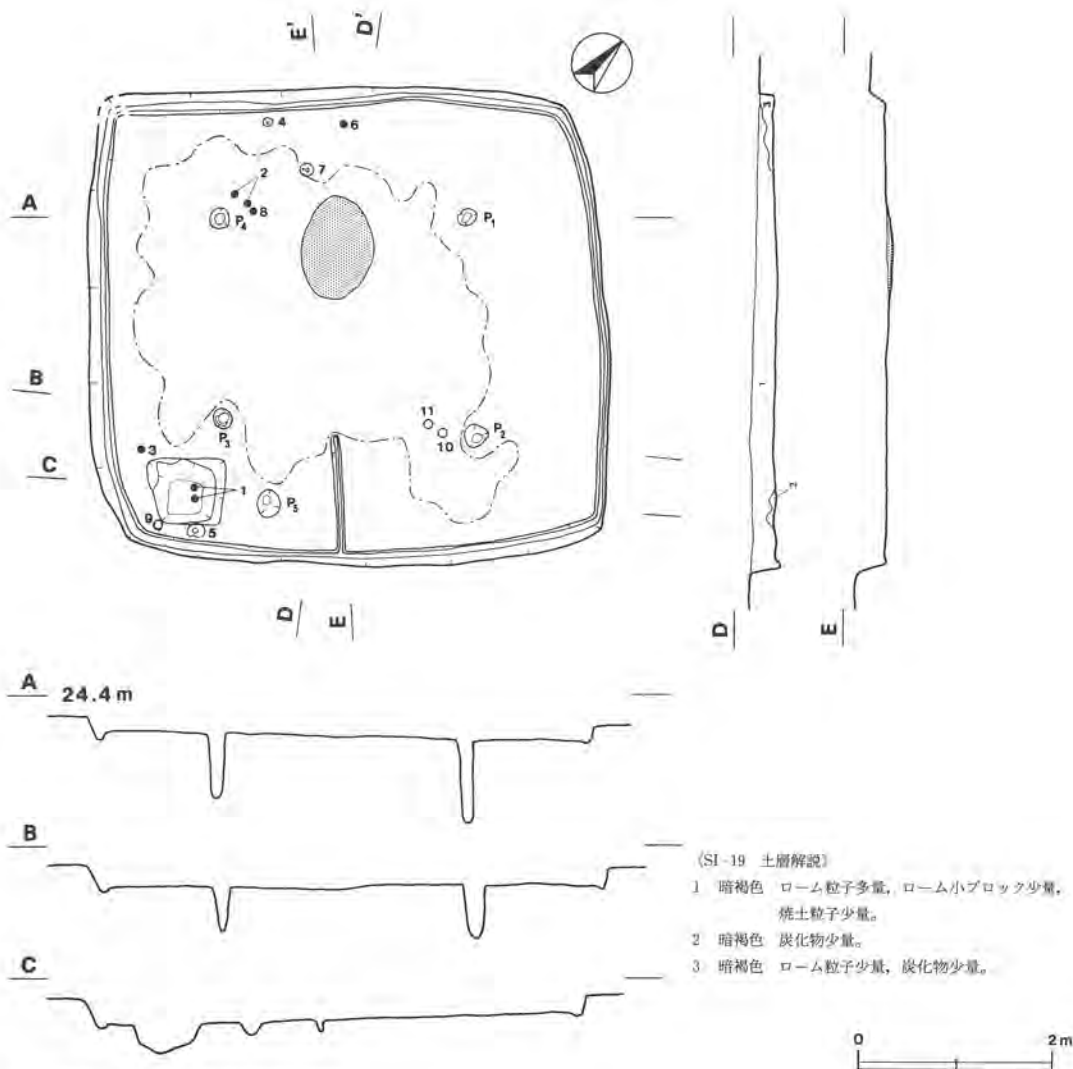
**位置** E5i<sub>0</sub>区 **規模と平面形** 長軸5.30m，短軸5.10mの方形。 **主軸方向** N-37°-W

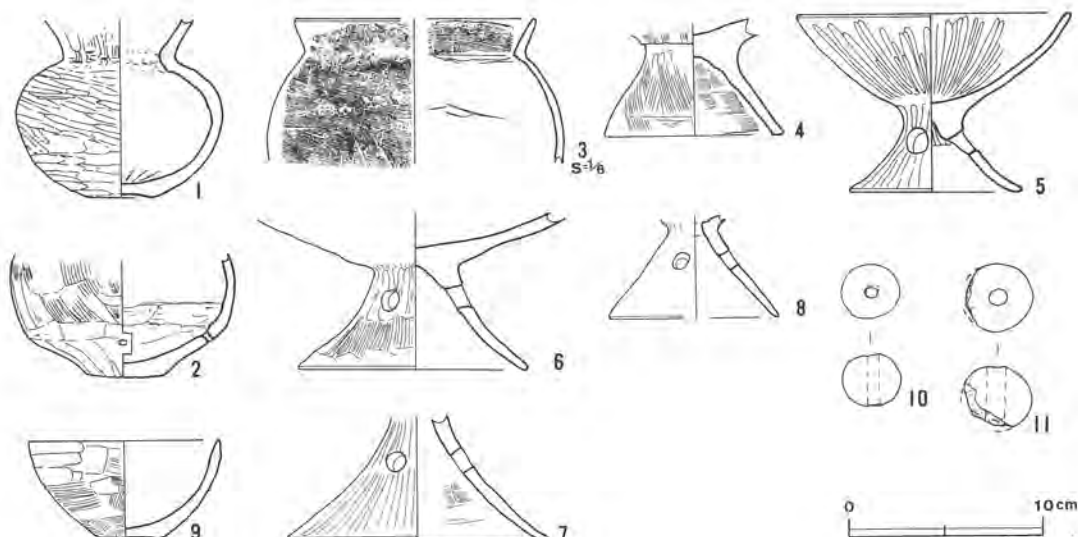
**壁** 壁高26~27cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦で，4か所の支柱穴の内側が踏み固められている。南東壁側中央部から炉の方向に，長さ130cm程の間仕切り溝が延びる。

**ピット** 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は径15~24cm，深さ77~109cmで支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は径26cm，深さ40cmで出入り口に伴うピットと考えられる。 **炉** 中央部からやや北西壁寄りの位置に見られる。長径109cm，短径74cmの地床炉である。 **覆土** 3層からなる。3層は壁際に自然堆積した土層である。1層は，焼土粒子・炭化物粒子を少量含んだ暗褐色土で，人為的な堆積土層である。遺物の大半は，破片で1層中から出土している。

**遺物** 実測できた遺物は，ほとんど床面上から出土した遺物である。第146図3の甕，5の高坏，9の小形鉢は南コーナー部にある貯蔵穴のまわりの床面から出土したもので，4の台付甕，6・7の高坏は炉の北側の床面から出土している。1の小形壺は貯蔵穴の覆土下層から出土している。体下半部に小さな穿孔がある2の小形壺は，1層中から出土しており，覆土中へ混入したやや古い時期の遺物と考えられる。そのほかに壁際から炭化材が出土している。

**所見** 本跡は，炭化材の出土から，焼失住居跡と考えられ，床面出土の遺物から古墳時代前期後半の住居跡と考えられる。





第146図 第19号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第146図 5	高土師器 坏器	A [14.4] B 9.6 D 9.0	坏部は内彎気味に開き、脚部はラッパ状に開く。脚部3か所穿孔。	外面及び坏部内面ヘラ磨き。	長石・スコリア 明黄褐色 普通	P143 80% 床面
6	高土師器 坏器	B (8.1) D 12.0 E 5.5	坏部破損。脚部は「ハ」の字状に開く。脚部3か所穿孔。	脚部外面ハケ目調整後、ナデ状の磨き。	長石・石英の砂粒多 橙色 普通	P144 70% 床面
7	高土師器 坏器	B (6.6) D 13.8	坏部破損。脚部はラッパ状に開く。脚部3か所穿孔。	脚部外面ヘラ磨き。	長石・石英の微砂粒 橙色 普通	P145 50% 覆土
8	器台 土師器	B (5.3) D [9.0]	脚部破片。脚部はラッパ状に開く。脚部3か所穿孔。	脚部外面ヘラ磨き。	長石・石英の微砂粒 橙色 普通	P147 20% 覆土
9	鉢 土師器	A 10.2 B 5.3 C 3.3	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ハケ目調整。	微砂粒・スコリア にぶい黄褐色 普通	P148 100% 床面

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	土玉	2.8	3.0	—	24.6	P <sub>2</sub> 近くの床面	DP85 孔径0.8 100%
11	土玉	(3.1)	3.6	—	(35.8)	P <sub>2</sub> 近くの床面	DP86 孔径0.9 80%

第21号住居跡 (第148図)

**位置** F6b<sub>4</sub>区 **重複関係** 土層観察からは第54号住居跡を掘り込んでいるようにとらえたが、床面の精査で第54号住居跡との重複部分で明瞭な床面及び炉跡が確認できなかった。

**規模と平面形** 長軸 [5.70]m, 短軸5.20mの方形。 **主軸方向** N-33°-W **壁** 壁高約14cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦であるが、軟らかく明瞭な床ではない。

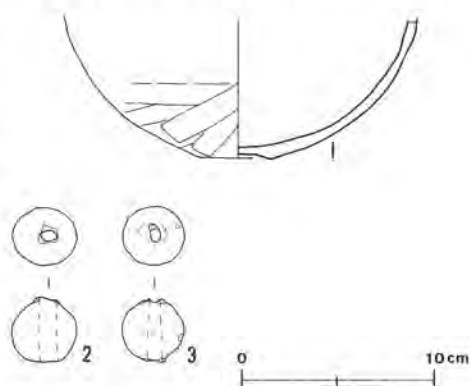


ピット 2か所。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は、径約12cm、深さ58～62cmで、いずれも支柱穴である。

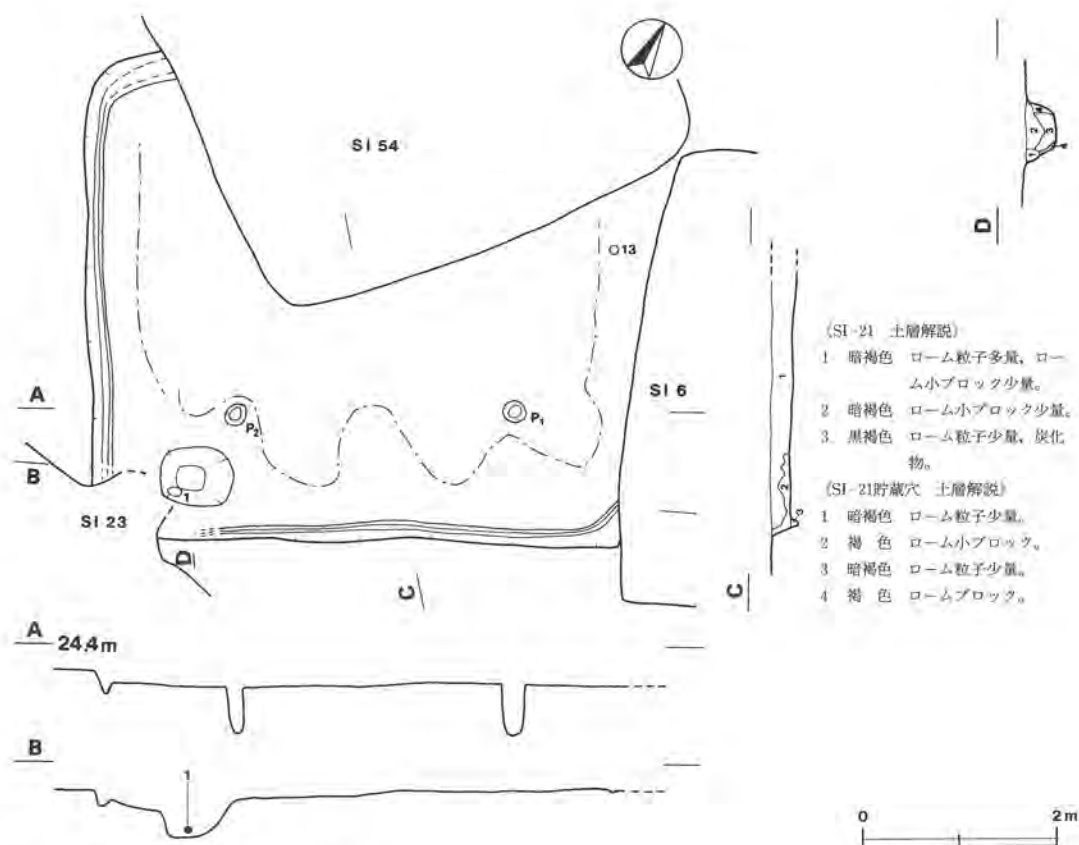
貯蔵穴 南西コーナー寄りの位置にみられ、規模は長辺78cm、短辺64cmの長方形で、深さは40cmである。覆土 2層からなる。1層が覆土の主体となっており、多量にロームブロックを含み人為的な堆積土層と考えられる。2層は壁際に堆積する土層である。

遺物 出土遺物は全体に小片で数も少ない。第147図-1の壺が貯蔵穴の中から出土している。そのほかに、炭化材が数点床面から出土している。

所見 炭化材が出土していることから焼失家屋と見られる。特に完存率の高い遺物が出土していないことから失火とは考えられない。本跡は、出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。



第147図 第21号住居跡出土遺物実測図



第148図 第21号住居跡実測図

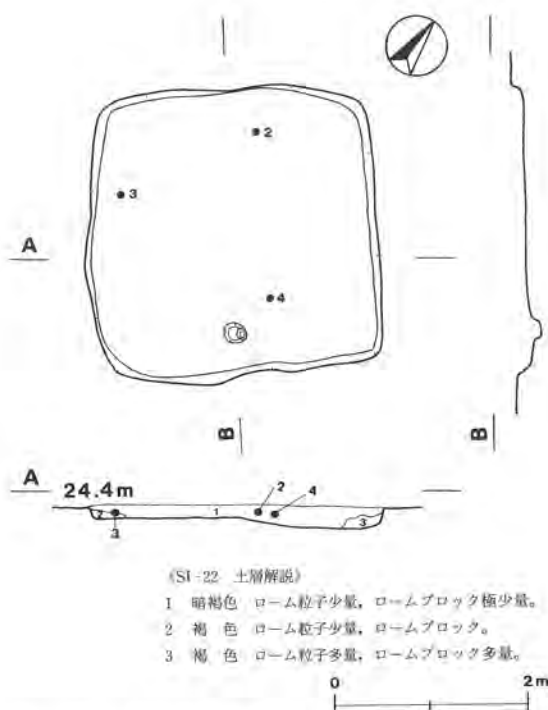
### 第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第147図 1	壺 土師器	B (7.5) C 3.9	体下半部破片。平底で、体部は球状である。	体下半部横位の強いヘラナデ。	長石主体の微砂粒 明黄褐色 普通	P155 20% 床面

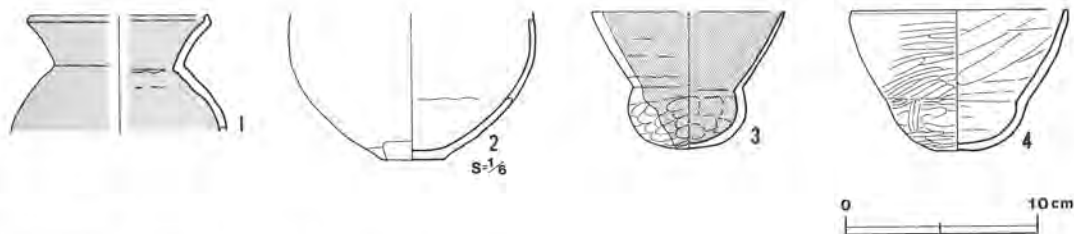
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	土玉	3.5	3.4	—	31.2	西部覆土	DP144 孔径0.9 100%
3	土玉	3.4	3.3	—	32.0	東部床面	DP145 孔径0.6~0.8 100%

### 第22号住居跡 (第149図)

**位置** F6b<sub>2</sub>区 **規模と平面形** 長軸3.16m, 短軸3.00mの方形。**主軸方向** N-46°-W  
**床** 床の遺存状態が悪い。**ピット** 1か所で、径22cm, 深さ10cmである。**覆土** 3層からなる。2・3層は壁際に堆積したローム土層, 1層が覆土の主体となる暗褐色土である。  
**遺物** 第150図-1の小形壺, 2の甕, 3・4の埴は覆土1層から出土している。  
**所見** 床の状態が悪かったこともあり, 炉と支柱穴は確認されなかったが, 通常の住居跡と同様に一定の深さのある方形の竪穴であり, 住居跡と考えられる。出土遺物から, 古墳時代前期後葉頃の住居跡と考えられる。



第149図 第22号住居跡実測図



第150図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

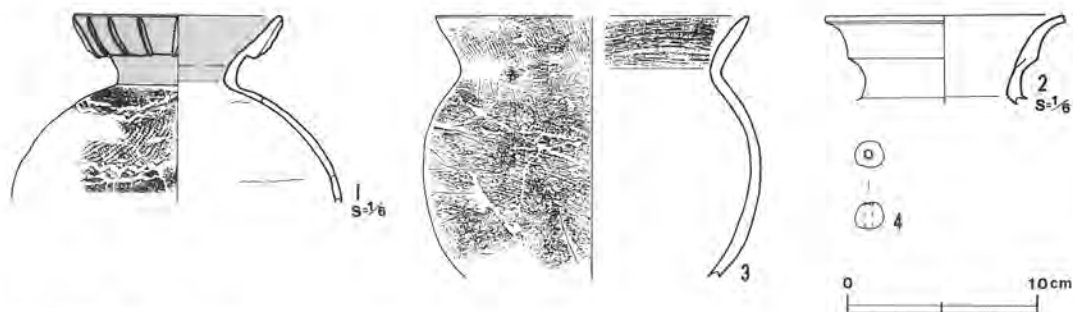
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第150図 1	壺 土師器	A [9.8] B (6.3)	胴上半部破片。球形で、口縁部は外反気味に立ち上がる。口縁部は断面三角形で上方に尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び口縁部内・外面赤彩。	長石・石英微粒子少量、にぶい黄橙色 普通	P156 20% 覆土(1層)
2	壺 土師器	B (11.8) C 4.8	口縁部破損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、球形である。	体部外面ハケ目調整。	石英微砂粒 にぶい黄橙色 普通	P157 20% 覆土(1層)
3	埴 土師器	A [10.2] B 7.4	丸底。球形で、頸部はくびれ、口縁部は外傾する。	体部外面斜位のヘラナデ。	長石・石英の微砂粒 にぶい黄橙色 普通	P158 60% 覆土(1層) 煤
4	埴 土師器	A 11.3 B 7.6	平底。球形で、頸部はくびれ、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面横位主体のヘラ磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P159 70% 覆土(1層)

第26号住居跡(第152図)

位置 E5j区 重複関係 第1号井戸と第27号住居跡に掘り込まれている。規模と平面形 長軸5.56m, 短軸5.32mの方形。主軸方向 N-42°-W 壁 壁高約8cmである。床 耕作等の攪乱が及んでおり、遺存状態が悪い。ピット 6か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径27~34cm, 深さ42~52cmで支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は、径26cm, 深さ20cm, P<sub>6</sub>は径32cm, 深さ28cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。貯蔵穴 南コーナーにみられ、規模は長辺86cm, 短辺77cmの長方形で、深さ59cmである。覆土 1層からなる。

遺物 実測遺物は、住居跡中央部から南東コーナー部にかけて、破片で出土したものである。

所見 出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。



第151図 第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第151図 1	壺 土師器	A 16.6 B (15.0)	口縁部破片。複合口縁で、外反する。口縁部外面に棒状附文を等間隔に6本附す。	肩部には、斜縄文の上下を二条のS字状結節文で区画する文様帯を持つ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P174 15% 中央部床面 赤彩



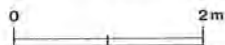
(SI-27 甑土層解説)

- 1 暗褐色 粘土・砂粒多量。
- 2 暗褐色 砂粒中量, 焼土小ブロック少量。
- 3 暗褐色 砂粒中量, 焼土小ブロック少量, 粘土少量。
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量。



(SI-26 土層解説)

- 1 暗褐色 ローム粒子中量。
- (SI-27 土層解説)
- 1 暗褐色 ローム小・中ブロック少量。
  - 2 暗褐色 ローム小・中ブロック中量。



第152図 第26・27号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第151図 2	壺 土師器	A 19.0 B (7.2)	口縁部破片。口縁部は、頸部との境に稜を持ち、端部で強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P175 10% 南東壁寄り床面
3	甕 土師器	A (16.6) B (14.2)	底部破損。球形状で、頸部はくびれ、口縁部は外反する。	体部外面横～斜位のハケ目調整。 口縁部外面縦位, 内面横位のハケ目調整。	長石・石英微砂粒多 橙色 普通	P176 15% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	土玉	1.4	1.6	—	2.9	DP149 孔径0.4	95%

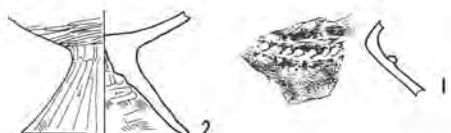
第28号住居跡 (第154図)

位置 F5a<sub>9</sub>区 規模と平面形 長軸4.48m, 短軸3.96mの長方形。 主軸方向 N-60°-W

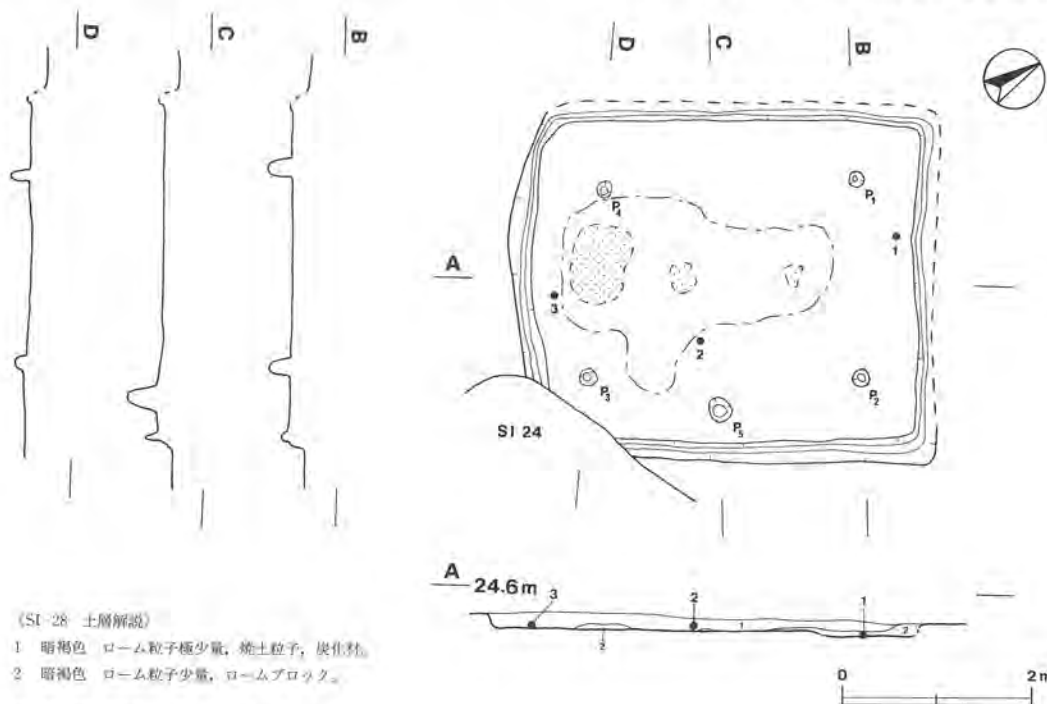
壁 壁高約16cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。 床 平坦で、踏み固められている。 ピット 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は径が約17cm前後で、深さはP<sub>3</sub>が17cm, P<sub>2</sub>が30cm, P<sub>4</sub>が34cm, P<sub>1</sub>が54cmである。P<sub>5</sub>は径26cm, 深さ70cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。 炉 南西壁に近いP<sub>3</sub>とP<sub>4</sub>の中間の位置に見られる。長径85cm, 短径60cmの地床炉である。 覆土 3層からなる。1層は暗褐色土で覆土の主体であり、2層は床上を薄く覆う土層である。3層は壁際に堆積した土層である。

遺物 実測できた遺物の中で、第153図-1の壺頸部片は2層から、2の高坏脚部片は1層から出土している。

所見 覆土中の出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。



第153図 第28号住居跡出土遺物実測図



(SI-28 土層解説)

- 1 暗褐色 ローム粒子極少量、焼土粒子、炭化粒。
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック。

第154図 第28号住居跡実測図

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第153図 1	壺 土師器	B 3.8	頸部破片。頸部直下に突帯を巡らす。口縁部は外反して立ち上がる。	外面ハケ調整後、ナデ。	白色微粒子にぶい棕色普通	P178 5% 覆土(2層)床面付近

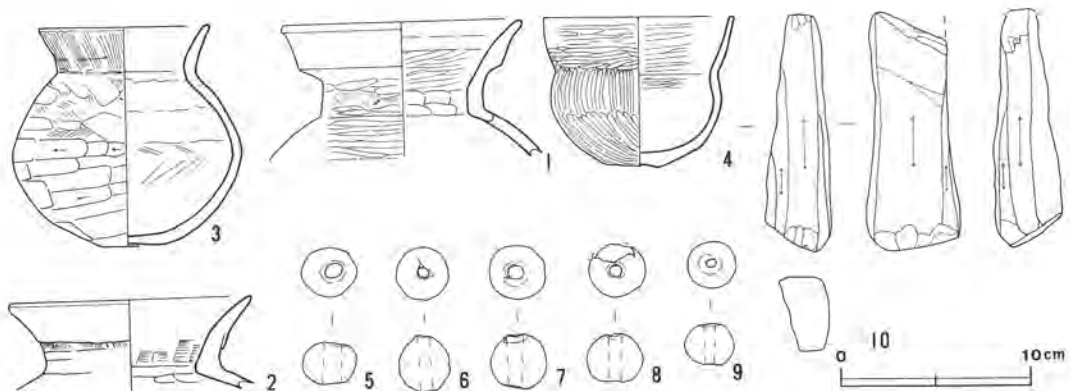
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第153図 2	高坏 土師器	B (6.3) D [8.8]	脚部破片。脚部は外傾して開く。	脚部外面縦位のヘラ削り。坏部外面横位のヘラ磨き。	長石微粒子多量に ぶい黄橙色 普通	P179 40% 覆土(1層)
3	ミチョア土器 土師器	A 4.0 B 2.5	丸底。体部は内彎気味に立ち上がる。	内・外面指ナデ。外面にX字状の瓦痕文。	目立つ含有物なし にぶい黄橙色 普通	P180 100% 床面付近

### 第30A号住居跡(第156図)

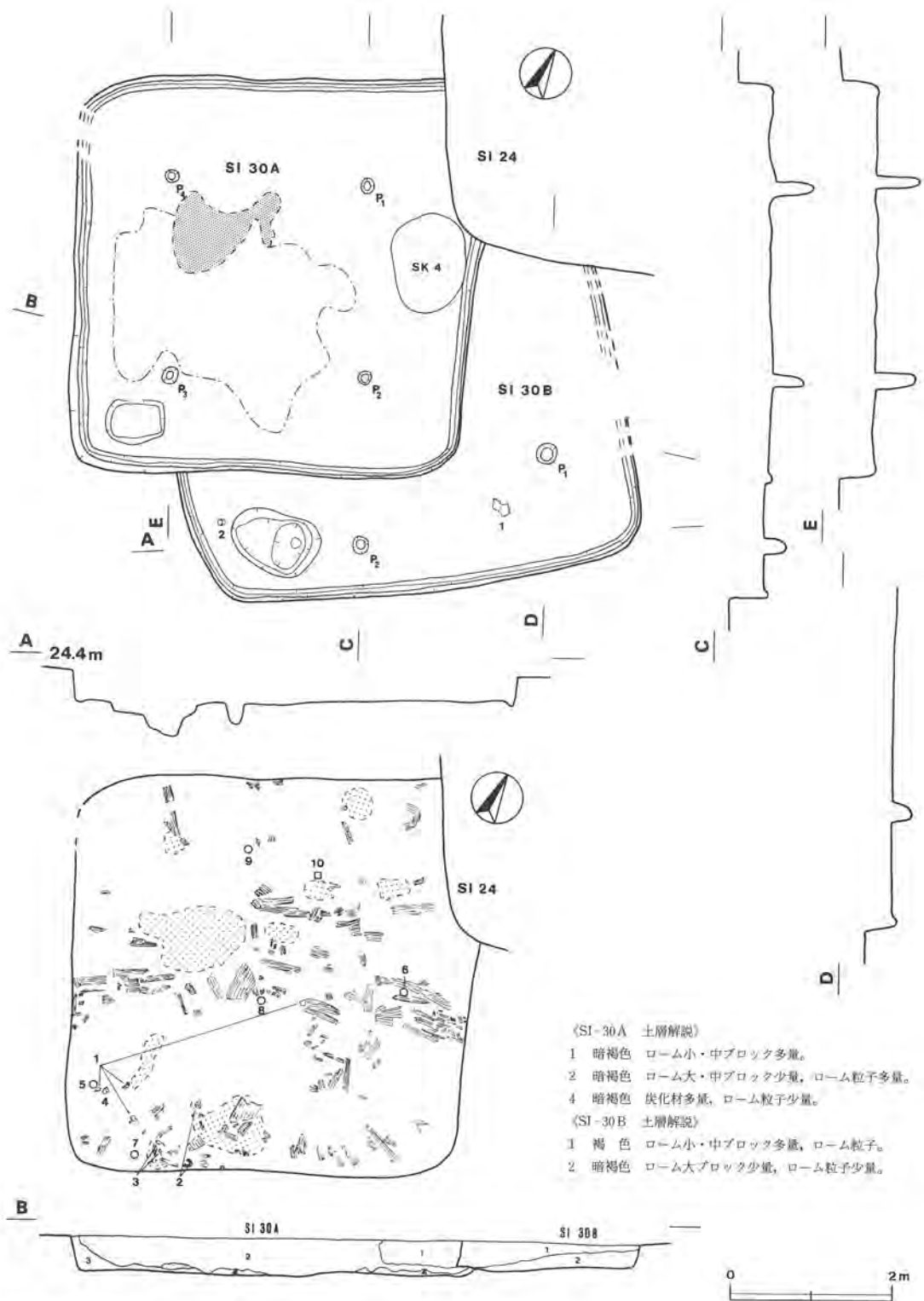
**位置** F5c<sub>8</sub>区 **重複関係** 第30B号住居跡を掘り込んで構築している。**規模と平面形** 長軸4.88m, 短軸4.82mの方形。**主軸方向** N-25°-W **壁** 壁高約42cmである。**床** 平坦で、踏み固められている。**ピット** 4か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径15~21cm, 深さ44~63cmでいずれも主柱穴と考えられる。**炉** 中央部からやや西寄りの位置に見られる。長径122cm, 短径50cmの地床炉である。**貯蔵穴** 南コーナーにみられ、規模は長辺70cm, 短辺50cmの長方形で、深さ12cmである。**覆土** 4層からなる。2層が覆土の主体となっている。1層は攪乱土層の可能性があるのである。3層は壁際のローム主体の自然堆積土層で、4層は炭化材を大量に含み、床上に薄く堆積した土層である。遺物は2層よりも下のレベルから出土している。

**遺物** 第155図1・2の壺, 3の甕は4層から出土している。4の罎は貯蔵穴北側の床面から出土している。そのほかに、炭化材が大量に出土している。

**所見** 大量に出土している炭化材のなかで、貯蔵穴の東側の南壁に近い位置から出土したものは、板状であり、壁際のは垂木材、住居跡中央部からは萱材が出土している。出土遺物の大半は、4層堆積後のものであり、住居廃絶後、しばらくしてから上屋が焼失し、その後遺物の投棄や流れ込みがあったものと思われる。出土遺物から古墳時代前期後葉の住居跡と考えられる。



第155図 第30A号住居跡出土遺物実測図



〈SI-30A 土層解説〉

- 1 暗褐色 ローム小・中ブロック多量。
- 2 暗褐色 ローム大・中ブロック少量，ローム粒子多量。
- 4 暗褐色 炭化材多量，ローム粒子少量。

〈SI-30B 土層解説〉

- 1 褐色 ローム小・中ブロック多量，ローム粒子。
- 2 暗褐色 ローム大ブロック少量，ローム粒子少量。

第156図 第30A・30B号住居跡実測図

### 第30A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第155図 1	壺 土師器	A 16.6 B (15.0)	口縁部破片。複合口縁。	体部外面から頸部外面、及び口縁部内面へラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。	微砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P181 20% 覆土(4層)
2	壺 土師器	A 12.8 B (4.9)	口縁部破片。複合口縁。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英微粒子 灰黄褐色 普通	P182 15% 覆土(4層)
3	小形甕 土師器	A 9.1 B 11.8 C 3.4	体部は球形状で、口縁部は外反する。	体部外面斜位のハケ目調整後、横位のヘラナデ。	長石・石英微粒子多量 にぶい黄褐色 普通	P183 80% 覆土(4層)
4	埴 土師器	A 10.0 B 8.1 C 2.7	平底。球形状で、頸部はくびれ、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き。口縁部外面横位のヘラ磨き。	長石・石英の微粒子 浅黄色 普通	P184 80% 床面

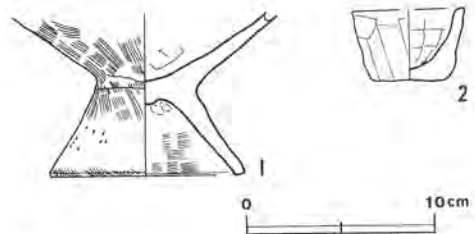
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	土玉	2.3	2.9	—	16.4	床面	DP152 孔径0.9~1.0 100%
6	土玉	3.1	2.7	—	21.3	覆土	DP153 孔径0.6 100%
7	土玉	3.0	2.9	—	23.1	覆土	DP154 孔径0.7~0.9 100%
8	土玉	2.6	3.0	—	18.5	覆土	DP155 孔径0.6 90%
9	土玉	2.3	2.6	—	13.8	覆土	DP156 孔径0.5 100%
10	砥石	(12.7)	4.9	3.5	231.4	覆土	Q9 砂岩

### 第30B号住居跡(第156図)

**位置** F5c<sub>9</sub>区 **重複関係** 第30A号住居跡に掘り込まれている。 **規模と平面形** 長軸5.54m、短軸(4.20)mの方形。 **主軸方向** N-35°-W **壁** 壁高約22~30cmである。 **床** 平坦で、踏み固められている。 **ピット** 4か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径16~22cm、深さ44~63cmでいずれも支柱穴と考えられる。 **貯蔵穴** 南コーナーにみられ、規模は長辺110cm、短辺76cm、深さ45cmの長方形である。 **覆土** 2層からなる。1層はロームの小・中ブロックを多量に含み、人為的な堆積である。2層は暗褐色土層で、壁際で厚さ20cm、壁から離れるに従って薄くなる。

**遺物** 第157図-1の台付甕脚台部は1層から、2のミニチュア土器は2層から出土している。遺物の出土量は比較的少ない。

**所見** 重複関係と出土遺物から、古墳時代前期後葉以前の住居跡と考えられる。



第157図 第30B号住居跡出土遺物実測図



### 第30B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157図 1	台付壺 土師器	B (8.7) D 10.2 E 4.6	脚部破片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部外面ハケ目調整後、強いナズ。胴下端部縦位のハケ目調整。	雲母・石英砂礫・長石多量、検色普通	P185 10% 覆土(1層)
2	ミチユア土壺 土師器	A (6.0) B 3.8	平底。坏部は外傾して立ち上がる。	体内内・外面ヘラ削り。	長石・石英微砂粒多 検色普通	P186 50% 覆土(2層)

### 第39号住居跡 (第159図)

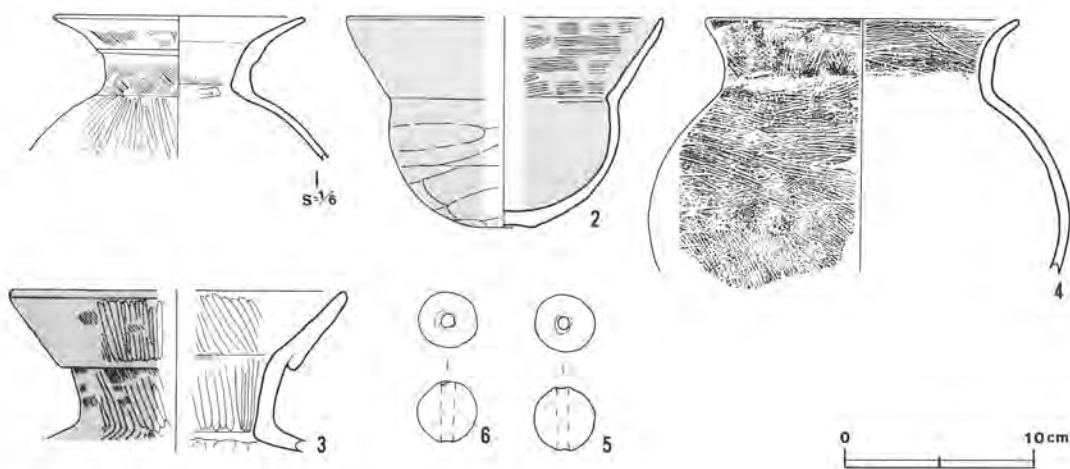
**位置** F5c<sub>3</sub>区 **規模と平面形** 長軸7.70m, 短軸7.40mの方形。 **主軸方向** N-33°-W

**壁** 壁高約22~30cmである。 **床** 平坦で、踏み固められている。南壁中央からP<sub>5</sub>に向かって幅約8cm, 深さ約10cmの間仕切り溝がある。 **ピット** 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>3</sub>は、径15~22cm, 深さ57~62cmでいずれも支柱穴と考えられる。P<sub>4</sub>は、径23cm, 深さ55cmで出入り口施設に関する柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は間仕切り溝の先端に位置しており、径32cm, 深さ15cmである。

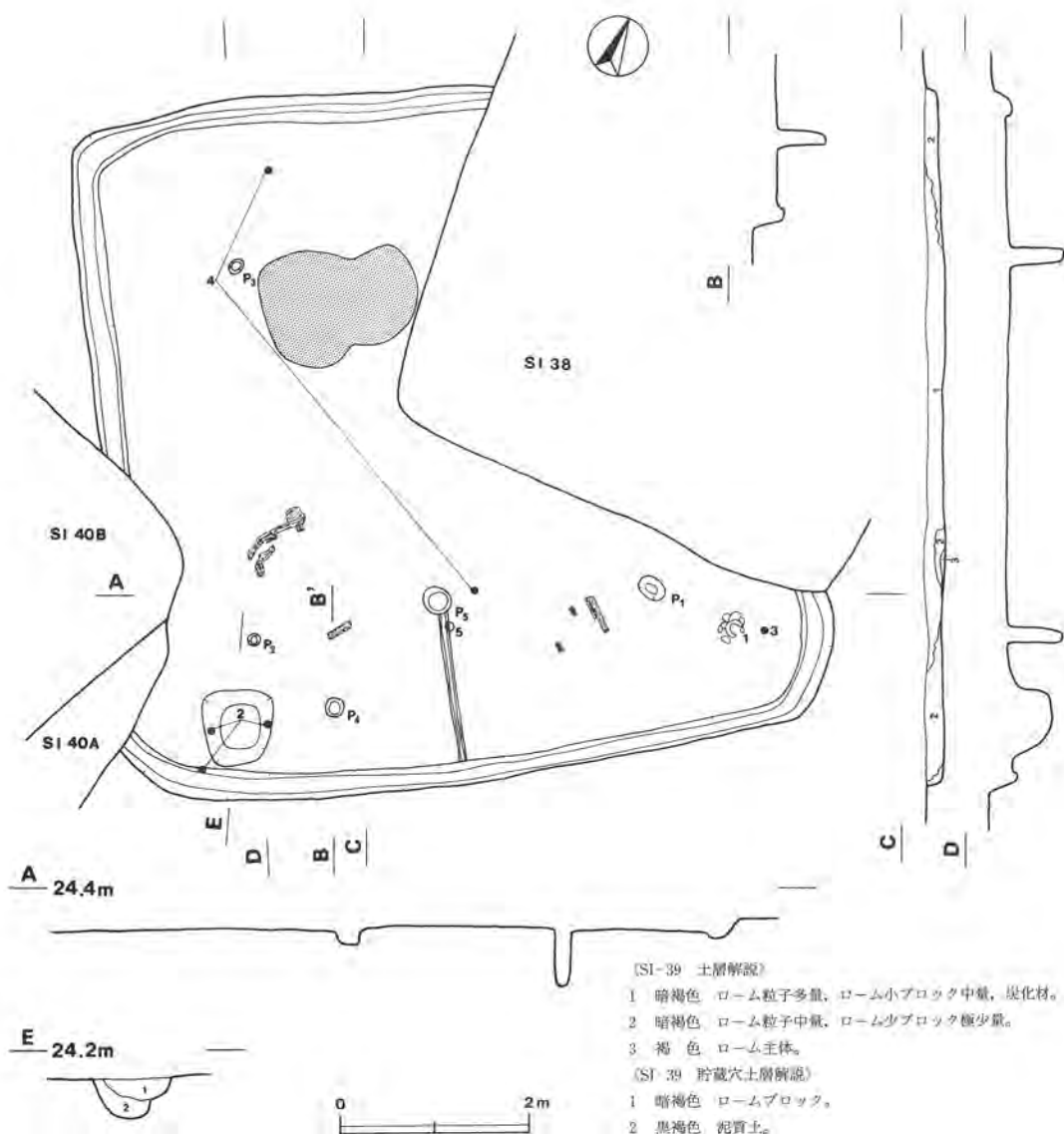
**貯蔵穴** 西南コーナーにみられ、規模は長辺70cm, 短辺65cm, 深さ42cmの長方形である。覆土は2層からなり、下層が自然堆積の泥質土, 上層がロームブロック混じりの土層である。 **炉** 中央からP<sub>3</sub>寄りの位置に見られる。長径160cm, 短径124cmの地床炉である。 **覆土** 2層からなる。2層は壁際の自然堆積土層, 1層は炭化材を含んだ暗褐色土層である。

**遺物** 第158図1・3の壺口縁部は南東コーナー付近の床面から出土している。2の鉢は貯蔵穴覆土から出土している。そのほかに炭化材が床面から出土している。

**所見** 大形の住居で比較的大きな炉を持ち焼失している。出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。



第158図 第39号住居跡出土遺物実測図



第159図 第39号住居跡実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第158図 1	壺 土師器	A 19.8 B (11.5)	口縁部破片。複合口縁で、外反して開く。	口縁部外面斜位のハケ目調整。胴部外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英にふい黄橙色普通	P215 30% 床面
2	鉢 土師器	A [16.8] B 11.2 C 3.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾して立ち上がる。	内・外面ハケ目調整後ナデ。全面赤彩。	石英・スコリア浅黄橙色普通	P214 50% 貯蔵穴覆土
3	壺 土師器	A [17.9] B (8.7)	口縁部破片。複合口縁で、口縁部は外傾して開く。	口縁部内・外面ハケ目調整後、斜位のヘラ磨き。	長石主体の微粒子淡黄色普通	P216 10% 床面 赤彩

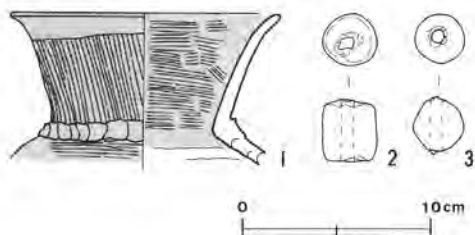
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第158図 4	甕 土師器	A 16.5 B (13.5)	体上半部破片。体部最大径を中位に持つ。口縁部はほぼ垂直に立ち上がり口唇部で外反して開く。	体上半部外面横位、口縁部及び体下半部斜位のハケ目調整。	長石・石英砂粒少量、微砂粒多量、にぶい橙色、普通	P217 40% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
5	土玉	3.4	3.2	—	29.2	床面	DP168 孔径0.6	100%
6	土玉	3.3	3.1	—	26.1	覆土	DP169 孔径0.6~0.7	95%

### 第51B号住居跡 (第161図)

**位置** F4c8区 **重複関係** 第51A号住居跡を掘り込んでいる。**規模と平面形** 長軸5.60m, 短軸5.36mの方形。**主軸方向** N-65°-W **壁** 壁高約12~22cmである。**床** 平坦で、踏み固められている。**ピット** 7か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径が20~34cmで、P<sub>1</sub>~P<sub>3</sub>は深さ65~67cmあり、P<sub>4</sub>は深さ36cmである。P<sub>6</sub>は径32cm, 深さ28cm, P<sub>7</sub>は径30cm, 深さ64cmである。P<sub>5</sub>は径24cm, 深さ16cmで出入り口施設の梯子受けのための柱穴と考えられる。柱穴の中でP<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>については、配置から支柱穴と考えた。P<sub>6</sub>とP<sub>7</sub>については、P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>と対称配置になっており、建物の建て替え前の古い柱穴の可能性が考えられる。**炉** 中央部からP<sub>4</sub>寄りの位置に見られる。規模は長径92cm, 短径82cmの地床炉である。**覆土** 1層で、ロームブロックを少量含む暗褐色土層である。土器片等の遺物を含んでいる。

**遺物** 第160図1の壺の口縁部は覆土1層から出土している。そのほかに写真図版PL88の赤彩の小形壺, 口縁部の幅広の甕等の破片が覆土から出土している。



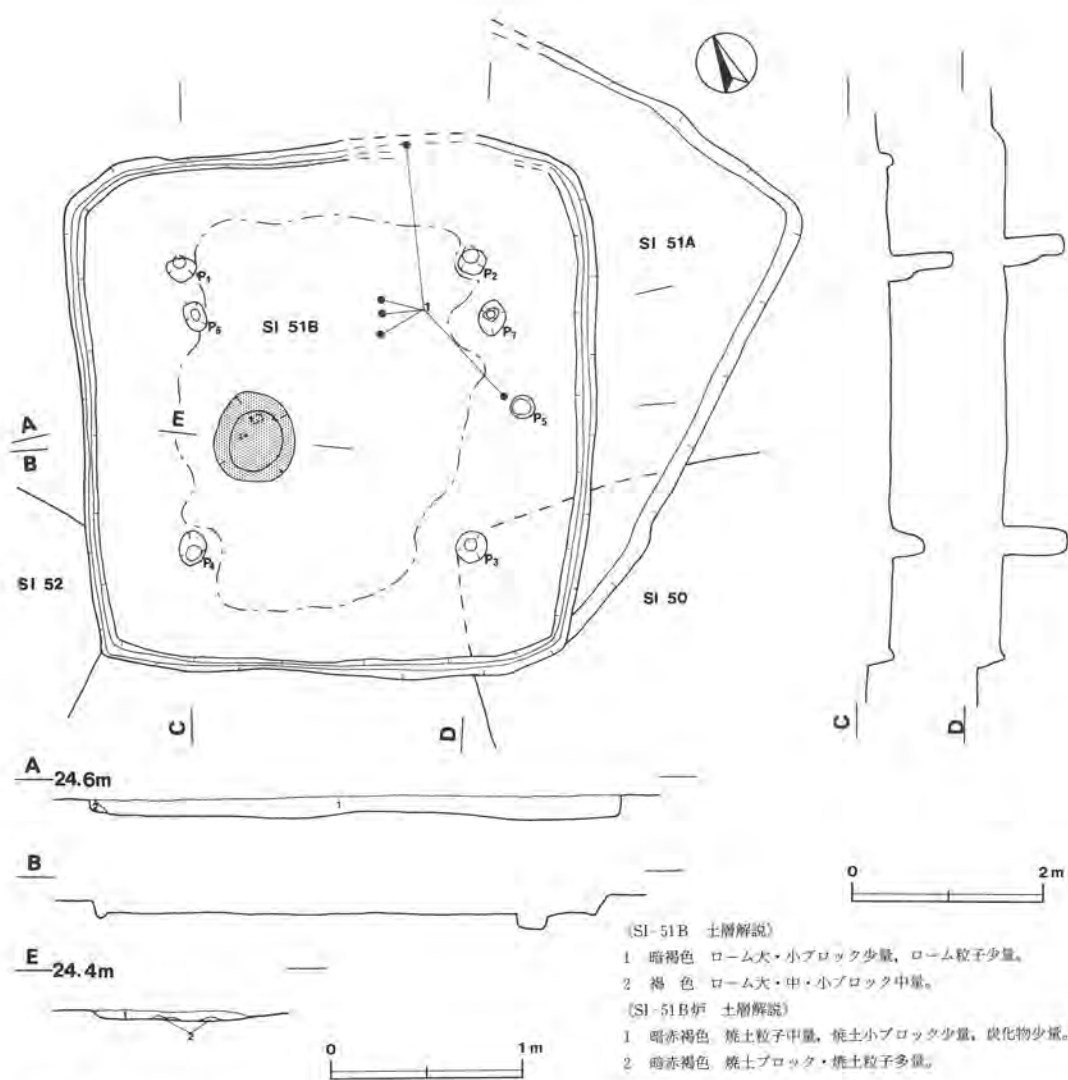
**所見** 覆土中の出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。

第160図 第51B号住居跡出土遺物実測図

### 第51B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第160図 1	壺 土師器	A 14.2 B (8.3)	口縁部破片。口縁部はわずかに外半して開く。	口縁部内・外面縦位の荒いハケ目調整, 口唇部付近横ナデ。頸部粘土紐貼り付け。	長石・石英微砂粒にぶい橙色普通	P246 20% 覆土(1層) 赤彩

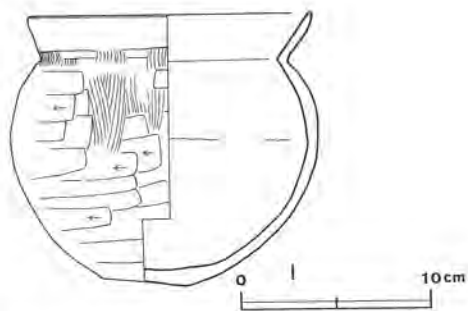
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
2	土玉	2.3	2.9	—	31.2	覆土	DP181 孔径0.7~0.8	100%
3	土玉	3.0	2.7	—	16.0	覆土	DP182 孔径0.7	100%



第161図 第51A・51B号住居跡実測図

第52号住居跡 (第163図)

位置 F5c<sub>6</sub>区 規模と平面形 長軸5.30m,短軸(4.50)mの長方形。主軸方向 N-40°-W 壁 壁高は南壁側で約5cm残っていた。床 平坦で、踏み固められている。ピット 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径約28cm,深さ30~40cmでいずれも支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は、径17cm,深さ56cmで出入り口施設に関係する柱穴と考えられる。炉 中央部からややP<sub>4</sub>寄りの位置に見られる。長径116cm,短径89cmの

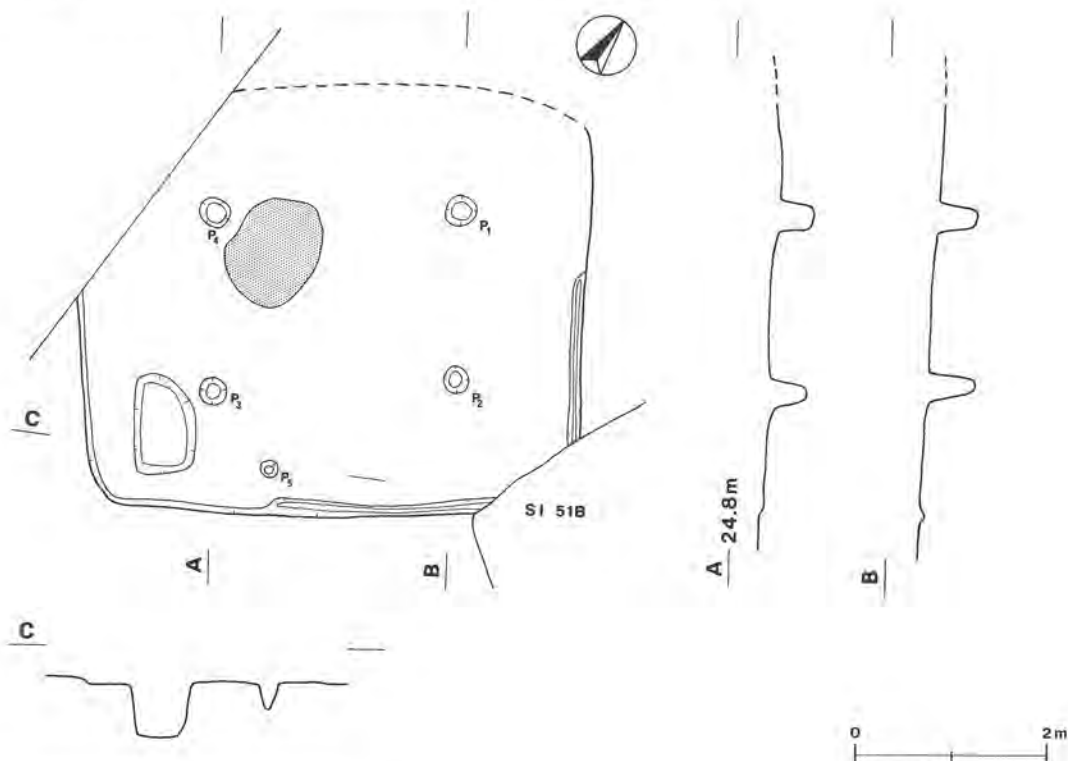


第162図 第52号住居跡出土遺物実測図

地床炉である。貯蔵穴 南東コーナー部にみられ、規模は長辺132cm、短辺89cmの長方形で、深さ52cmである。覆土 薄く1層が残っていた。

遺物 第162図-1の甕は、南東壁近くの覆土から出土している。

所見 出土遺物から、古墳時代前期後葉頃の住居跡と考えられる。



第163図 第52号住居跡実測図

#### 第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第162図 1	甕 土師器	A 15.0 B 14.6 C 4.5	平底。球形状で、頸部はくびれ、口縁部は外傾する。	体部外面ハケ目調整後横位のヘラ削り。	長石・石英砂粒多量 にふい黄橙色 普通	P247 60% 覆土

#### 第54号住居跡（第137・138図）

位置 F6a区 重複関係 第21号住居跡と重複し、第12号住居跡とは主軸方向を同じくし壁面を重ね合わせるように重複している。土層断面観察で、第12号住居跡が本跡の覆土を切っていること、本跡覆土にみられる埋め戻しの跡、接合遺物の破片の分布等から本跡が最も古い住居跡と考えられる。規模と平面形 長軸5.38m、短軸4.97mの方形。主軸方向 N-56°-W 壁 壁高約22~30cmである。床 平坦で、踏み固められている。4か所の支柱穴を結ぶ線の外側が、

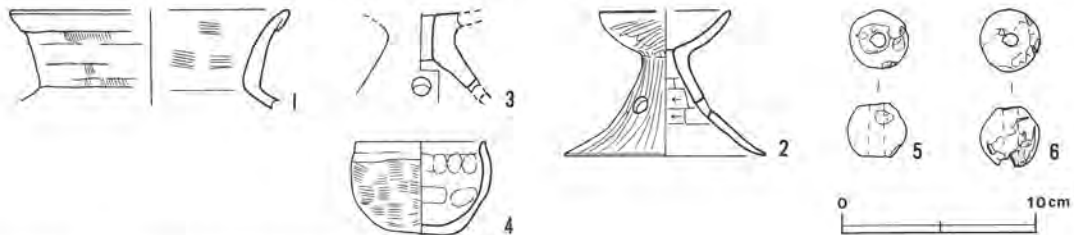
内側に比べ約4cm程高くなっている。P<sub>3</sub>と貯蔵穴の間に間仕切り溝があり、規模は掘り方幅14cm、長さ110cmである。間仕切り溝と貯蔵穴の間には高さ2～3cm、幅18cm、長さ100cm程の細長い高まり部分がある。ピット 5か所。P<sub>1</sub>～P<sub>4</sub>は、径24～27cm、深さ66～84cmでいずれも支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は、径26cm、深さ42cmで出入り口施設に関係する柱穴と考えられる。

炉 中央部からややP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>寄りの位置に見られる。長径76cm、短径52cmの地床炉である。

覆土 2層からなる。ロームブロックを多量に含む暗褐色土層が主体となっていることと、2層の上層にロームブロックが水平に堆積していることなどから人為堆積土層と考えられる。

遺物 第164図-1の壺、3の器台と4のミニチュア土器は貯蔵穴付近の床面から、2の小形器台は北東コーナー付近の床面から出土している。

所見 覆土土層断面にみられたロームブロックの水平堆積は、第21号住居跡の床面の可能性を考えて調査を行ったが、レベルに差があることと本跡の貯蔵穴上方の位置でロームブロックの堆積が見られないことから、本跡の埋め戻しによる堆積土層と考えた。第12号住居跡と主軸が同方向で2面の壁を共有するように重複している点については、偶然の結果と考えるよりは第12号住居跡が本跡の廃絶直後に、本跡を埋め戻しながら構築されたと考えられることも可能である。本跡は、出土遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられる。



第164図 第54号住居跡出土遺物実測図

#### 第54号住居跡出土遺物観察表

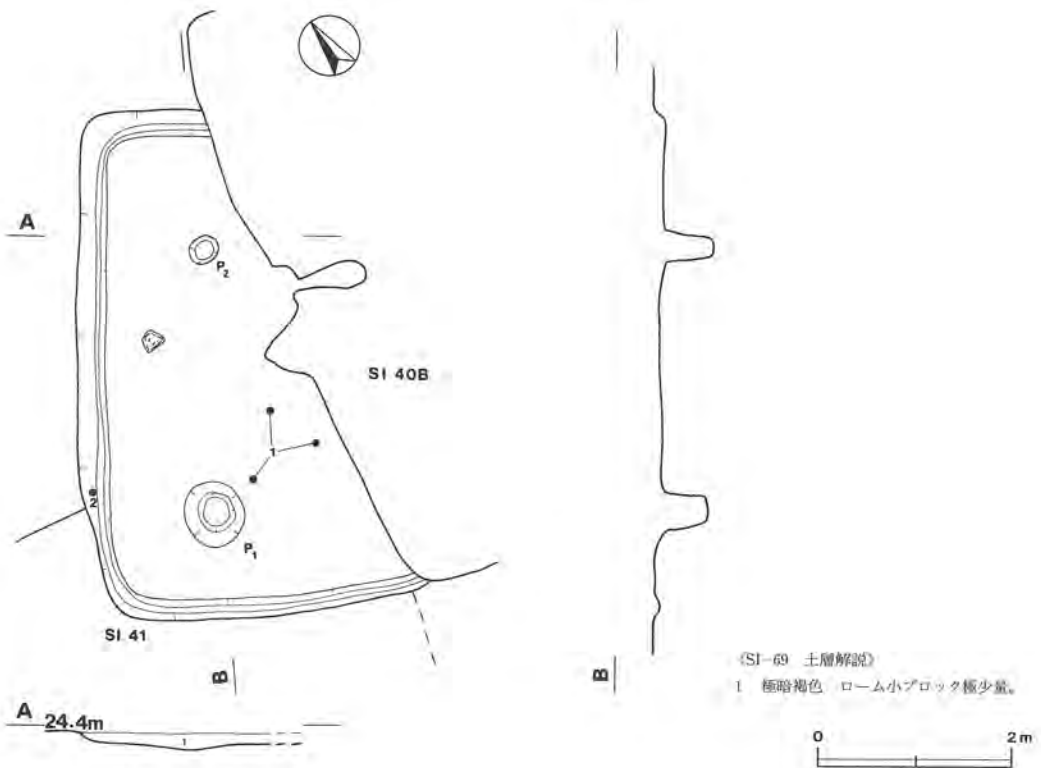
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第164図 1	壺 土師器	A [14.9] B (5.2)	口縁部破片。口縁部は外反して開く。	口縁部ハケ目調整後、ナデ。	長石・微砂粒 橙色 普通	P248 10% 床面
2	器台 土師器	A [7.0] B 7.7 D 10.8	脚部は「ハ」の字状に開き、器受部は内彎気味に立ち上がる。	脚部外面及び器受部内・外面へラ磨き。	長石・石英微砂粒 にふい黄橙色 普通	P249 70% 床面
3	器台 土師器	B (4.5)	口縁部及び脚部破損。脚部は「ハ」の字状に開く。	摩耗のため調整痕不明。	長石・石英微砂粒 極少量 にふい黄橙色 普通	P250 20% 床面
4	ミニチュア土器 土師器	A /6.8 B 5.1 C 3.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	体部外面ハケ目調整後、口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英微砂粒 浅黄橙色 普通	P251 70% 床面

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	土玉	2.9	3.0	—	25.3	床面	DP185 孔径0.8~0.9 80%
6	土玉	3.2	3.2	—	24.7	床面	DP186 孔径0.7~0.8 75%

### 第69号住居跡 (第165図)

位置 F4c<sub>0</sub>区 重複関係 第40号住居跡に掘り込まれ、東半分は失われている。

規模と平面形 長軸5.30m、短軸(5.12)mの長方形。主軸方向 N-51°-W 壁 壁高約10cmである。床 平坦である。ピット 2か所。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は、径27~30cm、深さ52~60cmでいずれも主柱穴と考えられる。覆土 1層で、極めて暗い褐色土層である。



第165図 第69号住居跡実測図

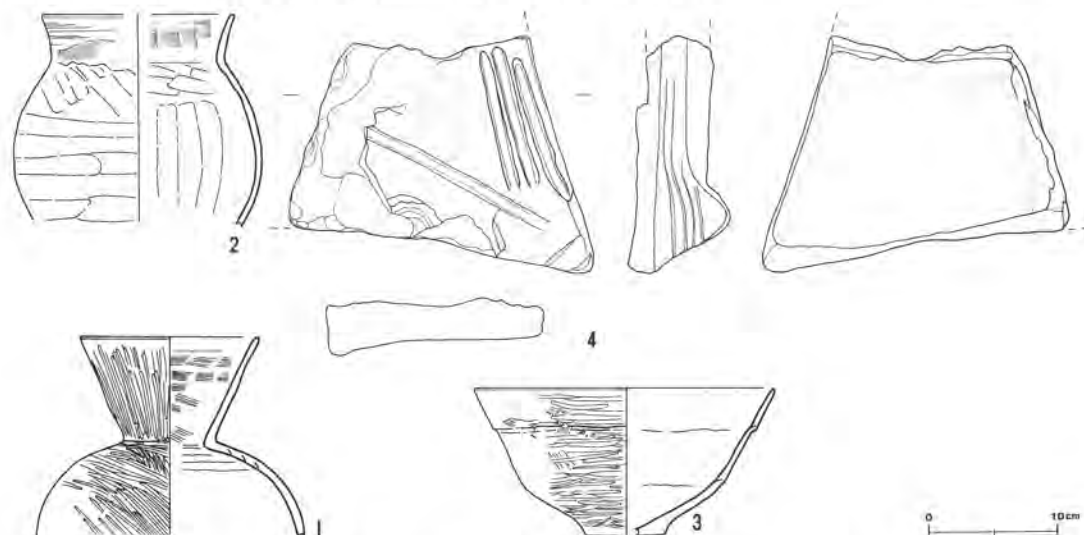
### 第69号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第166図 1	直口壺 土師器	A 14.3 B (16.2)	体下半部破損。球形状で、口縁部は外傾して開く。	体部外面斜位のヘラ磨き。口縁部外面縦位のヘラ磨き。口縁部内面横位のハケ目調整。	石英・長石・雲母少量、にぶい橙色普通	P279 30% 床面付近
2	甕 土師器	A [15.4] B (16.4)	口縁部から体上半部破片。体部中位に最大径を持つ。頸部でくびれ口縁部は外傾する。	頸部外面縦位のハケ目調整。体部内・外面ナデ。	石英・スコリア 橙色普通	P278 30% 覆土(1層)



遺物 第166図-1の大形埴と3のやや大形の鉢は床面付近から、2の甕は覆土1層から出土している。4の扁平な割り石を使った砥石は、P<sub>1</sub>とP<sub>2</sub>の間の西壁に近い床面から出土している。

所見 出土遺物から、古墳時代前期中葉頃の住居跡と考えられる。



第166図 第69号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第166図 3	鉢 土師器	A 23.8	底部破損。平底で、体部は内彎 気味に立ち上がる。薄い複合口 縁で、口縁部は外傾して開く。	体部外面ハケ目調整後、横位の へら磨き。摩耗のため内面調整 不明。	砂粒 浅黄橙色 普通	P277 50% 床面付近
		B 11.9				
		C [6.2]				

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	砥石	(19.1)	(24.1)	(8.1)	2207.9	床面	Q14 砂岩

### (3) 奈良・平安時代の住居跡

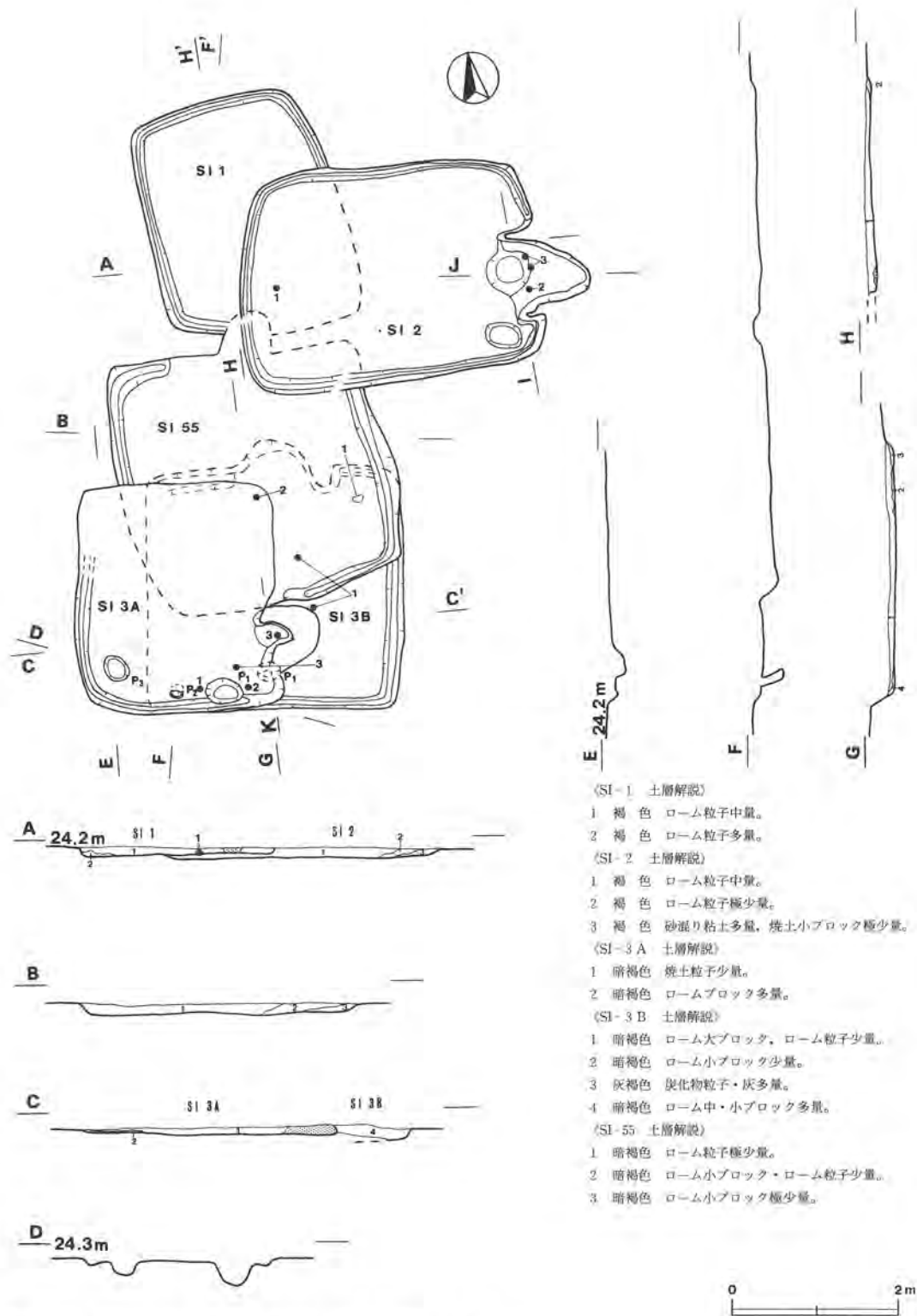
#### 第1号住居跡 (第167図)

位置 E6h<sub>6</sub>区 重複関係 第2・55号住居跡と重複関係にある。当住居跡の残り具合が悪く、掘り込み前の平面的な重複関係、土層断面上の切り合い、最終的なプラン確認においても明確な判断ができなかった。規模と平面形 長軸(3.00)m、短軸2.40m。主軸方向 N-5°-W 壁 壁高は6~8cmである。床 平坦である。覆土 2層からなる。ロームブロック粒子を含む褐色土層で、10cm弱の厚さで堆積している。

遺物 土器は、第2号住居跡との重複部において数片みられる。

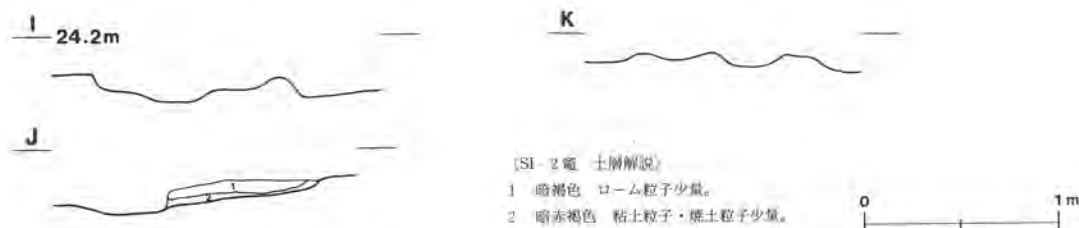
所見 ピット、竈ともに確認できなかった。竈については、土層断面中に砂混じりの粘土ブロックが見られたが、これが竈の残存部である可能性もある。この場合、東竈でも南にややよった位





第167図 第1・2・3A・3B・55号住居跡実測図(1)

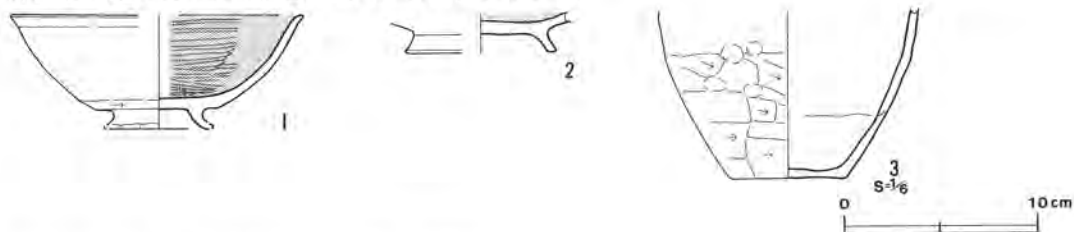
置にあることになり、方形の住居でコーナーに竈を持った住居跡であった可能性もある。最終的な平面形の確認結果を正しいと考えた場合、南北方向に長い長方形である。南壁が第55号住居跡の竈に壊されているので、本跡はもっとも古い9世紀後葉以前の遺構となり、竈がなく住居跡とする積極的な根拠にとぼしくなる。



第168図 第1・2・3A・3B・55号住居跡実測図(2)

### 第2号住居跡 (第167・168図)

**位置** E6h<sub>7</sub>区 **重複関係** 第1号住居跡と重複し、第55号住居跡の北東部を掘り込んでいる。  
**規模と平面形** 長軸3.65m, 短軸2.66mの長方形。 **主軸方向** N-98'-E **壁** 壁高約15cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦である。 **ピット** 1か所で、径38cm, 深さ12cmである。  
**覆土** 3層からなる。1層は褐色土が主体で、第1号住居跡の覆土1層とほぼ同質である。  
**遺物** 第169図-1の高台付碗は、住居跡中央北寄りの覆土1層から出土している。2の高台部片, 3の甕体部下半片は竈覆土内から出土している。



第169図 第1・2号住居跡出土遺物実測図

### 第1・2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第169図 1	高台付碗 土師器	A [15.5] B 6.1 D 5.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面ヘラ磨き。	微砂粒多量 にふい橙色 普通	P 1 50% 覆土(3層) 内面黒色処理
2	高台付坏 土師器	B (2.1) D [8.0]	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。内面ヘラ磨き。	雲母木多量 にふい黄褐色 普通	P 3 20% 竈右袖内 内黒
3	甕 土師器	B (17.0) C 9.2	体下半部破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体下半部外面横位のヘラ削り。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P 4 25% 竈燃焼室覆土

所見 第1号住居跡との重複関係に不明な点があるが、遺構の平面形や図示した出土遺物の帰属関係は明瞭である。本跡は、出土遺物から、11世紀前葉頃の住居跡と考えられる。

### 第3 A号住居跡 (第167・168図)

位置 E6i区 重複関係 第3 B・55号住居跡と重複し、いずれの住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸(2.80)m, 短軸(2.46)mの長方形。主軸方向 N-100°-E 壁 壁高4

～8cmで、垂直に立ち上がっている。床 平坦であ

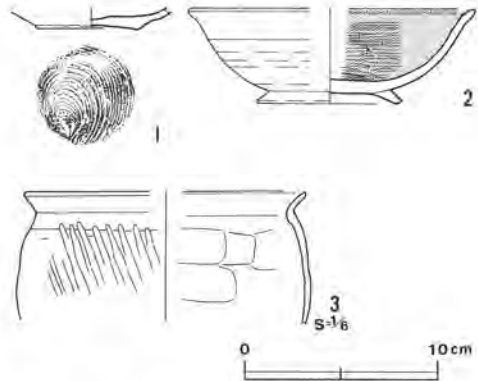
る。ピット 3か所。P<sub>1</sub>は径約30cm, 深さ30cm, P<sub>2</sub>は径約60cm, 深さ22cm, P<sub>3</sub>は径約14cm, 深さ18cm

である。竈 東壁中央部からやや南寄りの位置を、60cm程壁外へ掘り込み構築されている。規模は幅

約100cm, 長さ約90cmである。覆土 2層からなる。

遺物 ほとんどの遺物は、覆土中から出土している。第170図-2の高台付埴

土師器, 1の坏は南東コーナーの覆土から出土している。3の甕は竈覆土から出土



第170図 第3 A号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は、東竈の小形住居跡で、出土遺物から10世紀中葉頃のものと考えられる。

### 第3 A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第170図 1	坏 土師器	B (5.3)	平底。体部は外傾して開く。	底部回転糸切り。	長石・石英の微粒子に ぶい黄橙色 普通	P 5 覆土 30%
2	高台付埴 土師器	A [15.0] B 5.1 D 7.4	平底で「ハ」の字状に開く高台が 付く。体部は内傾して立ち上 がり、口唇部で外反する。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り 付け。内面ヘラ磨き。	雲母末多量・長石 微砂粒。ぶい 橙色 普通	P 6 覆土 内黒 20%
3	甕 土師器	B (17.0) C 9.2	体下半部破片。平底。体部は内 傾気味に立ち上がる。	体上半部外面斜位のナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 11 竈覆土 15%

### 第3 B号住居跡 (第167・168図)

位置 E6j区 重複関係 第55・3 A号住居跡に掘り込まれている。規模と平面形 長軸3.20m

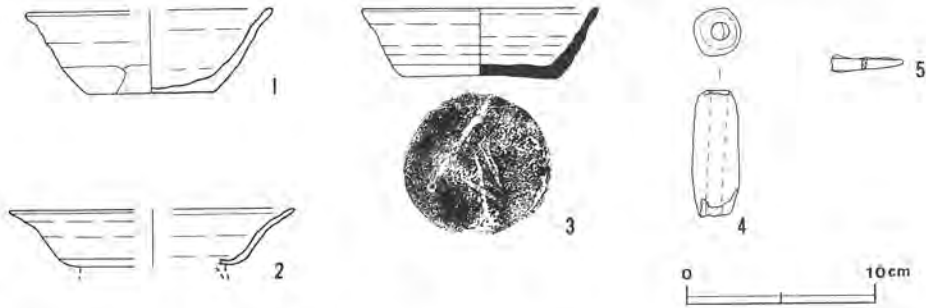
で、短軸2.80mの長方形。主軸方向 N-4°-W 壁 壁高8～30cmで、垂直に立ち上がって

いる。床 平坦で、踏み固められている。ピット 1か所で、出入り口ピットである。覆土 4

層からなる。暗褐色の1層が主体となっている。1層中に第55号住居跡の床面がつくられている。

遺物 第171図-1・2・3の坏は1層から出土している。

所見 第55号住居跡よりも古く、出土遺物から9世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



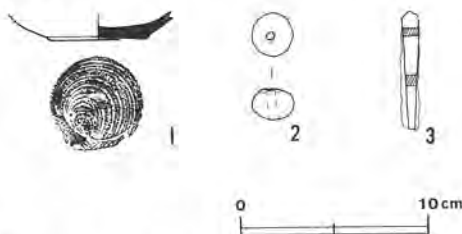
第171図 第3 B号住居跡出土遺物実測図

第3 B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図 1	坏 土師質 須恵器	A [13.0] B 4.4 D 6.6	平底。体部は外傾して開く。	底部一方向へラ削り。体部下 端 手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母多量 に ぶい黄橙色 普通	P 8 45% 覆土(1層)
2	高台付坏 土師質 須恵器	A [15.2] B 3.1 D [8.4]	平底で「ハ」の字状に開く高台 が付く。体部は内彎気味に立ち 上がり、口唇部で外反する。	高台貼り付け痕あり。体部内・ 外面横ナテ。	雲母多量 に ぶい黄橙色 普通	P 9 15% 覆土(1層)
3	坏 須恵器	A 12.4 B 3.8 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上 がる。	底部一方向へラ削り。体部下 端 横位のへラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P12 90% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	管状土製品	6.8	2.5	—	37.6	電袖土面(55号住居の可能性)	DP 1 孔径8.5 95%
5	刀子	(3.7)	0.7	0.3	(2.3)	覆土	M 1

第4 B号住居跡(第135図)



第172図 第4 B号住居跡出土遺物実測図

第4 B号住居跡出土遺物観察表

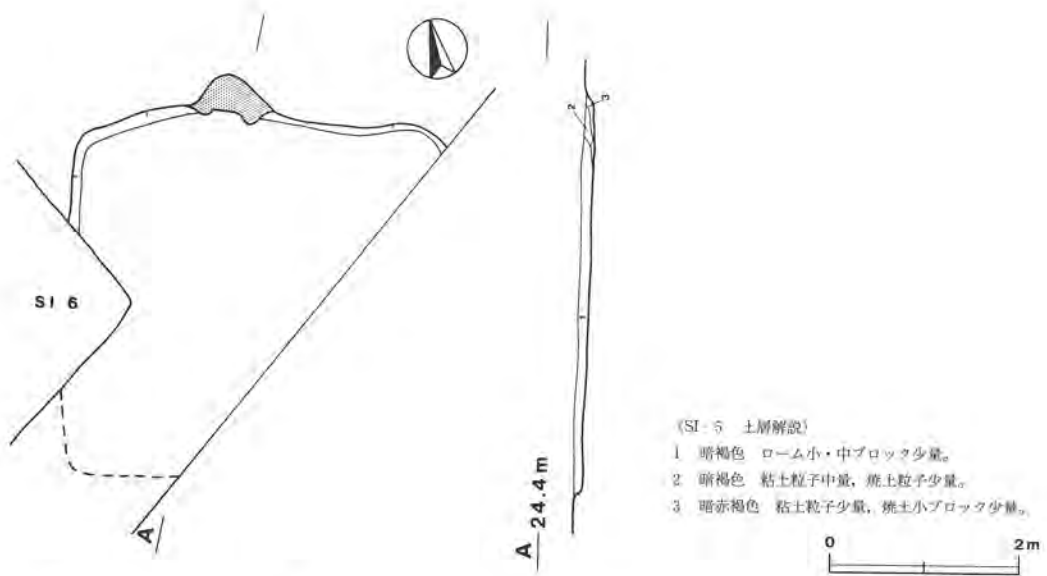
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第172図 1	坏 須恵器	B (1.4) C 5.2	平底。体部は内彎気味に開く。	底部回転糸切り。	微砂粒多量 に ぶい黄色 普通	P18 40% 床面

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	土玉	1.7	2.3	—	7.1	南部覆土	DP 2 孔径0.4~0.5 100%
3	釘	(6.4)	0.8	0.6	(12.4)	北部覆土	M 6

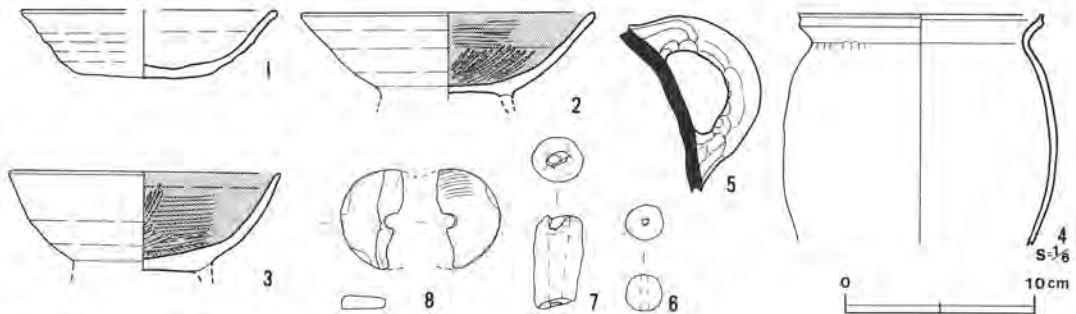
### 第5号住居跡 (第173図)

**位置** F6a<sub>7</sub>区 **規模と平面形** 長軸(3.8)m, 短軸(3.2)m。 **主軸方向** N-16°-E **壁** 壁高約10cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦で、踏み固められている。 **ピット** 確認できなかった。 **竈** 北壁中央部付近を約40cm程壁外へ掘り込み、砂粒を含むにぶい褐色粘土で構築されている。規模は、幅約90cm, 長さ約50cmで、袖部の残りは悪い。 **覆土** 暗褐色土の1層である。 **遺物** 実測遺物は、すべて覆土1層から出土したものである。

**所見** 覆土中の出土遺物から10世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



第173図 第5号住居跡実測図



第174図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第174図 1	坏土師器	A [13.6] B 3.7 C 7.3	平底。体部は外傾して開く。	底部回転切り離し後弱いヘラ削り。	長石微粒子 橙色 普通	P19 60% 覆土(1層) 二次焼成か
2	高台付坏土師器	A 15.7 B (4.7)	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。内面ヘラ磨き。	長石・石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P20 90% 覆土(1層) 内面黒色処理
3	高台付坏土師器	A 14.7 B (5.3)	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。内面ヘラ磨き。	微砂粒多量 橙色 普通	P21 80% 覆土(1層) 内面黒色処理
4	甕土師器	A 19.4 B (18.6)	体下半部破損。体部中位に最大径を持ち、口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P22 30% 覆土(1層)
5	甕須恵器	B (9.5)	把手部破片。	口縁部内・外面横ナデ。	長石礫・砂粒・黒色微粒子・海綿骨針 普通	P23 5% 覆土(1層)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	土玉	2.0	1.9	—	5.6	覆土	DP 3 孔径0.4 100%
7	管状土製品	(5.0)	2.7	—	27.0	覆土	DP 4 孔径0.6~1.2 80%
8	紡錘車	—	5.3	0.8	13.1	覆土	DP 5 孔径0.7 40%

第6号住居跡 (第175図)

位置 F6a<sub>5</sub>区 規模と平面形 長軸4.94m, 短軸4.90mの方形。 主軸方向 N-25°-W

壁 壁高約38~44cmで、垂直に立ち上がっている。 床 平坦で、踏み固められている。

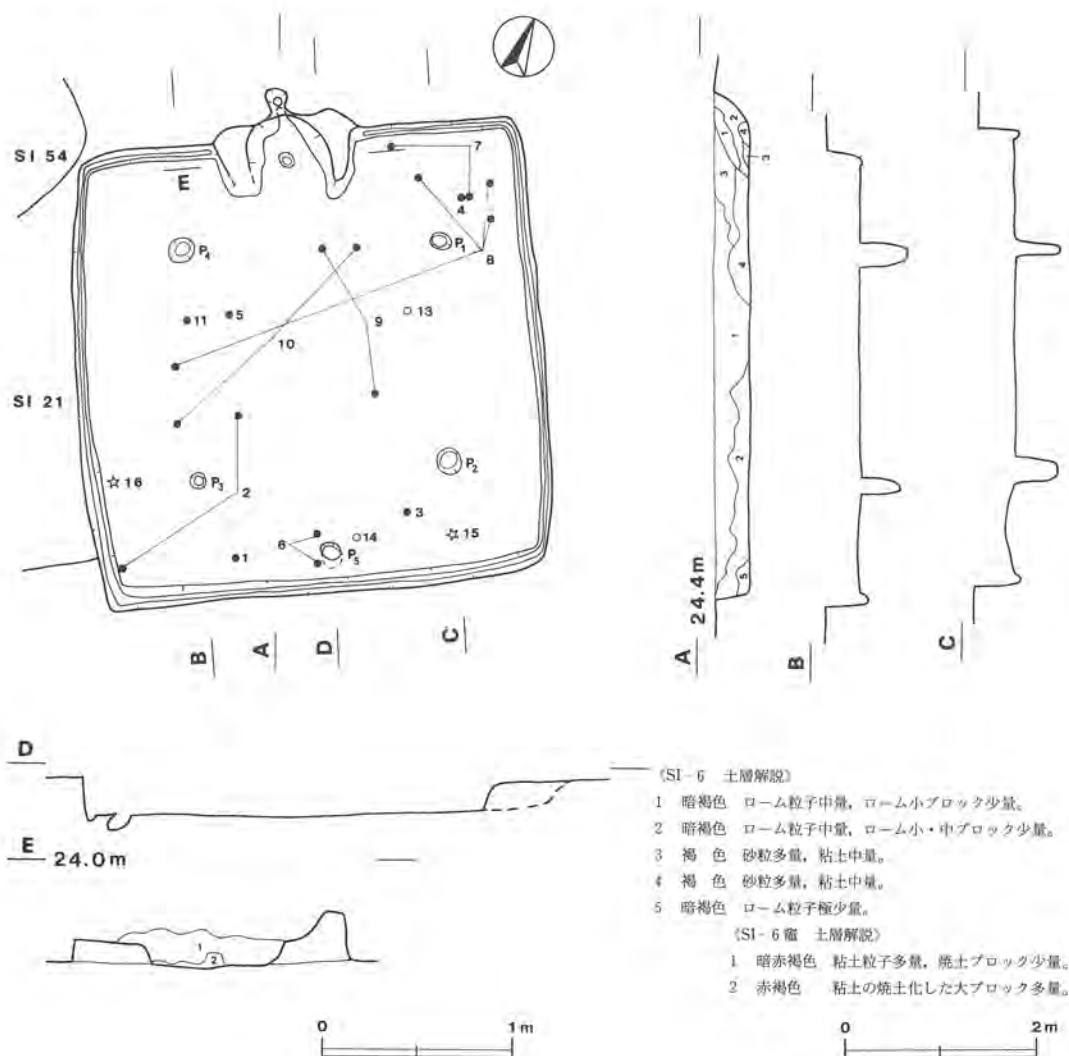
ピット 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径18~26cm, 深さ43~53cmで、いずれも主柱穴である。P<sub>5</sub>は、径22cm, 深さ16cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。 竈 北西壁中央部を20cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、幅142cm, 長さ122cmである。火床部はほぼ平坦で、天井部から落下した赤変した粘土ブロックが厚さ5cmほど堆積している。煙道部は最奥部で幅10cmまで狭まり、火床部から緩やかに立ち上がっている。 覆土 5層からなる。1・2層が覆土の主体となっており、3・4層は粘土や砂混じりの電流失土層である。

遺物 遺物のほとんどは、投棄遺物で1・2層から出土している。第176図-1・3・5の坏、9の高坏脚部は覆土2層から、8の湖西産の須恵器の鉢は1層から、6の須恵器蓋、11の甑は床面から出土している。

第6号住居跡出土遺物観察表

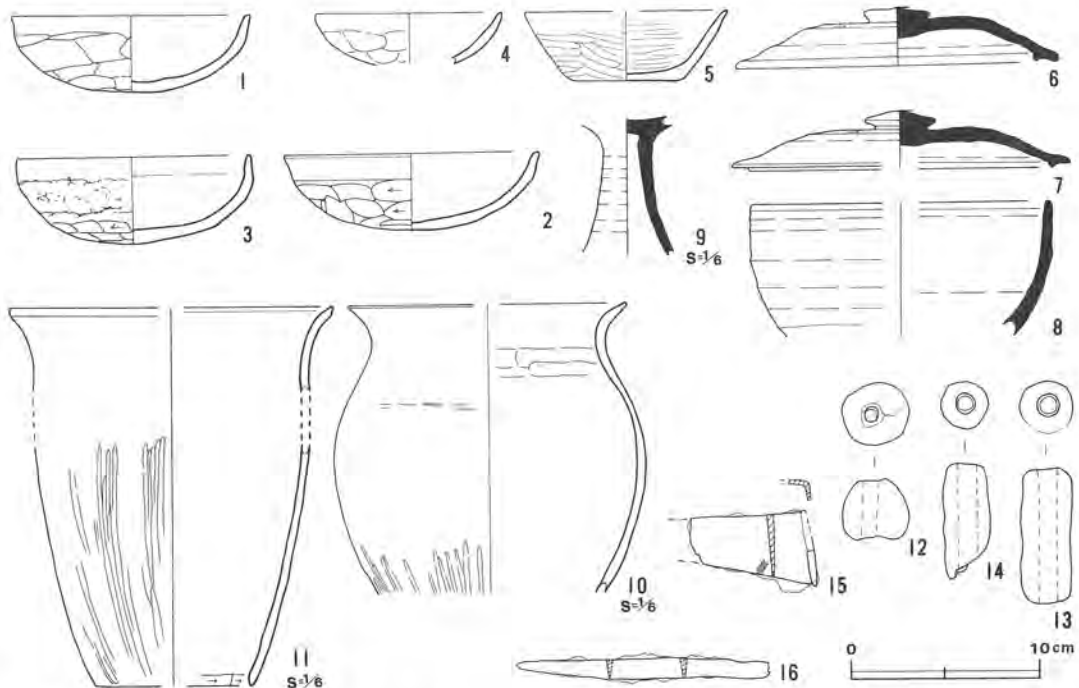
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第176図 1	坏土師器	A 12.5 B 4.2	丸底。底体部は内彎して立ち上がる。	底体部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石微粒子少量・スコリア、橙色 普通	P24 100% 覆土(2層) ヘラ記号

所見 出土遺物から、8世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



第175図 第6号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第176図 2	坏 土師器	A 13.5 B 4.2	丸底。底体部は内彎して立ち上がる。	底体部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	黄白色微砂粒多量にぶい橙色 普通	P25 90% 覆土
3	坏 土師器	A 12.3 B 4.7	丸底。底体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	底体部下半ヘラ削り。上半部無調整。口縁部内・外面横ナデ。	赤褐色微砂粒多量・微砂粒多量, 橙色 普通	P26 100% 覆土(2層)
4	小形坏 土師器	A 9.8 B (2.8)	丸底。底体部は内彎して立ち上がる。	底体部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石微砂粒少量 橙色 普通	P27 60% 覆土
5	坏 土師器	A [10.6] B 3.7 C [5.8]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	全面でいねいなヘラ磨き。	胎土密 橙色 普通	P28 20% 覆土(2層)



第176図 第6号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第176図 6	蓋 須恵器	A 17.0 B 3.0 F 3.4	中央部のやや突出した偏平なつまみが付く。内面に低いかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。	長石・石英砂粒・雲母末多量、灰色普通	P29 95% 床面
7	蓋 須恵器	A 17.9 B 3.1 F 3.8	中央部のやや突出した偏平なつまみが付く。内面に低いかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。	雲母末多量 灰白色普通	P30 40% 覆土
8	鉢 須恵器	A [15.8] B (7.2)	底部破損。体部は内嚢して立ち上がり、口縁部は直立する。	底部回転ヘラ削り。	長石微砂粒少量 灰色良好	P33 15% 覆土(1層)
9	高坏 須恵器	B (11.1)	脚部破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面横ナデ。	長石・石英 灰色良好	P34 25% 覆土(2層)
10	甕 土師器	A [22.0] B (23.4)	体上半部破片。頸部は体部から緩やかにくびれ、口縁部は外反する。	体下半部外面斜位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にふい橙色普通	P31 35% 覆土
11	壺 土師器	A [25.8] B (30.4) C [12.4]	単孔。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部を僅かにつまみ上げる。	体下半部外面斜位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にふい橙色普通	P32 35% 床面

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
12	土玉	3.3	3.6	—	37.6	北西部覆土	DP 6 孔径0.9 95%
13	管状土製品	7.2	2.7	—	52.9	覆土	DP 7 孔径1.0~1.1 100%
14	管状土製品	(6.2)	2.5	—	31.4	床面	DP 8 孔径1.0 90%
15	鎌	(6.6)	3.9	0.3	(35.1)	覆土	M 7
16	刀子	(13.3)	1.0	0.4	(16.1)	覆土	M 8

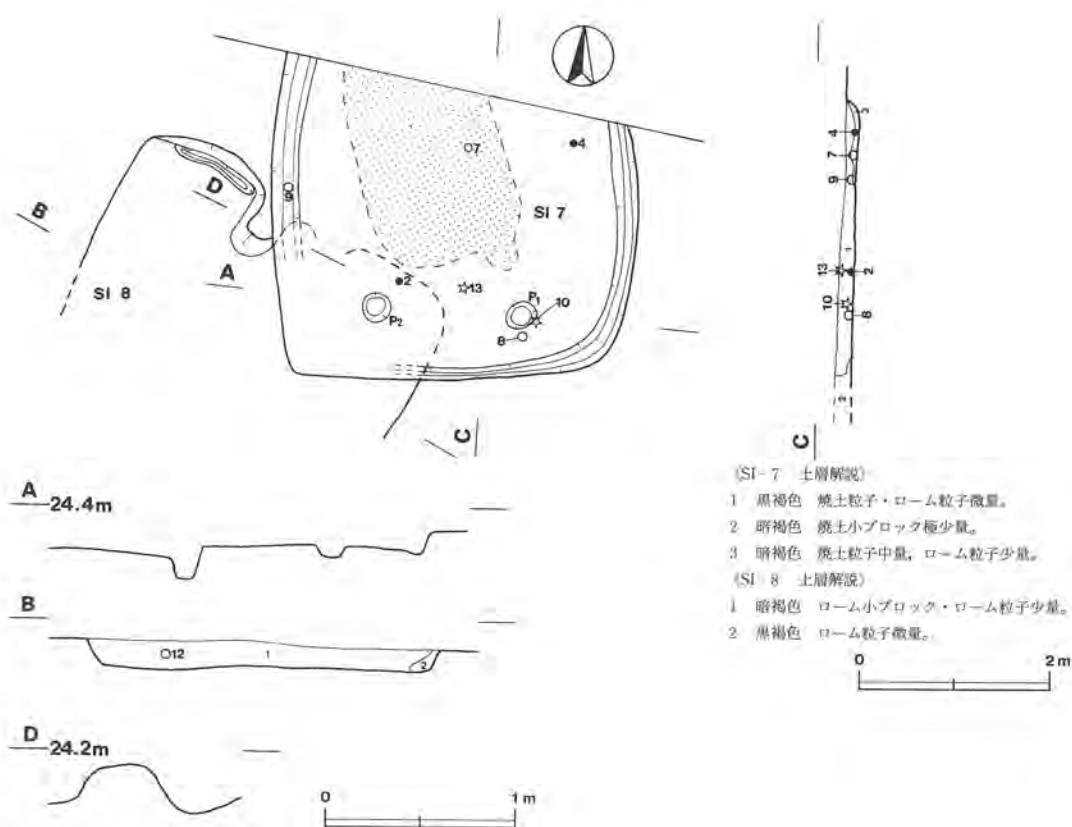


第7号住居跡（第177図）

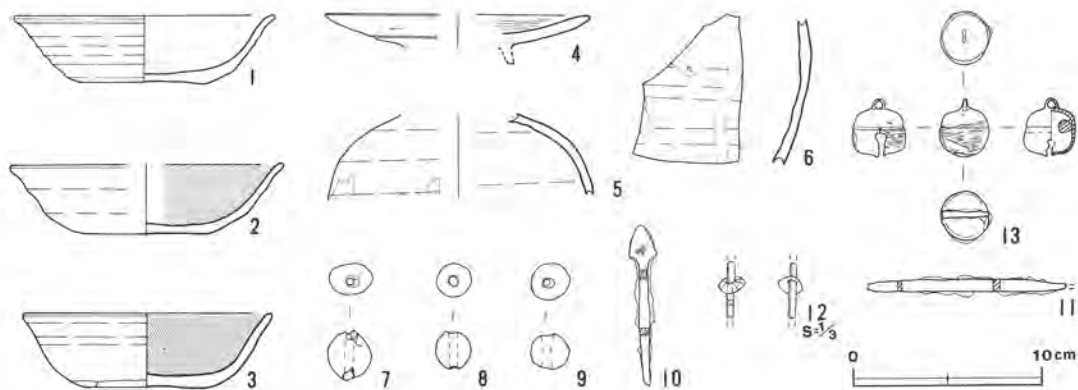
**位置** E6h区 重複関係 第8号住居跡を掘り込んでいる。規模と平面形東西方向3.90mの方形もしくは長方形で、北部は調査エリア外に延びている。**主軸方向** N-5°-W **壁** 壁高10~22cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。**床** 平坦で、踏み固められている。中央部の幅約1.4m、長さ(2.0)m程の範囲が焼土化している。**ピット** 2か所。径30~32cm、深さ14~36cmである。**覆土** 2層で、暗褐色土層が主体となっている。

**遺物** 第178図5の灰釉陶器の長頸瓶は床上から破片で出土している。10の鉄鏃は床に近い覆土から、13の銅鈴は、床から12cmほど浮いた覆土から出土している。鉄滓は覆土上層から出土している。

**所見** はっきりとした支柱穴を持たず、床中央部だけが長方形に焼けた特徴が見られる。北部が調査エリア外にあるため、竈の有無は確認できなかった。出土遺物から9世紀後葉から10世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



第177図 第7・8号住居跡実測図



第178図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図 1	坏 土師器	A 13.8 B 3.7 C 6.4	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	底部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	微粒子、スコリア 明黄褐色 普通	P35 60% 覆土
2	坏 土師器	A [14.4] B 3.7 C 6.4	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	底部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	微砂粒多量 にふい黄橙色 普通	P36 30% 覆土 内黒
3	坏 土師器	A 13.2 B 4.0 C 6.4	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	底部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・スコリア にふい橙色 普通	P39 80% 覆土 内黒
4	高台付皿 土師器	A [14.0] B (1.8)	口縁部破片。口縁部は外傾して開く。	口縁部内・外面横ナデ。	雲母末・スコリア にふい赤褐色 普通	P40 25% 覆土
5	長頸瓶 灰釉陶器	B (4.6)	肩部破片。肩部は丸い。	体部内・外面横ナデ。	長石微砂粒 灰白色 普通	P37 5% 床面
6	長頸瓶 灰釉陶器	B (7.8)	体部破片。	体部内・外面横ナデ。肩部灰釉ハケ掛け。	緻密で黒色微粒子 を含む、灰白色 良好	P38 5% 覆土

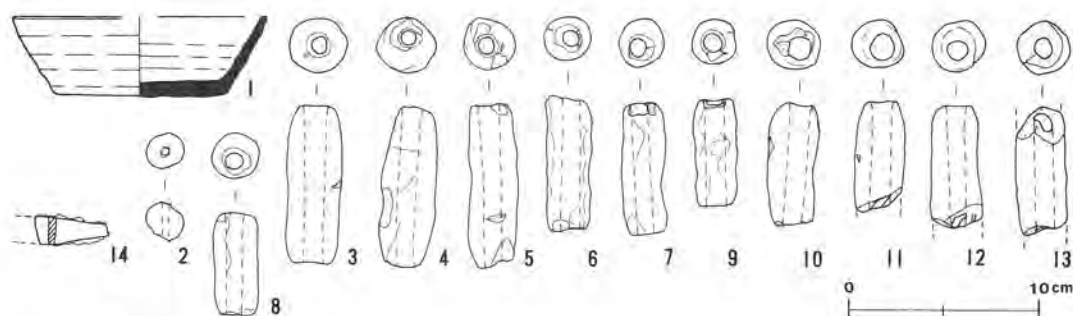
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	土玉	2.8	2.2	—	8.3	床面	DP9 孔径0.5~0.7 100%
8	土玉	2.0	1.9	—	5.7	床面	DP10 孔径0.4 100%
9	土玉	1.9	2.1	—	5.8	床面	DP11 孔径0.6 100%
10	鉄鏝	(8.5)	1.4	0.5	(9.0)	P <sub>1</sub> 付近覆土	M9
11	不明鉄製品	(10.5)	0.7	0.4	(11.3)	P <sub>1</sub> 覆土	M10
12	不明鉄製品	(2.2)	1.0		(1.3)	覆土	M11
13	銅鈴	3.1	2.8		(10.3)	覆土	M12 珠入り

第8号住居跡 (第177図)

位置 E6h<sub>4</sub>区 重複関係 当跡は、第7・10A・10B号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸3.52mの方形。主軸方向 N-28°-E 壁 壁高24~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。床 平坦で、踏み固められている。竈 第7号住居跡によって右袖部が壊されている。規模は、左袖部幅44cm, 長さ70cmである。覆土 2層からなる。1層は焼土粒子・ローム粒子を微量に含んだ黒褐色土層である。

遺物 出土遺物は少なく、第179図-1の須恵器の坏が中央から東寄りの床面から出土している。所見 本跡は、柱をもたない小規模な住居跡である。出土遺物から8世紀後半代の住居跡と考えられる。



第179図 第8号住居跡出土遺物実測図

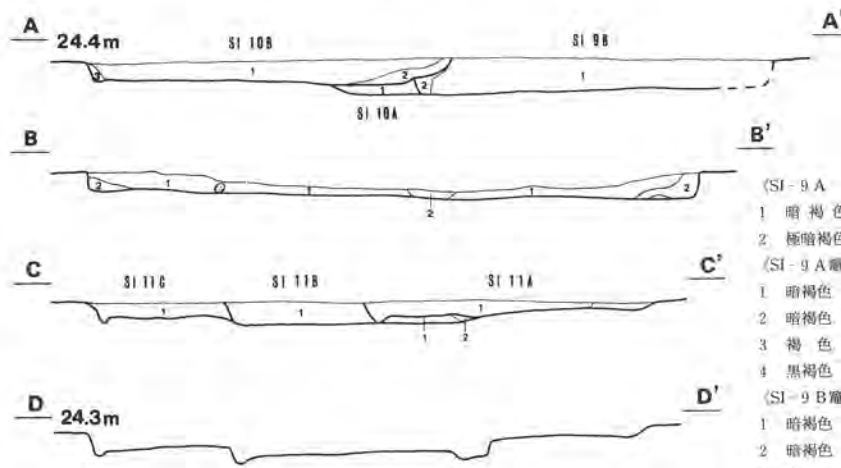
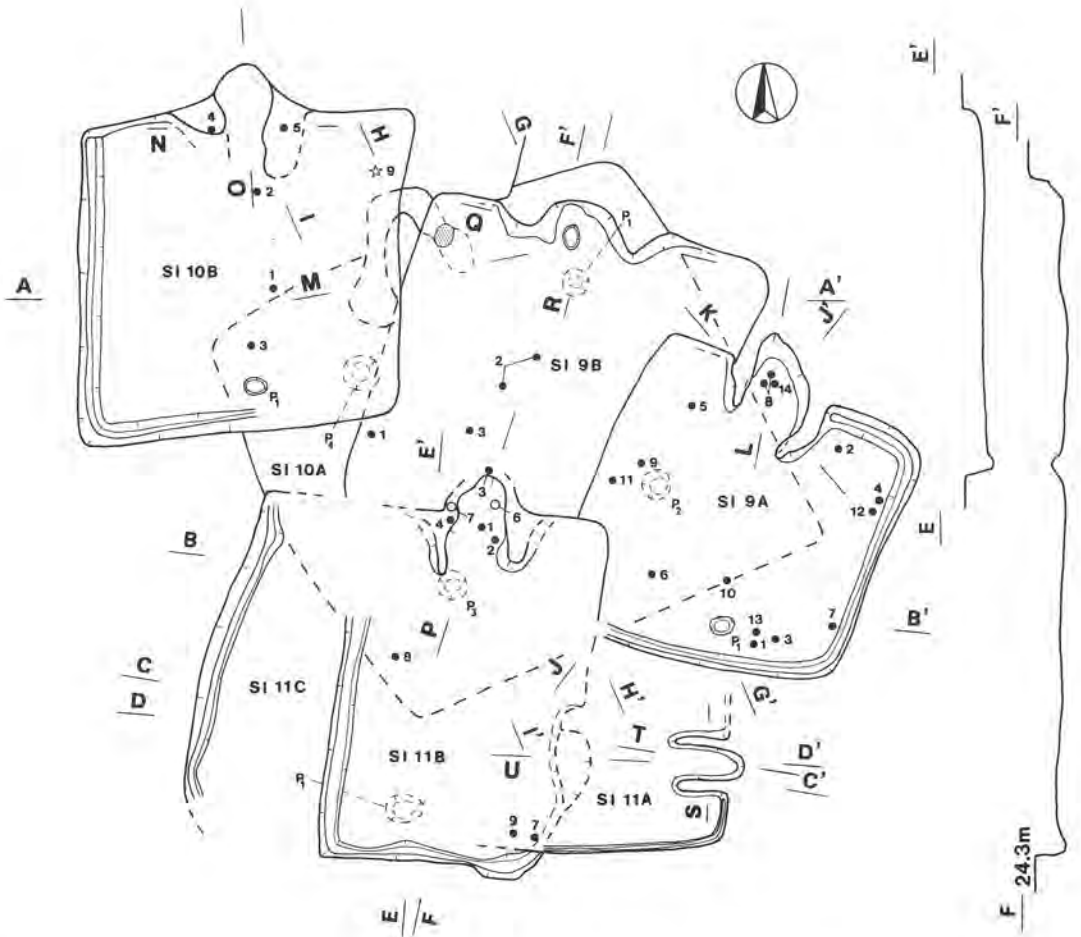
### 第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第179図 1	坏 須恵器	A [13.5] B 4.3 C 9.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ切り離し後無調整。	雲母 灰白色 普通	P41 床面 70%

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
2	土玉	2.1	2.0	—	5.4	DP12 孔径0.4	80%	
3	管状土製品	8.4	3.0	—	68.2	北部覆土	DP13 孔径1.1~1.2	100%
4	管状土製品	8.6	3.1	—	65.9	北部覆土	DP14 孔径1.0	90%
5	管状土製品	8.7	2.7	—	53.6	西部覆土	DP15 孔径0.9~1.1	90%
6	管状土製品	7.3	2.5	—	41.9	西部覆土	DP16 孔径0.9	98%
7	管状土製品	7.0	2.4	—	37.9	西部覆土	DP17 孔径0.9	95%
8	管状土製品	5.5	2.4	—	29.8	西部覆土	DP18 孔径1.0	100%
9	管状土製品	5.8	2.3	—	29.8	北部覆土	DP19 孔径0.9	98%
10	管状土製品	6.6	2.7	—	37.5	覆土	DP20 孔径1.1	85%
11	管状土製品	(5.9)	2.8	—	34.0		DP21 孔径1.2~1.3	80%
12	管状土製品	(6.6)	2.8	—	40.6	覆土(4層)	DP22 孔径0.8~1.2	90%
13	管状土製品	(6.9)	2.8	—	43.9	西部覆土	DP23 孔径1.0	80%
14	刀子	(4.1)	1.6	0.4	(9.5)	北東部覆土	M13	

### 第9A号住居跡 (第180・181図)

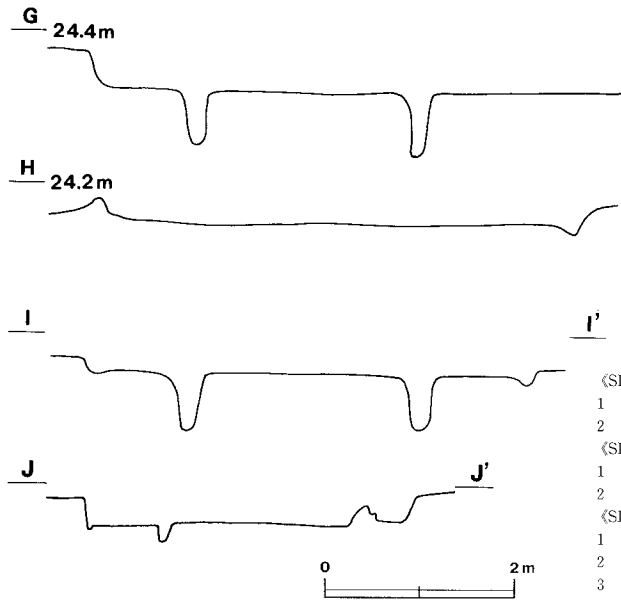
位置 E6<sub>15</sub>区 重複関係 第9B・10A号住居跡を掘り込み、第11C号住居跡に掘り込まれている。



- (SI-9 A 土層解説)
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子極少。
  - 2 極暗褐色 ローム粒子極少量。
- (SI-9 A 竈 土層解説)
- 1 暗褐色 ローム小・中ブロック少量。
  - 2 暗褐色 粘土。
  - 3 褐色 焼土小・中ブロック少, 粘土多。
  - 4 黒褐色 炭化物粒子多量。
- (SI-9 B 竈 土層解説)
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子。
  - 2 暗褐色 炭化物少, 焼土小・中ブロック。
  - 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量。



第180図 第9 A・9 B・10 A・10 B・11 A・11 B・11 C号住居跡実測図(1)



《SI-10A 竈 土層解説》

1 暗褐色 ロームブロック、ローム粒子。

《SI-10B 土層解説》

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子極少量。

2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量。

3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子極少量。

《SI-10B 竈 土層解説》

1 暗褐色 粘土粒子少量。

2 暗赤褐色 粘土ブロック多量、焼土粒子少量。

3 黒褐色 焼土ブロック、炭化材。

4 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量。

《SI-11A 土層解説》

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物粒子・焼土粒子極少量。

《SI-11B 土層解説》

1 黒褐色 粘土粒子、粘土ブロック。

2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、焼土粒子極少量。

《SI-11B 竈 土層解説》

1 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子少量。

2 褐色 ローム粒子多量。

《SI-11C 土層解説》

1 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・焼土粒子極少量。

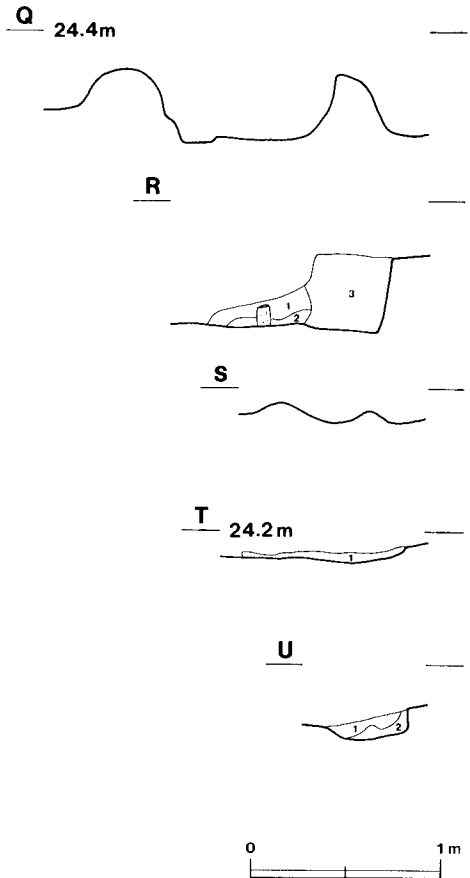
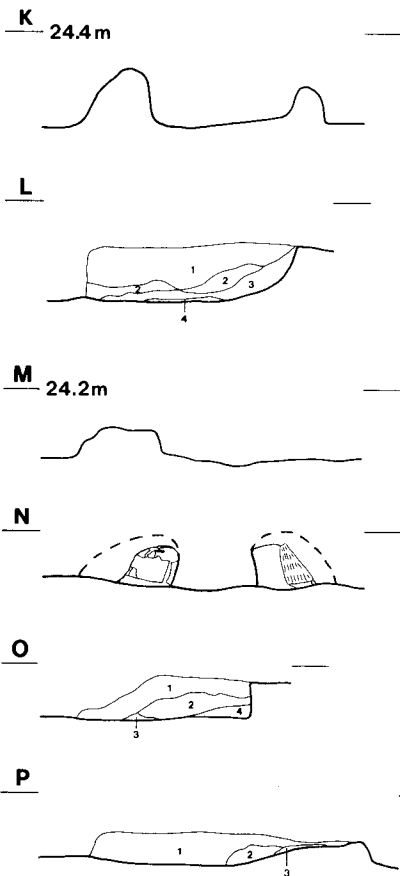
2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物小ブロック・焼土粒子極少量。

《SI-11C 竈 土層解説》

1 黒褐色 粘土粒子、粘土ブロック。

2 にぶい褐色 粘土ブロック多量、焼土粒子少量。

3 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼土粒子。

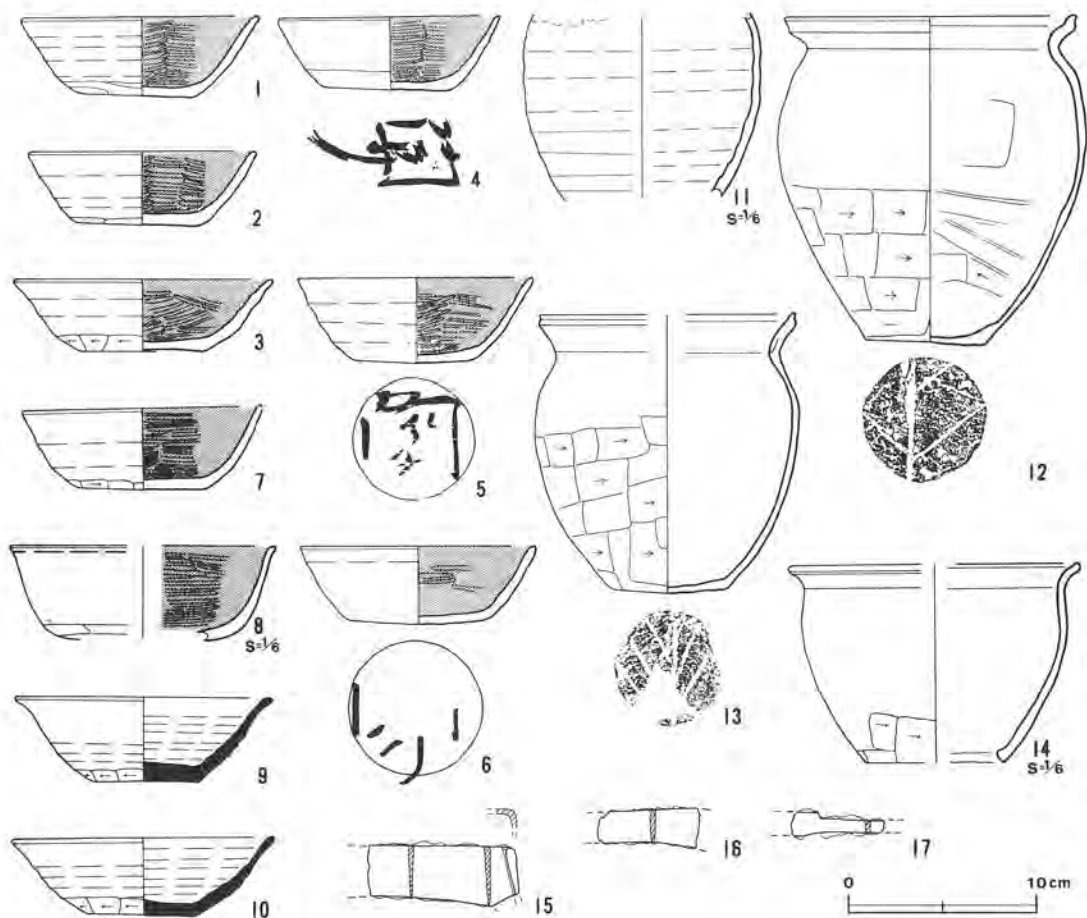


第181図 第9A・9B・10A・10B・11A・11B・11C号住居跡実測図(2)

る。規模と平面形 長軸3.86m、短軸3.10mの長方形。主軸方向 N-23°-E 壁 壁高約30cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。床 平坦で、踏み固められている。ピット 1か所で、径25cm、深さ25cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土 5層からなる。1～3層はロームブロックを多量に含み、人為的な堆積土層と考えられる。4・5層は、壁際に堆積している。4層と5層の間に鉄製品や土器が見られる。

遺物 実測できた遺物のほとんどは、床面から出土している。坏類は特に完存率が高いが、そのほかに破片で出土している共伴遺物からみると、ほとんどの遺物は住居廃絶後の投棄遺物と考えられる。

所見 本跡は、遺構の重複関係や出土遺物から9世紀中葉頃の住居跡と考えられる。



第182図 第9 A号住居跡出土遺物実測図

第9 A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第182図 1	坏 土器	A 12.4 B 4.3 C 6.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へへ削り。体部下端手持ちへ削り。体部内面へ削り磨き。	長石・雲母 浅黄橙色 普通	P42 100% 床面 内黒

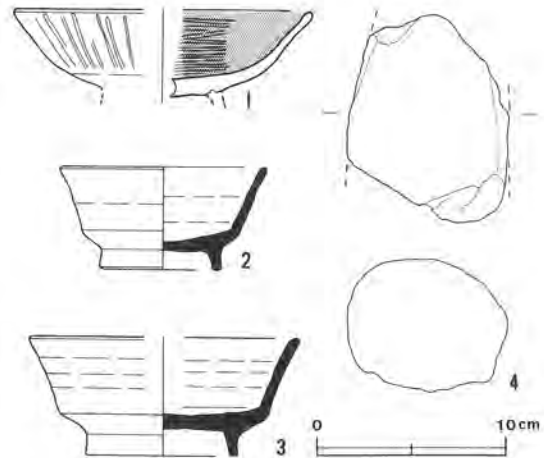
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第182図 2	坏 土師器	A 12.1 B 4.0 D 6.7	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へら削り。体部下端手持ちへら削り。体部内面へら磨き。	雲母・長石・微砂粒 浅黄褐色 普通	P43 100% 床面 内黒
3	坏 土師器	A 13.8 B 3.9 D 6.5	平底。体部は内彎気に味立ち上がる。	底部一方向へら削り。体部下端手持ちへら削り。体部内面へら磨き。	長石・石英砂粒 明赤褐色 普通	P44 99% 床面 内黒
4	坏 土師器	A 11.8 B 4.0 C 6.7	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へら削り。体部下端手持ちへら削り。体部内面へら磨き。	微砂粒多量 灰白色 普通	P45 99% 床面 内黒, 墨書土器
5	坏 土師器	A 12.5 B 4.6 C 6.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へら削り。体部下端手持ちへら削り。	微砂粒多量 にぶい褐色 普通	P46 98% 床面 内黒, 墨書土器
6	坏 土師器	A 12.6 B 4.6 C 6.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へら削り。体部下端手持ちへら削り。	微砂粒多量 明黄褐色 普通	P47 98% 床面に近い覆土 内黒, 墨書土器
7	坏 土師器	A 12.9 B 4.4 C 6.8	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へら削り。体部下端手持ちへら削り。	長石・雲母 明黄褐色 普通	P48 98% 床面 内黒
8	鉢 土師器	A [21.2] B 7.6 C [12.0]	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部下端手持ちへら削り。	微砂粒少量 明黄褐色 普通	P49 40% 竈覆土14の甑の上, 内黒
9	坏 須恵器	A 13.7 B 4.6 C 4.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端手持ちへら削り。	長石礫・石英礫・雲母少量, 灰黄褐色 普通	P52 80% 覆土
10	坏 須恵器	A 14.0 B 4.3 C 5.6	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端手持ちへら削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P53 80% 床面に近い覆土
11	長頸瓶 灰釉陶器	B (14.7)	体部破片。	体下半部へら削り。内・外面横ナデ。	緻密 明赤灰色 良好	P55 5% 覆土
12	甕 土師器	A 15.4 B 17.5 C 6.3	平底。体部上位に最大径を持ち、口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	体下半部横位のへら削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石砂粒・石英礫 にぶい褐色 普通	P54 55% 床面
13	甕 土師器	A [13.6] B 14.9 C 6.0	平底。体部上位に最大径を持ち、口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	体下半部横位のへら削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英多量 明赤褐色 普通	P50 70% 床面
14	甑 土師器	A [23.2] B 17.0 C 11.0	体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反、口唇部を上方につまみ上げる。	体部下端横位のへら削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P51 30% 竈覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
15	鎌	(8.2)	3.2	0.4	(27.2)	北東部覆土	M14
16	鎌	(5.5)	2.1	0.3	(11.8)	北東部覆土	M15
17	刀子	(5.0)	1.2	0.3	(5.4)	南東部覆土	M16

### 第9B号住居跡(第180・181図)

位置 E6i区 重複関係 第10A号住居跡を掘り込み、第9A・10B・11C号住居跡に掘り込まれてい

る。規模と平面形 長軸(3.8)m,短軸(3.5)mの方形。主軸方向 N-27°-E 壁 壁高約34cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。床 平坦で、踏み固められている。覆土 2層からなる。1層は黒褐色土層で、覆土の主体となっている。2層は壁際に堆積している。遺物 実測できた遺物は、すべて覆土1層から出土している。第183図1は外面に放射状の磨きを持つ内黒の高台付坏, 2の須恵器の高台付坏は胎土に海綿骨針を含んでいる。



第183図 第9B号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は、覆土中の出土遺物から、8世紀後葉頃の住居跡と考えられる。

### 第9B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第183図 1	高台付坏 土師器	A [16.0] B 4.7	丸底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内翹気味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面ヘラ磨き。	長石・粘土粒子に ぶい黄橙色 普通	P59 30% 覆土(1層) 内黒
2	高台付坏 須恵器	A 11.0 B 5.6 D 6.5	平底で高台が付く。体部は外傾して開く。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面ヘラ磨き。	長石・石英微粒子・ 白色針状物質、灰色 普通	P62 30% 覆土(1層)
3	高台付坏 須恵器	A [14.4] B 6.4 D 8.2	平底で高台が付く。体部は外傾して開く。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面ヘラ磨き。	長石砂礫・黒色粒 状物、赤灰色 普通	P63 70% 覆土(1層)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	支脚	(11.2)	(8.7)	—	(485.3)	竈覆土	DP24 50%

### 第10A号住居跡(第180・181図)

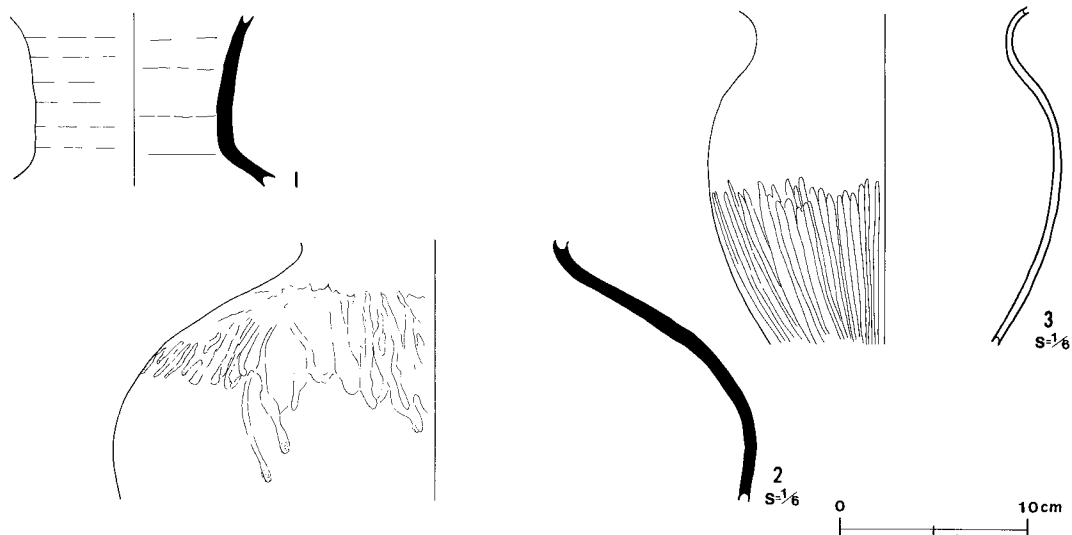
位置 E6i区 重複関係 第9A・9B・10B・11B・11C号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.00m,短軸4.81mの方形。主軸方向 N-28°-W 壁 壁高約18cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。床 平坦で、踏み固められている。ピット 4か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は、径30~37cm,深さ55~66cmで、いずれも支柱穴である。竈 北壁中央部を34cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。重複が激しく、左袖の一部と煙道の立ち上がり部付近がわずかに残っている。覆土 1層からなる暗褐色土層である。

遺物 覆土中から、第184図-1の須恵器の広口瓶, 2の須恵器甕, 3の甕が出土している。

所見 本跡は、重複関係と出土遺物から8世紀前葉頃の住居跡と考えられる。





第184図 第10A号住居跡出土遺物実測図

第10A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第184図 1	広口瓶 須恵器	B (9.1)	頸部破片。頸部はやや外反しながら立ち上がる。	頸部内・外面横ナデ。	石英微粒・長石・ 海绵骨針, 灰色 普通	P66 10% 覆土
2	甕 須恵器	B (20.9)	肩部破片。肩部はやや直線気味に内傾する。	肩部内・外面横ナデ。	長石・海绵骨針 灰色 普通	P68 20% 覆土
3	甕 土師器	B (26.7)	体部破片。体部中位に最大径を持つ。	体下半部外面へラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。	長石礫・石英礫・ 雲母, にぶい橙色 普通	P65A 30% 覆土

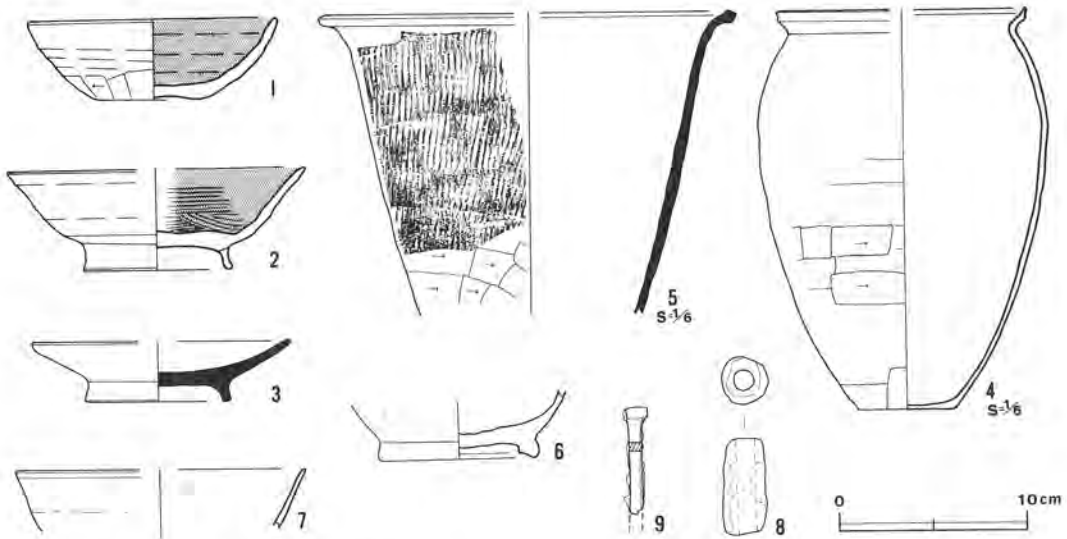
第10B号住居跡 (第180・181図)

**位置** E6h<sub>4</sub>区 重複関係 第8・10A号住居跡を掘り込んでいる。 **規模と平面形** 長軸3.40m, 短軸3.35mの方形である。 **主軸方向** N-2°-W **壁** 壁高約18~24cmである。 **床** 平坦である。 **ピット** 1か所で, 径20~22cm, 深さ38~39cmで, 出入口施設に伴うピットと考えられる。 **竈** 北壁中央部を55cm程壁外へ掘り込み粘土と土器を使って構築されている。

**覆土** 3層からなる。1層が主体で, 2・3層は壁際の堆積土層である。

**遺物** 第185図-1の坏は, 東壁直下床面から, 2の高台付坏は竈前面の覆土から, 3の高台付皿, 6の灰釉陶器の長頸瓶及び7の塊は覆土から, 4の甕, 5の須恵器鉢は竈袖部内から竈の構築材として出土している。

**所見** 本跡は, 出土遺物から, 9世紀後葉頃の住居跡と考えられる。



第185図 第10B号住居跡出土遺物実測図

第10B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第185図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.3 C 6.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部一方向へら削り。体部下端手持ちへら削り。体部内・外面横ナデ。内面へら磨き。	長石・雲母末・黄白色軟質物質、にぶい橙色、普通	P56 80% 東壁直下床面内黒
2	高台付坏 土師器	A [16.0] B 5.4 D 8.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転へら削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面へら磨き。	雲母・長石にぶい橙色普通	P58 60% 電前覆土内黒
3	高台付皿 須恵器	A [13.8] B 3.2 D 7.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に開く。	底部回転へら削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面へら磨き。	雲母微砂粒多量灰白色普通	P60 70% 覆土
4	甕 土師器	A [20.0] B 32.1 C 7.8	体部中位に最大径を持つ。頸部でくびれ口縁部は、外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	体下半部外面へら削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母橙色普通	P64 70% 電袖部芯材
5	鉢 須恵器	A [33.6] B (24.4)	底部破損。体部は外傾して立ち上がる。口縁部で外反し、端部は肥厚する。	体部下端横位のへら削り。体部外面斜位の平行叩き。	長石礫・石英礫・雲母末、灰オリーブ色普通	P67 20% 電袖部芯材
6	長頸瓶 灰釉陶器	B (3.1) D 8.6	平底で短い高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転へら削り後、高台貼り付け。体部内・外面横ナデ。	黒色粒子少量明オリーブ灰色普通	P69 10% 覆土
7	塊 灰釉陶器	A [15.6] B (3.5)	口縁部破片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。灰釉ハケ掛け。	緻密明オリーブ色良好	P70 5% 電覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	管状土製品	5.1	1.0	—	28.0	床面	DP25 孔径1.0 100%
9	不明鉄製品	(5.8)	1.3	0.5	(12.0)	北東コーナー灰だめ土坑覆土	M17

### 第11A住居跡 (第180・181図)

**位置** E6j<sub>3</sub>区 **重複関係** 第11B・C号住居跡を掘り込んでいる。**規模と平面形** 長軸約(2.9)m, 短軸1.6m以上の長方形。**主軸方向** N-88°-E **壁** 壁高約10cmである。

**床** 床の締りがやや悪く、西半部において確実な床面を確認できなかった。**竈** 東壁中央部を60cm程壁外へ掘り込み、構築されている。**覆土** 1層からなる。

**遺物** 竈覆土から土師器の甕の体部破片や格子叩きの須恵器甕体部小片がわずかに出土している。細片で出土している灰釉陶器の塊類は、覆土中や土層観察ベルト中の出土遺物として取り上げられており、当住居跡あるいは第11B号住居跡のいずれかに属するものであるが、その帰属関係を明らかにできなかった。第186図1の灰釉陶器塊は、当住居跡の北西部出土のものと第11B号住居跡の北東部覆土出土のものが接合している。土層断面観察による重複関係からは、当住居跡が新しいので、1の灰釉陶器は接合関係から、当住居跡に伴うものと思われる。

**所見** 本跡は、遺構の重複関係から第11B・11C号住居跡よりも新しい、10世紀中葉以降の住居跡と考えられる。

### 第11B号住居跡 (第180・181図)

**位置** E6j<sub>3</sub>区 **重複関係** 第11C号住居跡を掘り込んで、第11A号住居跡に掘り込まれている。

**規模と平面形** 長軸約(2.8)m, 短軸2.54mの方形。**主軸方向** N-98°-E **壁** 壁高約40cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。**床** 平坦で、踏み固められている。**竈** 東壁中央部を20cm程壁外へ掘り込み構築されている。上部を第11A号住居跡によって削平されている。

**覆土** 1層で、ローム小・中ブロックを含み人為的な堆積土層と考えられる。

**遺物** 出土していない。

**所見** 本跡は、遺構の重複関係から、第11C号住居跡よりも新しく、第11A号住居跡よりも古い住居跡と考えられる。

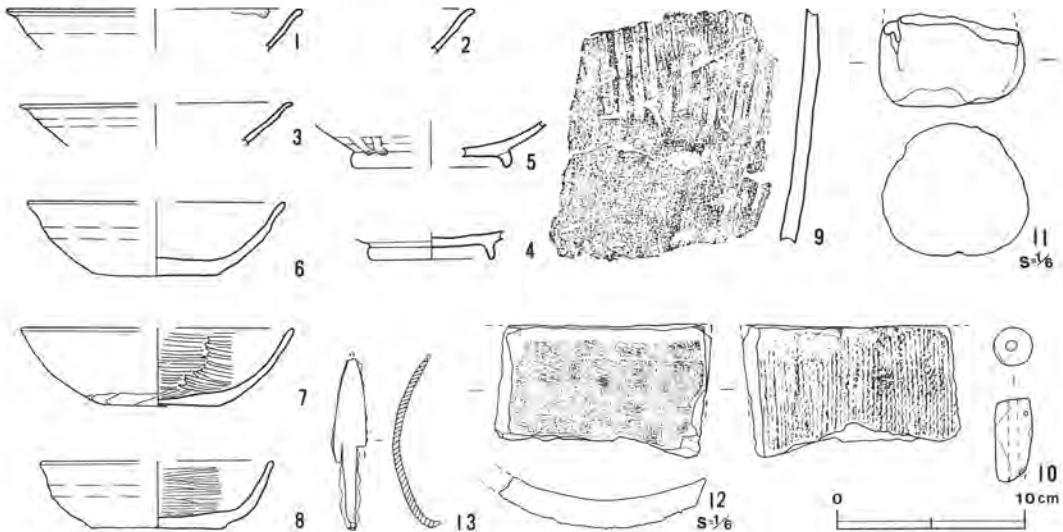
### 第11C号住居跡 (第180・181図)

**位置** E6i<sub>4</sub>区 **重複関係** 南東部を第11B号住居跡に掘り込まれている。第11B号住居跡は第11A号住居跡によって竈の上部を削平されている。**規模と平面形** 長軸4.22m, 短軸3.94mの方形。

**主軸方向** N-19°-E **壁** 壁高約12cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。**床** 平坦で、踏み固められている。**ピット** 確認されていない。**竈** 北壁中央部を34cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、幅96cm, 長さ90cmである。火床部はほぼ平坦であり、煙道部は燃烧室奥壁から急激に立ち上がる。**覆土** 1層で、ローム粒子まじりの薄い覆土である。

**遺物** 実測できた遺物は、ほとんど竈内から竈の崩壊土に混じって出土している。

所見 遺構の重複関係から、東竈の第11A号住居跡が最も新しく、次いで同じ東竈の第11B号住居跡、本跡の順で古くなる。本跡は、竈内から出土した遺物からみて10世紀中葉頃の住居跡と考えられる。



第186図 第11A・11B・11C号住居跡出土遺物実測図

第11A・11B・11C号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第186図 1	埴 灰釉陶器	A [15.8] B (2.2)	口縁部破片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。端部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	緻密 灰白色 良好	P75 5% 11A号住居跡覆土
2	埴 灰釉陶器	B (2.5)	口縁部破片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。端部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	緻密 灰白色 良好	P76 5% 覆土
3	埴 灰釉陶器	A [14.5] B (2.3)	口縁部破片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。端部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	緻密な胎土で目立つ 含有物無し、灰白色 良好	P77 5% 覆土
4	埴 灰釉陶器	D 6.8	底部破片。平底で断面三日月形の高台が付く。	底部回転ヘラ削り。灰釉ハケ掛け。	緻密で長石微粒子少 灰白色 良好	P78 10% 覆土
5	埴 灰釉陶器	D 8.6	底部破片。平底で断面三日月形の高台が付く。	底部回転ヘラ削り。	微砂粒が入りやや 荒い、灰色 良好	P79 5% 覆土
6	坏 土師器	A [13.8] B 4.0 C 7.9	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転切り離し後、押え。	石英砂粒 橙色 普通	P71 65% 11C号住居跡竈 覆土
7	坏 土師器	A [14.6] B 4.2 C 6.2	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部不定方向のヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。	長石・スコリア 橙色 普通	P72 50% 11C号住居跡竈覆土
8	坏 土師器	A (12.5) B 3.7 C 7.2	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部調整不明。内面ヘラ磨き。	金雲母微粒 灰白色 普通	P73 60% 11C号住居跡竈覆土 内黒

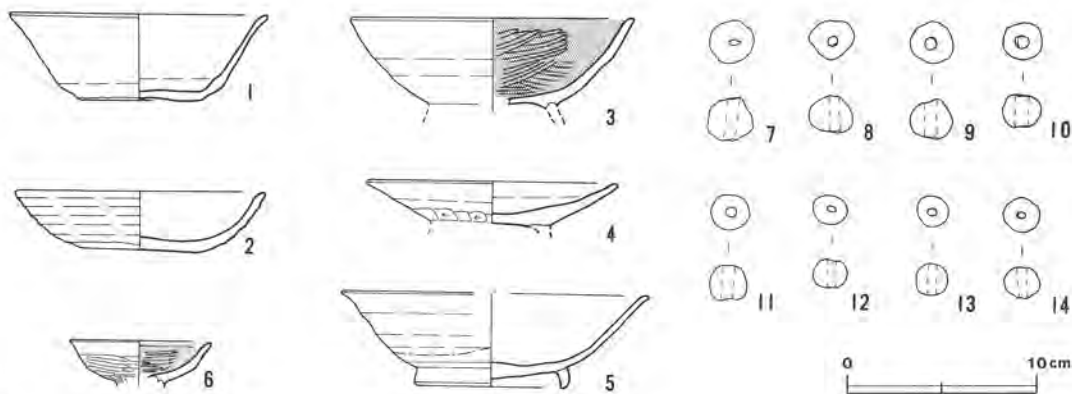
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第186図 9	甕 土師器	B(12.6)	体部破片。	体部外面縦位で幅広の平行叩き。	長石・石英砂粒多量 にぶい赤褐色 普通	P74 覆土 5%

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	管状土製品	4.5	2.1	—	(16.0)	覆土	DP26 孔径0.6 80%
11	支脚	(7.5)	11.7	—	(629.1)	竈覆土	DP27 80%
12	平瓦	(10.9)	(17.0)	—	(529.3)	竈袖部内	DP216
13	鐵狀鉄製品	(9.2)	1.8	0.4	(16.8)	11C号住居跡北東部覆土	M18

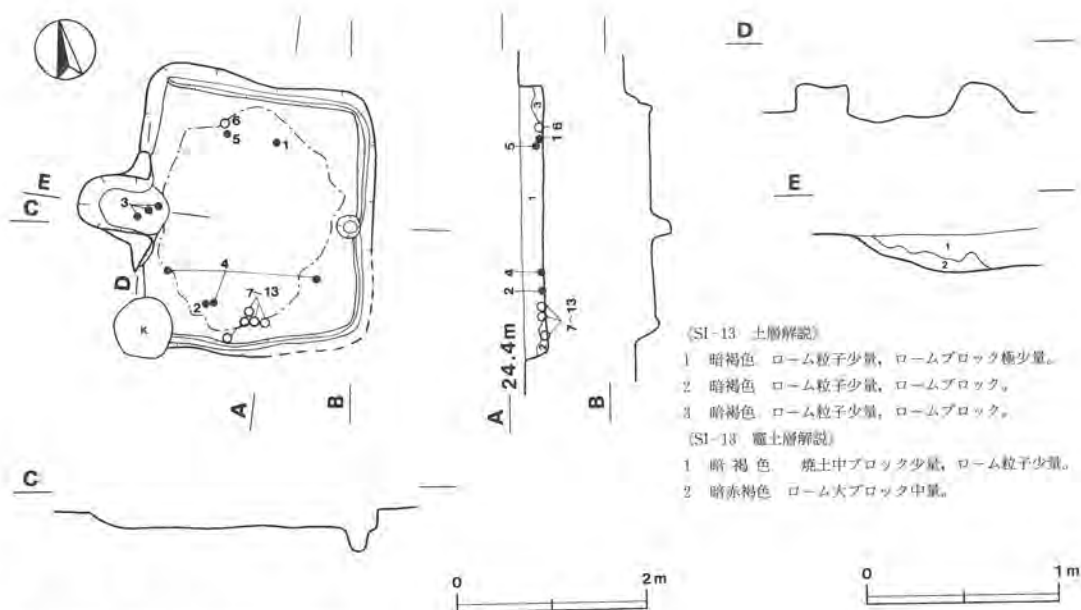
### 第13号住居跡 (第188図)

**位置** F6b<sub>2</sub>区 **規模と平面形** 短辺(東西方向)2.50m, 長辺(南北方向竈のある西壁側)2.70m, 東壁側2.50mの台形。 **主軸方向** N-81°-W **壁** 壁高20~28cmで, 垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦で, 踏み固められている。 **ピット** 1か所で, 径26cm, 深さ22cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。 **竈** 西壁中央部を62cm程壁外へ掘り込み, 砂まじりの粘土で構築されている。規模は, 幅124cm, 長さ97cmである。火床部はほぼ平坦で, 煙道部まで緩やかに立ち上がっている。覆土3層からなる。1層は, ロームの含有の少ない暗褐色土層である。2・3層は, 壁際に堆積したロームブロックを含む堆積土層である。遺物のほとんどは, 1層から出土している。 **遺物** 第187図1の坏は3層中から完形で出土している。その他の実測できた遺物は, すべて覆土の1・2層から破片で出土している。5の灰釉陶器の碗は, 猿投産のものに較べ全体に青白味がかっている。

**所見** 西側に竈を持ち, 平面形は竈側が長辺となる台形である点に特徴がある。当遺跡内では第17A号住居跡に類例がある。出土遺物は投棄遺物が主体であるが, ほぼ同時期頃のものと思われる。



第187図 第13号住居跡出土遺物実測図



第188図 第13号住居跡実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第187図 1	坏 土師器	A 13.8 B 4.6 C 6.7	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ切り離し無調整。体部のロシロ目弱い。	長石・石英砂粒多量 にふい橙色 普通	P91 80% 覆土(3層)
2	坏 土師器	A (13.5) B 3.2 C (6.4)	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転糸切り後、回転ヘラ削り。	長石主体の微粒子 浅黄橙色 普通	P93 50% 覆土(1・2層)
3	高台付坏 土師器	A 15.3 B (4.8)	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面ヘラ磨き。	目立つ含有物無し にふい黄橙色 普通	P94 45% 覆土(1・2層) 内馬
4	高台付皿 土師器	A 13.4 B (2.2)	平底で高台部はかかれ。口縁部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部下端ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	雲母微粒・石英・長石 砂粒, にふい橙色 普通	P95 70% 覆土(1・2層)
5	埴 灰軸陶器	A [16.5] B 5.0 D 8.2	平底で断面三日月形の高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。端部はわずかに外反する。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部内・外面横ナデ。	長石微粒極少量 灰白色 良好	P96 50% 覆土(1・2層)
6	器台 土師器	A [7.0] B (2.5)	受部破片。端部がわずかに外反する。	受部内・外面横位のヘラ磨き。	黄白色微砂粒 赤橙色 普通	P97 30% 覆土 赤彩

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	土玉	2.4	2.4	—	10.5	東壁際床面	DP29 孔径0.5~0.6 100%
8	土玉	2.0	2.3	—	8.5	西壁際床面一括の内の1つ	DP30 孔径0.5 100%
9	土玉	2.1	2.3	—	8.1	西壁際床面一括の内の1つ	DP31 孔径0.6~0.7 100%
10	土玉	1.8	2.0	—	6.0	西壁際床面一括の内の1つ	DP32 孔径0.7 100%
11	土玉	1.9	2.0	—	5.8	西壁際床面一括の内の1つ	DP33 孔径0.6 100%

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
12	土玉	1.6	1.8	—	4.0	西壁際床面一括の内の1つ	DP34 孔径0.4 100%
13	土玉	1.7	1.7	—	4.7	西壁際床面一括の内の1つ	DP35 孔径0.4~0.5 100%
14	土玉	1.7	1.9	—	5.2	西壁際床面一括の内の1つ	DP36 孔径 0.4~0.5 100%

#### 第14号住居跡 (第189図)

**位置** EG<sub>3</sub>区 **規模と平面形** 長軸3.94m, 短軸3.34mの長方形。 **主軸方向** N-7°-E

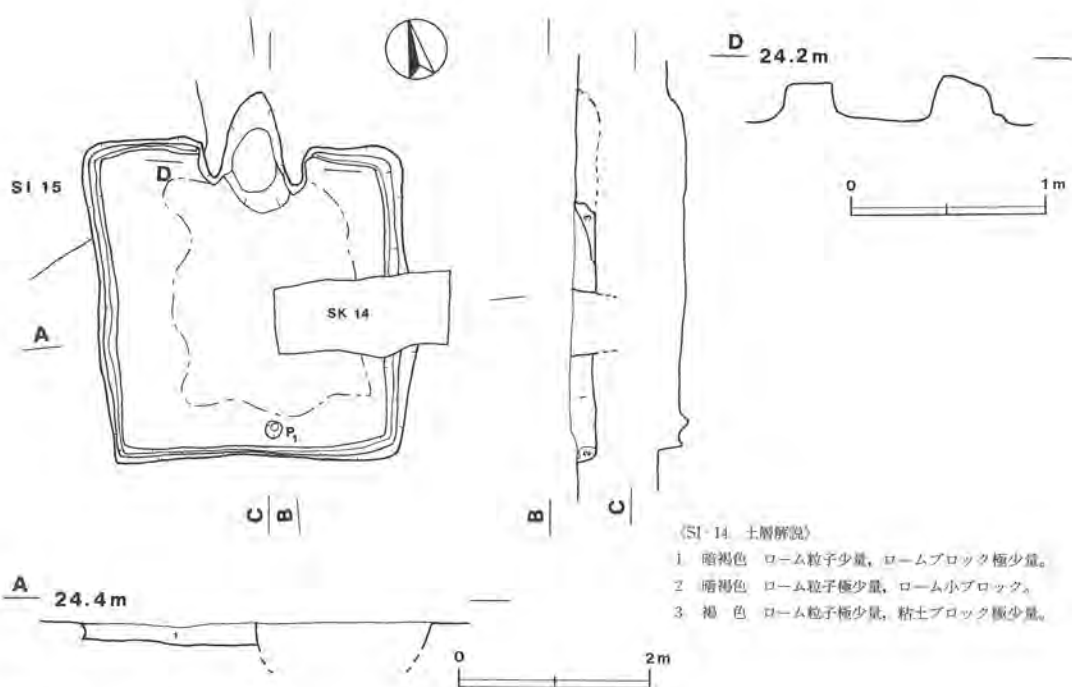
**壁** 壁高約22~32cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦で, 踏み固められている。

**ピット** 1か所で, 径18cm, 深さ10cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。 **竈** 北壁中央部を62cm程壁外へ掘り込み, 砂まじりの粘土で構築されている。規模は, 幅110cm, 長さ128cmである。火床部はほぼ平坦で奥壁まで続き, 煙道部下端から急激に立ち上がっている。

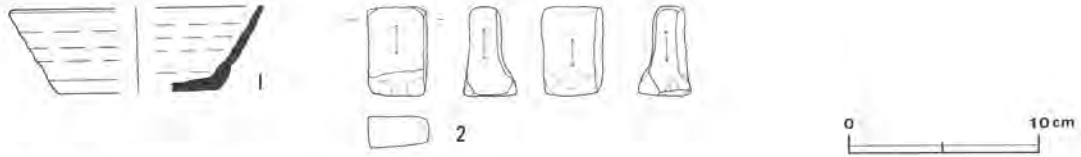
**覆土** 3層からなる。1層は, ロームブロックを極少量含む土層である。2層は, 南壁際にわずかに堆積した土層で, 3層は竈の粘土の流失土層である。

**遺物** 竈の覆土内から第190図-1の須恵器杯が破片で出土している。その他の遺物は, 1層から細片が少量出土している。

**所見** 本跡は, 出土遺物から8世紀後葉頃と考えられる。



第189図 第14号住居跡実測図



第190図 第14号住居跡出土遺物実測図

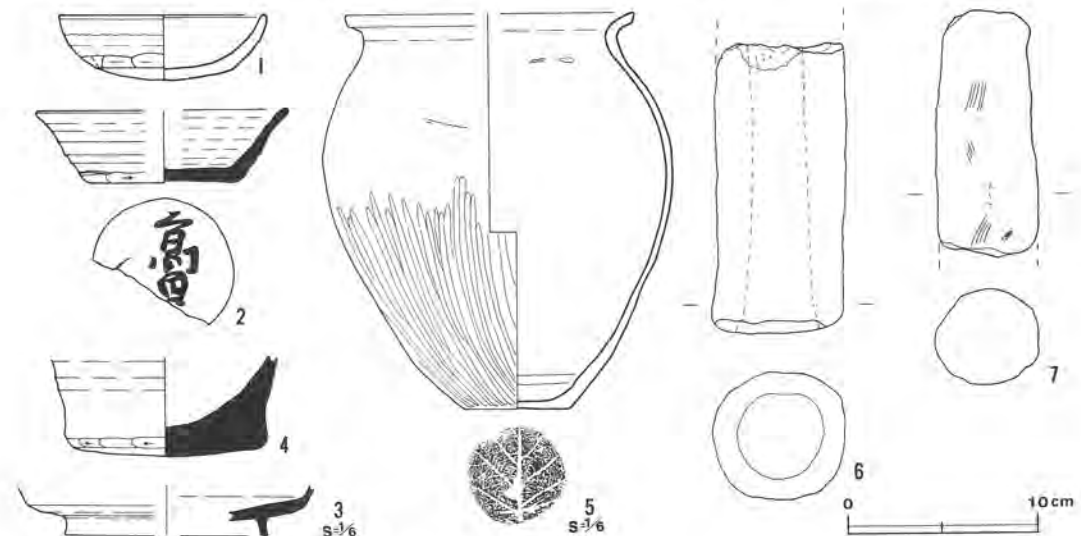
第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第190図 1	坏 須恵器	A [13.5] B 4.6 C [8.5]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へ削り。体部下端 手持ちへ削り。	雲母多量 灰色 普通	P98A 10% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	砥石	4.8	3.2	1.7	49.9	覆土	Q2 砂岩

第16号住居跡 (第192図)

**位置** E6h<sub>1</sub>区 **重複関係** 第68号住居跡に北東コーナー部を掘り込まれている。**規模と平面形** 長軸3.88m, 短軸3.80mの方形。**主軸方向** N-10°-W **壁** 壁高32~46cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。**床** 第20A号住居跡と重複している部分では、同住居跡の覆土中に床面を作っているため不明瞭であった。しかし、わずかな硬化面と少量のロームブロック、遺物の広がり状況で床が確認できた。**ピット** 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>は、径28~36cm, 深さ22~54cmで、北壁側のP<sub>1</sub>とP<sub>4</sub>は南壁側に並ぶP<sub>2</sub>, P<sub>3</sub>の半分ほどの深さでいずれも支柱穴と考えられる。支柱穴は各々南北方

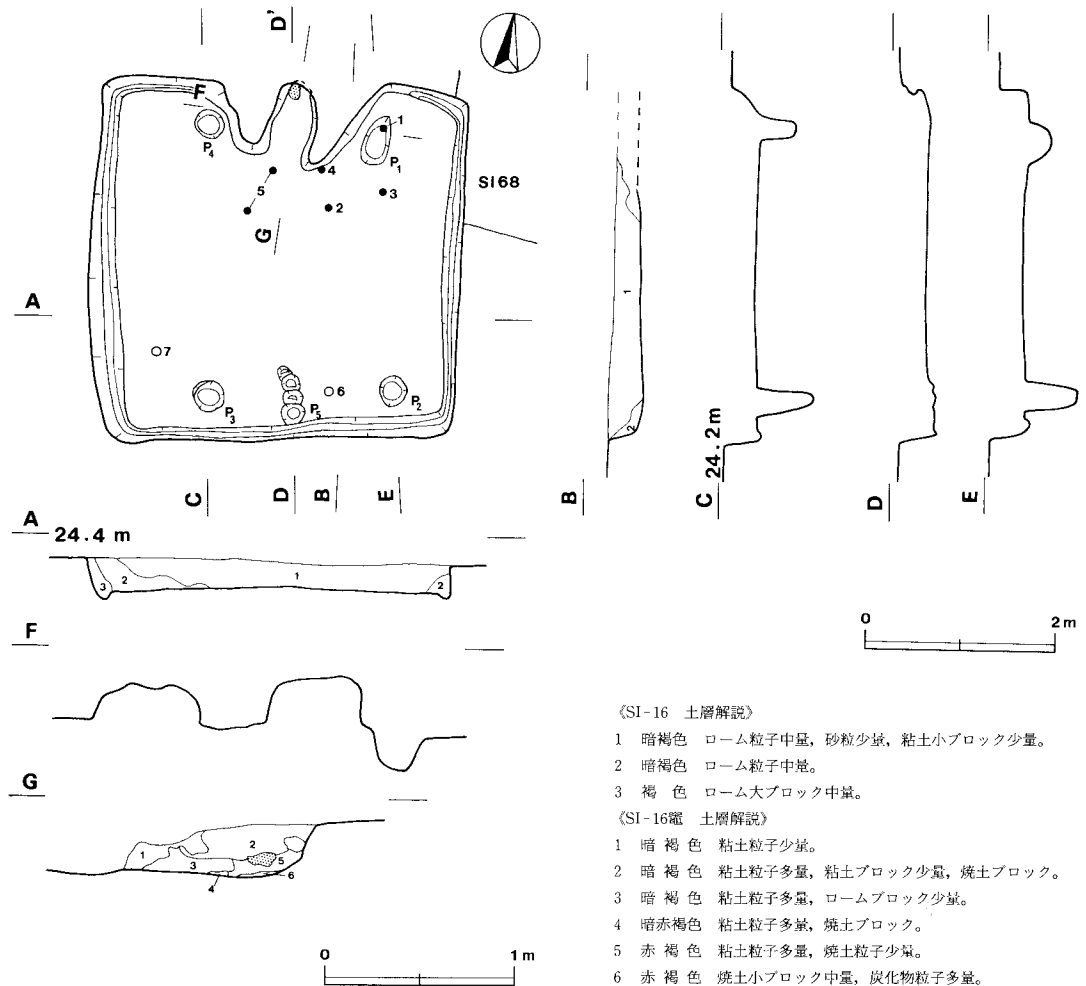


第191図 第16号住居跡出土遺物実測図



向の壁に寄った位置にあり、南北方向に長い長方形の配置となっている。P<sub>5</sub>~P<sub>8</sub>は径14~24cm、深さ10cm前後で重複関係があり南壁方向に向かって順次新しくなる。出入口施設の付け替えに伴うピットと考えられる。 竈 北壁中央部に構築されている。規模は、幅140cm、長さ96cmである。火床は平坦で、火床上には厚さ3cmほどの炭化物と灰の層が幅32cm、長さ24cmの範囲に堆積している。 覆土 3層からなる。3層は、壁崩落のローム土、2層は壁際に自然堆積状に入り込んだ土層で、覆土の主体となるのは1層である。遺物は、1層中にはほとんど含まれない。 遺物 第191図-1~3・5の遺物は、崩れた竈付近の2層中から出土している。4の須恵器の播鉢は、竈前面の床上から出土している。

所見 本跡は、重複関係から、第68号住居跡よりも古く、出土遺物から8世紀後葉の住居跡と考えられる。



《SI-16 土層解説》

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、砂粒少量、粘土小ブロック少量。
- 2 暗褐色 ローム粒子中量。
- 3 褐色 ローム大ブロック中量。

《SI-16竈 土層解説》

- 1 暗褐色 粘土粒子少量。
- 2 暗褐色 粘土粒子多量、粘土ブロック少量、焼土ブロック。
- 3 暗褐色 粘土粒子多量、ロームブロック少量。
- 4 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック。
- 5 赤褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量。
- 6 赤褐色 焼土小ブロック中量、炭化物粒子多量。

第192図 第16号住居跡実測図

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第191図 1	坏 土師器	A 11.0 B 3.5	丸底。底体部は内彎して立ち上がる。	底体部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英の微粒子 橙色 普通	P106 90% 覆土(2層)
2	坏 須恵器	A [13.4] B 3.9 C 7.6	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・雲母 灰白色 普通	P107 40% 覆土(2層) 墨書
3	高台付坏 須恵器	B (4.1) D [16.0]	平底で外側にわずかに開く高台が付く。体部は口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾して開く。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部内・外面横ナデ。	石英・長石・黒色粒子 灰白色 普通	P108 30% 覆土(2層)
4	撞鉢 須恵器	B (5.3) C 9.8	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母多 灰白色 普通	P109 40% 床面
5	甕 土師器	A [23.0] B 31.7 C 8.3	平底。体部上位に最大径を持ち、口縁部は外反する。口唇部をわずかに上方に持ち上げる。	体下半部外面斜位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 明黄褐色 普通	P110 45% 覆土(2層)

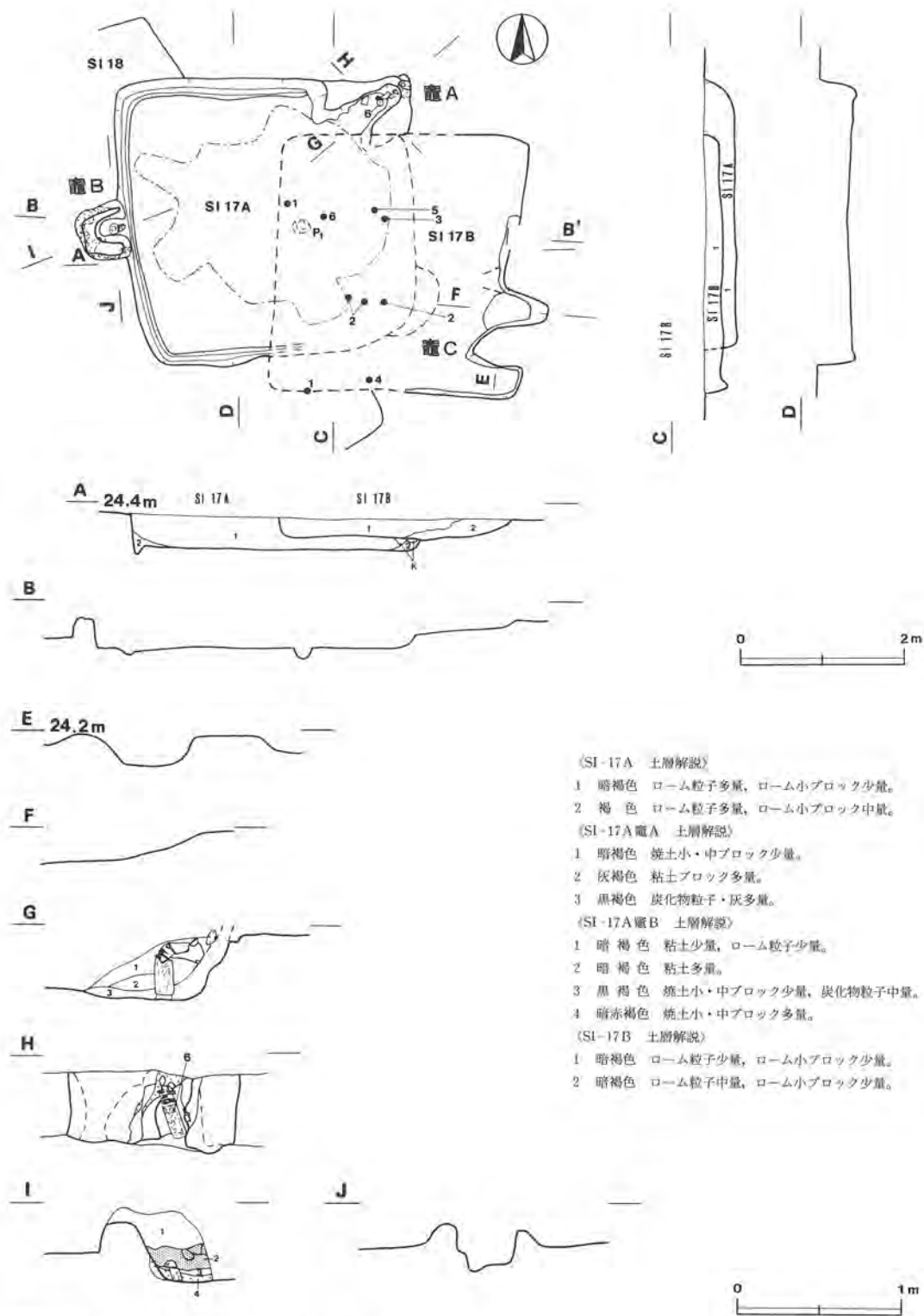
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	羽口	(15.5)	7.1	—	(680.5)	南壁際床面	DP38 孔径2.9~4.5 90%
7	支脚	(13.1)	5.3	—	(371.6)	南西部床面	DP39 90%

第17A号住居跡(第193図)

**位置** E6i<sub>1</sub>区 **重複関係** 第17B号住居跡によって覆土上層部を掘り込まれている。本跡内においても、竈Bは、西壁の壁溝によって袖部を切り取られている。同じ様に、竈Cも袖部が取り払われている。**規模と平面形** 長軸4.12m, 短軸3.50mの方形。**主軸方向** N-3°-W

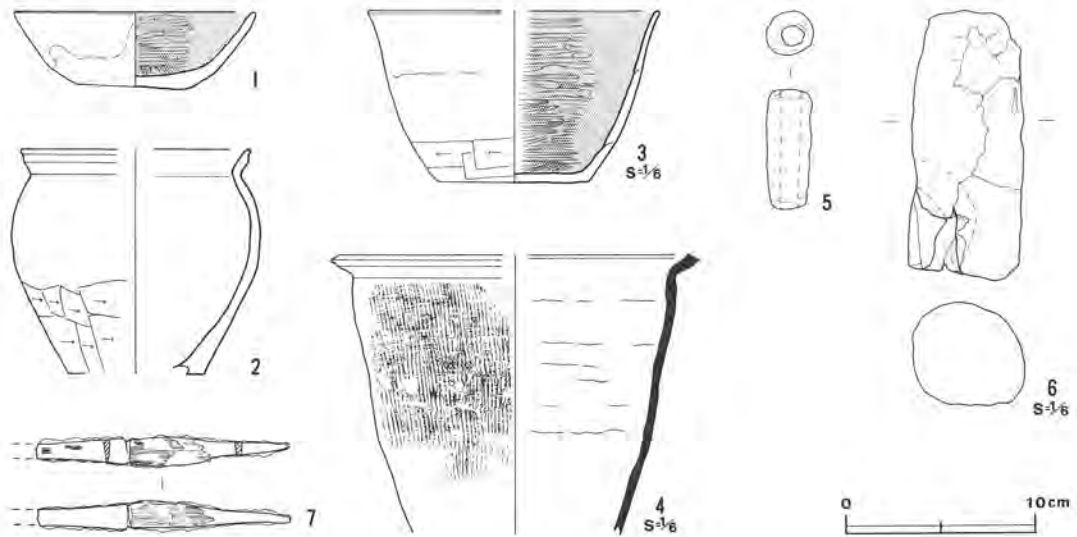
**壁** 壁高22~54cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。**床** 平坦で、中央部分が踏み固められている。**ピット** 1か所、床面中央部のやや東寄りの位置で確認できた。規模は径20cm, 深さ14cmで、配置上から、古い竈Bの段階の出入り口施設に伴うピットと推測できる。**竈** 竈は3か所確認された。竈Bは西壁中央部を26cm程壁外へ掘り込んで構築されている。規模は、掘り込み幅72cm, 奥行長54cmである。中央部に土製支脚と土師器の坏身を伏せて重ねた支脚が残っていた。竈Cは、南東コーナー部に幅70cm, 奥行き50cmの掘り込みがあり、そこに灰が堆積していたことから竈と判断した。袖部の痕跡はなかった。竈Aは、北東コーナー部に住居中央部を向いて構築されており、袖もよく残っていた。規模は、幅110cm, 長さ126cmで、竈奥壁から20cmほど手前に支脚状の土製品に土器片を5, 6片積み上げた総高40cmほど柱状のものが残っていた。**覆土** 2層からなり、2層は壁直下にわずかに堆積した土層であり、1層が覆土の大部分を占めている。

**遺物** ほとんどの出土遺物は、投棄遺物である。第194図-2の甕破片と、4の須恵器の鉢の破片が竈B内から出土している。



第193図 第17A・17B号住居跡実測図

所見 床面中央のピットを出入り口施設のピットと考えたのは、竈Bと同じ位置に竈を持っていること及び台形プランである第13号住居跡との類似性から判断した。第13号住居跡は東西方向が短く、西壁を長辺とする台形のプランで西壁側に竈を持っている。本跡は、西竈で第13号住居跡と同じ台形の住居として構築した後、東部を拡張して方形にし、南東コーナー部に竈を設置し、その後さらに、北東コーナー部に竈を付け替えているものと考えられる。竈Aの奥壁近くに残っていた支脚状の土製品は、位置関係と総高から竈甕を支えるものでなく、竈天井部を支えるものと考えられる。本跡は、出土遺物から、9世紀後葉から10世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



第194図 第17A号住居跡出土遺物実測図

第17A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第194図 1	坏 土師器	A 13.0 B 4.0 C 7.9	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部外面横ナデ。内面へラ磨き。	長石・石英砂粒・長石主体の微砂粒、橙色普通	P111 70% 覆土 内黒
2	甕 土師器	A [12.2] B 12.0 C [7.2]	平底。体部上位に最大径を持ち、口縁部は外反する。口唇部を上方につまみ上げる。	体下半部外面横位のへラ削り。	長石・石英・雲母にふい橙色普通	P112 35% 覆土
3	鉢 土師器	A [23.2] B 13.8 C 11.8	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部下端横位のへラ削り。内面へラ磨き。	長石・雲母・微砂粒・海綿骨針、橙色普通	P113 40% 竈B 覆土 内黒
4	鉢 須恵器	A [29.2] B (22.3)	底部欠損。体部は外傾して立ち上がる。口縁部で外反する。	体部外面横位の平行叩き後、縦位の平行叩き。疑格子風の叩き目となっている。	長石・石英砂粒・雲母灰色普通	P114 35% 竈B 覆土

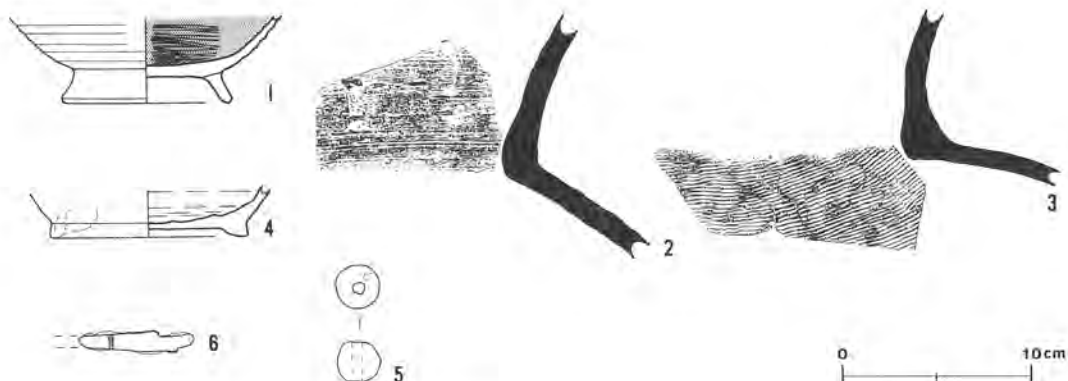
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	管状土製品	6.3	2.4	—	(34.1)	覆土 (17B号出土の可能性有)	DP40 孔径1.1 95%
6	支脚	21.6	9.3	—	1187.0		DP41 竈覆土
7	刀子	(13.5)	1.5	0.4	22.9	覆土	M20

第17B号住居跡（第193図）

位置 E6i<sub>2</sub>区 重複関係 第17A号住居跡を掘り込んで構築している。規模と平面形 長軸2.70m, 短軸2.10mの長方形。主軸方向 N-94°-E 壁 壁高約10cmである。床 硬化が弱く, 第17A号住居跡と重複している西部は, 床面の平面的な確認が困難であった。竈 東壁南寄りを30cm程壁外へ掘り込み構築されている。規模は, 幅120cm, 長さ104cmで, 竈の左袖の残りの状態は悪い。覆土 2層からなる。

遺物 ほとんどの遺物は覆土中の遺物である。第195図-1の坏は, 南西コーナー付近から, 2・3の須恵器の大甕片は覆土中に一度に投棄されたような状態で, 4の灰釉陶器の長頸瓶は南壁寄りの覆土中から出土している。

所見 本跡は, 高台のついた土師器の埴の形態や, 灰釉陶器, 須恵器大甕の出土といった器種組成からみて, 10世紀中葉以降の時期と考えられる。遺構の形態からも, 長方形で東竈であることがそれを裏付けていると思われる。



第195図 第17B号住居跡出土遺物実測図

第17B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第195図 1	高台付坏 土師器	A (14.4) B (4.6) D 8.9	平底で「ハ」の字に開く高台が付く。体部は内樽して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面ヘラ磨き。	雲母にふい褐色 普通	P115 50% 覆土 内黒
2	甕 須恵器	B (13.5)	頸部破片。	頸部内・外面横ナデ。	長石・石英砂粒・海綿骨針, 青灰色。 普通	P116 5% 覆土
3	甕 須恵器	B (12.0)	頸部破片。	体部外面横位の平行叩き。頸部外面6本一条の櫛歯による波状文を2条付す。	長石微砂粒 青灰色 良好	P117 5% 覆土
4	長頸瓶 灰釉陶器	B (2.7) D 10.4	底部破片。平底で短い高台が付く。	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。	緻密で長石微砂粒少 灰白色 良好	P118 10% 覆土

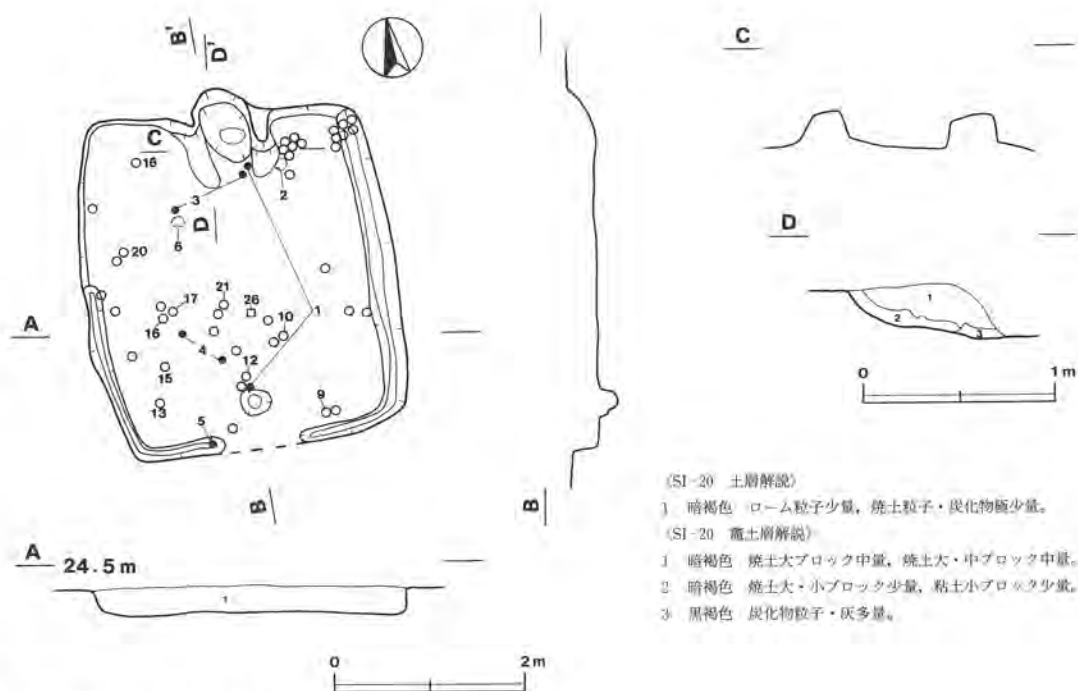
図版番号	器 種	計 測 値				出 土 位 置	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
5	土 玉	2.2	2.3	—	(10.5)	覆土	DP42 孔径0.6 90%
6	刀 子	(6.2)	1.1	0.3	(6.7)	覆土	M21

### 第20号住居跡 (第196図)

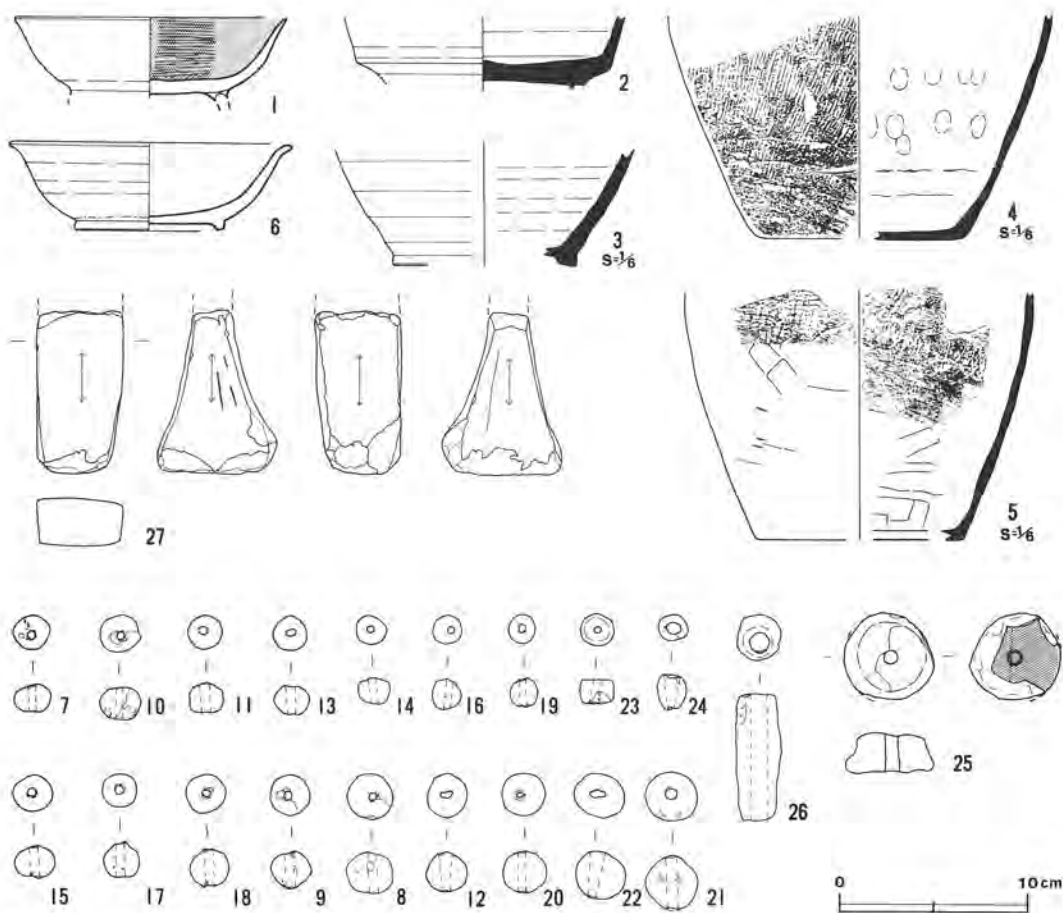
**位置** F6b<sub>1</sub>区 **規模と平面形** 長軸3.52~3.64m, 短軸3.30mの南北方向に長い長方形で、やや西壁側が長い台形気味である。**主軸方向** N-5°-E **壁** 壁高30~32cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。**床** 平坦で、踏み固められている。**ピット** 1か所で、径34cm, 深さ20cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。**竈** 北壁中央部を30cm程壁外へ掘り込み、砂まじりの粘土で構築されている。規模は、幅100cm, 長さ104cmである。火床部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに立ち上がっている。**覆土** 1層である。

**遺物** 実測できた遺物は、すべて覆土1層から破片で出土したものである。第197図-2の須恵器高台付坏を除いて、1の高台付坏や6の灰釉陶器の塊等は、住居跡の存続期間内に収まる遺物である。そのほかに約50点の土玉が覆土中から出土している。

**所見** 覆土中の遺物の中では、9世紀後葉頃の遺物が最も新しく、9世紀後葉頃の住居跡と考えられる。



第196図 第20号住居跡実測図



第197図 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第197図 1	高台付 土師器	A 14.6 B (4.2)	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面ヘラ磨き。	雲母・石英 にぶい黄橙色 普通	P149 50% 覆土(1層) 内黒
2	高台付 須恵器	B (4.1)	平底で高台が付く。体部は外傾して開く。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面ヘラ磨き。	長石砂礫・長石礫 灰色 普通	P150 40% 覆土(1層)
3	長頸 須恵器	B (9.3) D [14.6]	体下半部破片。平底で高台が付く。体部は外傾して開く。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部内・外面横ナデ。	長石砂粒・石英微粒・ 黒色粒子、暗紫灰色 普通	P153 5% 覆土(1層)
4	甕 須恵器	B (18.0) C [16.4]	体下半部破片。平底で。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き。体下半部横位のヘラ削り。	長石微砂粒多量 灰色 普通	P151 30% 覆土(1層)
5	甕 須恵器	B (19.9) D [16.4]	体下半部破片。平底で多孔。体部は外傾して開く。	体部外面格子叩き。体下半部外面斜～横位のヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P152 30% 覆土(1層)
6	埴 灰軸陶器	A 15.2 B 4.6 D 8.0	平底で断面方形の高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり、端部で小さく外反する。	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。体下半部回転ヘラ削り。口縁部内・外面及び体部内面横ナデ。	緻密な胎土で目立つ 含有物無し、灰白色 良好	P154 55% 高台部と底部外面 を除き全面施釉

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 位 置	備 考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
	土 玉	1.8	1.7	—	4.6	覆土	DP88 孔径0.4	100%
	土 玉	1.9	2.1	—	7.7	覆土	DP89 孔径0.5	100%
7	土 玉	1.5	2.0	—	4.7	覆土	DP90 孔径0.4	100%
	土 玉	1.8	1.7	—	4.0	覆土	DP91 孔径0.6	100%
	土 玉	1.8	2.3	—	7.0	覆土	DP92 孔径0.5	100%
	土 玉	1.9	2.1	—	6.2	覆土	DP93 孔径0.8	100%
8	土 玉	2.2	2.4	—	11.8	覆土	DP94 孔径0.4	100%
	土 玉	(2.0)	2.2	—	6.6	覆土	DP95 孔径0.4	100%
	土 玉	1.7	2.2	—	5.7	覆土	DP96 孔径0.4	100%
	土 玉	2.1	2.0	—	5.7	覆土	DP97 孔径0.4	100%
	土 玉	1.7	2.0	—	5.7	覆土	DP98 孔径0.4	100%
	土 玉	1.9	2.1	—	6.8	覆土	DP99 孔径0.4	100%
9	土 玉	2.1	2.1	—	6.8	北東部覆土	DP100 孔径0.5	100%
	土 玉	2.1	2.1	—	6.2	覆土	DP101 孔径0.5	100%
10	土 玉	1.6	1.9	—	5.8	北東部覆土	DP102 孔径0.3	80%
	土 玉	2.4	2.4	—	13.3	覆土	DP103 孔径0.5	80%
11	土 玉	1.6	1.8	—	4.5	北東部覆土	DP104 孔径0.4~0.5	100%
	土 玉	1.6	1.5	—	3.3	覆土	DP105 孔径0.5	100%
	土 玉	1.5	2.0	—	4.4	覆土	DP106 孔径0.5	100%
	土 玉	2.0	1.7	—	6.4	覆土	DP107 孔径0.5	100%
	土 玉	(1.4)	(1.7)	—	4.4	覆土	DP108 孔径	50%
12	土 玉	2.1	2.2	—	8.1	北東部覆土	DP109 孔径0.4~0.7	100%
	土 玉	1.6	1.9	—	3.7	覆土	DP110 孔径0.7	100%
	土 玉	2.1	2.4	—	8.5	覆土	DP111	100%
13	土 玉	1.6	1.8	—	4.0	北東部覆土	DP112 孔径0.4~0.5	100%
	土 玉	1.8	2.1	—	5.7	覆土	DP113 孔径0.9	100%
	土 玉	1.7	1.9	—	4.4	覆土	DP114 孔径0.3~0.5	100%
14	土 玉	1.4	1.7	—	3.4	北東部覆土	DP115 孔径0.4	100%
15	土 玉	1.8	2.2	—	6.0	覆土	DP116 孔径0.5	100%
	土 玉	2.0	1.8	—	6.8	覆土	DP117 孔径0.7	100%
	土 玉	1.7	2.0	—	6.2	覆土	DP118 孔径0.8	100%
16	土 玉	1.6	1.6	—	3.4	覆土	DP119 孔径0.4	100%
	土 玉	(2.2)	(2.1)	—	5.2	覆土	DP120 孔径0.5	100%
17	土 玉	1.8	1.8	—	5.3	覆土	DP121 孔径0.5	100%
	土 玉	2.0	2.5	—	8.1	覆土	DP122 孔径0.5	100%
	土 玉	1.6	2.1	—	4.8	覆土	DP123 孔径0.6~0.8	100%
	土 玉	1.8	2.1	—	6.1	覆土	DP124 孔径0.6~0.7	100%
	土 玉	1.8	(1.8)	—	5.5	覆土	DP125 孔径0.4	100%
	土 玉	1.8	2.1	—	6.1	覆土	DP126 孔径0.4~0.6	100%
	土 玉	1.4	1.8	—	3.4	覆土	DP127 孔径0.5	100%
	土 玉	1.8	1.5	—	4.3	覆土	DP128 孔径0.4	100%
	土 玉	1.8	1.6	—	4.5	覆土	DP129 孔径0.5	100%
	土 玉	1.5	1.9	—	4.9	覆土	DP130 孔径0.5	100%
18	土 玉	2.1	2.2	—	7.9	覆土	DP131 孔径0.4	100%
19	土 玉	1.6	1.4	—	3.0	覆土	DP132 孔径0.4	100%
	土 玉	2.2	2.2	—	9.2	覆土	DP133 孔径0.6	100%
20	土 玉	2.2	2.3	—	11.0	覆土	DP134 孔径0.4	100%
	土 玉	2.4	2.0	—	9.1	覆土	DP135 孔径0.4~0.6	100%
	土 玉	2.2	2.0	—	6.7	覆土	DP136 孔径0.5	100%
	土 玉	1.6	1.9	—	3.9	覆土	DP137 孔径0.8	100%

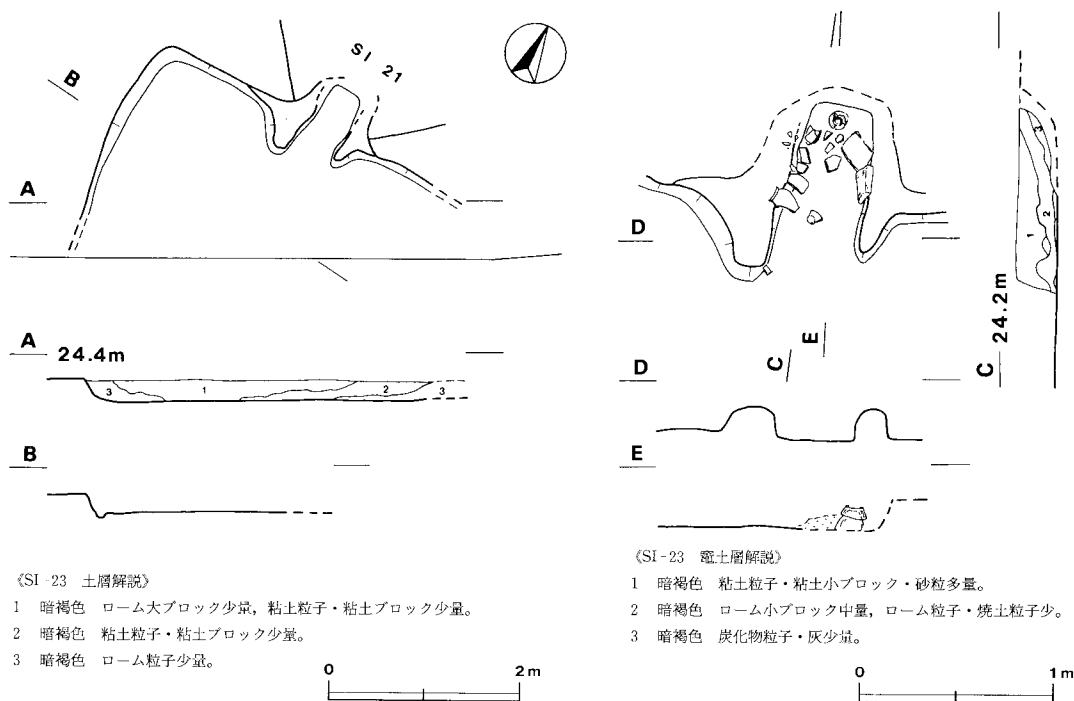


図版番号	器 種	計 測 値				出 土 位 置	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
	土 玉	2.6	2.5	—	12.4	覆土	DP138 孔径0.8~1.0 100%
21	土 玉	2.8	2.8	—	18.0	覆土	DP139 孔径0.6 95%
22	土 玉	2.6	2.4	—	12.6	覆土	DP140 孔径0.5~0.8 100%
23	土 玉	2.6	2.1	—	12.6	覆土	DP141 孔径0.4 90%
24	土 玉	1.9	1.6	—	3.0	覆土	DP142 孔径0.3~0.9 95%
25	紡 錘 車	—	5.0	2.1	36.2	北東部覆土	DP87 孔径0.75 黒色処理 80%
26	管状土製品	6.7	2.4	—	30.0	北東部覆土	DP143 孔径1.0 100%
27	砥 石	(8.7)	6.3	4.5	296.6	床面中央部覆土下層	Q 6

第23号住居跡 (第198図)

位置 F6c区 規模と平面形 一辺3.5m以上あり、南部は調査エリア外に延びている。

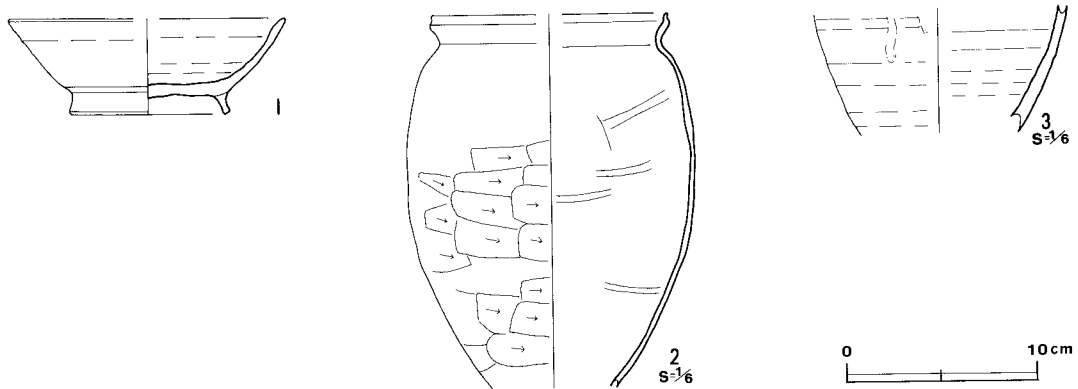
主軸方向 N-10°-E 壁 壁高20~22cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。床 平坦で、踏み固められている。竈 北壁中央部を70cm程壁外へ掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。内壁の一部に長さ15cm、厚さ3cmの片岩系の石材を使っている。規模は、幅90cm、長さ110cmである。火床から煙道部の立ち上がり部まではほぼ平坦で、煙道部の立ち上がる奥壁から15cm手前に甕の底部と塀を逆位にして重ねた支脚状の施設が残っていた。覆土 3層からなる。1・2層は近代の攪乱によってかなり乱されている。3層は暗褐色の自然堆積土層である。



第198図 第23号住居跡実測図

**遺物** 実測遺物の大半は、竈内から出土し、竈を構築した時期の遺物である。竈の最奥部の中央に置かれた第199図-1の壺は支脚状の施設に利用されていたものである。2の甕は、左袖部の内壁面に数片が竈補強材として使われていたようである。3の灰釉陶器の長頸瓶は竈左袖部前面の床面から出土しているが、小片であるため、本跡に伴う遺物かどうか不明である。

**所見** 竈構築時の出土遺物から、9世紀後葉から10世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



第199図 第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第199図 1	高台付壺 土師器	A [14.7] B 5.1 D 8.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内湾気味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部内・外面横ナデ。	長石砂礫・石英砂礫 明赤褐色 普通	P160 70% 竈最奥部で壺体部片の上で逆位
2	甕 土師器	A [18.8] B (30.0)	体部上位に最大径を持ち、頸部でくびれ、口縁部は外反する。口唇部をわずかに上方に持ち上げる。	体下半部外面横位のヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 明黄褐色 普通	P161 40% 袖部補強材として
3	長頸瓶 灰釉陶器	B (10.0)	体部破片。	体部内・外面横ナデ。	白色微砂粒・鉄分少 明赤灰色 良好	P163 5% 覆土 床面

第24号住居跡 (第200図)

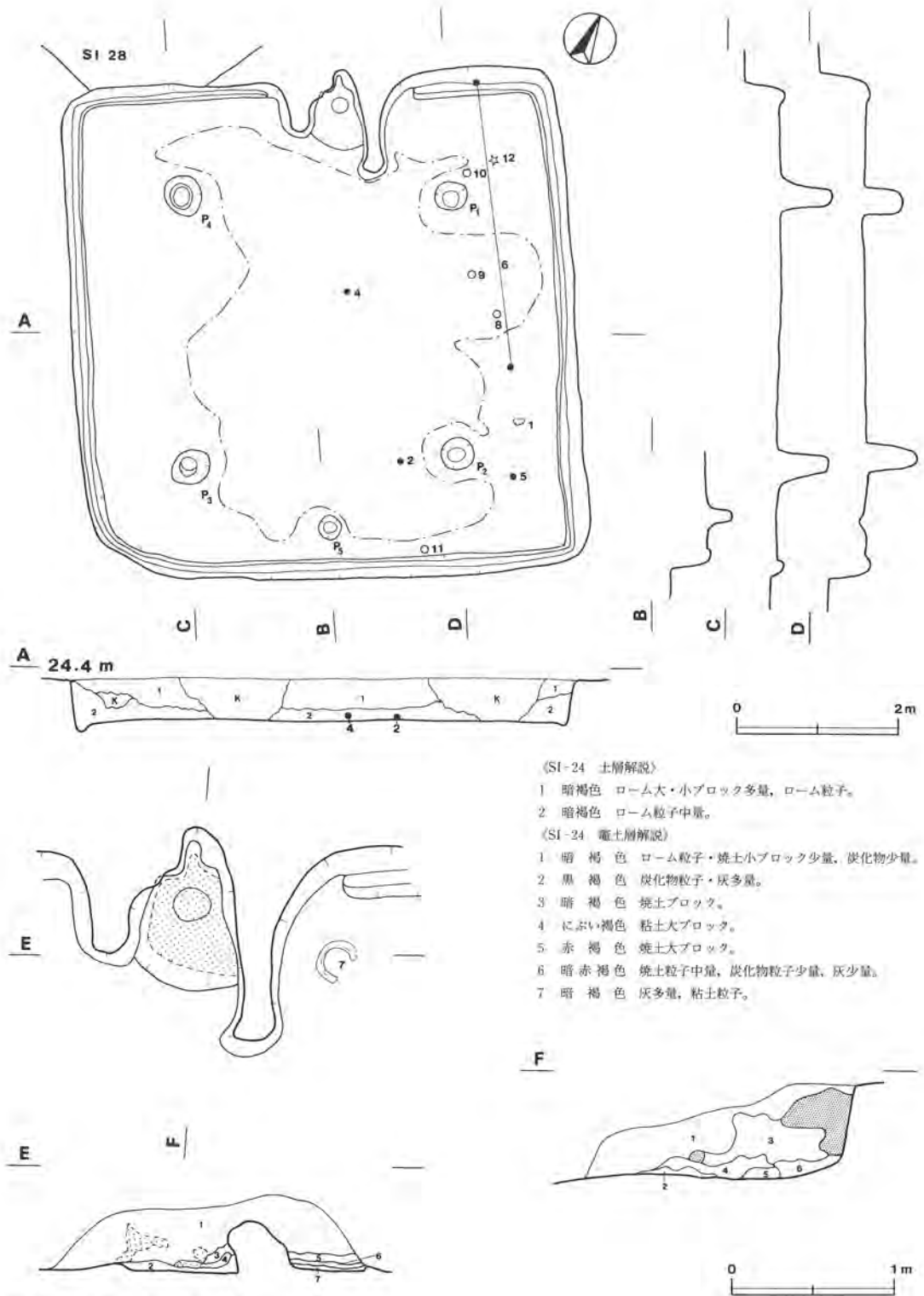
**位置** F5b<sub>0</sub>区 **規模と平面形** 長軸6.14m, 短軸6.10mの方形。 **主軸方向** N-24°-W

**壁** 壁高約58~64cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。 **床** 平坦で、踏み固められている。

**竈** 北壁中央部を22cm程壁外へ掘り込み、ローム土及び砂まじりの褐色粘土で構築されている。

規模は、幅130cm, 長さ132cmである。右袖内壁部から奥壁、煙道部の立ち上がり部をはさんで右袖奥壁部まで、高さ60cm程の範囲が赤変硬化して良好に残っていた。 **ピット** 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>

は径34~52cm, 深さ46~62cmで支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は径29cm, 深さ32cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。 **覆土** 2層からなる自然堆積土層である。下層の2層は最も薄い住居跡中央部で15cmほどある。1・2層ともに土器破片の含有が多い。



《SI-24 土層解説》

- 1 暗褐色 ローム大・小ブロック多量, ローム粒子。
- 2 暗褐色 ローム粒子中量。

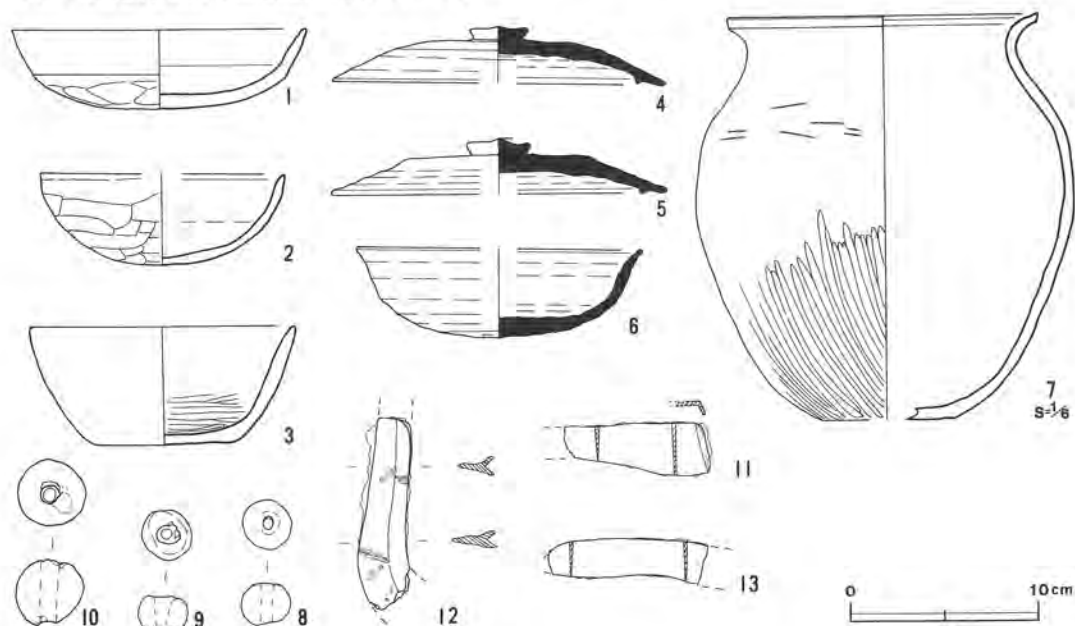
《SI-24 電土層解説》

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック少量, 炭化物少量。
- 2 黒褐色 炭化物粒子・灰多量。
- 3 暗褐色 焼土ブロック。
- 4 にぶい褐色 粘土大ブロック。
- 5 赤褐色 焼土大ブロック。
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化物粒子少量, 灰少量。
- 7 暗褐色 灰多量, 粘土粒子。

第200図 第24号住居跡実測図

遺物 実測できた遺物は、2層のものが多かった。第201図-1~3の坏は床面上から出土しているが、完存率が低く投棄遺物と考えられる。4・5の須恵器の蓋は、2層の上層付近から出土している。7の甕は竈の右側の2層中から出土している。

所見 覆土中の遺物は、ある程度まとまった時期の遺物と考えられる。本跡は、これらの遺物から、8世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



第201図 第24号住居跡出土遺物実測図

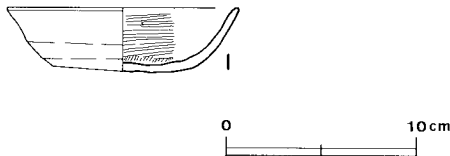
第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第201図 1	坏 土師器	A 15.6 B 4.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。	底部へラ削り。	長石・石英主体の微砂粒、橙色 普通	P164 70% 床面
2	坏 土師器	A [12.8] B 4.9	丸底。底体部は内彎して立ち上がる。	底体部へラ削り。	砂粒微量・スコリア 淡橙色 普通	P166 30% 床面
3	坏 土師器	A 14.0 B 4.3	平底。体部は外傾して立ち上がる。	全面ていねいなへら磨き。	長石微砂粒少量、 スコリア少量、橙色 普通	P167 70% 床面
4	蓋 須恵器	A [17.6] B 3.0 F 3.0	中央部のやや突出した偏平なつまみが付く。内面に低いかえりが付く。	天井部回転へら削り。	長石・石英・雲母 明茶灰色 普通	P168 30% 覆土(2層)
5	蓋 須恵器	A [17.8] B 2.9 F 3.4	中央部のやや突出した偏平なつまみが付く。内面に低いかえりが付く。	天井部回転へら削り。	石英・雲母 灰白色 普通	P169 30% 覆土(2層)
6	坏 須恵器	A [15.3] B 4.8	丸底気味の平底。口縁部は外傾し、端部付近で外反する。内面端部に沈線を持つ。	底部回転へら削り。	長石・石英の砂粒多 灰白色 普通	P170 40% 覆土(2層)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第201図 7	甕 土師器	A 24.7 B 32.5 C (10.6)	平底。体部は卵球形で、口縁端部をわずかに上方につまみ上げる。	体部下半斜位のヘラ磨き。	長石 灰褐色 普通	P172 60% 甕覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	土玉	2.2	2.5	—	12.2	覆土	DP146 孔径0.6 100%
9	土玉	1.7	2.6	—	12.8	覆土	DP147 孔径0.6~1.1 100%
10	土玉	3.5	3.6	—	38.0	覆土	DP148 孔径0.8~1.0 95%
11	鎌	(7.8)	2.8	0.3	22.0	南壁壁溝	M23
12	鋤先状鉄製品	(10.3)	(2.8)	0.8	(54.4)	覆土(2層)	M24
13	鎌	(8.4)	(2.6)	0.2	17.8	覆土(1・2層)	M25

### 第25号住居跡



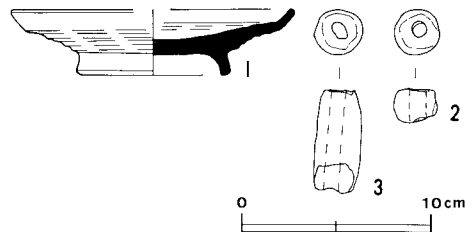
第202図 第25号住居跡出土遺物実測図

### 第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第202図 1	坏 土師器	A 12.4 B 3.5 C 7.7	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向ヘラ削り。体部外面横ナデ。内面ヘラ磨き。	石英・長石微砂粒少 にぶい黄橙色 普通	P173 100% 床面 内黒

### 第27号住居跡 (第152図)

**位置** E5i7区 **重複関係** 第64号住居跡を掘り込んでいる。**規模と平面形** 長軸2.62m, 短軸2.38mの長方形。**主軸方向** N-68°-E **壁** 壁高5~14cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。**床** 平坦で、P<sub>1</sub>付近を除いてほぼ全面が踏み固められている。



**竈** 北東壁北部のコーナー寄りの位置を35 cm程壁外へ掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。規模は幅90cm, 長さ112cmである。火床部は2 cmほど床を掘りくぼめている。**覆土** 2層からなり、1層が主体となる。1・2層とも自然堆積土層と考えられる。

第203図 第27号住居跡出土遺物実測図

遺物 第203図-1の須恵器の小形盤は、竈覆土中から出土している。

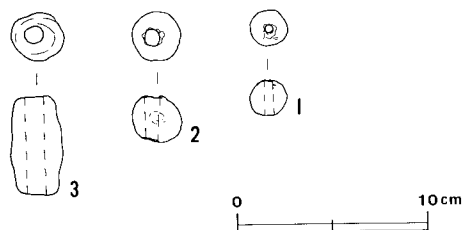
所見 住居規模が小さく、竈が東壁側の北東コーナーに非常に近い位置につくられている点に特色がある。出土遺物から、9世紀後葉頃の住居跡と考えられる。

### 第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第203図 1	小形盤 須恵器	A [15.0] B 3.5 D 8.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して開き、口縁との境に稜を持って立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部内・外面横ナデ。	雲母・長石・石英微砂粒、灰白色普通	P177 65% 竈覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
2	土玉	1.8	2.5	—	9.4	床面	DP150 孔径1.8	80%
3	管状土製品	5.5	2.5	—	31.1	覆土	DP151 孔径0.7	90%

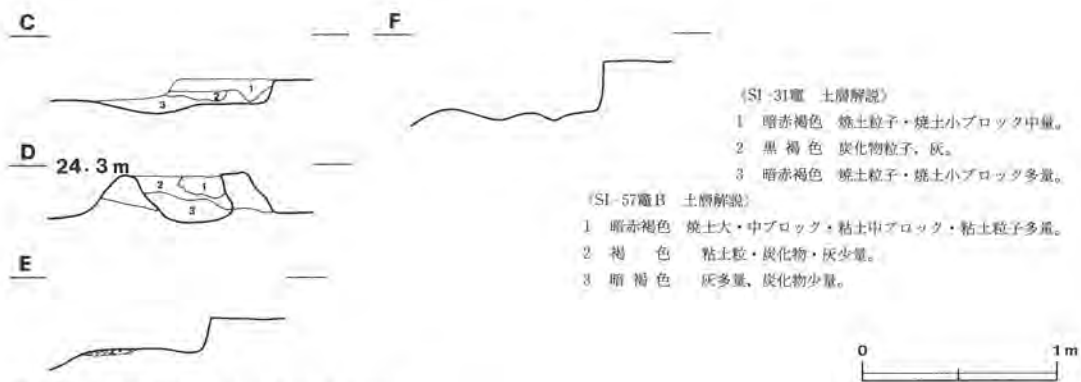
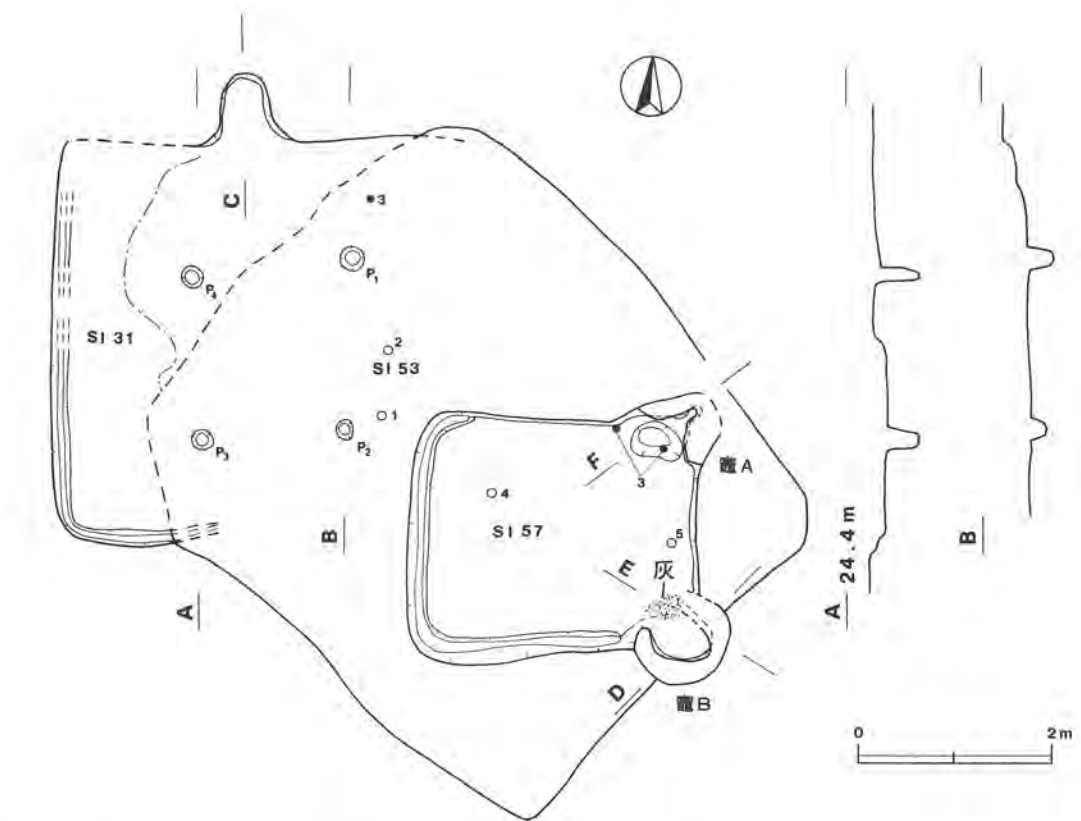
### 第31号住居跡 (第205図)



第204図 第31号住居跡出土遺物実測図

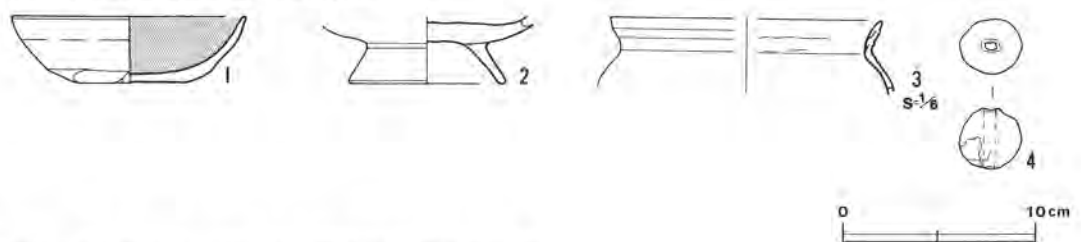
### 第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	土玉	1.9	2.0	—	6.2	床面に近い覆土下層	DP157 孔径0.4	100%
2	土玉	2.0	2.6	—	15.7	床面に近い覆土下層	DP158 孔径0.8	95%
3	管状土製品	5.3	2.8	—	36.7	床面	DP159 孔径1.0	100%

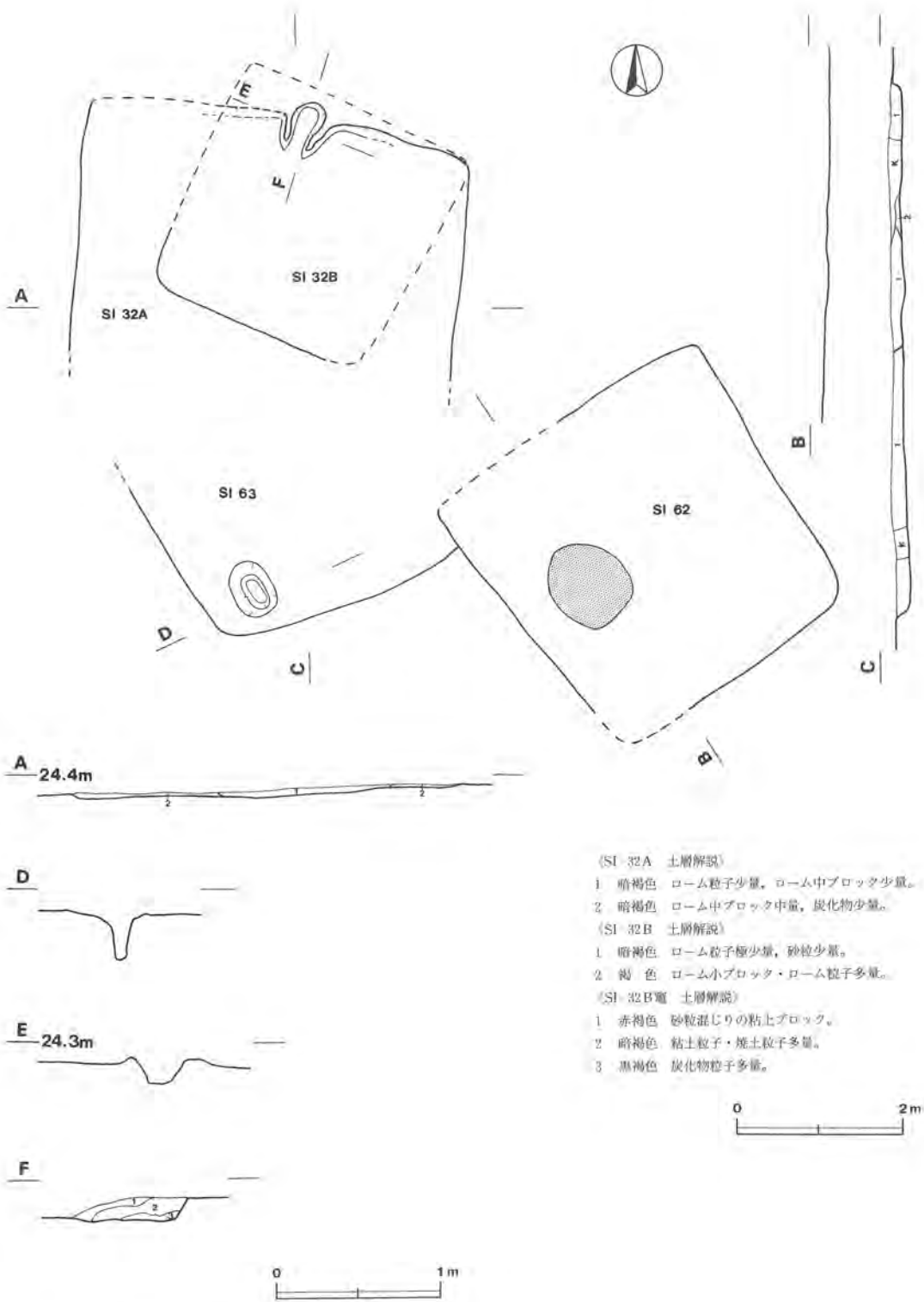


第205図 第31・57号住居跡実測図

第32A・32B号住居跡 (第207図)



第206図 第32A・32B号住居跡出土遺物実測図



第207図 第32A・32B・62・63号住居跡実測図

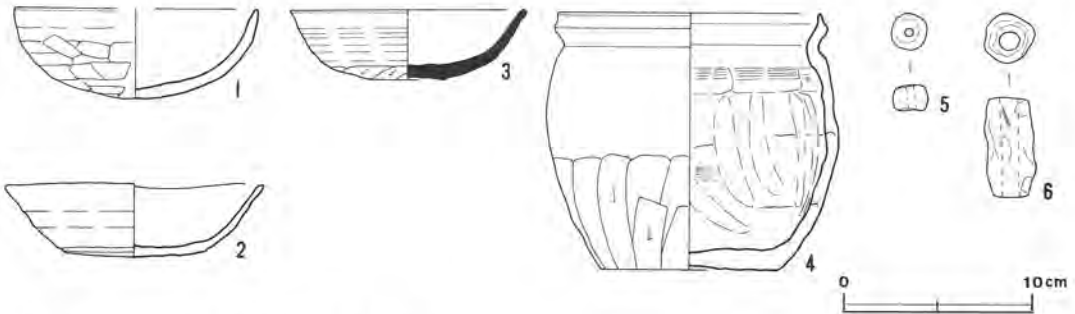


第32A・32B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第206図 1	坏 土節器	A 12.6 B 3.5 C 6.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	雲母・スコリア 橙色 普通	P187 50% 床面 内黒
2	高台付坏 土節器	B 3.2 D [10.2] E 1.9	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転糸切り後、高台貼り付け。	長石・石英の砂粒少 橙色 普通	P188 30% 竈覆土 内面摩耗
3	甕 土節器	A [21.6] B (6.0)	口縁部破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英砂粒～ 小砂礫・雲母微粒 にぶい橙色、普通	P189 10% 竈前面

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	土玉	3.2	3.1	—	27.0	覆土	DP160 孔径0.4～0.6 95%

第33号住居跡（第134図）



第208図 第33号住居跡出土遺物実測図

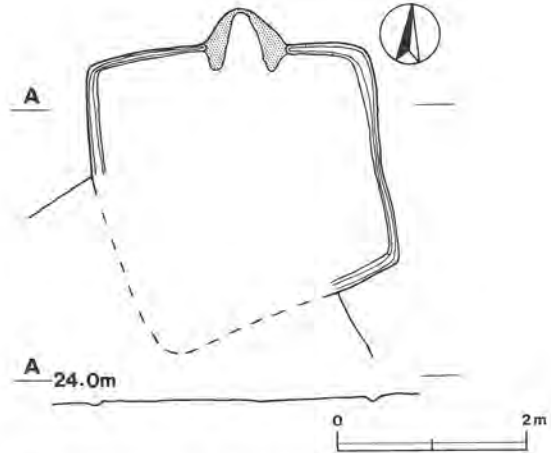
第33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第208図 1	坏 土節器	A [12.9] B 4.8	丸底。底体部は内彎して立ち上がる。	底体部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英砂粒少量 にぶい橙色 普通	P191 60% 竈袖部脇床面
2	坏 土節器	A 13.6 B 3.8 C 7.6	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P192 70% 床面レベル
3	坏 須恵器	A 12.4 B 3.7 C 4.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部一方ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・雲母 灰色 普通	P190 100% 北西部覆土
4	甕 土節器	A 14.0 B 13.7 C 9.4	平底。体部は内彎して立ち上がり口縁部で外反する。端部を上方向につまみ上げる。	体下半部縦位のヘラ削り。内面荒い横ナデ。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英の砂粒 にぶい褐色 普通	P193 60% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
5	土玉	1.4	1.9	—	5.4	覆土	DP161 孔径0.4	100%
6	管状土製品	5.2	2.7	—	33.6	床面	DP162 孔径1.0	100%

### 第35号住居跡 (第209図)

**位置** E5i<sub>4</sub>区 **規模と平面形** 長軸3.04m, 短軸2.67mの長方形。**主軸方向** N-13°-W **壁** 壁高約2~4cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。**床** 平坦で, 踏み固められている。**竈** 北壁中央部を36cm程壁外へ掘り込み構築されている。袖部粘土は残っていないが, 規模は, 幅64cm, 長さ66cmである。**覆土** 残っていた覆土が薄く土層の重なり具合の観察ができなかった。



**遺物** 出土遺物は少ない。第210図-1の須恵器坏は床面から出土している。

第209図 第35号住居跡実測図

**所見** 本跡は, 出土遺物から9世紀前葉頃の住居跡と考えられる。

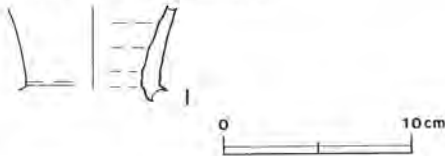


第210図 第35号住居跡出土遺物実測図

### 第35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第210図 1	坏 須恵器	A [13.0] B 3.5 C 7.7	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へヘラ削り。体部下端手持ちへラ削り。	雲母 灰白色 普通	P194 50% 床面

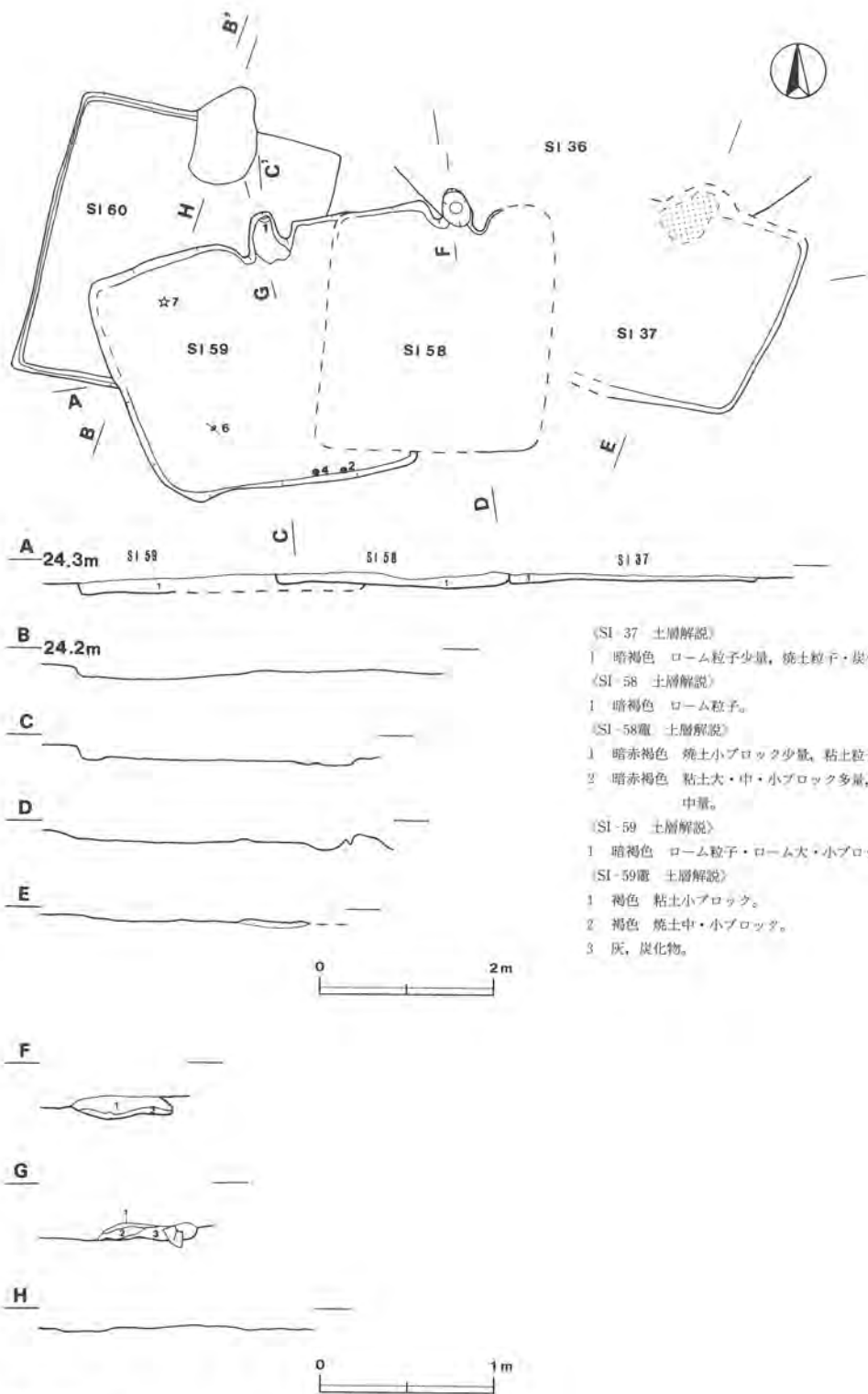
### 第37号住居跡 (第212図)



第211図 第37号住居跡出土遺物実測図

### 第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第211図 1	長頸瓶 灰軸陶器	B (5.2)	頸部破片。頸部は外反して開く。	頸部内・外面横ナデ。	緻密で目立つ含有物無し, 灰白色 良好	P199 5% 覆土

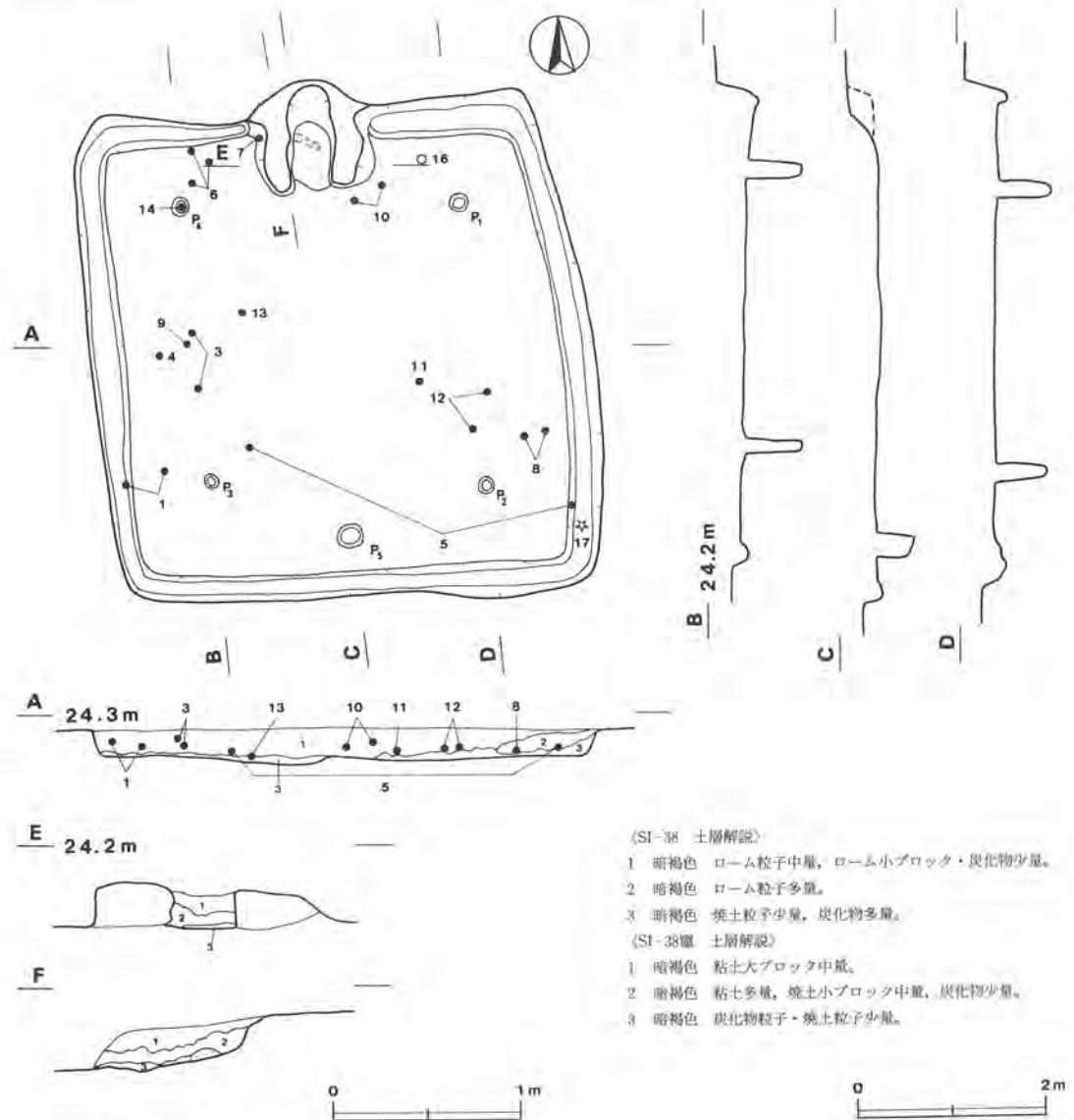


《SI-37 土層解説》  
 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子極少量。  
 《SI-58 土層解説》  
 1 暗褐色 ローム粒子。  
 《SI-58竈 土層解説》  
 1 暗赤褐色 焼土小ブロック少量、粘土粒子多量。  
 2 暗赤褐色 粘土大・中・小ブロック多量、焼土小ブロック中量。  
 《SI-59 土層解説》  
 1 暗褐色 ローム粒子・ローム大・小ブロック少量。  
 《SI-59竈 土層解説》  
 1 褐色 粘土小ブロック。  
 2 褐色 焼土中・小ブロック。  
 3 灰、炭化物。

第212図 第37・58・59・60号住居跡実測図

第38号住居跡 (第213図)

位置 F5b<sub>3</sub>区 規模と平面形 長軸5.32m, 短軸5.30mの方形。 主軸方向 N-5°-W  
 壁 壁高約20~50cmである。 床 平坦で, 踏み固められている。 ピット 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>は, 径14~20cm, 深さ52~62cmでいずれも支柱穴と考えられる。P<sub>3</sub>は, 径30cm, 深さ41cmで出入口施設にかかわる柱穴と考えられる。 竈 北壁中央部を36cm程壁外へ掘り込み, ローム及び砂まじりの褐色粘土で構築されている。規模は, 幅124cm, 長さ114cmである。火床部はほぼ平坦で, 煙道部は緩やかに立ち上がっている。 覆土 3層からなる。1層が覆土の主体となっており, 2層は壁際に, 3層は床全面を覆って堆積している。3層には炭化材を多く含んでいる。

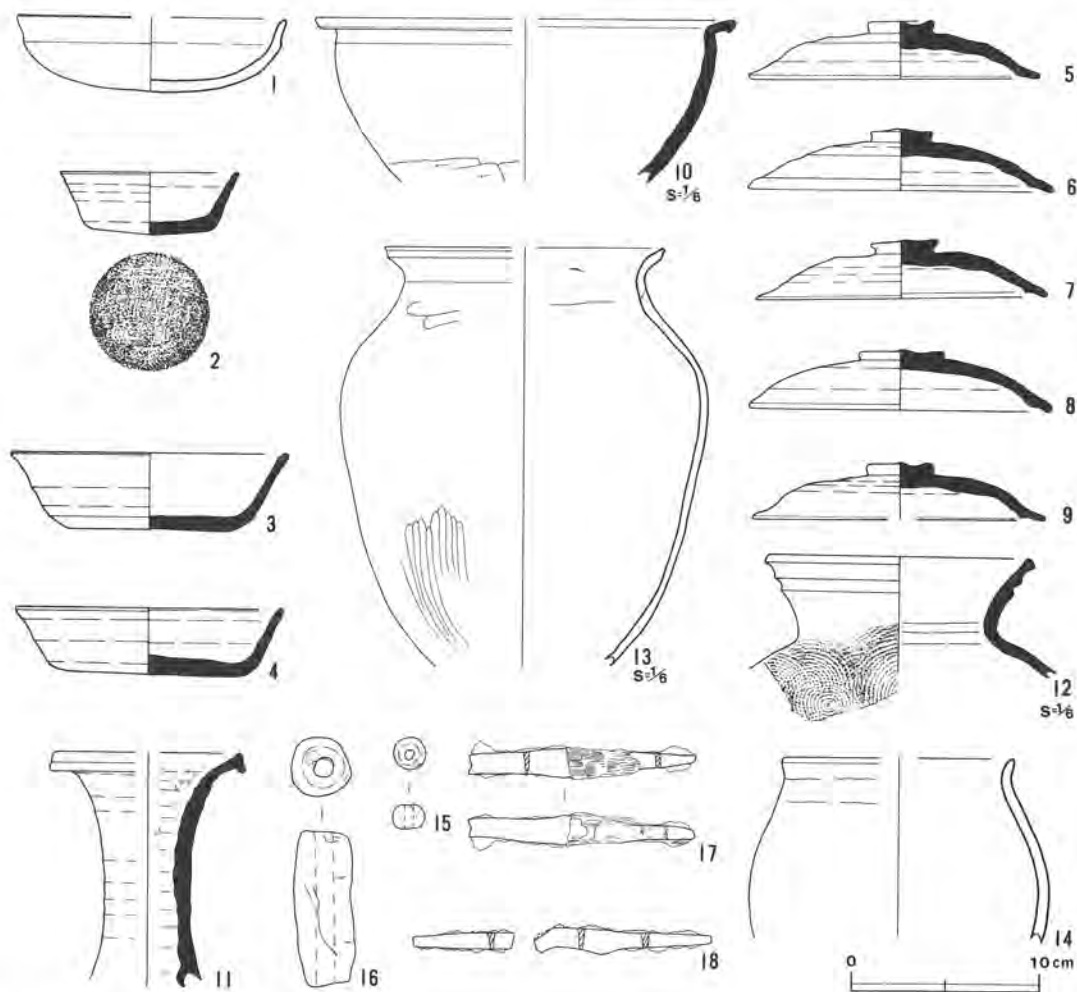


第213図 第38号住居跡実測図

2・3層上面に比較的多量の投棄遺物が堆積している。

**遺物** 第214図-1の坏, 13の甕, 3・4の須恵器の坏, 5・6・8の須恵器の坏蓋, 11の須恵器長頸瓶, 12の須恵器甕は3層の上面から, 7の須恵器坏蓋は竈上の2層から, 10の須恵器の鉢は, 1層から出土している。そのほかに床上からは, 大量の炭化材が出土している。

**所見** 炭化材の堆積後, 遺物が投げ捨てられているようである。遺物は形態的に類似するものが数多く出土しており, まとまりを持った時期のものと思われる。本跡は, 湖西産の長頸瓶の頸部やかえりの残る在産の須恵器蓋が出土していることから, 8世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



第214図 第38号住居跡出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎上・色調・焼成	備考
第214図 1	坏 土師器	A 14.5 B 4.1	丸底。底底部は内脣して立ち上がり, 口縁部との境に線を つくる。	底底部ナデ。口縁部内・外面横 ナデ。	長石・石英の微粒子 多量, 橙色 普通	P200 90% 覆土(1層の下 層)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第214図 2	坏 須恵器	A 9.4 B 3.4 C 6.3	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向ヘラ削り。	長石・石英・砂粒 灰色 普通	P201 80% 覆土 ヘラ記号
3	坏 須恵器	A 14.8 B 4.2 C 9.1	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り。	雲母微粒多量・長石 微砂粒少量、橙色 普通	P202 60% 覆土(1層の下層)
4	坏 須恵器	A 14.3 B 3.7 C 9.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り。	石英砂粒・雲母少 量・長石礫、灰色 普通	P203 65% 覆土(1層の下層)
5	蓋 須恵器	A 15.4 B 3.1 F 3.5	中央部のやや突出した偏平なつまみが付く。内面に低いかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。	長石・石英の砂粒 紫灰色 普通	P204 80% 覆土(2層)
6	蓋 須恵器	A 16.2 B 3.3 F 3.3	中央部のやや突出した偏平なつまみが付く。内面に消失寸前のかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。	長石・石英少量・ 雲母未多量、灰色 普通	P205 90% 覆土(1・2層)
7	蓋 須恵器	A 15.4 B 3.1 F 3.6	中央部のやや突出した偏平なつまみが付く。内面に消失寸前のかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。	長石・石英少量・雲 母未多量、灰白色 普通	P206 90% 覆土(2層)
8	蓋 須恵器	A 16.0 B 3.2 F 4.5	中央部のわずかに突出した偏平なつまみが付く。内面に消失寸前のかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。	長石・石英砂粒少 量、雲母未多、ぶい 普通	P207 65% 覆土(2層)
9	蓋 須恵器	A [15.6] B 3.0 F 3.5	中央部のやや突出した偏平なつまみが付く。内面に低いかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。	長石・石英砂粒及 び礫少量・雲母少 量、灰白色、普通	P208 40% 覆土
10	鉢 須恵器	A [33.6] B (13.1)	底部破損。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は強く外反する。	体部外面同心円文状の叩き。体下半部横位のヘラ削り。	長石・石英・雲母 ぶい橙色 普通	P210 10% 覆土(1層)
11	長頸瓶 須恵器	A [9.8] B (12.6)	頸部破片。体部は外反して立ち上がり、口縁部を下方に折り返す。	頸部内・外面横ナデ。	長石微粒少量、 鉄分、灰白色 良好	P211 30% 覆土(3層上) 湖西産
12	甕 須恵器	A 21.4 B (9.2)	口縁部破片。口縁部は外反して開く。口縁部外面下端に二条の凸線をめぐらす。	体部外面同心円文状の叩き。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P212 20% 覆土(3層)
13	甕 土師器	A [22.4] B (33.5)	体部はやや肩の張った卵形で、口縁部は外上方に開き、端部はつまみ上げられている。	体下半部ヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。	長石 ぶい黄橙色 普通	P209 30% 覆土
14	甕 土師器	A [12.4] B (9.5)	体上半部破片。体部は内彎して、緩やかに口縁部に到る。口縁部はわずかに外反して開く。	体部外面摩耗。口縁部内・外面横ナデ。	微砂粒 ぶい橙色 普通	P213 30% 覆土(3層上)

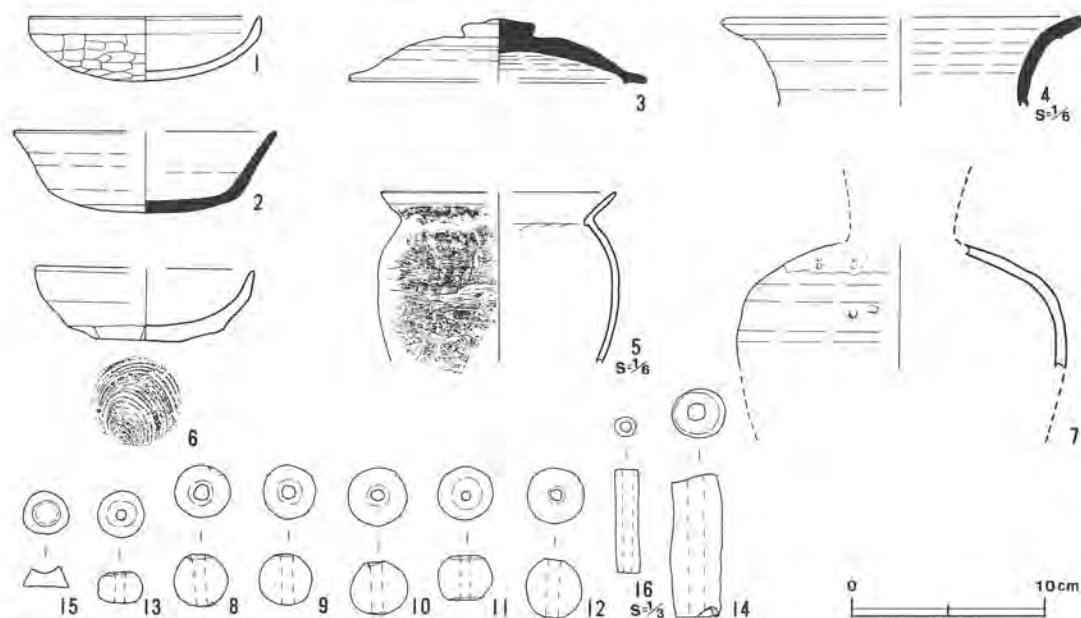
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
15	土玉	1.3	1.7	—	4.0	覆土(1層)	DP166 孔径0.4 100%
16	管状土製品	8.4	3.2	—	88.3	床面	DP167 孔径1.0 100%
17	刀子	(12.1)	1.7	0.2	21.3	覆土(1層)	M28 柄部木質残存
18	刀子	(14.9)	1.4	0.4	16.7	覆土	M29

### 第40B住居跡（第216図）

**位置** F5c<sub>1</sub>区 **重複関係** 第69号住居跡を掘り込んでいる。**規模と平面形** 長軸6.60m，短軸6.34mの方形。**主軸方向** N-73°-W **壁** 壁高約26~27cmである。**床** 平坦で，踏み固められている。**ピット** 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>は，径14~18cm，深さ68~88cmでいずれも支柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は，径14cm，深さ21cmで出入り口施設に関する柱穴と考えられる。**竈** 北壁中央部を34cm程壁外へ掘り込み，ローム及び砂まじりの褐色粘土で構築されている。規模は，幅116cm，長さ126cmである。火床部は，ほぼ平坦で，煙道部是最奥部で急激に立ち上がっている。**覆土** 3層からなる。1層は大~小のロームブロックを含み，人為的な堆積である。2層には炭化物を少量含んでいる。3層は焼土粒子や粘土を含み，床上を薄く覆っている。

**遺物** 第215図-1~4は，覆土1層から出土している。5~7は，攪乱や覆土中への混入等によるものと考えられる。

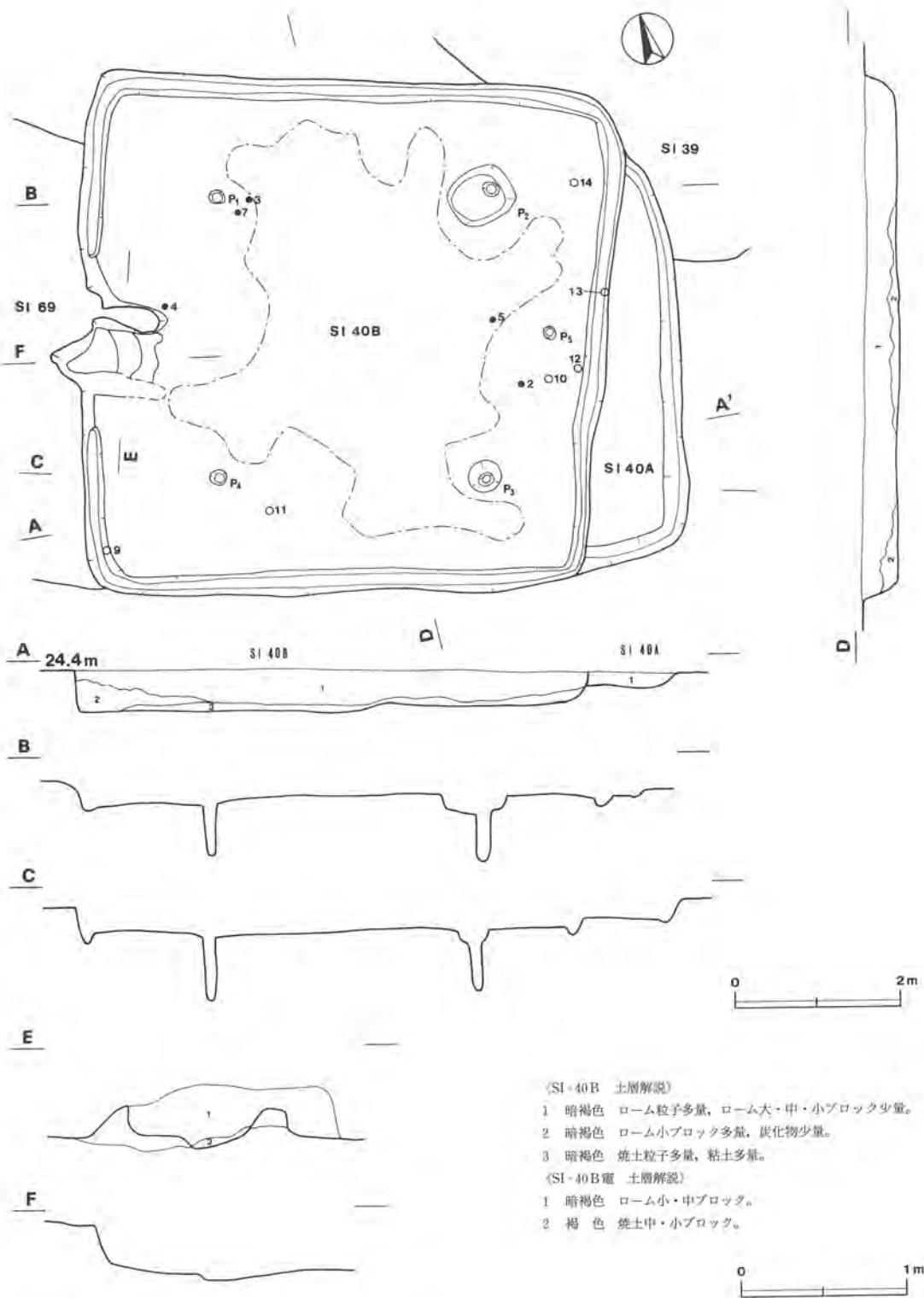
**所見** 覆土1層から出土した遺物は，8世紀前半代のものが主体を占めている。遺構の形態を考慮に入れると7世紀後半から8世紀前半頃の住居跡と考えられる。



第215図 第40B号住居跡出土遺物実測図

### 第40B住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第215図 1	坏 土師器	A 11.8 B 3.9 C 4.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。	底体部へラ削り。口縁部内・外面及び体部内面横ナデ。	スコリア少量 橙色 普通	P218 70% 覆土（1層）
2	坏 須恵器	A [14.0] B 4.3 C 7.2	丸底気味の平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転へラ削り。	長石・石英・雲母末 多量，にぶい黄橙色 普通	P219 20% 覆土（1層）



第216図 第40A・40B号住居跡実測図



図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第215図 3	蓋 須恵器	A 15.8 B 3.4 F 3.8	中央部のやや突出した偏平なつまみが付く。内面に低いかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P220 50% 覆土(1層)
4	甕 須恵器	A [28.4] B (7.2)	口縁部破片。口縁部は外反して開く。口縁部外面直下に一条の凸線をめぐらす。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P221 5% 覆土(1層)
5	甕 土師器	A [18.6] B (13.6)	体上半部破片。口縁部は外傾して開く。	体部外面横位のハケ目, 口縁部下半部縦位のハケ目調整。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 灰白色 普通	P223 25%
6	坏 土師器	A 11.8 B 3.9 C 4.8	平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部下端手持ちヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英の微粒子少量, 橙色 普通	P225 40%
7	長頸瓶 灰釉陶器	B (6.5)	体部破片。	体部内・外面横ナデ。	白色微粒子少量, 黒色微粒子多量, 橙色 普通	P222 5%

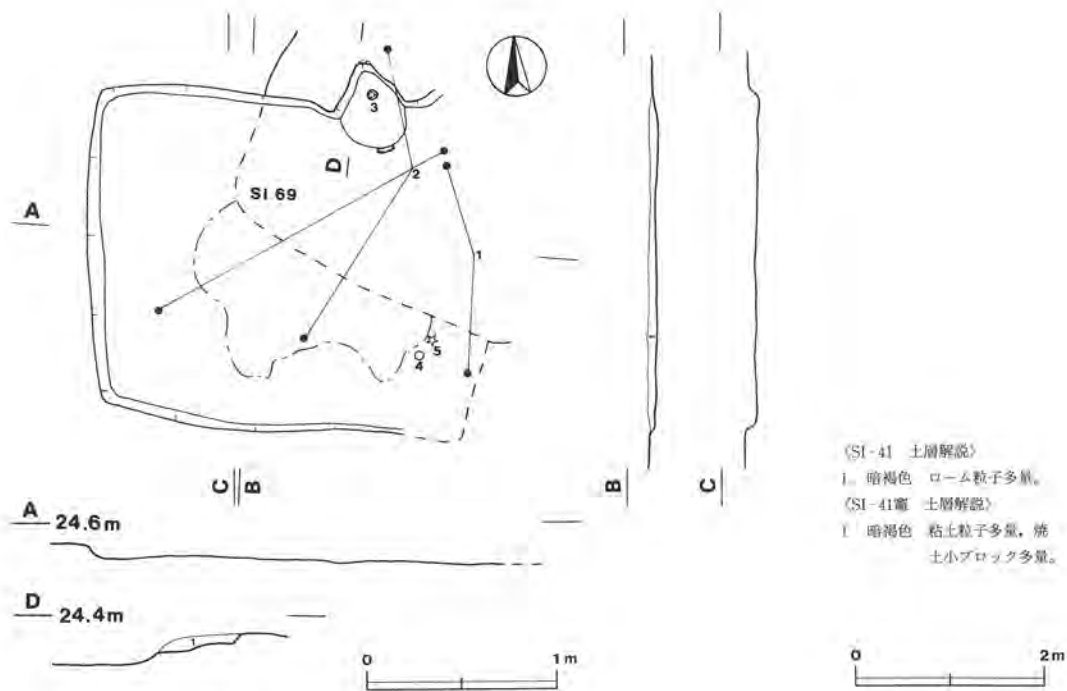
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	土玉	2.8	3.0	—	24.1	北西部覆土	DP170 孔径0.6~0.7 100%
9	土玉	2.8	2.8	—	21.3	覆土	DP171 孔径0.6~0.7 100%
10	土玉	2.9	3.1	—	26.3	覆土	DP172 孔径0.6 100%
11	土玉	2.2	2.8	—	21.0	覆土	DP173 孔径0.5~0.6 100%
12	土玉	3.0	3.0	—	25.1	覆土	DP174 孔径0.7 95%
13	土玉	1.6	2.5	—	9.5	覆土	DP175 孔径0.5~0.6 100%
14	管状土製品	7.2	2.4	—	61.7	覆土	DP176 孔径0.9~1.0 95%
15	不明土製品	2.4	—	1.1	5.1	覆土	DP215 100%
16	管玉	4.2	0.9	—	5.2	北東部覆土	Q10 珪質頁岩

#### 第41号住居跡 (第217図)

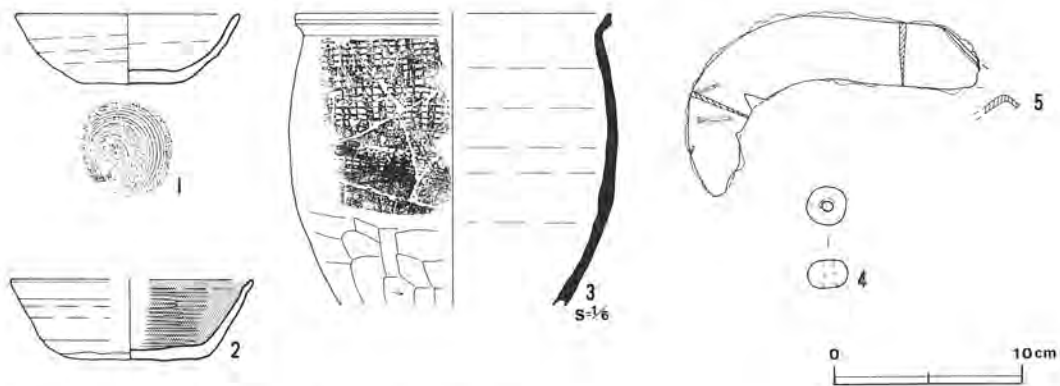
**位置** F4d<sub>0</sub>区 **規模と平面形** 長軸4.40m以上, 短軸3.56mの長方形。 **主軸方向** N-13°-E **壁** 壁高約4~10cmである。 **床** 平坦で, 踏み固められている。 **竈** 北壁中央部を40cm程壁外へ掘り込み, 褐色粘土で構築されている。規模は, 幅約110cm, 長さ約90cmである。火床部はほぼ平坦である。焚き口前面に幅6cm, 長さ24cm, 厚さ5cmの安山岩質の割り石が埋め込まれていた。 **覆土** 1層で, ロームブロック粒子を多量に含んだ暗褐色土層である。

**遺物** 第218図1の坏, 2の坏は, 床からわずかに浮いた位置で散乱した状態で出土している。3の須恵器の鉢は, 竈の最奥中央部から逆位で出土している。

**所見** ピットは確認できなかったが, 竈に割り石を使う点や, 最奥部に土器を利用した支脚状の構造を持ち北竈である点等, 第23号住居跡に類似している。出土遺物から10世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



第217図 第41号住居跡実測図



第218図 第41号住居跡出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第218図 1	坏 土 節 器	A 12.0 B 3.7 C 5.5	平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	雲母多量 にふい褐色 普通	P226 100% 覆土
2	坏 土 節 器	A [12.9] B 4.4 C 7.8	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部押え。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母未 多量、にふい橙色 普通	P227 50% 覆土
3	鉢 須 恵 器	A [25.2] B (23.5)	底部破損。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外傾して開く。口唇部を上方につまみ上げる。	体部外面格子叩き。体下半部横位のへら削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英微砂粒 淡橙色 普通	P228 30% 竈最奥部

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	土玉	1.5	2.1	—	6.5	覆土下層	DP177 孔径0.6~0.8 100%
5	鎌	(16.2)	3.3	0.3	90.2	覆土下層	M31

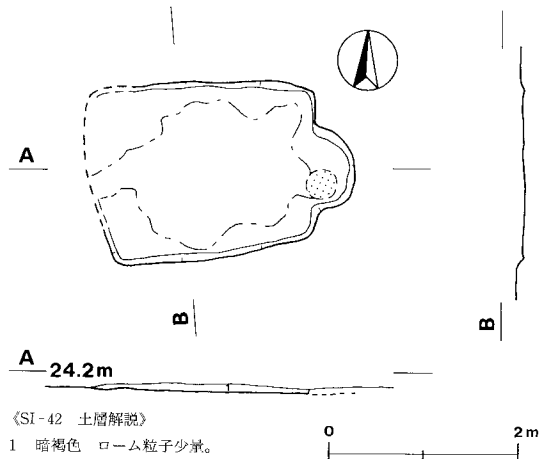
#### 第42号住居跡 (第219図)

**位置** F5a<sub>1</sub>区 **規模と平面形** 長軸2.40m,短軸1.86mの長方形。**主軸方向** N-85°-E **壁** 壁高約2~8cmである。**床** 平坦で,踏み固められている。**竈** 東壁やや南寄りの位置を幅90cm,奥行き40cm程壁外へ掘り込み構築されている。

袖部は残っていないが,竈掘り込み中央部に径30cmほどの範囲に灰の堆積が確認された。

**覆土** 1層からなり,残っている覆土は薄い。

**遺物** 竈前面付近の覆土から,土師器の細片が出土している。体部に丸みを持った糸切り底の高台付坏,内黒で体部が丸く口唇部を外反させた埴,灰釉陶器長頸瓶体部の細片等が出土している。



第219図 第42号住居跡実測図

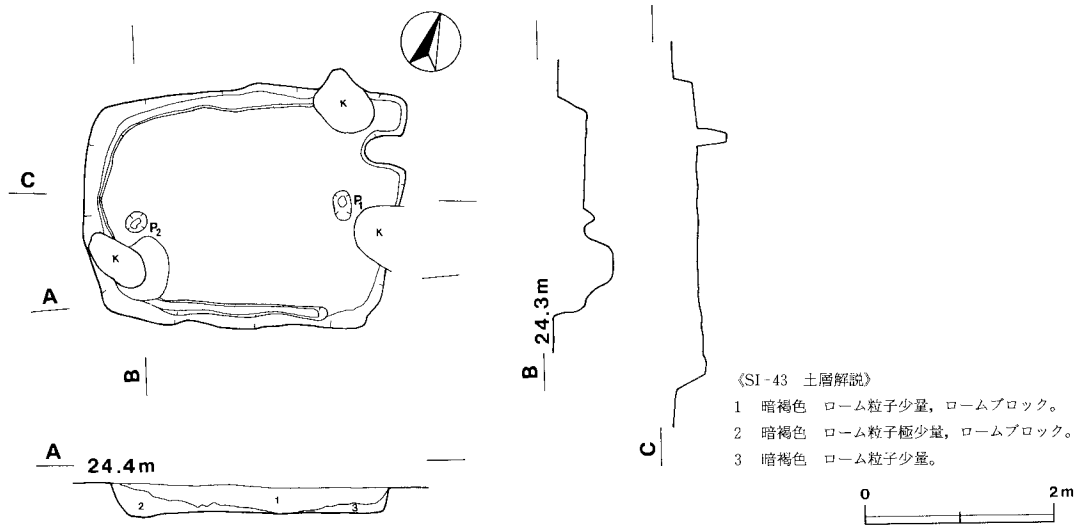
**所見** 土師器細片は10世紀以降の時期のものと思われる。規模の小さな長方形の東竈の住居跡である。

#### 第43号住居跡 (第220図)

**位置** F4b<sub>0</sub>区 **規模と平面形** 長軸3.30m,短軸2.60mの長方形。**主軸方向** N-72°-W **壁** 壁高約20~35cmである。**床** 攪乱穴が壁と床を3か所壊しているが,そのうち西南コーナ部の攪乱は,住居跡に伴う貯蔵穴状の施設と重複していると思われる。**ピット** 2か所。P<sub>1</sub>は,径22cm,深さ13cm,P<sub>2</sub>は,径20cm,深さ22cmである。P<sub>1</sub>は,竈のすぐ前に位置しており,遺構に伴うと考えにくい。P<sub>2</sub>は出入口施設に係る柱穴の可能性もある。そのほかに南西コーナ部に貯蔵穴状の穴がある。**竈** 東壁中央部から北寄りの位置に竈左袖部が確認された。右袖は攪乱穴によって壊されていた。**覆土** 4層からなる。いずれもローム粒子とローム小ブロックを少量含む土層である。

**遺物** 覆土(1層)から土器片が数片出土している。PL84の甕は口縁直下と体部に5mmほどの穿孔が行われている。そのほかに内黒の高台付埴や三日月高台の灰釉陶器埴や長頸瓶の細片が出土している。

所見 東竈の長方形の住居跡である。出土遺物から、本跡は10世紀以降の住居跡と考えられる。



第220図 第43号住居跡実測図

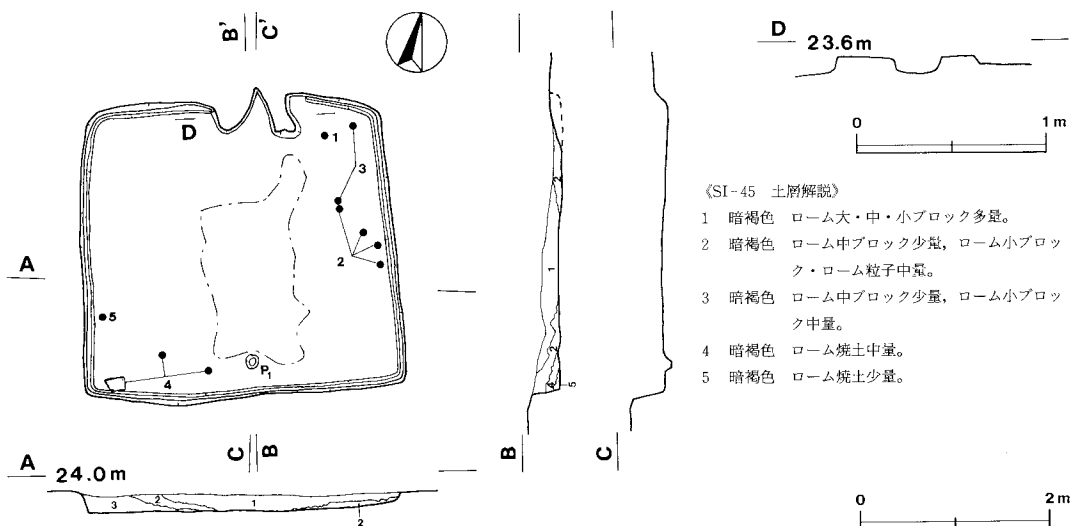
第45号住居跡 (第221図)

位置 E4j<sub>0</sub>区 規模と平面形 長軸3.28m，短軸3.22mの方形。 主軸方向 N-15°-W

壁 壁高約10~30cmである。 床 平坦で，P<sub>1</sub>と竈の間の住居跡中央部が踏み固められている。

ピット 1か所で，径14cm，深さ12cmである。竈に対面する南壁直下にあり，出入口施設に関係する柱穴と考えられる。 竈 北壁中央部に，幅94cm，長さ100cmの規模で構築されている。

覆土 5層からなる。1層は，大~小のロームブロックを多量に含み人為的である。2~5層は

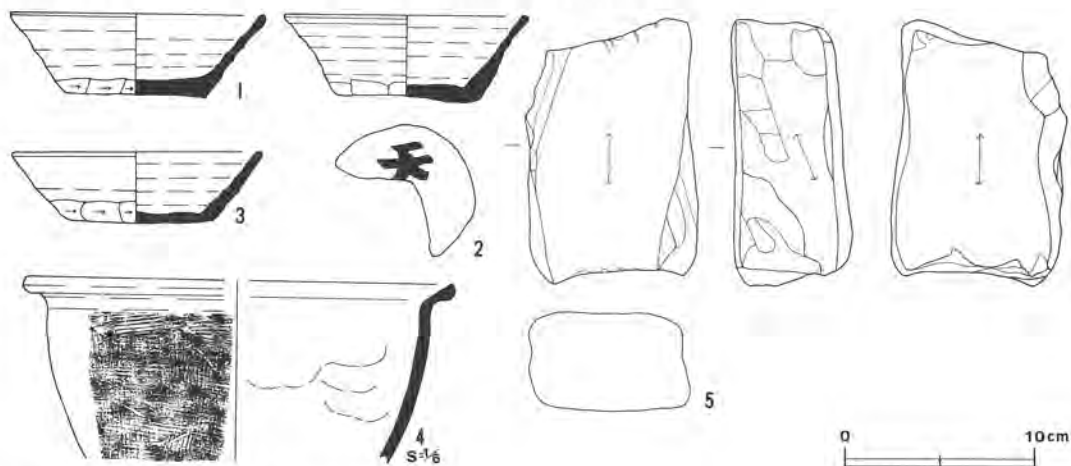


第221図 第45号住居跡実測図

暗褐色主体の土層である。

遺物 第222図-1～3の須恵器坏, 4の須恵器鉢は2層から出土している。

所見 出土遺物から, 9世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



第222図 第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第222図 1	坏 須恵器	A 13.7 B 4.4 C 7.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端 手持ちへラ削り。	石英・長石砂粒 灰色 普通	P229 85% 覆土(2層)
2	坏 須恵器	A 12.9 B 4.6 C 7.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端 手持ちへラ削り。	石英・長石砂礫少量 褐灰色 普通	P230 40% 覆土(2層) 墨痕あり
3	坏 須恵器	A 13.4 B 3.9 C 7.6	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端 手持ちへラ削り。	石英・長石・雲母 微砂粒多量, 灰色 普通	P231 55% 覆土(2層)
4	鉢 須恵器	A [34.4] B (14.5)	体部は内灣気味に立ち上がる。	体部外面横位平行叩き後, 縦位 平行叩き。その後弱い刷り消し 状のナデ。	石英・長石・雲母 灰色 普通	P232 20% 覆土(2層)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	砥石	(14.2)	9.3	6.2	1265.1	床面	Q11 砂岩

第46号住居跡 (第223図)

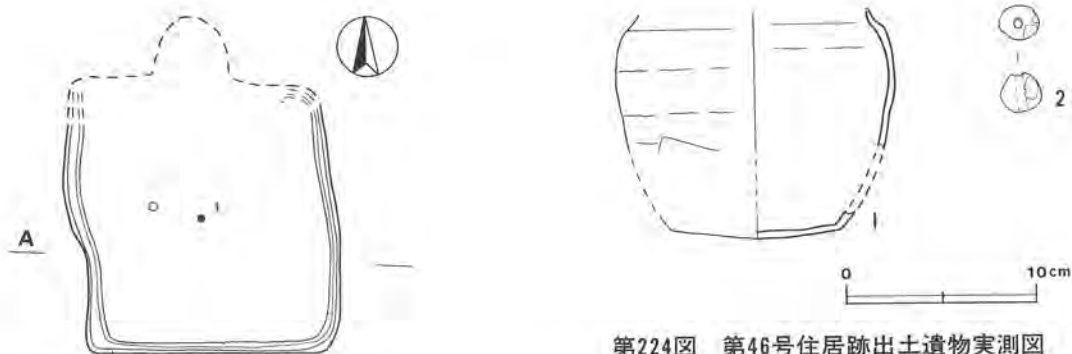
位置 E4j区 規模と平面形 長軸2.92m, 短軸2.64mの長方形。 主軸方向 N-1°-W

壁 壁高約4cmである。 床 平坦で, 踏み固められている。 竈 北壁中央部を幅80cm, 奥行き70cm程壁外へ掘り込み構築されている。 覆土 残っている覆土が薄く分層できなかった。

遺物 第224図-1の小形の甕が中央部床上から出土している。そのほかに, 回転糸切り底の坏

が細片でみられた。

所見 長方形気味の住居跡で北側に竈を持ち、ピットは確認できなかった。出土遺物が少なく時期は不明である。



第224図 第46号住居跡出土遺物実測図

(SI 46 土層解説)

1 暗褐色 ローム小ブロック。



第223図 第46号住居跡実測図

第46号住居跡出土遺物観察表

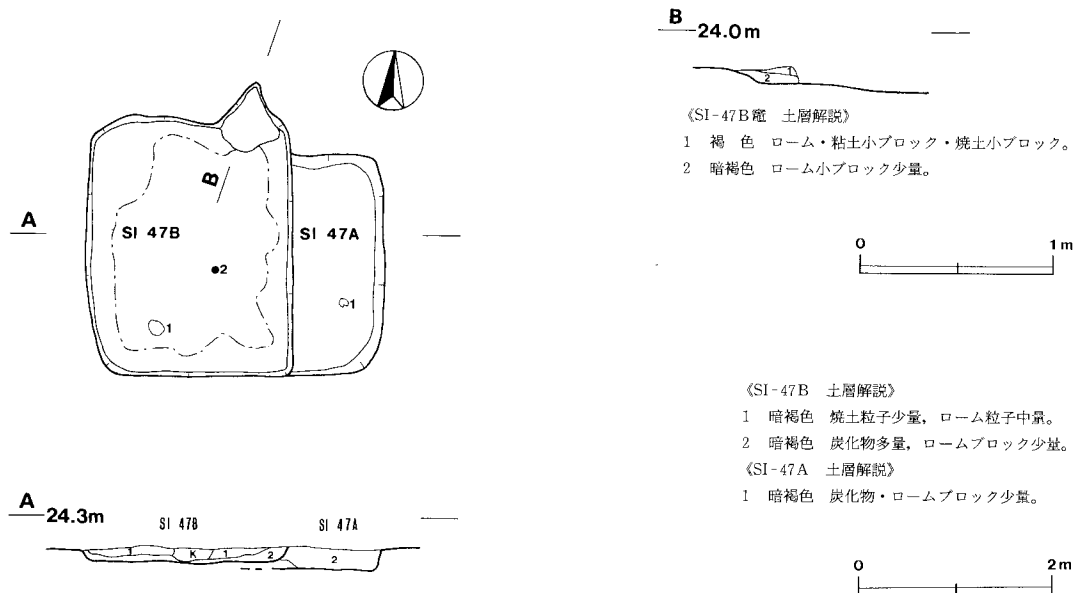
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第224図 1	甕 土節器	A [12.2] B (8.5)	体下半部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁付近で内彎する。口縁部は短く立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母の微粒子多量、橙色普通	P233 30% 床面

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
2	土玉	2.0	2.2	—	5.9	覆土	DP178 孔径0.4~0.5	95%

第47A号住居跡 (第226図)



第225図 第47A号住居跡出土遺物実測図



第226図 第47A・47B号住居跡実測図

第47A号住居跡出土遺物観察表

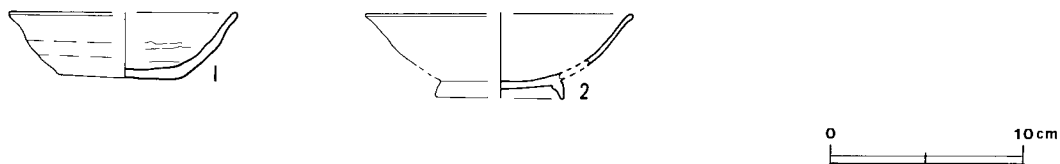
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第225図 1	坏 土師器	A [12.0] B 3.5 C [5.0]	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口唇部でわずかに外反する。	底部回転ヘラ削り。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。	微砂粒 にぶい橙色 普通	P234 20% 床面
2	壺 土師器	A [18.8] B (6.3)	口縁部破片。複合口縁で外反して開く。口縁部に棒状符文の貼り付け痕あり。	複合口縁部外面下端及び頸部凸帯に櫛歯状施文具による刺突文。口縁部内・外面ヘラ磨き。	長石・石英の砂礫多 橙色 普通	P235 5% 赤彩 混入

第47B号住居跡 (第226図)

位置 F4a<sub>s</sub>区 重複関係 第47A号住居跡と南壁を共有するように重複している。

規模と平面形 長軸2.77m，短軸2.20mの長方形。第47A号住居跡の南北方向の幅は2.34mである。主軸方向 N-1°-W 壁 壁高約12~14cmである。床 平坦で，ほぼ全面が踏み固められている。竈 北壁の東端に近い位置を50cm程壁外へ掘り込み構築されている。袖部の残りが悪く，壁の掘り込み部は，幅が58cmで奥に向かって尖った三角形の平面形である。

覆土 2層からなる。下層の2層には炭化物を多量に含んでいる。



第227図 第47B号住居跡出土遺物実測図

遺物 第227図1の坏は、1層から出土している。そのほかに土師質で格子叩きの須恵器甕の破片が出土している。

所見 本跡は南北方向に長い長方形で、第47A号住居跡は、東西方向に長い住居跡と思われる。二つの住居跡には重複関係があり本跡が新しいが、出土遺物は比較的近い時期のものであり9世紀後葉頃の住居跡と考えられる。

### 第47B号住居跡出土遺物観察表

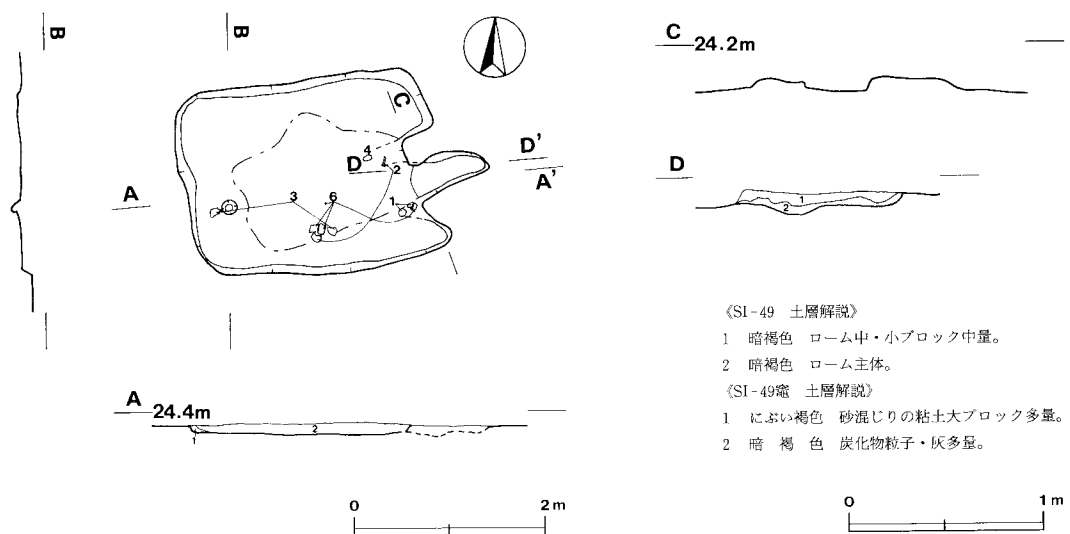
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第227図 1	坏 土師器	A [12.2] B 3.6 C 6.7	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口唇部でわずかに外反する。	底部回転切り離し、無調整。体部内・外面横ナデ。	長石・石英の砂礫・雲母微粒子、橙色普通	P236 60% 覆土(1層)
2	埴 灰釉陶器	A [14.0] B [4.5] C 6.8	平底。断面三日月形の高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口唇部でわずかに外反する。	体部内・外面横ナデ。内・外面に一部ハケ掛け。	長石微粒子少量 灰白色 普通	P237 30% 覆土

### 第49号住居跡 (第228図)

位置 F4b<sub>8</sub>区 規模と平面形 長軸2.65m、短軸2.10mの長方形。 主軸方向 N-81°-E

壁 壁高約5~12cmである。床 平坦で、竈前面から中央部が踏み固められている。ピット 1か所で、径15cm、深さ10cmで出入り口施設に係る柱穴と考えられる。竈 東壁中央からやや南に寄った位置を60cm程壁外へ掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。規模は、幅96cm、長さ90cmである。火床部は10cmほど床を掘りくぼめている。覆土 覆土は薄く、1層だけ確認できた。

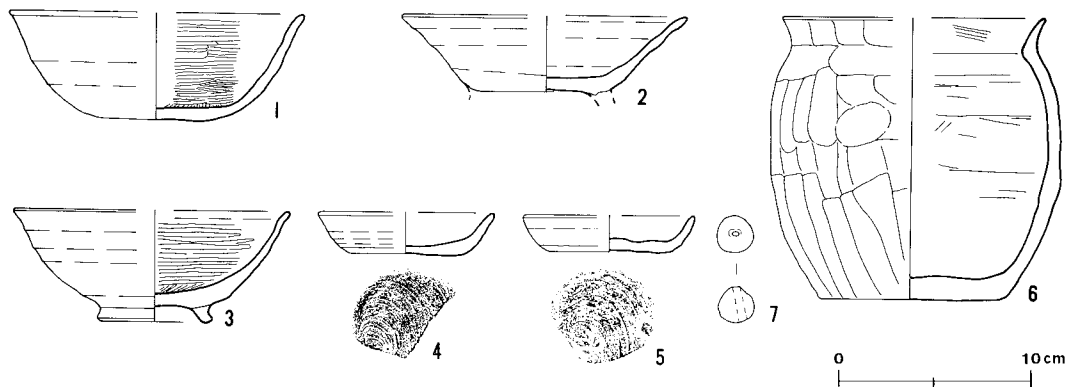
遺物 第229図-1の坏, 2の高台付坏, 3の高台付坏, 4の小皿, 6の小形甕は覆土1層から、5の小皿は竈覆土から出土している。



第228図 第49号住居跡実測図



所見 本跡は、出土遺物から10世紀後葉頃の住居跡と考えられる。



第229図 第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表

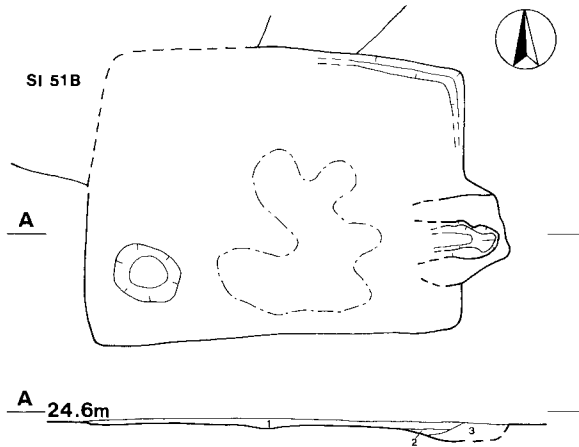
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第229図 1	坏 土師器	A [15.6] B 5.9 C 6.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口唇部でわずかに外反する。	摩耗のため底部調整痕不明。体部内面横ナデ。内面へラ磨き。	長石・石英の微粒子 にぶい橙色 普通	P238 30% 覆土(1層)
2	高台付坏 土師器	A [15.0] B (4.2)	平底で高台が付いた痕跡あり。体部は外反気味に立ち上がる。	底部回転糸切り後、高台貼り付け。体部内・外面横ナデ。	金雲母末・砂粒 浅黄橙色 普通	P239 40% 覆土(1層)
3	高台付坏 土師器	A [14.8] B 6.0 D 6.1	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転へラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面へラ磨き。	長石・石英・雲母 微粒多量、明褐色 普通	P240 60% 覆土(1層)
4	皿 土師器	A [9.4] B 2.4 C 6.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	微砂粒多量 にぶい黄橙色 普通	P241 30% 覆土(1層)
5	皿 土師器	A (9.0) B 2.0 C 6.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	長石・石英砂粒・金 雲母末、浅黄橙色 普通	P242 30% 竈覆土
6	甗 土師器	A [13.8] B 15.1 C 9.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、体部中位に最大径を持つ。口縁部はわずかに外反して開く。	体下半部外面縦位のへラ削り。内面荒い横ナデ。	長石主体の微粒子 多量、にぶい橙色 普通	P243 60% 覆土(1層)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	土玉	1.9	1.9	-	5.4	覆土	DP179 孔径0.4 100%

第50号住居跡 (第230図)

第50号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第231図 1	高台付坏 土師器	A [14.4] B 5.9 D 8.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転糸切り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。内面へラ磨き。	長石主体の微粒子・海綿骨子、 にぶい黄橙色、普通	P244 60% 竈

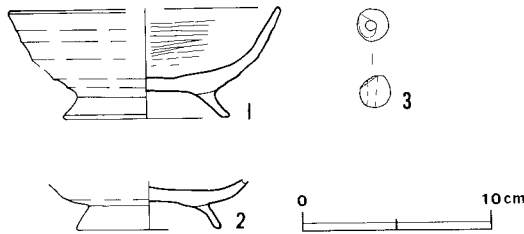


《SI-50 土層解説》

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量。
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化物・灰中量。
- 3 暗赤褐色 焼土大・小ブロックローム多量。



第230図 第50号住居跡実測図



第231図 第50号住居跡出土遺物実測図

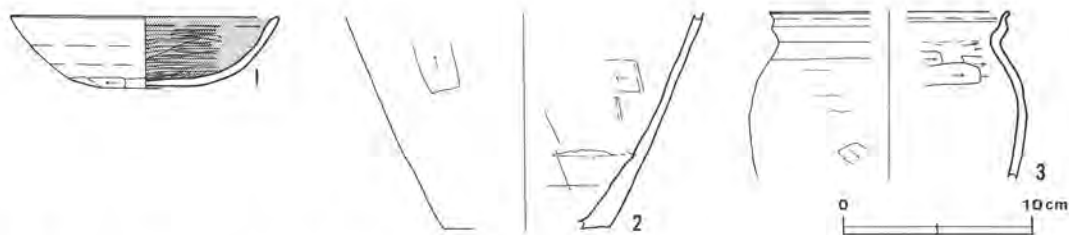
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第231図 2	高台付 坏土 師器	B (2.6) D 7.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	全面摩耗のため、調整痕不明瞭。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P245 40% 貯蔵穴覆土	
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	土玉	1.7	1.6	—	41.0	貯蔵穴覆土	DP180 孔径0.5~0.6 90%

第55号住居跡 (第167図)

**位置** E6i区 **重複関係** 第3 B号住居跡を掘り込んで、第2・3 A号住居跡に掘り込まれている。  
**規模と平面形** 長軸3.30m、短軸3.30mの方形。**主軸方向** N-2°-E **壁** 壁高約16~20cmである。**床** 平坦で、踏み固められている。**竈** 北壁中央部を54cm程壁外へ掘り込み構築されている。第2号住居跡によって竈の大半を壊されている。**覆土** 3層からなる。

**遺物** 第232図-1の坏は、2層から出土している。

**所見** 本跡は、出土遺物から、9世紀後半以降の住居跡と考えられる。



第232図 第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表

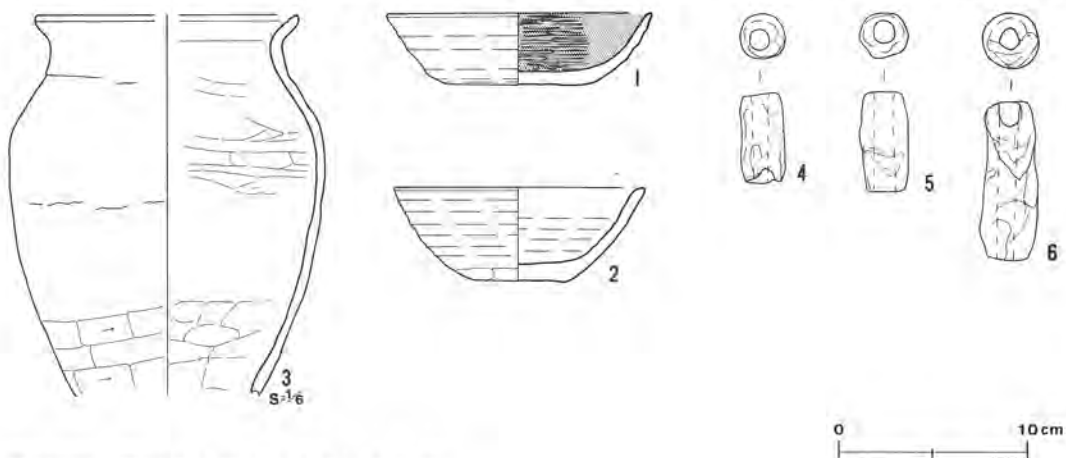
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第232図 1	坏 土師器	A 14.2 B 3.8 C 5.5	平底。体部は内灣気味に立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。体部内面へラ磨き。	長石・雲母 にふい黄褐色 普通	P252 70% 内黒
2	甕 土師器	B (11.5) C [8.6]	体下半部破片。体部は外傾して立ち上がる。	外面粘土貼り付き痕が著しく、調整技法等不明瞭。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P253 15%
3	甕 土師器	A [12.7] B (9.0)	体下半部破損。体部中位に最大径を持ち、口縁部は外反する。口唇部を外上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P224 20%

第57号住居跡 (第205図)

位置 F5a<sub>7</sub>区 規模と平面形 長辺2.92m, 短辺2.36~2.65mの台形気味の長方形。

主軸方向 N-89°-E 壁 壁高約15~30cmである。床 平坦で、踏み固められている。

竈 2か所確認されている。北東コーナーに設置された竈Aは、両袖部から最奥部まで最もよく残っていた。規模は、幅約100cm, 長さ約100cmである。東壁コーナー部の竈Bは、壁外に25~35cmほどの掘り込みを持ち住居跡の中央部方向を向いている。火床は、床よりも10cmほど高い位置に平坦な面がつくられ、灰が堆積していた。灰の上から甕の破片が出土している。残り具合いか



第233図 第57号住居跡出土遺物実測図

ら判断して、竈Bの袖部を壊した後、竈Aが北東コーナー部につくられたものと考えられる。

覆土 3層からなる。1層はローム小ブロックを多量に含み人為的である。

遺物 第233図-1の坏と2の土師質須恵器の坏は竈A覆土から出土している。3の甕は、覆土1・2層から竈覆土にかけて広く散って出土している。この甕は、形態的に古いが、体部の整形に格子状の叩きを使っているので、1や2の坏と同時期のものと考えた。

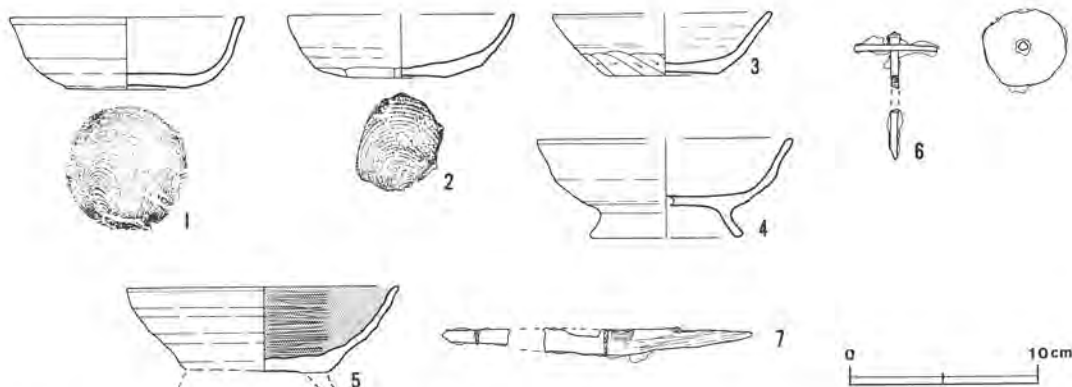
所見 本跡は、出土遺物から9世紀後葉頃の住居跡と考えられる。

### 第57号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第233図 1	坏 土師器	A 14.0 B 3.9 C 7.5	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転ヘラ切り離し後無調整。体部内面ヘラ磨き。	金雲母微粒多量 橙色 普通	P254 80% 竈A覆土 内黒
2	坏 土師質須恵器	A 14.0 B 3.9 C 7.5	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面横ナデ。	微砂粒 橙色 普通	P255 70% 竈A覆土
3	甕 土師器	A [21.4] B (30.5)	体部上位に最大径を持ち、頸部でくびれ口縁部は外反する。端部はやや外上方につまみ上げる。	体部下端横位の強いヘラ削り。体上半部横ナデ。	雲母・石英砂粒 にぶい橙色 普通	P256 40% 竈A出土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	管状土製品	4.8	2.4	—	24.6	覆土(1・2層)	DP187 孔径1.0~1.2 85%
5	管状土製品	5.3	2.1	—	28.0	覆土(1・2層)	DP188 孔径1.2 90%
6	管状土製品	8.4	3.0	—	65.9	覆土	DP189 孔径0.9~1.1 90%

### 第59号住居跡(第212図)



### 第234図 第59号住居跡出土遺物実測図

#### 第59号住居跡出土遺物観察表

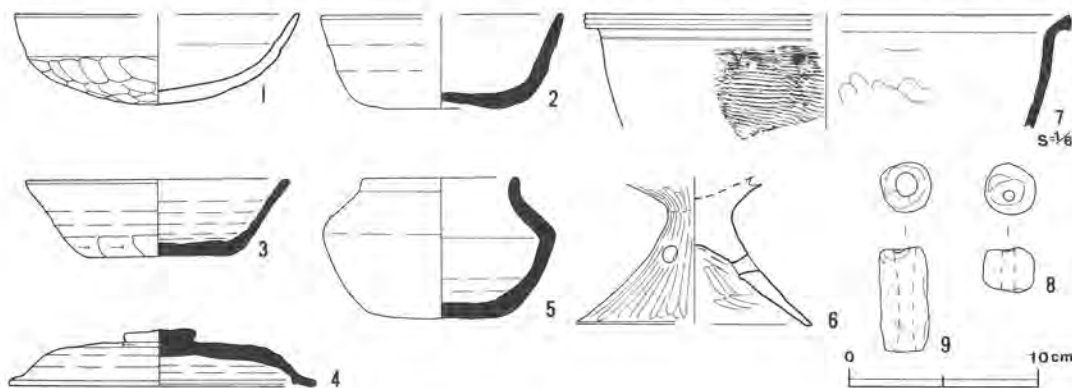
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第234図 1	坏 土師器	A 12.4 B 3.8 C 6.3	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転糸切り。体部内・外面横ナデ。	微砂粒 にぶい橙色 普通	P257 80% 竈前面覆土下層

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第234図 2	坏 土 師 器	A [12.0] B 3.4 C 5.1	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転糸切り。体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面横ナデ。	長石・石英微砂少量 浅黄橙色 普通	P258 65% 南壁際覆土
3	坏 土 師 器	A [11.6] B 3.3 C 5.8	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面横ナデ。	スコリア 浅黄橙色 普通	P259 45% 竈覆土
4	高台付坏 土 師 器	A [13.4] B 5.3 D [8.0]	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転糸切り後、高台貼り付け。体部内・外面横ナデ。	長石主体の微粒子多 浅黄橙色 普通	P260 50% 南壁際覆土
5	高台付坏 土 師 器	A 14.4 B (4.5)	平底で高台の貼付け痕あり。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部静止糸切り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。	黄白色微粒子に ぶい黄橙色 普通	P261 70% 竈最奥部 内黒

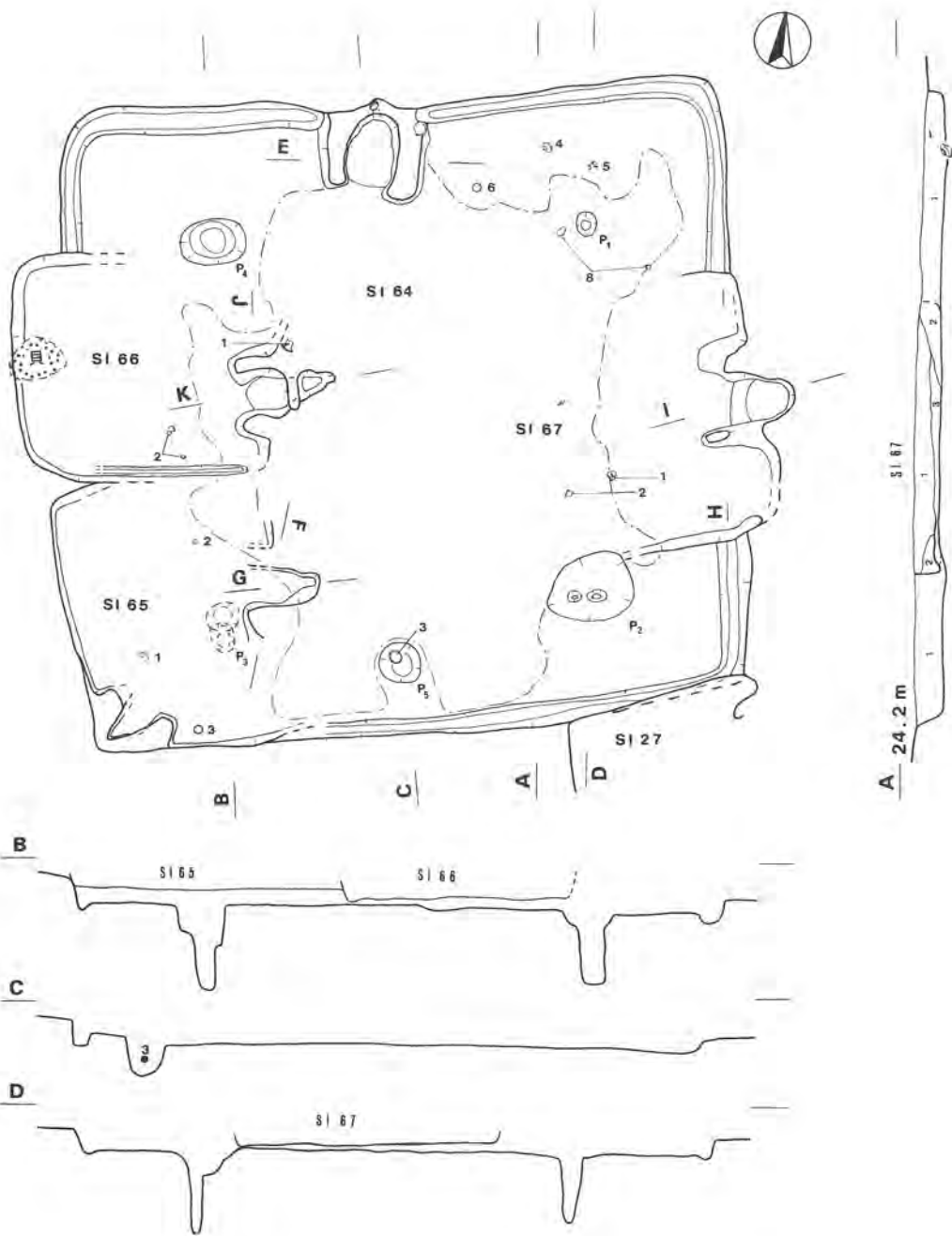
図版番号	器 種	計 測 値				出 土 位 置	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	紡 錘 車	(6.8)	4.5	0.3	(19.2)	覆土	M32
7	刀 子	(15.4)	1.6	0.2	14.7	床面	M33 柄部木質一部残存

#### 第64号住居跡 (第236・237図)

**位置** E5h<sub>6</sub>区 **重複関係** 第27・65・66・67号住居跡によって掘り込まれている。**規模と平面形** 長軸7.42m, 短軸7.32mの方形。**主軸方向** N-8°-W **壁** 壁高約20~34cmである。**床** 平坦で、踏み固められている。**ピット** 5か所。P<sub>1</sub>~P<sub>5</sub>は、径26~44cm, 深さ80~95cmでいずれも支柱穴と考えられる。P<sub>3</sub>は径45cm, 深さ37cmで出入り口施設に関係する柱穴と考えられる。南壁側の支柱穴P<sub>2,3</sub>は各2か所の柱穴が重複している。P<sub>2</sub>は上部が壊れ大きな穴になっており、その穴の底面から2か所のピットが確認できた。P<sub>3</sub>は、深さ93cmで柱を抜き取った後、南に接して深さ34cm程に柱穴を掘り、深い穴を埋めて床面を造っている。**竈** 北壁中央部に構築されている。規模は、幅130cm, 長さ116cmである。火床部は10cm程掘りくぼめられ、煙道部の壁外への掘り込みはほとんどみられない。**覆土** 1層で、ローム大~小ブロックを多く含む人為的な堆積土層である。

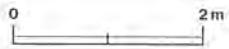


第235図 第64号住居跡出土遺物実測図

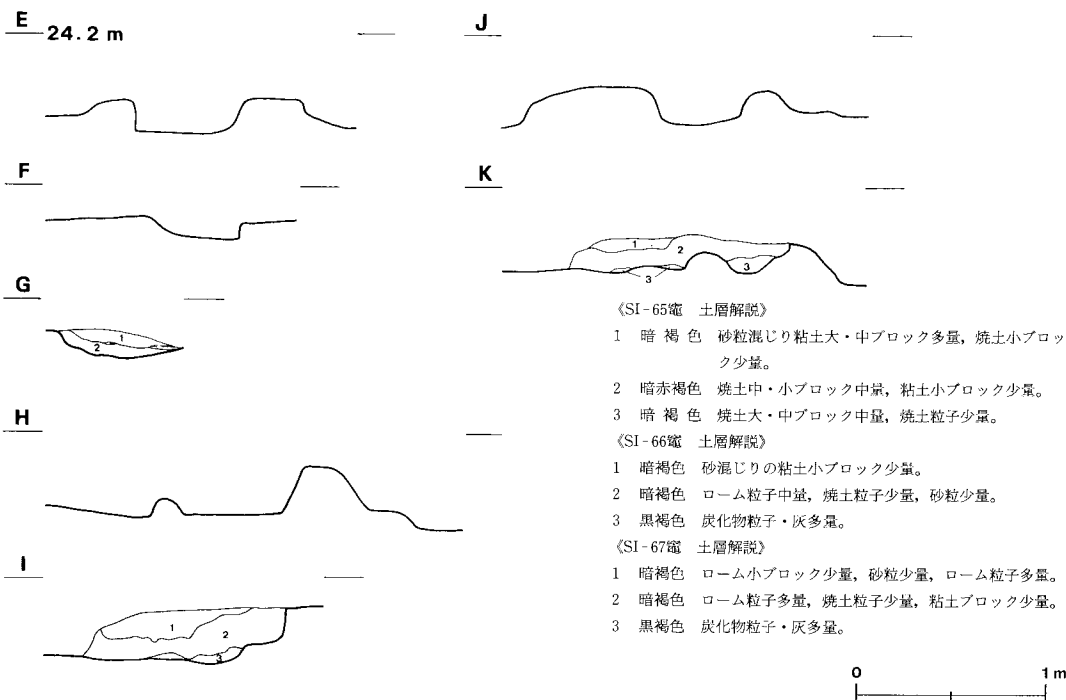


A 24.2 m

- (SI-64 土層解説)  
 1 暗褐色 ローム大ブロック。  
 (SI-67 土層解説)  
 1 暗褐色 ローム小ブロック少量。  
 2 黒褐色 ローム中・小ブロック少量。  
 3 黒褐色 ローム小ブロック。



第236図 第64・65・66・67号住居跡実測図(1)



第237図 第64・65・66・67号住居跡実測図(2)

遺物 第235図-1の坏, 2の須恵器坏は竈内から, 4の須恵器の蓋は, P<sub>5</sub>内中層から逆位の状態で出土している。5の須恵器の短頸壺は, 竈と北東コーナー部の間の床面から出土している。6の高坏は, 覆土の堆積時の混入遺物と考えられる。

所見 本跡は, P<sub>5</sub>の中層出土の須恵器蓋から見て, 8世紀前葉頃の住居跡と考えられる。

第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第235図 1	坏 土師器	A [15.1] B 4.1 C 7.8	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端 手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P262 70% 竈
2	坏 須恵器	A [12.8] B 5.0 C 6.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転へラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P263 60% 竈
3	坏 須恵器	A 13.9 B 4.1 C 7.8	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P295 70% 竈
4	蓋 須恵器	A 16.4 B 3.2 F 3.8	中央部のやや突出した扁平なつまみが付く。内面に低いかえりが付く。	天井部回転へラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P264 80% P <sub>5</sub> 内中層
5	短頸壺 須恵器	A 8.4 B 7.5 C 7.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり, 体上半部に最大形を持ち口縁部は短く立ち上がる。	体部及び口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P265 100% 床面
6	高坏 土師器	B (7.9) C [12.4]	坏部破損。脚部はラッパ状に開く。脚部3か所穿孔。	脚部外面へラ磨き。	茶褐色粒子多量 にぶい橙色 普通	P266 50% 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第235図 7	鉢 須恵器	A [38.6] B (9.2)	口縁部破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁端部を上下につまみ上げる。	体部外面横位の平行叩き。	雲母多量 灰色 普通	P273 10% 覆土

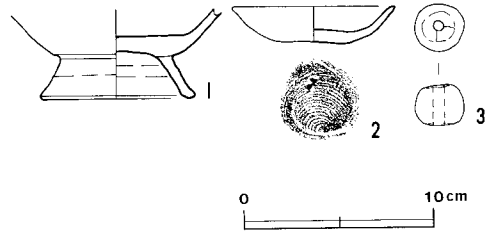
図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	土玉	2.4	2.7	—	16.3	床面	DP217 孔径0.7 100%
9	管状土製品	5.6	2.6	—	35.9	覆土	DP218 孔径1.2~1.3 100%

### 第65号住居跡 (第236・237図)

**位置** E5h<sub>6</sub>区 **重複関係** 第64号住居跡を掘り込み、第66号住居跡に掘り込まれている。

**規模と平面形** 長軸 (3.10)m、短軸 (2.50)m の長方形。 **主軸方向** N-75°-E **壁** 壁高約14cmである。 **床** 平坦で、踏み固められている。 **竈** 2か所。竈Aは東壁中央部にあり、規模は幅約110cm、長さ約100cmである。竈Bは南西コーナー部にあり、住居中央部を向いている。規模は幅約100cm、長さ約80cmである。竈A・Bの新旧関係は、両竈の残り具合が悪く確定できなかった。 **覆土** 1層で、ロームブロックを大量に含んでいる。

**遺物** 第238図-1の高台付坏、2の小皿は床面から出土している。そのほかに覆土中から須恵器大甕の破片、竈A覆土内から甕の破片が出土している。



**所見** 本跡は、床面出土の遺物から、11世紀前葉頃の住居跡と考えられる。

第238図 第65号住居跡出土遺物実測図

### 第65号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第238図 1	高台付坏 土師器	B (4.8) D 8.1 E 2.2	平底で「ハ」の字状に開く足高の高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部高台貼り付け。全面横ナデ。	長石・石英微砂粒にぶい橙色 普通	P267 40% 床面
2	小皿 土師器	A 8.6 B 2.0 C 3.9	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。全面横ナデ。	微砂粒多量にぶい橙色 普通	P268 100% 床面

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	土玉	2.2	2.6	—	14.4	床面	DP190 孔径0.5~0.6 100%

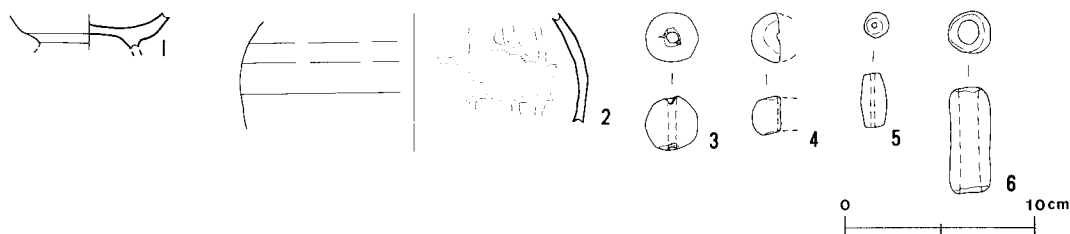


第66号住居跡（第236・237図）

**位置** E5h<sub>5</sub>区 **重複関係** 第64号住居跡の覆土を掘り込んでいる。**規模と平面形** 長軸約3.00m，短軸2.62mの方形。**主軸方向** N-85°-E **壁** 壁高約6~14cmである。**床** 平坦で，踏み固められている。**竈** 東壁中央部からやや南寄りの位置を70cm程壁外へ掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。規模は，幅約110cm，長さ約120cmである。**覆土** 1層で，ロームブロックを均質に含む暗褐色土層である。

**遺物** 第239図-1の高台付坏は床面から竈覆土内にかけて，2の灰釉陶器の長頸瓶は床面から出土している。そのほかに竈内から雲母片磨岩の破片が数片出土し，西壁際の覆土中にヤマトシジミの貝の投棄ブロックが見られる。

**所見** 覆土中の貝は，第1号井戸跡の中層から出土している多量の貝の堆積した時期との関連が考えられる。本跡は，出土遺物から11世紀前葉頃の住居跡と考えられる。



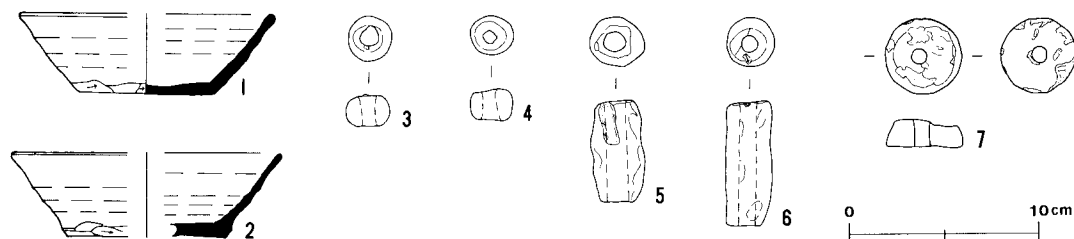
第239図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第239図 1	高台付坏 土師器	A (1.9)	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部高台貼り付け。体部内面へラ磨き。	金雲母極少量 明黄褐色 普通	P269 20%
2	長頸瓶 灰釉陶器	B (5.9)	肩部破片。肩部は丸く内彎する。	体部内・外面横ナデ。	長石砂粒少量 灰白色 普通	P270 5% 床面

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	土玉	2.9	2.9	-	20.5	覆土	DP191 孔径0.5~0.6 100%
4	土玉	2.0	2.5	-	(7.6)	覆土	DP192 孔径0.4 50%
5	管状土製品	2.9	1.3	-	5.3	覆土	DP193 孔径0.3 100%
6	管状土製品	5.6	2.2	-	26.2	覆土	DP194 孔径1.1~1.3 100%

第67号住居跡 (第236・237図)



第240図 第67号住居跡出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第240図 1	須恵器	A [13.5] B 4.3 C 7.1	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P271 40% 覆土
2	須恵器	A [14.4] B 4.5 C [8.4]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P272 30% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	土玉	1.6	2.3	—	9.1	覆土	DP195 孔径0.7~1.0	100%
4	土玉	1.7	2.2	—	7.9	覆土	DP196 孔径0.8~1.0	100%
5	管状土製品	5.3	2.8	—	36.5	覆土	DP197 孔径1.1	95%
6	管状土製品	6.7	2.5	—	42.3	覆土	DP198 孔径0.9	100%
7	紡錘車	—	4.0	1.5	(30.4)	覆土	DP219 孔径0.8	80%

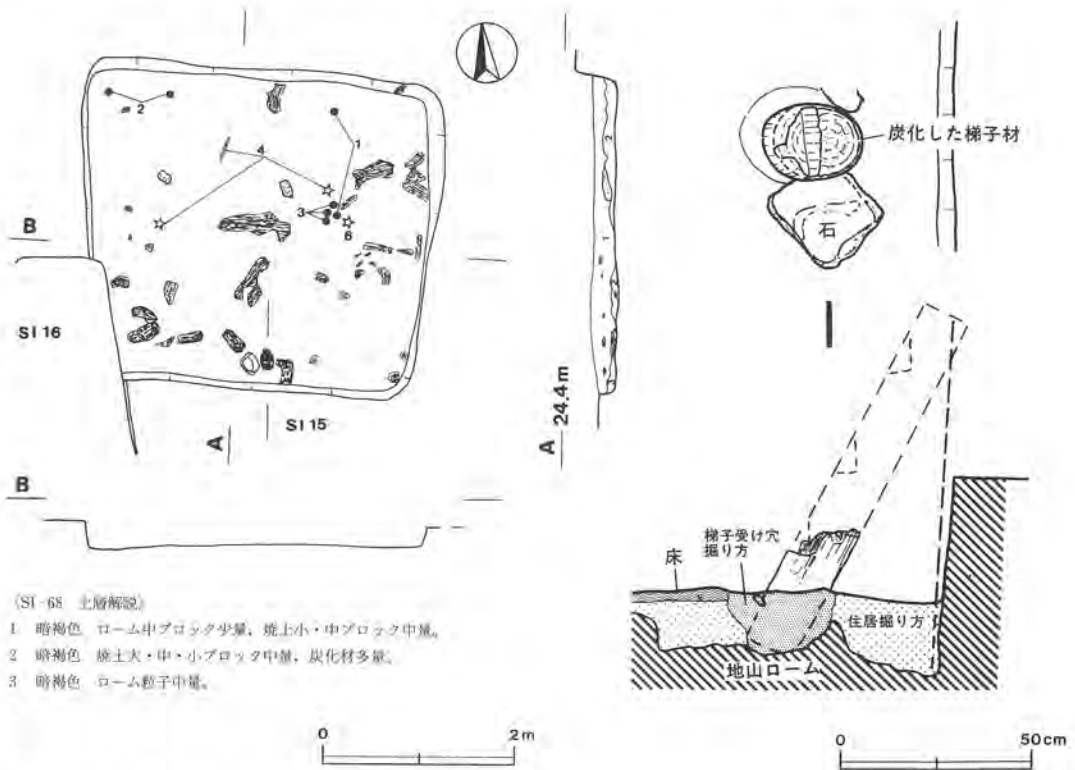
第68号住居跡 (第241図)

**位置** E6g<sub>1</sub>区 重複関係 第15・16号住居跡を掘り込んでいる。 **規模と平面形** 長軸3.59m, 短軸3.49mの長方形。 **主軸方向** N-15°-E **壁** 壁高約12~30cmである。 **床** 平坦で, 踏み固められている。 **ピット** 1か所で, 掘り方径24cm, 深さ13cmである。床面から上の部分に南壁に向かって傾斜した, 加工痕のある炭化材が残っていた。 **覆土** 3層からなる。同時期の遺物が1層中から数多く出土している。

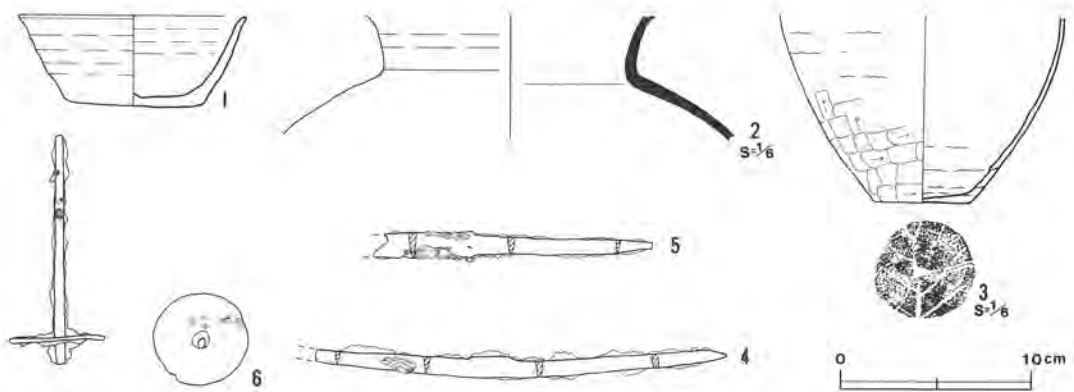
**遺物** 第242図-1の土師質須恵器, 2の須恵器の甕, 3の甕は1層から出土している。そのほかに多量の炭化材や屋根材とみられる炭化した萱が2層から, すさ入り土のブロックが2・3片1層から出土している。

**所見** 南壁中央部の壁から30cm離れた位置の床面に残っていた炭化材は, 床面から南壁側に向かって65°の角度で傾斜している。炭化材の直下にはP<sub>1</sub>があり, P<sub>1</sub>の断面観察によると炭化材の下部がP<sub>1</sub>内に斜めに入り込んでいたようだが, 現状では腐朽し痕跡をとどめるだけであった。炭化材には床から9cmの位置に水平に刻みが入っており出入り口の梯子施設, P<sub>1</sub>については梯

子の受け穴と考えられる。覆土の出土遺物から、9世紀後葉頃の住居跡と考えられる。



第241図 第68号住居跡実測図



第242図 第68号住居跡出土遺物実測図

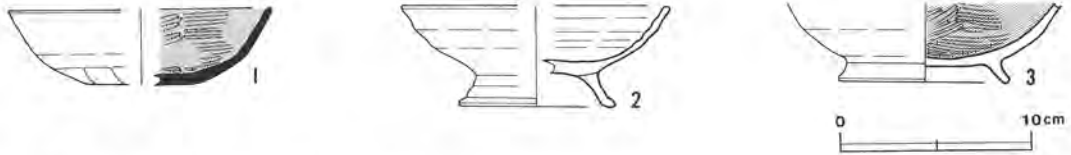
第68号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第242図 1	坏 土師貫須恵器	A 12.2 B 4.9 C 7.3	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、無調整。	スコリア 黄橙色 普通	P274. 70% 覆土(1層)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第242図 2	甕 須恵器	B (10.0)	頸部破片。頸部は外反して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。	角丸の砂礫・海綿骨針，暗青灰色普通	P276 10% 覆土(1層)
3	甕 土師器	B (15.0) C 7.6	体下半部破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体下半部外面横位のヘラ削り。	長石・石英 橙色 普通	P275 40% 覆土(1層)

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	刀子	(22.1)	1.4	0.4	(34.8)	覆土	M36 刃部木質一部残存
5	刀子	(14.9)	1.4	0.4	(21.0)	覆土	M37 刃部木質一部残存
6	紡錘車	(22.3)	5.1	0.2	(38.1)	覆土	M39

### 第70号住居跡 (第135図)



### 第243図 第70号住居跡出土遺物実測図

### 第70号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第243図 1	坏 須恵器	A [14.0] B 4.1 C [5.8]	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。体部外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。	微砂粒多量 灰色 普通	P280 20% 覆土 内黒
2	高台付坏 土師器	A [14.2] B 5.4 C [8.2]	平底で「ハ」の字に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部調整不明。体部内・外面横ナデ。	石英・雲母 にふい橙色 普通	P281 40% 覆土
3	高台付坏 土師器	B (4.3) D 9.0 E 1.1	平底で「ハ」の字に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	外底面高台内側に爪圧痕あり。体部内面ヘラ磨き。	微砂粒多量 黒色 普通	P282 50% 覆土 内黒

表6 うぐいす平遺跡竪穴住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸)	平面形	規模(m) 長軸 × 短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設				炉 電	覆 土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット				
1	E6h <sub>5</sub>	N-5°-W	-	(3.00) × 2.40	6~8	平坦	-	-	-	-	-	-	土師器	-
2	E6h <sub>7</sub>	N-98°-E	長方形	3.65 × 2.66	15	平坦	有	-	-	1	-	電	土師器	11C前葉
3A	E6i <sub>5</sub>	N-100°-E	長方形	(2.80 × 2.46)	4~8	平坦	有	-	-	3	-	電	土師器	10C中葉
3B	E6j <sub>5</sub>	N-4°-W	長方形	3.20 × 2.80	8~30	平坦	有	-	-	1	有	電	土師器, 須恵器, 土師質 須恵器	9C前葉
4A	E6j <sub>7</sub>	N-68°-W	方形	4.60 × 4.50	6	平坦	有	-	-	2	-	炉	土師器	古墳前期
4B	E6j <sub>7</sub>	N-19°-W	方形	3.00 × 2.40		平坦	有	-	-	2	-	炉	須恵器, 土玉, 鉄釘	平安
5	F6a <sub>7</sub>	N-16°-E	-	(3.80 × 3.20)	10	平坦	有	-	-	-	-	電	土師器, 須恵器, 土玉, 紡錘車	10C前葉
6	F6a <sub>5</sub>	N-25°-W	方形	4.94 × 4.90	38~44	平坦	有	4	-	5	有	電	土師, 須恵, 管状土製品, 鎌, 刀	8C前葉
7	E6h <sub>5</sub>	N-5°-W	-	3.90 × -	10~22	平坦	有	-	-	2	-	-	土師器, 灰釉陶器, 鉄鎌, 銅鈴, 土玉	9C後~10C前
8	E6h <sub>1</sub>	N-28°-E	方形	3.80 × 3.52	24~30	平坦	有	-	-	-	-	電	須恵, 管状土製品, 刀子	8C後半
9A	E6i <sub>5</sub>	N-23°-E	長方形	3.86 × 3.10	30	平坦	-	-	-	1	有	電	土師, 須恵, 灰釉, 鎌, 刀子	9C中葉
9B	E6i <sub>5</sub>	N-27°-E	方形	(3.85 × 3.50)	34	平坦	有	-	-	-	-	電	土師器, 須恵器, 支脚	8C後葉
10A	E6i <sub>5</sub>	N-28°-W	方形	5.00 × 4.81	18	平坦	有	-	-	4	-	電	土師器, 須恵器	8C前葉
10B	E6h <sub>1</sub>	N-2°-W	方形	3.40 × 3.35	18~24	平坦	有	-	-	1	有	電	土師器, 灰釉陶器, 管状 土製品	9C後葉
11A	E6j <sub>5</sub>	N-88°-E	長方形	(2.90) × -	10	平坦	有	-	-	-	-	電	灰釉陶器	10C中葉~
11B	E6j <sub>5</sub>	N-98°-E	方形	(2.80) × 2.54	40	平坦	有	-	-	-	-	電	人	10C中葉~
11C	E6i <sub>1</sub>	N-19°-E	方形	4.22 × 3.94	12	平坦	有	-	-	-	-	電	土師, 管状土製品, 支脚, 瓦	10C中
12	E6j <sub>5</sub>	N-40°-W	方形	5.16 × 5.10	42~52	平坦	有	4	-	5	有	炉	土師器, 土玉	古墳前期
13	F6b <sub>2</sub>	N-81°-W	台形	2.70 × 2.50	20~28	平坦	有	-	-	1	有	電	自 土師器, 灰釉陶器, 土玉	9C後葉
14	E6i <sub>1</sub>	N-7°-E	長方形	3.94 × 3.34	22~32	平坦	有	-	-	1	有	電	須恵器, 砥石	8C後葉~
15	E6h <sub>2</sub>	N-10°-W	-	6.20 × (4.80)	2~10	平坦	有	(2)	有	4	有	-	土師器, 土玉	古墳前期中葉
16	E6h <sub>1</sub>	N-10°-W	方形	3.88 × 3.80	32~46	平坦	有	4	-	5	有	電	自 土師器, 須恵器, 羽口, 支脚	8C後葉
17A	E6i <sub>1</sub>	N-3°-W	方形	4.12 × 3.50	22~54	平坦	有	-	-	1	-	電	土師器, 須恵器, 管状土 製品, 刀子	9C後~10C前
17B	E6i <sub>2</sub>	N-94°-E	長方形	2.70 × 2.10	10	平坦	有	-	-	-	有	電	土師, 須恵, 灰釉, 土玉, 刀子	10C中
18	E5j <sub>5</sub>	N-29°-W	長方形	6.80 × 6.30	34~44	平坦	有	4	有	5	-	炉	人 土師器, 土玉, 鉄鎌	古墳前期焼失
19	E5i <sub>5</sub>	N-37°-W	方形	5.30 × 5.10	26~27	平坦	有	4	有	5	有	炉	自 土師器, 土玉	古墳前期焼失
20	F6b <sub>1</sub>	N-5°-E	長方形	3.64 × 3.30	30~32	平坦	有	1	-	1	有	電	土師器, 須恵器, 灰釉, 土玉	9C後葉
21	F6b <sub>1</sub>	N-33°-W	方形	[5.70] × 5.20	14	平坦	有	2	有	2	-	-	人 土師器, 土玉	古墳前期焼失
22	F6b <sub>2</sub>	N-46°-W	方形	3.16 × 3.00	12~14	平坦	有	-	-	1	-	-	自 土師器	古墳前期
23	F6c <sub>1</sub>	N-10°-E	-	-	20~22	平坦	-	-	-	-	-	-	自 土師, 灰釉	9C後~10C前
24	F5b <sub>5</sub>	N-24°-W	方形	6.14 × 6.10	58~64	平坦	有	4	-	5	有	電	自 土師器, 須恵器, 土玉	8C前葉
25	F4d <sub>5</sub>	N-12°-W	-	(2.80 × 1.24)	-	平坦	-	-	-	-	-	電	土師器	床の一部残る
26	E5j <sub>5</sub>	N-42°-W	方形	5.56 × 5.32	8	平坦	有	4	有	6	有	-	土師器, 土玉	古墳前期
27	E5i <sub>7</sub>	N-68°-E	長方形	2.62 × 2.38	5~14	平坦	有	1	-	-	-	電	自 土師, 土玉, 管状土製品	9C後葉
28	F5a <sub>5</sub>	N-60°-W	長方形	4.48 × 3.96	16	平坦	有	4	-	5	有	炉	土師器	古墳前期中葉
29	F6c <sub>1</sub>	N-45°-E	長方形	4.60 × 4.18	8~18	平坦	有	2	-	-	-	-	土師器, 須恵器	古墳前期
30A	F5c <sub>5</sub>	N-25°-W	方形	4.88 × 4.82	42	平坦	有	4	有	4	-	炉	土師器, 土玉, 砥石	古墳前期焼失
30B	F5c <sub>5</sub>	N-35°-W	方形	5.54 × (4.20)	22~30	平坦	有	4	有	4	-	-	人 土師器	古墳前期

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸)	平面形	規模(m) 長軸 × 短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設					炉 電	覆 土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
31	F5a7	N-2°-W	[方形]	4.56 × 4.40	6~13	平坦	有	3	-	3		電		土玉、管状土製品	奈良~平安
32A	F5b6	N-25°-E	長方形	4.56 × 3.20	36	平坦	有		-			電		土師器、土玉	奈良~平安
33	F5c5	N-10°-W	-	5.22 × 4.34	14	平坦	有		-					土師器、須恵器、土玉	奈良~平安
34	F5d4	N-17°-W	-	-	4	平坦	有		-					土師器、須恵器	平安
35	E5i4	N-13°-W	長方形	3.04 × 2.67	2~4	平坦	有	-	-	-	-	電	-	須恵器	9 C 前葉
36	E5i4	N-39°-W	隅丸方	5.92 × 5.67	8~20	平坦	無	4	-	8	有	炉	自	弥生、紡錘車、土玉、銅 鏡	弥生焼失
37	E5j5	N-23°-E	方形	2.66 × 2.36	6~10	平坦	有		-					灰釉陶器	平安
38	F5b3	N-5°-W	方形	5.32 × 5.36	20~50	平坦	有	4	-	5	有	電	-	土師器、須恵器、土玉、 刀子	8 C 前葉焼失
39	F5c3	N-33°-W	方形	7.70 × 7.40	22~30	平坦	有	4	有	5	有	炉	自	土師器、土玉	古墳前期焼失
40A	F5d2	N-73°-W	-	-	20~55	平坦	有	-	-	-	-	-	-	土師器	古墳前期か?
40B	F5c1	N-73°-W	方形	6.60 × 6.34	26~27	平坦	有	4	-	5	有	電	人	土師、須恵、灰釉、土玉、 管玉	7 C 後半~8 C 前
41	F4d0	N-13°-E	長方形	4.40 × 3.56	4~10	平坦	有	-	-	-	-	電	-	土師器、須恵器、土玉	10 C 前葉
42	F5a1	N-85°-E	長方形	2.40 × 1.86	2~8	平坦	有	-	-	-	-	電	-	土師器	10 C ~
43	F4b0	N-72°-W	長方形	3.30 × 2.60	20~35	平坦	有	-	-	2	有	電	-	土師器、須恵器	10 C ~
45	E4j0	N-15°-W	方形	3.28 × 3.22	10~30	平坦	有	-	-	1	有	電	-	須恵器、砥石	9 C 前
46	E4j0	N-1°-W	長方形	2.92 × 2.64	4	平坦	有	-	-	-	-	電	-	土師器、土玉	平安
47A	E4j0	N-1°-E	-	(2.34 × -)	12~14	平坦	-	-	-	-	-	-	-	土師器	平安
47B	F4a8	N-1°-W	長方形	2.77 × 2.20	12~14	平坦	有	-	-	-	-	電	-	土師器、灰釉陶器	9 C 後葉
49	F4b8	N-81°-E	長方形	2.65 × 2.10	5~12	平坦	有	-	-	1	有	電	-	土師器、須恵器、土玉	10 C 後葉
50	F4d0	N-93°-W	長方形	3.94 × 2.99	10~24	平坦	有	-	-			電		土師器、土玉	平安
51A	F4c0	N-39°-E	-	-		平坦	有	-	-					土師器	古墳前期
51B	F4c8	N-65°-W	方形	5.60 × 5.36	12~22	平坦	有	4	-	7	有	炉	-	土師器、土玉	古墳前期
52	F5c6	N-40°-W	長方形	5.30 × (4.50)	5	平坦	有	4	有	5	有	炉	-	土師器	古墳前期
53	F5a7	N-45°-W	隅丸長	6.60 × 5.08	16~20	平坦	無	4	-	7	有	-	-	紡錘車	弥生
54	F6a4	N-56°-W	方形	5.38 × 4.97	22~30	平坦	有	4	有	5	有	炉	-	土師器、土玉	古墳前期
55	E6i0	N-2°-E	方形	3.30 × 3.30	16~20	平坦	無	-	-	-	-	電	-	土師器	9 C 後葉
57	F5a7	N-89°-E	長方形	2.92 × 2.65	15~30	平坦	有	-	-	-	-	電	人	土師、土師質須恵、管状 土製品	9 C 後葉
58	E5j4	N-0°	長方形	[2.85 × 2.50]	8	平坦	有		-			電		土師器、須恵器	平安
59	E5j3	N-8°-E	-	2.90 × 2.83	10~15	平坦	有		-			電		土師器、紡錘車、砥石	10 C 中葉
60	E5j3	N-15°-W	-	3.28 × 3.08	15	平坦	有		-			電		土師器、須恵器、灰釉陶 器	平安
61	F5d3	N-58°-W	隅丸長	5.56 × (4.75)	14~23	平坦	無	4	-	4	-	炉	-	弥生式土器	弥生
62	F5c7	N-34°-E	-	3.82 × 2.41	4	平坦	有		-			炉		土師器	古墳
63	F5c6	N-30°-E	-	3.17 × 2.64	10	平坦	有	-	-	-	-	-	-	土師器	-
64	E5h6	N-8°-W	方形	7.42 × 7.32	20~34	平坦	有	4	-	5	有	電	人	土師、須恵、土玉、管状 土製品	8 C 前葉
65	E5b6	N-75°-E	長方形	(3.10 × 2.50)	14	平坦	有	-	-	-	-	電	-	土師器、土玉	11 C 前葉
66	E5h5	N-85°-E	方形	3.00 × 2.62	6~14	平坦	有	-	-	-	-	電	-	土師、灰釉、土玉、管状 土製品	11 C 前葉
67	E5g7	N-74°-W	-	2.38 × 2.02	6~7	平坦	有	-	-	-	-	電	-	須恵、土玉、管状土製品、 紡錘	平安
68	E6g1	N-15°-E	長方形	3.59 × 3.49	12~30	平坦	有	-	-	1	有	-	-	土師器、須恵器、刀子、 紡錘車	9 C 後葉焼失
69	F4c0	N-51°-W	長方形	5.30 × (5.12)	10	平坦	有	2	-	2	-	-	-	土師器、砥石	古墳前期
70	E6j8	[N-90°-E]	-	(1.36 × 0.70)	16~18	-	有	-	-	-	-	-	-	土師器、須恵器、紡錘車	平安

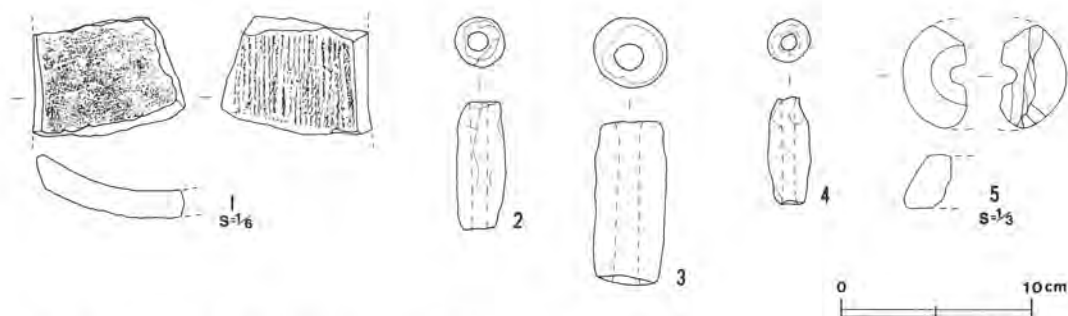
## 2 土坑

当遺跡からは、10基の土坑が確認されている。それぞれの土坑からは、十分な資料が得られなかったために、性格等を解明できたものは極わずかであった。

以下、確認された土坑を、一覧表に掲示した。

表7 うぐいす平遺跡土坑一覧表

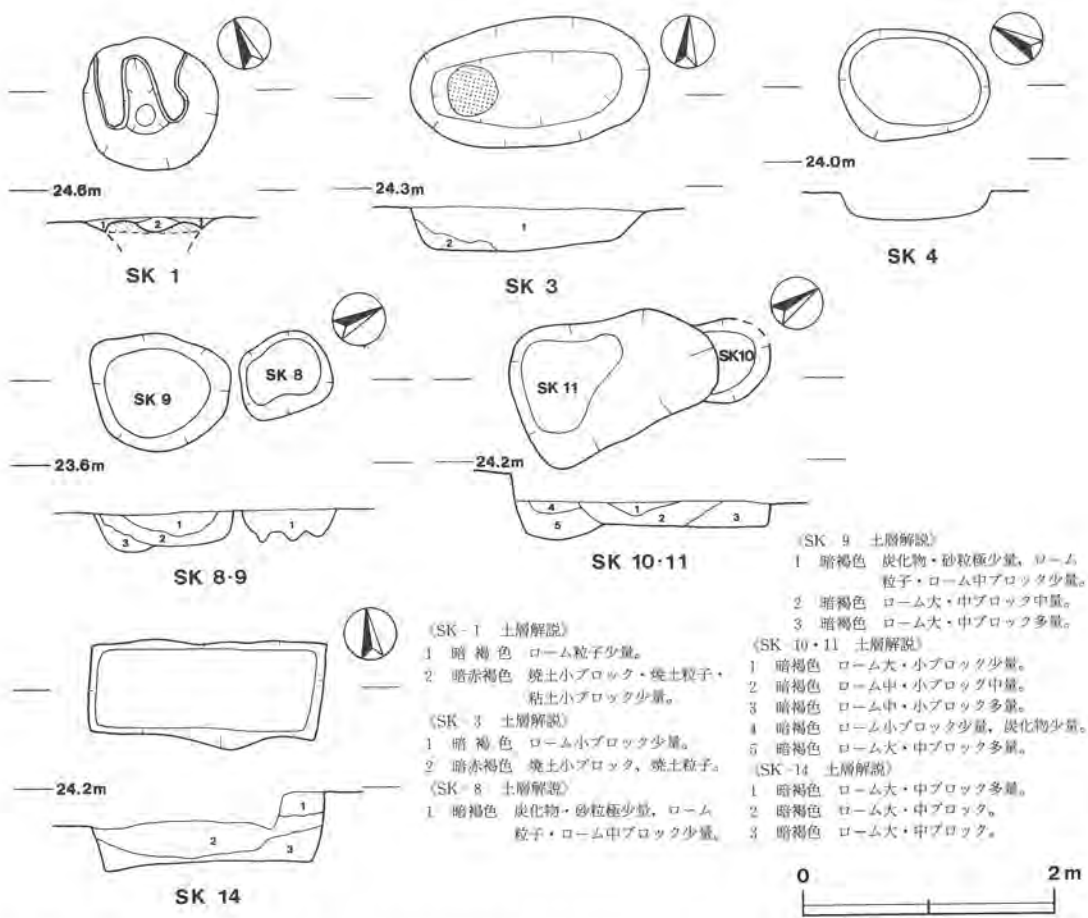
土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1	E6j <sub>e</sub>	N-15°-E	円形	1.13 × 1.06	緩斜	-	-	土師器, 須恵器, 瓦	竈
3	F4a <sub>s</sub>	N-95°-W	長楕円形	1.90 × 1.02	外傾	平坦	自然	縄文式土器細片	炉穴
4	F5c <sub>o</sub>	N-24°-W	楕円形	1.20 × 0.90	緩斜	平坦	自然	土師器	
8	F5c <sub>s</sub>	N-3°-E	不整楕円形	0.74 × 0.64	外傾	凹凸	自然	土師器, 紡錘車	
9	F5d <sub>s</sub>	N-20°-E	不整楕円形	1.08 × 0.95	外傾	皿状	自然	管状土製品	
10	F5d <sub>s</sub>	N-18°-E	楕円形	0.67 × -	外傾	皿状	自然	-	
11	F5d <sub>s</sub>	N-20°-E	不整形	1.64 × 1.14	外傾	平坦	自然	-	
13	F5d <sub>o</sub>	N-45°-E	楕円形	1.28 × 0.80	緩斜	皿状	自然	土師器	
14	E6h <sub>s</sub>	N-85°-W	長方形	1.84 × 0.76	垂直	平坦	自然	-	
16	F6a <sub>z</sub>	N-85°-W	楕円形	0.90 × 0.50	緩斜	皿状	自然	土師器, 須恵器, 管状土製品	



第244図 第1・7・8・9・16号土坑出土遺物実測図

第1・7～9・16号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	平瓦	(9.5)	(12.0)	5.2	(319.4)	1号土坑(竈遺構袖部脇) 覆土	DP199	10%
2	管状土製品	6.9	2.6	-	39.2	7号土坑覆土	DP209	95%
3	管状土製品	8.8	3.8	-	129.1	9号土坑覆土	DP210	100%
4	管状土製品	5.2	2.3	-	23.5	16号土坑覆土	DP211	98%
5	紡錘車	-	[4.4]	2.2	17.2	8号土坑覆土	Q19	40%



第245図 第1・3・4・8・9・10・14号土坑実測図

### 3 井戸

#### 第1号井戸 (第246図)

位置 E5i<sub>s</sub>区

重複関係 第26号住居跡の一部を掘り込んでいる。

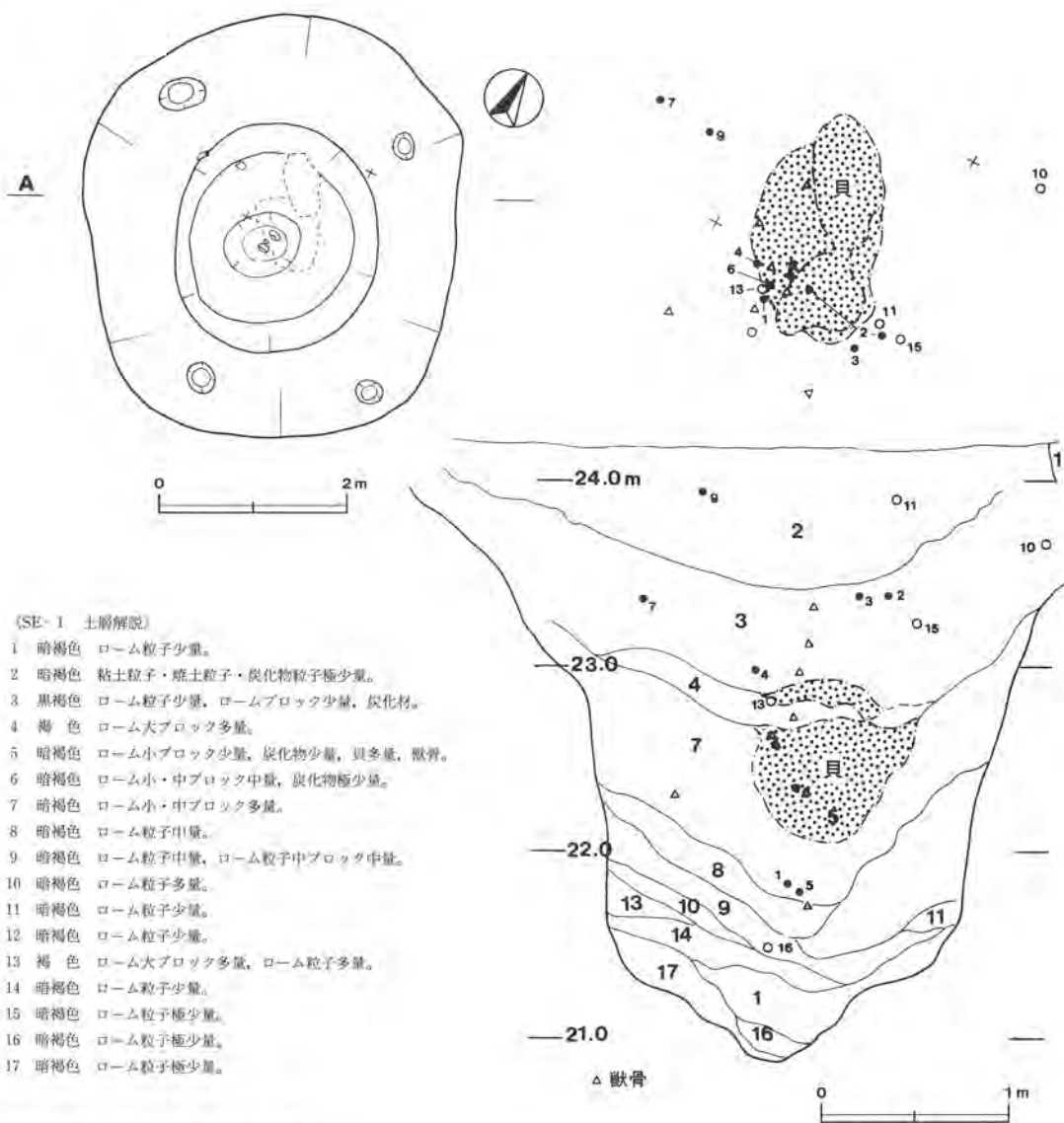
規模と形状 掘り方は、上面が直径約3.8~4.5mの不整形円で、確認面から深さ約1.4mまで傾斜した挿鉢状となり、途中から径約1.8m、深さ1.5mの円柱状になっている。底面には径0.7m、深さ0.4m程の掘り込みを持つている。

覆土 17層。各層とも中央部に向かって下降して傾斜する土層であるが、7層から下の土層は井戸枠の裏込め土が流れ込んだような状況である。6層は二枚貝を主体として獣骨、土器片を含んだ土層であるが、7層の中央部を切るように深さ約0.9m、径約0.9mの円筒状の範囲に堆積しており、井戸枠内に流れ込んだような堆積状況である。2・3層はある程度埋没した井戸の上部を60~80cmの厚さで覆っている土層である。上層の1~4層は比較的締まっているが、下層は軟ら



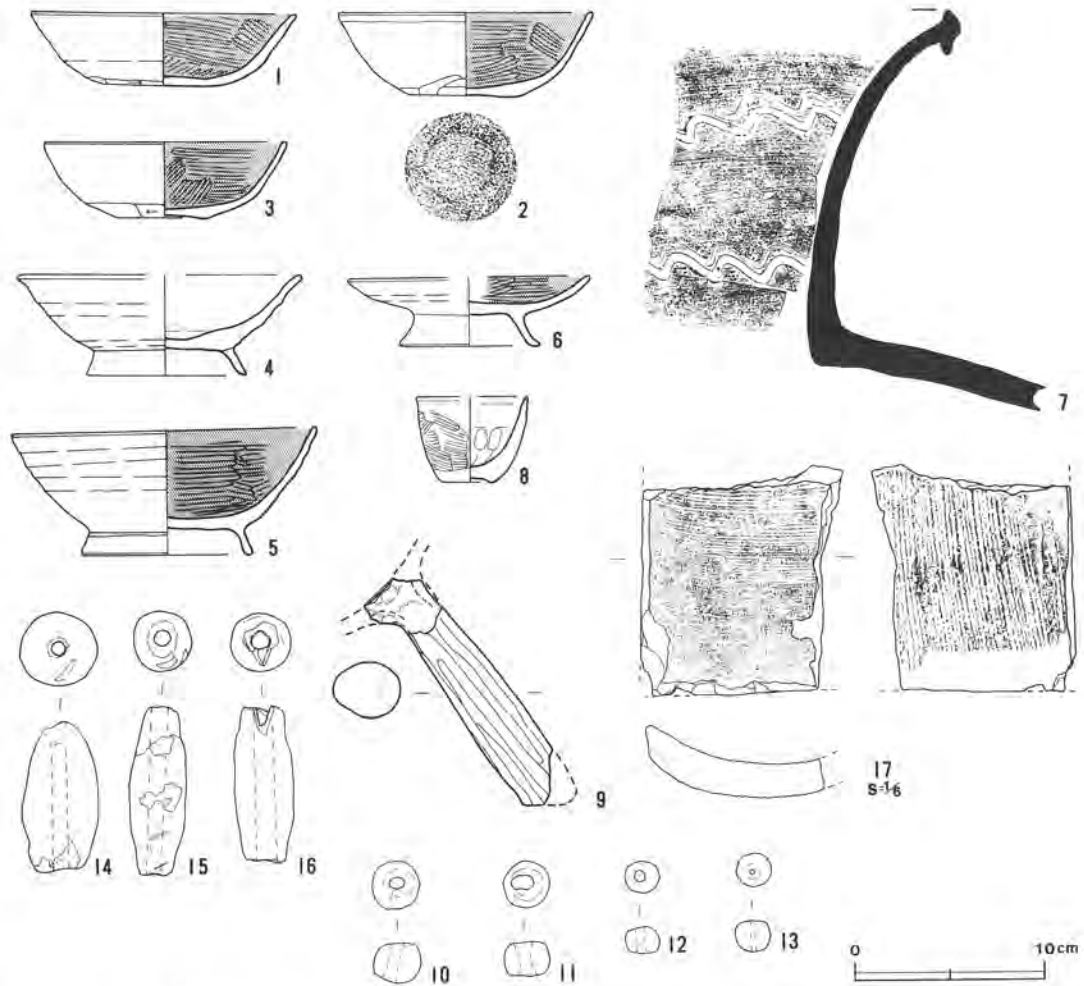
かい。

**遺物** 上層（2・3層）からは、第247図-9の脚付甕、7の須恵器大甕片、の磨製蛤刃の石斧等流れ込み遺物を含んで数多く出土している。中層（4・5・6層）からは多量に二枚貝や獣骨が出土している（PL103）。獣骨は1才ぐらいの若い鹿の各部位の骨、別個体で3才以上の鹿の脛骨、生後1・2か月の幼犬の上顎骨、3才以上の牛のとう骨である。貝はヤマトシジミ総重量約21.5kg、イガイ1個体、オオタニシ10個体、マイマイの類が1個体、ヤマトシジミが総量の99%以上を占めている。1の坏、5の高台付埴は、貝層のブロックの下の8層上面付近から出土している。



第246図 第1号井戸実測図

所見 覆土中層の出土遺物は井戸廃棄後の投棄遺物と考えられる。本跡は、それらの遺物から10世紀中～後葉頃に廃棄した井戸と考えられる。



第247図 第1号井戸出土遺物実測図

第1号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第247図 1	坏 土師器	A 14.0 B 3.8 C 6.3	平底。体部は内甕気味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り。体部外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。	微砂粒多量 橙色 普通	P283 100% 覆土(8層上面) 内黒
2	坏 土師器	A 13.6 B 4.5 C 5.8	平底。体部は内甕気味に立ち上がる。	底部回転糸切り。体部下端手持ちヘラ削り。体部外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。	石英・砂粒多量 浅黄橙色 普通	P284 85% 覆土(3層) 内黒
3	坏 土師器	A [12.8] B 4.1 C 4.6	平底。体部は内甕して立ち上がる。	底部一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面横ナデ。	微砂粒多量 橙色 普通	P285 65% 覆土(3層) 内黒
4	高台付坏 土師甕類器	A [14.4] B 5.4 D 8.4	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内甕気味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部内・外面横ナデ。	石英主体の微砂粒 浅黄橙色 普通	P286 55% 覆土(3層)

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第247図 5	高台付埴土師器	A 16.0 B 6.7 D 9.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部摩擦で調整不明。体部外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。	微砂粒多量 橙色 普通	P287 90% 覆土(8層上面) 内黒
6	高台付皿土師器	A [12.8] B 3.7 D 7.4	平底で「ハ」の字状に開く足高高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。	雲母 にぶい橙色 普通	P288 65% 覆土(6層) 内黒
7	甕須恵器	B (21.0)	口縁部破片。口縁部は外反する。端部は下方に折り返され、上・下方向に突出する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部に2本ないし4本一条の波状文を2段に付す。	長石・石英砂礫・ 海綿骨針、灰色 普通	P289 10% 覆土(2・3層)
8	ミニチュア土器土師器	A [6.0] B 4.6 C 2.5	平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面横位のハケ調整。	微砂粒 にぶい褐色 普通	P290 70% 覆土最下層
9	脚付甕土師器	E (12.1)	脚付甕の脚部破片。中実の棒状で下端に平らな接地面を持つ。脚部全長14.3cm、径約3cm。	脚部外面ヘラ削り。	砂礫(2mm大)多量 にぶい褐色 普通	P291 5% 覆土(2層)

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 位 置	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	土 玉	2.1	2.5	—	12.8	覆土(3層)	DP200 孔径0.7~0.8 100%
11	土 玉	1.8	2.5	—	11.3	覆土(2層)	DP201 孔径1.1~1.2 100%
12	土 玉	1.4	1.7	—	4.4		DP202 孔径0.6 100%
13	土 玉	1.7	1.9	—	6.3	覆土(5層)	DP203 孔径0.3 100%
14	管状土製品	(8.0)	4.1	—	(118.8)	覆土(6層)	DP204 孔径0.7 95%
15	管状土製品	8.9	3.0	—	72.0	覆土(3層)	DP205 孔径0.9 100%
16	管状土製品	8.2	3.2	—	75.2	覆土(12層前後)	DP206 孔径0.9~1.0 95%
17	平 瓦	(18.5)	(16.3)	5.9	1033.9	覆土	DP208 孔径0.9~1.0 95%

## 4 溝

当遺跡からは、1条の溝が確認されている。出土遺物がほとんどなく溝の性格をとらえることはできなかった。

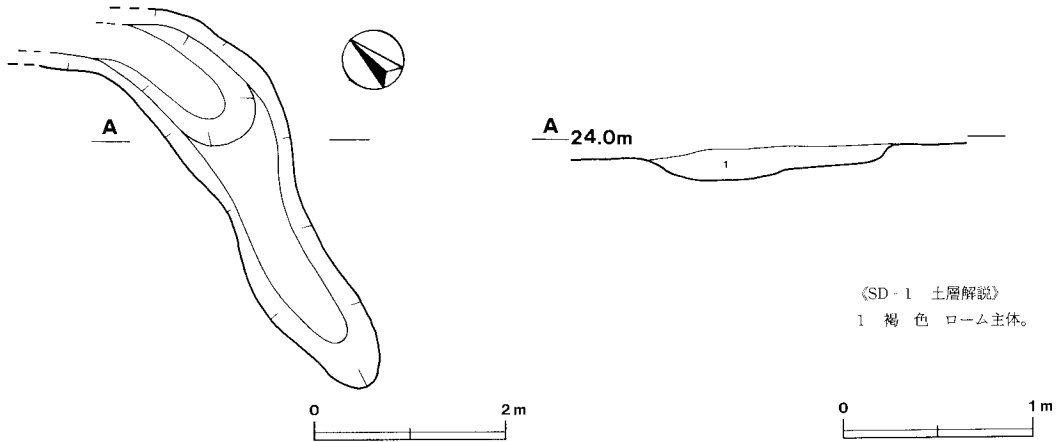
### 第1号溝(第248図)

位置 E4j7区~E4a7区

方向 F4a7区から北方向へ延びている。

規模と形状 長さ約6.6mで、掘り方断面は上幅約1.2m、下幅約0.5mのU字形である。

覆土 暗褐色土の1層。



第248図 第1号溝実測図

### 5 その他の遺物

うぐいす平遺跡は、弥生時代後期から平安時代にかけての住居跡が主体であるが、古墳時代以降の遺構の覆土中からは縄文～弥生時代遺物や鉄滓等が出土している。そこで縄文式土器と弥生式土器については拓影図と一覧表で掲載する。鉄滓については、一覧表で掲載する。

#### 縄文式土器

縄文時代早期の無文土器、三戸式、前期の黒浜、浮島、中期の加曾利E、後期堀之内式土器片が出土している。

表8 うぐいす平遺跡出土縄文式土器

番号	出土地点	備考	番号	出土地点	備考
第249図 1	24号住居跡覆土	無文土器 TP 1	第249図 19	27号土坑覆土	黒浜 TP19
2	15号土坑覆土	〃 TP 2	20	18号住居跡覆土	〃 TP20
3	54号住居跡覆土	〃 TP 3	21	36号住居跡覆土	浮島 TP21
4	53号住居跡覆土	〃 TP 4	22	54号住居跡覆土	〃 TP22
5	6号住居跡覆土	竹の内 TP 5	23	54号住居跡覆土	〃 TP23
6	12号住居跡覆土	〃 TP 6	24	19号住居跡覆土	〃 TP24
7	18号住居跡覆土	三戸 TP 7	25	24号住居跡覆土	〃 TP25
8	20号住居跡覆土	〃 TP 8	第250図 1	36号住居跡覆土	十三菩提 TP26
9	31号住居跡覆土	〃 TP 9	2	54号住居跡覆土	加曾利E TP27
10	21号住居跡覆土	〃 TP10	3	12号住居跡覆土	〃 TP28
11	19号住居跡覆土	条痕文系 TP11	4	54号住居跡覆土	〃 TP29
12	6号住居跡覆土	〃 TP12	5	19号住居跡覆土	堀の内 TP30
13	43号住居跡覆土	〃 TP13	6	12号住居跡覆土	〃 TP31
14	64号住居跡覆土	〃 TP14	7	36号住居跡覆土	〃 TP32
15	18号住居跡覆土	黒浜 TP15	8	34号住居跡覆土	〃 TP33
16	21号住居跡覆土	〃 TP16	9	19号住居跡覆土	〃 TP34
17	17号住居跡覆土	〃 TP17	10	15号住居跡覆土	〃 TP35
18	41号住居跡覆土	〃 TP18	11	36A号住居跡覆土	〃 TP36

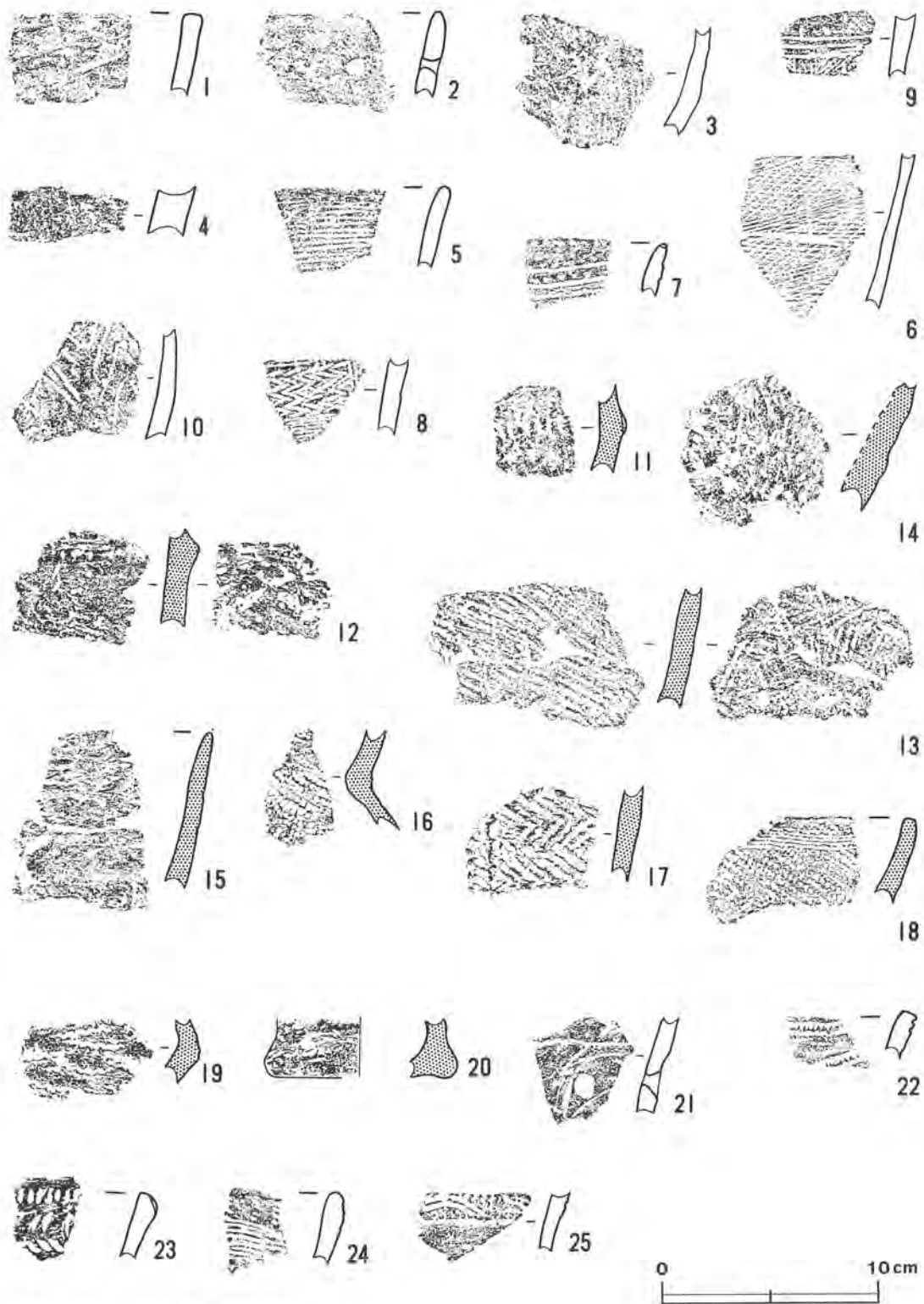
## 弥生式土器

中期後半から後期前葉，中葉，後葉にかけての土器が出土している。

表9 うぐいす平遺跡出土弥生式土器

番号	出土地点	備考
第250図 12	16号住居跡覆土	ムジナ1 TP37
13	53号住居跡覆土	〃 TP38
14	7号土坑覆土	後期前葉 TP39
15	7号土坑覆土	〃 TP40
16	12号住居跡覆土	〃 TP41
17	30号住居跡覆土	〃 TP42
18	18号住居跡覆土	〃 TP43
19	30A号住居跡覆土	〃 TP44
20	15号住居跡覆土	〃 TP45
21	15号住居跡覆土	〃 TP46
22	15号住居跡覆土	〃 TP47
23	57号住居跡覆土	〃 TP48
第251図 1	49号住居跡覆土	〃 TP49
2	34号住居跡覆土	〃 TP50
3	33号住居跡覆土	〃 TP51
4	61号住居跡覆土	〃 TP52
5	33号住居跡覆土	〃 TP53
6	33号住居跡覆土	〃 TP54
7	69号住居跡覆土	〃 TP55
8	18号住居跡覆土	〃 TP56
9	33号住居跡覆土	〃 TP57
10	24号住居跡覆土	〃 TP58
11	18号住居跡覆土	〃 TP59
12	62号住居跡覆土	〃 TP60
13	12号住居跡覆土	後期中葉 TP61
14	40号住居跡覆土	〃 TP62
15	12号住居跡覆土	〃 TP63
16	22号住居跡覆土	〃 TP64
17	64号住居跡覆土	上稲吉 TP65
18	31号住居跡覆土	〃 TP66
19	19号住居跡覆土	〃 TP67
20	43号住居跡覆土	〃 TP68
21	64号住居跡覆土	〃 TP69
22	27号住居跡覆土	〃 TP70
23	67号住居跡覆土	〃 TP71
24	64号住居跡覆土	〃 TP72
25	33号住居跡覆土	〃 TP73
26	19号住居跡覆土	〃 TP74
第252図 1	64・67号住居跡覆土	上稲吉 TP75
2	18号住居跡覆土	〃 TP76
3	39号住居跡覆土	十王台 TP77
4	54号住居跡覆土	二軒屋 TP78
5	33号住居跡覆土	〃 TP79
6	30号住居跡覆土	〃 TP80
7	54号住居跡覆土	〃 TP81
8	40B号住居跡覆土	〃 TP82

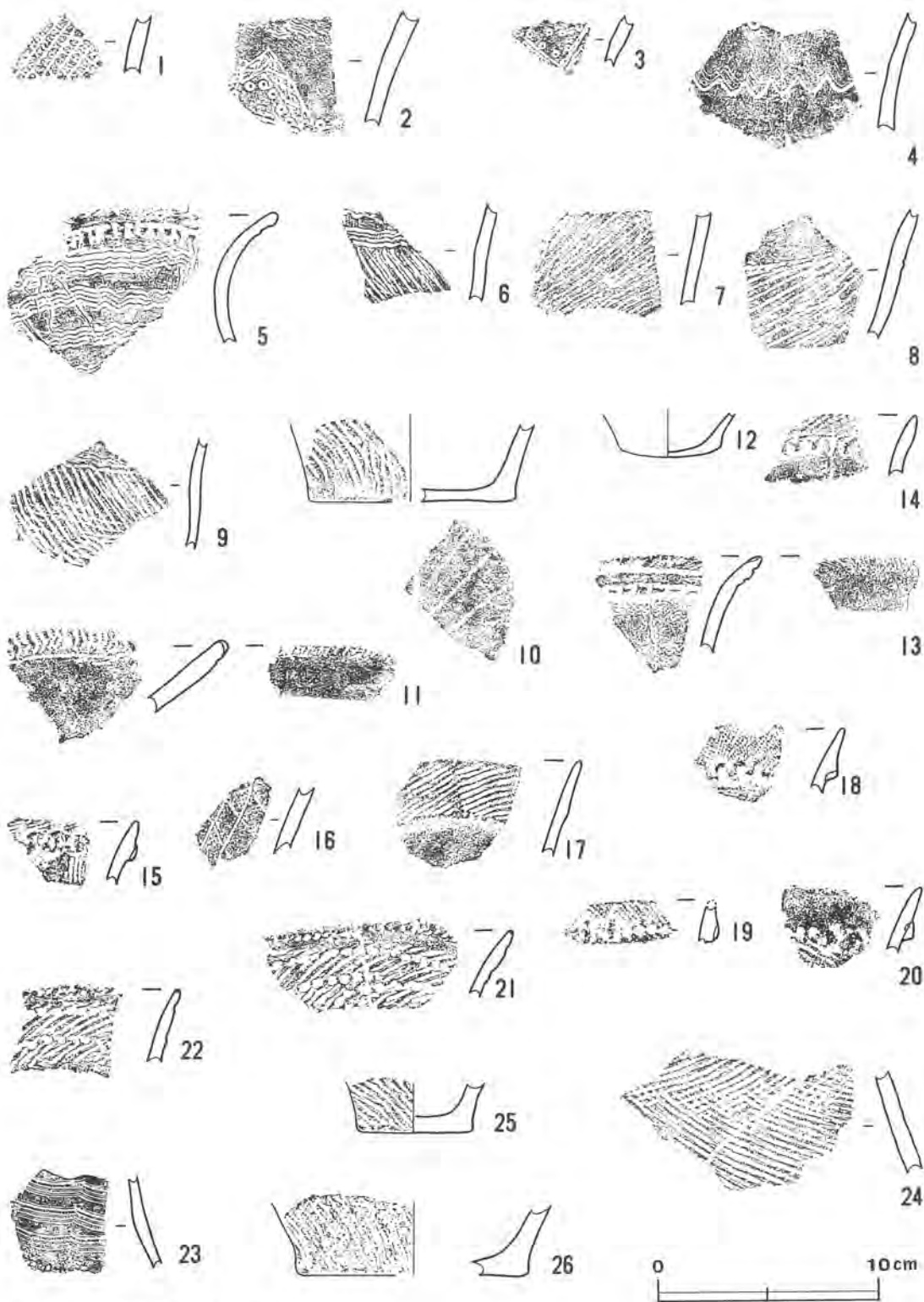
番号	出土地点	備考
第252図 9	33号住居跡覆土	二軒屋 TP83
10	54号住居跡覆土	〃 TP84
11	32号住居跡覆土	〃 TP85
12	38号住居跡覆土	〃 TP86
13	1号井戸覆土最下層	赤井戸 TP87
14	31号住居跡覆土	〃 TP88
15	29号住居跡覆土	南関東? TP89
16	12号住居跡覆土	〃 TP90
17	64号住居跡覆土	〃 TP91
18	18号号住居跡覆土	〃 TP92
19	54号住居跡覆土	〃 TP93
20	36号住居跡覆土	〃 TP94
21	26号住居跡覆土	〃 TP95
22	20号住居跡覆土	〃 TP96
25	11A号住居跡覆土	〃 TP99
27	18号住居跡覆土	〃 TP101
28	18号住居跡覆土	〃 TP102
第253図 1	18号住居跡覆土	〃 TP103
2	24号住居跡覆土	〃 TP104
3	24号住居跡覆土	〃 TP105
4	36号住居跡覆土	上稲吉 TP110
5	36号住居跡覆土	〃 PL108-7TP111
6	53号住居跡覆土	後期前葉 PL108-8 TP112
7	53号住居跡覆土	〃 9 TP113
8	53号住居跡覆土	〃 10TP114
9	53号住居跡覆土	〃 TP115
10	53号住居跡覆土	〃 12TP116
11	53号住居跡覆土	後期中葉 PL108-13TP117
12	53号住居跡覆土	〃 14TP118
13	53号住居跡覆土	〃 15TP119



第249図 縄文式土器拓影図(1)

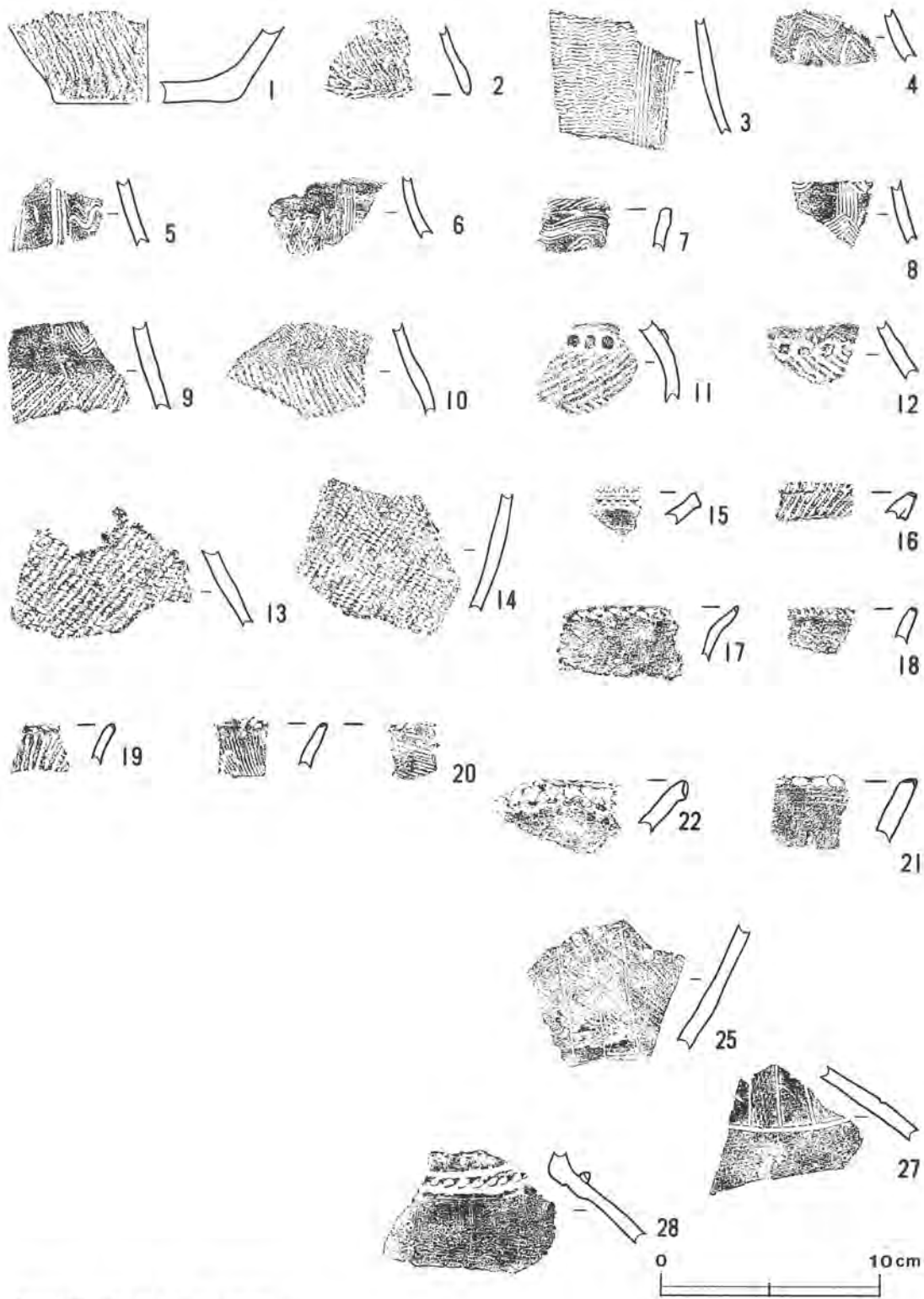


第250図 縄文式土器・弥生式土器拓影図(2)

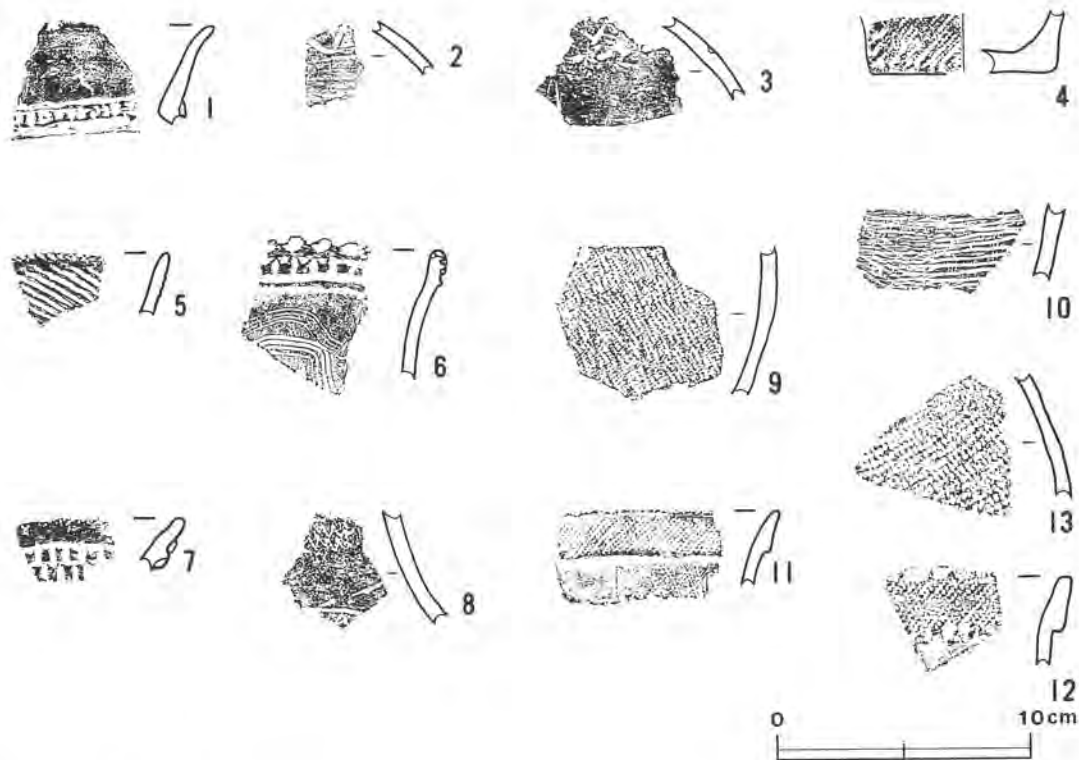


第251图 弥生式土器拓影图(3)





第252图 弥生式土器拓影图(4)

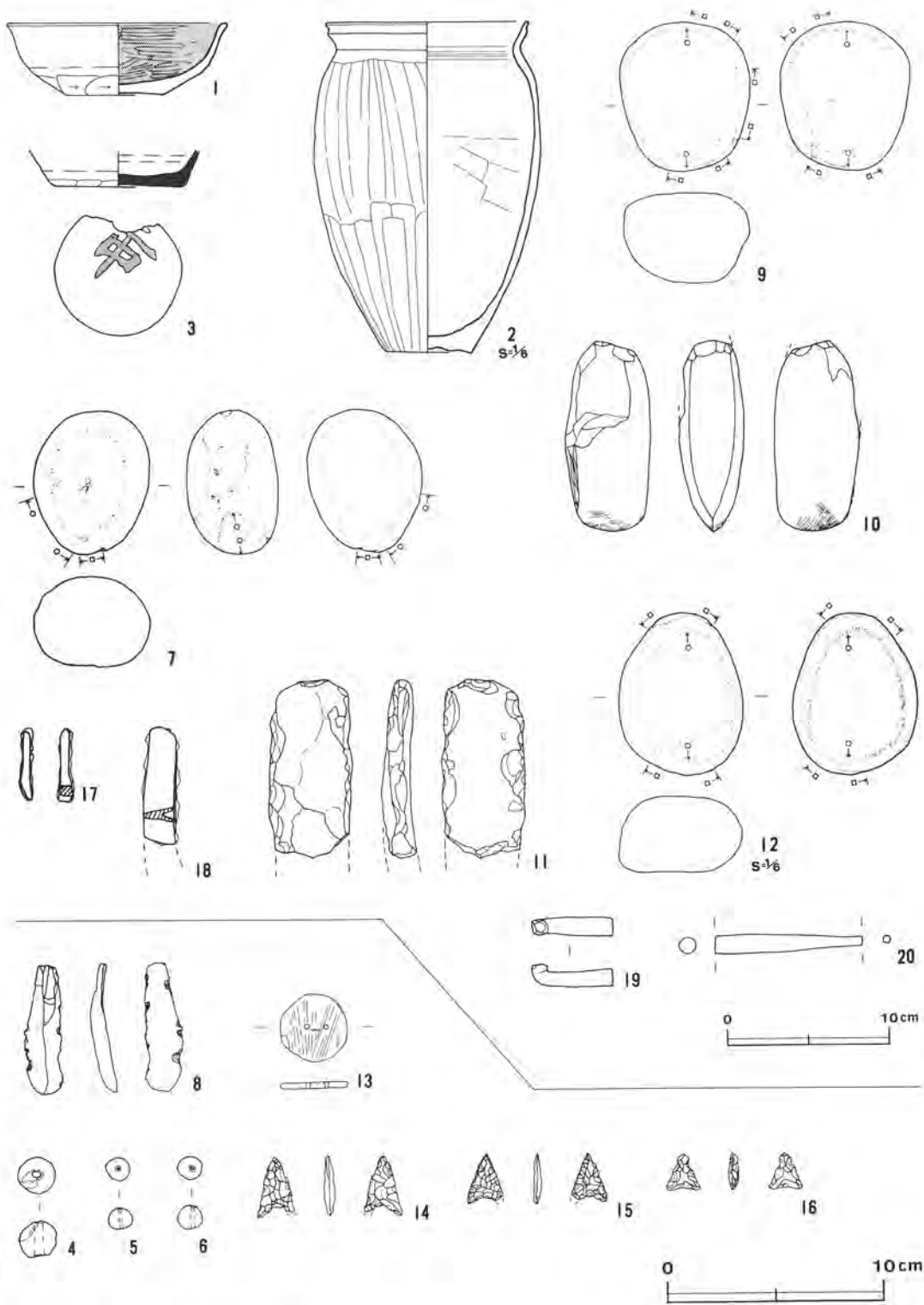


第253図 弥生式土器拓影图(5)

その他の出土遺物

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第254図 1	坏 土師器	A 13.7 B 4.5 C 5.8	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。体部内・外面横ナデ。	雲母・石英 灰褐色 普通	P 292 85% 出土地点不明 内黒
2	壺 土師器	A 19.0 B 29.9 C 8.0	平底。長刷気味の壁で、頭部でくびれ、口縁部は外傾する。口唇部を外上方につまみ上げる。	底部木葉痕。体下半部縦位のへラ削り、体上半部縦位のへラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	雲母 灰褐色 普通	P 293 90% 出土地点不明
3	坏 須恵器	B (2.3) C 7.8	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部一方向へラ削り。体部下端手持ちへラ削り。	雲母・石英 灰白色 普通	P 294 65% 表採 朱書「?中」

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	土玉	1.7	1.7	-	4.3	表採	DP212 孔径0.4 100%
5	土玉	1.1	1.1	-	1.1	表採	DP213 孔径0.1 100%
6	土玉	1.1	1.1	-	1.2	表採	DP214 孔径0.1 100%
7	磨石	8.9	7.2	5.6	455.0	11B号住居跡覆土	Q 1 安山岩
8	石刃	7.0	1.8	1.3	7.4	17号住居跡確認面	Q 4
9	磨石	9.3	8.1	5.6	661.7	69号住居跡P <sub>1</sub> 覆土	Q 15 安山岩
10	磨製石斧	11.9	5.4	4.1	382.9	1号井戸覆土(2・3層)	Q 17 硬質砂岩横斧
11	打製石斧	(11.1)	5.1	2.2	139.5	1号井戸覆土	Q 18
12	藏石	15.2	11.7	7.2	1938.7	15号住居跡P <sub>1</sub> 覆土	Q 3
13	双孔円盤	-	3.2	0.3	5.6	29号住居跡上の表土中	Q 8 滑石



第254図 その他の出土遺物

図版番号	器種	計測値				出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
14	石 鏃	2.8	1.7	0.5	1.6	49号住居跡覆土	Q12 黒耀石
15	石 鏃	2.3	1.6	0.3		表採	Q20 黒耀石
16	石 鏃	1.7	1.6	0.45	1.0	表採	Q21 黒耀石
17	鏝	(43.7)	1.0	0.6	(5.5)	70号住居跡か?	M3
18	鋤先状鉄製品	(7.3)	(2.2)	0.9	(27.9)	4 A号住居跡の南東	M4
19	煙 管	(5.0)	1.2	1.4	7.6	31号住居跡覆土	M26
20	煙 管	(9.2)	1.3	1.1	9.4	40 B号住居跡覆土	M30

## 鉄 滓

奈良時代以降の竪穴住居跡の覆土から出土している。

表10 うぐいす平遺跡出土鉄滓一覧表

番 号	出 土 位 置	重 量 (g)	形 状	磁 性
1	38号住居跡覆土	94.3	塊 状	無
2	34号住居跡覆土	58.7	海 綿 状	無
3	32号住居跡覆土	65.2	—	有
4	64号住居跡覆土	72.4	塊 状	無
5	1号井戸覆土	23.0	—	無
6	1号井戸覆土	27.4	—	無
7	1号井戸覆土	18.5	流 動 滓	無
8	30 A号住居跡覆	8.6	—	無
9	18号住居跡覆土	48.0	—	有
10	16号住居跡覆土	18.9	流 動 滓	無
11	16号住居跡覆土	105.9	海 綿 状	無
12	16号住居跡覆土	77.4	—	有
13	68号住居跡覆土	17.7	流 動 滓	無
14	17号住居跡覆土	97.2	塊 状	有
15	15号住居跡覆土	28.4	海 綿 状	無
16	14号住居跡覆土	450.2	塊 状	無
17	10号住居跡覆土	52.8	塊 状	有
18	10号住居跡覆土	36.1	—	無
19	10号住居跡覆土	48.7	—	有
20	9号住居跡覆土	207.3	—	無
21	9 A号住居跡覆	13.6	海 綿 状	無
22	55号住居跡覆土	163.1	塊 状	無

### 第3節 まとめ

当遺跡で確認された遺構は、住居跡79軒、井戸1基、溝1条、土坑10基である。時期別に各時代の概要と主な遺物について述べてまとめとする。

縄文時代の遺構は炉穴が1基確認されている。遺物は、縄文時代早期から後期にかけての土器片が出土している。

弥生時代の遺構として確認できたのは、後期後半の住居跡3軒である。第36号住居跡からは在地の上稲吉式土器が出土している。また、当住居跡の覆土からは、銅鏃が出土している。そのほかに中期の後半頃から後期の後葉にかけての土器片が遺構外から出土している。

古墳時代の遺構は前期中葉から後葉にかけての住居跡が14軒ほど見られる。第18号住居跡から出土した一括遺物は、量と内容から良好な資料である。

奈良時代の遺構は8世紀前半代の比較的規模の大きい住居跡が6軒ほど見られる。これらの住居跡からは、在地の土器に混じって静岡県湖西産の須恵器が出土している。また奈良時代以降の住居跡からは、鉄滓が30点ほど出土し、第16号住居跡からは羽口も出土している。鍛冶炉は確認していないが、羽口、鉄滓のみられることからこの時期に小鍛冶が行われていた可能性が高い。

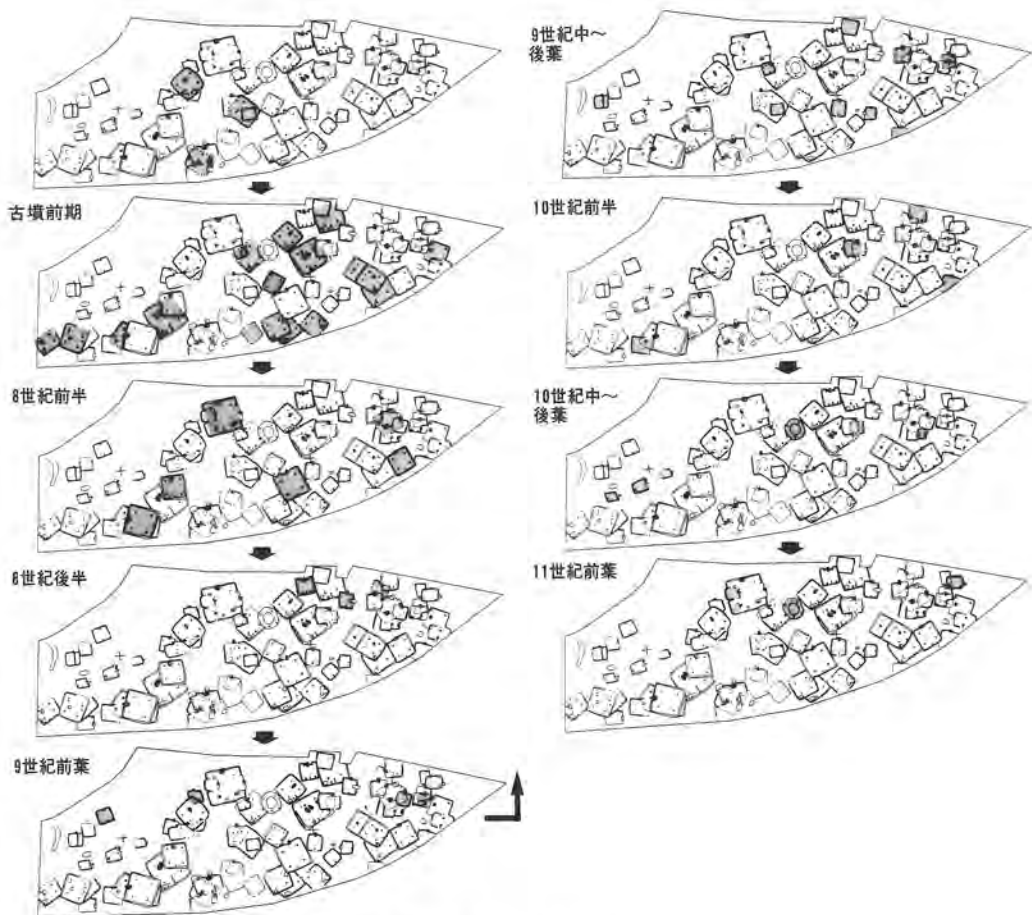
8世紀後半から9世紀中葉頃にかけての時期は、住居跡の数が少なく、規模も小さなものが中心になっていくようである。この時期の住居跡から墨書土器が出土している。なお、9世紀後葉の第68号住居跡の出入り口部からは炭化した丸太の一本造りの梯子材の一部が確認されている。

当遺跡は9世紀後葉頃から再び住居の数が増加し、11世紀の前半代まで集落が継続している。集落内には井戸が1基見られるが、この井戸は、集落の最後に近い段階まで存続したようである。この井戸からは、多量の貝と鹿や牛の骨が出土している。本跡は、10世紀代に入る灰釉陶器もみられるので、隣接する寄居遺跡よりも後まで集落は続いていたものと思われる。

最後にうぐいす平遺跡の古墳時代以降の集落の消長を、先に報告した寄居遺跡の集落変遷と比較した表11を掲載しておく。二つの遺跡は谷津をはさんだ台地上によく似た環境で近接して立地しているので、相互に何等かの関連が予測できるのであるが、上記の表からは両遺跡が同時期に同様な推移をしたのではなく、一見相互に補完的な関係で推移しているように見られる。これは、集落を構成していた人々の断絶や遠隔地域への移動といったものがなかったと仮定するならば、集落の小地域間の移動に係わるものとの推測もできよう。

#### 注・参考文献

- (1) 平安時代の住居跡の位置付けについては、平安時代の土器を扱った浅井編年（1992・1993）に基づいてを行った。浅井哲也「茨城県における奈良・平安時代の土器Ⅰ・Ⅱ」『研究ノート』創刊号1993年、『研究ノート』2号1993年



第255図 うぐいす平遺跡各時期の竪穴住居跡の分布

表11 寄居・うぐいす平遺跡の集落継続期間の対比

	300	400	500	600	700	800	900	1000	年
寄居遺跡	■	■	■	■	■	■	■	■	
うぐいす平遺跡	■	■			■	■	■	■	

# 附 章

## うぐいす平遺跡第68号住居跡から出土した梯子の材同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

うぐいす平遺跡（土浦市上高津所在）は、桜川右岸の台地（筑波稲敷台地）上に位置する。本遺跡では、これまでの発掘調査により、弥生時代～奈良・平安時代の住居跡が多数検出され、古墳時代前期（五領式）が主体となっている。これらのうち、平安時代（9世紀後半～10世紀前半）の第68号住居跡では、住居構築材と考えられる炭化材と共に梯子と推定される木製品が炭化した状態で検出された。

今回の分析調査では、第68号住居跡から出土した梯子について材同定を行い、その種類を明らかにする。

### 1. 試料

試料は、焼失住居跡（SI-68）から炭化した状態で出土した梯子より採取した1点（第68号住居跡出土炭化物片）である。

### 2. 方法

試料を乾燥させたのち、木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の割断面を作製し、走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）で観察・同定した。

### 3. 結果

試料は、クリに同定された。クリの主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質を以下に記す。なお、和名・学名等は、「原色日本植物図鑑 木本編〈II〉」（北村・村田，1979）に従い、一般的性質などについては「木の辞典 第4巻」（平井，1980）も参考にした。

・くり (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科

環孔材で孔圏部は1～4列，孔圏外で急激に管径を減じのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独，横断面では円形～楕円形，小道管は単独および2～3個が斜(放射)方向に複合，横断面では角張った楕円形～多角形，ともに管壁は薄い。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1～15細胞高。

クリは北海道南西部・本州・四国・九州の山野に自生し，また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で，強度は大きく，加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材，櫓木や海苔粗朶などの用途が知られている。樹皮からはタンニンが採られ，果実は食用となる。

#### 4. 考察

梯子はクリでつくられていることが明らかとなった。クリは、日本産木材の中では比較的強度が高い木材の一つであり、梯子のように強度を必要とする木製品の素材として適した材と推定される。遺跡出土木製品の材同定結果を集計した島地・伊東（1988）や伊東（1990）によると、梯子に同定された種類は二葉松類、スギ、クリ、シイノキ属、コナラ節、ハイノキ等が主な種類として挙げられる。このうち、二葉松類は30点中29点が摂津高槻城（島地・林，1984）の資料である。

また、スギは静岡県山木遺跡（亘理・山内，1962），ハイノキは摂津高槻城（島地・林，1984）の資料がその大部分を占める。これらを除くと、梯子に使用されている主な木材は、クリ、シイノキ属、コナラ節等ブナ科の硬い材質をもつ種類である。今回の結果はクリであり、硬く強度が高い木材が選択された結果と推定される。

ところで、本住居跡からは梯子の他に構築材と考えられる炭化材も多数出土している。茨城県では、現在までに主として古墳時代の住居跡から出土した構築材について何回か分析調査が行われている（例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社，1986a，b等）。これらの成果によれば、古墳時代にはコナラ属コナラ亜属のクヌギ節・コナラ節（いわゆるドングリ類）が多く使用されていた傾向がみられる。しかし、奈良・平安時代以降の構築材については、白石遺跡で少数同定されているのみで（未公表）、他には知られていない。古墳時代と奈良・平安時代では、用材に多少違いがあることが指摘されているが（千野，1991），茨城県では実際に用材に違いが認められるのか否かについては現時点では不明である。今回調査を行うことができなかった第68号住居跡の構築材試料は、茨城県で用材選択の変化があったのか否かを知る上で重要な資料となることが期待される。今後これらの炭化材についても同定を行う必要があろう。

#### <引用文献>

平井信二（1980）木の事典 第4巻．かなえ書房．

北村四郎・村田 源（1979）原色日本植物図鑑 木本編〈II〉．p. 545, 保育社．

伊東隆夫（1990）日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途II．木材研究・資料，No. 26, p. 91-189.

島地 謙・伊東隆夫編（1988）日本の遺跡出土木製品総覧．p. 269, 雄山閣．

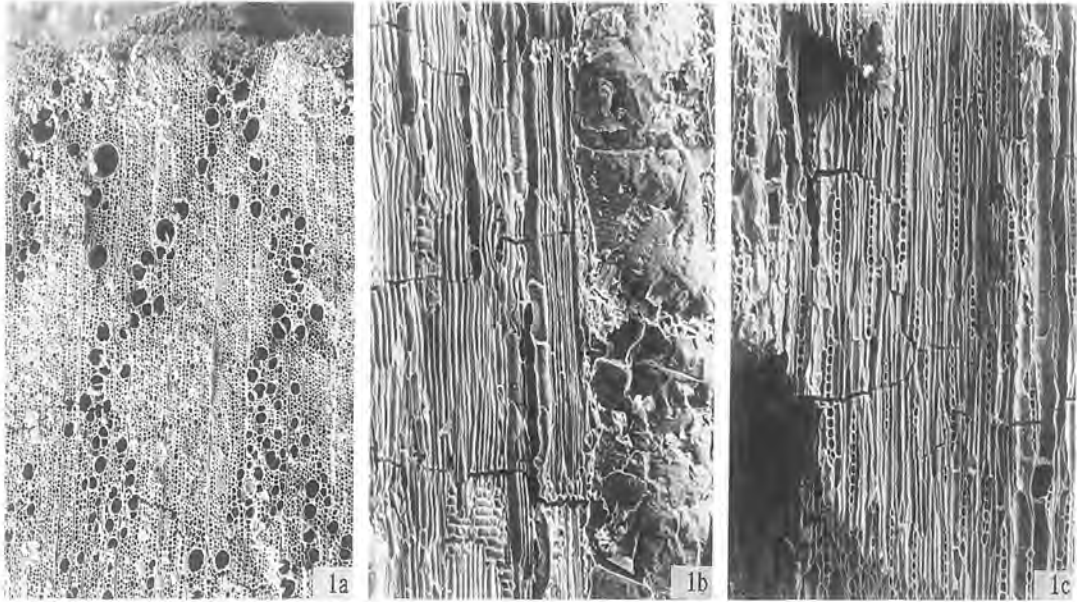
島地 謙・林 昭三（1984）出土木材の樹種．高槻市文化財調査報告書第14冊「摂津 高槻城本丸跡発掘調査報告書」，p. 102-108, 高槻市教育委員会．

千野裕道（1991）縄文時代に二次林はあったか —遺跡出土の植物性遺物からの検討—．東京都埋蔵文化財センター研究論集X, p. 215-249.

亘理俊次・山内 文（1962）木材．後藤守一編「伊豆/山木遺跡 彌生時代木製品の研究」，p.



図版2 うぐいす平遺跡・炭化材の顕微鏡写真



1. クリ (第69号住居跡出土炭化物片)

a : 木口, b : 柱目, c : 板目

200μm : a

200μm : b, c



現地説明会風景

# 写 真 图 版



寄居・うぐいす平遺跡の立地環境



うぐいす平遺跡を東から俯瞰



寄居遺跡出土灰釉陶器



うぐいす平遺跡出土灰釉陶器碗・皿類



うぐいす平遺跡出土灰釉陶器長頸瓶類



寄居遺跡第40号住居跡出土ミニチュア長頸瓶



寄居遺跡出土中世陶磁器



寄居・うぐいす平遺跡出土湖西産須恵器





寄居遺跡全景



完掘風景（東から西を望む）



完掘風景（南から北を望む）



完掘風景（南から）



完掘風景（南から北東を望む）

PL2

寄居遺跡



第1号住居跡



第1号住居跡



第1, 2号住居跡



第3号住居跡



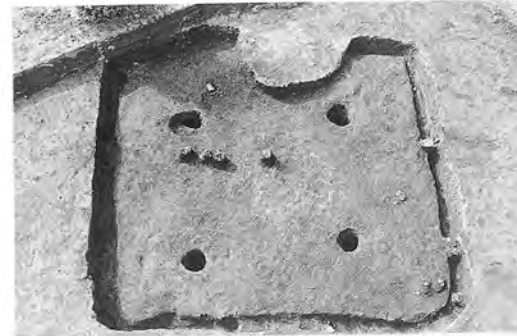
第4号住居跡



第4号住居跡遺物出土状況



第5号住居跡



第6号住居跡



第 6 号住居跡竈



第 7 号住居跡



第 7 号住居跡遺物出土状況



第 7 号住居跡遺物出土状況



第 8, 11, 58号住居跡



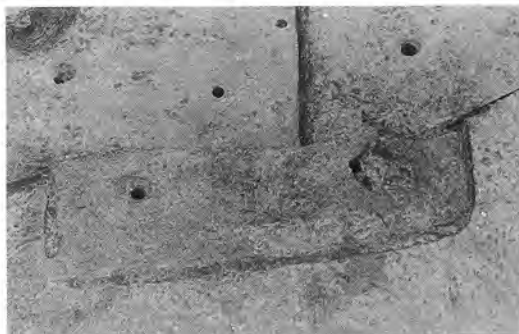
第 9 号住居跡遺物出土状況



第 9 号住居跡遺物出土状況



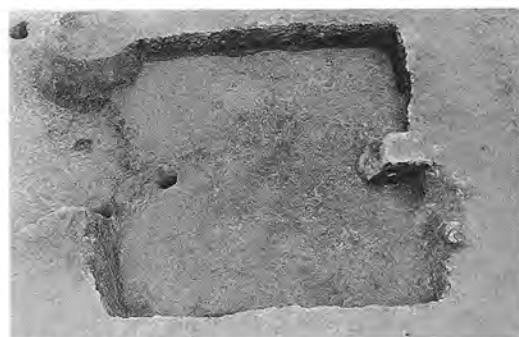
第 9 号住居跡竈



第10号住居跡



第12号住居跡



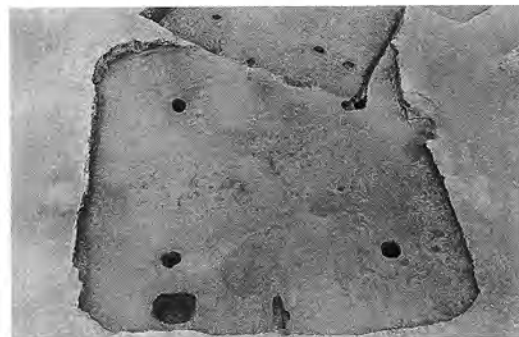
第13号住居跡



第13号住居跡遺物出土狀況



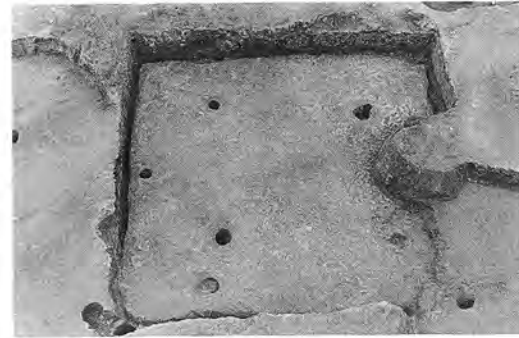
第13号住居跡遺物出土狀況



第14号住居跡



第14号住居跡遺物出土狀況



第15号住居跡





第15号住居跡遺物出土状況



第15号住居跡竈



第16号住居跡と土坑群



第16号住居跡遺物出土状況



第17号住居跡遺物出土状況



第17号住居跡竈遺物出土状況



第18号住居跡



第19号住居跡遺物出土状況

PL6

寄居遺跡



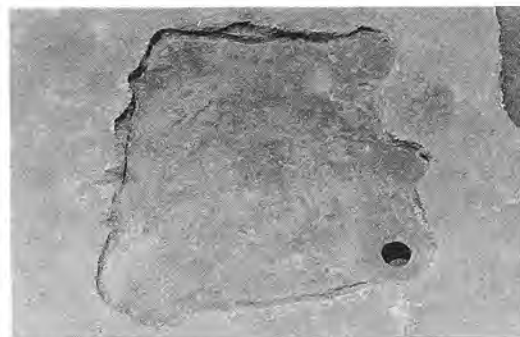
第20 A号住居跡



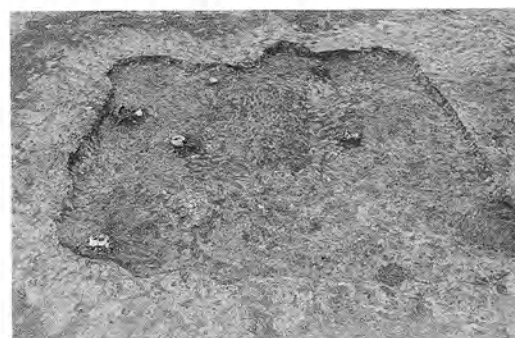
第20 A, B号住居跡遺物出土狀況



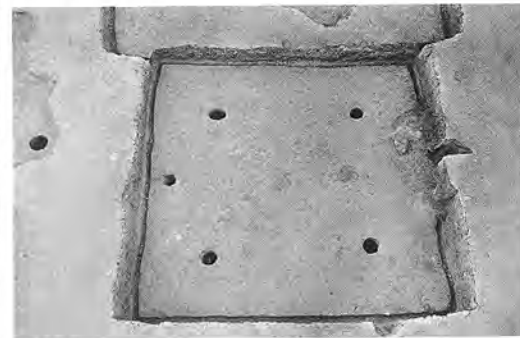
第20 A号住居跡遺物出土狀況



第22号住居跡



第22号住居跡遺物出土狀況



第23号住居跡



第23号住居跡遺物出土狀況



第24号住居跡



第24号住居跡遺物出土状況



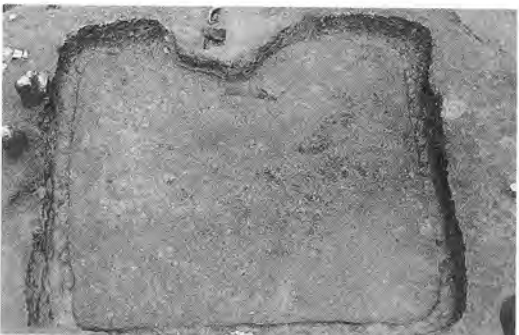
第24号住居跡遺物出土状況



第25 A, B号住居跡



第25 A, B号住居跡遺物出土状況



第25 B号住居跡



第25 B号住居跡遺物出土状況



第26, 27, 28 C号住居跡



第27号住居跡



第28 A, B, C号住居跡



第28 A, B号住居跡



第28 A, B号住居跡遺物出土状況



第29号住居跡



第30号住居跡



第31号住居跡



第32号住居跡遺物出土状況



第34, 35号住居跡

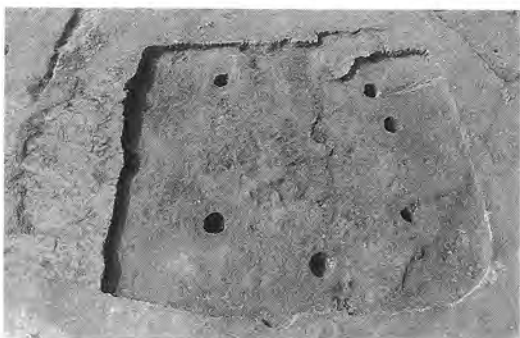




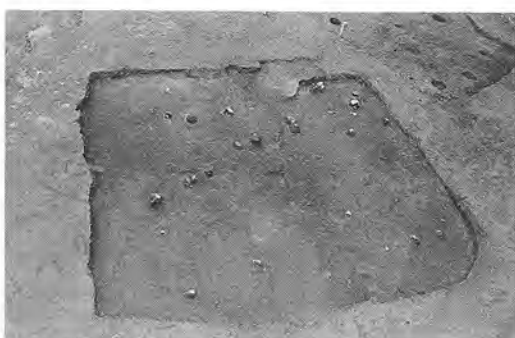
第34, 35号住居跡遺物出土状況



第35号住居跡



第36号住居跡



第36号住居跡遺物出土状況



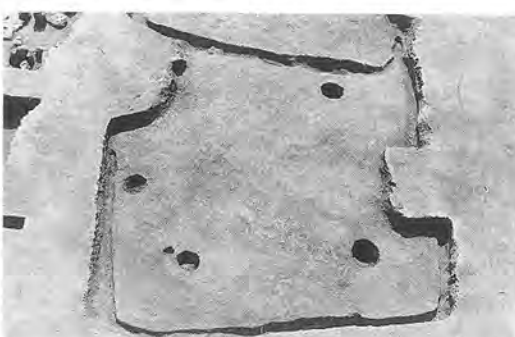
第37号住居跡



第37号住居跡遺物出土状況



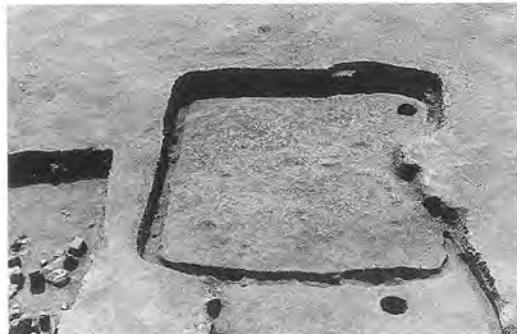
第38号住居跡



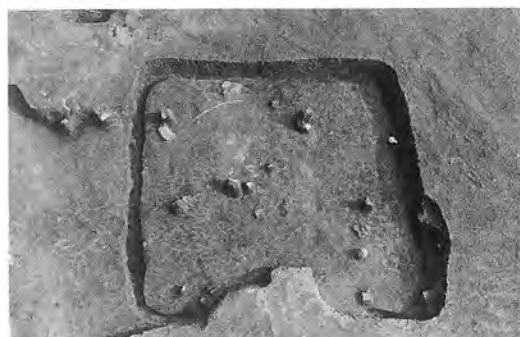
第39号住居跡



第39号住居跡遺物出土状況



第40号住居跡



第40号住居跡遺物出土状況



第40号住居跡遺物出土状況



第41号住居跡遺物出土状況



第41号住居跡竈



第41号住居跡竈遺物出土状況



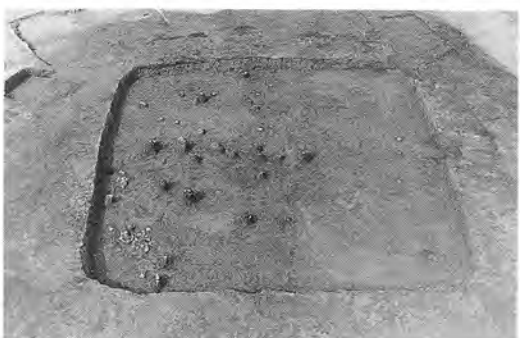
第41号住居跡竈遺物出土状況



第42号住居跡



第45号住居跡



第45号住居跡遺物出土状況



第46号住居跡



第47号住居跡



第48号住居跡



第48号住居跡遺物出土状況



第49 A, B号住居跡



第50 A, B号住居跡



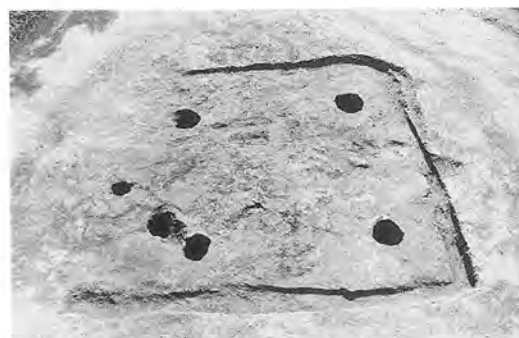
第50号住居跡遺物出土状況



第53号住居跡



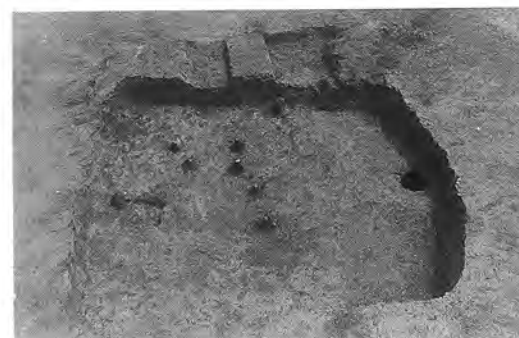
第53号住居跡遺物出土状況



第55号住居跡



第57号住居跡



第57号住居跡遺物出土状況



第1号土坑

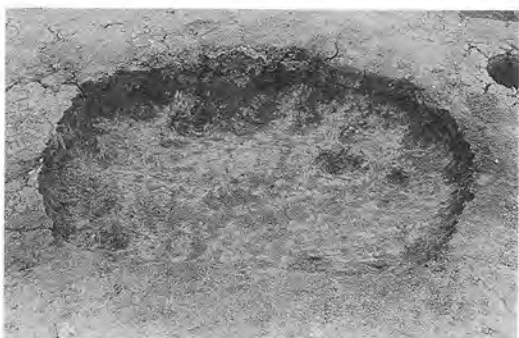




第18号土坑



第20号土坑



第25号土坑



第26号土坑



第30号土坑



第38号土坑



第39号土坑



第49号土坑



第42~63号土坑



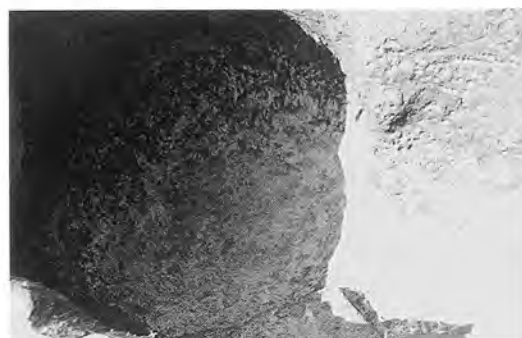
第1号地下式墳



第2号地下式墳



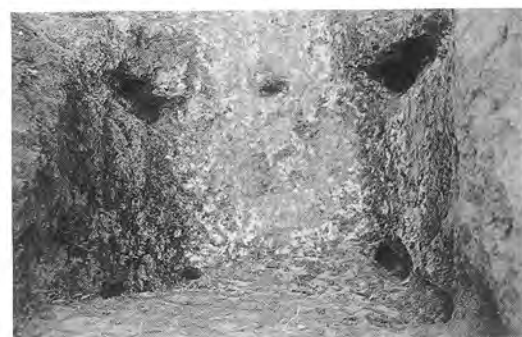
第2号地下式墳



第3号地下式墳



第4号地下式墳



第4号地下式墳



第5号地下式墳



第5号地下式壙



第5号地下式壙



第6号地下式壙



第6号地下式壙



第6号地下式壙



第1号井戸



第1号井戸遺物出土状況



第1号溝

PL16

寄居遺跡



第2号溝



第4号溝



第1号掘立柱建物跡



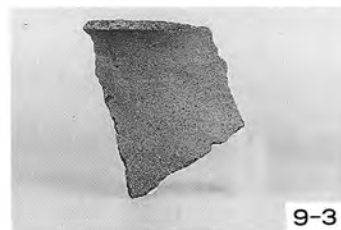
第1号掘立柱建物跡



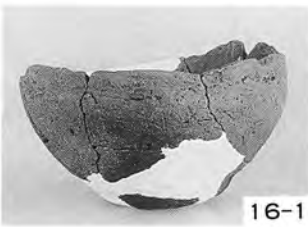
調査風景

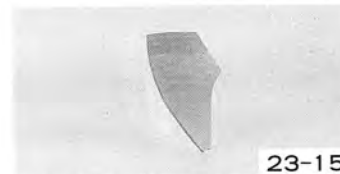






第7・9・12・14号住居跡出土遺物





第21・22・23・24号住居跡出土遺物





24住-3



24-4



25 A-1



25 A-2



25 A-3



25 A-4



25 A-5



25 A-6



25 A-4



25 A-5



25 A-7



25 A-9



25 A-8



25 A-11



26-1



25 A-10

26-2



28 A-3



28 A-2



28 A-1



28 B-4



29-1



29-2



29-3



43住-1



43-2



45-1



45-2



45-3



45-4



45-5



45-8



45-6



45-7



45-11



45-9



45-10



45-13



45-14



45-15



45-16



45-17



13-1



13-6

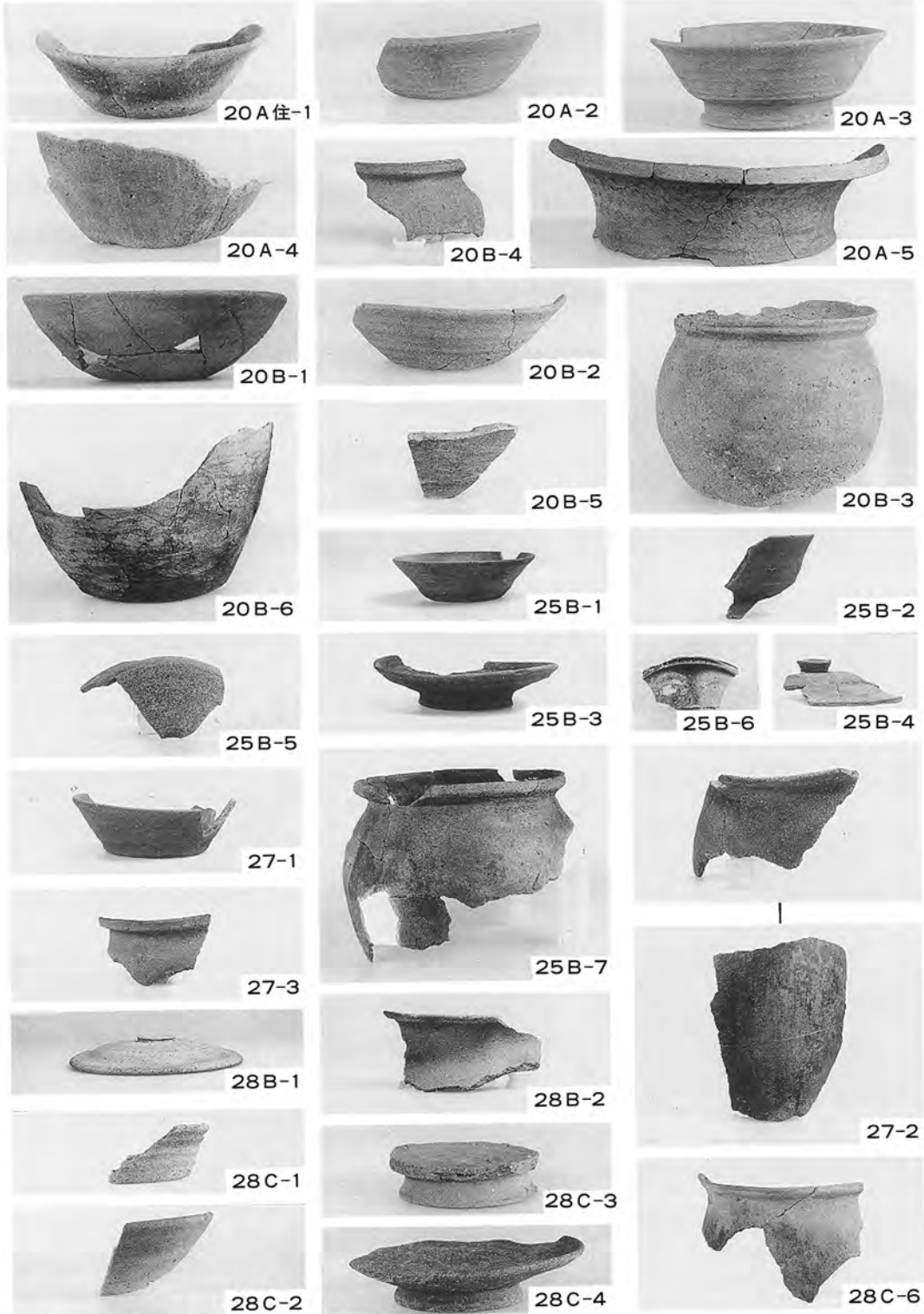


13-4

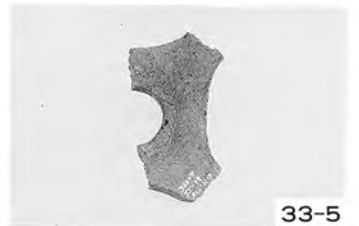
第13・43・45号住居跡出土遺物



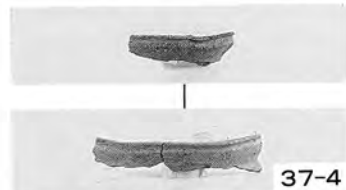
第13・17・19号住居跡出土遺物



第20A・20B・25B・27・28B・28C号住居跡出土遺物



第28C・30・31・32・33・34号住居跡出土遺物



第34・35・36・37・39号住居跡出土遺物



寄居遺跡

PL27



39住-5



39-6



40-1



40-2



40-3



40-1



40-4



40-6



40-3



40-3



41住



40-5



41-17



41-1



42-2



41-3



41-4



41-5



41-6



41-7



41-8



39住



41-12



41-10



41-11



41-13

第39・40・41号住居跡出土遺物



41住-14



41-18



42-1



41-19



41-21



44-1



46-1



46-2



41-15



41-20



42-3



41-22



44-2



47-1



41-16



42-2



44-3



46-3



48-1



48-2



49-1





49住-2



49-3



50-1



50-2



50-3



50-5



50-6



50-7



50-8



50-9



50-9



50-10



51-1



51-2



53-1



53-2



52-1



53-3



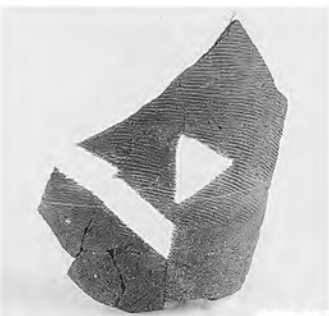
53-4



53-5



53-6



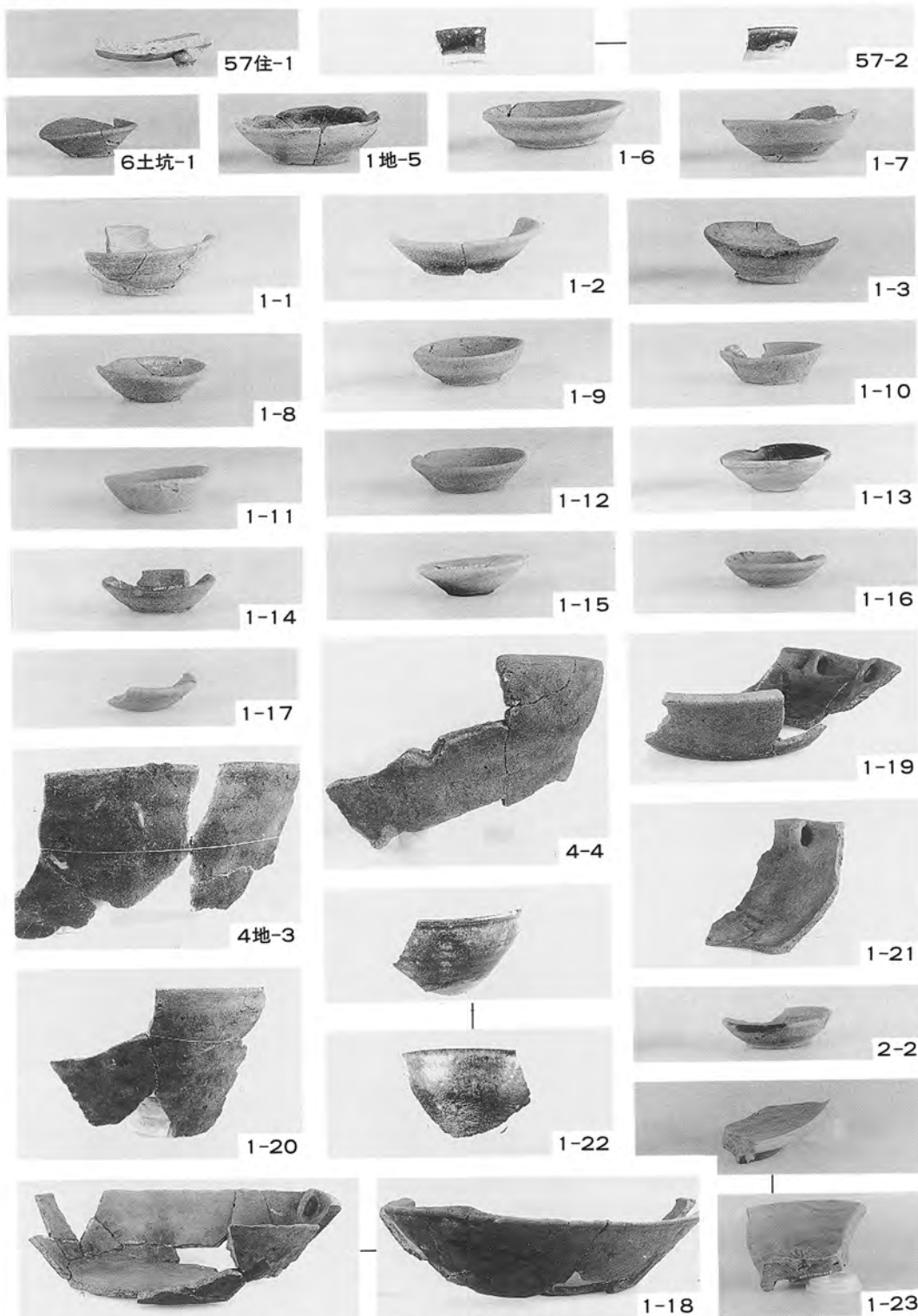
53-7



53-7



53-8



第57号住居跡，第6号土坑，第1・4号地下式壙出土遺物



2地-1



2-3



2-4



3-1



4-1



3-2



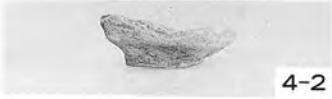
4-2



4-5



4-6



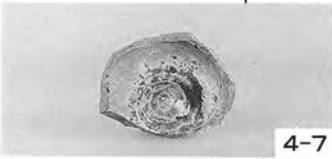
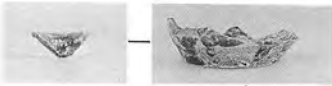
4-7



4-5



5-1



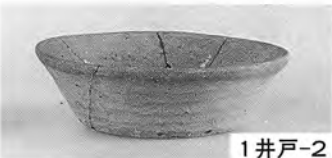
4-7



4-5



1井戸-1



1井戸-2



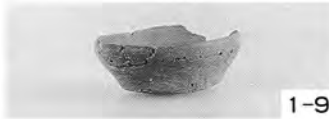
1-8



1-4



1-6



1-9



1-5



1-7



1-10



1-3

第2～5号地下式壙，第1号井戸出土遺物



1-11



1-12



1井戸



1-14



1-15



1-16



1-22



1-18



1



1-23



1-19



1-21



1-20



1-17



2溝-1



4溝-1



2溝-2



4溝-2

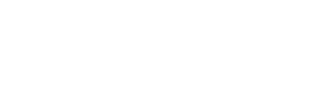
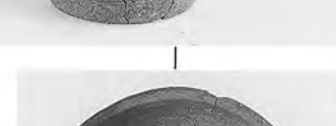
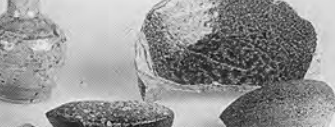
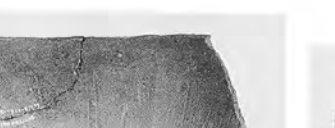
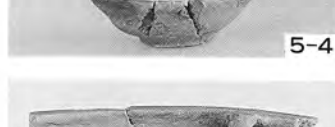
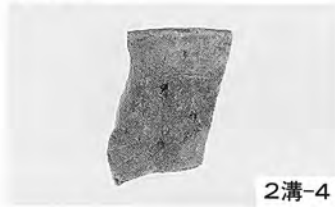


2-3



2-2

第1号井戸，第2・3・4号溝出土遺物



第2・4・5号溝, その他の遺物, 灰釉陶器

灰釉

その他-2

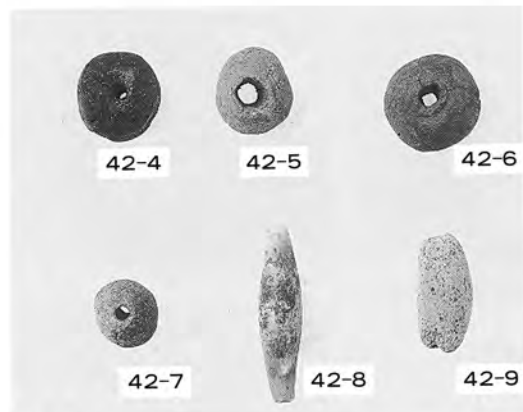
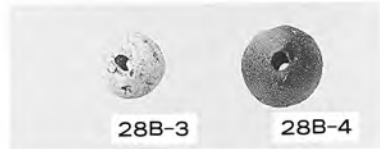
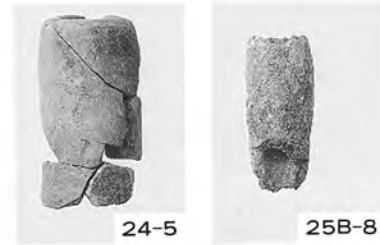
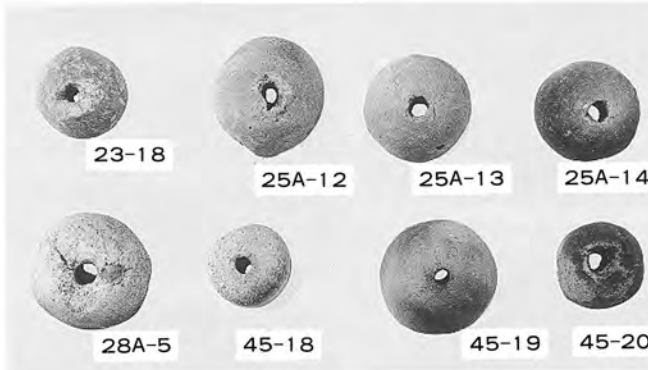
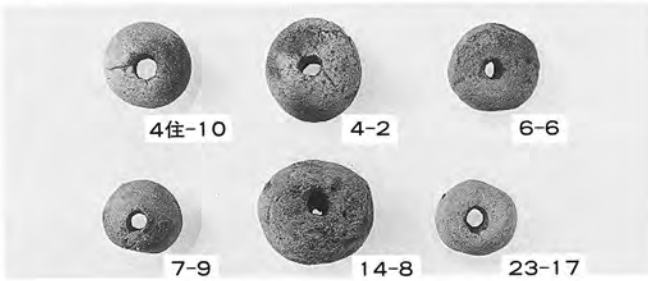
その他-4

その他-3

6-1

その他-5

その他-6







32住-7



53-9

53-10

53-11



その他-9



53-12

53-13

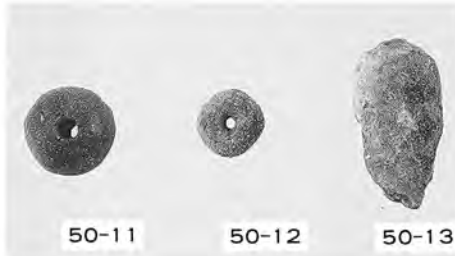


その他-7

その他-8



18土坑-2



50-11

50-12

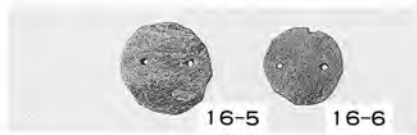
50-13



51住-3



3住-3



16-5

16-6



その他-10



29-4

7-10



36住-8



4住-12



その他-12



その他-14



その他-15



その他-16



その他-17

PL36

寄居遺跡



26住-3



その他-18



その他-19



その他-13



34-10



48住



50-14



45-21



その他-20



4溝-6



5溝-9

石製品(2)





4地-8



4地-9



5地-2



2地-5



その他-22

その他-23

表採

表採

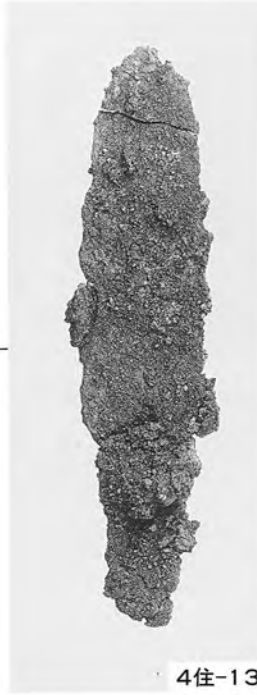
表採

その他-24



石製品(3)

その他-21



4住-13



53-14



6-7



6住

17-11

25B-9

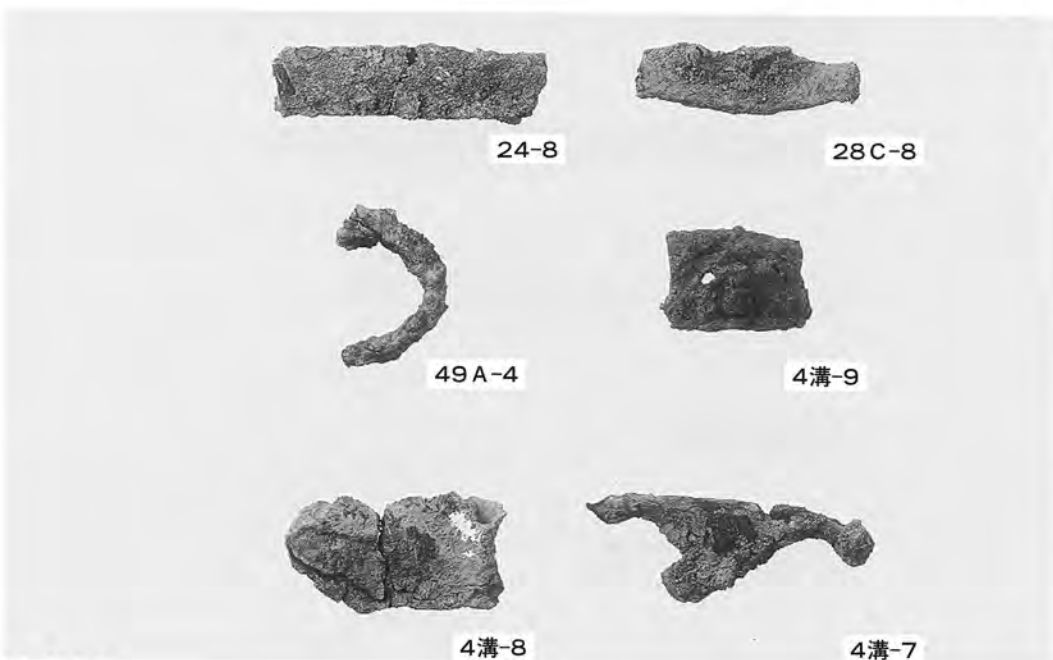
17-11



24-7



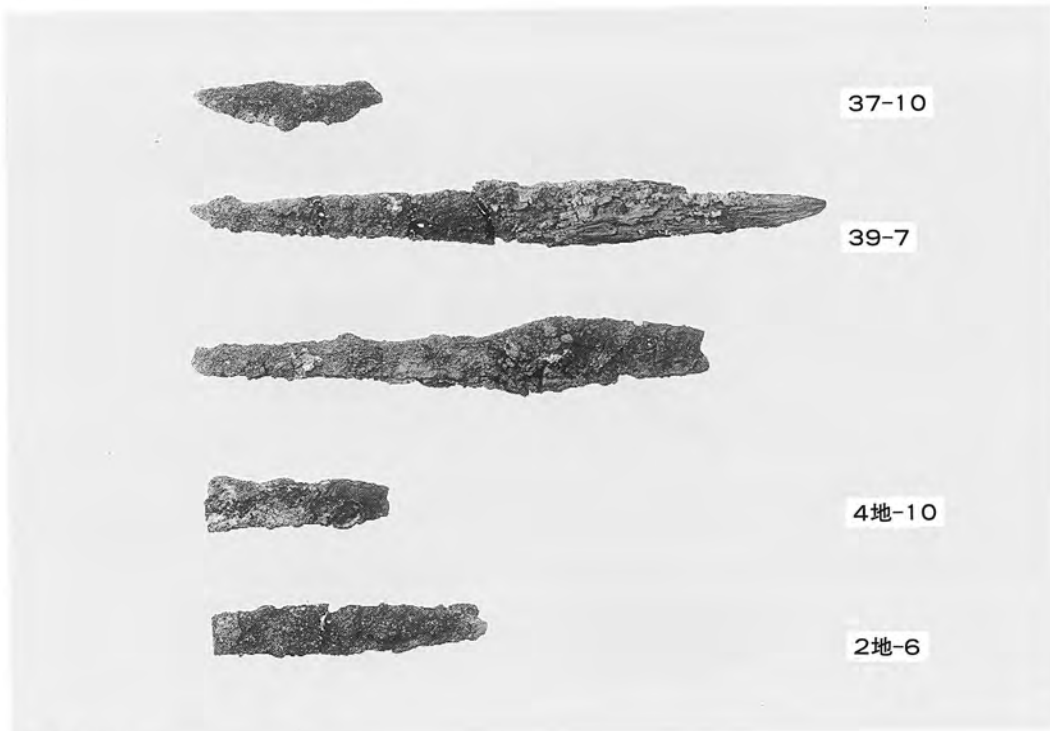
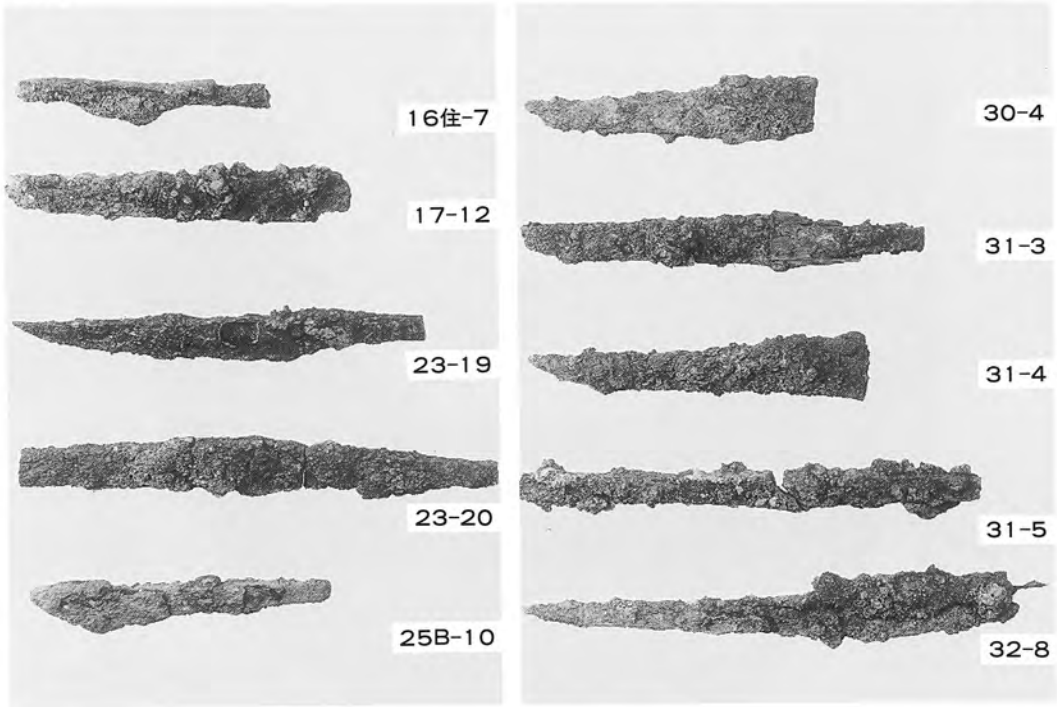
24住-6



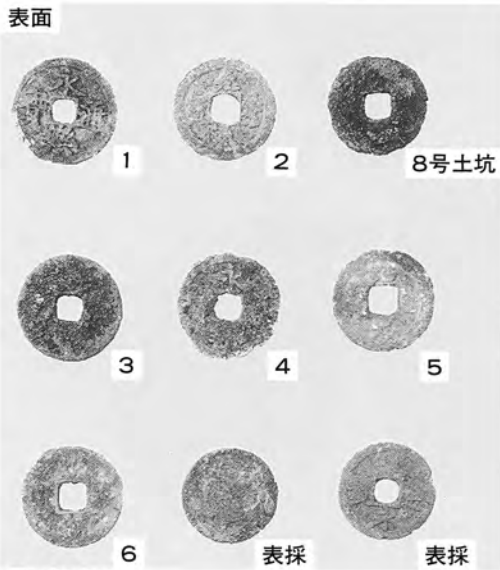
金属製品(2)

PL40

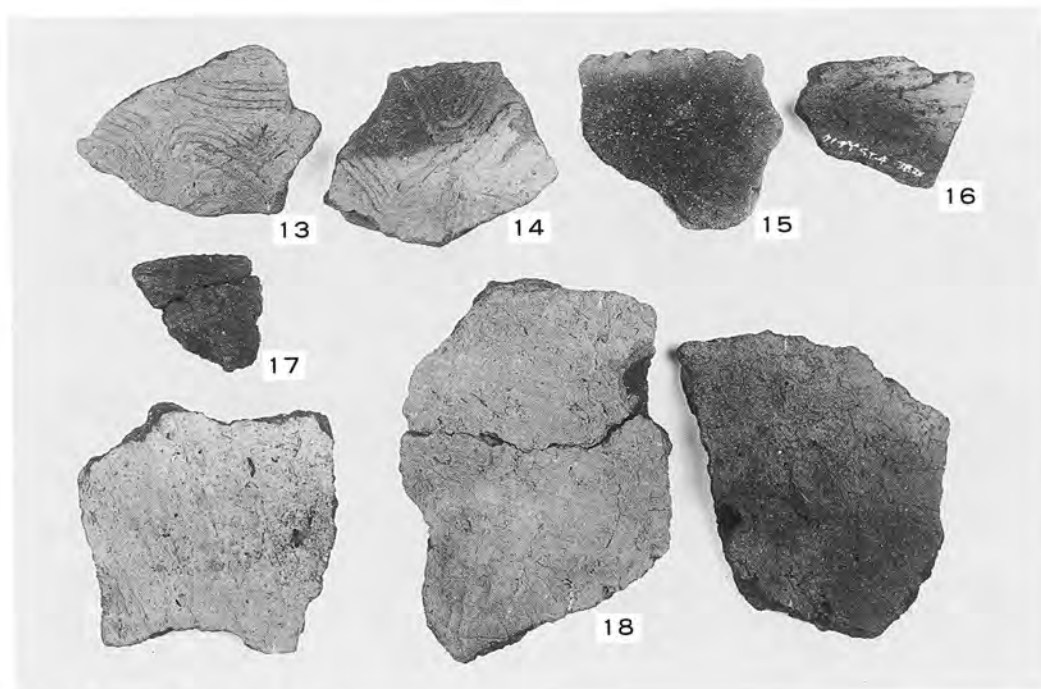
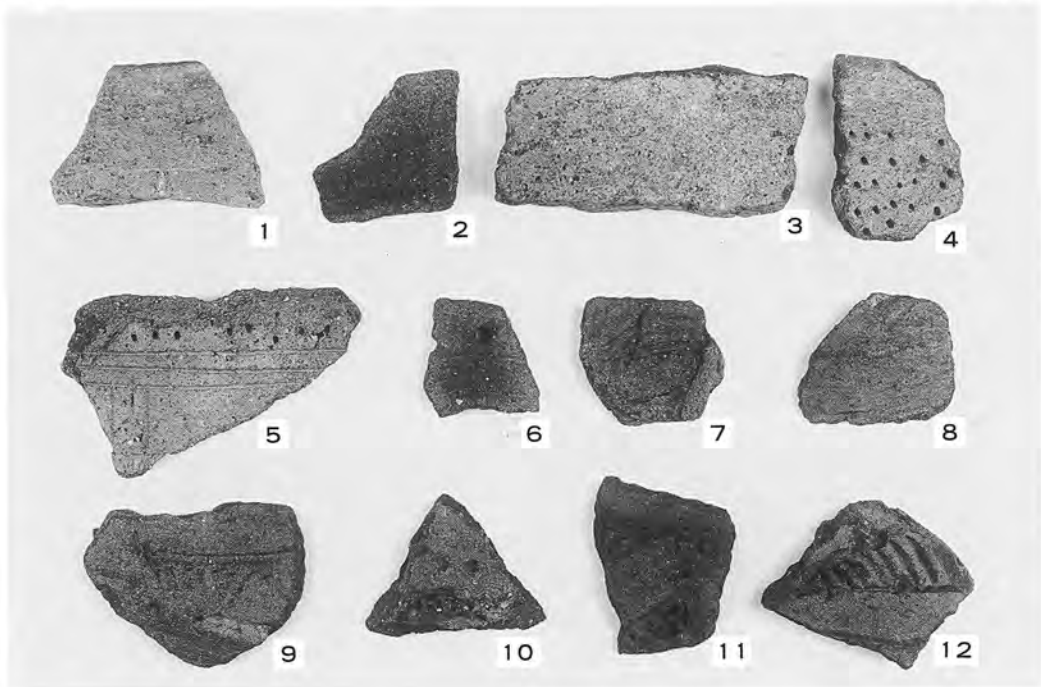
寄居遺跡



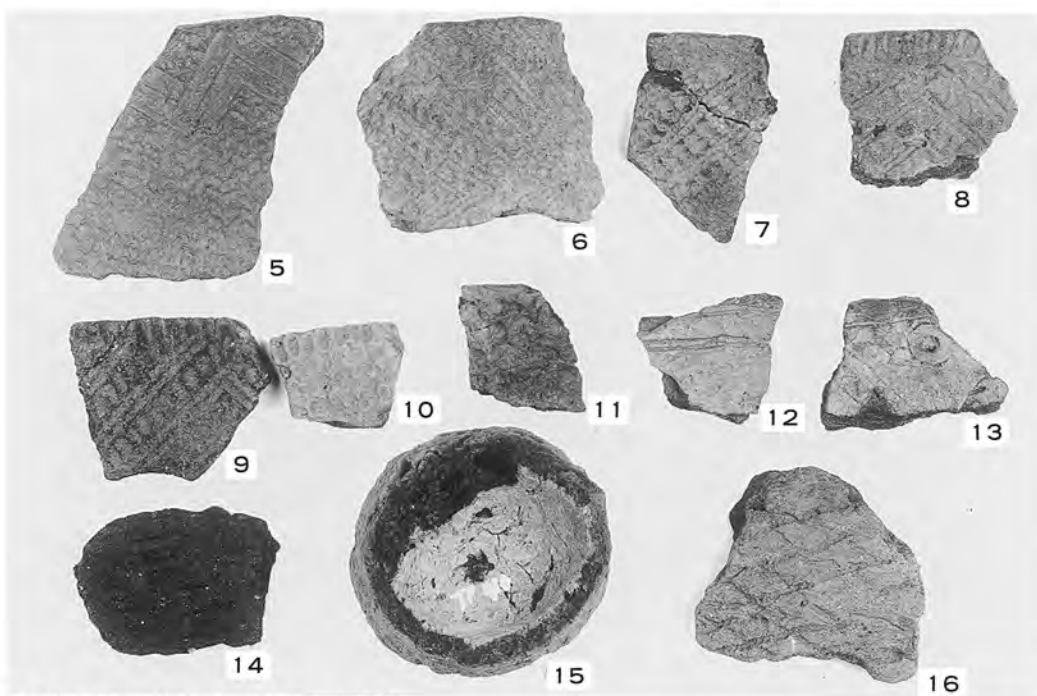
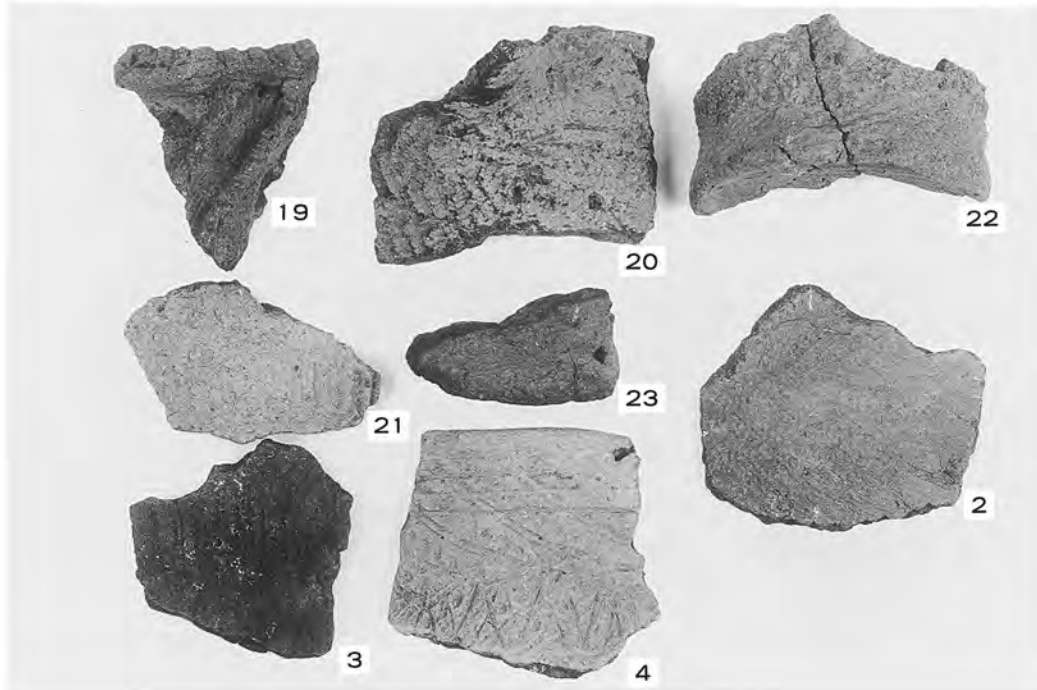
金属製品(3)



金属製品(4)

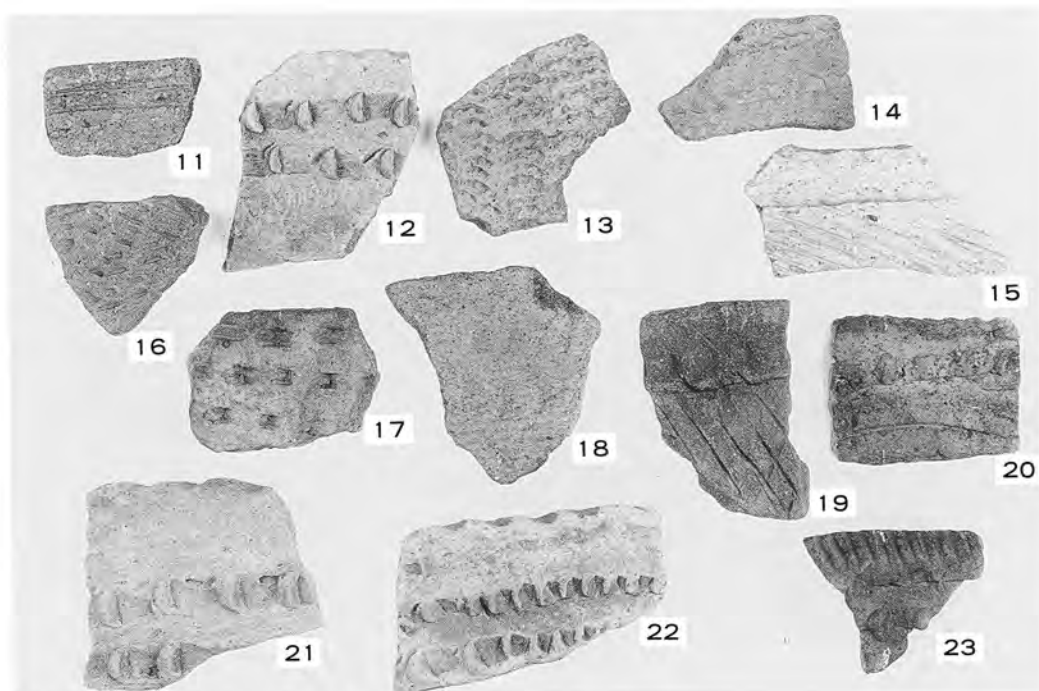
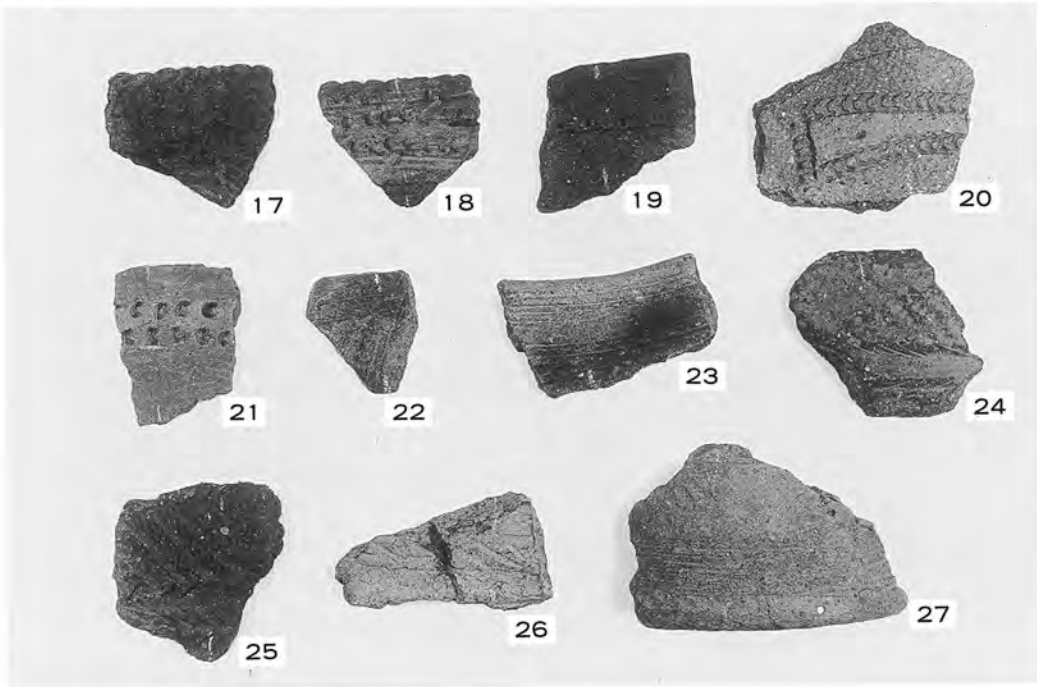


縄文式土器(1) (第119図に対応)



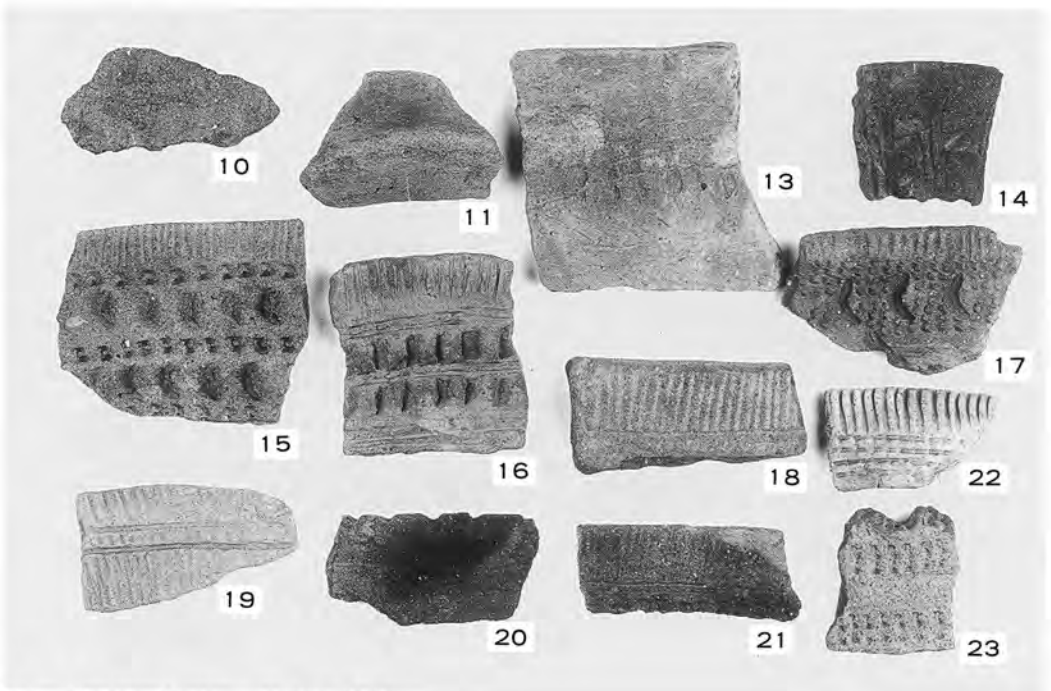
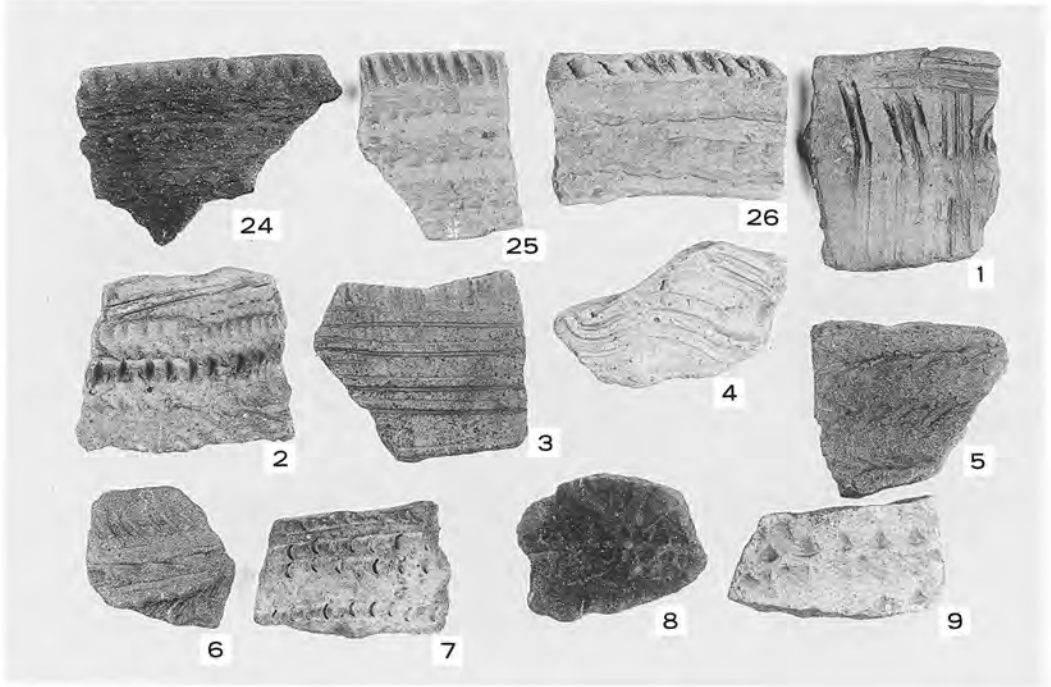
縄文式土器(2) (第119~120図に対応)



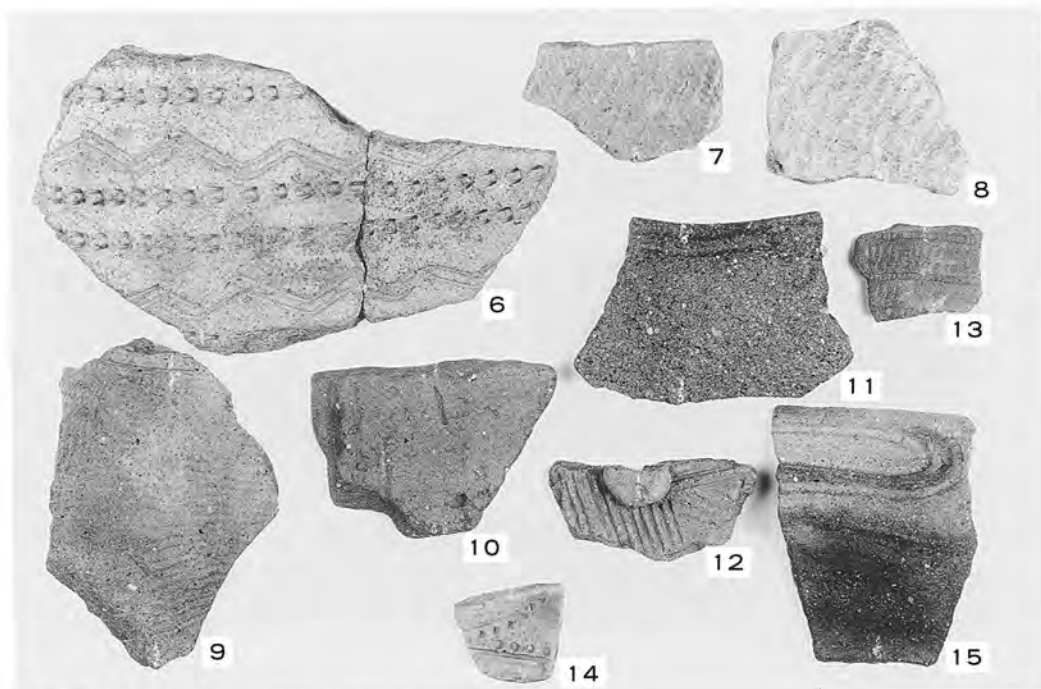
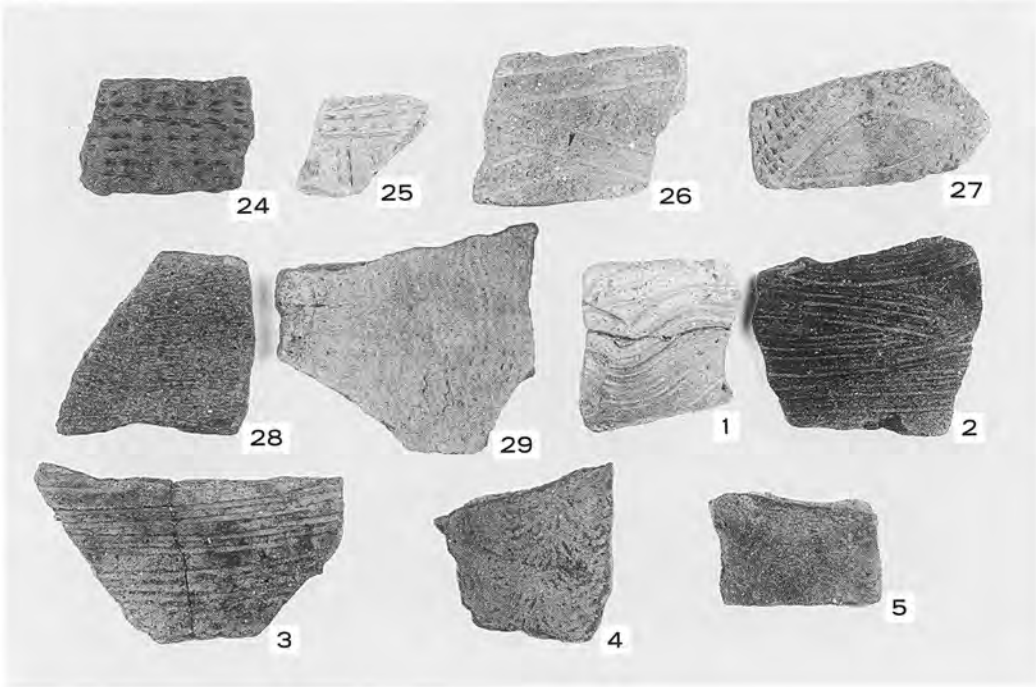


縄文式土器(3) (第120~121図に対応)

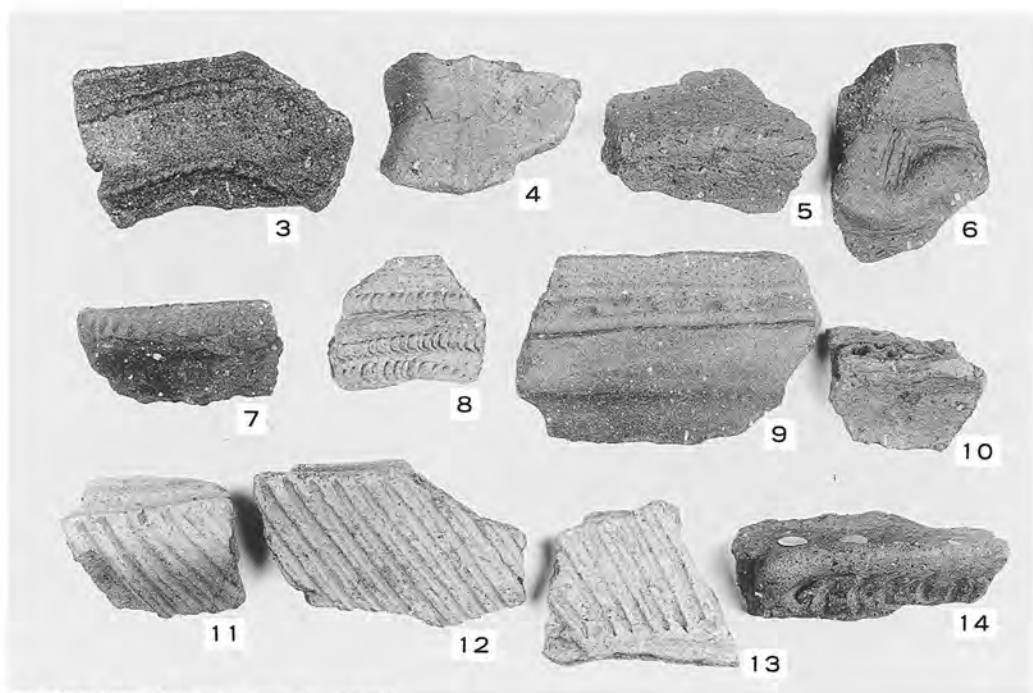
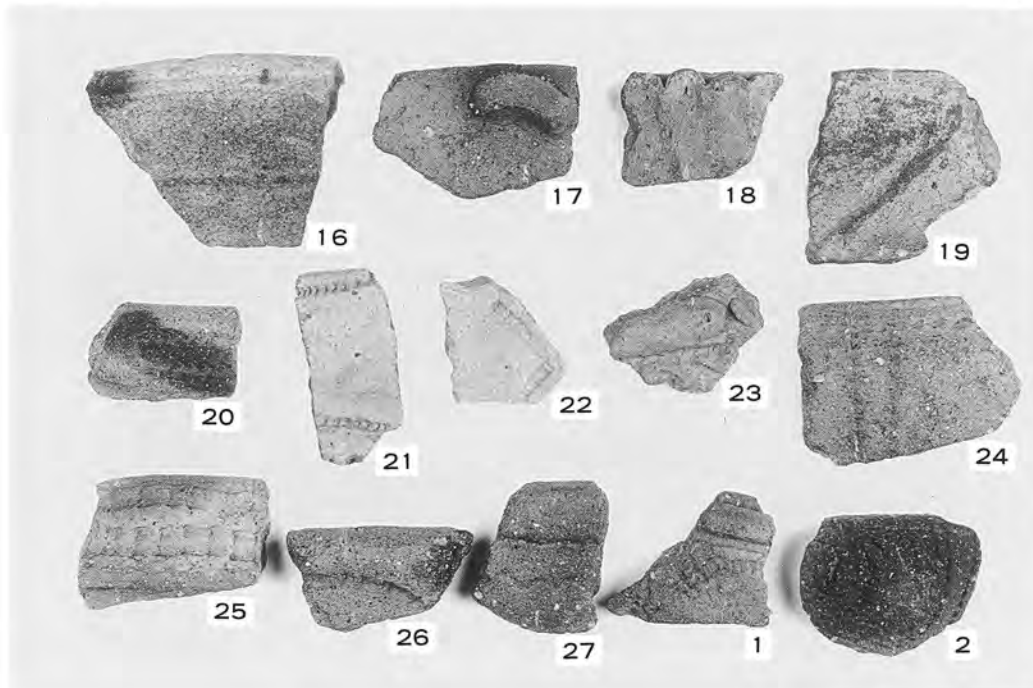




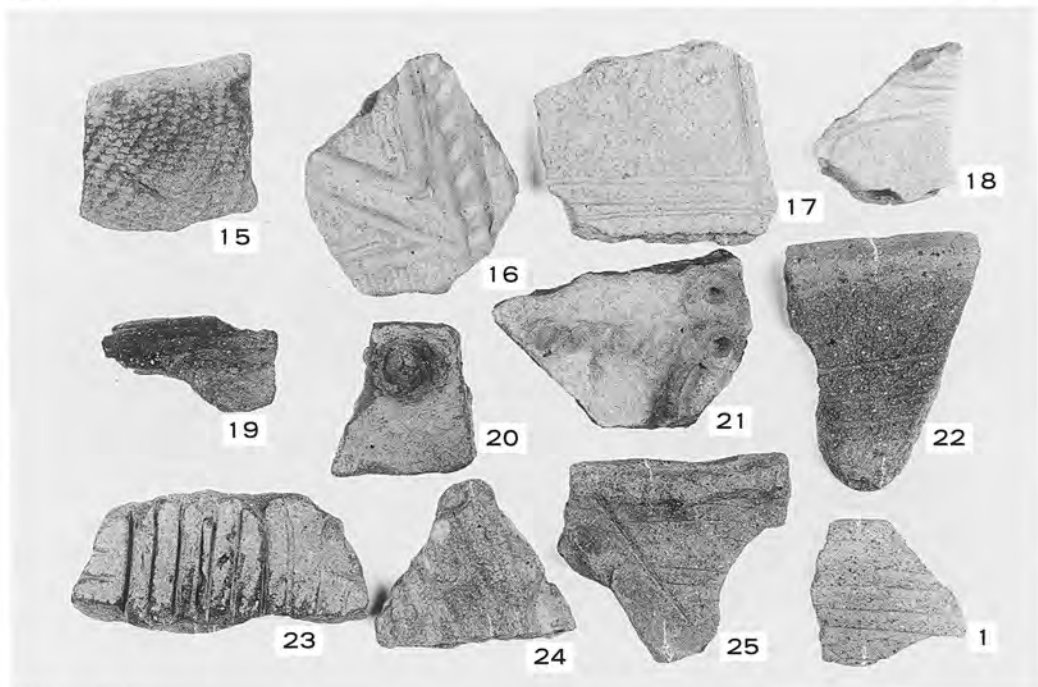
縄文式土器(4) (第121~122図に対応)



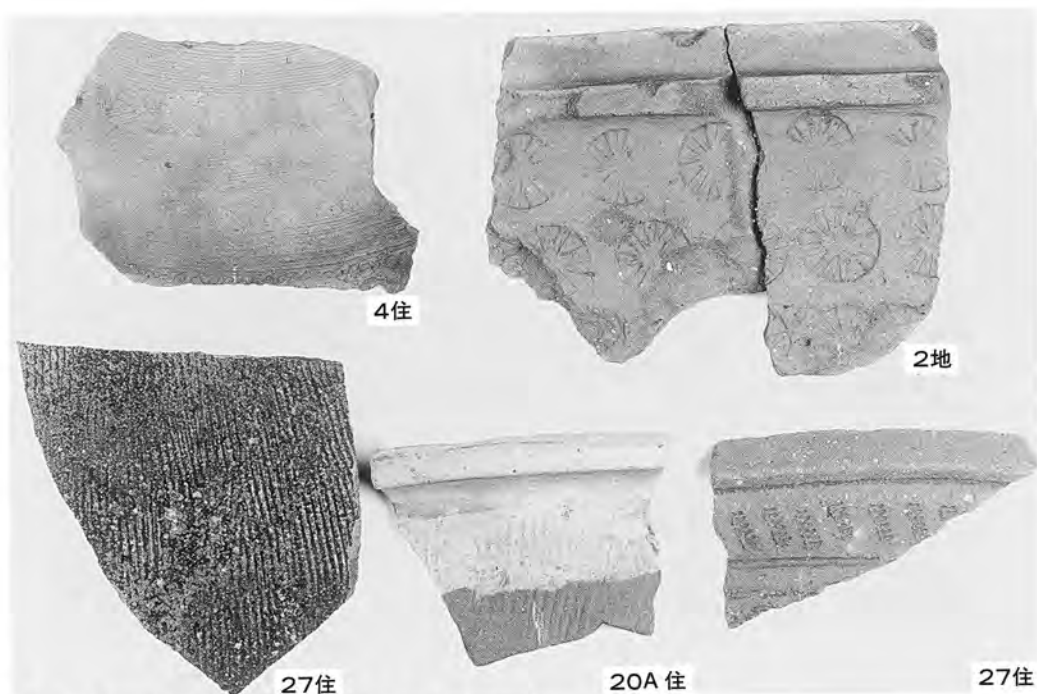
縄文式土器(5) (第122~123図に対応)



縄文式土器(6) (第123~124図に対応)



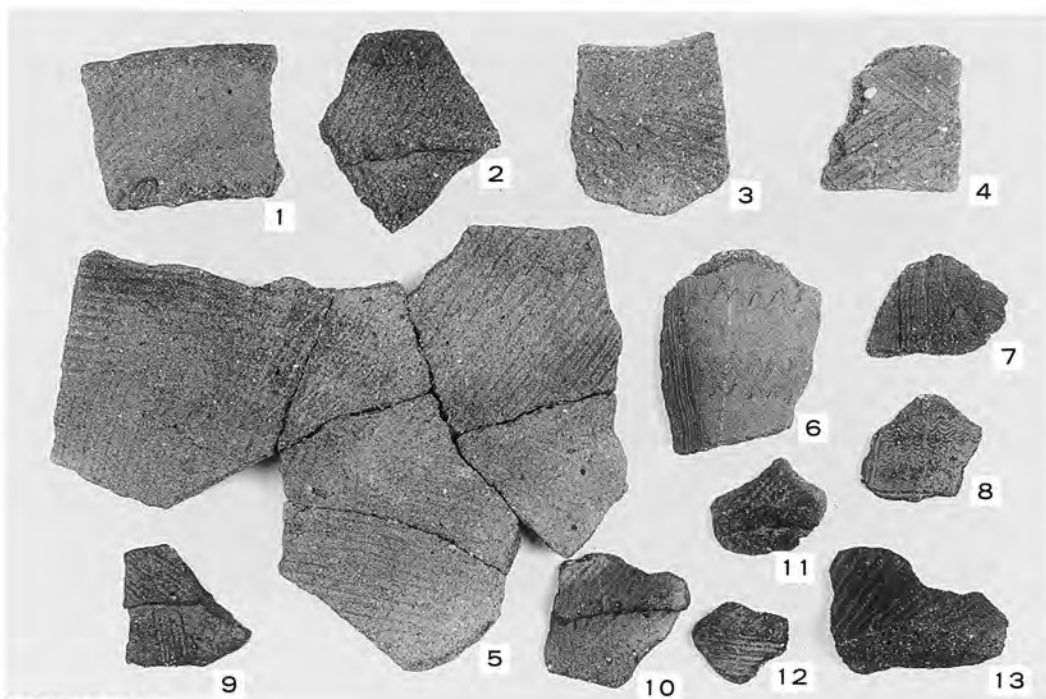
縄文式土器(7)



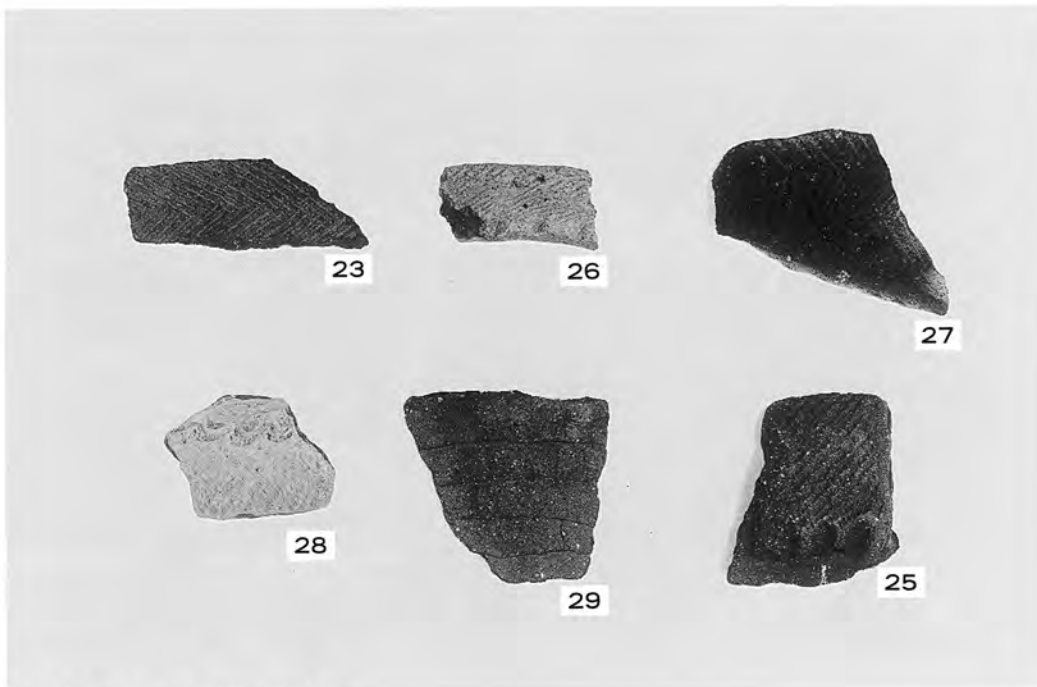
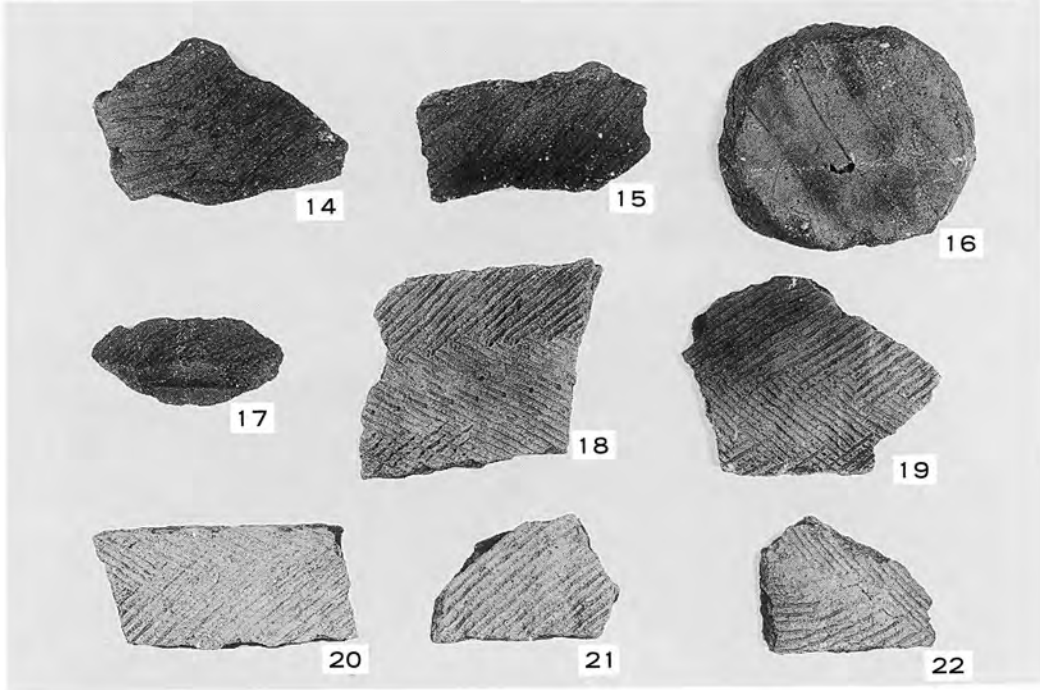
第4・20A・27号住居跡, 2号地下式墳出土遺物



第1・3・4号地下式城，第2号溝出土遺物



弥生式土器(1)



弥生式土器(2) (第125図に対応)





うぐいす平遺跡全景



調査後の完掘風景



第1号住居跡



第2号住居跡



第2号住居跡遺物出土状況



第2号住居跡竈



第3号A号住居跡



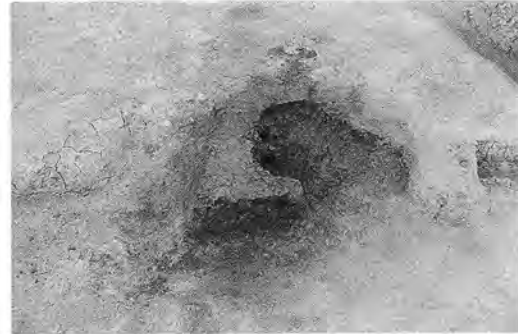
第3号A号住居跡遺物出土状況



第3号B号住居跡遺物出土状況



第4号A号住居跡



第3号B号住居跡竈



第4号A号住居跡遺物出土状況



第5号住居跡





第5号住居跡遺物出土状況



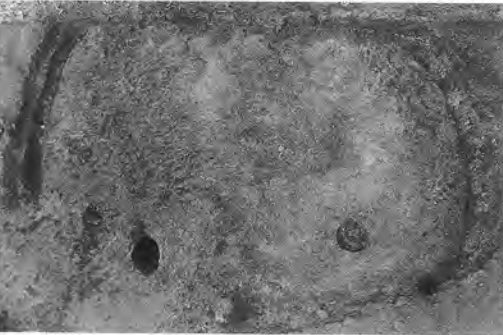
第5号住居跡遺物出土状況



第6号住居跡



第6号住居跡遺物出土状況



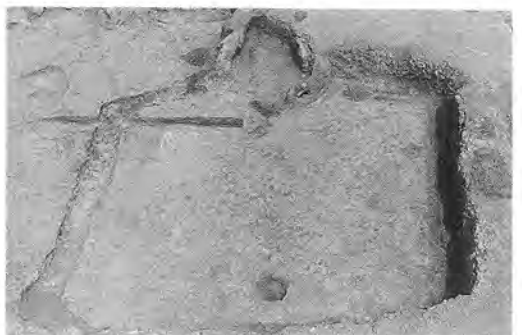
第7号住居跡



第7号住居跡遺物出土状況



第8号住居跡遺物出土状況



第9A住居跡



第9 A号住居跡遺物出土状況



第9 A, B, 10 A号住居跡



第9 B, 10 A号住居跡遺物出土状況



第10 A号住居跡



第10 B号住居跡



第10 B号住居跡遺物出土状況



第10 B号住居跡竈遺物出土状況



第10 B号住居跡竈遺物出土状況



第11A号住居跡



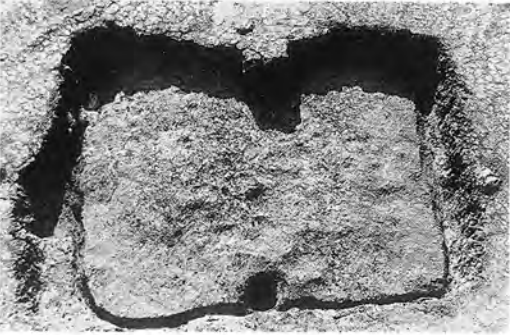
第11C, B号住居跡



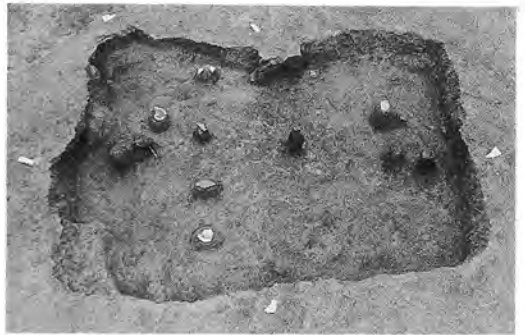
第11C号住居跡竈遺物出土状況



第11A, B, C号住居跡遺物出土状況



第13号住居跡



第13号住居跡遺物出土状況



第14号住居跡



第15号住居跡



第15号住居跡



第15号住居跡遺物出土状況



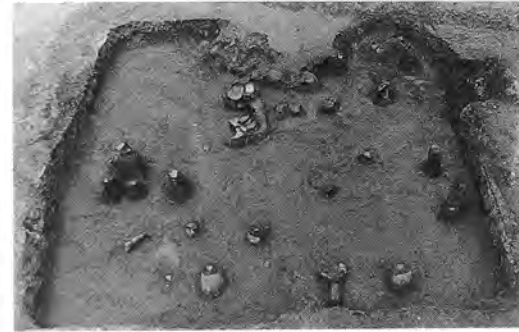
第15号住居跡竈遺物出土状況



第15号住居跡貯蔵穴



第16号住居跡



第16号住居跡遺物出土状況



第16号住居跡遺物出土状況



第17号住居跡





第17B号住居跡遺物出土状況



第17A号住居跡竈遺物出土状況



第17B号住居跡竈完掘



第18号住居跡



第18号住居跡遺物出土状況



第18号住居跡遺物出土状況



第18号住居跡遺物出土状況



第18号住居跡遺物出土状況



第18号住居跡遺物出土状況



第18号住居跡遺物出土状況



第18号住居跡遺物出土状況



第18号住居跡遺物出土状況



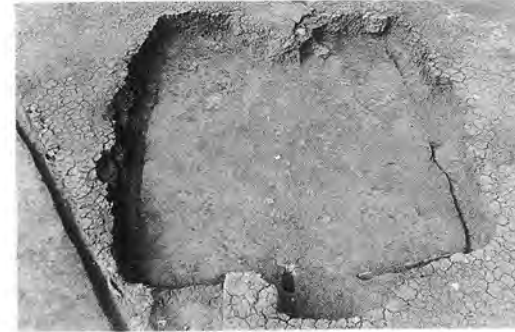
第18号住居跡遺物出土状況



第19号住居跡



第19号住居跡遺物出土状況



第20号住居跡



第20号住居跡遺物出土状況



第20号住居跡遺物出土状況



第12, 21, 54号住居跡



第12, 21, 54号住居跡遺物出土状況



第22号住居跡



第22号住居跡遺物出土状況



第23号住居跡



第23号住居跡遺物出土状況

PL60

うぐいす平遺跡



第23号住居跡遺物出土状況



第23号住居跡遺物出土状況



第23号住居跡遺物出土状況



第24号住居跡



第24号住居跡遺物出土状況



第24号住居跡遺物出土状況



第24号住居跡

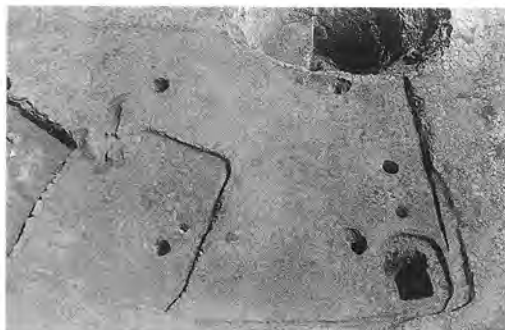


第24号住居跡





第25号住居跡遺物出土状況



第26, 27号住居跡



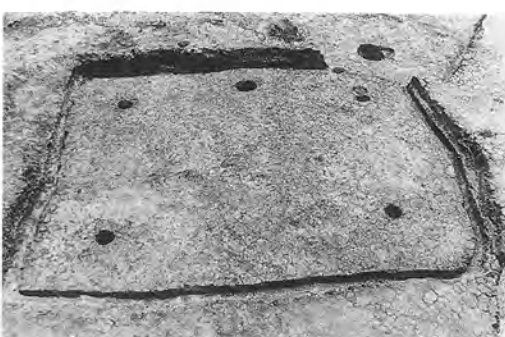
第26号住居跡遺物出土状況



第26号住居跡遺物出土状況



第27号住居跡



第28号住居跡



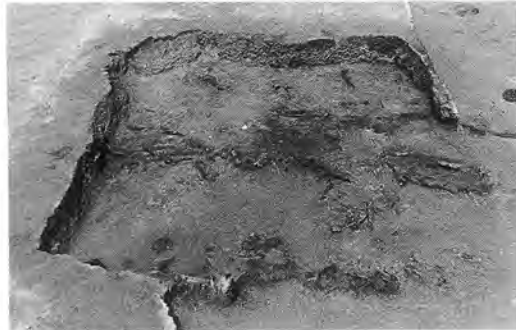
第28号住居跡遺物出土状況



第30 A, B号住居跡



第30 A号住居跡遺物出土状況



第30 A号住居跡



第30 A号住居跡



第30 A, B号住居跡遺物出土状況



第30 B号住居跡



第31号住居跡遺物出土状況



第32号住居跡遺物出土状況



第33号住居跡遺物出土状況



第33号住居跡竈遺物出土状況



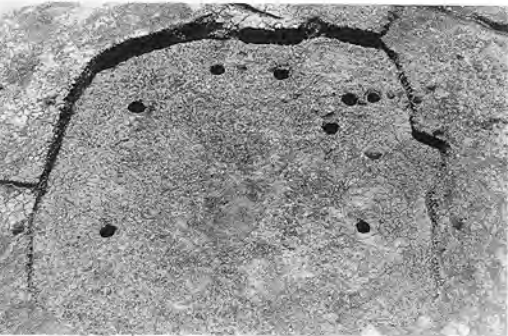
第34号住居跡遺物出土状況



第35号住居跡



第35号住居跡



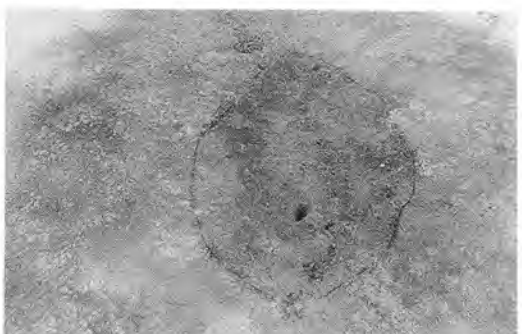
第36号住居跡



第36号住居跡遺物出土状況



第36号住居跡遺物出土状況



第36号住居跡



第37号住居跡遺物出土状況



第38号住居跡



第38号住居跡遺物出土状況



第38号住居跡竈



第38号住居跡遺物出土状況



第38号住居跡遺物出土状況



第38号住居跡遺物出土状況



第38, 39号住居跡





第39号住居跡遺物出土状況



第39号住居跡貯蔵穴遺物出土状況



第40 A, B号住居跡



第40 A, B号住居跡遺物出土状況



第41号住居跡



第41号住居跡遺物出土状況



第41号住居跡竈遺物出土状況



第42号住居跡



第43号住居跡



第43号住居跡遺物出土状況



第45号住居跡



第45号住居跡遺物出土状況



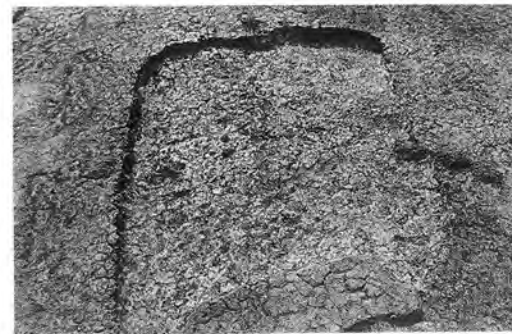
第46号住居跡



第47 A, B号住居跡



第47 A, B号住居跡遺物出土状況



第49号住居跡



第49号住居跡遺物出土状況



第50号住居跡遺物出土状況



第51号住居跡



第51B号住居跡遺物出土状況



第51号住居跡



第52号住居跡



第52号住居跡



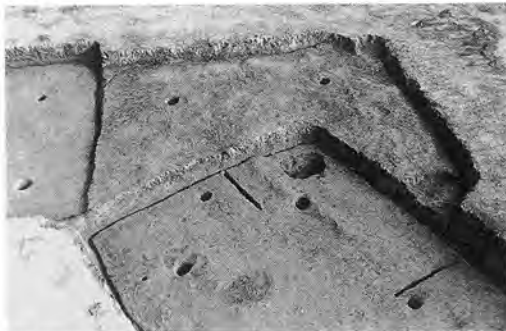
第53号住居跡



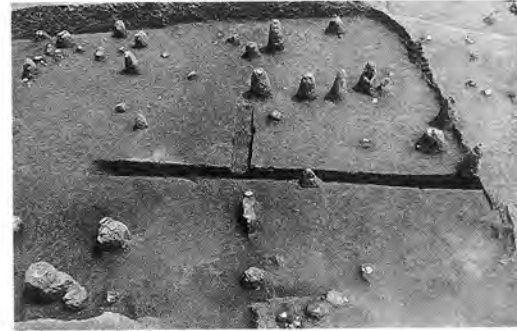
第53, 57号住居跡



第54号住居跡



第21, 54号住居跡



第54号住居跡遺物出土状況



第54号住居跡遺物出土状況



第54号住居跡遺物出土状況



第55号住居跡遺物出土状況



第57号住居跡





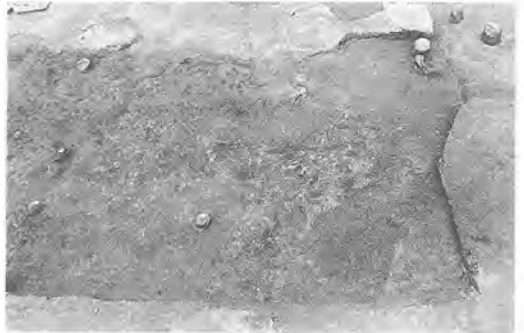
第57号住居跡



第57号住居跡遺物出土状況



第57号住居跡竈遺物出土状況



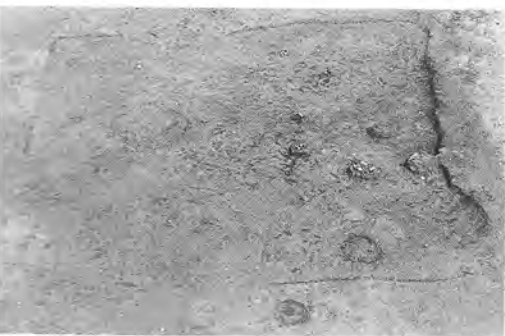
第58号住居跡遺物出土状況



第59号住居跡遺物出土状況



第61号住居跡



第62号住居跡遺物出土状況



第63号住居跡遺物出土状況

PL70

うぐいす平遺跡



第64号住居跡



第64号住居跡遺物出土状況



第64号住居跡竈



第64号住居跡P<sub>3</sub>内遺物出土状況



第65号住居跡



第65号住居跡遺物出土状況



第66号住居跡竈遺物出土状況



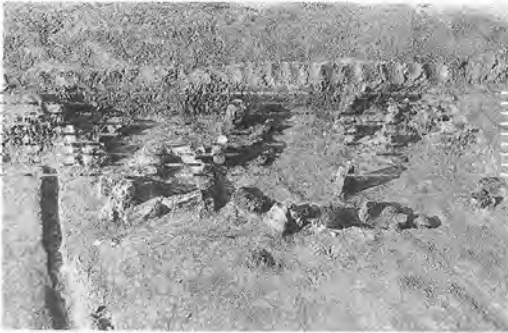
第66号住居跡遺物出土状況



第67号住居跡



第67号住居跡遺物出土状況



第68号住居跡遺物出土状況



第68号住居跡遺物出土状況



第68号住居跡出土鉄製品紡錘車



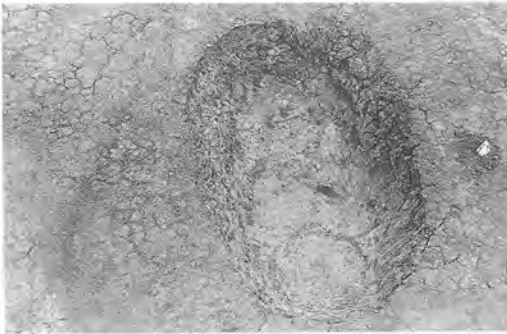
第68号住居跡出入口梯子ピット断面



第68号住居跡出土炭化梯子材



第69号住居跡遺物出土状況



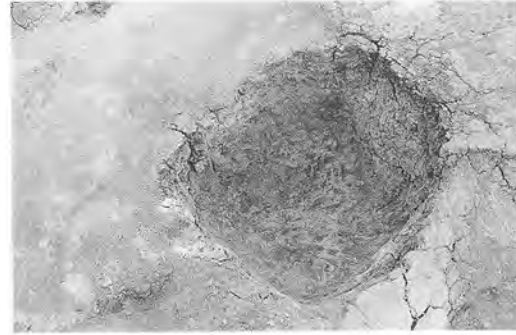
第3号土坑



第5号土坑



第4号土坑



第6号土坑



第17号土坑



第16号土坑



第13号土坑



第1号井戸





第1号井戸遺物出土状況



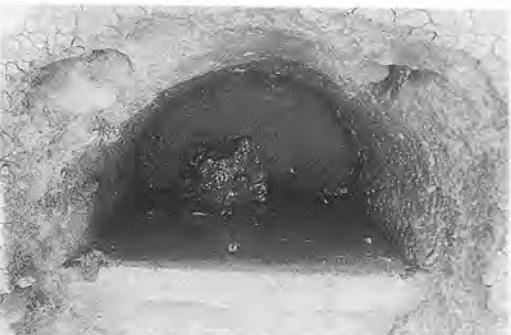
第1号井戸遺物出土状況



第1号井戸遺物出土状況



第1号井戸遺物出土状況



第1号井戸遺物出土状況



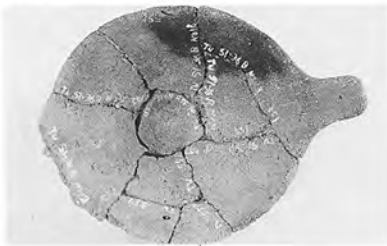
第1号井戸遺物出土状況



第1号井戸遺物出土状況



第1号溝



36-1



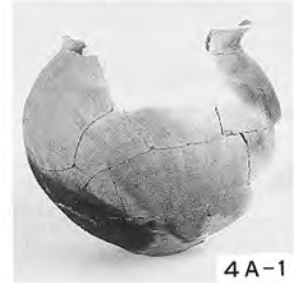
36-2



36住-3



36-4



4A-1



4A-2



4A-3



12-1



12-2



12-7



12-4



12-5



12-3



12-6



15-1



12-9



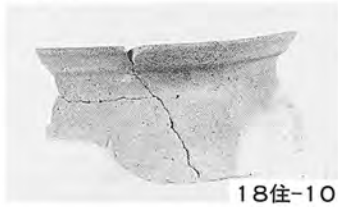
12-8



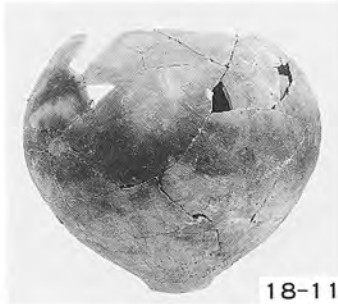
15-2



第15・18号住居跡出土遺物



18住-10



18-11



18-13



18-12



18-14



18-15



19住



19-2



19-3



19-1



19-5



19-6



19-7



19-4



21-1



22-1



19-9



22-2



22-3





22住-4



26-1



26-2



26-3



28-1



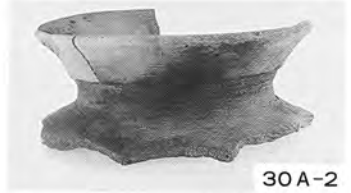
28-2



28-3



30A-1



30A-2



30A-3



30A-4



30B-1



30B-2



39-1



39-2



39-3



39-4



39住



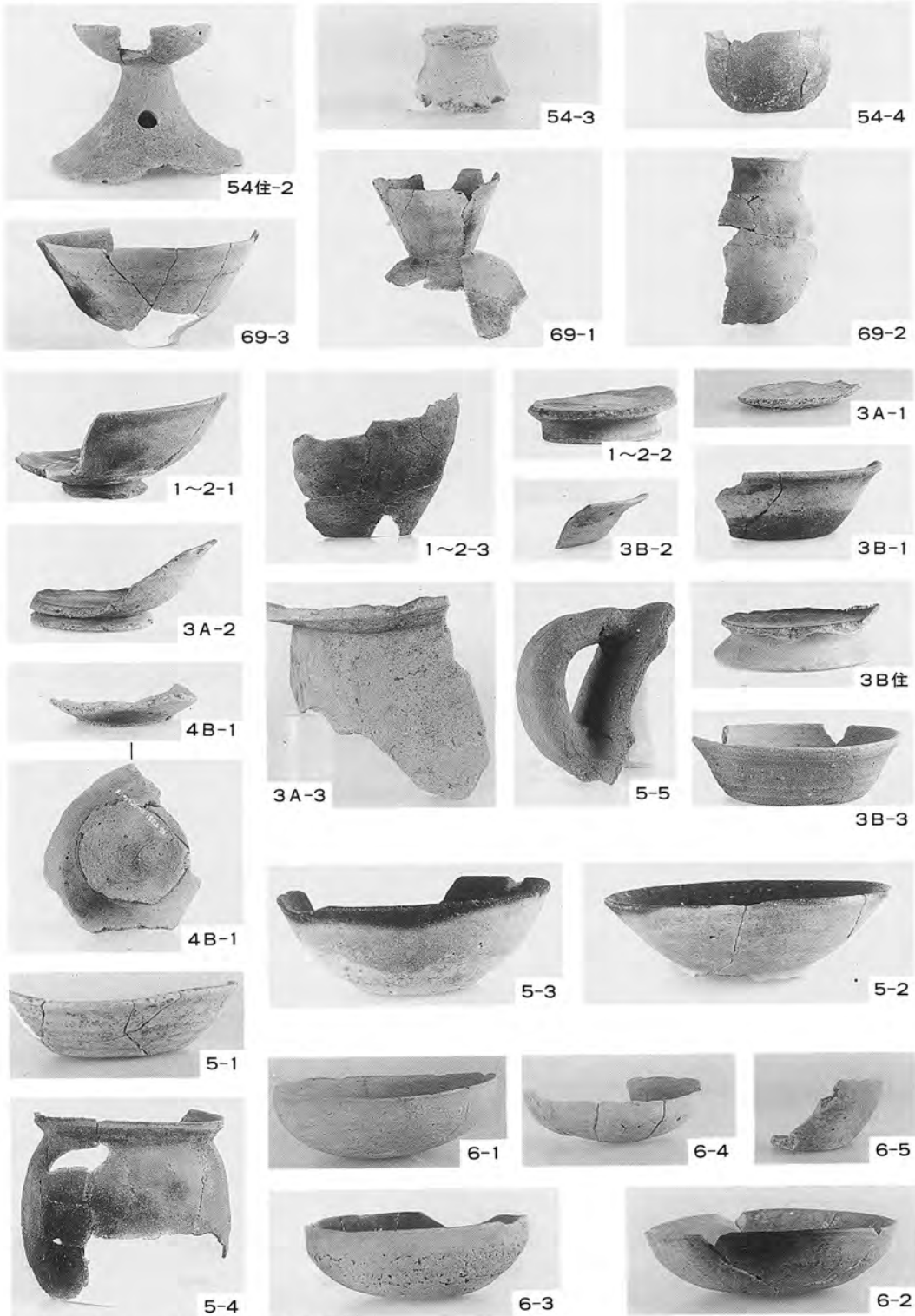
51B-1



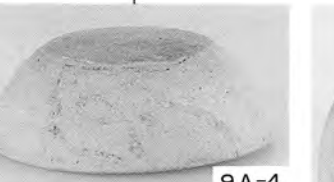
52-1



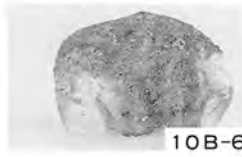
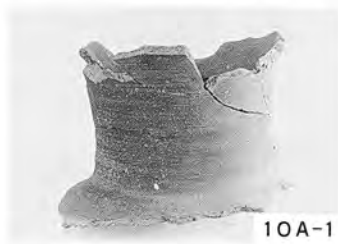
54-1



第54・69・1～6号住居跡出土遺物



第6・7・8・9A号住居跡出土遺物



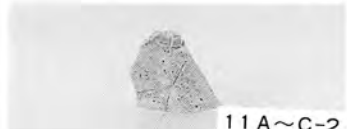
第9A・9B・10A・10B号住居跡出土遺物



10B住-7



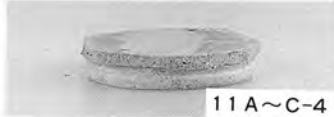
11A~C-1



11A~C-2



11A~C-3



11A~C-4



11A~C-5



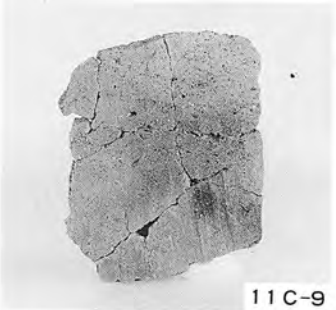
11C-6



11C-7



11C-8



11C-9



13-1



13-2



13-5



13-6



13-3



14-1



13-4



16-4



16-3



16-1



16-2底



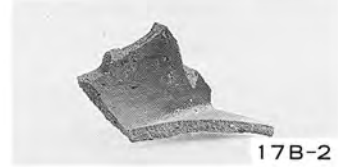
16-5



16-2



17A-2



第17A・17B・20・23・24号住居跡出土遺物





第24・25・27・32・33・35・37・38号住居跡出土遺物



38住-5



38-14



38-9



38-11



38-1



38-10



38-13



40B-5



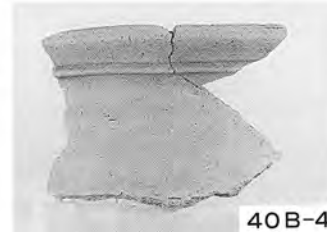
38-12



40B-3



40B-1



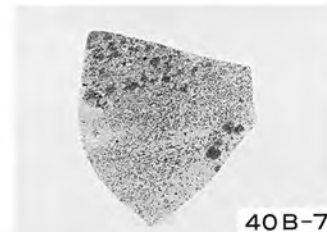
40B-4



40B-6



40B-2



40B-7

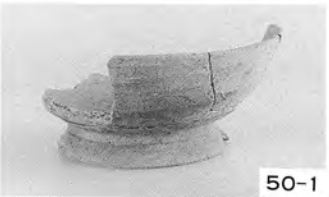


41-1



43住

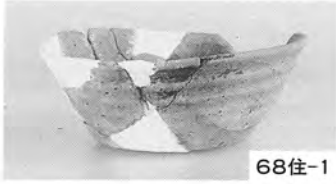






うぐいす平遺跡

PL87



68住-1



68-3



68-2



70-2



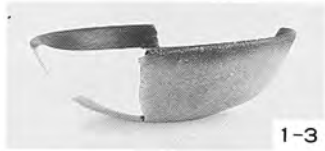
70-1



70-3



1井戸-1



1-3



1-6



1-2



1-4



1-7



1-5



1-8



1-9



遺構外



表採



表採

第68・70号住居跡，第1号井戸，表採遺物



4A住



2住



3住



3B住



9A住



9住



10A住



12住



13住



14住



15住



24住



18住



23住



18住



18住



24住



18住



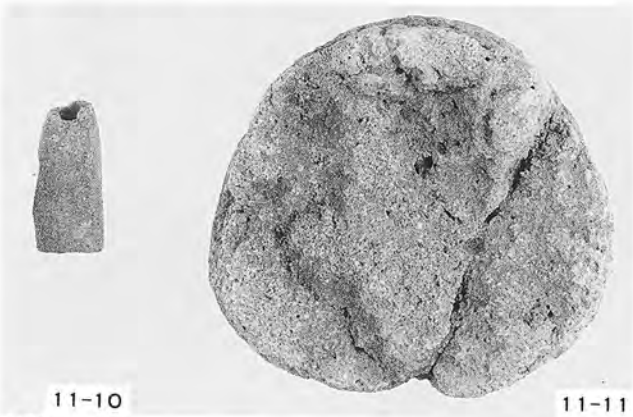
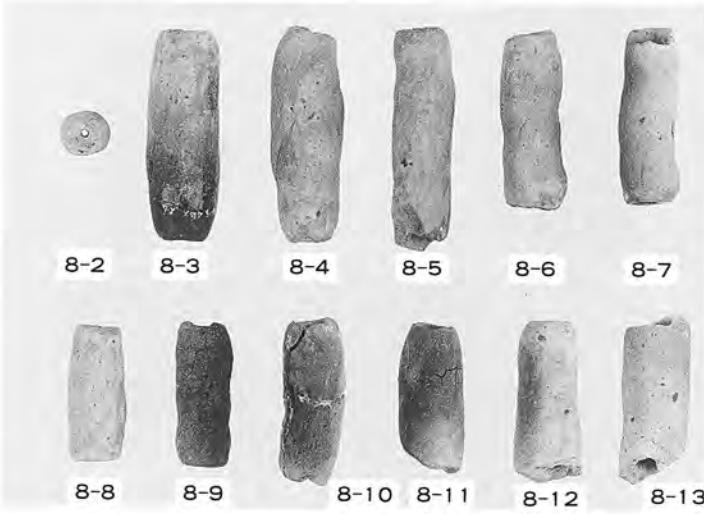
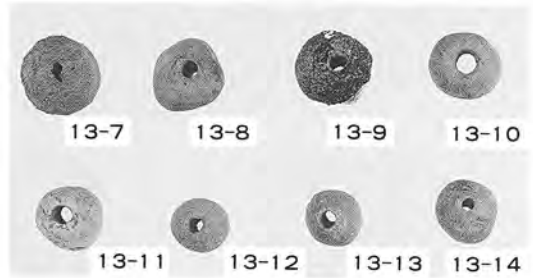
24住



32住

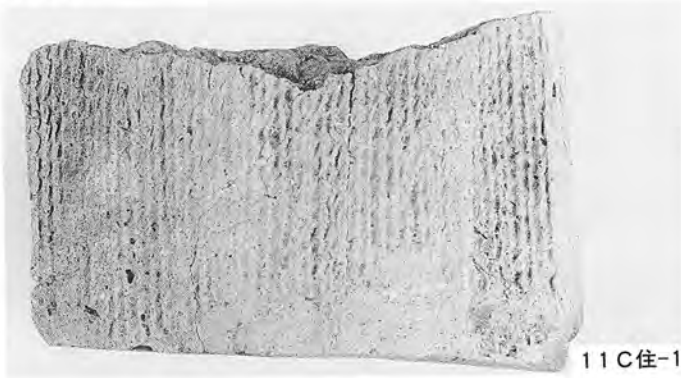


第 2・3・4A・9A・10A・12・13・14・15・18・23・24・51B号住居跡出土遺物 51B住



PL90

うぐいす平遺跡



11C住-12



17A住



16-6



16-7



17A-5



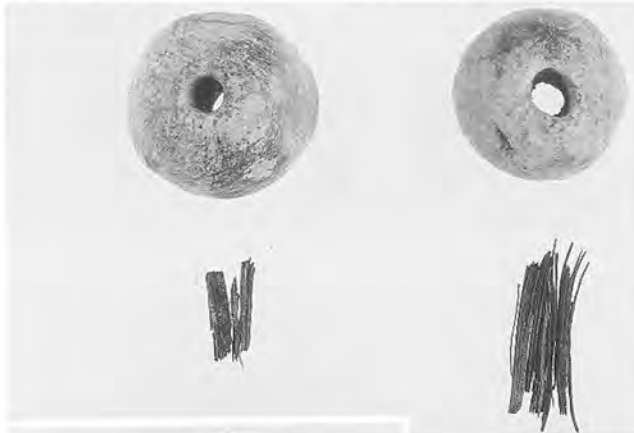
15-6



12-10



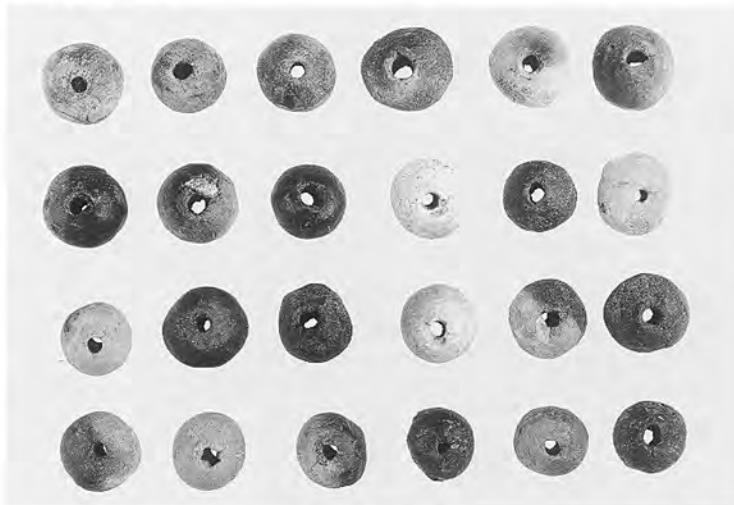
17B-5



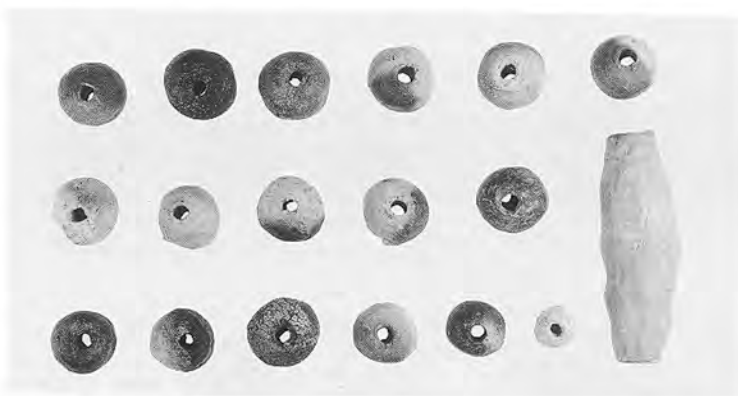
18-17

18-18

土製品(2)

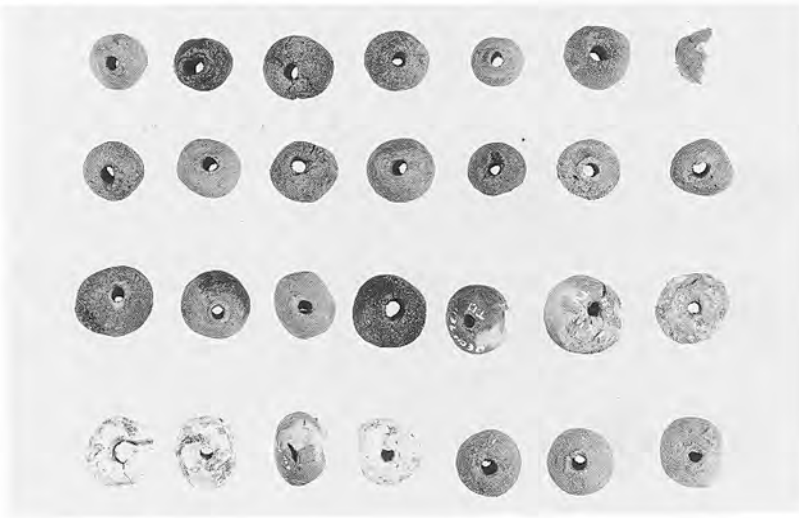


17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28
29	30	31	32	33	34
35	36	37	38	39	40



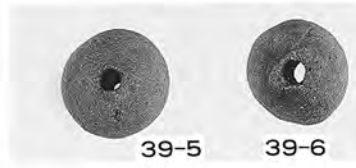
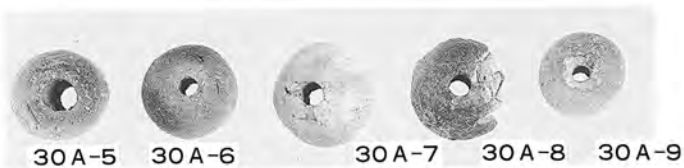
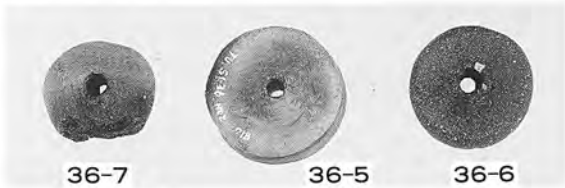
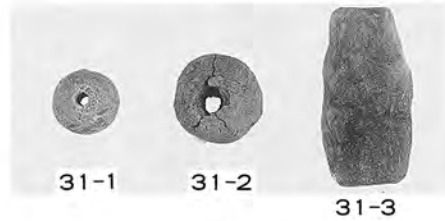
41	42	43	44	45	46
47	48	49	50	51	52
53	54	55	56	57	58





20号住居（観察表備考欄 DP 番号に対応）

88	91	96	98	105	106	108
110	114	123	124	127	130	137
89	99	101	118	120	122	126
93	95	97	125	107	117	136



土製品(4)





19住-10

19-11

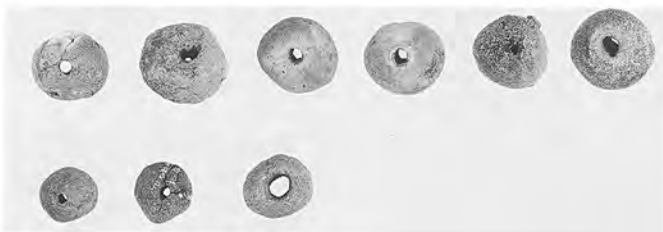


21-2

21-3



26-4



27-2

27-3

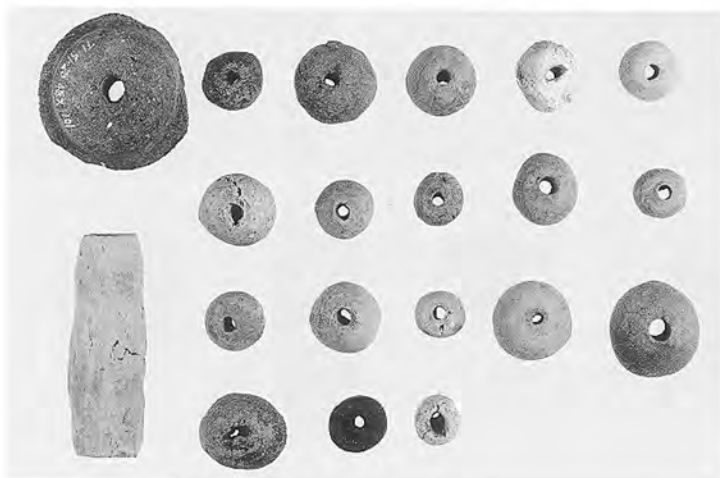
20号 (DP 番号)

92	103	111	133	135	138
113	128	129			



33-5

33-6



32-4

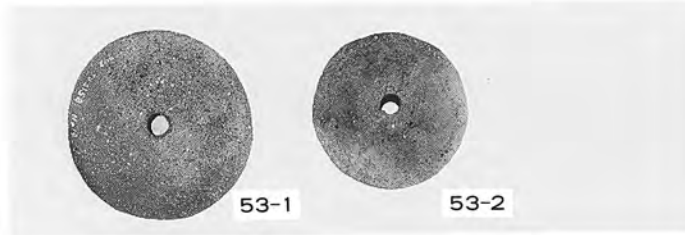
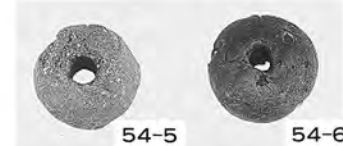
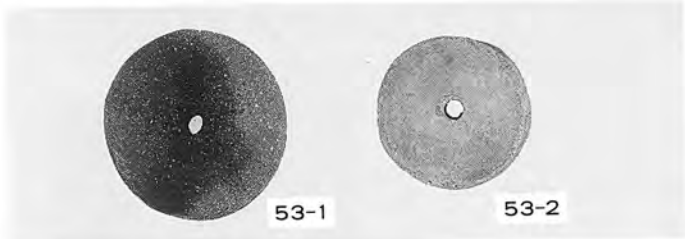
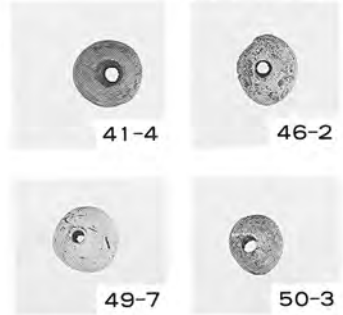
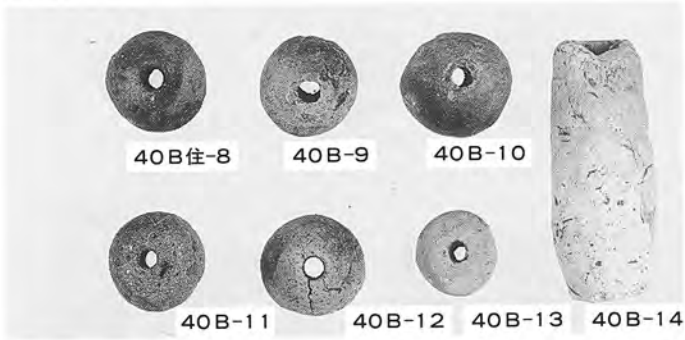


38-15

38-16

20号 (DP 番号)

	90	94	100	102	104
87					
	109	112	115	116	119
	121	131	132	134	139
143					
	140	141	142		





1土坑-1



1井戸-17



表採 表採 表採



1井戸-10 1-11 1-12 1-13



7土坑-2



16土坑-5



1-14



1-15



1-16



14-2



その他-8



その他-13



8土坑-3



40B-16

土製品(7), 石製品(1)

PL96

うぐいす平遺跡



その他-7



20-27



19住



その他-12



遺溝外



29住



45-5



69-4

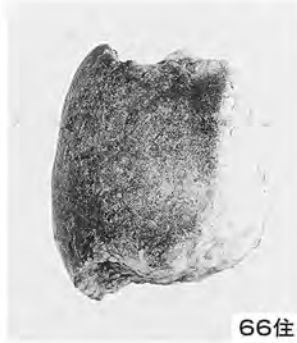
石製品(2)

うぐいす平遺跡

PL97



その他-9



66住



1土坑



その他-10

その他-11



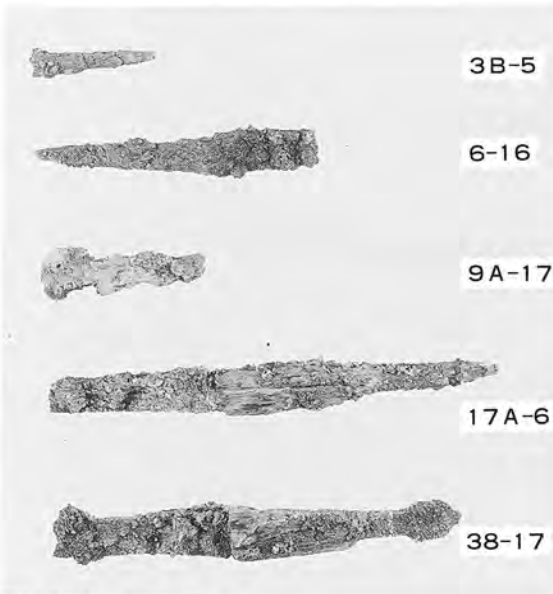
その他-14



その他-15



その他-16



3B-5

6-16

9A-17

17A-6

38-17



その他-18

24-12

石製品(3), 金属製品(1)



4住



7-10

18-59



7-13



67住



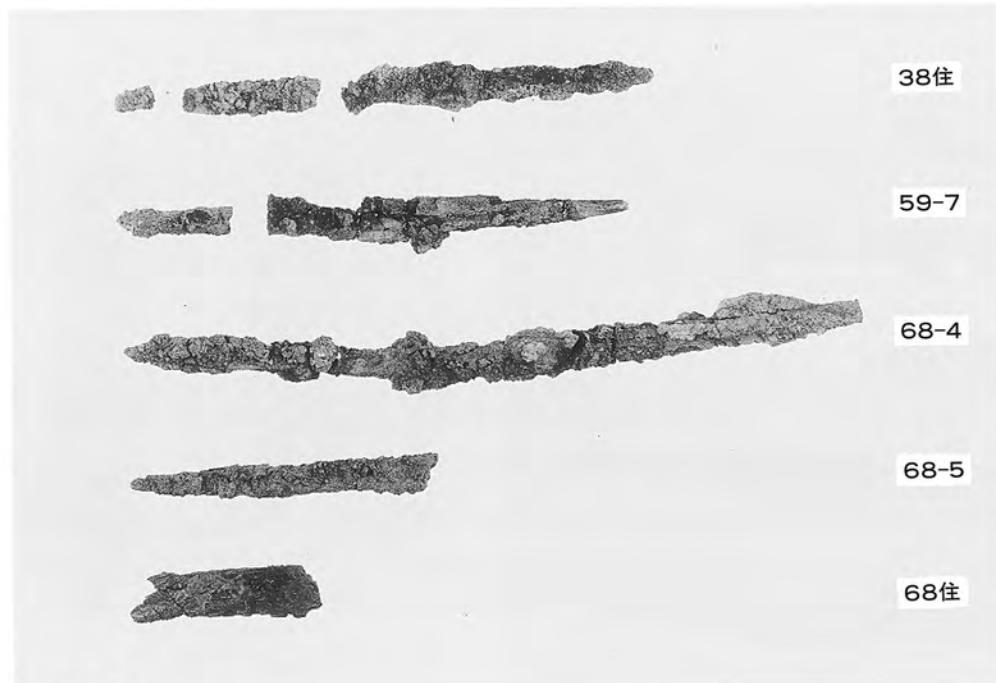
7-12



36-8



1井戸



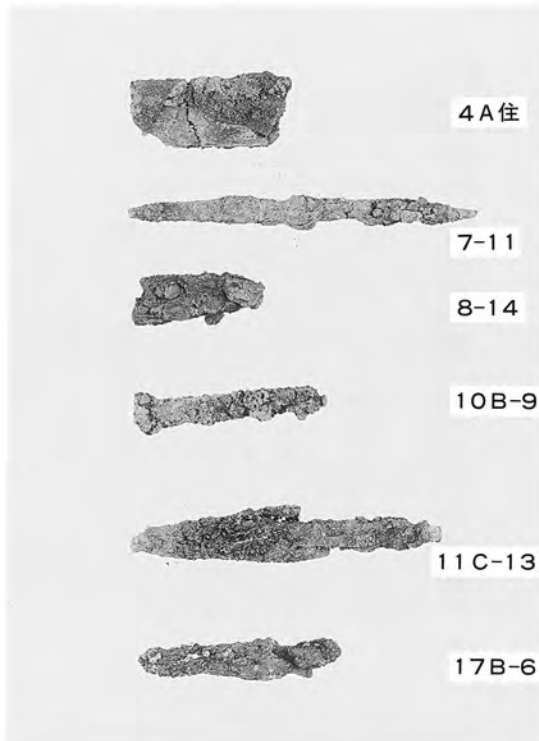
38住

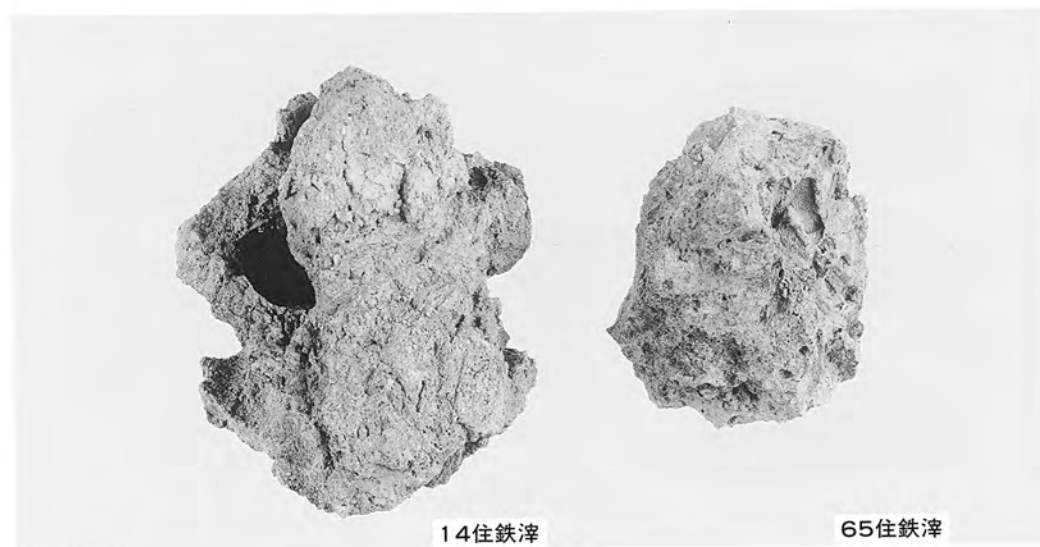
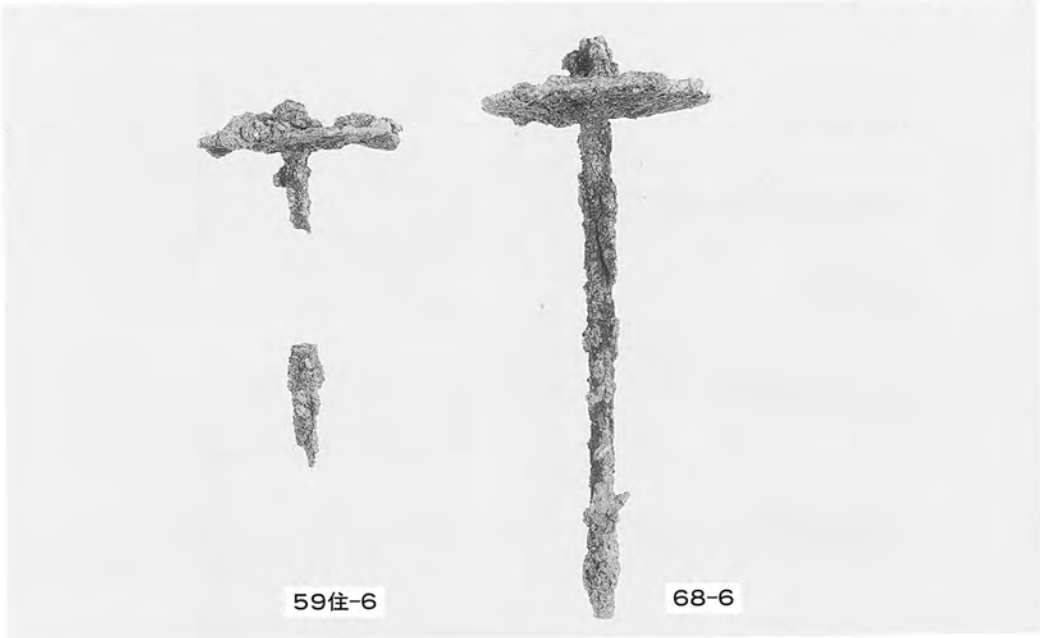
59-7

68-4

68-5

68住

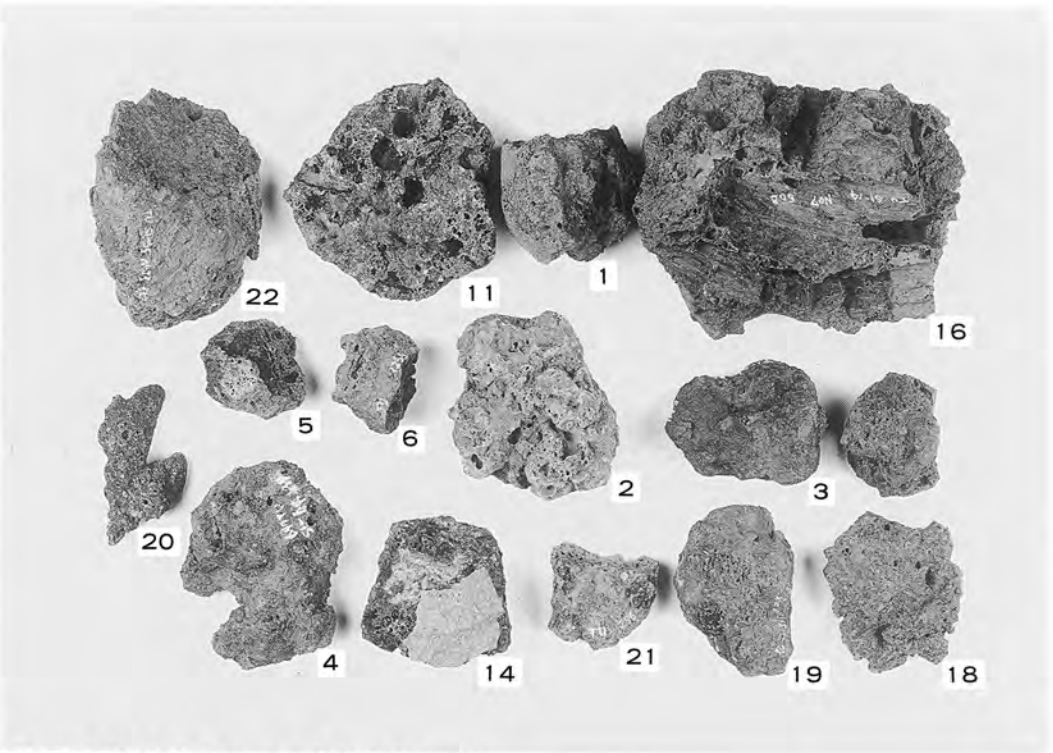








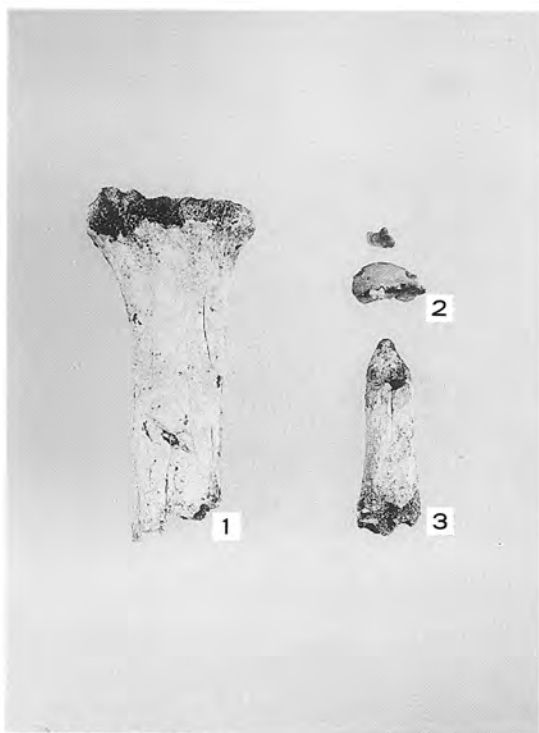
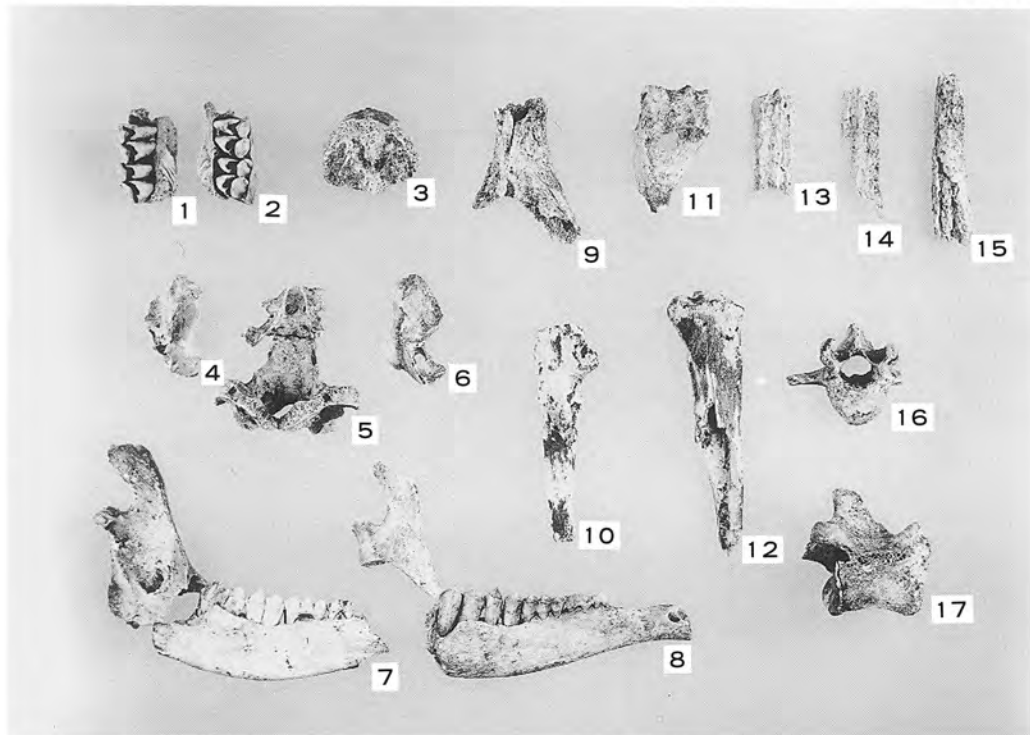
18住



第18号住居跡出土アカニシ，遺跡内出土鉄滓



第1号井戸出土貝類

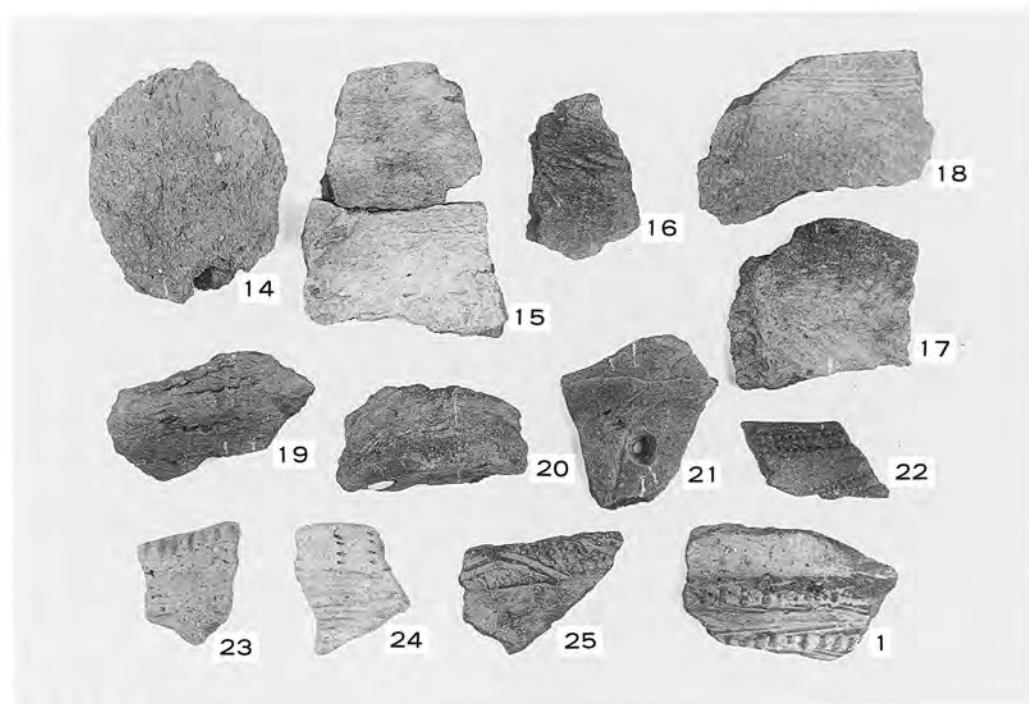
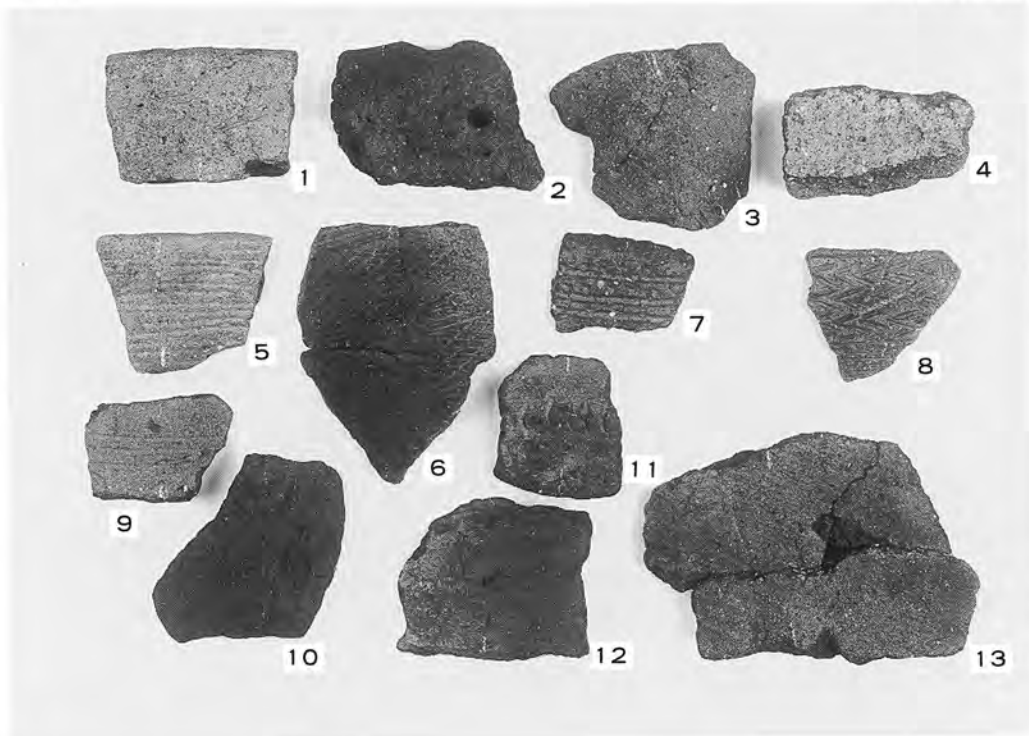


鹿 骨

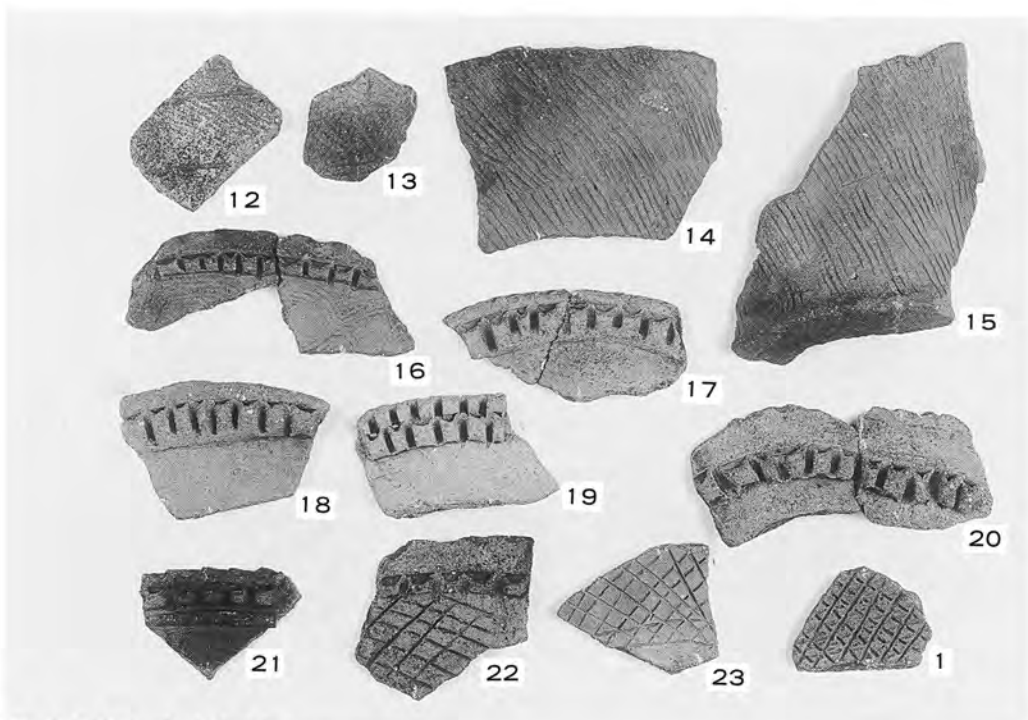
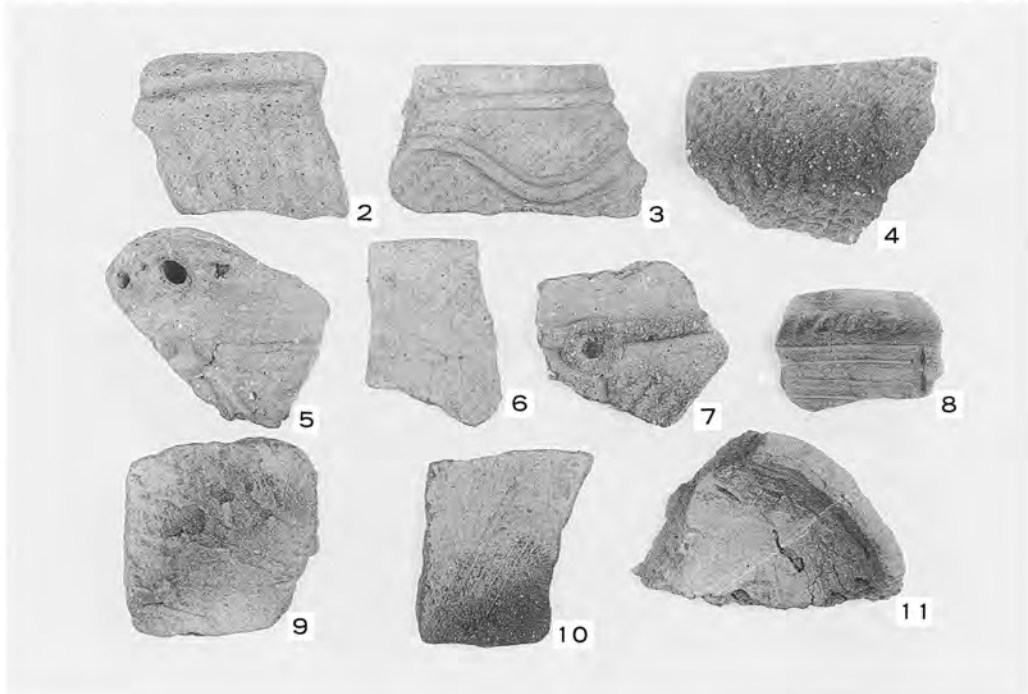
- 1 右上顎骨
- 2 左上顎骨
- 3 後頭骨
- 4 左側頭骨
- 5 頭蓋骨基底部
- 6 右側頭骨
- 7 左側下顎骨 (内側)
- 8 右側下顎骨
- 9 肩甲骨
- 10 尺骨 (R)
- 11 上腕骨 (R, 遠位部)
- 12 橈骨 (R)
- 13, 14, 15 鹿角
- 16, 17 椎骨

- 1 牛の橈骨 (R)
- 2 犬右上顎骨
- 3 鹿の脛骨

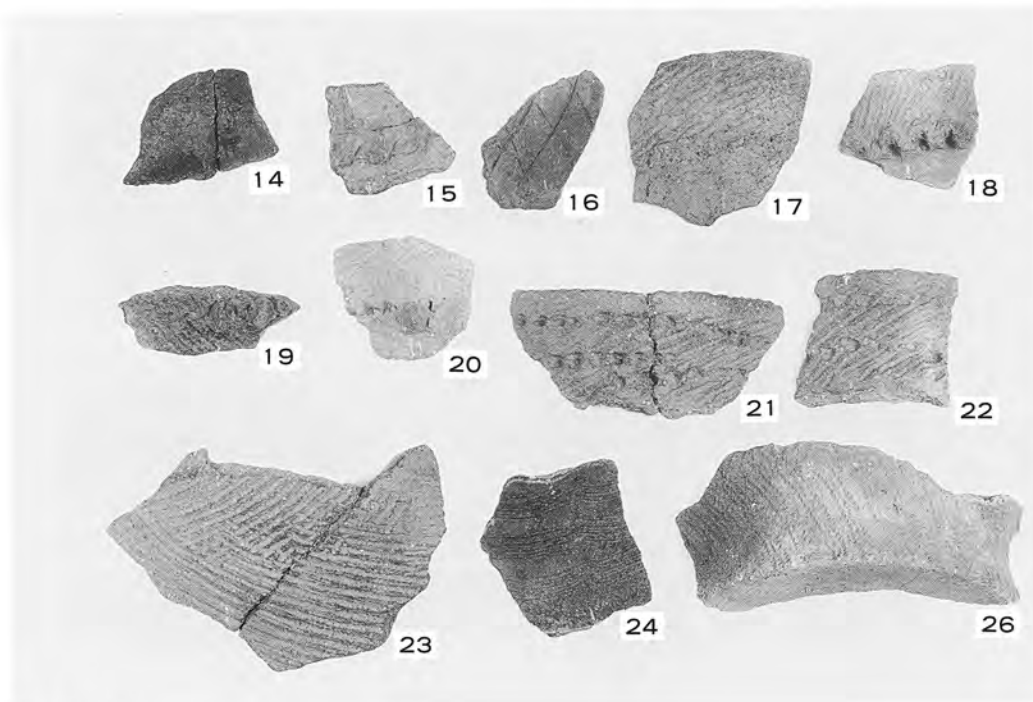
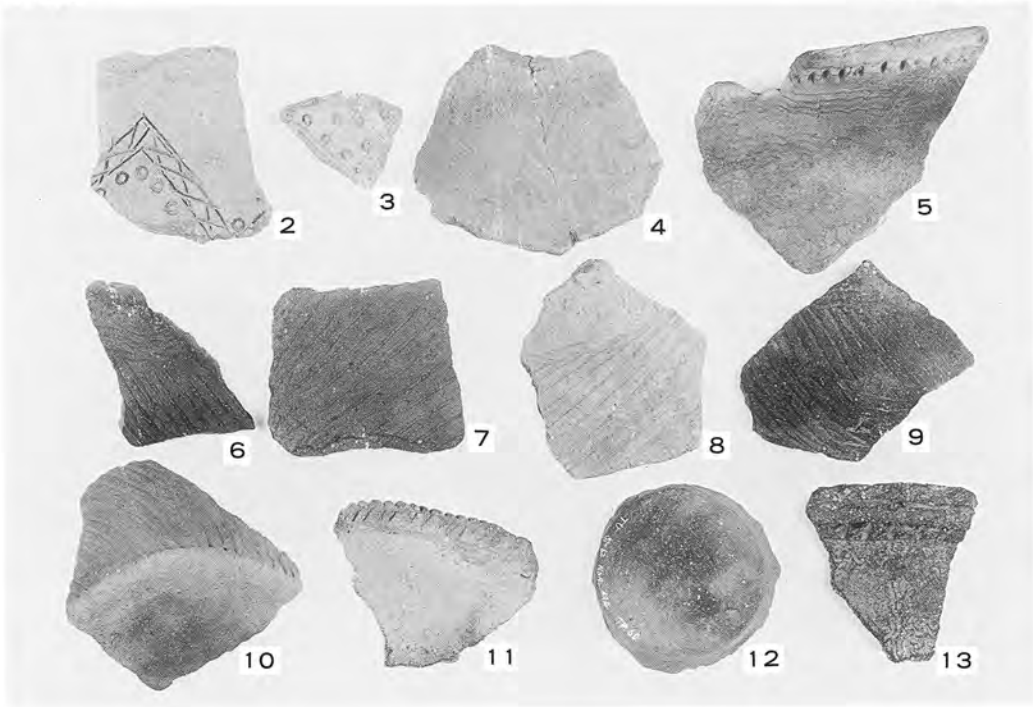
第1号井戸出土獣骨



縄文式土器(1)

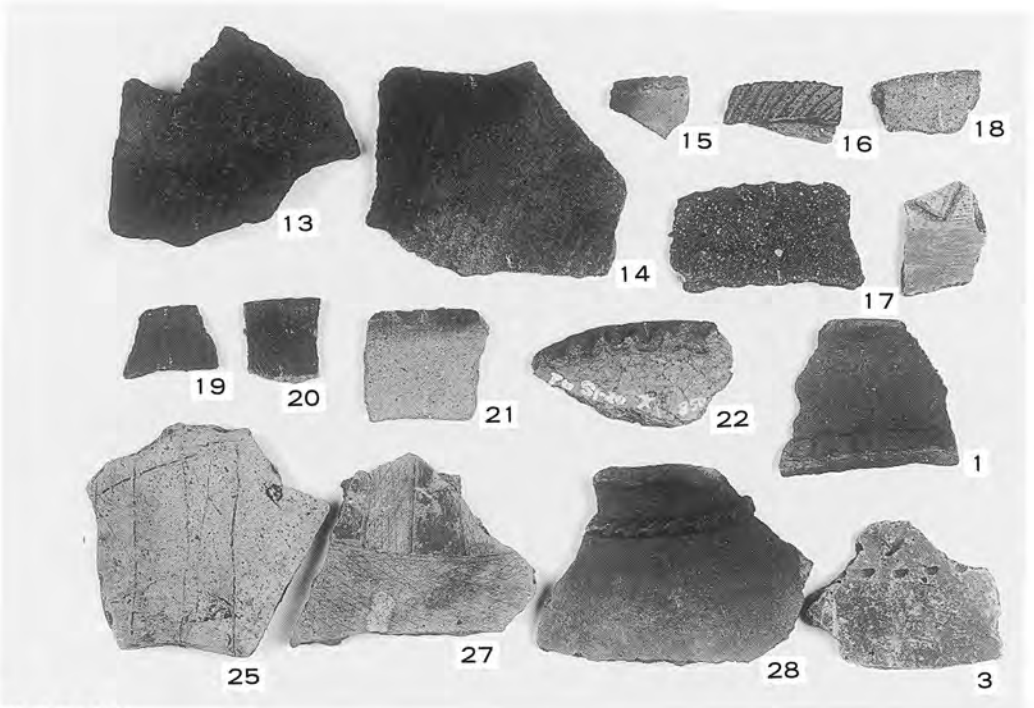
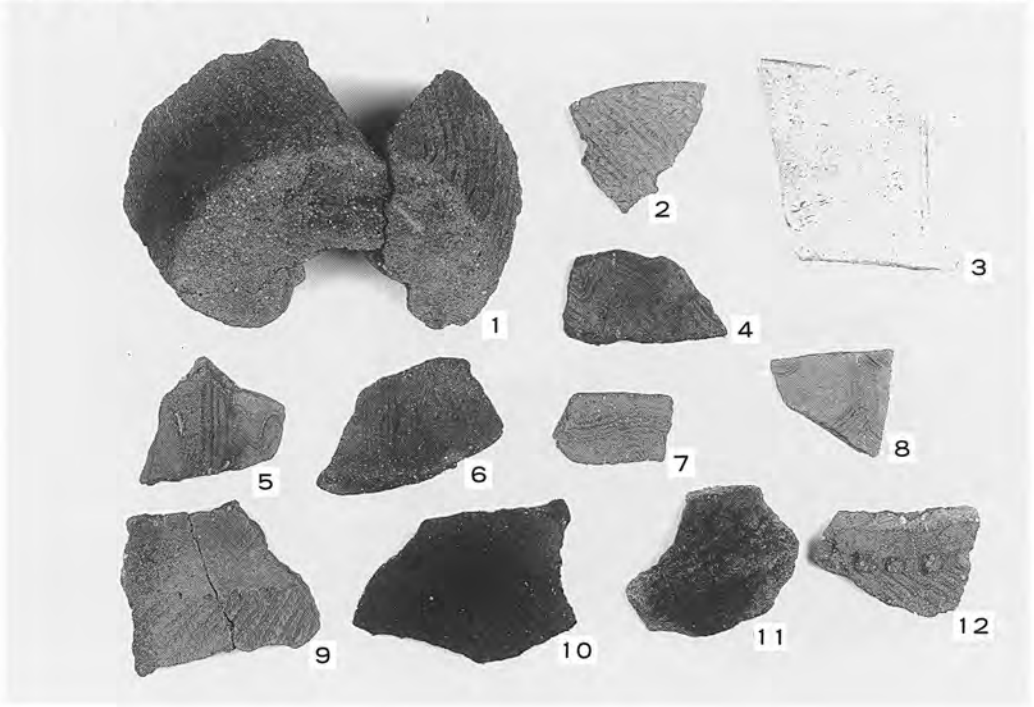


縄文式土器(2), 弥生式土器(1)

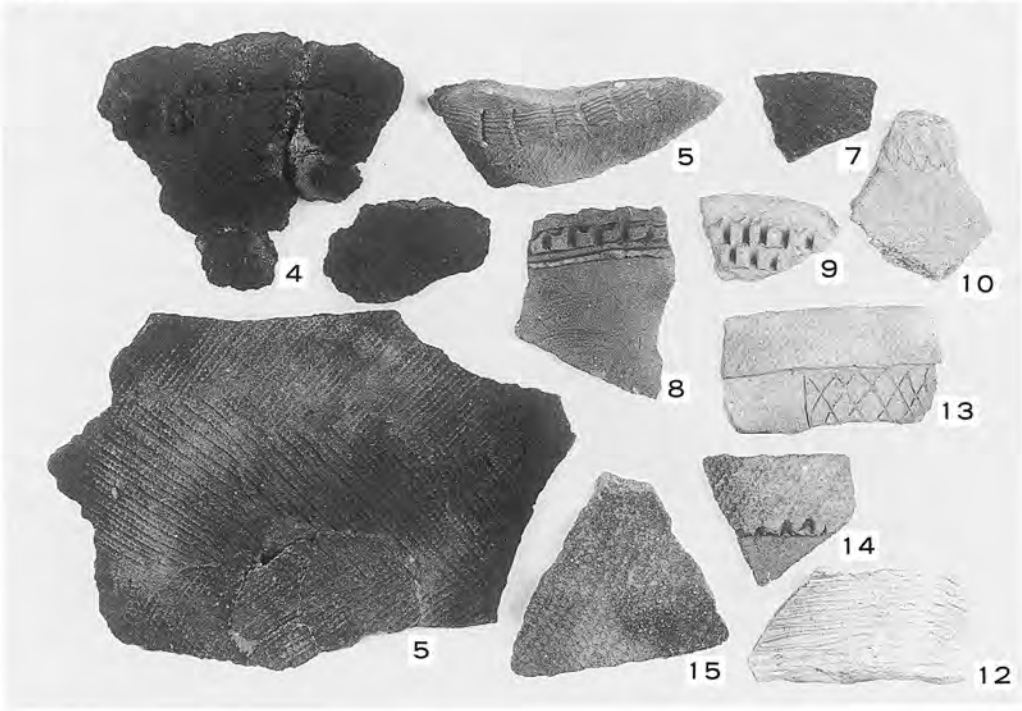


弥生式土器(2)





弥生式土器(3)





茨城県教育財団文化財調査報告第84集

(仮称) 上高津団地建設事業  
地内埋蔵文化財調査報告書

寄 居 遺 跡  
うぐいす平遺跡

平成6年3月25日印刷

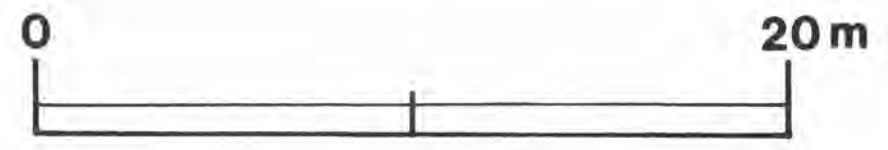
平成6年3月31日発行

発 行 財団法人 茨城県教育財団  
水戸市見和1丁目356番2号  
TEL. 0292-25-6587

印 刷 有限会社 川田プリント  
水戸市上水戸4丁目6番53号  
TEL. 0292-53-5551(代)



付図1 寄居遺跡遺構配置図





付図2 うぐいす平遺跡遺構配置図



